

## **Oracle® Universal Content Management**

Site Studio デザイナ・ガイド

10g リリース 4 (10.1.4)

部品番号 : B54367-01

2009 年 5 月

Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナー・ガイド, 10g リリース 4 (10.1.4)

部品番号 : B54367-01

原本名 : Oracle Universal Content Management Site Studio Designer Guide, 10g Release 4 (10.1.4)

原本著者 : Sean Cearley

原本協力者 : Brian Cheyne, Will Harris, Ron van de Crommert

Copyright © 1996, 2009, Oracle. All rights reserved.

#### 制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

---

---

# 目次

<b>はじめに</b> .....	xv
対象読者 .....	xvi
ドキュメントのアクセシビリティについて .....	xvi
関連ドキュメント .....	xvi
表記規則 .....	xvi
サポートおよびサービス .....	xvii
<b>1 概要</b>	
1.1 Site Studio について .....	1-2
1.2 デザイナ、マネージャおよびコントリビュータ .....	1-2
1.3 Content Server と Site Studio .....	1-3
1.4 再利用可能なアセットとコンテンツ .....	1-3
1.5 HCSP、JSP および ASP の Web サイト .....	1-4
1.6 新機能 .....	1-4
1.7 システム要件 .....	1-7
<b>2 Site Studio Web サイトの理解</b>	
2.1 管理対象の Web サイト .....	2-2
2.2 サイトのプレゼンテーションとコンテンツの分離 .....	2-2
2.2.1 サイト・プレゼンテーション・ファイル .....	2-2
2.2.2 サイト・コンテンツ・ファイル .....	2-3
2.2.3 サイトの制御ファイルと構成ファイル .....	2-3
2.3 サイト・アセット記憶域 .....	2-4
2.4 サイトのロール .....	2-5
2.5 プレゼンテーション・モデル .....	2-6
2.6 コントリビューション・モデル .....	2-7
2.7 サイト・オブジェクト階層 .....	2-8
2.8 サイト・アセットの再利用 .....	2-11
2.9 要素と要素定義 .....	2-13
2.10 リージョン・テンプレートとリージョン定義 .....	2-14
2.11 プレースホルダとプレースホルダ定義 .....	2-16
2.12 サブテンプレート .....	2-20
2.13 ページ・テンプレート .....	2-21
2.14 コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント .....	2-23
2.15 フラグメント .....	2-25
2.16 Cascading Style Sheet .....	2-25
2.17 プロジェクト・ファイル .....	2-26

2.18	プライマリ・ページとセカンダリ・ページ .....	2-26
------	---------------------------	------

### 3 効率的な Web サイトの計画

3.1	Web サイトの計画 .....	3-2
3.1.1	計画はなぜ重要なのか .....	3-2
3.1.2	サイトのどの部分を再利用するか .....	3-2
3.2	サイト・アセットの命名 .....	3-3
3.3	コントリビューション・モデルの計画 .....	3-5
3.3.1	サイトのコンテンツをどの程度までユーザーに提供させるか .....	3-5
3.3.2	ユーザーにどの程度まで制御させるか .....	3-5
3.3.3	各ユーザーに異なるセキュリティ・アクセス権を付与するか .....	3-6
3.3.4	コントリビュータにネイティブ・ドキュメントを発行させるか .....	3-6
3.3.5	コントリビューション・プロセスをどのように調整するか .....	3-7
3.4	サイト・アセットの作成順序 .....	3-7
3.5	要素定義の作成 .....	3-8
3.6	リージョン定義の作成 .....	3-8
3.7	リージョン・テンプレートの作成 .....	3-9
3.8	サブテンプレートの作成 .....	3-9
3.8.1	サイトにサブテンプレートが必要か .....	3-9
3.9	プレースホルダ定義の作成 .....	3-10
3.9.1	プレースホルダがページでどのように機能するか .....	3-10
3.9.2	プレースホルダ定義は何を制御するか .....	3-11
3.10	ページ・テンプレートの作成 .....	3-11
3.10.1	フラグメントをどのように使用するか .....	3-11
3.10.2	プライマリおよびセカンダリ・ページに異なるテンプレートが必要か .....	3-12
3.11	サイト階層の計画 .....	3-13
3.11.1	階層をどのくらいの深さにするか .....	3-13
3.11.2	ユーザーがサイトをどのようにナビゲートするか .....	3-14
3.11.3	セクションにどのように命名するか .....	3-14
3.11.4	ページ・テンプレートをどのように再利用可能にするか .....	3-14
3.11.5	プライマリおよびセカンダリ・ページの両方を使用するか .....	3-15
3.11.6	コンテンツをどのように再利用するか .....	3-15
3.11.7	マネージャは必要か .....	3-15

### 4 デザイナのスタート・ガイド

4.1	デザイナの起動 .....	4-2
4.2	デザイナのメイン・ウィンドウ .....	4-2
4.3	サイト階層 .....	4-3
4.4	「Properties」 ペイン .....	4-4
4.5	作業領域 .....	4-6
4.5.1	ダイアログとタブ .....	4-6
4.5.2	ビュー .....	4-8
4.5.3	「SOURCE」 ビュー .....	4-9
4.5.4	「DESIGN」 ビュー .....	4-10
4.5.5	PREVIEW .....	4-11
4.5.6	「FORM」 ビュー .....	4-12
4.5.7	右クリック・メニュー .....	4-13
4.6	「Site Assets」 ペイン .....	4-14



4.7	ツールボックス .....	4-16
4.8	ツールバー .....	4-17
4.8.1	標準ツールバー .....	4-17
4.8.2	サイト・ツールバー .....	4-18
4.8.3	書式設定ツールバー .....	4-19
4.8.4	HTML ツールバー .....	4-20
4.8.5	表ツールバー .....	4-21
4.8.6	コントリビューション・ツールバー .....	4-22
4.8.7	プレースホルダ・ツールバー .....	4-22
4.9	ログ・ファイル .....	4-23
4.10	Site Connection Manager .....	4-24
4.11	Link Wizard .....	4-25
4.12	Switch Content ウィザード .....	4-29
4.13	フラグメント・エディタ .....	4-32
4.14	コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント .....	4-33
4.15	Site Studio マネージャ .....	4-35
4.16	Site Studio コントリビュータ .....	4-36
4.16.1	コントリビュータの起動 .....	4-36
4.16.2	コントリビュータ・エディタ .....	4-38
4.16.3	コントリビュータとワークフロー .....	4-39
4.17	コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページ .....	4-40

## 5 デザイナのカスタマイズ

5.1	デザイナのペインのカスタマイズ .....	5-2
5.1.1	ペインの表示または非表示 .....	5-2
5.1.2	ペインのサイズ変更 .....	5-2
5.1.3	ペインの移動または別の枠線へのドッキング .....	5-3
5.2	「Customize」ダイアログの使用 .....	5-3
5.3	新規メニューの作成 .....	5-4
5.4	ツールバーのカスタマイズ .....	5-5
5.4.1	ツールバーの表示と非表示 .....	5-5
5.4.2	新規ツールバーの作成 .....	5-5
5.4.3	ツールバーのリセット .....	5-6
5.5	「Tools」メニューへのショートカットの追加 .....	5-6
5.6	キーボード・ショートカットの割当て .....	5-8
5.7	メニューのカスタマイズ .....	5-8
5.7.1	ポップアップ・メニューへのコマンドの追加 .....	5-8
5.7.2	ポップアップ・メニューからのコマンドの削除 .....	5-9
5.7.3	メニューの表示の制御 .....	5-9
5.8	表示オプションの設定 .....	5-10
5.9	「SOURCE」ビューのコードの書式設定 .....	5-10
5.10	警告メッセージの表示または非表示 .....	5-11
5.11	その他のオプションの設定 .....	5-11
5.12	ログ・ファイル設定の変更 .....	5-12

## 6 Web サイトの作成

6.1	サイト接続 .....	6-2
6.1.1	新規サイト接続の作成 .....	6-2
6.1.2	サイト接続の編集 .....	6-4
6.1.3	サイト接続の削除 .....	6-5
6.2	サイト・アドレス指定 .....	6-5
6.2.1	サイトへのドメイン名のマッピング .....	6-6
6.2.1.1	デザイナーを使用したドメイン名のマッピング .....	6-6
6.2.1.2	「Manage Web Site Addresses」ページを使用したドメイン名のマッピング .....	6-7
6.2.2	サイト・アドレスに使用されるパスの変更 .....	6-8
6.3	プロジェクト・ファイル .....	6-9
6.3.1	プロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータの指定 .....	6-9
6.3.2	デザイナーでのプロジェクト・ステータスの表示 .....	6-10
6.3.3	プロジェクト・ファイルに対する変更のコミット .....	6-10
6.3.4	プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページの表示 .....	6-10
6.4	Web サイトの開始と停止 .....	6-11
6.4.1	Web サイトの停止 .....	6-11
6.4.2	停止サイト用の一時ページの構成 .....	6-11

## 7 サイト・アセットの定義

7.1	サイト・アセットについて .....	7-2
7.2	要素定義 .....	7-3
7.2.1	要素定義について .....	7-3
7.2.2	新規要素定義の作成 .....	7-4
7.2.3	要素定義のコピー .....	7-4
7.2.4	要素定義の編集 .....	7-6
7.2.5	要素定義のコンテンツ情報の表示 .....	7-6
7.2.6	サイトへの要素定義の追加 .....	7-7
7.2.7	サイトからの要素定義の削除 .....	7-7
7.3	リージョン定義 .....	7-8
7.3.1	リージョン定義について .....	7-8
7.3.2	新規リージョン定義の作成 .....	7-8
7.3.3	リージョン定義のコピー .....	7-9
7.3.4	リージョン定義の編集 .....	7-10
7.3.5	リージョン定義のコンテンツ情報の表示 .....	7-11
7.3.6	サイトへのリージョン定義の追加 .....	7-11
7.3.7	サイトからのリージョン定義の削除 .....	7-11
7.4	プレースホルダ定義 .....	7-12
7.4.1	プレースホルダ定義について .....	7-12
7.4.2	新規プレースホルダ定義の作成 .....	7-13
7.4.3	プレースホルダ定義のコピー .....	7-13
7.4.4	プレースホルダ定義の編集 .....	7-15
7.4.5	プレースホルダ定義のコンテンツ情報の表示 .....	7-15
7.4.6	サイトへのプレースホルダ定義の追加 .....	7-16
7.4.7	サイトからのプレースホルダ定義の削除 .....	7-16
7.5	ページ・テンプレート .....	7-17
7.5.1	ページ・テンプレートについて .....	7-17

7.5.2	新規ページ・テンプレートの作成 .....	7-18
7.5.3	ページ・テンプレートのコピー .....	7-19
7.5.4	ページ・テンプレートの編集 .....	7-20
7.5.5	ページ・テンプレートのコンテンツ情報の表示 .....	7-20
7.5.6	サイトへのページ・テンプレートの追加 .....	7-20
7.5.7	サイトからのページ・テンプレートの削除 .....	7-21
7.6	リージョン・テンプレート .....	7-21
7.6.1	リージョン・テンプレートについて .....	7-21
7.6.2	新規リージョン・テンプレートの作成 .....	7-22
7.6.3	リージョン・テンプレートのコピー .....	7-22
7.6.4	リージョン・テンプレートの編集 .....	7-24
7.6.5	リージョン・テンプレートのコンテンツ情報の表示 .....	7-24
7.6.6	サイトへのリージョン・テンプレートの追加 .....	7-24
7.6.7	サイトからのリージョン・テンプレートの削除 .....	7-25
7.7	サブテンプレート .....	7-25
7.7.1	サブテンプレートについて .....	7-25
7.7.2	新規サブテンプレートの作成 .....	7-26
7.7.3	サブテンプレートのコピー .....	7-26
7.7.4	サブテンプレートの編集 .....	7-27
7.7.5	サブテンプレートのコンテンツ情報の表示 .....	7-28
7.7.6	サイトへのサブテンプレートの追加 .....	7-28
7.7.7	サイトからのサブテンプレートの削除 .....	7-28
7.8	コントリビュータ・データ・ファイル .....	7-29
7.8.1	コントリビュータ・データ・ファイルについて .....	7-29
7.8.2	新規コントリビュータ・データ・ファイルの作成 .....	7-29
7.8.3	コントリビュータ・データ・ファイルのコピー .....	7-30
7.8.4	コントリビュータ・データ・ファイルの編集 .....	7-31
7.8.5	コントリビュータ・データ・ファイルのコンテンツ情報の表示 .....	7-31
7.8.6	サイトへのコントリビュータ・データ・ファイルの追加 .....	7-32
7.8.7	サイトからのコントリビュータ・データ・ファイルの削除 .....	7-32
7.9	ネイティブ・ドキュメント .....	7-33
7.9.1	ネイティブ・ドキュメントについて .....	7-33
7.9.2	新規ネイティブ・ドキュメントの作成 .....	7-33
7.9.3	ネイティブ・ドキュメントのコピー .....	7-34
7.9.4	ネイティブ・ドキュメントの編集 .....	7-35
7.9.5	ネイティブ・ドキュメントのコンテンツ情報の表示 .....	7-35
7.9.6	サイトへのネイティブ・ドキュメントの追加 .....	7-36
7.9.7	サイトからのネイティブ・ドキュメントの削除 .....	7-36
7.10	イメージ .....	7-37
7.10.1	イメージについて .....	7-37
7.10.2	新規イメージの作成 .....	7-37
7.10.3	イメージのコピー .....	7-38
7.10.4	イメージのコンテンツ情報の表示 .....	7-39
7.10.5	サイトへのイメージの追加 .....	7-39
7.10.6	サイトからのイメージの削除 .....	7-39
7.11	スクリプト .....	7-40
7.11.1	スクリプトについて .....	7-40

7.11.2	新規スクリプトの作成 .....	7-40
7.11.3	スクリプトのコピー .....	7-41
7.11.4	スクリプトの編集 .....	7-42
7.11.5	スクリプトのコンテンツ情報の表示 .....	7-42
7.11.6	サイトへのスクリプトの追加 .....	7-42
7.11.7	サイトからのスクリプトの削除 .....	7-43
7.12	Cascading Style Sheet (CSS) .....	7-43
7.12.1	CSS について .....	7-43
7.12.2	新規 CSS の作成 .....	7-43
7.12.3	CSS のコピー .....	7-44
7.12.4	CSS の編集 .....	7-45
7.12.5	CSS のコンテンツ情報の表示 .....	7-45
7.12.6	サイトへの CSS の追加 .....	7-46
7.12.7	サイトからの CSS の削除 .....	7-46
7.13	カスタム構成スクリプト .....	7-47
7.13.1	カスタム構成スクリプトについて .....	7-47
7.13.2	新規カスタム構成スクリプトの作成 .....	7-47
7.13.3	カスタム構成スクリプトのコピー .....	7-48
7.13.4	カスタム構成スクリプトの編集 .....	7-49
7.13.5	カスタム構成スクリプトのコンテンツ情報の表示 .....	7-49
7.13.6	サイトへのカスタム構成スクリプトの追加 .....	7-49
7.13.7	サイトからのカスタム構成スクリプトの削除 .....	7-50
7.14	カスタム要素フォーム .....	7-50
7.14.1	カスタム要素フォームについて .....	7-50
7.14.2	新規カスタム要素フォームの作成 .....	7-51
7.14.3	カスタム要素フォームのコピー .....	7-51
7.14.4	カスタム要素フォームの編集 .....	7-52
7.14.5	カスタム要素フォームのコンテンツ情報の表示 .....	7-53
7.14.6	サイトへのカスタム要素フォームの追加 .....	7-53
7.14.7	サイトからのカスタム要素フォームの削除 .....	7-53
7.15	検証スクリプト .....	7-54
7.15.1	検証スクリプトについて .....	7-54
7.15.2	新規検証スクリプトの作成 .....	7-54
7.15.3	検証スクリプトのコピー .....	7-55
7.15.4	検証スクリプトの編集 .....	7-56
7.15.5	検証スクリプトのコンテンツ情報の表示 .....	7-56
7.15.6	サイトへの検証スクリプトの追加 .....	7-56
7.15.7	サイトからの検証スクリプトの削除 .....	7-57
7.16	フラグメント・ライブラリ .....	7-57
7.16.1	フラグメント・ライブラリについて .....	7-57
7.16.2	フラグメント・ライブラリのコンテンツ情報の表示 .....	7-57
7.16.3	サイトへのフラグメント・ライブラリの追加 .....	7-58
7.16.4	サイトからのフラグメント・ライブラリの削除 .....	7-58
7.17	マネージャ構成設定 .....	7-59
7.17.1	マネージャ構成設定について .....	7-59
7.17.2	新規マネージャ構成設定の作成 .....	7-59
7.17.3	マネージャ構成設定のコピー .....	7-60

7.17.4	マネージャ構成設定の編集 .....	7-61
7.17.5	マネージャ構成設定のコンテンツ情報の表示 .....	7-61
7.17.6	サイトへのマネージャ構成設定の追加 .....	7-62
7.17.7	サイトからのマネージャ構成設定の削除 .....	7-62
7.18	変換定義 .....	7-63
7.18.1	変換定義について .....	7-63
7.18.2	新規変換定義の作成 .....	7-63
7.18.3	変換定義のコピー .....	7-64
7.18.4	変換定義の編集 .....	7-65
7.18.5	変換定義のコンテンツ情報の表示 .....	7-65
7.18.6	サイトへの変換定義の追加 .....	7-66
7.18.7	サイトからの変換定義の削除 .....	7-66

## 8 アセットからのサイトの構築

8.1	テンプレートの操作 .....	8-2
8.1.1	プレースホルダの挿入 .....	8-3
8.1.2	アセットの挿入 .....	8-3
8.1.3	フラグメントの挿入 .....	8-3
8.1.4	テンプレートでのアセットの配置 .....	8-4
8.1.5	テキストの操作 .....	8-4
8.1.6	CSS クラスの適用 .....	8-4
8.1.7	HTML 表の操作 .....	8-5
8.1.8	ネイティブ・ドキュメントと変換定義の操作 .....	8-6
8.1.9	リンクの操作 .....	8-6
8.1.9.1	Web サイトの別のセクションに対するリンクの作成 .....	8-7
8.1.9.2	コンテンツ・サーバーの既存のファイルに対するリンクの作成 .....	8-8
8.1.9.3	URL に対するリンクの作成 .....	8-10
8.1.9.4	新規コンテンツ・ファイルに対するリンクの作成 .....	8-11
8.1.9.5	コンテンツ・サーバーの既存のファイルに対するリンクの作成 .....	8-13
8.1.9.6	既存のローカル・ファイルに対するリンクの作成 .....	8-14
8.1.9.7	ハイパーリンクの編集 .....	8-16
8.1.9.8	リンクの削除 .....	8-16
8.1.9.9	デフォルトのリンク形式の選択 .....	8-17
8.1.9.10	ハイパーリンクの形式 .....	8-18
8.1.10	ページ・テンプレートのコンテンツ情報ページの表示 .....	8-19
8.1.11	コントリビューション・リージョンの理解 .....	8-20
8.2	定義の操作 .....	8-21
8.2.1	プレースホルダ定義 .....	8-21
8.2.1.1	デフォルトのプレースホルダ定義の指定 .....	8-22
8.2.1.2	グローバル・プレースホルダ定義マッピングの作成 .....	8-22
8.2.1.3	セクション・プロパティのプレースホルダ定義マッピングの作成 .....	8-23
8.2.1.4	プレースホルダ・タグへのプレースホルダ定義の直接指定 .....	8-24
8.2.1.5	グローバル・プレースホルダ定義へのプレースホルダの関連付け .....	8-24
8.2.1.6	プレースホルダ定義へのリージョン定義の追加 .....	8-25
8.2.1.7	プレースホルダ定義へのリージョン・テンプレートの関連付け .....	8-25
8.2.1.8	プレースホルダ定義へのサブテンプレートの関連付け .....	8-26
8.2.2	リージョン定義 .....	8-27
8.2.3	要素定義 .....	8-28

8.3	サイト階層の操作 .....	8-28
8.3.1	サイト階層へのセクションの追加 .....	8-29
8.3.2	サイト階層のセクション名の変更 .....	8-29
8.3.3	サイト階層のセクションの並替え .....	8-30
8.3.4	サイト階層からのセクションの削除 .....	8-30
8.3.5	ホームページの割当て .....	8-31
8.3.6	プライマリ・ページの割当て .....	8-32
8.3.7	セカンダリ・ページの割当て .....	8-33
8.3.8	サイト・ナビゲーションへのセクションの表示 .....	8-35
8.3.9	エラー・ハンドラ・セクションの指定 .....	8-36
8.3.10	サイトまたはセクションのセキュリティの変更 .....	8-37
8.3.11	Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集 .....	8-38
8.3.12	セクションのカスタム・プロパティの定義 .....	8-40
8.3.13	サイト階層の展開と縮小 .....	8-41
8.3.14	デザイナーでのサイト階層のリフレッシュ .....	8-41
8.4	フラグメントの操作 .....	8-42
8.5	コンテンツの割当て .....	8-42
8.6	Web ページの変更の比較 .....	8-43
8.6.1	Web ページの比較時における差異の色分け .....	8-44
8.6.2	変更比較機能の使用 .....	8-45

## 9 フラグメントの操作

9.1	フラグメントについて .....	9-2
9.2	フラグメントの追加と編集 .....	9-2
9.3	テンプレートでのフラグメント処理 .....	9-2
9.4	ツールボックスのフラグメント .....	9-3
9.5	ツールボックスのフラグメントのフィルタ .....	9-4
9.6	テンプレートへのフラグメントの追加 .....	9-5
9.7	フラグメントのプレビュー .....	9-5
9.7.1	フラグメントのプレビュー .....	9-5
9.7.2	フラグメントの異なるパラメータの選択 .....	9-6
9.7.3	フラグメント追加時の異なるパラメータの選択 .....	9-6
9.7.4	フラグメントのパラメータの変更 .....	9-7
9.8	フラグメントの編集 .....	9-8
9.8.1	フラグメントのコピーの編集 .....	9-8
9.8.2	フラグメントの編集 .....	9-9
9.9	新規フラグメントの作成 .....	9-11
9.10	フラグメントの削除 .....	9-11
9.11	ツールボックスのフラグメントの削除 .....	9-12
9.12	フラグメント・エディタの使用 .....	9-12
9.12.1	フラグメント・エディタの起動 .....	9-13
9.12.2	フラグメント・プロパティの指定 .....	9-14
9.12.3	フラグメントに関連付けられたアイコンの変更 .....	9-15
9.12.4	フラグメント・スニペットの追加、編集および削除 .....	9-16
9.12.5	フラグメント・アセットの追加、編集および削除 .....	9-18
9.12.5.1	アセットの追加 .....	9-18
9.12.5.2	アセットの編集 .....	9-19
9.12.5.3	アセットの削除 .....	9-19

9.12.6	フラグメント・パラメータの追加、編集および削除 .....	9-20
9.12.6.1	フラグメントのパラメータの編集 .....	9-20
9.12.6.2	フラグメントへの新規パラメータの追加 .....	9-21
9.12.6.3	スニペットへのパラメータおよびパラメータ宣言の挿入 .....	9-22
9.12.7	フラグメント要素の追加、編集および削除 .....	9-23
9.12.7.1	フラグメントへの要素の追加 .....	9-23
9.12.7.2	フラグメントの要素の編集 .....	9-24
9.12.7.3	フラグメントの要素の削除 .....	9-24
9.13	フラグメント・ライブラリ .....	9-25
9.13.1	フラグメント・ライブラリについて .....	9-25
9.13.2	フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存 .....	9-26
9.13.3	読取り専用フラグメント・ライブラリの設定 .....	9-27
9.13.4	フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード .....	9-28
9.13.4.1	フラグメント・ライブラリのダウンロード .....	9-28
9.13.4.2	フラグメント・ライブラリのアップロード .....	9-28

## 10 ネイティブ・ドキュメントの操作

10.1	ネイティブ・ドキュメントについて .....	10-2
10.2	ネイティブ・ドキュメントの要件 .....	10-2
10.3	ネイティブ・ドキュメントでの変換定義の使用法 .....	10-3
10.4	Dynamic Converter テンプレートの選択ルール .....	10-4
10.5	ネイティブ・ドキュメントのサンプル・フラグメント .....	10-5

## 11 カスタム・フォームとスクリプトの操作

11.1	カスタム・フォームとスクリプトについて .....	11-2
11.2	カスタム要素フォーム .....	11-2
11.2.1	カスタム要素の実装 .....	11-3
11.2.2	下位互換性とアップグレード .....	11-10
11.2.3	サンプル・カスタム要素 .....	11-10
11.3	カスタム構成スクリプト .....	11-11
11.4	デフォルトの検証オプション .....	11-12

## 12 マネージャの設定

12.1	Site Studio マネージャについて .....	12-2
12.2	マネージャの表示場所と表示時間の選択 .....	12-2
12.3	マネージャの表示時間 .....	12-2
12.4	サイトへのマネージャの追加 .....	12-3
12.4.1	デフォルト設定によるマネージャの追加 .....	12-3
12.4.2	カスタム設定によるマネージャの追加 .....	12-3
12.5	マネージャ構成設定ファイルの作成 .....	12-4
12.6	マネージャ構成設定のカスタマイズ .....	12-5
12.7	マネージャ構成設定ファイルの説明 .....	12-6

## 13 サイト・レポートの操作

13.1	サイト・レポートについて .....	13-2
13.2	Web サイト・オブジェクト・レポート .....	13-2
13.3	サイト使用状況レポート .....	13-3
13.4	コンテンツ追跡レポート .....	13-4
13.5	Web サイト・オブジェクト・レポートの表示 .....	13-5
13.5.1	デザイナーでのレポートの表示 .....	13-5
13.5.2	「Site Studio Administration」 ページでのレポートの表示 .....	13-5
13.6	Web サイト使用状況レポートの表示 .....	13-6
13.6.1	デザイナーでのページ・テンプレートのレポートの表示 .....	13-6
13.6.2	デザイナーでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示 ....	13-6
13.6.3	Web ページでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示 .....	13-7
13.6.4	他のすべてのファイルのレポートの表示 .....	13-7
13.7	コンテンツ追跡レポートの表示 .....	13-7
13.7.1	ファイルが表示される Web ページでのレポートの表示 .....	13-7
13.7.2	サイトにおけるすべてのファイルのレポートの表示 .....	13-8

## 14 ワークフローの使用方法

14.1	ワークフローについて .....	14-2
14.2	ワークフローのタイプ .....	14-2
14.3	コントリビュータのワークフローの使用状況 .....	14-2
14.4	ワークフローの設定 .....	14-3
14.5	ワークフローの例 .....	14-3
14.5.1	ワークフローのコントリビュータ・データ・ファイル .....	14-3
14.5.2	ワークフローのネイティブ・ドキュメント .....	14-4
14.5.3	ワークフローのイメージ .....	14-4

## A ユーザー・インタフェース

A.1	「Customize」 ダイアログ・ボックス .....	A-4
A.1.1	「Customize」 ダイアログ: 「Commands」 タブ .....	A-4
A.1.2	「Customize」 ダイアログ: 「Toolbars」 タブ .....	A-5
A.1.3	「Customize」 ダイアログ: 「Tools」 タブ .....	A-7
A.1.4	「Customize」 ダイアログ: 「Keyboard」 タブ .....	A-8
A.1.5	「Customize」 ダイアログ: 「Menu」 タブ .....	A-10
A.1.6	「Customize」 ダイアログ: 「Options」 タブ .....	A-11
A.1.7	「Customize」 ダイアログ: 「Source View」 タブ .....	A-12
A.1.8	「Customize」 ダイアログ: 「Warning Dialogs」 タブ .....	A-14
A.1.9	「Customize」 ダイアログ: 「Miscellaneous」 タブ .....	A-15
A.1.10	「Customize」 ダイアログ: 「Log File」 タブ .....	A-16
A.2	「Site Connection Manager」 ダイアログ .....	A-17
A.3	「Site Connection Details」 ダイアログ .....	A-18
A.4	「Create New Site」 ダイアログ .....	A-19
A.5	「Site Addresses」 ダイアログ .....	A-20
A.6	「Choose Default Link Format」 ダイアログ .....	A-21
A.7	「Define Environment Properties」 ダイアログ .....	A-22
A.8	「New Section」 ダイアログ .....	A-23



A.9	「Custom Section Properties」ダイアログ .....	A-24
A.10	「Define Custom Section Property」ダイアログ .....	A-25
A.11	「Select (Home) Page Template」ダイアログ .....	A-26
A.12	「Select (Primary) Page Template」ダイアログ .....	A-28
A.13	「Select (Secondary) Page Template」ダイアログ .....	A-30
A.14	「Site Asset Categories」ダイアログ .....	A-32
A.15	「Enable Metadata Modification」ダイアログ .....	A-33
A.16	「Select Site」ダイアログ .....	A-34
A.17	「Select Section」ダイアログ .....	A-35
A.18	Link Wizard .....	A-36
A.18.1	Link Wizard - 「Choose type of link」 .....	A-36
A.18.2	Link Wizard - 「Choose a section」 .....	A-37
A.18.3	Link Wizard - 「Choose URL format」 .....	A-38
A.18.4	Link Wizard - 「Choose content file」 .....	A-39
A.18.5	Link Wizard - 「Choose target section」 .....	A-40
A.18.6	Link Wizard - 「Check-in content」 .....	A-41
A.18.7	Link Wizard - 「Confirm link」 .....	A-42
A.18.8	Link Wizard - 「Link Target Options」 .....	A-43
A.19	「Contribution Region」ダイアログ .....	A-44
A.20	「Region Content Options」ダイアログ .....	A-46
A.21	「Choose Document Types」ダイアログ .....	A-47
A.22	「Edit Query Text」ダイアログ .....	A-48
A.23	変換の定義ダイアログ .....	A-48
A.24	「Native Document Conversion Settings」ダイアログ (レガシー) .....	A-49
A.25	「Native Document Conversion Settings」ダイアログ .....	A-50
A.26	WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログ .....	A-52
A.27	WYSIWYG 要素の定義ダイアログ .....	A-55
A.28	プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログ .....	A-59
A.29	プレーン・テキスト要素の定義ダイアログ .....	A-61
A.30	イメージ要素の「Element」ダイアログ .....	A-63
A.31	イメージ要素の定義ダイアログ .....	A-65
A.32	カスタム要素の「Element」ダイアログ .....	A-67
A.33	カスタム要素の定義ダイアログ .....	A-68
A.34	「Custom Element Settings」ダイアログ .....	A-69
A.35	静的リスト要素の「Element」ダイアログ .....	A-70
A.36	静的リスト要素の定義ダイアログ .....	A-72
A.37	「Elements」ダイアログ .....	A-74
A.38	「Static List Element Validation」ダイアログ .....	A-75
A.39	動的リスト要素の「Element」ダイアログ .....	A-76
A.40	動的リスト要素の定義ダイアログ .....	A-78
A.41	「Dynamic List Settings」ダイアログ .....	A-80
A.42	リージョン定義ダイアログ .....	A-81
A.43	「Element」ダイアログ .....	A-82
A.44	「Link Settings」ダイアログ .....	A-83
A.45	「Select CSS Classes」ダイアログ .....	A-84
A.46	「WYSIWYG Element Validation」ダイアログ .....	A-85
A.47	「Plain Text Element Validation」ダイアログ .....	A-86
A.48	「Select HTML Tags」ダイアログ .....	A-87
A.49	「Image Only Element Validation」ダイアログ .....	A-88
A.50	「Advanced Element Validation」ダイアログ .....	A-89

A.51	「New Item Settings」 ダイアログ .....	A-90
A.52	「Assign Region Content」 ダイアログ .....	A-91
A.53	「Choose Region Content」 ダイアログ .....	A-93
A.54	「Generate Unique Region Content」 ダイアログ .....	A-94
A.55	フラグメント・エディタ・ダイアログ .....	A-95
A.56	フラグメント・プロパティ・ダイアログ .....	A-97
A.57	「Fragment Assets」 ダイアログ・ボックス .....	A-98
A.58	「Fragment Elements」 ダイアログ・ボックス .....	A-99
A.59	「Fragment Parameters」 ダイアログ .....	A-100
A.60	「Edit Query Text」 ダイアログ .....	A-102
A.61	「New Option」 ダイアログ .....	A-103
A.62	スニペット・プロパティ・ダイアログ .....	A-104
A.63	「Fragment Parameters」 ダイアログ .....	A-106
A.64	「Fragment Preview」 ダイアログ .....	A-107
A.65	「Save Fragment」 ダイアログ .....	A-108
A.66	「Manage Site」 ページ .....	A-109
A.67	「Manager Configuration Settings」 ダイアログ .....	A-110
A.68	「Placeholder Section Properties」 ダイアログ .....	A-112
A.69	「Placeholder Section Properties」 ダイアログ .....	A-113
A.70	プレースホルダの定義ダイアログ .....	A-114
A.71	「Placeholder Definition Mappings」 ダイアログ .....	A-116
A.72	「Placeholder Definition Mappings」 ダイアログ .....	A-117
A.73	「Define Placeholder」 ダイアログ .....	A-118
A.74	Switch Content ウィザード .....	A-119
A.74.1	Switch Content ウィザード: 「Choose Region Content」 画面 .....	A-119
A.74.2	Switch Content ウィザード: 「Choose content file」 画面 .....	A-120
A.74.3	Switch Content ウィザード: 「Check-in content」 画面 .....	A-121
A.74.4	Switch Content ウィザード: 「Switch Content Confirmation」 画面 .....	A-121
A.75	「Switch Region Template」 ダイアログ .....	A-122
A.76	「Dynamic Conversion」 ダイアログ .....	A-123
A.77	「Custom Configuration Scripts」 ダイアログ .....	A-124
A.78	「Contribution Element」 ダイアログ .....	A-125

## B サイトのレプリケート

B.1	レプリケーションについて .....	B-2
B.1.1	レプリケーション・プロセス .....	B-3
B.1.2	レプリケーションの対象 .....	B-4
B.1.3	含まれるリビジョン .....	B-4
B.1.4	エクスポートのその他の設定 .....	B-4
B.2	レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成 .....	B-5
B.3	ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定 .....	B-6
B.4	インポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブの作成 .....	B-8
B.4.1	ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定 .....	B-9
B.4.2	ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定 .....	B-10
B.5	サイト・レプリケーションの開始 .....	B-11
B.6	環境プロパティの指定 .....	B-12
B.7	サイトの各セクションのレプリケーション .....	B-12
B.8	Site Studio レプリケータの使用 .....	B-13
B.8.1	手順 1: ソース・サーバーと Web サイトの選択 .....	B-13

B.8.2	手順 2: ターゲット・サーバーの選択 .....	B-15
B.8.3	手順 3: レプリケートするアイテムの選択 .....	B-17
B.8.4	手順 4: Site Studio レプリケートの終了 .....	B-19
B.8.5	サーバー接続の変更 .....	B-19
B.8.6	環境プロパティの上書き .....	B-20

## C サンプル・フラグメント

C.1	ナビゲーション・フラグメント .....	C-2
C.1.1	ブレッドクラム・プレーン .....	C-3
C.1.2	エクスプローラ・メニュー・バー .....	C-3
C.1.3	ログイン・サンプル .....	C-3
C.1.4	ナビゲーション・ホーム・ロゴ .....	C-3
C.1.5	水平方向のナビゲーション・マルチ .....	C-4
C.1.6	垂直方向のナビゲーション・マルチ .....	C-4
C.1.7	水平方向のナビゲーション・プレーン .....	C-5
C.1.8	垂直方向のナビゲーション・プレーン .....	C-5
C.1.9	トップ・ナビゲーション・タブ .....	C-6
C.1.10	水平方向のナビゲーション・ラップ .....	C-6
C.1.11	検索ボックス・プレーン .....	C-6
C.1.12	検索結果ページ .....	C-7
C.1.13	検索結果プレーン .....	C-8
C.1.14	サイト・マップ・プレーン .....	C-8
C.1.15	サイト・マップ・ツリー .....	C-9
C.1.16	垂直方向のメニュー・バー .....	C-9
C.1.17	ASP ブレッドクラム・プレーン .....	C-9
C.1.18	ASP ブレッドクラム・プレーン (サーバー) .....	C-9
C.1.19	ASP エクスプローラ・メニュー・バー .....	C-10
C.1.20	水平方向の ASP ナビゲーション・マルチ .....	C-10
C.1.21	垂直方向の ASP ナビゲーション・マルチ .....	C-11
C.1.22	ASP 検索ボックス・プレーン .....	C-11
C.1.23	ASP 検索ボックス・プレーン (サーバー) .....	C-12
C.1.24	ASP 検索結果プレーン .....	C-12
C.1.25	ASP サイト・マップ・プレーン .....	C-13
C.1.26	CSP サンプル・ナビゲーション (クライアント) .....	C-13
C.1.27	CSP サンプル・ナビゲーション (サーバー) .....	C-14
C.1.28	JSP ナビゲーション・ホーム・ロゴ .....	C-14
C.1.29	水平方向の JSP ナビゲーション・プレーン .....	C-15
C.1.30	垂直方向の JSP ナビゲーション・プレーン .....	C-15
C.1.31	JSP 検索ボックス・プレーン .....	C-15
C.1.32	JSP 検索結果ページ .....	C-16
C.1.33	JSP サイト・マップ・プレーン .....	C-17
C.1.34	IDOC ブレッドクラム・プレーン .....	C-17
C.1.35	IDOC ナビゲーション・ホーム・ロゴ .....	C-17
C.1.36	IDOC 検索ボックス・プレーン .....	C-18
C.1.37	RSET ブレッドクラム・プレーン .....	C-18
C.1.38	水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ .....	C-18

C.1.39	水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン .....	C-19
C.1.40	RSET サイト・マップ・プレーン .....	C-19
C.1.41	追加の IDOC フラグメント .....	C-20
C.1.41.1	水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチ .....	C-20
C.1.41.2	水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーン .....	C-20
C.1.41.3	IDOC トップ・ナビゲーション・タブ .....	C-21
C.1.41.4	IDOC サイト・マップ・プレーン .....	C-21
C.2	動的リスト・フラグメント .....	C-22
C.2.1	動的リスト一般 .....	C-22
C.2.2	動的リスト・ページ .....	C-22
C.2.3	動的リスト・プレーン .....	C-22
C.2.4	ASP 動的リスト・ページ .....	C-23
C.2.5	ASP 動的リスト・シンプル .....	C-24
C.2.6	CSP サンプル動的リスト .....	C-24
C.2.7	JSP 動的リスト・プレーン .....	C-24
C.3	静的リスト・フラグメント .....	C-25
C.3.1	静的リスト・サンプル .....	C-25
C.3.2	静的リスト一般 .....	C-25
C.3.3	ASP 静的リスト・サンプル .....	C-26
C.4	その他のフラグメント .....	C-26
C.4.1	コピーライト・サンプル .....	C-26
C.4.2	動的変換 .....	C-26
C.4.3	動的変換 IFrame .....	C-27
C.4.4	エラー・ハンドラ・メッセージ .....	C-27
C.4.5	Flash サンプル .....	C-27
C.4.6	ロゴ・サンプル .....	C-27
C.4.7	ランダム変換 .....	C-28
C.4.8	ASP エラー・ハンドラ・メッセージ .....	C-28
C.4.9	CSP サンプル・ページ・タイトル .....	C-28
C.4.10	PageHitCount .....	C-28
C.4.11	Site Studio マネージャ .....	C-29

## 用語集

## 索引

---

---

# はじめに

『Site Studio デザイナ・ガイド』では、Site Studio および Content Server で管理される Web サイトの設計担当者に有用な情報を提供します。

## 対象読者

このドキュメントは、Site Studio で管理される組織の Web サイトを設計する、組織内のユーザーを対象としています。

## ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

### ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

### 外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

### Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

## 関連ドキュメント

詳細は、Oracle Site Studio ドキュメント・セットの次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle Universal Content Management Site Studio インストレーション・ガイド』
- 『Oracle Universal Content Management Site Studio コントリビュータ・ガイド』
- 『Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド』
- 『Oracle Site Studio リリース・ノート』

## 表記規則

このマニュアルでは次の表記規則を使用します。

規則	意味
太字	太字は、操作に関連する Graphical User Interface 要素、または本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。
イタリック体	イタリックは、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

# サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

## Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html>

## 製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

## 研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

[http://education.oracle.com/pls/web\\_prod-plq-dad/db\\_pages.getpage?page\\_id=3](http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3)

## その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/index.html>

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/index.html>

---

---

**注意：** ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

---

---





この項の内容は次のとおりです。

- 1-2 ページの「[Site Studio について](#)」
- 1-2 ページの「[デザイナー、マネージャおよびコントリビュータ](#)」
- 1-3 ページの「[Content Server と Site Studio](#)」
- 1-3 ページの「[再利用可能なアセットとコンテンツ](#)」
- 1-4 ページの「[HCSP、JSP および ASP の Web サイト](#)」
- 1-4 ページの「[新機能](#)」
- 1-7 ページの「[システム要件](#)」

## 1.1 Site Studio について

Site Studio は、エンタープライズ規模の Web サイトを設計、構築および管理するための包括的なアプローチを提供する、強力な柔軟な Web 開発アプリケーション・スイートです。従来の単なる Web サイト開発ソリューションとは異なり、Web サイト作成機能やコンテンツ管理機能がすべて 1 つに統合されています。すべてのサイト・アセット（テンプレート、グラフィック、CSS ファイルなど）やすべてのサイト・コンテンツを含め、Web サイトに関連するものはすべてコンテンツ・サーバーに格納され、そこで管理されます。Site Studio を使用することで生産性が大幅に向上するとともに、組織は、企業サイト全体の一貫したブランディングとプレゼンテーションで、Web コンテンツを正確で適時性の高い最新の状態で維持できます。Site Studio では、サイトのアーキテクチャとプレゼンテーションを集中制御しながら、コンテンツ開発と継続的なメンテナンスを各ビジネス・ユニットやその他のチームに分散できます。

---

**注意：** Site Studio 10gR4 には完全な下位互換性があります。つまり、Site Studio デザイナ 10gR4 を使用して、以前のリリースの Site Studio で作成されたサイトを処理できます。ただし、これらのサイトは引き続きレガシー・モードで動作します。すなわち、10gR4 より前のアーキテクチャを使用し、Site Studio 10gR4 で導入されたアーキテクチャや機能は使用しません。

---

## 1.2 デザイナ、マネージャおよびコントリビュータ

Site Studio は、Site Studio の 3 つの異なるユーザーに対応する 3 つのアプリケーション（デザイナー、マネージャおよびコントリビュータ）から構成されます。

**Site Studio デザイナ**・アプリケーションは、個人ユーザー（サイト・デザイナー）がサイトを作成、設計および配信できる開発環境を提供します。デザイナーは、通常、Web マスター、Web 開発者、サイト管理者、または同様の役職にあるその他のユーザーです。一般的に、1 人のデザイナーが複数のマネージャおよびコントリビュータと共同で作業します。

**Site Studio マネージャ**・アプリケーションは、サイトの構造を管理する 1 人以上のサイト・マネージャが使用できる Web ベースのサイト管理コンソールを提供します。多くの場合、マネージャは部長です。詳細は、『Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド』を参照してください。

**Site Studio コントリビュータ**・アプリケーションでは、組織内の割り当てられた個人ユーザー（コントリビュータ）が、Web サイトから直接呼び出せるインライン編集環境を使用して、必要な場合にいつでも Web サイトのコンテンツを更新できます。コントリビュータは通常、マーケティング担当チームや販売担当チームのメンバーなど、技術者以外のユーザーです。詳細は、『Site Studio コントリビュータ・ガイド』を参照してください。

サイト・デザイナーは、作業時間の多くをデザイナー・アプリケーションの使用に費やし、マネージャおよびコントリビュータ・アプリケーションは、主にサイトのプレビューまたはテストに使用します。各マネージャは、作業時間の多くをマネージャ・アプリケーションの使用に費やしますが、簡単な編集のためにコントリビュータ・アプリケーションを使用することもあります。各コントリビュータは、通常、コントリビュータ・アプリケーションのみを使用します。もちろん、（小規模な組織でよくあることですが）同じ個人ユーザーが Web サイトの設計、管理および投稿を行うこともできます。

これらのアプリケーションは別個のものですが、相互に緊密に統合されています。デザイナーで実行されるタスクはマネージャとコントリビュータに影響し、マネージャで実行されるタスクはコントリビュータに影響します。たとえば、デザイナーで実行されるマネージャ・フラグメントの設定やページへのコンテンツ割当て、またはコントリビュータが使用できるメニューの変更や編集は、マネージャおよびコントリビュータの外観と動作に直接影響します。

## 1.3 Content Server と Site Studio

Content Server は、Web サイトのメイン・リポジトリです。Content Server により、組織内のすべてのユーザーは、コンテンツを簡単に投稿し、多様なライブラリ・サービスでコンテンツを効率的に管理して、任意の場所にあるコンテンツに安全にアクセスできます。

Universal Content Management (UCM) の一部である Site Studio では、管理対象コンテンツ、Idoc スクリプト、セキュリティ、ワークフローなど、コンテンツ・サーバーが提供する必要のある多くの組込みのサービスを導入しています。コンテンツ・サーバーの「[Site Studio Administration](#)」ページを使用して、Site Studio に関連する複数のタスクを管理できます (4-40 ページの「[コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページ](#)」を参照)。

Site Studio は、Dynamic Converter や Check Out and Open などの他のコンポーネントとも連携して動作するため、ユーザーは、Web サイトにネイティブ・ドキュメント (Microsoft Word、Excel、PowerPoint など) をシームレスに組み込むことができます。Dynamic Converter は、ネイティブ・ドキュメントを Web ページに変換し、Web サイトに表示するために使用します。Check Out and Open は、ドキュメントが表示される Web ページで直接コンテキスト内チェックアウト・オプションを提供するために使用します。

各コントリビュータがサイトにコンテンツを簡単に発行できるように、Content Server のフォルダなどの機能を有効化することも可能です。Content Server とそのアドオンの使用経験は、Site Studio で Web サイトを作成および管理する際に役立ちます。詳細は、Content Server のドキュメントを参照してください。

## 1.4 再活用可能なアセットとコンテンツ

ほとんどの Web サイトは、HTML またはスクリプトベースの単一の Web ページを作成することから始まります。サイトのルック・アンド・フィールを設計し、サイト・ナビゲーションを決定します。コンテンツは、通常、テキストとグラフィックの組合せであり、最後に追加します。サイトの成長に応じて、最初のページを新しい名前前で保存し、将来の Web ページの基本テンプレートとして使用できます (これらの Web ページは、すべて結合されます)。

このアプローチがうまくいくのは、Web サイトにグローバル変更が発生するまでです。グローバル変更が発生すると、サイト上のすべてのページに個別の編集が必要になります。これに対応するため、多くの大規模 Web サイトでは、動的インクルードやデータベース駆動型の Web ページを使用したモジュール方式のアプローチを採用しています。その結果、Web ブラウザによるリクエスト時にコンテンツの各部分が組み合され、単一の Web ページとして表示されます。これにより、頻繁に変更されるサイト・ナビゲーション、広告、ヘッダーとフッター、および情報は、一度更新するだけで即座にサイトに反映できます。ただし、これには多くの開発作業と調整作業が必要になります。

Site Studio では同様のアプローチを使用しますが、再活用可能なレイアウトとコンテンツという一歩進んだ機能を提供しています。ページ・テンプレート、リージョン・テンプレート、プレースホルダのような一部のサイト・アセットは、標準的な Web ページの背景情報 (ルック・アンド・フィール) を提供しますが、リージョン定義や要素定義のようなそれ以外のアセットでは、レイアウトとコンテンツの変更とフィルタが可能であるため、ページのコンテンツの大部分を各コントリビュータがページ内で自由に作成および編集できます。Web ページの個々の部分 (コンテンツとレイアウトの両方) を再活用可能に設定できるため、これらのアセットはページ・テンプレート自体の使用や再利用と同じ方法で複数回使用および再利用できます。

## 1.5 HCSP、JSP および ASP の Web サイト

Site Studio で Web サイトを作成する前に、Site Studio 10gR4 のアーキテクチャと機能を利用できるサイト・タイプが HCSP サイトのみであることを認識しておいてください。レガシー (10gR4 より前) サイトは、Site Studio 10gR4 でも以前と同じように動作しますが、10gR4 のアーキテクチャと機能を利用するために古い HCSP Web サイトを変換することを強くお勧めします。ASP および JSP サイトは依然としてレガシー (10gR4 より前) プロジェクトに使用できますが、10gR4 の機能はありません。以前のリリースの Site Studio と同じように機能します。

次のことに注意してください。

- **Idoc と JSP は、どちらもコンテンツ・サーバー環境で実行可能なため、HCSP/JSP としてグループ化しています (JSP ページでは、Java ServerBean を使用して Idoc サービスをコールします)。これに対し、ASP は、コンテンツ・サーバー環境で実行できないため、単独で扱います。**
- **デザイナーでの作業時に、Web サイトと同じ言語で記述されていないフラグメントをツールボックスで非表示にできます (5-11 ページの「その他のオプションの設定」を参照)。**

## 1.6 新機能

Site Studio 10g リリース 4 (10.1.4) には、次の新機能と拡張機能が含まれます (10g リリース 3 と比較した場合)。

### サイト・アセットとコンテンツの再利用性の向上

Site Studio では、サイト・アセットとコンテンツの再利用性を高めるために、内部的な設計全体が見直されました。Site Studio を使用した Web サイトの設計および構築時に、Web サイトのあらゆる部分を最大限まで再利用できるようになりました。これには Web サイトの構造も含まれ、ページ・テンプレート、リージョン・テンプレート、要素定義などの構造的コンポーネントが再利用されます。さらに、Web サイトに表示されるコンテンツと情報のあらゆる部分も再利用できます。Web サイトのすべてのアセットが個別に管理されるオブジェクトになり、部分ごとに使用および再利用できるため、Web サイトがはるかに管理しやすくなりました。

ページ・テンプレートの各部分が再利用しやすくなり、より多くの部分が個別に管理されるようになりました。以前のリリースでは、インライン要素を持つレイアウト・ページが使用されていました。このリリースではページ・テンプレートが導入され、Web ページ上でサイト・コンテンツの編集または置換が可能なる場所を定義するためにプレースホルダが使用されます。

Web ページの各部分は、ページ・テンプレート、プレースホルダ、サブテンプレートおよびリージョン・テンプレートで構成することができ、それぞれに対応する定義とともに使用して、特定のコンテンツの特定の実装を変更します。

### 個別に管理されるサイト・アセットの追加

再利用性を高めるために、Site Studio では個別に管理されるサイト・アセットが追加されています。新規のアセットは次のとおりです。

- **要素定義:** 要素タイプの編集操作を定義するファイル。特に、コントリビュータが要素の編集時に実行可能な操作を指定します。
- **リージョン定義:** 特定のタイプの要素を構成するコンテンツのタイプを定義するファイル。また、コントリビューション・リージョンにコントリビュータが使用できるコンテンツ作成および切替えオプションを指定し、これらのリージョンに関連付けられるコンテンツ・ファイルのデフォルト・メタデータを設定します。
- **プレースホルダ定義:** 関連付けられたプレースホルダに許可されるリージョン定義、リージョン・テンプレートおよびサブテンプレートを定義するファイル。プレースホルダに対して許可されるコントリビュータ・アクションも指定します。
- **ページ・テンプレート:** コントリビューション・リージョン (ページ上の編集可能領域) の配置、ナビゲーション補助 (フラグメントの形式によるもの) およびサイト全体のイメージ (バナーなど) を含む、Web ページのレイアウトと上位レベルのルック・アンド・フィールを定義する完全に形成された HTML ファイル。ページ・テンプレートは最上位レベルのサイト設計オブジェクトです。

- **リージョン・テンプレート** : Web ページ内にあるコントリビューション・リージョンのデータのレイアウトとルック・アンド・フィールを定義する部分的な HTML ファイル (ヘッドおよびボディ・セクションのないファイル)。
- **サブテンプレート** : ページ・テンプレートを独自のプレースホルダとコントリビューション・リージョンを持つさらに小さい再利用可能な領域に分割するために、ページ・テンプレートのプレースホルダに挿入可能な部分的な HTML ファイル (ヘッドおよびボディ・セクションのないファイル)。
- **カスタム構成スクリプト** : コントリビュータにカスタマイズした編集操作を提供するために、デフォルトのコントリビュータ・エディタ構成を上書きする JavaScript ファイル。

以前のリリースの Site Studio に含まれていた次のサイト・アセットに加えて、新しいサイト・アセットが追加されました。

- **コントリビュータ・データ・ファイル** : Site Studio によって生成される XML 形式のコンテンツ・ファイル。コントリビュータ・データ・ファイルは、Site Studio コントリビュータ・アプリケーションを使用して編集されます。
- **ネイティブ・ドキュメント** : サード・パーティ・アプリケーション (Microsoft Word など) を使用して作成されたコンテンツ・ファイル。ネイティブ・ドキュメントは、Dynamic Converter を使用して HTML 形式に変換され、関連付けられたアプリケーションを使用して編集されます。
- **イメージ** : コンテンツ・ファイルまたはページ・テンプレートに含まれる、企業のバナーや製品イメージなどのグラフィック・ファイル (JPG、GIF、PNG)。
- **スクリプト** : ユーザー・インタラクションなしで実行可能な一連のコマンドを提供する JavaScript ファイル。多くの場合、スクリプトは Web ページに追加機能を提供するために使用されます。
- **Cascading Style Sheet (CSS)** : ページ・コンテンツの表示方法 (具体的には、ヘッダーやリンクなどの様々な HTML 要素がページ上にどのように表示されるか) を制御するファイル。CSS ファイルへのリンクはページ・テンプレートに埋め込まれていることが多いため、その書式設定ルールはこれらのテンプレートに基づいてすべての Web ページに適用されます。
- **カスタム要素フォーム** : 要素で使用するカスタム・フォームを定義する HTML ファイル (特定のファイル・タイプを選択するフォームなど)。Site Studio には、複数の事前定義済みのカスタム要素フォームが付属します ([CS-Dir]¥custom¥SiteStudio¥elementforms 内)。これらのフォームはまた、Site Studio コンポーネントがインストールされるとコンテンツ・サーバーにチェックインされます。
- **検証スクリプト** : 要素データが要件 (最大長を超えていないことや、不正な文字が含まれていないことなど) を満たしているかどうかを判断するための検証ルールを定義する JavaScript ファイル。
- **フラグメント・ライブラリ** : Site Studio Web サイトの機能を拡張する (たとえば、動的ナビゲーション補助や標準のページ・フッターを提供して拡張する) コードのチャンク (フラグメント) の集合。
- **マネージャ構成設定** : Site Studio マネージャで使用できる機能を定義するファイル。マネージャは Web ベースのツールで、指定されたユーザー (サイト・マネージャ) が Web サイトの構造を変更する場合に使用できます。
- **変換定義** : Web サイト上のネイティブ・ドキュメントの変換ルールを指定するファイル。
- **その他のメディア** : Flash アニメーション、ビデオ・ファイル、オーディオ・ファイルなど、Web サイトで使用される可能性があるその他のメディア・ファイル。

詳細は、[第 2 章「Site Studio Web サイトの理解」](#)、[第 7 章「サイト・アセットの定義」](#)、および [第 8 章「アセットからのサイトの構築」](#) を参照してください。

### 新しいデフォルト・コントリビュータ・エディタ

Site Studio コントリビュータで、FCKeditor がデフォルトのエディタとして使用されるようになりました。また、エディタとして Ephox を使用するようにコントリビューション環境を設定することも可能です。詳細な手順は、『Site Studio インストール・ガイド』を参照してください。

コントリビュータ・アプリケーションの詳細は、『Site Studio コントリビュータ・ガイド』を参照してください。

### 静的リストと動的リストの要素化

静的リストと動的リストが要素になり、要素定義を使用してより簡単に実装や変更ができるようになりました。以前のバージョンの Site Studio では、リストはフラグメントでした。要素であるため、コントリビュータのエディタ・インタフェースを他の要素のエディタにあわせてより簡単に変更できます。

### カスタム要素の追加

このリリースの Site Studio では、カスタム要素のタイプが追加されています。多くのデータ駆動型 Web サイトには、コンテンツを制御する値（ブールや整数など）を含めることができます。カスタム要素が追加されたため、デザイナーとコントリビュータはより多くのデータ制御フォームを使用できます。Site Studio デザイナーには、複数の事前定義済みのカスタム要素フォームが付属します（[CS-Dir]\%custom%SiteStudio%elementforms 内）。これらのフォームはまた、Site Studio コンポーネントがインストールされるとコンテンツ・サーバーにチェックインされます。

### カスタム構成スクリプト

Site Studio では、エディタのカスタマイズにカスタム構成スクリプトが使用されるようになりました。デザイナーはコントリビュータ・インタフェースを特定のビジネス・ニーズにあわせて変更できます。

詳細は、第 11 章「カスタム・フォームとスクリプトの操作」を参照してください。

### Switch Content ウィザード

コンテンツの変更がウィザードで処理されるようになりました。このウィザードによって、サイト上でのサイト・アセットの使用と再利用が簡単になります。ウィザードを使用して別のコントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントまたはサブテンプレートに切り替えることができます。ウィザード自体も使いやすさを考慮して設計されています。

詳細は、8-42 ページの「コンテンツの割当て」を参照してください。

### Link Wizard

Link Wizard が使いやすさを考慮して再設計されました。ウィザードによってより簡単かつ迅速にリンクが作成されるため、様々なリンク形式やリンク・ターゲットを選択できます。

詳細は、8-6 ページの「リンクの操作」を参照してください。

### ダイアログと設計環境のより緊密な統合

サイト・アセット定義と構成ダイアログがサイト設計環境でより緊密に統合されました。これらのダイアログは、設計領域ではタブとして表示できます。

詳細は、4-6 ページの「ダイアログとタブ」を参照してください。

## 1.7 システム要件

Site Studio デザイナ・アプリケーションのシステム要件は次のとおりです。

- Microsoft Windows 2000、Windows XP または Windows Vista オペレーティング・システム
- Site Studio コンポーネントを実行するコンテンツ・サーバーへのアクセス権
- Microsoft Internet Explorer 5.5 以上（生成される Web ページは、Microsoft Internet Explorer 5.5 以上または Mozilla Firefox 1.0.7 以上を使用して表示できます。）





---

---

## Site Studio Web サイトの理解

Site Studio では、Web サイトの設計、構築および管理を簡単かつ効率的に実行できる強力なツール・セットが提供されます。このツールを最大限活用するには、Site Studio Web サイトに関するいくつかの基本概念を理解することが役立ちます。

---

---

**重要：** Site Studio 10gR4 に導入された一部の概念は、以前のリリースとはまったく異なります。したがって、Site Studio に習熟しているユーザーもこの項を読むことをお勧めします。

---

---

この項の内容は次のとおりです。

- 2-2 ページの「管理対象の Web サイト」
- 2-2 ページの「サイトのプレゼンテーションとコンテンツの分離」
- 2-4 ページの「サイト・アセット記憶域」
- 2-5 ページの「サイトのロール」
- 2-6 ページの「プレゼンテーション・モデル」
- 2-7 ページの「コントリビューション・モデル」
- 2-8 ページの「サイト・オブジェクト階層」
- 2-11 ページの「サイト・アセットの再利用」
- 2-13 ページの「要素と要素定義」
- 2-14 ページの「リージョン・テンプレートとリージョン定義」
- 2-16 ページの「プレースホルダとプレースホルダ定義」
- 2-20 ページの「サブテンプレート」
- 2-21 ページの「ページ・テンプレート」
- 2-23 ページの「コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント」
- 2-25 ページの「フラグメント」
- 2-25 ページの「Cascading Style Sheet」
- 2-26 ページの「プロジェクト・ファイル」
- 2-26 ページの「プライマリ・ページとセカンダリ・ページ」

## 2.1 管理対象の Web サイト

Site Studio を使用して作成および管理される Web サイトが他の従来のサイトと異なる点は、サイトに関連付けられるすべてのファイルが中央のリポジトリ（コンテンツ・サーバー）で格納および管理されることです。このサーバーでは、ライブラリ・サービス（チェックイン、チェックアウトなど）、バージョン管理、ワークフローおよびコンテンツ変換など、高度なコンテンツ管理機能が提供されます。

Web サイトに関連付けられるファイルには、サイトの視覚的プレゼンテーション（ページ・テンプレートや Cascading Style Sheet など）や Web ページの実際のコンテンツ（情報）を直接制御するために使用されるファイルが含まれます。さらに、サイトが要求どおりに動作するよう内部的に機能する制御ファイルや構成ファイルもいくつかあります。Web サイトに関連付けられるすべてのファイルはまとめて格納されるため、制御と管理が非常に簡単になっています。たとえば、非常に簡単に、サイト全体をバックアップしたり、サイト全体をレプリケートしてデプロイしたりすることができます。また、コンテンツ・サーバーに複数のサイトを格納する場合、異なるサイト・アセットを 1 つの場所で管理でき、さらにそれらのサイト・アセットを企業のすべての Web サイトで利用および再利用できます。

## 2.2 サイトのプレゼンテーションとコンテンツの分離

Site Studio を価値のあるツールとしているのは、Web サイトのコンテンツとプレゼンテーションを完全に分離できることです。これにより、様々なユーザーが Web サイトの情報を管理および担当でき、サイトのレイアウト、設計またはルック・アンド・フィールが誤って変更されることもありません。また、サイトのコンテンツの管理担当者は必要に応じて変更を加えることができ、作業を完了するために他のユーザーにその変更を送信する必要もありません。多くの場合、サイトのすべての変更は限られた数のサイト管理者に処理される必要がありますが、そのサイト管理シナリオに存在する重要なボトルネックがこれにより解消されます。

サイトのプレゼンテーションとコンテンツの分離を考慮すると、Web サイトに関連付けられるファイルは次の 3 つの主なカテゴリに分けることができます。

- [サイト・プレゼンテーション・ファイル](#)
- [サイト・コンテンツ・ファイル](#)
- [サイトの制御ファイルと構成ファイル](#)

### 2.2.1 サイト・プレゼンテーション・ファイル

Site Studio Web サイトに関連付けられる多くのファイルは、ページのレイアウトや書式設定の観点からサイトの外観を定義するために使用されます。これらのファイルによって、サイトのコンテンツを表示する設計フレームワークが提供されます。通常、これらのファイルを変更するとサイト全体（またはサイトの大部分）が影響を受けるため、専門のサイト・デザイナーがそれらのファイルを作成および管理します。

Site Studio で使用されるサイト・プレゼンテーション用のファイルは次のとおりです。

- **ページ・テンプレート**：コントリビューション・リージョン（ページ上の編集可能領域）の配置、ナビゲーション補助（フラグメントの形式によるもの）およびサイト全体のイメージ（バナーなど）を含む、Web ページのレイアウトと上位レベルのルック・アンド・フィールを定義する完全に形成された HTML ファイル。ページ・テンプレートは最上位レベルのサイト設計オブジェクトです。詳細は、2-21 ページの「[ページ・テンプレート](#)」を参照してください。
- **リージョン・テンプレート**：Web ページ内にあるコントリビューション・リージョンのデータのレイアウトとルック・アンド・フィールを定義する部分的な HTML ファイル（ヘッドおよびボディ・セクションのないファイル）。詳細は、2-14 ページの「[リージョン・テンプレートとリージョン定義](#)」を参照してください。
- **サブテンプレート**：ページ・テンプレートを独自のプレースホルダとコントリビューション・リージョンを持つさらに小さい再利用可能な領域に分割するために、ページ・テンプレートのプレースホルダに挿入可能な部分的な HTML ファイル（ヘッドおよびボディ・セクションのないファイル）。詳細は、2-20 ページの「[サブテンプレート](#)」を参照してください。

- **Cascading Style Sheet (CSS)** : ページ・コンテンツの表示方法（具体的には、ヘッダーやリンクなどの様々な HTML 要素がページ上にどのように表示されるか）を制御するファイル。CSS ファイルへのリンクはページ・テンプレートに埋め込まれていることが多いため、その書式設定ルールはこれらのテンプレートに基づいてすべての Web ページに適用されます。詳細は、2-25 ページの「[Cascading Style Sheet](#)」を参照してください。

サイト・プレゼンテーションに直接的に影響するこれらのファイルの他に、内部的に機能し、Site Studio Web サイトの外観にも影響を与えるファイルがいくつかあります。詳細は、2-3 ページの「[サイトの制御ファイルと構成ファイル](#)」を参照してください。

## 2.2.2 サイト・コンテンツ・ファイル

サイト・コンテンツ（サイトの実際の情報）は、個別管理されるファイルに格納され、サイト・コンテンツを表示するプレゼンテーション・コンテキストとは分離されます。これにより、サイト・コンテンツを独立して管理し、Web サイト内または Web サイト間（すべての Web サイトが同じコンテンツ・サーバーで管理される場合）で再利用できます。

Site Studio で使用されるサイト・コンテンツ用のファイルは次のとおりです。

- **コントリビュータ・データ・ファイル** : Site Studio によって生成される XML 形式のコンテンツ・ファイル。コントリビュータ・データ・ファイルは、Site Studio コントリビュータ・アプリケーションを使用して編集されます。詳細は、2-23 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント](#)」を参照してください。
- **ネイティブ・ドキュメント** : サード・パーティ・アプリケーション（Microsoft Word など）を使用して作成されたコンテンツ・ファイル。ネイティブ・ドキュメントは、Dynamic Converter を使用して HTML 形式に変換され、関連付けられたアプリケーションを使用して編集されます。詳細は、2-23 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント](#)」を参照してください。
- **イメージ** : コンテンツ・ファイルまたはページ・テンプレートに含まれる、企業のパナーや製品イメージなどのグラフィック・ファイル（JPG、GIF、PNG）。
- **その他のメディア** : Flash アニメーション、ビデオ・ファイル、オーディオ・ファイルなど、Web サイトで使用される可能性があるその他のメディア・ファイル。

## 2.2.3 サイトの制御ファイルと構成ファイル

サイト・プレゼンテーションに直接的に影響するファイルの他に、Site Studio Web サイトの外観にも影響を与えるいくつかのファイルがあります。通常、それらのファイルは Web サイト上に表示されませんが、サイトが意図したとおりに表示されて機能するよう内部的に機能します。

Site Studio で使用されるサイトの制御ファイルと構成ファイルは次のとおりです。

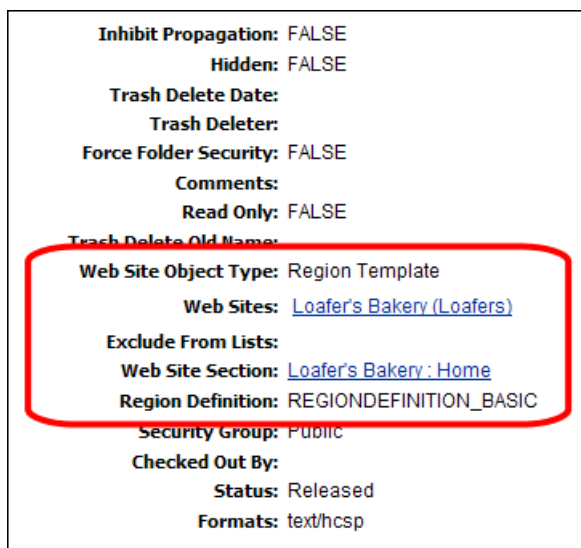
- **要素定義** : 要素タイプの編集操作を定義するファイル。特に、コントリビュータが要素の編集時に実行可能な操作を指定します。詳細は、2-13 ページの「[要素と要素定義](#)」を参照してください。
- **リージョン定義** : 特定のタイプの要素で構成されるコンテンツのタイプを定義するファイル。また、コントリビューション・リージョンにコントリビュータが使用できるコンテンツ作成および切替えオプションを指定し、これらのリージョンに関連付けられるコンテンツ・ファイルのデフォルト・メタデータを設定します。詳細は、2-14 ページの「[リージョン・テンプレートとリージョン定義](#)」を参照してください。
- **プレースホルダ定義** : 関連付けられたプレースホルダに許可されるリージョン定義、リージョン・テンプレートおよびサブテンプレートを定義するファイル。プレースホルダに対して許可されるコントリビュータ・アクションも指定します。詳細は、2-16 ページの「[プレースホルダとプレースホルダ定義](#)」を参照してください。
- **スクリプト** : ユーザー・インタラクションなしで実行可能な一連のコマンドを提供する JavaScript ファイル。多くの場合、スクリプトは Web ページに追加機能を提供するために使用されます。
- **カスタム構成スクリプト** : コントリビュータにカスタマイズした編集操作を提供するために、デフォルトのコントリビュータ・エディタ構成を上書きする JavaScript ファイル。

- **カスタム要素フォーム**: 要素で使用するカスタム・フォームを定義する HTML ファイル (特定のファイル・タイプを選択するフォームなど)。Site Studio には事前定義済みのカスタム要素フォームが付属します (場所は、[CS-Dir]¥custom¥SiteStudio¥elementforms)。(Site Studio コンポーネントをインストールすると、このフォームもコンテンツ・サーバーにチェックインされます。)
- **検証スクリプト**: 要素データが要件 (最大長を超えていないことや、不正な文字が含まれていないことなど) を満たしているかどうかを判断するための検証ルールを定義する JavaScript ファイル。
- **フラグメント・ライブラリ**: Site Studio Web サイトの機能を拡張する (たとえば、動的ナビゲーション補助や標準のページ・フッターを提供して拡張する) コードのチャンク (フラグメント) の集合。
- **マネージャ構成設定**: Site Studio マネージャで使用できる機能を定義するファイル。マネージャは、指定されたユーザー (サイト・マネージャ) に Web サイトの構造の変更を許可する Web ベースのツールです。
- **変換定義**: Web サイト上のネイティブ・ドキュメントの変換ルールを指定するファイル。

## 2.3 サイト・アセット記憶域

Site Studio Web サイトに関連付けられるすべてのファイルは、Oracle Content Server を使用して格納され、そこで管理されます。Site Studio 固有の多くのカスタム・メタデータ・フィールドを使用して、ファイルの使用場所と使用方法を指定します。

図 2-1 サイト・アセットのコンテンツ情報ページにある Site Studio メタデータ・フィールド



Site Studio では、すべてのサイト関連のファイルに対して次のメタデータ・フィールドが使用されます。

- **Web Site Object Type**: Web サイトのファイル・タイプを指定します (「Data File」、 「Stylesheet」、 「Region Template」 および 「Placeholder Definition」 など)。
- **Web Sites**: ファイルを関連付ける Web サイトをリストします。つまり、必要ないファイルも、リストされたサイトで使用できます。ファイルは複数の Web サイトに関連付けることができるため、サイト間で再利用できます。これにより、複数サイトをより効率的に管理できます。
- **Exclude From Lists**: 特定のコンテンツ・ファイル (コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント) が Web サイトの動的リストに表示されないようにコントリビュータが指定した Web サイトをリストします。

- **Web Site Section:** コンテンツ・ファイルを格納する Web サイト上の場所を指定します (ターゲット・セクションが元のハイパーリンクに明示的に指定されていない場合)。
- **Region Definition:** リージョン・テンプレートまたはコンテンツ・ファイル (コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント) に関連付けるリージョン定義を指定します。これにより、サイトでのファイルの表示方法とコントリビュータに許可された動作が決定します。リージョン・テンプレートとコンテンツ・ファイルには1つのリージョン定義のみを関連付けることができますが、1つのリージョン定義には複数のリージョン・テンプレートとコンテンツ・ファイルを関連付けることができます。

一部のフィールドはファイル作成時に自動的に設定され、コンテンツ・サーバーにチェックインされます。また、関連のないメタデータ・フィールドもあるため、すべてのサイト・アセットですべてのメタデータ・フィールドが使用されない場合もあります。たとえば、「Region Definition」メタデータ・フィールドはリージョン定義に関連付けられないため、ページ・テンプレートでは使用されません。

これらのフィールドの値はファイルのコンテンツ情報ページで変更できますが、変更によってサイトでのファイルの使用方法が変わる可能性があるため、変更する場合は注意が必要です。

## 2.4 サイトのロール

組織内で Web サイトの作成や管理に関する様々なロールが決定された場合、それぞれのロールは、Web サイトを機能させる上で特定のタスクに集中できます。

**デザイナー**は、ページの構造、ページのレイアウト方法、イメージ表現、コーポレート・アイデンティティなどの Web サイトの外観を重点的に行います。このマニュアルでは、デザイナーのロールに注目します。

**コントリビュータ**は、ページのコードを作成しなくても、ページ上にコンテンツを配置できます。さらに重要なことは、コントリビュータは Web サイトの複数の領域を何度も変更しなくても、ページの表示方法に影響を与えることなく、コンテンツを更新および編集できることです。デザイナーは、ほとんどの場合コンテンツを制御しません。また、コントリビュータも、ほとんどの場合サイトでのコンテンツの表示方法を制御しません。コントリビュータのロールの詳細は、『Site Studio コントリビュータ・ガイド』を参照してください。

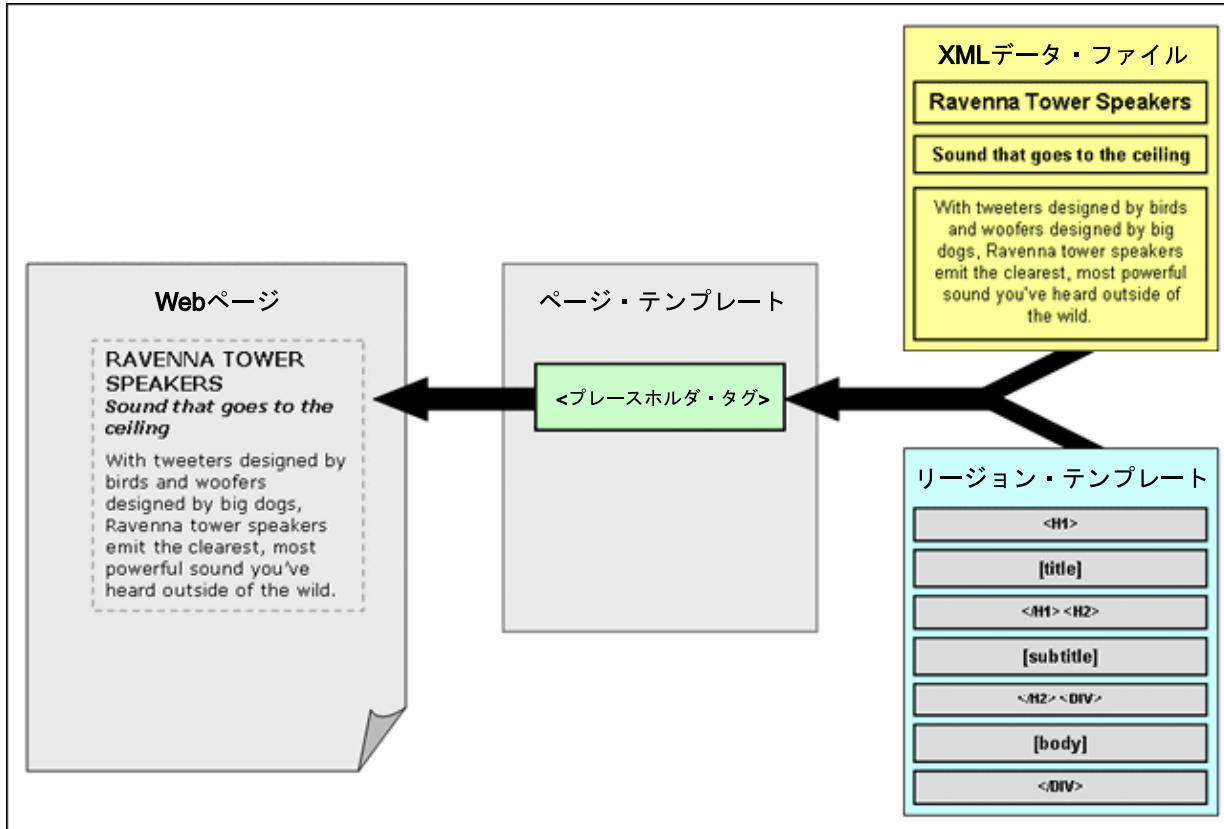
**マネージャ**はサイト・ナビゲーションと階層を再編成できます。マネージャは、サイト・デザイナーによって使用を許可された Web ベースのツールを使用して、サイトに対してセクションを追加または削除できます。Site Studio デザイナーを使用する必要はありません。マネージャ・ロールの詳細は、『Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド』を参照してください。

この3つの Site Studio のロール、および個々のサイトの**管理者**が存在する場合があります。この管理者はサイトへの Web アドレスの割当て、サイトのバックアップ、およびサイトのレプリケートなどを実行できます。これらの管理タスクはすべてコンテンツ・サーバーで実行されます。サイト管理者のタスクの詳細は、『Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド』を参照してください。

## 2.5 プレゼンテーション・モデル

Site Studio では、図 2-2 に示されているように、プレゼンテーション層が Web サイトのコンテンツ層から完全に分離されています。

図 2-2 Site Studio Web サイトのプレゼンテーション・モデル



コンテンツを表示するサイト・フレームワークを定義するには、ページ・テンプレートを使用します。ページ・テンプレートには、標準の HTML レイアウト、書式設定コード、およびフラグメントまたはプレースホルダ（あるいはその両方）の配置場所を指定する Site Studio タグが含まれます。プレースホルダには、コントリビューション・リージョン（編集可能領域）をページのどの場所に配置するかが指定されます。コンテンツと視覚的プレゼンテーションの観点でコントリビューション・リージョンに何を配置するかについての情報は、プレースホルダには指定されません。そのような情報は、関連するリージョン定義と組み合わせてリージョン・テンプレートで処理されます。

リージョン・テンプレートでは、コントリビューション・リージョン（プレースホルダ・タグでページ・テンプレート上にマークされている）内のデータのレイアウトとルック・アンド・フィールが定義されます。リージョン・テンプレートは、個別管理されるサイト・アセットです。したがって、Web サイト内または Web サイト間で簡単に再利用できます。（10gR4 より前の Site Studio リリースでは、リージョンのプレゼンテーションは独立して管理されておらず、以前のリリースでレイアウト・ページと呼ばれていたページ・テンプレートに含まれていました。）

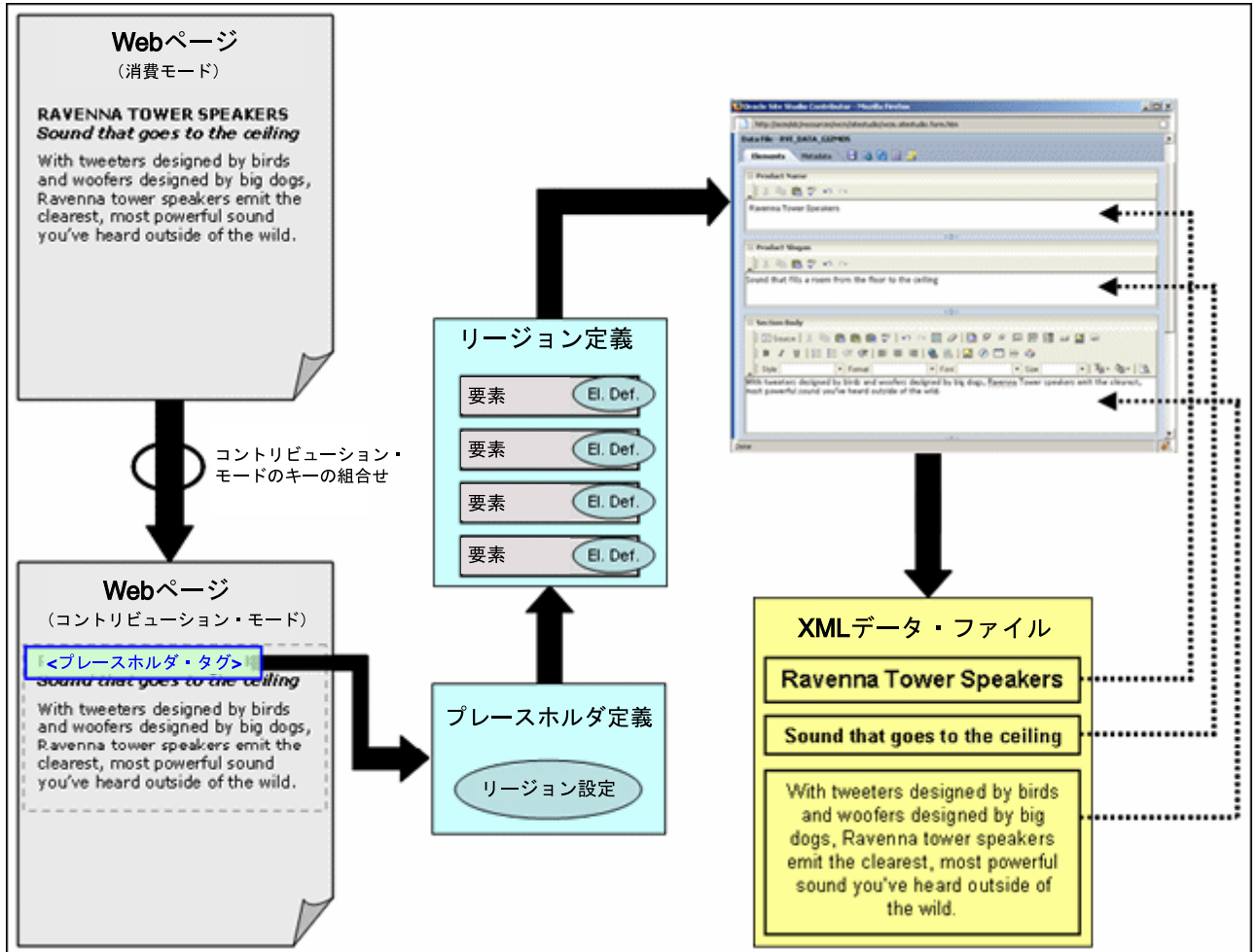
コントリビューション・リージョンのコンテンツは、データ・ファイルに格納されます。このデータ・ファイルも個別管理されるサイト・アセットです。Web ページの生成時に、Site Studio はページ・テンプレート上のプレースホルダを検索し、それに関連するリージョン・テンプレートとデータ・ファイルを取得し、その 2 つをマージして HTML コードを作成します。この HTML コードはプレースホルダ・タグの位置にあるページ・テンプレートに挿入されます。これにより、最終的な Web ページが作成されます。すべてのコンテンツは、サイト設定とページ設定に従って表示と書式設定が行われ、所定の位置に配置されます。



## 2.6 コントリビューション・モデル

プレゼンテーション・モデルと同様に、Site Studio Web サイトのコントリビューション側では、[図 2-3](#)のように、サイトのコンテンツはプレゼンテーションから分離されます。

図 2-3 Site Studio Web サイトのコントリビューション・モデル



サイトのコントリビュータが Web ページのコンテンツを編集する場合、キーの組合せを押して、ページをコントリビューション・モードでリロードします。(デフォルトのキーの組合せは [Ctrl]+[Shift]+[F5] ですが、これは変更できます。)

ページがコントリビューション・モードになると、Web ページのすべてのコントリビューション・リージョン (編集可能領域) がマークされます。また、ページに基礎となるコードが追加されており、コントリビューション・リージョンに関連付けられているプレースホルダが特定されます。Site Studio では、この情報に基づいて、どのプレースホルダ定義とリージョン定義をプレースホルダに対して使用するか決定できます。リージョン定義では、その構成データ・セグメント (要素) の観点でコントリビューション・リージョン内のコンテンツ構造が特定されます。各要素に要素定義があります。要素定義には、その要素に対してコントリビュータが使用できる編集オプションが定義されます。

コントリビュータがコントリビューション・リージョン内のコンテンツを編集する場合、その関連するコントリビュータ・データ・ファイルがコンテンツ・サーバーからチェックアウトされます。データ・ファイルの構造と、そのデータ・ファイルに関連付けられるリージョン定義の構造は、要素の数とタイプが一致します。データがデータ・ファイルからロードされて、コントリビュータ・エディタに表示されます。エディタ内ではデータ・ファイルの各要素が編集可能要素として表示され、その要素タイプの要素定義に定義された編集機能を使用できます。

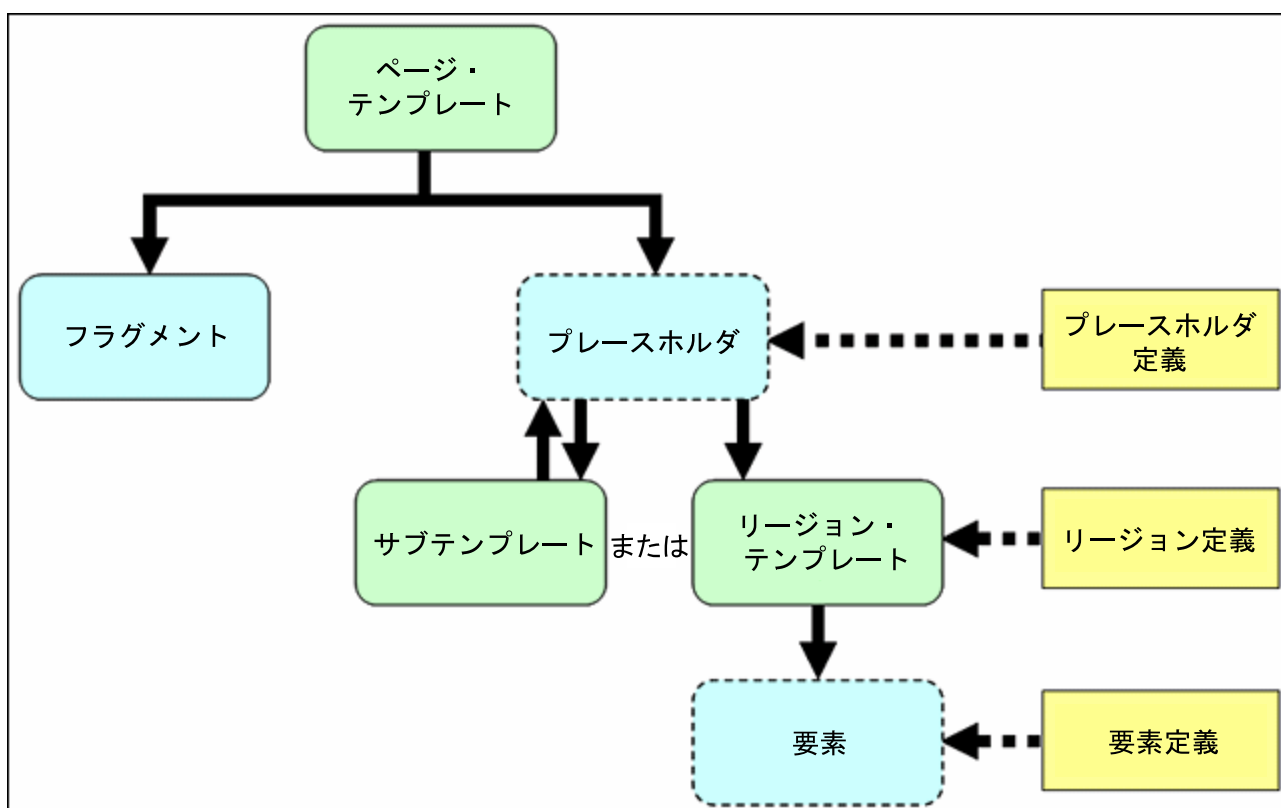
コントリビュータが編集を終了してコントリビュータ・エディタの「Save」アイコンをクリックすると、データ・ファイルは更新されて、コンテンツ・サーバーに再度チェックインされます。Web ページはサイトの更新スケジュールに従って更新されます。

コントリビュータ・エディタには、コントリビューション・リージョンに関連付けられたリージョン定義（つまりデータ・ファイル）内にあるすべての要素が常に表示されます。特定のリージョンでは使用されない要素も表示されます。他の要素が Web サイトの別の場所で使用されている場合もあります。したがって、その情報を編集するとサイトの他のページに影響する可能性があります。

## 2.7 サイト・オブジェクト階層

図 2-4 は、Site Studio Web サイトの作成と管理に使用するサイト・オブジェクトの階層を示しています。

図 2-4 Web サイトのオブジェクト階層



ページ・テンプレートは最上位の階層です。ページ・テンプレートでは、サイトのコンテンツを表示する、Web サイト内のページのフレームワークが提供されます。ページ・テンプレートには、標準の HTML レイアウト、書式設定コード、サイト全体のイメージとその他のアセット、およびフラグメントまたはプレースホルダ（あるいはその両方）のタグが含まれます。ページ・テンプレートはコンテンツ・サーバーに格納され、そこで管理されます。詳細は、2-21 ページの「ページ・テンプレート」を参照してください。

フラグメントは、ページ・テンプレートに追加してその機能を向上させるコードのチャンクです。Site Studio には事前定義済フラグメント（動的ナビゲーション補助用のフラグメントなど）がいくつか付属していますが、独自のフラグメントを作成することもできます。ページ・テンプレートには複数のフラグメントを含めることができます。フラグメントは、フラグメント・ライブラリに格納されます。詳細は、2-25 ページの「フラグメント」を参照してください。

プレースホルダはページ・テンプレート上の単なる挿入ポイント（タグ）です。これによって、Web ページ上のコントリビューション・リージョン（編集可能領域）の場所が特定されます。



コントリビューション・リージョンに含めるものおよびコントリビューション・リージョンの表示方法を定義するには、リージョン・テンプレートとリージョン定義を使用します。ページ・テンプレートには複数のプレースホルダを含めることができます。プレースホルダに関連付けられるファイルはありません。つまり、コンテンツ・サーバーにプレースホルダ・ファイルはありません。プレースホルダは**プレースホルダ定義**によって制御されます。プレースホルダ定義には、コントリビューション・リージョンに配置できるコンテンツとその表示方法、およびコントリビュータが使用できるアクション（コンテンツの切替えやメタデータの変更など）が指定されます。プレースホルダには、1つのサブテンプレートまたは1つのリージョン・テンプレートを含めます。詳細は、2-16 ページの「[プレースホルダとプレースホルダ定義](#)」を参照してください。

**サブテンプレート**は、ページ・テンプレート上のプレースホルダを、独自のプレースホルダを持つ小規模の再利用可能な領域に分割するメカニズムを提供する部分的な（ヘッドとボディ・セクションがない）HTML ファイルです。プレースホルダとサブテンプレート間には循環関係があります。つまり、プレースホルダにサブテンプレートを含めることができますが、同様にサブテンプレートにも1つ以上のプレースホルダを含めることができます。サブテンプレートはコンテンツ・サーバーに格納され、そこで管理されます。詳細は、2-20 ページの「[サブテンプレート](#)」を参照してください。

**リージョン・テンプレート**は、コントリビューション・リージョン（プレースホルダ・タグでページ・テンプレートにマークされている）内のデータのレイアウトとルック・アンド・フィールを定義する部分的な（ヘッドとボディ・セクションがない）HTML ファイルです。リージョン・テンプレートは**リージョン定義**によって制御されます。リージョン定義では、リージョン・テンプレートに配置できるコンテンツの種類が定義されます。また、リージョン・テンプレートでは、コントリビューション・リージョンに対してコントリビュータが使用できるコンテンツ作成オプションと切替えオプションが指定され、リージョンに関連付けられるコンテンツ・ファイルのデフォルト・メタデータが設定されます。リージョン・テンプレートとリージョン定義はコンテンツ・サーバーで別々のアセットとして格納され、管理されます。リージョン・テンプレートには、1つ以上の要素参照を含めることができます。詳細は、2-14 ページの「[リージョン・テンプレートとリージョン定義](#)」を参照してください。

**要素**は、Site Studio Web サイトで再利用可能な最小の情報のチャンクです。要素はリージョン・テンプレート内で参照されます。これにより、テンプレートに定義されたレイアウトとプレゼンテーションを使用して、要素のデータがリージョン・テンプレートに取り込まれます。リージョン・テンプレートには複数の要素参照を含めることができます。要素に関連付けられるファイルはありません。つまり、コンテンツ・サーバーに要素ファイルはありません。要素のグループが、サイトのコンテンツ・タイプを指定するリージョン定義に配置されます。要素は**要素定義**によって制御されます。要素定義には、要素タイプに対してコントリビュータが実行できる編集操作が指定されます。具体的には、コントリビュータがコントリビュータ・データ・ファイル内の要素を編集するときに使用可能な、コントリビュータ・エディタでの編集機能が設定されます。詳細は、2-13 ページの「[要素と要素定義](#)」を参照してください。

図 2-5 は、サイト・オブジェクト階層の例を示しています。

図 2-5 サイト・オブジェクト階層の例

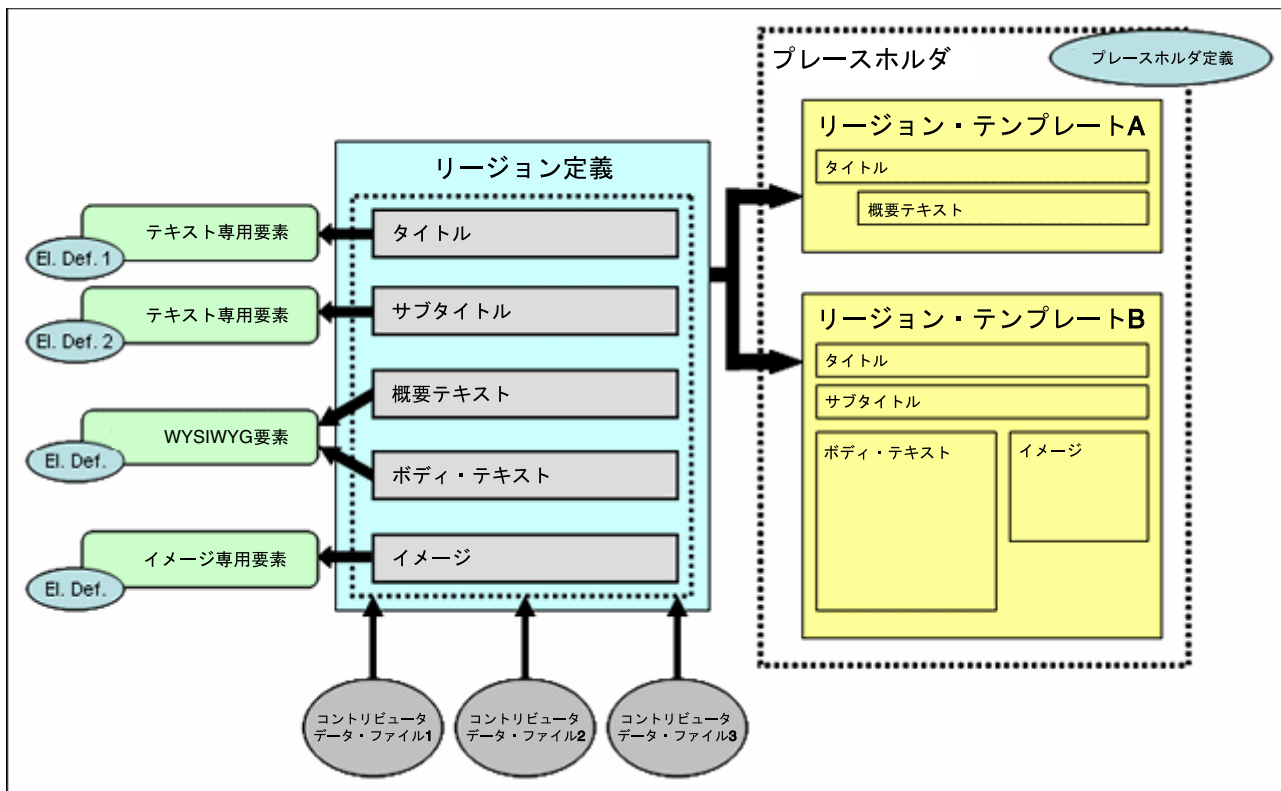


図 2-5 には 1 つのプレースホルダ（ページ・テンプレート上の編集可能なコントリビューション・リージョン）があり、そのプレースホルダには使用可能な 2 つのリージョン・テンプレート（プレースホルダ定義に指定されている）があります。リージョン・テンプレート A には、タイトルと簡単な概要テキストのみに限定されたデータ・ビューが表示されます。リージョン・テンプレート B には、タイトル、サブタイトル、ボディ・テキストおよびイメージを含む、より詳細なデータ・ビューが表示されます。サイトのコンテキストに応じて、どちらかのテンプレートをプレースホルダで使用できます。どちらのリージョン・テンプレートもリージョン定義に関連付けられており、そのリージョン定義には再利用可能な各情報チャンクの要素（タイトル、サブタイトル、概要テキスト、ボディ・テキストおよびイメージ）が含まれます。これらの各要素は要素定義に関連付けられます。

タイトル要素とサブタイトル要素はタイプが同じ（テキストのみ）ですが、要素定義が異なります。したがって、コントリビュータが使用できる編集機能は異なります。概要テキスト要素とボディ・テキスト要素は WYSIWYG 要素です。この要素は、通常、これらの要素の編集時に、コントリビュータが広範囲の編集オプション（テーブルの追加機能や高度なテキスト書式設定など）を使用できることを意味します。これらの要素に対するコントリビュータの編集操作は同じです。

1 つ以上のコントリビュータ・データ・ファイルがリージョン定義に関連付けられています。これらは最終的にコントリビューション・リージョンに関連付けられます。コントリビュータ・データ・ファイルの構造はリージョン定義の構造と一致します。また、含まれる要素（タイトル、サブタイトル、概要テキスト、ボディ・テキストおよびイメージ）も同じです。コントリビュータがコントリビューション・リージョン内のコンテンツを編集する場合、関連するコントリビュータ・データ・ファイルがコントリビュータ・エディタにロードされます。コントリビュータ・エディタでは、データ・ファイル内の要素ごとに 1 つの編集領域が提供されます。各領域で使用可能な編集機能は、要素定義によって設定されます。

## 2.8 サイト・アセットの再利用

最も便利で強力な Site Studio 機能の 1 つに、Web サイト内および複数のサイト間（すべてのサイトが同じコンテンツ・サーバー上で管理されている場合）でサイト・アセットを再利用できる機能があります。アセットを一度変更するだけで、そのアセットを使用するすべての場所で、そのアセットが変更されます。これにより、データのすべてのインスタンスを追跡してすべての Web ページが更新されたことを確認する必要がなくなります。これは、サイトのプレゼンテーションに関連付けられるファイルとサイトのコンテンツに関連付けられるファイルの両方に適用されます（2-2 ページの「サイトのプレゼンテーションとコンテンツの分離」を参照）。ページ・テンプレート、リージョン・テンプレートおよび要素などは、複数回使用されることで、最も効率的に使用できます。同様に、同じコンテンツ・ファイルのすべてまたは一部（異なるセグメント）をサイト上の異なる場所に表示して、コンテキストにあわせることができます。

図 2-6 と図 2-7 は、再利用されるサイト・コンテンツの例を示しています。図 2-6 には、タイトル、イメージおよびサブタイトルで構成されるアイテムのリストが示されています。これらの情報は個別のコントリビュータ・データ・ファイルから取得されます。これらの各リスト・アイテムにハイパーリンクを設定して、図 2-7 のような完全ページを開くこともできます。実際、このような種類の設計は多くのサイトで見ることができます。ティーザー情報をランディング・ページに表示して、ユーザーがティーザーのリンクをクリックすると以降のページで完全な情報が表示されます。

図 2-6 ティーザー・コンテンツを含む Web ページ

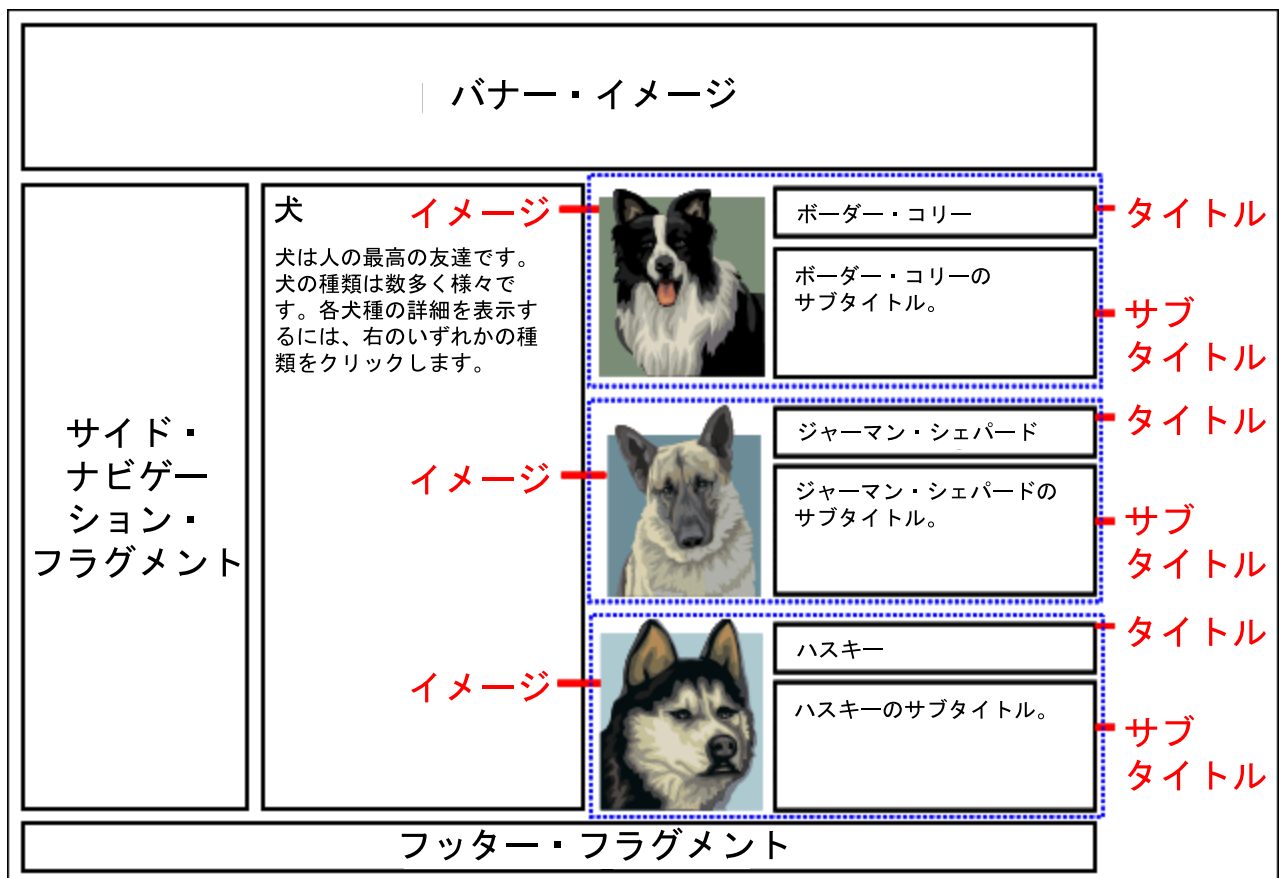


図 2-7 完全なコンテンツを含む Web ページ



図 2-7 の Web ページには、多くの同じ情報が表示されています。これは、図 2-6 のリージョン・テンプレートと図 2-7 のページで同じデータ・ファイルが使用されるためです。要素についても同様です。たとえば、イメージ専用の要素はイメージの表示に使用でき、テキスト専用の要素はタイトルの表示に使用できます。WYSIWYG は、残りの情報の表示に使用する要素タイプとして使用できます。通常、1つの WYSIWYG 要素を使用できるため、Web サイトの作成に必要とされる要素はほとんどありません。WYSIWYG 要素は、コンピュータ用のその編集スタイルを必要とする Web サイトのあらゆる場所で使用できます。

サイト・アセットの目的は Web サイト全体で再利用されることです。したがって、デザイナーが Web サイト内で何かを作成する前に、Web サイトが完全に計画されていることが特に重要になります。この分野の詳細は、第 3 章「効率的な Web サイトの計画」を参照してください。

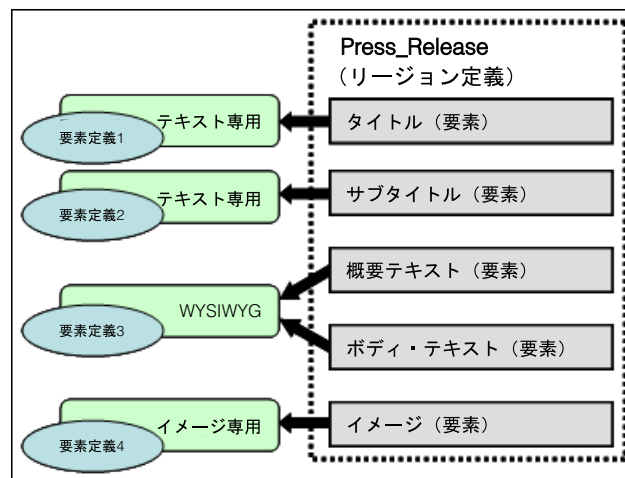
## 2.9 要素と要素定義

**要素**は、Site Studio Web サイトで再利用可能な最小の情報チャンク（タイトル、製品イメージ、またはプレス・リリースのボディ・テキストなど）です。要素データは Web サイト内（または Web サイト間）で再利用できます。したがって、サイト・デザイナーはサイトのコンテンツをどのようにセグメントに分割するかを慎重に検討する必要があります。これには事前作業が必要な場合がありますが、サイト・コンテンツの再利用性を最大化でき、さらにサイト・コンテンツを長期間にわたってより効率的に管理できるようになります。

定義する各要素には、WYSIWYG、テキスト専用、イメージ専用、静的リスト、動的リストまたはカスタムの特定のタイプが関連付けられます。これらのタイプによって、コンテンツを構成する要素の特性が決定し、また要素定義を介してコントリビュータが使用できる編集オプションが決定します。たとえば、プレス・リリースのタイトルをテキスト専用要素として設定できます（通常、制限された編集オプションのみがコントリビュータに提供される）が、実際のプレス・リリース・テキストを WYSIWYG 要素にすることもできます（通常、イメージまたは表の追加機能など、より多くの編集制御がコントリビュータに提供される）。

要素は**要素定義**によって制御されます。要素とは、基本的にその要素に関連付けられる要素定義のインスタンス化です。要素定義には、Web ページ上の要素に対してコントリビュータが実行できる編集操作（特に、コントリビュータ・エディタで実行できる編集機能）が指定されます。要素定義は個別に管理されるサイト・アセットです。つまり、要素定義は Web サイト内または Web サイト間（すべてのサイトが同じコンテンツ・サーバーで管理される場合）で再利用できます。図 2-8 のように、同じタイプの要素（タイトルとサブタイトル）に異なる要素定義を関連付けて、要素の使用環境のコンテキストに応じてコントリビュータに異なる編集環境を提供できます。同様に、複数の要素（概要テキストとボディ・テキスト）で同じ要素定義を共有することもできます。これにより、各要素に対する同じ編集操作をコントリビュータに提供できます。

図 2-8 要素と要素定義



個々の要素は個別管理されるサイト・アセットではありません。つまり、コンテンツ・サーバーに要素ファイルはありません。（ただし、要素定義ファイルがあります。）要素のグループが、サイトのコンテンツ・タイプを指定するリージョン定義に配置されます。図 2-8 のように、タイトル、サブタイトル、概要テキスト、ボディ・テキストおよびイメージの各要素で構成される Press\_Release というリージョン定義が考えられます。この場合、リージョン定義はコンテンツ・クラスとして考えられます。

要素データは、リージョン定義に関連付けられたコントリビュータ・データ・ファイルに格納されます。各コントリビュータ・データ・ファイルには、関連付けられたリージョン定義の各要素のインスタンスが含まれます。図 2-8 の例では、タイトル、サブタイトル、概要テキスト、ボディ・テキストおよびイメージの 5 つの要素がコントリビュータ・データ・ファイルに含まれます。コントリビュータは、各要素の使用可能な編集機能を使用して、コントリビュータ・データ・ファイル内の要素データを編集できます。その編集機能は、関連付けられた要素定義に設定されます。

## 2.10 リージョン・テンプレートとリージョン定義

**リージョン定義**は、Web サイトで使用するコンテンツのタイプを定義します。リージョン定義はコンテンツ・クラスとして考えられます。リージョン定義は基本的に個々の要素のグループであり、特定のサイトのコンテンツ・タイプに対して再利用可能な様々な情報チャンクを定義します。たとえば、2-13 ページの [図 2-8](#) のように、タイトル、サブタイトル、概要テキスト、ボディ・テキストおよびイメージの各要素で構成される `Press_Release` というリージョン定義（コンテンツ・クラス）が考えられます。コントリビュータ・データ・ファイルをリージョン定義に関連付けて、リージョン定義に各要素のデータを格納します。（コントリビュータがデータに対して実行できる処理は要素定義によって制御されます。詳細は、2-13 ページの「[要素と要素定義](#)」を参照。）

リージョン定義では、サイトの構成部分（要素）の観点でサイトのコンテンツ・タイプが定義されます。また、コントリビュータに関連付けられたコントリビューション・リージョンでコントリビュータが使用できる、コンテンツの作成オプションと切替えオプションも指定されます。たとえば、コントリビューション・リージョンのコンテンツの切替えをコントリビュータに許可するようコントリビューション・リージョンを設定する場合、サーバー上の既存のコントリビュータ・データ・ファイルのみ（ネイティブ・ドキュメントや新しいコントリビュータ・データ・ファイルではない）の使用をコントリビュータに許可できます（コントリビュータがコントリビューション・リージョン内のコンテンツを実際に切り替えることができるかどうかは、プレースホルダ定義で制御します）。最後に、リージョン定義では、コントリビューション・リージョン内のコンテンツがコンテンツ・サーバーにチェックインされる時のコンテンツのデフォルト・メタデータも設定されます。

**リージョン・テンプレート**は、Web ページ内のコントリビューション・リージョンにあるデータのレイアウトとルック・アンド・フィールを定義する、部分的な HTML ファイルです。リージョン・テンプレートは、ヘッドとボディ・セクションを持たない部分的な HTML ファイルです。したがって、Site Studio サイトの Web ページを生成するときに、このリージョン・テンプレートを他の HTML コードに挿入できます。

リージョン・テンプレートは、標準の HTML レイアウト、書式設定コード、および要素（コントリビュータ・データ・ファイル）または動的変換（ネイティブ・ドキュメント）の配置場所を指定する Site Studio タグで構成されます。コントリビュータ・データ・ファイルの一部の要素は一部のリージョン・テンプレートに表示できますが、他のリージョン・テンプレートには表示できません。これにより、異なるページ間で情報を再利用できます（2-10 ページの [図 2-5](#) を参照）。

サイト・デザイナーは、他のサイト・アセットよりも多くのリージョン・テンプレートを作成する場合があります。リージョン・テンプレートを使用すれば、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの情報を、Web サイトの様々なコンテキストにあわせて様々な形で表示できます。要素の場合と同様に、リージョン・テンプレートを使用してサイトの情報をどのように表示する必要があるか、時間をかけて検討することが重要になります。リージョン・テンプレートを適切に使用すれば、サイト・コンテンツの再利用性を最大化でき、さらにサイト・コンテンツをより効率的に管理できるようになります。

簡単に述べると、Web ページのコントリビューション・リージョンに含めるものをリージョン定義で指定し、コントリビューション・リージョンの表示方法をリージョン・テンプレートに定義します。つまり、サイトのコンテンツの構造（および属性）をリージョン定義で指定し、そのコンテンツの Web ページ上の視覚的プレゼンテーションをリージョン・テンプレートで定義します。

リージョン定義ごとに複数のリージョン・テンプレートが存在する場合もあります。これにより、サイト内のコンテキストに応じて、サイトのコンテンツを様々な形で表示できます。1つのリージョン定義に対して複数のリージョン・テンプレートがある場合、デフォルトでない方のリージョン・テンプレートを使用するように特に設定されていないかぎり、デフォルトのリージョン・テンプレートが使用されます。



リージョン・テンプレートを使用すれば、同じデータ・ファイルのデータを使用しながら、複数の場所に異なるレイアウトで情報を表示できます。一般的な例として、たとえばタイトル、簡単なサブタイトルおよび小さなイメージなどを表示するアイテムのティーザー・リストがあります。この例は図 2-9 に示されています。この図では、イメージを左側に、タイトルとサブタイトルを右側に配置して、これらの3つの要素を表示するリージョン・テンプレート（サンプル・コンテンツを含む）を示しています。

図 2-9 リージョン定義で制限された要素一式を含めるリージョン・テンプレート

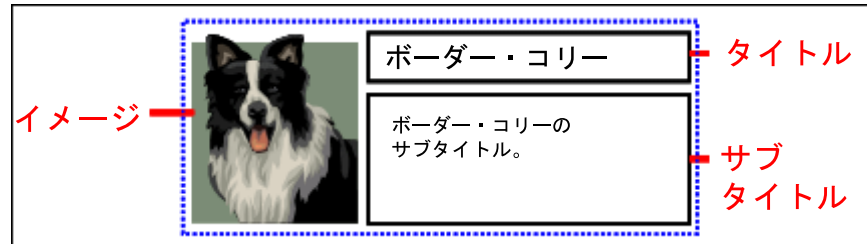


図 2-9 のコンテンツにハイパーリンクを設定すれば、同じデータを表示する異なるリージョン・テンプレートを使用した新しいページを開くことができます。このときに、データ・ファイルからさらに多くの要素を取り込むことができます。図 2-10 は、このようなリージョン・テンプレート（サンプル・コンテンツを含む）の例を示しています。タイトルが最上位に配置され、サブタイトル、概要テキストおよびボディ・テキストがその下に配置されています。このリージョン・テンプレートにはイメージも含まれます（ただしサイズと位置は異なる）。すべてのコンテンツは、図 2-9 で使用されたデータ・ファイルと同じものから取得されます。

図 2-10 リージョン定義の完全な要素一式を含めるリージョン・テンプレート



図 2-9 と図 2-10 の場合、コントリビュータがどちらのページのデータも編集できるようにコントリビューション・リージョンを設定できますが、コントリビュータが編集するのは同じデータ・ファイルであり、変更は、そのデータ・ファイルを使用するすべての場所に反映されます。コントリビュータが、制限された要素一式を表示するリージョン・テンプレート (図 2-9) からデータ・ファイルを編集した場合、コントリビュータ・エディタにはデータ・ファイルのすべての要素が表示されます。特定のコンテキストですべての要素が使用されない場合があっても、すべての要素が表示されます。

## 2.11 プレースホルダとプレースホルダ定義

プレースホルダはページ・テンプレート上の単なる挿入ポイント (タグ) です (2-21 ページの「ページ・テンプレート」を参照)。これによって、Web ページ上のコントリビューション・リージョン (編集可能領域) の場所が特定されます。図 2-11 では、「DESIGN」ビューに「Default」というプレースホルダのマーカーが表示されています。ページ上のオブジェクトの位置決めには表レイアウトが使用されています。「SOURCE」ビューでは、プレースホルダは、次のような簡単なタグで示されます。

```
<!--$wcmPlaceholder("Name")-->
```

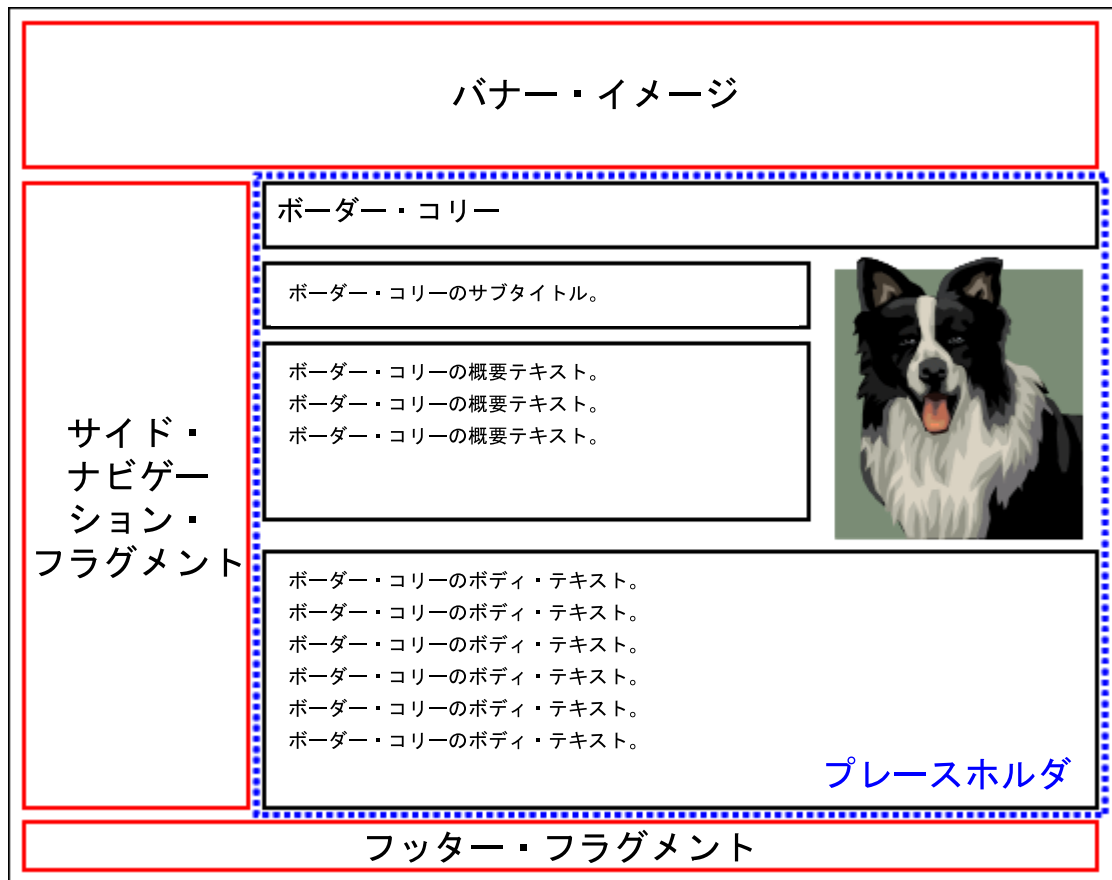
図 2-11 「DESIGN」ビューのプレースホルダ・マーカー





プレースホルダによって特定されるコントリビューション・リージョンに含めるもの、およびサイト上のコントリビューション・リージョンの表示方法を定義するには、リージョン・テンプレートとリージョン定義（2-14 ページの「[リージョン・テンプレートとリージョン定義](#)」を参照）を使用します。ページ・テンプレートには複数のプレースホルダを含めることができます。各プレースホルダは、ページ上のコントリビューション・リージョンを表します。プレースホルダに関連付けられるファイルはありません。つまり、コンテンツ・サーバーにプレースホルダ・ファイルはありません。図 2-12 には、点線で囲まれた 1 つのプレースホルダを含む Web ページの外観が示されています（サンプル・コンテンツを配置済）。

図 2-12 Web ページ上のプレースホルダ（サンプル・コンテンツを含む）



プレースホルダをページ・テンプレートに挿入すると、コンテンツを挿入できる位置がテンプレート内でマークされます。その位置でのコンテンツの処理方法を制御するには、プレースホルダ名を**プレースホルダ定義**に関連付ける必要があります。プレースホルダ定義には、コントリビューション・リージョンに配置できるコンテンツ、そのコンテンツの表示方法、およびコントリビュータが実行できるアクションが指定されます。たとえば、コントリビューション・リージョンに表示されたコンテンツのメタデータをコントリビュータが更新できるように、またはコントリビューション・リージョンのコンテンツをコントリビュータが切り替えることができるように、プレースホルダを設定できます。（コントリビュータがどの種類のコンテンツに切り替えることができるかは、リージョン定義によって制御されます。）

プレースホルダをプレースホルダ定義に関連付ける（マッピングとも呼ばれる）方法は次のとおりです。

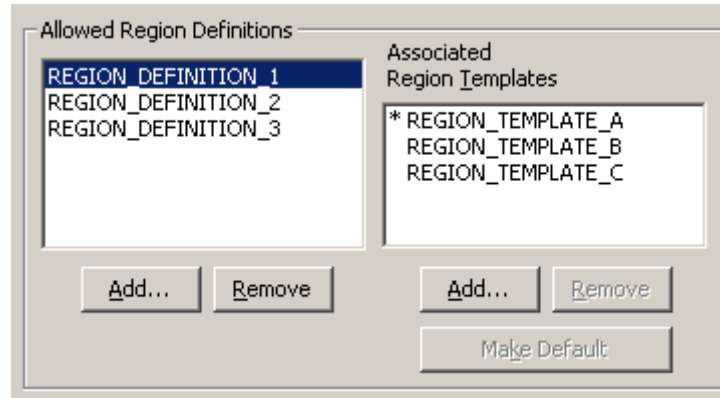
- **サイト・レベル（グローバル・マッピングの使用）**：セクション・レベルまたはプレースホルダ・レベルの上書きが指定されていない場合に、サイト全体に適用するデフォルトのプレースホルダ・マッピングを設定できます。これを行うには、デザイナーで「Tools」メニューを開き、「Define Placeholder Definition Mappings」を選択します。これにより、プレースホルダ名をプライマリ・ページとセカンダリ・ページのプレースホルダ定義に関連付けることができます。その後、そのプレースホルダ名はページ・テンプレート内で参照されます。プレースホルダ名は複数のセクションの複数テンプレートで使用できますが、マッピングは引き続き適用されます。
- **セクション・レベル（セクション・プロパティの使用）**：サイト・セクションのプライマリ・ページまたはセカンダリ・ページ（あるいはその両方）に対して、特定のプレースホルダ定義マッピングを設定することもできます。この方法でマッピングを確立すると、サイト全体（グローバル）のレベルですでに存在する可能性のあるすべてのマッピングが置き換えられます。このマッピングが行われたセクションでは、同じプレースホルダが使用される他のセクションとは異なるマッピングが使用されるため、注意が必要です。
- **プレースホルダ・レベル（プレースホルダ・タグのパラメータの使用）**：特定のプレースホルダに対して、特定のプレースホルダ定義を設定することもできます。これを行うには、プレースホルダ・タグに `placeholderDefinitionDocName=[NAME]` を追加します（「SOURCE」ビューを使用）。ここでマッピングを確立すると、セクション・レベルとサイト全体（グローバル）のすべてのマッピングが上書きされます。また、このテンプレートは、使用されるすべての場所でこの定義を使用します。つまり、このテンプレートのサイト内の使用場所に関係なく、テンプレートは指定された定義を必ず使用します。これを変更する唯一の方法は「SOURCE」ビューでテンプレートを変更することです。これはハードコードされるため、最も柔軟性の低い定義マッピングの指定方法と考えられますが、必要であればこの方法を使用できます。
- **包括的な方法（「Web site」プロパティの使用）**：前述の他の3つの方法が適用されない場合に、この方法でデフォルトのプレースホルダ定義を設定できます。これを行うには、サイトの「Web site」プロパティ・カテゴリの「Default Placeholder Definition」プロパティを設定します。

他のプレースホルダが適用されない場合に、包括的な方法のプレースホルダとして機能するデフォルトのプレースホルダ定義を設定することもできます。

**プレースホルダ定義**には、コントリビューション・リージョンに配置できるコンテンツ（プレースホルダ・タグによってマークされる）、そのコンテンツの表示方法、およびコントリビュータが実行できるアクションが指定されます。たとえば、コントリビューション・リージョンに表示されたコンテンツのメタデータをコントリビュータが更新できるように、またはコントリビューション・リージョンのコンテンツをコントリビュータが切り替えることができるように、プレースホルダを設定できます。（コントリビュータがどの種類のコンテンツに切り替えることができるかは、リージョン定義によって制御されます。）

プレースホルダ定義には、Web ページ上の関連付けられたプレースホルダ（コントリビューション・リージョン）で使用可能なリージョン定義、リージョン・テンプレートおよびサブテンプレートも指定されます。たとえば、[図 2-13](#) に示されたプレースホルダ定義を見てみます。REGION\_DEFINITION\_1、REGION\_DEFINITION\_2 および REGION\_DEFINITION\_3 の 3 つのリージョン定義が許可されています。

**図 2-13** プレースホルダ定義に関連付けられるリージョン定義とリージョン・テンプレート



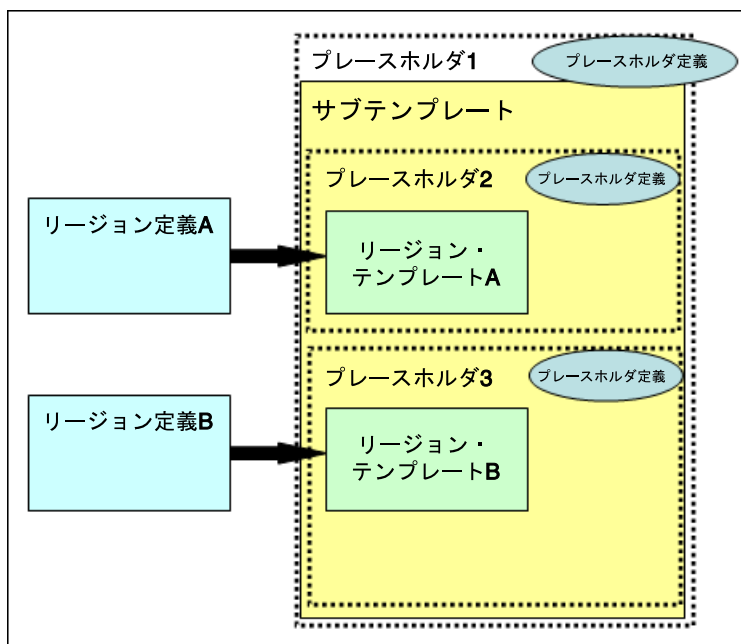
[図 2-13](#) では、リージョン定義 1 に A、B および C の 3 つのリージョン・テンプレートが関連付けられています。ここで、リージョン・テンプレート A（アスタリスクで示されている）がデフォルトのリージョン・テンプレートになります。つまり、別のリージョン・テンプレートが特に設定されていないかぎり、リージョン・テンプレート A は、リージョン定義 1 に関連付けられたすべてのコンテンツ・ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）に適用されます。通常、コンテンツ・ファイルを作成するときにリージョン定義をそのコンテンツ・ファイルに関連付けますが、その関連付けはコンテンツ情報ページ（2-4 ページの「[サイト・アセット記憶域](#)」を参照）で常に変更できます。

## 2.12 サブテンプレート

サブテンプレートはページ・テンプレートと同じですが、大きな違いが1つあります。それは、<HTML>、<HEAD> および <BODY> セクションを持たないことです。そのため、サブテンプレートはページ・テンプレートに挿入できる実際の HTML コードのチャンクになります。サブテンプレートには非常に簡単な HTML コードを含めることができますが、独自のスクリプトなどを追加してサブテンプレートを複雑にすることもできます。サブテンプレート内のコードは、ページ・テンプレートに直接配置されると、書かれたとおりにそのまま処理されます。

サイト・オブジェクト階層（2-8 ページの図 2-4 を参照）に示されているとおり、サブテンプレートはプレースホルダ内のみ配置でき、サブテンプレートには独自のプレースホルダを含めることができます。通常、サブテンプレートは、図 2-14 のように、ページ・テンプレート上のプレースホルダ（コントリビューション・リージョン）を、独自のプレースホルダを持つ小規模の再利用可能な領域に分割する手段として使用されます。プレースホルダには、1つ以上の他のプレースホルダを含むサブテンプレートを含めることができ、他のプレースホルダそれぞれには、独自のサブテンプレートまたはリージョン・テンプレートを含めることができます。

図 2-14 プレースホルダ内のサブテンプレート



優れたサイト設計は必ずしもサブテンプレートを必要としません。また、サブテンプレートをまったく使用しない Web サイトも多くあります。これは、サブテンプレートを追加すると、デザイナーが管理するサイト・アセットの種類が増加するためです。

サブテンプレートを使用すれば、Web サイトで使用するページ・テンプレートの数を減らすことができます。これを行うには、まず、できるだけ幅広く使用できて再利用が容易な1つのメイン・ページ・テンプレートを作成します。その後、必要に応じてサブテンプレートを使用して、メイン・ページ・テンプレート上のプレースホルダを、サブテンプレートを使用する複数のプレースホルダに変更します。これにより、再利用性が高まります。サイト・デザイナーは1つのプレースホルダを持つ大きな領域を作成できます。その後、異なるレイアウトのプレースホルダを複数持つサブテンプレートを含むプレースホルダを使用して、その大きな領域を利用または再利用できます。

## 2.13 ページ・テンプレート

ページ・テンプレートは、Web ページのレイアウトと上位レベルのルック・アンド・フィールを定義する完全形式の HTML のファイルです。たとえば、コントリビューション・リージョン（ページ上の編集可能領域）の配置、ナビゲーション補助（フラグメント形式）、およびサイト全体のイメージ（バナーなど）などを定義します。ページ・テンプレートは、サイトのコンテンツを表示するフレームワークを提供します。

ページ・テンプレートは、標準の HTML レイアウト、書式設定コード、およびフラグメントまたはプレースホルダ（あるいはその両方）の配置場所を指定する Site Studio タグで構成されます。そのため、通常はページ・テンプレートは軽量です。ページ・テンプレートに含まれるのは、ページ上のコントリビューション・リージョンの配置場所に対する上位レベルの参照のみです。コンテンツおよび視覚的プレゼンテーションの観点でリージョンに何を配置するかについての情報は、ページ・テンプレートに指定されません。（そのような情報は、リージョン定義とリージョン・テンプレートによって処理されます。詳細は、2-14 ページの「[リージョン・テンプレートとリージョン定義](#)」を参照。）通常、ページ・テンプレートには、企業のバナーやページ・レイアウト・イメージなどのサイト全体のグラフィック、およびナビゲーション補助や標準のページ・コンテンツ（フッターなど）などの繰り返し表示される編集不可のコンテンツが含まれます。

Web サイトに必要なページ・テンプレートの数はサイトの複雑さによって異なりますが、通常は、非常に限られた数のテンプレートのみが必要です。たとえば、ホームページ用に 1 つのページ・テンプレートを使用し、その他すべてのページ用にもう 1 つのページ・テンプレートを使用すれば十分な場合があります。Web サイトの各ページに表示するコンテンツのバリエーションは、ページ・テンプレートのプレースホルダ内でリージョン・テンプレート（およびリージョン定義）を使用して処理できます。ページ・テンプレートが少ないほど、Web サイトの管理は容易になります。これを行うには、より多くの事前作業が必要です。つまり、Web サイトの設計、コンテンツのレイアウト方法、および Web サイトの各セクションに表示する情報などをより深く検討する必要があります。また、サイト・デザイナーは、コントリビュータにどの情報の変更を許可するか、および何を固定する必要があるかについて慎重に検討する必要があります。

図 2-15 は、Web サイトのホームページでよく使用される汎用ページ・テンプレートを示しています。このテンプレートでは、一番上にバナー・イメージ、左側にナビゲーション・フラグメント、一番下にフッター・フラグメント、中央にいくつかの小さなプレースホルダが表示され、その小さなプレースホルダのそれぞれがティーザー・コンテンツを表します。（プレースホルダはどのページ領域も描出しません。プレースホルダは、コントリビューション・リージョンの場所を指定する単なる挿入ポイントです。このリージョンに何を配置するか、およびこのリージョンを表示する方法は、リージョン・テンプレートとリージョン定義によって処理されます。）サイト訪問者はこのティーザー・コンテンツをクリックして、完全なコンテンツを表示できます。この完全コンテンツは、ホームページ以外のすべてのサイト・ページで使用可能なページ・テンプレートに表示できます。図 2-16 は、そのようなページ・テンプレートの汎用例を示しています。テンプレートはホームページ用のテンプレート（図 2-15）と基本的に同じですが、コンテンツ領域は、完全なページ・コンテンツを表示する単独のプレースホルダになっています。

図 2-15 Web サイトのホームページ用の汎用ページ・テンプレート

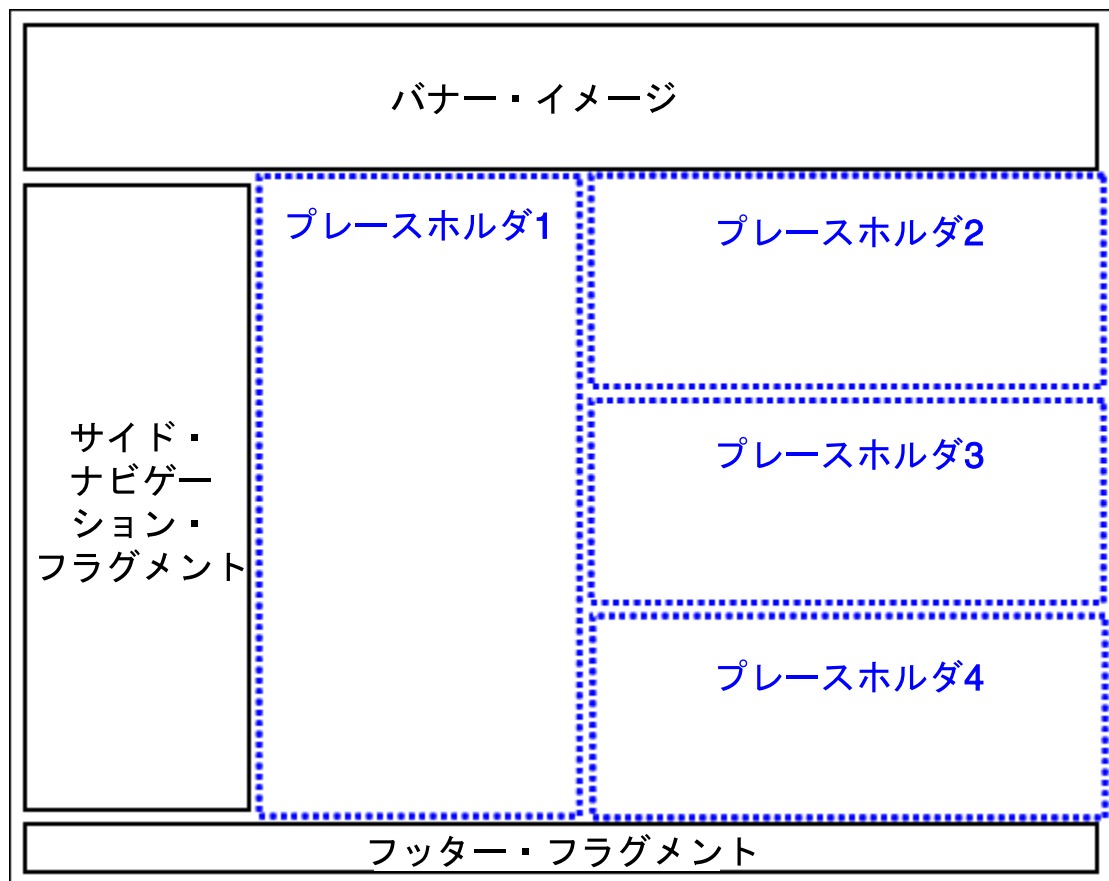
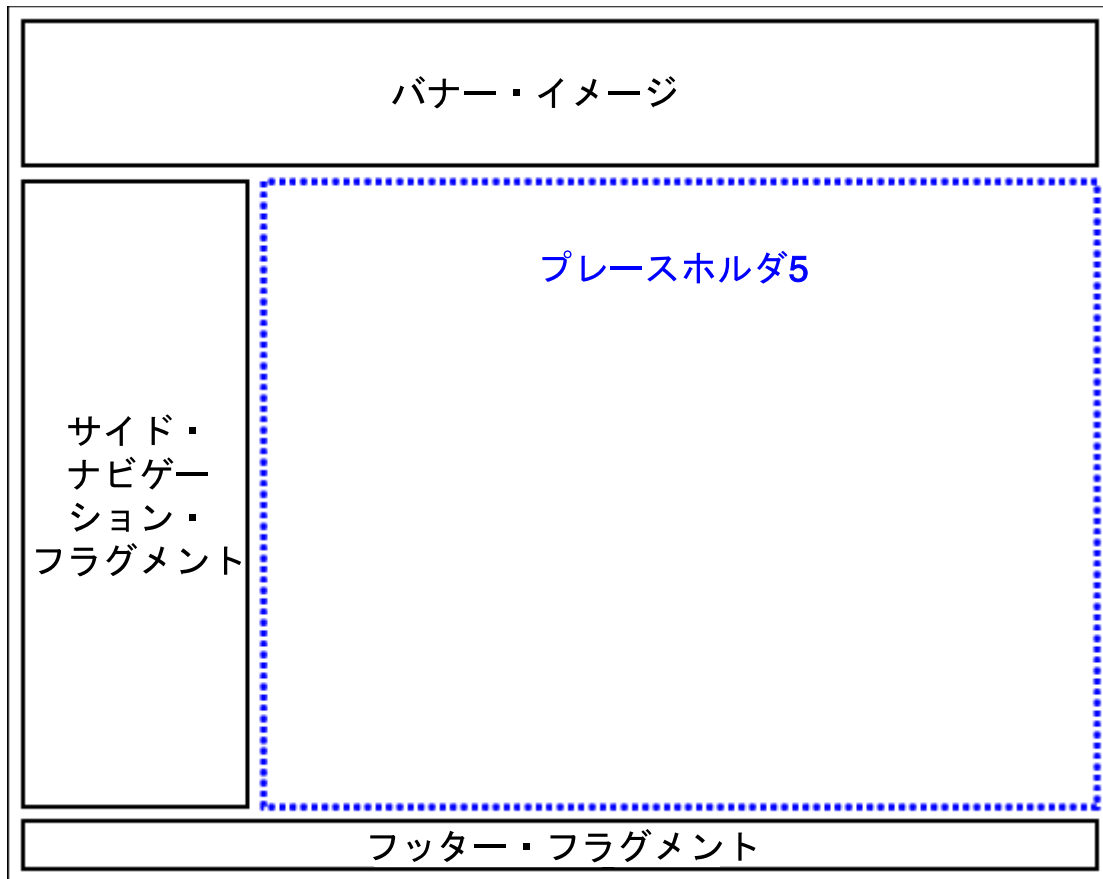


図 2-16 Web サイトのその他のページ用の汎用ページ・テンプレート



## 2.14 コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント

Site Studio Web サイトのコンテンツは、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの2つのファイル・タイプのいずれかに格納されます。これらのコンテンツ・ファイルはコンテンツ・サーバーに格納されます。コントリビュータは、Web サイトのコンテンツを追加または編集するときに、このコンテンツ・ファイルを操作します。サイト・デザイナーは、特定の Web サイトに対してどちらのファイル・タイプ（または両方）を使用するかを決定します。

Web サイトのコンテンツ・ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）は、最初にデザイナーまたはコントリビュータによって選択（または作成）されます。その後、コントリビュータによって変更されます。コントリビュータはコントリビューション・リージョンに関連付けられているコンテンツ・ファイルを切り替えることができます。ただしこれは、デザイナーがこの操作を、そのリージョンに関連付けられているプレースホルダ定義に特に許可している場合のみです。

Web ページのコントリビューション・リージョンにサイト・コンテンツを表示する場合、そのコンテンツはリージョン・テンプレートおよびリージョン定義を使用して表示されます。このリージョン・テンプレートおよびリージョン定義には、コンテンツ・ファイルの指定された各部分をページ内のどの場所にどのように表示するかが定義されます。サイトで特定のコンテンツを再利用するかどうかに応じて、コントリビューション・リージョンに一意のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てたり、同じファイルを何度も割り当てたりできます。最初にコンテンツ・ファイルを作成してコンテンツ・サーバーにチェックインするときに、ファイルの名前とメタデータを選択します。使用するコンテンツ・ファイル名は、サイトでコンテンツ・ファイルを管理する際に役立つ場合があります。

また、選択する名前は、コンテンツをどの程度再利用するかに応じて異なることがあります。最適なサイト・アセット名の設定方法の詳細は、第3章「効率的な Web サイトの計画」を参照してください。

### コントリビュータ・データ・ファイル

コントリビュータ・データ・ファイルは、Site Studio によって作成される XML ファイルです。各コントリビュータ・データ・ファイルは、その構成要素の観点でそのコンテンツ・クラスを定義する1つ（1つのみ）のリージョン定義に関連付けられます（2-14 ページの「リージョン・テンプレートとリージョン定義」を参照）。たとえば、リージョン定義がタイトル、サブタイトル、ボディ・テキストおよびイメージの4つの要素で構成される場合、そのリージョン定義に関連付けられるすべてのコントリビュータ・データ・ファイルに、これと同じ4つの要素が含まれます。コントリビュータ・データ・ファイルの各要素は、リージョン定義でその要素に関連付けられている要素定義に従って編集できます（2-13 ページの「要素と要素定義」を参照）。要素定義には、コントリビュータがコントリビュータ・データ・ファイル内の要素を編集するときを使用できる編集オプションが指定されます。いくつかの要素はプレーン・テキストのみとなるように設定されて書式設定機能が大きく制限される場合もあれば、WYSIWYG (What You See Is What You Get) として設定される場合もあります。通常、WYSIWYG では、より広範な編集操作が可能です。

コントリビュータ・データ・ファイルのコンテンツは Web サイトで容易に再利用できます。つまり、コントリビュータ・データ・ファイルのコンテンツは、使用場所に応じてそのすべてまたは一部（異なる要素）をサイトの様々な場所に表示できます。コントリビュータがコントリビュータ・データ・ファイルを編集する場合、コントリビュータ・エディタにはコントリビュータ・データ・ファイルのすべての要素が表示されます。編集するコントリビューション・リージョンに実際には一部の要素のみが表示される場合でも、すべて表示されます。他の要素が Web サイトの別の場所で使用されている場合もあります。したがって、その情報を編集するとサイトの他のページに影響する可能性があります。

コントリビュータ・データ・ファイルの作業の詳細は、『Site Studio コントリビュータ・ガイド』を参照してください。

### ネイティブ・ドキュメント

ネイティブ・ドキュメントとは、Microsoft Word などの使い慣れたサードパーティ・アプリケーションを使用して作成されたファイルです。ネイティブ・ドキュメントは、Web サイトで閲覧できるように、Dynamic Converter を使用して HTML 形式に変換されます。Dynamic Converter では、変換ルールとテンプレートをを使用してネイティブ・ドキュメントの変換方法を決定します。ネイティブ・ドキュメントを編集するには、ネイティブ・ドキュメントの関連アプリケーションを使用します（たとえば、.doc ファイルの場合は Microsoft Word）。

ネイティブ・ドキュメントのコンテンツは Web サイトで再利用することもできますが、一般的にネイティブ・ドキュメントは再利用性の点でコントリビュータ・データ・ファイルほど柔軟性が高くありません。コントリビュータ・データ・ファイルとは異なり、ネイティブ・ドキュメントは必ずしも小規模の再利用可能な情報チャンクにセグメント化する必要はありません。ネイティブ・ドキュメントの構造は、たいへん非常に高い自由度を持っています。Microsoft Word のスタイルと他の書式設定機能を適切に使用すれば、ネイティブ・ドキュメントの再利用性に関するいくつかのデメリットを解消できます。ネイティブ・ドキュメントを使用する1つの大きなメリットは、ほとんどのコントリビュータが Microsoft Word などにすでに精通していることです。これにより、Microsoft Word は簡単で便利なサイト・コンテンツの編集環境になります。

ネイティブ・ドキュメントの詳細は、第10章「ネイティブ・ドキュメントの操作」を参照してください。



## 2.15 フラグメント

フラグメントとは、Site Studio Web サイトの機能性を高めるコードのチャンクです。基本的に、フラグメントは、HTML、Idoc スクリプト、JavaScript、JSP、ASP および参照ファイル（イメージ、CSS またはインクルードなど）のコンテナです。フラグメントの例として、ブレイドクラム追跡、ナビゲーション・バー、またはフッターの著作権表示などがあります。

フラグメントの仕様は、XML で記述され、フラグメント・ライブラリに格納されます（選択した場合は他のフラグメントも一緒に格納されます）。フラグメント・ライブラリは、その内容を記述した単一の XML ファイルと、各フラグメントで使用されるすべてのアセットを格納した ZIP ファイルで構成されます。フラグメント・ライブラリは、コンテンツ・サーバーに格納されます。コンテンツ・サーバーに Site Studio のコンポーネントをインストールすると、多くの事前定義済サンプルを含むいくつかのデフォルト・フラグメント・ライブラリが自動的にチェックインされます。

事前定義済フラグメントは、ナビゲーション・フラグメント、動的リスト・フラグメント、静的リスト・フラグメントおよびその他のフラグメントの 4 つのカテゴリに分類されます。各カテゴリには、複数のスクリプト言語で記述された様々なフラグメントが含まれます。各フラグメントは、そのまま使用することも、コピーしてニーズにあわせて編集することもできます。また、新規のフラグメントを作成することも可能です。デザイナーで提供されるフラグメントの詳細は、付録 C 「サンプル・フラグメント」を参照してください。

独自のフラグメントを作成する場合、それらのフラグメント用の独自のフラグメント・ライブラリを作成する必要があります。これにはいくつかのメリットがあります。

- フラグメントの場所を簡単に追跡および整理できます。
- 独自のフラグメント・ライブラリに格納されたフラグメントは、簡単に移動、コピーまたはバックアップできます。
- 別のデザイナーにより作成されたフラグメントを不注意で変更することがなくなります（このような変更は、そのフラグメントを現在使用している Web サイトに影響します）。
- 既存のフラグメントからフラグメントを作成した場合、必要に応じて容易に元のフラグメントに戻ることができます。

詳細は、第 9 章「フラグメントの操作」を参照してください。

## 2.16 Cascading Style Sheet

Cascading Style Sheet (CSS) は、ページ・テンプレートの位置とレイアウトを制御する手段としてよく使用されます。CSS ファイルは Site Studio Web サイト内で使用できます。CSS ファイルは、コンテンツ・サーバーに格納され、そこで管理される独立したサイト・アセットです。CSS ファイルは Site Studio デザイナで直接編集できます。編集のために CSS ファイルを選択すると、CSS ファイルは「SOURCE」ビューに開きます。

CSS ファイルを Web サイトで使用するには、ページ・テンプレートで CSS ファイルを直接参照するか、CSS ファイルをフラグメントにラップしてそのフラグメントをページ・テンプレートに含める必要があります。

ページ・レイアウトを制御するための代替手段として、表を使用してオブジェクトを Web ページの特定の場所に配置する方法があります。CSS ではなく表を使用する場合の利点は、表ではオブジェクトをよりわかりやすい方法でより詳細に配置できることです。表ベースのページ・テンプレートは、CSS ベースのページ・テンプレートよりも「DESIGN」ビューに自然な形で表示されます。ただし、特定のレイアウトを作成する場合に表が非常に複雑になることがあります。また、CSS ファイルで可能な別のタイプの制御ができません。たとえば、CSS では、配置、フォント、パラグラフ・スタイル、位置揃え、背景およびセル・アクションなどの制御が可能です。

CSS を使用してレイアウトを制御する場合、コントリビュータが編集しているアイテムに適用可能な CSS スタイルが、ツールバーで使用可能になります（デザイナーが要素定義の中でツールバーのその部分を使用可能にしている場合）。

CSS 機能の詳細は、[www.w3c.org](http://www.w3c.org) を参照してください。

## 2.17 プロジェクト・ファイル

プロジェクト・ファイルは、コンテンツ・サーバー上の Site Studio Web サイトに関するすべての情報を格納する XML ファイルです。実際に、Site Studio デザイナで Web サイトに接続するときに、基本的にコンテンツ・サーバー上のその Web サイトのプロジェクト・ファイルに接続されます。プロジェクト・ファイルの編集には、必ず Site Studio デザイナまたは Site Studio マネージャを使用してください。

プロジェクト・ファイルには、次の多くのサイト関連情報が格納されます。

- サイト階層
- 各サイト・セクションのプロパティ（関連付けられたページ・テンプレート、リージョン・テンプレート、コンテンツ・ファイルおよびカスタム・セクション・プロパティなど）
- データ・ファイルの明示的な関連付け（どのコンテンツ・ファイルがサイトのどの場所で使用されているかについて）
- プレースホルダ名とプレースホルダ定義のマッピング
- アセット・ペイン内のアイテム（アイテムの分類方法を含む）

## 2.18 プライマリ・ページとセカンダリ・ページ

サイト・セクションの**プライマリ・ページ**は、そのサイト・セクションのランディング・ページです。つまり、訪問者がそのセクションに最初に移動したときに表示されるページです。基本的に、プライマリ・ページにはサイト・セクションの索引ファイルが示されます。通常、サイト階層内のセクションにはプライマリ・ページを割り当てます。ただし、必須ではありません。たとえば、ユーザーに直接参照させたくない検索結果ページには、セカンダリ・ページのみを含めることができます。ページ・テンプレートをサイト・セクションのプライマリ・ページとして割り当てます。

プライマリ・ページの情報は静的にリンクされます。コントリビュータは、コントリビュータ・エディタを使用してプライマリ・ページのコントリビュータ・データ・ファイルを変更できます。また、ネイティブ・ドキュメントは、関連付けられたサード・パーティ・アプリケーションを使用して変更できます。

サイト・セクションの**セカンダリ・ページ**はオプションです。通常、このページを使用して Web サイトにコンテンツを動的に表示します。セカンダリ・ページには静的なコンテンツを含めることができますが、セカンダリ・ページの便利な機能として、動的に配置される置換え可能なコンテンツを含めることができます。そのため、サイト・セクション内に複数のバージョンのページを作成するにはセカンダリ・ページを使用します。セカンダリ・ページはサイト・セクションに対して異なるコンテンツ・ビューを提供します。セカンダリ・ページを使用すれば、物理的に数千ものページを作成しなくても大規模サイトを処理できます。

基本的に、セカンダリ・ページは、コントリビュータによりサイトに追加されるコンテンツの背景として機能します。新規コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの Web サイトへの追加をコントリビュータに許可する場合、セカンダリ・ページは必須です（どちらのファイルも新規 Web ページになります）。これらのファイルは、動的リスト、検索、またはリンクのターゲットによって選択されたときに、サイトで使用可能になります。ページ・テンプレートはセカンダリ・ページとして構成できます。

プライマリ・ページのみで構成されたサイトを作成することもできますが、サイトを拡張するときには、新規プライマリ・ページを含んだセクションを作成する必要があります。セカンダリ・ページを使用すれば、サイトはコントリビュータが発行する追加のコンテンツに基づいて自然に成長するため、デザイナーは何もする必要がありません。サイトは、セカンダリ・ページの使用によりスケーラビリティが大幅に向上します。

セカンダリ・ページの一般的な使用方法の1つは、ハイパーリンクを設定したアイテム (図 2-17 のようなプレス・リリースのタイトルなど) の動的リストを含めることです。各アイテムをクリックすると、セカンダリ・ページに各アイテムの完全な情報が表示されます。具体的には、リンクのターゲットが、同じセクションのセカンダリ・ページの置換え可能なリージョン (デフォルト) に開きます。

図 2-17 プレス・リリースを含む動的リスト

プレス・リリース	
Portland now Admits Math Error in Global Warming R...	Jun 25
City of Oz Selects Ravenna	Feb 19
Ravenna Gizmo Release 2 Sets New World Record TPC...	Feb 19
AFGHAN GOVERNMENT AND UNITED NATIONS ANNOUNCE...	Feb 18
Ravenna Announces General Availability of Ravenna ...	Feb 14
Ravenna Delivers Ravenna Utilities Outage Managemen...	Feb 14
Ravenna Partners Launch First Ravenna Accelerate S...	Feb 14
Support for Linux Now Available...	Feb 14
Standard Disclaimers	Dec 17
Support for Linux Now Available...	Oct 24



---

---

## 効率的な Web サイトの計画

Site Studio デザイナ 10gR4 は、サイト・アセットを使用して、Web サイトをできるだけ効率的に管理できるようにします。Site Studio で Web サイトを適切に作成するには、いくつかの設計ポイントに留意しながら、Web サイトとそのサイト・アセットを計画する必要があります。

計画作業は、Site Studio で適切な Web サイトを構築するための鍵となります。ページ・テンプレートにテキスト、グラフィックおよびスクリプトを挿入する前に、次のことを検討する必要があります。サイトの機能や役割は何でしょうか。サイトは、部門レベルのサイト、企業全体のサイト、内部サイト、外部サイトのいずれでしょうか。どのくらいの数のユーザーがサイトを訪問するでしょうか。どのくらいの数のユーザーがサイトの構築に協力するでしょうか。コンピュータごとに異なるセキュリティ・アクセス・レベルを使用するでしょうか。サイトをレプリケートまたはパブリッシュする予定はあるでしょうか。サイトは長期にわたって成長が見込まれるでしょうか。

これらはすべて作業の開始前に検討する必要がある重要な問題です。ユーザー固有のニーズを予測することはできませんが、サイトを開発する前に検討する必要があるいくつかの主なポイントについて提案することは可能です。

- 3-2 ページの「[Web サイトの計画](#)」
- 3-3 ページの「[サイト・アセットの命名](#)」
- 3-5 ページの「[コントリビューション・モデルの計画](#)」
- 3-7 ページの「[サイト・アセットの作成順序](#)」
- 3-8 ページの「[要素定義の作成](#)」
- 3-8 ページの「[リージョン定義の作成](#)」
- 3-9 ページの「[リージョン・テンプレートの作成](#)」
- 3-9 ページの「[サブテンプレートの作成](#)」
- 3-10 ページの「[ブレースホルダ定義の作成](#)」
- 3-11 ページの「[ページ・テンプレートの作成](#)」
- 3-13 ページの「[サイト階層の計画](#)」

この項の情報は、Site Studio 10gR4 に導入された機能に関するものであり、以前のバージョンの Site Studio には適用されません。

## 3.1 Web サイトの計画

純粋な HTML のみを使用して静的な Web サイトを作成する場合、一般的に、サイトがどのように流れるかを計画する必要はほとんどありません。Site Studio がデザイナーにもたらす主なメリットの 1 つに、サイト・アセットの再利用性があります。これは、Web サイトの作成において最も複雑かつ重要な面がサイトの計画であることを意味します。Web サイトのあらゆる面（特定の情報を表示する場所など）について、その情報が未定の場合でも検討する必要があります。

Web サイトを適切に計画すると、ページ・テンプレート、サブテンプレートおよびリージョン・テンプレートを適切に使用および再利用して、Web サイトの再利用性を最大限に高める方法を決めやすくなります。

Web サイトを計画する場合、次の質問に回答する必要があります。

- 計画はなぜ重要なのか
- サイトのどの部分を再利用するか

### 3.1.1 計画はなぜ重要なのか

計画プロセスに多くの時間を費やすほど、Web サイトおよびサイト・アセットの作成と管理が簡単になることを理解する必要があります。Site Studio を使用して管理対象の Web サイトを計画するにはより多くの時間が必要になると捉えられますが、結果としては、アセットの管理に要する時間が大幅に短縮されます。

適切な計画は、サイトをより簡単に実行できるようにするために不可欠です。初期の段階では、従来の Web サイトの作成方法よりも、ページを完成するまでに要する時間が長く感じられる場合があります。ただし、十分な時間を費やして Web サイトを計画しておく、サイト・アセットを使用した Web サイトの構築や、Web サイトの管理、特に後で Web サイトの実行中に行う変更が、はるかに簡単になります。

### 3.1.2 サイトのどの部分を再利用するか

Web サイトについて検討する場合、コンテンツおよび構造をすべて確認し、再利用可能なものと、1 回のみ使用するものについて検討する必要があります。その際は、ページのレイアウトのみ、表示するデータのみ、または特定の方法で表示する特定のデータ部分について検討する場合があります。

サイトの様々な部分を配列および再利用する方法は多岐にわたるため、独自の Web サイトについて検討するときは、ここに示す編成および再利用の例を参照すると便利です。

一般的な Web サイトでは、左側にナビゲーション、一番上にバナー・グラフィック、中央にページ自体の情報を示す大きな領域が表示されます。バナーとナビゲーションはすべてのページに配置する必要があります。そのため、これらの要素はページ・テンプレート自体に配置します。ただし、中央の情報は明らかにページごとに異なります。この部分について検討することが最も重要です。

最も重要な検討事項は、情報の編成方法です。ページを表示すると、オブジェクトが 1 列に配列されるか、アレイ状に配列されるか、イメージで分割される場合があります。すべてのオブジェクトを 1 つのプレースホルダに配列することは可能ですが、反対に、より小さなセクションを複数作成し、各セクションに独自のより小さなコントリビュータ・データ・ファイルを割り当てることができます。

空いた職席をリストする Web サイトのページについて検討します。1 つのプレースホルダとなるようにページを作成し、内部の職席と外部の職席をすべてリストできます。または、そのプレースホルダ内にサブテンプレートを作成し（結果として別のプレースホルダやリージョン・テンプレートなどが含まれる）、外部の職席が内部の職席とは別に格納されるようにすることもできます。各職席を別個のコントリビュータ・データ・ファイルに保持し、外部の Web サイトには外部の通知のみが表示され、内部の Web サイトには外部の通知を含むコントリビュータ・データ・ファイルと内部の通知を含むファイルの両方が表示できます。

別の使用例として、会社内の各部署で独自の空いている職席をリストし、1つの中央ページに個々の空いている職席をすべて収集して表示する場合があります。このような場合、サブテンプレートを使用すると、異なる数のプレースホルダを簡単に管理できます。

また、ページ上にデータをレイアウトする方法や、Web サイト内でデータの配置を編成する方法について、ページごとにこのような検討を行う必要があります。

次の質問を検討する必要があります。ページ・テンプレートで1つのプレースホルダを使用し、サブテンプレートを使用してそのプレースホルダを分割することが最適でしょうか。または、追加のページ・テンプレートを使用して、プレースホルダの配列を変更できるようにする方がより適切でしょうか。

別の例として、個別のページを用意する必要はないが、後で必ず再利用する少量の情報を表示する場合があります。この例には、通常の企業の連絡先情報とは異なる、株主の連絡先情報や求人情報などがあります。このような情報は、独自のページを確保するほどのものではありません。

前述のいずれの場合も、ページ・テンプレートは同じになります。このテンプレートには、バナー、ナビゲーション、フッターが含まれ、中央には、必要な情報を置換および入力し、意図したとおりに構成できる領域を表すプレースホルダが含まれます。ここでは、すべてのページに必要な1つの外観が維持できるテンプレート内で、サブテンプレートを使用してさらに1つ以上のプレースホルダを使用する方法について検討しました。

また、このレイアウトは、ページごとに異なるページ・テンプレートを使用して実現することも可能です。やはり、このレイアウトを実現する方法は、サイトの計画方法によって異なります。

前述のとおり、サイト作成で最も重要な点は、Web サイトの各部分を構造およびコンテンツの両方の観点でどのように表示するかを特定することです。Site Studio を使用する場合、作成前の計画に多くの時間を費やすほど、Web サイトで配信する何百、何千というページを作成するのに要する時間が短縮されます。

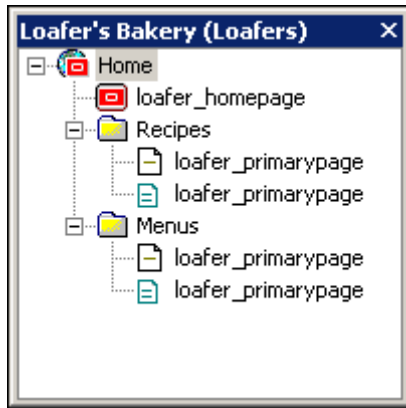
## 3.2 サイト・アセットの命名

Site Studio デザイナでは、サイト・アセットは再利用するように設計されています。アセット自体は、Web サイトの様々な領域だけでなく、設計する様々な Web サイトでも使用できるため、各アセットの命名は重要です。適切な命名方法を使用すると、Web サイトの1つ以上の領域と、1つ以上の Web サイトで、アセットをより簡単に管理およびデプロイできます。

アセットの命名方法としては、Web サイトでアセットが使用される場所に基づく名前を使用するのではなく、アセットの機能とその動作を表す名前を使用するのが最適です。

多くのデザイナーは最初に、Web サイトの名前を各アセットの名前に入れることを考えます。この場合、コンテンツ・サーバーのコンテンツをリストするときに、アセットがグループ化されます。ただし、すべてのアセットが再利用可能なため、複数の Web サイトを実行する場合は問題があります。Web サイト内の特定のセクション用に完全に新しいアセットおよび定義のセットを作成するのではなく、すでに作成された他のアセットを簡単にインポートできます。ただし、この方法を行う場合、アセットの名前に他の Web サイトの名前が含まれていると、特定のアセットの存在理由に関して一貫性、理解および混乱の問題を招く場合があります。また、アセットの名前には、Web サイト内のアセットの場所を含めないようにする必要があります。

図 3-1 不適切に命名されたテンプレートを示す階層



図には、場所に基づいてアセットに命名する場合の問題が示されています。元々プライマリ・ページ・テンプレート用に意図していたページ・テンプレートに `primary_template` と命名すると、このテンプレートがセカンダリ・ページでも使用される場合に、いくつかの問題が生じます。適切に計画するとの問題は排除され、テンプレートに `page_template_with_2_placeholders` のような名前が割り当てられます。

プロジェクトにおけるサイト・アセットの命名方法として、次の2つの異なる方法について検討します。

管理に向けて十分に計画しなかった場合の ネーミング規則	管理に向けて十分に計画した場合のネーミング規則
<code>placeholder_def_1</code>	<code>element_def_WYSIWYG_fulledit</code>
<code>p_def_2</code>	<code>element_def_imageonly_minedit</code>
<code>default_definition</code>	<code>placeholderdef_subtemplate_newslist</code>
<code>front_page_template</code>	<code>regiondef_customform</code>
<code>subtemplate_up</code>	<code>regiontemplate_title_and_body</code>
<code>element_title</code>	<code>pagetemplate_home</code>
<code>region_replace</code>	<code>pagetemplate_errorhandler</code>

アセットにその機能を表す名前を付けておくと、後で更新するときに作業がはるかに簡単になり、意図したとおりに配置できるようになります。また、すべての管理対象 Web サイトで、すでに作成されたアセットがあるかどうか検索する必要もなくなります。



## 3.3 コントリビューション・モデルの計画

サイト階層を計画して Web サイトのアセットを準備したら、コントリビューション・モデルについて検討する必要があります。つまり、ユーザー（コントリビュータおよびマネージャ）によるサイトへのコンテンツの配置方法について検討します。

コントリビューション・モデルを計画する場合、次の質問に回答する必要があります。

- サイトのコンテンツをどの程度までユーザーに提供させるか
- ユーザーにどの程度まで制御させるか
- 各ユーザーに異なるセキュリティ・アクセス権を付与するか
- コントリビュータにネイティブ・ドキュメントを発行させるか
- コントリビューション・プロセスをどのように調整するか

### 3.3.1 サイトのコンテンツをどの程度までユーザーに提供させるか

デザイナーは、背景色、位置決め仕組み（HTML 表または CSS）、サイト・ナビゲーション、カスタム・スクリプトなどをサイトに追加する必要があります。ただし、各 Web ページのコンテンツの大部分（つまり、ページ上の実際の情報）は、コントリビュータが作成および編集できます。

Site Studio の機能を真に活用するには、できるかぎり Web サイトの多くの部分をこれらのユーザーに開放する必要があります。これにより、Web サイトに一般的に付随するボトルネックや遅延なしに、Web サイトを継続的に更新できます。

### 3.3.2 ユーザーにどの程度まで制御させるか

すべてのページ・テンプレートには、1つの大きなコントリビューション・リージョンを割り当てるか、複数の小さなコントリビューション・リージョンを割り当てることができます。リージョン・テンプレート内には、1つ以上の要素を割り当てるのが可能で、各要素はコントリビュータ・アプリケーションでフィールドとして表示されます。このフィールドで、ユーザー（各コントリビュータ）はコンテンツを追加および編集できます。

テキストやグラフィックの追加と編集、リストの更新といった特殊な用途に使用できる様々なタイプの要素があります。特定の書式属性の有効と無効は、切り替えることができます（書体、フォント・サイズ、イメージ、表、カスタム・プロパティの選択など）。これらの選択は、任意の Web ページをどの程度コントリビュータに制御させるかに応じて変化します。また、検証機能または独自の検証スクリプトを使用して、追加されるコンテンツを管理できます。

これ以外に、サイト階層の変更をユーザーに許可するために、1つ以上のページでマネージャ・アプリケーションを有効化できます。

この制御の程度は、組織のガイドラインに基づいて、サイトの一貫性を損わないように調整する必要があります。

### 3.3.3 各ユーザーに異なるセキュリティ・アクセス権を付与するか

デザイナーは、各ユーザーにサイトへのアクセス権を付与する前に、個々のユーザー、ユーザーの組織内での役割、および Web パブリッシングに関するユーザーの知識を把握する必要があります。すべてのユーザーに Web サイトのすべてのコントリビューション・リージョンに対する同じアクセス権を付与することも、制限されたアクセス権と完全なアクセス権をユーザーごとに個別に付与することもできます。

たとえば、マーケティング部門のメンバーには Web ページ全体への完全なアクセス権を付与し、他のすべての部門にはそのページの一部のみに対するアクセス権を付与することができます。これを行うには、コンテンツ・サーバーに異なるユーザーを設定し、各リージョンに異なるコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当て、(コンテンツ・サーバーのメタデータ・フレームワークを使用して) それらのファイルに一意的セキュリティ・メタデータを割り当てます。

結果として、コントリビューション・モードのときに Web ページでファイル上にコントリビューション・グラフィック (図 3-2) が表示されるのは、特定のコントリビュータが編集権限を保持するファイルのみとなります。

図 3-2 コントリビューション・グラフィック



また、Web サイトのセクションには、表示を特定のユーザーのみに許可するようにマークすることもできます。この処理は、Web サイト階層内のセクション設定で行われます。セクションにアクセス制限を設定すると、そのセクションは、アクセス権を付与されたユーザーのみに表示 (設定によっては編集も) できるようになります。

### 3.3.4 コントリビュータにネイティブ・ドキュメントを発行させるか

各コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションを使用して、Site Studio データ・ファイルに格納されているコンテンツを追加および編集する以外に、サイトにネイティブ・ドキュメント (Microsoft Word、Excel、PowerPoint などのアプリケーションで作成されたドキュメント) を追加することもできます。これらのドキュメントは、Dynamic Converter の使用により、Web で参照可能なレンディションに変換されます。

各コントリビュータは、(リージョンに割り当てる、Link Wizard を使用する、動的リストに追加するなどの方法を通じて) 新規および既存のネイティブ・ドキュメントを直接 Web サイトに追加できます。また、コンテンツ・サーバーにおける既存の方法を使用してドキュメントをチェックインすることも可能です (Content Server のコンテンツ・チェックイン、Desktop Integration Suite クライアント、Content Server のフォルダ機能など)。

各コントリビュータは、(コントリビューション・グラフィックのメニュー・アイコンにある「Check Out and Open」オプションとコントリビュータ・アプリケーションのドキュメント編集機能を使用することで) Web サイトから直接ネイティブ・ドキュメントを編集することもできます。

ネイティブ・ドキュメントは、コントリビュータ・データ・ファイルの場合と同様、再利用可能なチャンクではなく Web ページに表示されます。

Web サイトに対するネイティブ・ドキュメントの発行をコントリビュータに許可する場合 (これもコントリビューション・リージョン、要素およびリスト・フラグメントで制御します)、デザイナーは、ネイティブ・ドキュメントの使用法と、適用されるスタイル・ガイドラインについてコントリビュータに情報を提供する必要があります。

### 3.3.5 コントリビューション・プロセスをどのように調整するか

1人のユーザーが Web サイトのデザイナー、マネージャおよびコントリビュータを兼ねている場合、そのユーザーはサイトを更新する必要がある時期と場所を把握しています。デザイナーが1人のコントリビュータまたはマネージャと共同で作業をする場合、サイトで必要な更新について通知する必要があります。特に、サイトに対する一定の変更に関してコントリビュータやマネージャに通知する必要があります。ただし、コントリビュータも、コンテンツが追加されたときにデザイナーに連絡する場合があります。

デザイナーが複数のユーザーと共同で作業をする場合、コミュニケーションはすぐに複雑になる可能性があります。デザイナーは、ユーザー間になんらかのコミュニケーション・プロセスを導入する必要があります。解決策の1つは、ワークフローを使用した正式なレビュー・プロセスを導入することです。つまり、サイト変更は、様々なユーザーが確認および承認した後で有効になります。

コントリビュータに Site Studio の動作方法の概要を伝える場合、状況に応じて各コントリビュータに『Oracle Universal Content Management Site Studio コントリビュータ・ガイド』を配布できます。

## 3.4 サイト・アセットの作成順序

Web サイトを計画したら、デザイナーで Web サイトを構築するために使用するアセットを作成する必要があります。最も効率的に使用するためには、このアセットを特定の順序で作成することをお勧めします。

ほとんどの Web サイトで最も効率的なアセットの作成方法は、アセットをボトムアップ式に作成することです。

1. 要素定義 (3-8 ページの「[要素定義の作成](#)」を参照)
2. リージョン定義 (3-8 ページの「[リージョン定義の作成](#)」を参照)
3. リージョン・テンプレート (3-9 ページの「[リージョン・テンプレートの作成](#)」を参照)
4. サブテンプレート (3-9 ページの「[サブテンプレートの作成](#)」を参照)
5. プレースホルダ定義 (3-10 ページの「[プレースホルダ定義の作成](#)」を参照)
6. ページ・テンプレート (3-11 ページの「[ページ・テンプレートの作成](#)」を参照)
7. サイト階層 (3-13 ページの「[サイト階層の計画](#)」を参照)

もちろん、完全にこの順序でアセットを作成する必要はありません。ただし、この順序に従うと、一般的に Web サイトをより迅速かつ効率的に作成できます。

## 3.5 要素定義の作成

最初に定義する最も効率的なアセットは、要素です。要素は、コントリビュータが使用する編集インタフェースを定義するアセットです。各要素の特定の使用は、要素定義を通じて処理されます。要素定義を作成し、コントリビュータがアクセスできる編集リージョンおよびツールバーを定義することにより、コントリビュータによるデータ・ファイルの処理方法を定義します。

要素定義では、ツールバーでコントリビュータが使用できる編集機能を正確に制御できます。たとえば、コントリビュータにフォント・サイズまたは色の変更を許可せず、太字およびイタリックの使用を許可できます。通常は、各種の要素（WYSIWYG、テキスト専用、イメージ専用、静的リスト、動的リストおよびカスタム）のうち少なくとも1つを定義します。また、コントリビュータで異なるツールバーを使用可能にするには、各種の要素のうち2つ以上を定義します。

要素定義は、コントリビュータがページを編集するときにアクセスできるツールバーを制御するために使用されます。ただし、要素ごとに複数の異なる定義を作成して、コントリビュータに複数（3つ以上）のツールバー・オプションを提供できます。コントリビュータの役割と、コントリビュータが様々なページにどの程度寄与するのかを検討することが重要です。

要素定義の命名は慎重に行うことを強くお勧めします。これは、ページ上の場所やサイトの名前に基づいて命名すると、要素をあまり直観的に再利用できなくなるためです。Web サイト内のページ上の場所や、要素定義に含まれる Web サイト内の名前に基づいて要素に命名することはお勧めできません。要素定義の命名方法としては、`element_WYSIWYG_fulledit` や `element_text_undo_only` のように、ツールバーにおける相対的なアクセス内容をリストするのが最適です。

要素定義には、`element` という語句で始まる名前が付けられています。このため、コンテンツ・サーバーで要素を検索すると、すべての要素がまとめて表示されます。Web サイトの名前を含めるようなネーミング規則を使用した場合も、Web サーバーでアセットはグループ化されますが、その場合、同じ定義を複数の Web サイトで使用するときには、定義をあまり直観的に管理できなくなります。

## 3.6 リージョン定義の作成

リージョン・テンプレートを作成する前にリージョン定義を作成する必要があります。定義（リージョン定義、プレースホルダ定義、要素定義）は、表示されるデータと、コントリビュータがデータを対話処理する方法を制御します。テンプレート（リージョン・テンプレート、サブテンプレート）は、データの表示方法を制御します。リージョン定義は特に、コントリビュータで開かれる要素（WYSIWYG、イメージ専用など）を制御します。リージョン・テンプレートは、要素の配置およびその特定のデータを Web ページに表示する方法を調整するために使用されます。

リージョン・テンプレートを作成すると、そのテンプレートをリージョン定義に関連付けるよう求められます。定義が作成されていないと、後でリージョン・テンプレートを定義に関連付ける操作が困難になります。

一般的なリージョン定義には複数の要素が含まれます。また、これらの要素の様々な組合せは、複数の異なるリージョン・テンプレートで使用されます。つまり、リージョン定義はできるかぎり広範で包括的なものになります。これにより、複数のリージョン・テンプレートから同じ要素グループ（ただし同じデータ・ファイルである必要はない）にアクセスできるようになり、要素を様々な方法で配列することが可能になります。ただし、リージョン定義に多くの要素定義を追加する場合は、リージョン定義にリストされているすべての要素定義がコントリビュータで開かれることに注意する必要があります（ページで一部のみを表示可能にしている場合も同様です）。

リージョン定義によりコントリビューション・モデルでの要素の使用が制限されるため、リージョン定義用の適切なネーミング規則に従うことが特に重要です。このようにすると、作成した別のリージョン・テンプレートに最適な定義を選択するときに便利です。

## 3.7 リージョン・テンプレートの作成

リージョン・テンプレートは、データ・ファイルを HTML に書式設定するアセットです。リージョン・テンプレートを使用して、要素に含まれないコンテンツ（テキスト、イメージまたは他の単純なアイテムなど）と要素を配置します。リージョン・テンプレートは、再利用する必要があるレイアウトに要素（リージョン定義によって制限される）を配列して、Web サイト内の様々な場所に適切に表示するために使用されます。

リージョン・テンプレートで使用できる要素は、テンプレートのリージョン定義に要素定義がリストされているもののみです。ただし、リージョン・テンプレートでは、定義にリストされているすべての要素を使用する必要はありません。このため、使用可能な各種のテンプレートに大幅な多様性がもたらされます。

リージョン・テンプレートは、Web サイト用に作成する最大数のアセットとなる可能性があります。このため、リージョン・テンプレートを作成するときに使用するネーミング規則は重要です。名前は、使用されるページ上の場所や Web サイト内の場所ではなく、テンプレートの機能を定義するものにする必要があります。regtem\_titlebodyview や rt\_bodynoimage などの名前にしておくと、regiontemplate14 や RT\_SupportForum などの名前の場合よりも、サイトを管理するときに役立ちます。

リージョン・テンプレートには、要素を通じて渡されるデータ・ファイルに含まれない HTML、イメージおよび他のアセット（たとえば、リージョン・テンプレート固有の CSS）を含めることができるため、テンプレートを使用して、コントリビュータが編集できない情報やテキストを組み込むことができます。ただし、その情報はコントリビュータが編集するコントリビュータ・データ・ファイルには含まれないことを理解する必要があります。つまり、リージョン・テンプレートを再利用すると、そのリージョン・テンプレートに関連付けられているデータは、種類に関係なく同じ方法で表示されます。さらに、その特定のデータを変更できるのはデザイナーに制限されます。コントリビュータは、プレースホルダを通じてリージョン・テンプレート内の要素に割り当てられるデータをすべて作成および編集できます。ただし、要素の外部に配置されたデータのうち、リージョン・テンプレート内に存在するものは静的になります。

## 3.8 サブテンプレートの作成

サブテンプレートは、プレースホルダを含めることができる HTML の主要部分です。このため、サブテンプレートは、Web サイトで表示できるページの様々な方法を維持したまま、ページ・テンプレートの数を減らす方法として非常に役立ちます。

サブテンプレートを表示できるのはプレースホルダ内のみです。サブテンプレートに含めることができるのは、プレースホルダまたは HTML やイメージなどの静的コンテンツのみです。また、サブテンプレートは CSS ファイルを参照できます。

サブテンプレートを計画する場合、次の質問に回答する必要があります。

- 3-9 ページの「サイトにサブテンプレートが必要か」

### 3.8.1 サイトにサブテンプレートが必要か

サブテンプレートを使用するメリットの 1 つに、Web サイトで使用されるページ・テンプレートの数を減らすことができるという点があります。サブテンプレートを使用すると、プライマリ・ページとセカンダリ・ページの両方に同じページ・テンプレートを使用できます。

このため、計画はきわめて重要になります。サブテンプレートを使用するとページ・テンプレートの数を減らすことができますが、サブテンプレートを使用して Web サイトを管理することにもなります。ページ・テンプレートの数が少なくなるほど、サイト全体の変更が簡単になります。また、サブテンプレートを使用して、一定レベルの静的情報を追加することもできます。これは、1 つのページに HTML、イメージおよび他の類似した静的サイト・アセットを追加して特定の数のページ（セカンダリ・ページなど）に配置できるためです。こうすることで、サブテンプレートから個別に管理する必要がなくなります。

サブテンプレートを使用すると、1 つのプレースホルダ内に複数のプレースホルダを配置することもできます。プレースホルダにはサブテンプレートを含めることができ、サブテンプレートにはプレースホルダを含めることができるため、未定になっている将来の Web サイト拡張のためにサブテンプレートを保存しておくことができます。

## 3.9 プレースホルダ定義の作成

プレースホルダ定義では、各プレースホルダが、そのプレースホルダに関連付けられたコンテンツおよび他のアセットに連結して表示されます。

プレースホルダ定義を計画する場合、次の質問に回答する必要があります。

- 3-10 ページの「プレースホルダがページでどのように機能するか」
- 3-11 ページの「プレースホルダ定義は何を制御するか」

### 3.9.1 プレースホルダがページでどのように機能するか

プレースホルダ（プレースホルダ定義と混同しないこと）は、デザイナー・アプリケーションでページに表示される単なるマークです。プレースホルダは、デザイナーにおける概念的な境界にすぎません。

図 3-3 デザイナーに表示されたプレースホルダ

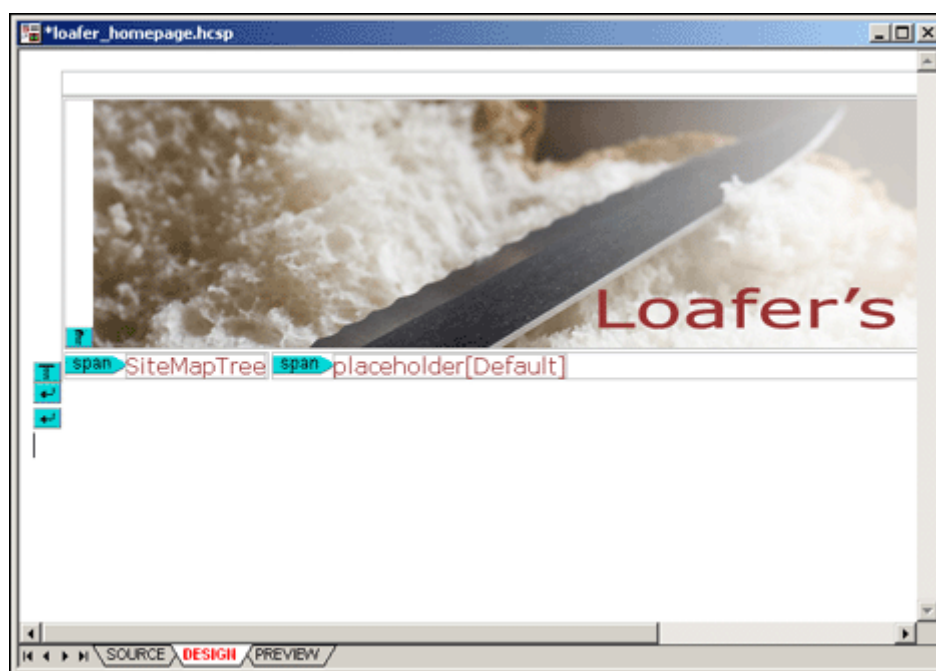


図 3-3 に示されているように、プレースホルダは、`placeholder` という語句を使用した単なるマーカであり、プレースホルダの名前をリストします。プレースホルダが Web ページで使用する実際のスペースは、そこに配置されるコンテンツのサイズで決まります。

プレースホルダに関連付けられたデータは、プレースホルダが配置されているページに依存します。この状態になるのは、サイト構造が完成し、Web サイトのセクションにコンテンツを配置し始めた後です。

プレースホルダの機能とプレースホルダに含まれるデータは、プレースホルダ定義によって決まります。つまり、広範な領域でコンテンツを使用および再利用するためには、プレースホルダを使用可能なセクションとして表示する必要があります。たとえば、ページ・テンプレートには、ナビゲーションとヘッダー・イメージ、およびその両者の間のプレースホルダのみを含めるのが一般的です。

図 3-3 には、バナー、フラグメントであるサイド・ナビゲーション部分およびプレースホルダのみが存在します。これらはすべて表を使用して配列されます。この基本設計は、プレースホルダの使用方法に応じて、Web サイトの全体構造として確実に使用できます。



このプレースホルダは、任意の数のページにおいて、そのページに固有のコンテンツで簡単に置き換えられます。設計の計画において、最小数のページ・テンプレートに基づき、複数のプレースホルダとサブテンプレートを様々な方法で使用してサイトを作成することにした場合、コンテンツをより小さなプレースホルダに分割できます。

### 3.9.2 プレースホルダ定義は何を制御するか

プレースホルダは、コンテンツが表示されるページ上の領域を定義するためのタグにすぎません。プレースホルダ定義は、情報を渡すのに使用できるリージョン定義（およびそれに関連付けられたリージョン・テンプレート）とサブテンプレートをリストします。

また、プレースホルダ定義を通じて、プレースホルダごとに他の詳細を制御することもできます。このアイテムには、ワークフロー、プレースホルダを通じて表示されたデータをコントリビュータが編集できるかどうか、メタデータをコントリビュータが編集できるかどうか、Web サイト使用状況レポートを表示する機能およびコンテンツ追跡レポートを表示する機能などがあります。

## 3.10 ページ・テンプレートの作成

多くの Web サイトは、ホームページと他のすべてのページという 2 つの単純なページ・テンプレートに分類できます。Web サイトでは、ホームページをレイアウトや設計の点で、Web サイト内の他のページと異なるものにする場合があります。

サイトには複数のテンプレートが存在する場合があります。また、Web サイト全体を 1 つのページ・テンプレートと連携させることも可能です。複数のページ・テンプレートを使用して Web サイトを設計する場合、サブテンプレートを使用してページ・テンプレートの数を減らすことを検討する必要があります。Web サイトのページ・テンプレートの数が少なくなるほど、サイト全体の変更が簡単になります。

ページ・テンプレートを計画する場合、次の質問に回答する必要があります。

- 3-11 ページの「[フラグメントをどのように使用するか](#)」
- 3-12 ページの「[プライマリおよびセカンダリ・ページに異なるテンプレートが必要か](#)」

### 3.10.1 フラグメントをどのように使用するか

フラグメントは、動的コンテンツまたはカスタム・スクリプトで作成されたコンテンツを管理する場合に特に役立ちます。また、フラグメントは、サイト・アセットおよびコントリビュータ・データ・ファイルとは別に管理するコンテンツにも使用できます。フラグメントには、コピーライト文のように簡単なものから、JavaScript メニューのように複雑なものまであります。フラグメントの数とその複雑さは、サイトの状況に応じて変化します。

フラグメントの詳細は、[第 9 章「フラグメントの操作」](#)を参照してください。

### 3.10.2 プライマリおよびセカンダリ・ページに異なるテンプレートが必要か

プライマリ・ページとセカンダリ・ページには、同じページ・テンプレートを使用できます。ただし、セカンダリ・ページは、動的に配置されるコンテンツを含めることができるページにすぎないため、動的に配置されるコンテンツのメリットについて、ページ・テンプレート（およびプレースホルダとプレースホルダ定義）の表示方法に対する影響を検討する必要があります。

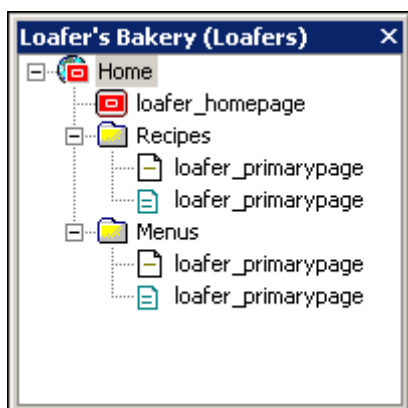
セカンダリ・ページは、コントリビュータによりサイトに追加されるコンテンツの背景として機能します。コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの Web サイトへの追加をコントリビュータに許可する場合、セカンダリ・ページは必須です（どちらのファイルも新規 Web ページになります）。これらのファイルは、動的リスト、検索、またはリンクのターゲットによって選択されたときに、サイトで使用可能になります。

最初にプライマリ・ページのみでサイトを構築し、プライマリ・ページにコントリビューション・リージョンを設定して、コントリビュータがサイトに発行するコンテンツのタイプが正確にわかるまで、セカンダリ・ページは使用せずにとっておく場合があります。その後、そのコンテンツを処理するためにセカンダリ・ページを追加できます。

Web サイト内のプライマリ・ページとセカンダリ・ページに同じページ・テンプレートを使用するかどうかに関係なく、ページ・テンプレートに適切な名前を付けることが重要です。これは、Site Studio 内の他のすべてのサイト・アセットでも同様です。

図 3-4 に示されている例について検討します。

図 3-4 不適切に命名されたテンプレートを示す階層



プライマリ・ページとセカンダリ・ページの両方に同じページ・テンプレートが使用されています。ページ・テンプレートの名前は、初期の配置をベースとしたテンプレートの場所に基づいています。また、サイトを拡張したときに、ページ・テンプレートを再利用したため、配列に混乱が生じています。

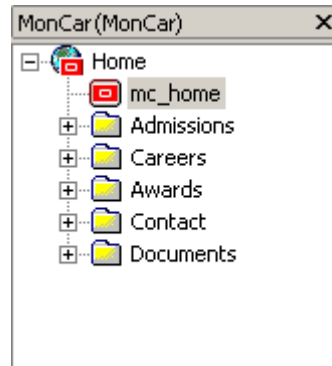
サイト・アセット（ページ・テンプレートを含む）の命名は、ページ・テンプレートの使用方法に基づいて行うのが最も効率的です。アセットが Web サイトで使用される場所に基づくネーミング規則（たとえば、`page_template_primarypage`）や、作成順序に基づくネーミング規則（たとえば、`pagetemplate3`）を使用すると、アセットを管理しにくくなる可能性があります。



## 3.11 サイト階層の計画

サイト階層は、Web サイトのフレームワークです。Web ページの作成を開始する前に、時間をかけて階層を計画する必要があります。サイト階層は、サイトのコンテンツの編成および管理に役立つだけでなく、Site Studio が特定のタスクを自動化する際にも使用されます。

図 3-5 「Site Hierarchy」 ペイン



サイト階層を計画する場合、次の質問に回答する必要があります。

- 3-13 ページの「階層をどのくらいの深さにするか」
- 3-14 ページの「ユーザーがサイトをどのようにナビゲートするか」
- 3-14 ページの「セクションにどのように命名するか」
- 3-14 ページの「ページ・テンプレートをどのように再利用可能にするか」
- 3-15 ページの「プライマリおよびセカンダリ・ページの両方を使用するか」
- 3-15 ページの「コンテンツをどのように再利用するか」
- 3-15 ページの「マネージャは必要か」

### 3.11.1 階層をどのくらいの深さにするか

深い階層では、情報が複数のレベルに配置され、様々なカテゴリにグループ化されます。この階層は、大規模な組織や、Web サイトの拡張が見込まれる組織に適しています。

Web サイトを計画する場合、サイト内の Web ページの階層についてかなり慎重に検討する必要があります。Web サイトの階層は、必要な深さにすることができます。ホームページからは必要な数の異なるセクションを作成し、セクションには必要な数のセクションを含めることもできます。ただし、階層を設計するときには、構造は必要に応じて広範にできます（つまり、セクションは任意の深さにネストできます）が、結果として、扱いにくい URL が作成されることに注意する必要があります。Web サイトでネストされるセクションの範囲が広がるほど、その情報を取得するための URL が長くなります。通常、これは大きな考慮事項ではありませんが、デザイナーによっては重要なポイントになる場合があります。

サイト階層にリストされているセクションごとに、1つのプライマリ・ページと1つのセカンダリ・ページを割り当てることができます。セカンダリ・ページは、置換え可能なコンテンツを含むページであるため、セクション内で複数のバージョンのページを作成するのに使用されます。セクション内のプライマリ・ページは、そのセクションに対して開かれるページであるため、そのセクションのランディング・ページと考えられます。

### 3.11.2 ユーザーがサイトをどのようにナビゲートするか

デザイナーはサイト階層を使用してサイトを管理しますが、訪問者は階層を使用してコンテンツを参照および検索します。Site Studio では、ページ・テンプレートにナビゲーション・フラグメントを追加すると、フラグメントによってサイト階層が読み取られ、サイト・ナビゲーション全体を構成するリンクが生成されます。サイトのセクションの追加、削除および名前変更は簡単で、これらの変更はサイト・ナビゲーションに反映されます。サイト階層を構成する際には、訪問者の観点から慎重に検討する必要があります。

### 3.11.3 セクションにどのように命名するか

サイト階層には、Products、Services、About Us などの名前を持つ個々のセクションが含まれます。これらの名前は重要です。これらの名前は、サイトのコンテンツの編成に役立つだけでなく、訪問者が参照するサイトのナビゲーションにも表示されます。それぞれの名前が、対応するセクションの内容を反映しているかどうかを確認するために、各名前を定期的に再検討することをお勧めします。

もう1つ、サイト階層の編成時に検討する必要があることは、コントリビュータとサイト訪問者が Web ブラウザのアドレス・バーで参照する Web サイト・アドレスです。デフォルトでは、サイト階層のセクションに割り当てられた名前（ラベル）が使用されます。

必要に応じて、各セクションに異なるパス名およびページ名を指定することで、これらの値を上書きできます（6-8 ページの「[サイト・アドレスに使用されるパスの変更](#)」を参照）。前もってこれらの名前を計画することで、サイト・アドレスまたはアドレスで使用されるパスを後から変更することを最小限にとどめるのが最適です。これらを後から変更すると、コントリビュータやサイト訪問者が使用するリンクの破損またはショートカットの欠落につながる可能性があります。

### 3.11.4 ページ・テンプレートをどのように再利用可能にするか

サイトを計画する場合、セクションごとに新規ページ・テンプレートを作成するか、他のセクションですでに使用されているページ・テンプレートを再利用できます。少数のページ・テンプレートを使用して設計すると、管理するアセットの数が減るため、Web サイト全体を管理しやすくなります。

ページ・テンプレートを再利用すると、Web サイトのルック・アンド・フィールを1つまたは少数のページ・テンプレートの形式に維持できます。また、ページ・テンプレートの変更は即座にサイト全体に反映されます。

セクションごとに新しく一意のページ・テンプレートを作成すると、サイト・レイアウト全体の設計の柔軟性が向上します。一意の設計を作成するか、異なるページ・テンプレートを多少変更して、ページ・テンプレートに表示するコンテンツに対応します。ただし、サイトに重大なグローバル変更を行う場合、複数のページ・テンプレートを変更する必要があります。これは、繰返しの多い作業となり、間違いや一貫性のない状態が発生しやすくなります。

複数のページ・テンプレートを選択する場合、1つまたは少数のフラグメントのみをグローバル変更すれば済むように、できるかぎり参照スニペットを含むフラグメントを再利用してください。

ただし、プレースホルダを含むサブテンプレートを慎重に使用すると、一般的にページ・テンプレート数を減らすことができます。

### 3.11.5 プライマリおよびセカンダリ・ページの両方を使用するか

ページ・テンプレートを扱うには、いくつかの方法があります。サイト階層のセクションごとに、1つのプライマリ・ページと1つのセカンダリ・ページを割り当てることができます。

プライマリ・ページは、Web サイトのそのセクションに移動したときに、ユーザーが最初に目にする Web ページです（従来の Web サイトのデフォルト・ページとほぼ同じです）。ページ上の情報は、静的にリンクされます。コントリビュータは、プライマリ・ページのコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを変更したり、コントリビュータのインタフェースからデータ・ファイル内の情報を変更したりできます。

セカンダリ・ページは、コンテンツを動的に配置できるページです。セカンダリ・ページに静的コンテンツを含めることはできますが、セカンダリ・ページが有用なのは、動的に配置されるコンテンツを含めることができる点にあります。

プライマリ・ページのみで構成されたサイトを作成することもできますが、サイトを拡張する場合、新規プライマリ・ページを含んだ新規セクションを作成する必要があります。セカンダリ・ページを使用すれば、サイトはコントリビュータが発行する追加のコンテンツに基づいて自然に成長するため、デザイナーは何もする必要がありません。サイトは、セカンダリ・ページの使用によりスケーラビリティが大幅に向上します。

プライマリ・ページとセカンダリ・ページには、同じページ・テンプレートを使用できます。ページ・テンプレートは、そのテンプレートを使用するページがプライマリかセカンダリかということには関係しません。

### 3.11.6 コンテンツをどのように再利用するか

コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントは、コンテンツ・サーバーの単一の Web サイトおよび複数の Web サイト全体で共有および再利用できます。これらのアイテムをサイトに追加する場合、関連付けられたサイト・アセットを再利用して、アイテムを表示する特定の場所または複数の場所を指定できます。

コンテンツ・サーバーで現在 Web サイトに関連付けられていないコンテンツでも、サイトに追加できます。同じドキュメントを、それぞれ独自のルック・アンド・フィールで、複数のバージョンを作成することなく異なるサイトに表示できます。

ただし、この方法を選択する場合、そのコンテンツが Web サイトや一般公開に適していることを確認する必要があります。これを確認するには、ワークフローを実装するのが適しています。また、コンテンツが表示される各セクションに、置換え可能なリージョン・テンプレートを含むセカンダリ・ページがあることも確認する必要があります。

### 3.11.7 マネージャは必要か

デザイナーは、サイト階層を自分で作成および管理するか、その役割をサイト・マネージャに委任することができます。サイト・マネージャは、マネージャ・アプリケーションを使用して、セクションの作成や変更などを行うことができます。

これらの変更により、サイトの外観と動作が大きく変化する可能性があります。これらの変更と、それによるサイト構造、ワークフロー、レプリケーション、コントリビュータの役割などに対する影響について検討する必要があります。

マネージャ・アプリケーションの設定方法の詳細は、[第 12 章「マネージャの設定」](#)を参照してください。



---

---

## デザイナーのスタート・ガイド

サイトのデザイナーは、そのほとんどの作業時間を Site Studio デザイナ・アプリケーションの操作に費やします。そのため、デザイナーのコンピュータにローカルで Site Studio デザイナをインストールすることをお勧めします。

デザイナーで、サイト階層を構築し、サイトのルック・アンド・フィール全体を作成します。デザイナーは、ページ・レイアウト、サイト・ナビゲーション、およびフラグメントとコントリビューション・リージョン（Web ページの編集可能領域）の使用について方針を決定します。

この項の内容は次のとおりです。

- 4-2 ページの「[デザイナーの起動](#)」
- 4-2 ページの「[デザイナーのメイン・ウィンドウ](#)」
- 4-3 ページの「[サイト階層](#)」
- 4-4 ページの「[「Properties」 ペイン](#)」
- 4-6 ページの「[作業領域](#)」
- 4-14 ページの「[「Site Assets」 ペイン](#)」
- 4-16 ページの「[ツールボックス](#)」
- 4-17 ページの「[ツールバー](#)」
- 4-23 ページの「[ログ・ファイル](#)」
- 4-24 ページの「[Site Connection Manager](#)」
- 4-25 ページの「[Link Wizard](#)」
- 4-29 ページの「[Switch Content ウィザード](#)」
- 4-32 ページの「[フラグメント・エディタ](#)」
- 4-33 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント](#)」
- 4-35 ページの「[Site Studio マネージャ](#)」
- 4-36 ページの「[Site Studio コントリビュータ](#)」
- 4-40 ページの「[コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」 ページ](#)」



デザイナのメイン・ウィンドウは次の様々な要素で構成されています。

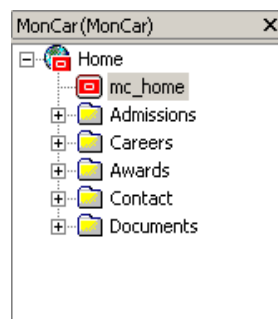
- **サイト階層**は、サイトの構造を編成する場合に使用します。これには、ホームページ、個々のセクションおよび各セクションに関連付けられたページ・テンプレートが含まれます。詳細は、4-3 ページの「[サイト階層](#)」を参照してください。
- 「**Properties**」 ペインは、サイトの様々な設定（サイト階層、サイト・アセット、個々のHTML タグやスクリプト・タグの情報など）を参照および編集する場合に使用します。詳細は、4-4 ページの「[Properties](#) ペイン」を参照してください。
- **作業領域**は、ページ・テンプレート、リージョン・テンプレート、要素定義などのサイト・アセットを表示および編集する場合に使用します。詳細は、4-6 ページの「[作業領域](#)」を参照してください。
- 「**Site Assets**」 ペインは、サイトに属するファイル（ページ・テンプレート、データ・ファイル、CSS ファイル、イメージ、スクリプトなど）を編成する場合に使用します。このペインを使用すると、各ファイルを迅速かつ簡単に表示、編集および編成できます。詳細は、4-14 ページの「[Site Assets](#) ペイン」および第7章「[サイト・アセットの定義](#)」を参照してください。
- 「**Toolbox**」 ペインは、サイトのフラグメントを作成、編集および管理する場合に使用します。詳細は、4-16 ページの「[ツールボックス](#)」および第9章「[フラグメントの操作](#)」を参照してください。
- **ツールバー**では、デザイナ・アプリケーションの多くの機能に簡単にアクセスできます。詳細は、4-17 ページの「[ツールバー](#)」を参照してください。

これらのオブジェクトの表示と配置は、デフォルトです。これらの配置は変更して、好みのインタフェースにカスタマイズできます。詳細は、第5章「[デザイナのカスタマイズ](#)」を参照してください。

## 4.3 サイト階層

サイト階層は、Web サイトの基本構造を示すもので、最終的にはサイトの他の多くの操作（コンテンツの編成方法や Site Studio でのプレゼンテーションの制御方法など）に影響します。サイト階層の表示と非表示は、「**View**」メニューから切り替えることができます。

図 4-2 「Site Hierarchy」 ペイン



「[Site Connection Manager](#)」（4-24 ページの「[Site Connection Manager](#)」を参照）で Web サイトの名前と場所を指定したら、サイト構造の構築を開始できます。これを行うには、サイト階層でホームページを作成し、次に個々のセクション（Products、Services、About Us など）を作成します。

セクションを追加したら、各セクションにページ・テンプレートを追加できます。ページ・テンプレートは、次の2つに分類されます。

- **プライマリ・ページ**: プライマリ・ページは、サイト階層の1つのセクションに関連付けられたページ・テンプレートです。サイトの該当セクションに移動すると、このページが表示されます（従来のサイトのデフォルト・ページとほぼ同じです）。
- **セカンダリ・ページ**: セカンダリ・ページも、サイト階層の1つのセクションに関連付けることができます。ただし、その主な目的は、コントリビュータによりサイトに追加されるファイル（コントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント）の背景として機能することです。

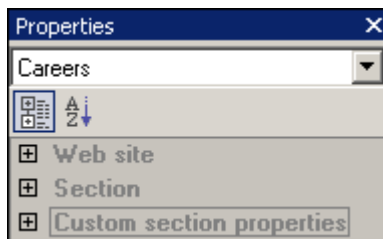
セクションにプライマリ・ページとセカンダリ・ページのどちらを追加するかにかかわらず、3つのオプションを選択できます。つまり、完全に新規のレイアウト・ページを作成するか、既存のレイアウト・ページを再利用するか、または既存のレイアウト・ページに基づいて新規レイアウト・ページを作成できます。詳細は、8-28 ページの「[サイト階層の操作](#)」を参照してください。また、マネージャ・アプリケーションを使用して、サイト階層の変更とページ・テンプレートの割当てを行うことも可能です（4-35 ページの「[Site Studio マネージャ](#)」を参照）。

## 4.4 「Properties」 ペイン

「Properties」 ペインには、サイト階層、作業領域、「Site Assets」 ペインまたはツールボックスで現在選択されているオブジェクトに関する有益な情報が表示されます。「Properties」 ペインの表示と非表示は、「View」 メニューから切り替えることができます。

「Properties」 ペインに表示されている情報は現在選択されているオブジェクトに応じたカテゴリに分類されます。図 4-3 は、「Careers」というサイト階層内のノードのプロパティ・カテゴリを示しています。「Web site」、「Section」および「Custom section properties」があります。他のオブジェクトが選択されると、プロパティ・カテゴリも異なります。プラス記号とマイナス記号を使用してプロパティ・カテゴリを展開または縮小し、プロパティとその値の表示と非表示を切り替えることができます。

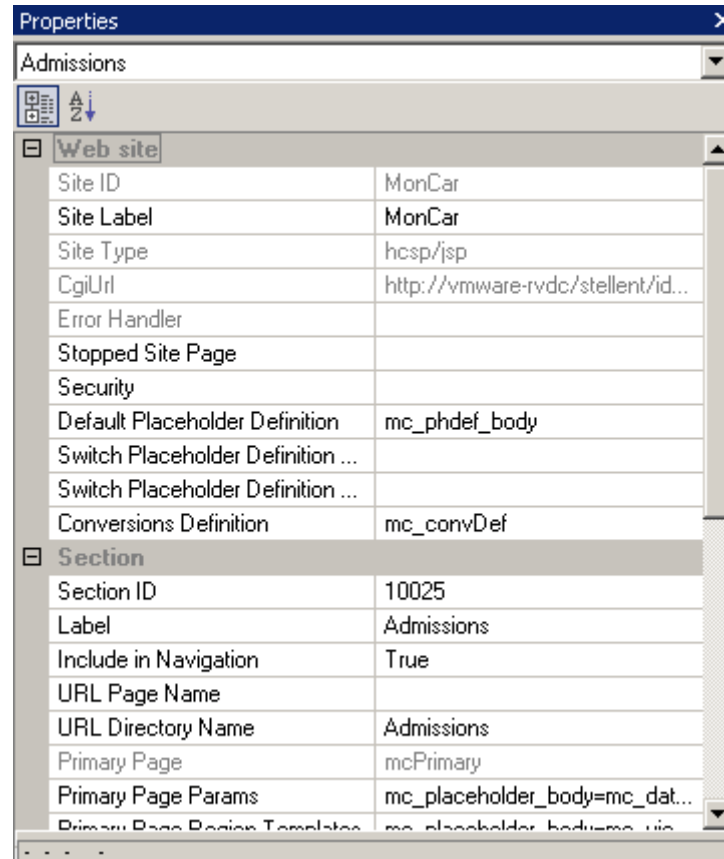
図 4-3 プロパティ・カテゴリ





表示されるプロパティはプロパティ・カテゴリごとに異なります。たとえば、サイト階層に関しては、サイト ID、サイト・ラベル、CGI URL、ホームページ、デフォルトのプレースホルダ定義などが表示されます (図 4-4)。ページ・テンプレートに関しては、ページ上のサイト・アセット、HTML タグ、スクリプト・タグ、フラグメントなどの情報が表示されます。内部で何が起きているかを確認し、特定のタグを正確に編集できるように、サイト・アセットのプロパティは「DESIGN」ビューでの作業に従って表示されます。

図 4-4 プロパティとその値



「DESIGN」ビューでの作業時に、「Properties」ペインを使用して、Web サイトの様々な設定を表示および編集できます。これには、サイト階層、プライマリ・ページとセカンダリ・ページ、およびサイト・テンプレートのコンテンツ (HTML、スクリプト、フラグメントなど) の設定が含まれます。「Properties」ペインは、特に「DESIGN」ビューで直接変更を行うことができない場合に、サイト・テンプレート (ページ・テンプレート、サブテンプレートおよびリージョン・テンプレート) のコンテンツを編集するのに非常に便利です。たとえば、背景色、ページのマージン、表の幅などを変更する場合は。

「Properties」ペインの最上部にあるアイコンを使用して、すべてのプロパティを (名前の) アルファベット順か、関連するプロパティのグループに分類して表示できます。一部のプロパティは値を編集できます。それらのプロパティは黒で表示されます。編集できないプロパティはグレー表示されます。

「DESIGN」ビューでページ・テンプレート、リージョン・テンプレートまたはサブテンプレートの別の領域をクリックするか、あるいは別のサイト・アセットをクリックすると、別の属性を持つ別のタグがかわりに表示されます。「Properties」ペインの最上部でドロップダウン・リストから親タグを選択して、その属性を参照することもできます。

マネージャ・アプリケーションを使用して、サイト階層に関連するプロパティを変更することも可能です。詳細は、4-35 ページの「Site Studio マネージャ」を参照してください。

## 4.5 作業領域

作業領域は、通常ほとんどの作業を行う場所です。作業領域では、サイト・テンプレート（ページ・テンプレート、リージョン・テンプレートおよびサブテンプレート）の編集や、その他のサイト・アセット（リージョン定義、要素定義および Cascading Style Sheet など）の定義と構成も行います。

作業領域でサイト・アセットを開くと、コンテンツ・サーバー上にある関連付けられたファイルがチェックアウトされます。編集後、（ツールバーの「Save」アイコンをクリックするか、[Ctrl]+[S] を押して）変更内容を保存すると、ファイルが再びコンテンツ・サーバーにチェックインされます。

デザイナの作業領域では次の機能が提供されます。

- 4-6 ページの「[ダイアログとタブ](#)」
- 4-8 ページの「[ビュー](#)」
- 4-9 ページの「[「SOURCE」ビュー](#)」
- 4-10 ページの「[「DESIGN」ビュー](#)」
- 4-11 ページの「[PREVIEW](#)」
- 4-12 ページの「[「FORM」ビュー](#)」
- 4-13 ページの「[右クリック・メニュー](#)」

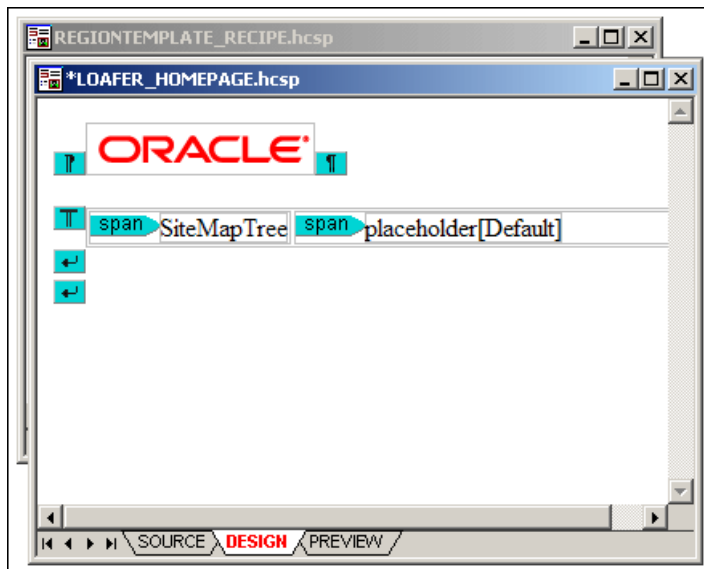
### 4.5.1 ダイアログとタブ

作業領域では、ダイアログとタブの2つの方法でサイト・アセットを表示できます。

#### アセット・ダイアログ

作業領域では、サイト・アセットを使い慣れた Windows ダイアログ（タイトル・バーと「最小化」、「最大化」および「閉じる」アイコンが付いたダイアログ）で表示できます（[図 4-5](#)）。

図 4-5 ダイアログとして表示された2つのアセット



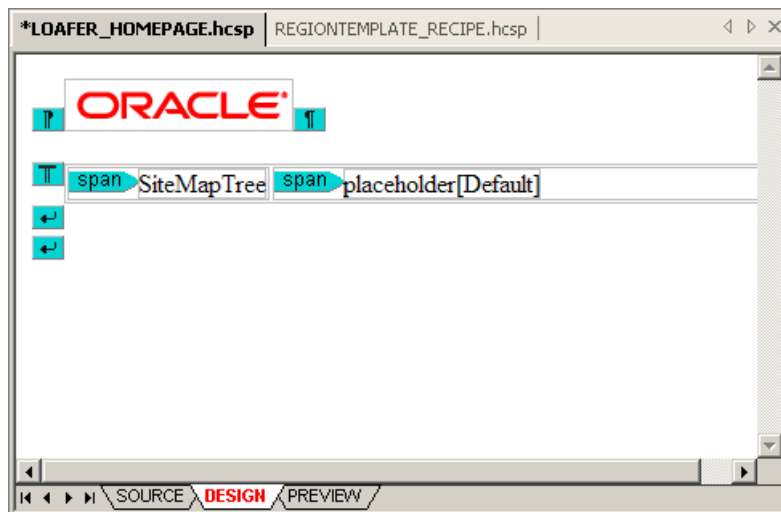
ダイアログ・ウィンドウは作業領域内の任意の位置に自由にドラッグ・アンド・ドロップできます。これは、操作可能領域が大きい大画面の場合、開いたウィンドウを最大限効率よく表示されるように配置できるため特に便利です。デザイナの「**Window**」メニューを使用して、作業領域内でのウィンドウの配置（重ねるか、並べる）を変更することもできます。

アセットの変更内容が保存されていない場合、ウィンドウのタイトル・バーのアセット名の横にアスタリスク (\*) で示されます。変更を保存しないでウィンドウを閉じようとする、まず変更内容を保存するか、または破棄するかを確認するプロンプトが表示されます。

### アセット・タブ

作業領域では、サイト・アセットを作業領域全体を使用するタブとして表示することもできます (図 4-6)。

図 4-6 タブとして表示された 2 つのアセット



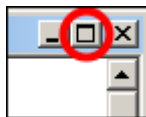
タブはすでに作業領域全体を使用しているため、作業領域内の別の位置に移動はできません。作業領域の右上にある左向き矢印と右向き矢印を使用して、開いているすべてのアセット・タブ間を順に移動できます。また、現在のタブを閉じるには「X」アイコンを使用します。

アセットの変更内容が保存されていない場合、タブのアセット名の横にアスタリスク (\*) で示されます。変更を保存しないでタブを閉じようとする、まず変更内容を保存するか、または破棄するかを確認するプロンプトが表示されます。

### ダイアログ表示とタブ表示の切替え

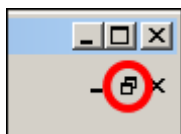
ダイアログ表示とタブ表示はいつでも切り替えることができます。開いているすべてのアセットをダイアログ表示からタブ表示に切り替える場合は、アセット・ウィンドウの「最大化」アイコンをクリックします (図 4-7)。1つのダイアログを最大化すると、すべてのアセットがタブに表示されます。

図 4-7 「最大化」アイコン



開いているすべてのアセットをタブ表示からダイアログ表示に切り替える場合は、デザイナー・アプリケーション・ウィンドウの右上にある、アプリケーション・タイトル・バー・アイコンのすぐ下の「元のサイズに戻す」アイコンをクリックします (図 4-8)。1つのタブを元のサイズに戻すと、すべてのアセットがダイアログで表示されます。

図 4-8 「元のサイズに戻す」アイコン



## 4.5.2 ビュー

サイト・アセットは、アセットのタイプに応じて次のような様々な方法で表示できます。

- 「SOURCE」ビューには、サイト・アセットに関連付けられたコンテンツ・ファイルに含まれるコード (HTML、XML、JavaScript、Idoc Script、Site Studio タグなど) が表示されます。詳細は、4-9 ページの「「SOURCE」ビュー」を参照してください。
- 「DESIGN」ビューには、静的 (固定バナー・グラフィックなど) と動的 (プレースホルダとフラグメント) の両方のオブジェクトがすべて、サイト・テンプレートの配置どおりに表示されます。詳細は、4-10 ページの「「DESIGN」ビュー」を参照してください。
- 「PREVIEW」には、すべてのアセットが Web ブラウザでサイト・コンシューマに表示されるとおりに配置された、サイト・テンプレートの実際のビューが表示されます。詳細は、4-11 ページの「PREVIEW」を参照してください。
- 「FORM」ビューでは、ダイアログが表示され、そこでサイト・アセットのプロパティを設定できます。詳細は、4-12 ページの「「FORM」ビュー」を参照してください。

図 4-9 作業領域のビュー・タブ

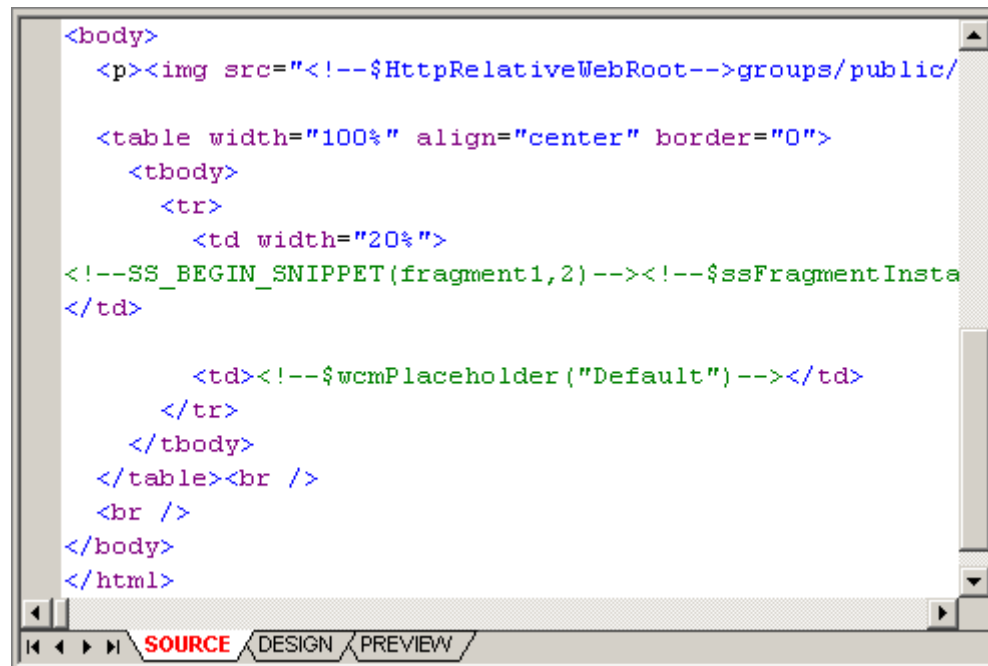


作業領域の左下にある矢印を使用して、現在のサイト・アセットのビュー間を移動できます。デフォルトでは、サイト・テンプレートは「DESIGN」ビューで開き、定義アセットは「FORM」ビューで開きます。それ以外のアセット (コントリビュータ・データ・ファイルや CSS ファイルなど) のほとんどは、「SOURCE」ビューで開きます。ネイティブ・ドキュメントは、それぞれに関連付けられたサード・パーティ・アプリケーションで開きます。

### 4.5.3 「SOURCE」ビュー

「SOURCE」ビューには、サイト・アセットに関連付けられたコンテンツ・ファイルに含まれるコード（HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプト、Site Studio タグなど）が表示されます。

図 4-10 「SOURCE」ビュー（ページ・テンプレート）



```
<body>
  <p>
    <tbody>
      <tr>
        <td width="20%">
<!--SS_BEGIN_SNIPPET(fragment1,2)--><!--$ssFragmentInsta
</td>

        <td><!--$wcmPlaceholder("Default")--></td>
      </tr>
    </tbody>
  </table><br />
<br />
</body>
</html>
```

「SOURCE」ビューの情報は、次のように色分けされたテキストとして表示されます。

- 黒は、XML コード、HTML タグ属性および Web ページに表示されるテキストに使用されます。
- 紫は、HTML タグに使用されます。
- 青は、HTML タグ属性値に使用されます。
- 緑は、Idoc スクリプト、HTML コメントおよび Site Studio により挿入されたコードに使用されます。

書体、インデント・レベル、行の折返しなどの設定の多くは、変更できます。詳細は、5-10 ページの「[「SOURCE」ビューのコードの書式設定](#)」を参照してください。

「SOURCE」ビューでは、サイト・テンプレートを完全に制御できます。「DESIGN」ビューでの表示に満足できない場合は、いつでも「SOURCE」ビューに切り替えて Web ページの動作を厳密に制御できます。実際の手順では、「DESIGN」ビュー（4-10 ページの「[「DESIGN」ビュー](#)」を参照）を使用してページの作成を開始し、その後「SOURCE」ビューに切り替えてページの外観と動作をカスタマイズします。

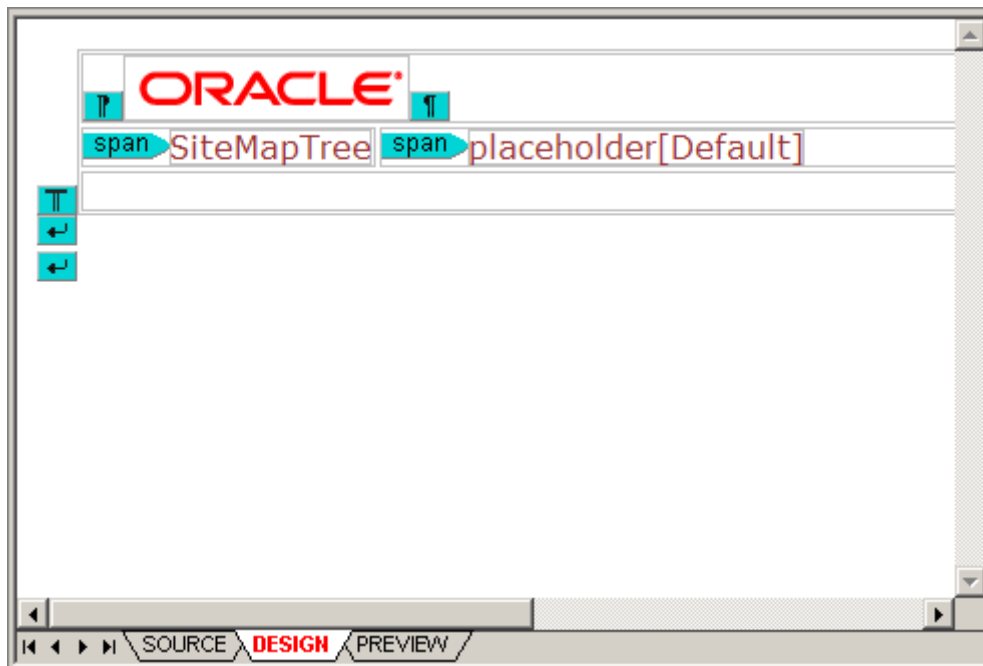
このガイドのほとんどの項では、ユーザーが「DESIGN」ビューで作業していることを前提としています。「SOURCE」ビューでの作業方法は、必要に応じて説明しています。

「SOURCE」ビューでは、一般的な編集キーストローク（[\[Ctrl\]+\[C\]](#)、[\[Ctrl\]+\[V\]](#)）によるコピーおよび貼付けなど）、アプリケーション・ツールバー（4-17 ページの「[ツールバー](#)」を参照）および右クリック・メニュー（4-13 ページの「[右クリック・メニュー](#)」を参照）を使用してテキストを編集できます。たとえば、「SOURCE」ビューでの作業時に、サイト・アセット、イメージ、表および改行を追加できます。

## 4.5.4 「DESIGN」ビュー

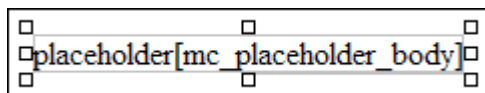
「DESIGN」ビューには、静的（固定バナー・グラフィックなど）と動的（プレースホルダやフラグメントなど）の両方のオブジェクトがすべて、サイト・テンプレートの配置どおりに表示されます。このビューは、テンプレートの設定方法と使用する配置方法によっては、Webブラウザで表示されるページ・レイアウトに近くなることがあります。実際のWebサイトに表示されるとおりにテキスト、イメージ、色、ハイパーリンクおよび表が表示されますが、動的コンテンツ（フラグメントやスクリプトによるもの）は、実際のコンテンツではなくタグで表現されます。これは、ほとんどのフラグメントとスクリプトにはサーバー側のスクリプトと動的にレンダリングされるコンテンツが必要であるためです。このようなコンテンツは、「PREVIEW」タブでのみ表示できます（4-11 ページの「PREVIEW」を参照）。

図 4-11 「DESIGN」ビュー（ページ・テンプレート）



デザイナーでサイト・テンプレート（ページ・テンプレート、リージョン・テンプレートまたはサブテンプレート）を開くと、そのテンプレートは作業領域にデザイン・モードで開き、必要に応じて編集できます。作業領域はエディタとして機能し、多くの一般的な編集機能を使用できます。一般的な編集キーストローク（[Ctrl]+[C]、[Ctrl]+[V]）でコピーおよび貼付けなど、アプリケーション・ツールバー（4-17 ページの「ツールバー」を参照）および右クリック・メニュー（4-13 ページの「右クリック・メニュー」を参照）を使用してテキストやオブジェクトを編集できます。たとえば、「DESIGN」ビューでの作業時に、サイト・アセット、イメージ、表および改行を追加できます。オブジェクトを選択するには、そのオブジェクトをクリックします。選択ハンドルが表示されます（図 4-12）。

図 4-12 「DESIGN」ビューで選択されたオブジェクト



このインタフェースを使用して実行できない編集操作がある場合、「Properties」ペインを使用できます（4-4 ページの「Properties ペイン」を参照）。「Properties」ペインでは、サイト・テンプレートの特定の領域（背景色、ページのマージン、表の幅など）を詳細に調整できます。このペインで特定の編集操作を実行できない場合でも、常に「SOURCE」ビュー（4-9 ページの「SOURCE」ビュー）を参照）で実際のコードを編集できます。

サイト・テンプレートでサイト・アセット（プレースホルダやフラグメントなど）が存在する場所を識別できるように、デザイナーによりアセット・タグと名前が挿入されます。（このフラグメントのテキストは、9-16 ページの「フラグメント・スニペットの追加、編集および削除」に説明されているとおり、フラグメント・エディタで変更できます。）

「DESIGN」ビューでは、HTML タグの場所をハイライト表示することもできます。この機能を有効化するには、書式設定ツールバーの「Show/Hide HTML Tags」アイコン（図 4-13）をクリックします。特定の HTML タグの表示と非表示を切り替えるには、アイコンの横にある下向き矢印をクリックします。

図 4-13 「Show/Hide HTML Tags」アイコン



## 4.5.5 PREVIEW

「PREVIEW」には、すべてのアセットが Web ブラウザでコンシューマに表示されるとおりに配置された、Web ページの実際のビューが表示されます。これは、サイト・テンプレートをプレビューして、テンプレート上でのフラグメントとプレースホルダの配置を確認する場合に便利です（デザイン・モードでは、特にページ・レイアウトが CSS によって制御されていると、この表示は難しい場合があります）。

図 4-14 PREVIEW（ページ・テンプレート）



---

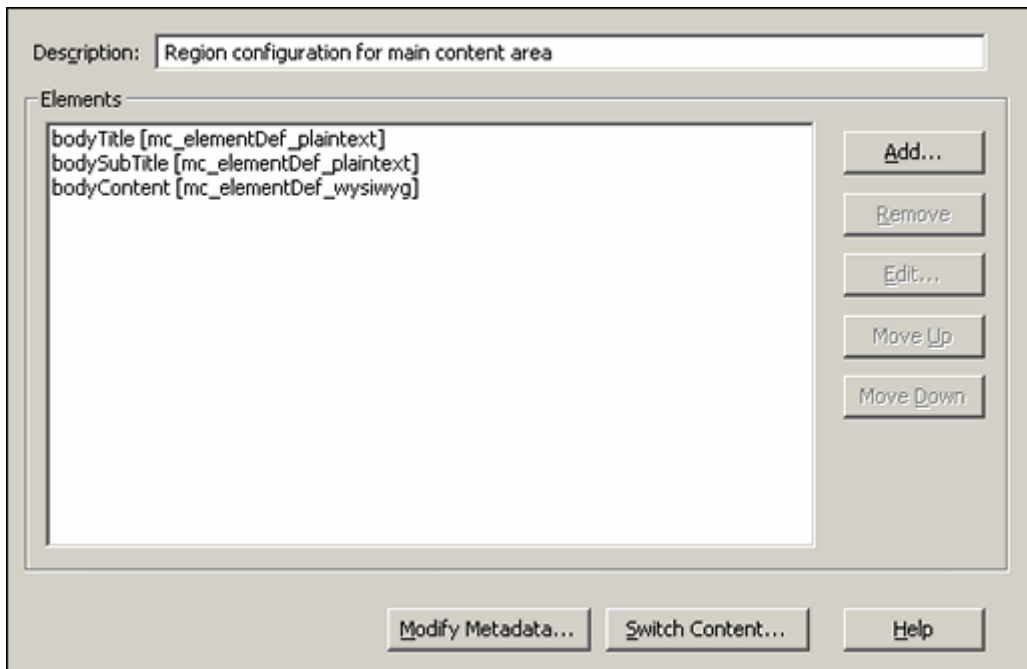
**注意：** Site Studio では、プレビュー機能を提供するために Internet Explorer 5.5 以上を必要とします。

---

## 4.5.6 「FORM」 ビュー

「FORM」ビューでは、ダイアログが表示され、そこで一部のサイト・アセット（要素定義、リージョン定義、プレースホルダ定義、変換定義など）のプロパティを設定できます。図 4-15 の例では、「FORM」ビューにリージョン定義が表示されています。ほとんどのフォーム・ビューには「Help」ボタンがあり、クリックすると現在のフォームに関するコンテキスト依存ヘルプ情報が表示されます。

図 4-15 「FORM」ビュー（リージョン定義）

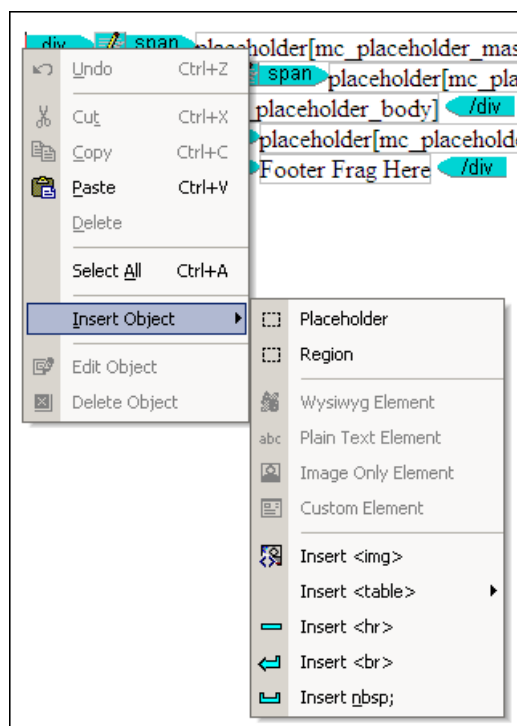




## 4.5.7 右クリック・メニュー

作業領域の「SOURCE」ビューまたは「DESIGN」ビューでの作業中は、いつでも右クリックして関連するオプションのメニューを表示できます（図 4-16）。使用可能なオプションは、作業領域内の作業場所、作業対象のアセットのタイプおよび作業の内容によって異なります。右クリック・メニューでは複数の一般的な編集機能（切り取り、コピー、貼付け、すべてを選択など）が提供されるだけでなく、通常は、アセットの挿入（特定のコンテキストの場合）や、選択したアセットの編集または削除を行うこともできます。

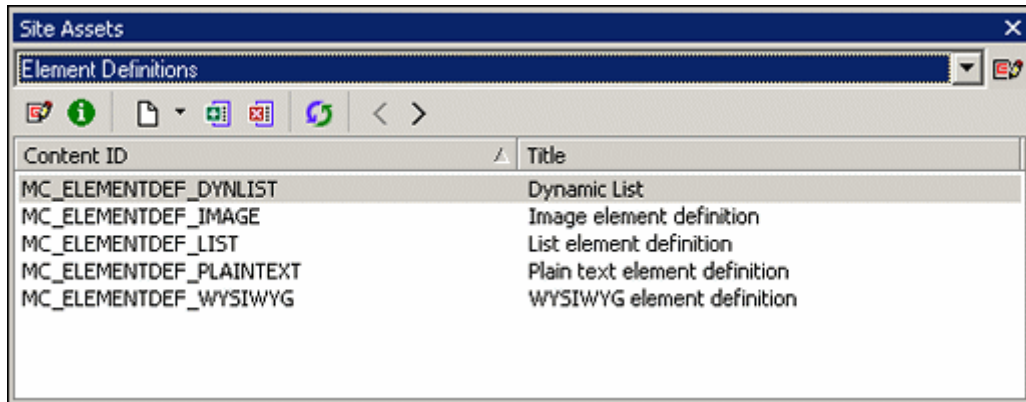
図 4-16 「DESIGN」ビューの右クリック・メニュー



## 4.6 「Site Assets」 ペイン

「Site Assets」 ペインは、サイトに関連付けられたファイルを管理する場合に使用します。このペインを使用すると、各ファイルを迅速かつ簡単に表示、編集および編成できます。「Site Assets」 ペインの表示と非表示は、「View」メニューから切り替えることができます。

図 4-17 「Site Assets」 ペイン



アセットの操作の詳細は、第7章「[サイト・アセットの定義](#)」を参照してください。

### サイト・アセット・リスト

サイト・アセット・リストにはすべてのタイプのアセットが表示されます。このリストは必要に応じて変更できます。エントリを自由に並べ替えたり、グループ分けしたりするには、メニューの横にあるアイコンをクリックします。これによって「Site Asset Categories」ダイアログが開き（A-32 ページの「[Site Asset Categories](#)」ダイアログを参照）、「Site Assets」ペインでのアイテムの表示順序やグループ分けを変更できます。

### ツールバー

「Site Assets」ペインにはツールバーがあり、そこから次の機能に簡単にアクセスできます。

アイコン	定義
	「Site Asset Categories」ダイアログを開き、そこでデザイナーの「Site Assets」ペインのカテゴリをカスタマイズしたり、追加したりすることができます。詳細は、A-32 ページの「 <a href="#">Site Asset Categories</a> 」ダイアログを参照してください。
	選択したアセットを編集できます。
	選択したアセットのコンテンツ情報を表示します。
	アセットの作成や既存のアセットのコピーを行えます。
	選択したアセットをサイトに追加します。
	選択したアセットをサイトから削除します。
	現在のアセット・カテゴリについて、アイテムのリストをリフレッシュします。
	サイト・アセット・リストにある1つ前のアセット・カテゴリを表示します。
	サイト・アセット・リストにある次のアセット・カテゴリを表示します。

アセット・カテゴリのリストはサイトのプロジェクト・ファイルに格納されます。そのため、各 Web サイトのメニューで同じアセット・リスト構造を維持する場合は、サイトごとにリストを編集する必要があります。

### コンテンツ ID リスト

メニューでサイト・アセットのタイプを選択すると、そのタイプのアセットがすべて表示されます。コンテンツ ID は、各サイト・アセットの名前です（アセット作成時に指定されたもの）。適切なネーミング規則が使用されていれば、アセットのコンテンツ ID によって、そのアセットの用途が一目でわかります。列ヘッダーをクリックすると、コンテンツ ID 順にアセットのリストをソートできます。

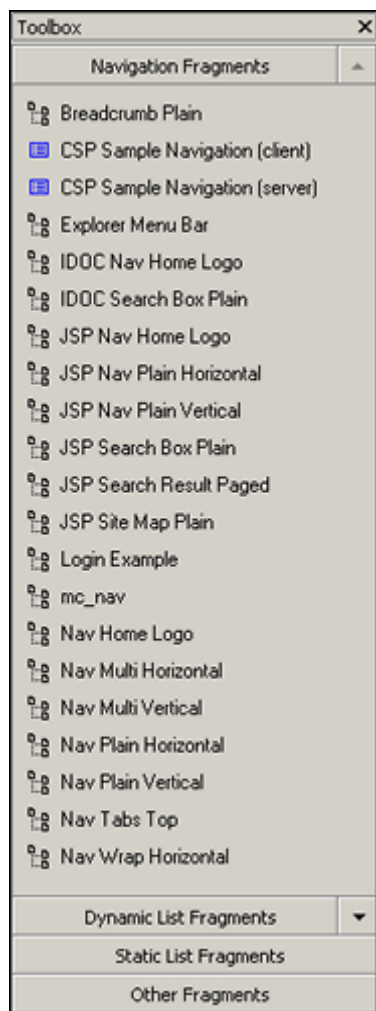
### タイトル・リスト

コンテンツ・サーバーにチェックインされた各サイト・アセットには、識別のために固有のコンテンツ ID とタイトルが付いています。タイトルは、補助的な情報として「Site Assets」ペインでサイト・アセットを識別する場合に使用します。列ヘッダーをクリックすると、タイトル順にアセットのリストをソートできます。

## 4.7 ツールボックス

ツールボックスには、ページ・テンプレート、リージョン・テンプレートおよびサブテンプレートに追加できるフラグメントが含まれます。フラグメントは、テキスト、グラフィック、スクリプト、および Web ページに機能を追加する他のすべての構成要素のコンテナです。ツールボックスの表示と非表示は、「View」メニューから切り替えることができます。

図 4-18 ツールボックス



Site Studio デザイナには、複数の事前定義済みのフラグメントが付属します。フラグメントには、ナビゲーション・フラグメント、動的リスト・フラグメント、静的リスト・フラグメントおよびその他のフラグメントという 4 つのカテゴリがあります。各カテゴリには、複数のスクリプト言語で記述された様々なフラグメントが含まれます。各フラグメントは、そのまま使用することも、コピーしてニーズにあわせて編集することもできます。また、新規のフラグメントを作成することも可能です。デザイナーで提供されるフラグメントの詳細は、[付録 C 「サンプル・フラグメント」](#) を参照してください。

テンプレートにフラグメントを追加するのは簡単です。テンプレートでフラグメントを表示する場所にカーソルを置き、ツールボックスの適切なフラグメントをクリックするのみです。多くのフラグメントには、テンプレートに追加する前にフラグメントの外観をカスタマイズできる追加オプション（パラメータ）が含まれます。

フラグメントの詳細は、[第 9 章 「フラグメントの操作」](#) を参照してください。

## 4.8 ツールバー

Site Studio デザイナには複数のツールバーがあり、そこから次の設計機能に簡単にアクセスできます。

- 4-17 ページの「標準ツールバー」
- 4-18 ページの「サイト・ツールバー」
- 4-19 ページの「書式設定ツールバー」
- 4-20 ページの「HTML ツールバー」
- 4-21 ページの「表ツールバー」
- 4-22 ページの「コントリビューション・ツールバー」
- 4-22 ページの「プレースホルダ・ツールバー」









これらのツールバーの表示と非表示は、「View」メニューから切り替えることができます。さらに、ツールバーを任意の位置にドラッグ・アンド・ドロップできます。ツールバーをツールバー領域外の位置にドラッグすると別個のダイアログになり、タイトル・バーの下向き矢印をクリックしてカスタマイズできます。

### 4.8.1 標準ツールバー

標準ツールバーでは、コピー、貼付け、印刷など、複数の一般的な編集機能にアクセスできます。

図 4-19 標準ツールバー



オプション	説明
	現在のサイト・プロジェクトを保存します。
	選択したテキストを切り取ります。
	選択したテキストをコピーします。
	選択したテキストを貼り付けます。
	最後に実行した操作をキャンセルします。
	最後に実行した操作を再実行します。
	作業領域の現在のコンテンツを印刷します。
	デザイナ・アプリケーションのオンライン・ヘルプを開きます。

## 4.8.2 サイト・ツールバー

サイト・ツールバーでは、サイト接続、コンテンツ割当て、ナビゲーションなど、複数のサイト関連機能にアクセスできます。

図 4-20 サイト・ツールバー

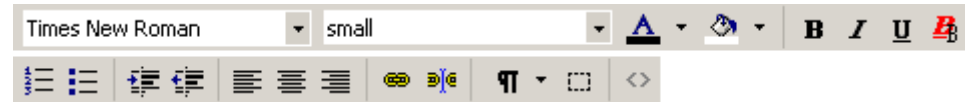


オプション	説明
 MountCarmel on vmware-r	定義されているサイト接続をすべて表示します。
	現在の Web サイト（このアイコンの横にあるリスト内に表示されている Web サイト）との接続を確立します。
	現在の Web サイト（このアイコンの横にあるリスト内に表示されている Web サイト）との接続を切断します。
	「Assign Region Content」ダイアログ（A-91 ページの「 <a href="#">Assign Region Content</a> 」ダイアログ）を参照）を開き、そこでコンテンツ（コントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントまたはサブテンプレート）をページ上のコントリビューション・リージョンに割り当てることができます。
	「Custom Section Properties」ダイアログ（A-24 ページの「 <a href="#">Custom Section Properties</a> 」ダイアログ）を参照）を開き、そこで（セクション ID、ラベル、デフォルト・プレースホルダ定義などの標準プロパティに加えて）カスタム・プロパティをサイト・セクションに割り当てることができます。
	サイトのすべてのナビゲーション機能（自動的に生成されたメニューなど）を更新します。
	サイト全体をリフレッシュします。それによって Web サイトのサイト階層とフラグメントがリロードされます。
	「Site Connection Manager」ダイアログ（A-17 ページの「 <a href="#">Site Connection Manager</a> 」ダイアログ）を参照）を開き、そこでコンテンツ・サーバー上の Web サイトへの接続を作成、編集および削除できます。
	現在選択している Web ページをレンダリングし、Web ブラウザで開きます。特定のアイテム（コンテンツ・サーバー上の「Site Studio Administration」ページを含む）を開くには、アイコンの横にある下向き矢印をクリックします。 サイト階層で何も選択されていない状態でこのアイコンをクリックしても何も行われません。
	現在の Web ページをコンテンツ・サーバー上の最新の Web ページと比較し、その違いを新しいブラウザ・ウィンドウに色分けされたテキストで表示します。
	サイト階層のすべてのセクションを展開して、割り当てられているプライマリ・ページとセカンダリ・ページをすべて表示します。
	サイト階層のすべてのセクションを縮小して、割り当てられているプライマリ・ページとセカンダリ・ページをすべて非表示にします。




### 4.8.3 書式設定ツールバー

書式設定ツールバーでは、フォントのサイズと色、テキストの位置合せ、リストなど、複数のテキスト書式設定機能にアクセスできます。

図 4-21 書式設定ツールバー



オプション	説明
	選択したフォントをテキストに適用します。
	選択したフォント・サイズをテキストに適用します。
	選択した色をテキストに適用します。アイコンの横にある下向き矢印を使用してテキストの色を選択できます。
	選択した背景色（ハイライト色）をテキストに適用します。アイコンの横にある下向き矢印を使用して背景色を選択できます。
	選択したテキストを太字にします。
	選択したテキストをイタリックにします。
	選択したテキストに下線を引きます。
	選択したテキストのすべての書式設定を解除します。
	番号付き（順序付けられた）リストを挿入します。
	箇条書き（順序のない）リストを挿入します。
	選択したテキストのインデント・レベルを1レベル上げます。
	選択したテキストのインデント・レベルを1レベル下げます。
	選択したテキストを左に揃えます。
	選択したテキストを中央に揃えます。
	選択したテキストを右に揃えます。
	Link Wizard（A-36 ページの「 <a href="#">Link Wizard</a> 」を参照）を起動し、選択したテキストのハイパーリンクの作成や既存のハイパーリンクの編集を行うことができます。
	選択したテキストから既存のハイパーリンクを削除します。






オプション	説明
	作業領域の HTML タグの表示と非表示を切り替えます。アイコンの横にある下向き矢印を使用して、特定の HTML タグの表示と非表示を切り替えることができます。
	通常は枠線のない要素の枠線の表示と非表示を切り替えます。
	HTML ソース・コードをクリーンアップして最適化します。

## 4.8.4 HTML ツールバー

HTML ツールバーでは、CSS クラス、イメージ、水平線など、複数の HTML 関連機能にアクセスできます。

図 4-22 HTML ツールバー



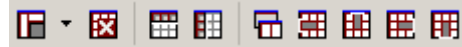
オプション	説明
	選択した HTML スタイルをテキストに適用します。
	Web ページ上の現在のカーソル位置にイメージを挿入します。イメージをコンテンツ・サーバーから選択するように求められます。
	水平線 (<hr>) を挿入します。
	改行 ( ) を挿入します。
	改行なしの空白 (&nbsp;) を挿入します。












## 4.8.5 表ツールバー

表ツールバーでは、表の追加、行と列の追加、セルのマージと分割など、複数の表関連機能にアクセスできます。

図 4-23 表ツールバー



オプション	説明
	Web ページ上の現在のカーソル位置に表を挿入します。事前定義済の表から選択するには、アイコンの横にある下向き矢印をクリックします。
	現在の表を削除します。
	表に行を追加します。
	表に列を追加します。
	表のカーソルが置かれているセルを複数の列または行に分割します。セルを複数列（垂直）または複数行（水平）のどちらに分割するか選択するように求められます。
	表のカーソルの置かれているセルとその左側のセルをマージします。
	表のカーソルの置かれているセルとその上側のセルをマージします。
	表のカーソルの置かれているセルとその右側のセルをマージします。
	表のカーソルの置かれているセルとその下側のセルをマージします。

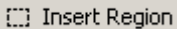







## 4.8.6 コントリビューション・ツールバー

コントリビューション・ツールバーでは、リージョンや様々なタイプの要素の追加など、複数のコントリビューション機能にアクセスできます。このツールバーは、主にレガシー・サイト (10gR4 より前のリリースの Site Studio デザイナで作成されたサイト) に使用されます。

図 4-24 コントリビューション・ツールバー

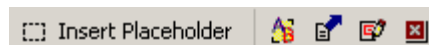


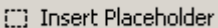




オプション	説明
 Insert Region	Web ページ上の現在のカーソル位置にレガシー・コントリビューション・リージョンを挿入します。
	Web ページ上の現在のカーソル位置にレガシー WYSIWYG 要素を挿入します。
 abc	Web ページ上の現在のカーソル位置にレガシー・プレーン・テキスト要素を挿入します。
	Web ページ上の現在のカーソル位置にレガシー・イメージ要素を挿入します。
	選択した要素のプロパティ・ダイアログを開き、そこでプロパティを編集できます。
	選択したアイテムを Web ページから削除します。

## 4.8.7 プレースホルダ・ツールバー

プレースホルダ・ツールバーでは、テンプレートへのプレースホルダや様々なタイプの要素の追加など、複数のプレースホルダ関連機能にアクセスできます。

図 4-25 プレースホルダ・ツールバー



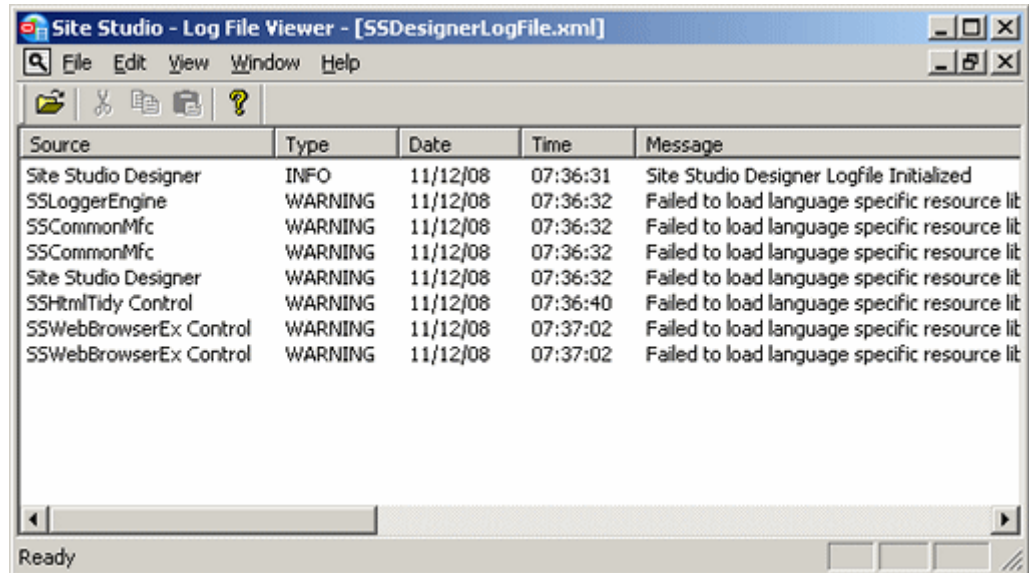
オプション	説明
 Insert Placeholder	Web ページ上の現在のカーソル位置にプレースホルダを挿入します。
	Web ページ上の現在のカーソル位置に要素を挿入します。
	Web ページ上の現在のカーソル位置に動的変換を挿入します。
	ダイアログを開き、そこで要素または動的変換を割り当てることができます。
	選択したアイテムを Web ページから削除します。

## 4.9 ログ・ファイル

ログ・ファイルには、デザイナー・アプリケーションを使用中に生成されたステータス、警告およびエラー・メッセージが表示されます。これはトラブルシューティングを行う場合に役立ちます。ログ・ファイルは、「View」メニューを開き、「Log File」を選択するといつでも表示できます。

ログには、メッセージの発生元、そのタイプ、日付と時刻および実際のメッセージ・テキストが表示されます。メッセージをクリックすると詳細を表示できます。さらに、「File」→「Save」をクリックすると、現在のログをテキスト・ファイルに保存できます。

図 4-26 ログ・ファイル



## 4.10 Site Connection Manager

Site Connection Manager は、コンテンツ・サーバー上にある Site Studio Web サイトへの接続を制御する場合に使用します。サイト接続を作成、編集および削除できます。Web サイトに接続すると、コンテンツ・サーバーにあるその Web サイトのプロジェクト・ファイルに接続することになります。このプロジェクト・ファイルには、デザイナーでのサイトの作業を可能にする関連情報がすべて保持されています。たとえば、プロジェクト・ファイルには、Web サイトとその関係を構成するすべてのファイルへの参照が含まれています。

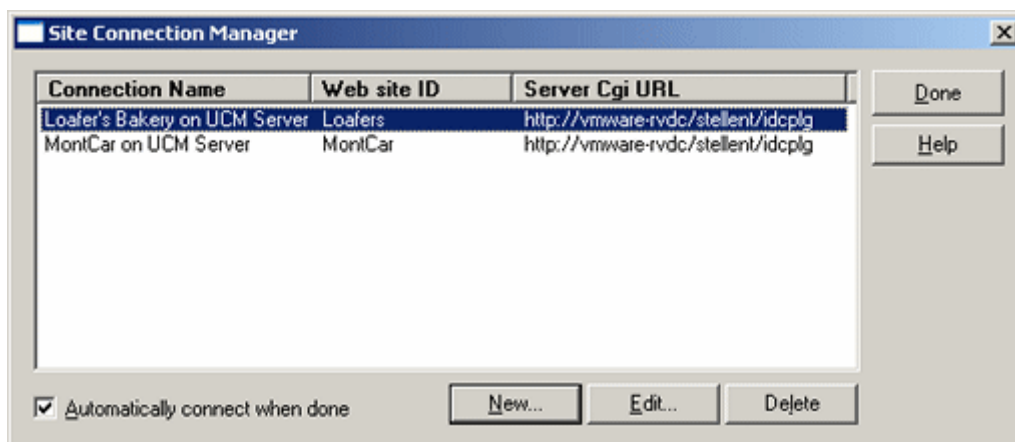
Site Connection Manager は次の 2 つの方法で起動できます。

- 「File」メニューを開き、「Site」→「Connection Manager」を選択します。
- サイト・ツールバー (図 4-27) で「Site Connection Manager」アイコンをクリックします。

図 4-27 「Site Connection Manager」アイコン

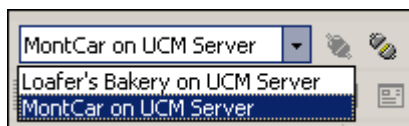


図 4-28 Site Connection Manager



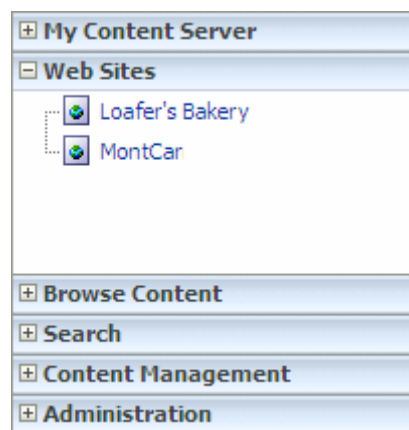
サイト接続を作成するときに、Web サイトが格納されるコンテンツ・サーバーの CGI URL アドレス、サイト識別子および接続名を指定します。続いて、Site Studio デザイナにより、Web サイトのプロジェクト・ファイルが作成され、それが新規プロジェクト・ファイル用のデフォルト・メタデータとともにコンテンツ・サーバーにチェックインされます (6-9 ページの「プロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータの指定」を参照)。サイト接続を作成したら、サイト・ツールバーのメニューを使用するか (図 4-29)、「File」→「Site」→「Recent Sites」を選択してデザイナーで簡単にサイトを開くことができます。

図 4-29 デザイナの Web サイトのリスト



Web サイトは、コンテンツ・サーバーの「Web Sites」メニューにも表示されます。このメニューを使用して、デザイナー、コントリビュータおよびサイト訪問者は、簡単にサイトを開くことができます (図 4-30)。

図 4-30 コンテンツ・サーバーの Web サイトのリスト (デフォルトのトレイ・レイアウト)



サイト接続の操作の詳細は、6-2 ページの「[サイト接続](#)」および A-17 ページの「[Site Connection Manager](#) ダイアログ」を参照してください。

## 4.11 Link Wizard

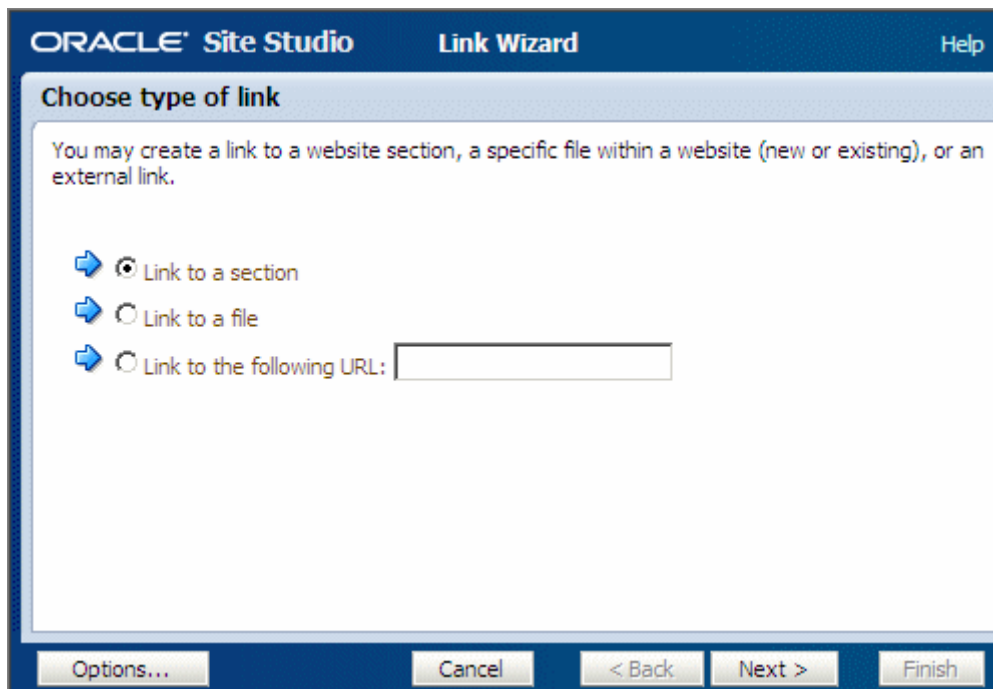
Link Wizard は、ハイパーリンクを、ページ・テンプレート、リージョン・テンプレートまたはサブテンプレートのテキストやその他のページ要素に追加する場合に使用します。Web サイト接続、コントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメント、URL など様々なターゲットにリンクできます。現在の Web サイト上のアイテムだけでなく、コンテンツ・サーバーにある他の Site Studio サイト上のアイテムや、外部 Web サイトにもリンクできます。各コントリビュータは、この同じウィザードを使用してコントリビュータ・アプリケーションでハイパーリンクを作成します。コントリビュータが使用できるオプションは、サイト・デザイナーが要素定義の設定時に制御します (「[Link Settings](#)」の下)。たとえば、リンク先として使用可能なコンテンツの種類を、新規コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント、コンテンツ・サーバー上の既存のファイルおよびローカル・コンピュータ上の既存のファイル (あるいはそのすべて) から決定します。リンク先として使用可能なネイティブ・ドキュメントのファイル・フォーマットを制限することもできます (たとえば、Microsoft Word ドキュメントのみなど)。

デザイナーでは、「DESIGN」ビューでテンプレートを開き、テキストなど、なんらかのページ要素を選択した状態で、書式設定ツールバーの「[Create Hyperlink](#)」アイコン (図 4-31) をクリックするとこのウィザードが起動されます。

図 4-31 「Create Hyperlink」アイコン



図 4-32 Link Wizard



Link Wizard は、プロセスのなかで選択した内容に応じた複数の手順で構成されます。

---

**注意：** ウィザードの手順をより早く進めるには、使用するオプションの左側にある青い矢印をクリックします。これにより、オプションが自動的に選択され、ウィザードが次の手順に進みます。

---

最初の手順では、作成するハイパーリンクのタイプを指定します。

- [Link to a section](#)
- [Link to a File](#)
- [Link to a URL](#)

「Options」をクリックすると、リンク・ターゲットを新しいブラウザ・ウィンドウで開くかどうかを指定できます。必要なリンク・タイプを選択すると、ウィザードが次に進み、選択内容に応じてさらにいくつかの画面が表示されます。

#### Link to a section

「Link to a section」を選択すると、ハイパーリンクの宛先になるサイト・セクションを指定するように求められます。現在の Web サイト上またはコンテンツ・サーバーにある別の Site Studio サイト上のセクションにリンクできます。ターゲット・セクションをサイト階層から選択します。

さらに、ウィザードで表示するように設定されているオプションの中から、URL 形式（パスベースまたは ID ベース）を選択するように求められる場合があります（8-17 ページの「[デフォルトのリンク形式の選択](#)」を参照）。詳細は、後述の「[URL 形式](#)」を参照してください。

最後の手順では、リンクを実際に作成（または変更）する前に確認します。

## Link to a File

「Link to a file」を選択すると、最初にハイパーリンクの宛先になるファイルのタイプを選択するように求められます。サイト・デザイナーが、次の中からリンク先として使用可能なファイルのタイプを決定します。

- **New contributor data file:** 新規コントリビュータ・データ・ファイルへのリンクを選択すると、新規データ・ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインするように求められます（標準のコンテンツ・チェックイン・フォームを使用）。適切なコンテンツ情報（メタデータ）を入力して、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインします。ほとんどの情報は自動的に設定されます。フィールド名が赤くマークされているものは、必須フィールドです（つまり、そのフィールドが空だとアイテムをチェックインできません）。新規コントリビュータ・データ・ファイルは、サイト・コントリビュータがそのファイルをコントリビュータ・エディタで編集するまで空ファイルになっています。

また、ハイパーリンク先のデータ・ファイルを表示する Web サイトのセクションも指定するように求められます。詳細は、後述の「[ターゲット・セクション](#)」を参照してください。

さらに、ウィザードで表示するように設定されているオプションの中から、URL 形式（パススペースまたは ID ベース）を選択するように求められる場合があります（8-17 ページの「[デフォルトのリンク形式の選択](#)」を参照）。詳細は、後述の「[URL 形式](#)」を参照してください。

最後の手順では、リンクを実際に作成（または変更）する前に確認します。

- **New native file:** 新規ネイティブ・ドキュメントへのリンクを選択すると、最初にファイル形式（Microsoft Word など）を選択する必要があります。新規ネイティブ・ドキュメントとして許可されるファイル形式は、サイト・デザイナーが決定します。

次に、新規ネイティブ・ドキュメントをコンテンツ・サーバーにチェックインするように求められます（標準のコンテンツ・チェックイン・フォームを使用）。適切なコンテンツ情報（メタデータ）を入力して、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインします。ほとんどの情報は自動的に設定されます。フィールド名が赤くマークされているものは、必須フィールドです（つまり、そのフィールドが空だとアイテムをチェックインできません）。新規ネイティブ・ドキュメントは、サイト・コントリビュータがそのファイルを関連付けられたサード・パーティ・アプリケーションで編集するまで空ファイルになっています。

また、ハイパーリンク先のネイティブ・ドキュメントを表示する Web サイトのセクションも指定するように求められます。詳細は、後述の「[ターゲット・セクション](#)」を参照してください。

さらに、ウィザードで表示するように設定されているオプションの中から、URL 形式（パススペースまたは ID ベース）を選択するように求められる場合があります（8-17 ページの「[デフォルトのリンク形式の選択](#)」を参照）。詳細は、後述の「[URL 形式](#)」を参照してください。

最後の手順では、リンクを実際に作成（または変更）する前に確認します。

- **Existing file from server:** コンテンツ・サーバー上の既存のファイルへのリンクを選択すると、選択可能なコンテンツ・ファイルがすべて表示された、コンテンツ・サーバー上の標準検索結果のページが表示されます。この検索問合せに使用する基準は、サイト・デザイナーが決定します。リンク先にするコンテンツ・アイテムの横にある「**Select**」ボタンをクリックします。

また、ハイパーリンク先のファイルを表示する Web サイトのセクションも指定するように求められます。詳細は、後述の「[ターゲット・セクション](#)」を参照してください。

さらに、ウィザードで表示するように設定されているオプションの中から、URL 形式（パススペースまたは ID ベース）を選択するように求められる場合があります（8-17 ページの「[デフォルトのリンク形式の選択](#)」を参照）。詳細は、後述の「[URL 形式](#)」を参照してください。

最後の手順では、リンクを実際に作成（または変更）する前に確認します。

- **Existing local file:** 既存のローカル・ファイル（自分のコンピュータ上にあるファイル）へのリンクを選択すると、そのファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインするように求められます（標準のコンテンツ・チェックイン・フォームを使用）。ほとんどの情報は自動的に設定されます。フィールド名が赤くマークされているものは、必須フィールドです（つまり、そのフィールドが空だとアイテムをチェックインできません）。「**Primary File**」フィールドの横にある「**Browse**」ボタンを使用して、コンピュータ上のファイルにナビゲートし、選択します。また、必ずタイトルを指定します。

また、ハイパーリンク先のファイルを表示する Web サイトのセクションも指定するように求められます。詳細は、後述の「**ターゲット・セクション**」を参照してください。

さらに、ウィザードで表示するように設定されているオプションの中から、URL 形式（パスベースまたは ID ベース）を選択するように求められる場合があります（8-17 ページの「**デフォルトのリンク形式の選択**」を参照）。詳細は、後述の「**URL 形式**」を参照してください。

最後の手順では、リンクを実際に作成（または変更）する前に確認します。

- **Current item:** 選択したコンテンツ・ファイルに引き続きリンクし、ハイパーリンクのプロパティ（サイトのターゲット・セクションなど）を変更する場合は、このオプションを選択します。

### Link to a URL

「Link to a URL」（URL は Web アドレス）を選択すると、このオプションの横にあるフィールドに URL を指定できます。URL を指定するまで、ウィザードの先には進めません。これは多くの場合、インターネット上の Web サイトなどの外部 URL になりますが、PDF ファイル、メディア・ファイル、zip ファイルなど、コンテンツ・サーバー上にあるコンテンツ・ファイルに使用されないファイルへのリンクにも役立つ場合があります。

最後の手順では、リンクを実際に作成（または変更）する前に確認します。

### ターゲット・セクション

ウィザードの手順の 1 つで、選択したデータ・ファイルを表示する Web サイトのセクション（ターゲット・セクション）を指定できます。これにより、特定のファイルが実際に格納されているサイトに関係なく、そのファイルを Web サイト上のどこに表示するかを制御できます。たとえば、サイトの「Products」セクションに製品の説明が格納されている場合、「Support」セクションからそのファイルへのリンクを作成し、次に、ハイパーリンクがクリックされたときそのドキュメントが実際に「Support」セクションに表示されるように指定できます。次のオプションから選択できます。

- **Use default Web site section metadata:** このオプションを選択すると、ハイパーリンク先のコンテンツ・ファイルは、コンテンツ・ファイルの Web Site Section metadata フィールドに現在指定されている Web サイト・セクションに表示されます。コンテンツ・サーバーにリンクの URL 形式の選択が許可されている場合、ID ベースの URL 形式を使用する必要があります。
- **Choose a Web site section:** このオプションを選択すると、ハイパーリンク先のコンテンツ・ファイルは、選択した Web サイト・セクションに表示されます（実際にはコンテンツ・ファイルのデフォルトのターゲット・セクションが上書きされます）。現在の Web サイトのセクションでも、コンテンツ・サーバーにある別の Site Studio サイトのセクションでも選択できます。
- **Link to the Content Item's URL:** このオプションを選択すると、ファイルは、Web サイトのフレームワーク内ではなく、コンテンツ・サーバーに格納されている状態に忠実に表示されます。これは PDF ファイルなどのネイティブ・ドキュメントにリンクする場合に便利です。



## URL 形式

コントリビュータにリンクの URL 形式の決定が許可されているかどうかに応じて、リンクの URL 形式を選択するように求められる場合があります。(デザイナーで、このオプションを設定するには、「File」→「Site」→「Advanced」→「Set Default Link Format」を選択します。) 次の URL 形式を選択できます。

- **Path-based URL:** リンクには、ターゲット・ロケーションのパスが含まれます。このタイプのリンクには次の 2 つの選択肢があります。
  - **Absolute Path:** フルパスを生成します。たとえば、  
`<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->products/index.htm`  
 (<!--\$ssServerRelativeSiteRoot--> は Web サイトのルートのパスに置き換えられる) のようになります。
  - **Relative Path:** フルパスではなく相対パスを生成します。たとえば、  
`../products/index.htm` のようになります。

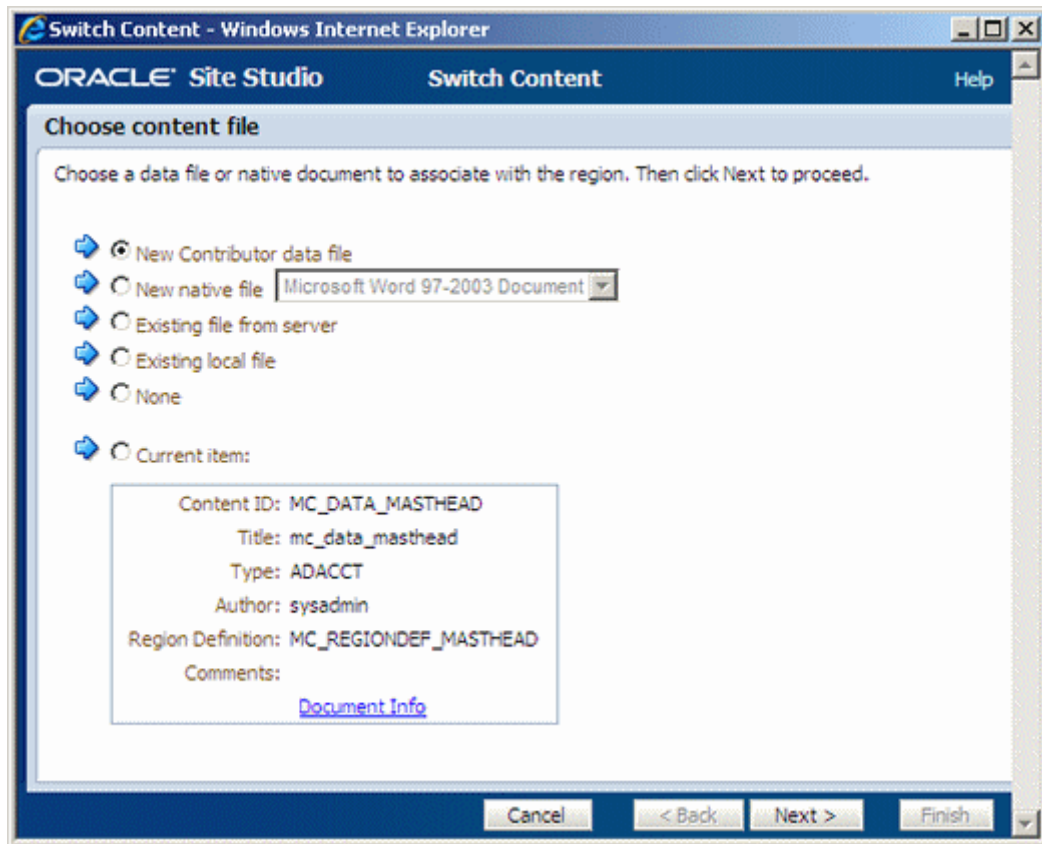
ターゲット・セクションとしてコンテンツ・ファイルのデフォルトの Web サイト・セクションを使用するように選択している場合、このオプションは選択できません。
- **ID Based URL:** リンクには、パススペースの名前ではなく、ターゲットの場所をコード化した ID が含まれます。このタイプのリンクには 3 つの選択肢があります。
  - **Client Side Script Format:** クライアント側の JavaScript を使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、`javascript:nodelink('10024');` のようになります。
  - **Server Side Script Format:** サーバー側の Idoc スクリプトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、`[!--$wcmUrl('nodelink','10024')--]` のようになります。
  - **URL Token Format:** サーバーでリダイレクトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、`ssNODELINK/10024` のようになります。

## 4.12 Switch Content ウィザード

Switch Content ウィザードは、Web ページ上のコントリビューション・リージョンに割り当てられているコンテンツを変更する場合に使用します (または、何も割り当てられていない場合はコンテンツの割当てに使用します)。各コントリビュータは、この同じウィザードを使用してコントリビュータ・アプリケーションでコンテンツの割当てまたは切替えを行います。コントリビュータが使用できるオプションは、サイト・デザイナーがリージョン定義の設定時に制御します。たとえば、割当て先として使用可能なコンテンツの種類を、新規コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント、コンテンツ・サーバー上の既存のファイルおよびローカル・コンピュータ上の既存のファイル (あるいはそのすべて) から決定します。割当て先として使用可能なネイティブ・ドキュメントのファイル・フォーマットを制限することもできます (たとえば、Microsoft Word ドキュメントのみなど)。さらに、コンテンツとコントリビューション・リージョンの関連付けをまとめて削除できるように指定することもできます。

デザイナーでは、Switch Content ウィザードは「Assign Region Content」ダイアログ (A-91 ページの「[Assign Region Content](#) ダイアログ」を参照) に表示された Web ページから起動します。このダイアログは、サイト階層でセクションの割り当てられているプライマリ・ページまたはセカンダリ・ページを右クリックし、「Assign Content」を選択して起動します。ページは、基本的にコントリビューション・モードで表示されるため、コントリビューション・グラフィックのメニューで右クリックして、関連付けられているプレースホルダのコンテンツを切り替えることができます (または、コンテンツがまだ割り当てられていない場合は割り当てることができます)。

図 4-33 Switch Content ウィザード



Switch Content ウィザードは、現在のコントリビューション・リージョンのプロパティとプロセスのなかで選択した内容に応じた複数の手順で構成されます。

---

**注意：** ウィザードの手順をより早く進めるには、使用するオプションの左側にある青い矢印をクリックします。これにより、オプションが自動的に選択され、ウィザードが次の手順に進みます。

---

#### リージョン定義またはサブテンプレートの選択

コントリビューション・リージョンの設定方法に応じて、最初に、リージョン・コンテンツのベースとなるリージョン定義またはサブテンプレートを選択するように求められます。

リージョン定義を選択する場合、そのコントリビューション・リージョンをコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントに直接関連付けます（ウィザード内の後半で選択）。コンテンツが、選択したリージョン定義と関連付けられたリージョン・テンプレートに従ってコントリビューション・リージョンに表示されます。コントリビューション・リージョンに（プレースホルダ定義で）使用できるリージョン定義は、サイト・デザイナーが制御します。

サブテンプレートを選択する場合、コントリビューション・リージョンを、リージョンの外観を定義し、通常はそれをより小さいコントリビューション・リージョン（それぞれに別個のコンテンツを割り当てる必要がある）に分割するサブテンプレートに関連付けます。コントリビューション・リージョンに（プレースホルダ定義で）使用できるサブテンプレートは、サイト・デザイナーが制御します。

## コンテンツの選択

ウィザードで選択した内容に応じて、コントリビューション・リージョンに関連付けられるコンテンツ・ファイルのタイプを選択するように求められる場合があります。選択可能なコンテンツ・ファイルのタイプは、リージョン定義内の設定によって異なります。次のオプションを選択します。

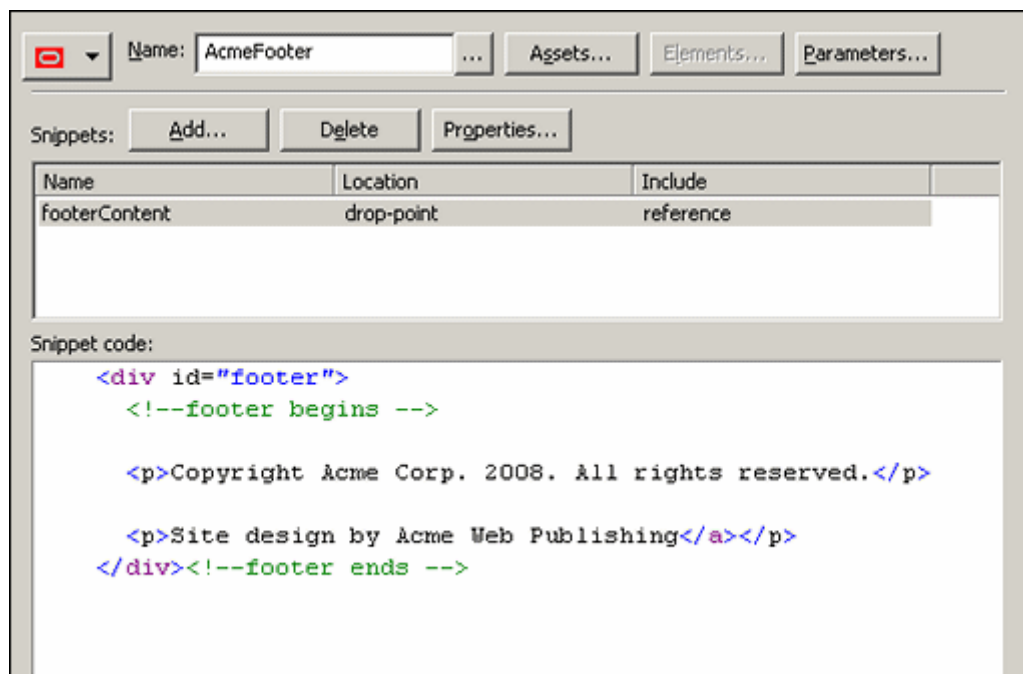
- 新規のコントリビュータ・データ・ファイルを使用するには、「**New Contributor data file**」を選択します。コンテンツ・チェックイン・フォームが表示され、そこでコントリビュータ・データ・ファイルのメタデータを指定し、ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。ファイルは、コントリビュータがそのファイルをコントリビュータ・エディタで編集するまで空の状態です。
- 新規のネイティブ・ドキュメントを使用するには、「**New native file**」を選択し、ファイル形式を選択します。（選択可能なファイル形式はリージョン定義に設定されています。）コンテンツ・チェックイン・フォームが表示され、そこでネイティブ・ドキュメントのメタデータを指定し、ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。必須のメタデータ・フィールドはすべて赤でマークされています。ファイルは、コントリビュータがそのファイルをネイティブ・アプリケーションで編集するまで空の状態です。
- コンテンツ・サーバーの既存のファイルを使用するには、「**Existing file from server**」を選択します。コンテンツ・サーバー上にあるすべてのアイテムがリストされた検索結果のページが表示され、そこでファイルを選択できます。（検索問合せの基準はリージョン定義に設定されています。）使用するファイルを、関連付けられている「**Select**」ボタンをクリックして選択します。
- コンピュータにある既存のファイルを使用するには、「**Existing local file**」を選択します。コンテンツ・チェックイン・フォームが表示され、そこでファイルのメタデータを指定し、ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。必須のメタデータ・フィールドはすべて赤でマークされています。「**Primary File**」フィールドの横にある「**Browse**」ボタンを使用して、コンピュータ上の使用するファイルにナビゲートし、選択します。
- コンテンツ・ファイルとコントリビューション・リージョンの既存の関連付けを削除するには、「**None**」をクリックします。これによって、コントリビューション・リージョンはコンテンツ・ファイルが割り当てられていない状態になります。

## 4.13 フラグメント・エディタ

フラグメント・エディタは、フラグメントの作成と編集に使用します。フラグメントを編集するには、ツールボックス（4-16 ページの「[ツールボックス](#)」を参照）でフラグメントを右クリックし、「Edit」または「Copy and Edit」（読取り専用フラグメントの場合）を選択します。これにより、フラグメント・エディタにフラグメントが表示されます。（最初にフラグメントのプロパティのダイアログが表示された場合は、そこで情報を指定してからフラグメントの編集を開始する必要があります。）フラグメントを作成するには、「File」→「Fragments」→「New」を選択します。

フラグメント・エディタは、状況によってダイアログまたはタブとして表示されます。詳細は、4-6 ページの「[ダイアログとタブ](#)」を参照してください。

図 4-34 フラグメント・エディタ



フラグメントは、単純なコピーライト文から複雑な一連のスクリプト関数まで、多くの形式で表現されます。任意のコード部分をフラグメントに変換できます。フラグメント・エディタは、このコードと、フラグメントを構成する次の各部分を管理するのに役立ちます。

- **プロパティ**: フラグメントのプロパティは、名前、タイプ、スクリプト言語など、フラグメントを識別する特性です。
- **スニペット**: スニペットは、フラグメントを構成するコードの個々の断片です（この断片は単なるテキストの場合もあります）。このコードは、フラグメント・エディタの「SOURCE」ビューまたは「DESIGN」ビューで作成および編集できます（サイト・テンプレートの「SOURCE」および「DESIGN」ビューと同様です）。フラグメントにスクリプト・コードが含まれる場合、正しいスクリプト構文を理解する必要があります。
- **アセット**: アセットは、フラグメント内から参照されるファイルです。グラフィック、Cascading Style Sheet (CSS) または JavaScript ファイルは、すべて一般的に使用されるアセットです。フラグメントに追加されたアセットは、そのフラグメントの一部となります。
- **要素**: 要素は、静的リストの生成に使用されるフラグメントに追加します。要素をこのように使用することで、各コントリビュータは、リストの編集、行の追加、行の削除などを行うことができます。

- **パラメータ:** パラメータは、フラグメントの外観と動作を制御する属性です。フラグメントの作成時にパラメータの独自のセットを指定して、フラグメントをページ・テンプレートに追加する際にそれらのパラメータを選択できます。

フラグメント・エディタの詳細は、9-12 ページの「[フラグメント・エディタの使用](#)」を参照してください。

## 4.14 コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント

コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントは、コントリビュータがサイトに発行するコンテンツを格納するために使用されます。どちらのファイルも、プライマリ・ページのコントリビューション・リージョンに直接割り当てるか、ハイパーリンクまたは動的リストのターゲットとして追加できます（この場合、ファイルはセカンダリ・ページに表示されます）。

ただし、2つのファイルを開いて編集する方法は次のようにそれぞれ異なります。

- **コントリビュータ・データ・ファイル:** コントリビュータ・データ・ファイルは、Site Studio で生成された XML ファイルであり、コントリビュータ・アプリケーションで開いて編集するように設計されています。このファイルは、即座に更新されて Web ページに追加されます。
- **ネイティブ・ドキュメント:** ネイティブ・ドキュメントは、サード・パーティ製のファイルであり、それを最初に作成したときのアプリケーション（たとえば、Word ドキュメントの場合は Microsoft Word）を使用して参照および編集します。ファイルは、閉じられると（Dynamic Converter を使用して）Web ページに変換され、Web ページで使用できるようになります。

サイトでこれらのファイルを使用するには、ページ・テンプレートに編集可能な領域（コントリビューション・リージョン）を作成し、そのプレースホルダにデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てる必要があります。データ・ファイルを使用する場合、各リージョン定義に1つ以上の要素も追加する必要があります。各要素は、コントリビュータ・アプリケーションにフィールドとして表示され、ユーザーはコンテンツを追加および編集できます。各要素（要素定義）内でコントリビュータが使用できる編集オプションは、サイト・デザイナーが制御します。

コントリビューション・リージョンを設定したら、「Assign Region Content」ダイアログ（A-91 ページの「[「Assign Region Content」ダイアログ](#)」を参照）を使用してこれらのファイルのいずれかをリージョンに割り当てます。このダイアログは、「Assign Content」アイコン（[図 4-35](#)）をクリックすることでいつでも使用できます。

図 4-35 「Assign Content」アイコン



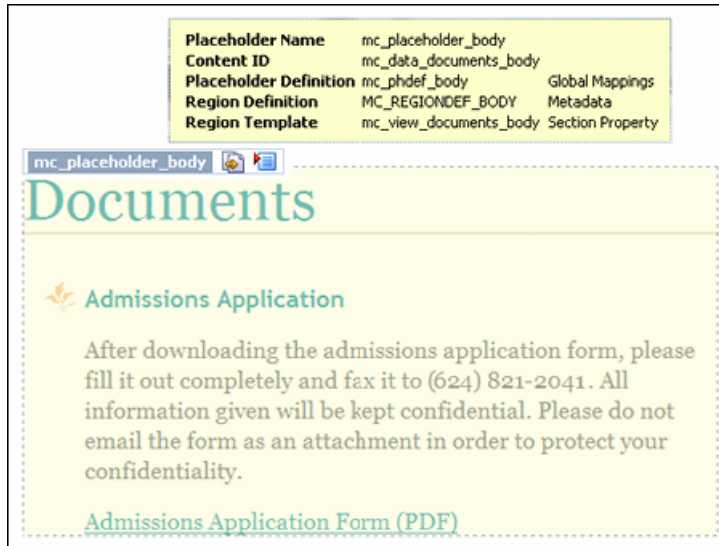
「Assign Region Content」ダイアログを最初に起動すると、左側にはサイト階層が表示され、右側には1つ以上のコントリビューション・リージョンを含んだページ・テンプレートが完全にレンダリングされて表示されます。各コントリビューション・リージョンには独自のコントリビューション・グラフィックがあり、コントリビューション・リージョンの名前、ステータス / 編集アイコンおよびメニュー・アイコンが表示されます（[図 4-36](#)）。

図 4-36 コントリビューション・グラフィック



マウス・カーソルをコントリビューション・グラフィックの上に置くと、関連付けられたコントリビューション・リージョンが黄色いボックスでマークされます。これが、選択したコントリビューション・グラフィックを使用して編集可能なコンテンツです。さらに、コントリビューション・リージョンに関する役に立つサイト設計情報（関連付けられたプレースホルダ名と定義、関連付けられたコンテンツ・ファイルのコンテンツ ID および関連付けられたリージョン定義とテンプレートなど）を提供するツールチップが表示されます（図 4-37）。

図 4-37 Web ページ上のマークされたコントリビューション・リージョンとツールチップ



サイト・セクションのページ上のコントリビューション・リージョンのなかに、まだコンテンツが割り当てられていないのがあると、サイト階層でそのセクションのフォルダ・アイコンに赤い「X」が表示されます（図 4-38）。

図 4-38 赤い X アイコン



リージョンごとに、新しいデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを指定するか、既存のファイルを再利用できます。Web サイトの特定のページに一意の新規コンテンツを表示する場合は、新規ファイルを指定する必要があります。Web サイトの複数のページに同じコンテンツを表示する場合は、既存のファイルを再利用します（ページ・テンプレートなど、その他のサイト・アセットを再利用する場合の方針決定と同様です）。

---

**注意：** コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントは、他のコンテンツ・アイテムのようにコンテンツ・サーバーに格納されます。したがって、デザイナーはファイルごとに異なるメタデータまたはセキュリティを選択できるため、コントリビュータが閲覧できる内容は、それぞれのログイン資格証明に基づいて制限されます。

---



### コントリビュータによるファイルの作成の許可

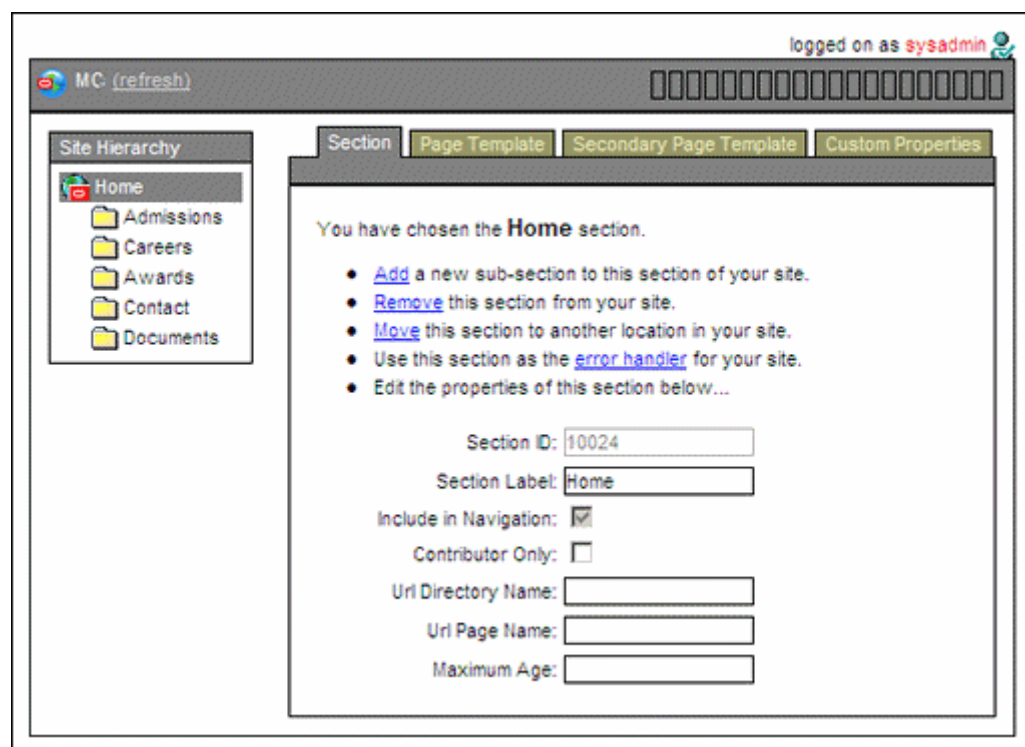
デザイナーは、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントをリージョンに割り当てる以外に、各コントリビュータが Web サイトに独自のデータ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメントを作成することを許可できます。

これにより、サイトにまったく新しい側面が追加されます。つまり、コンテンツが作成されるたびにデザイナーがセクションやページ・テンプレートを作成することなく、サイトは成長を続けることが可能になります。これを行うには、サイトへのファイルの追加を各コントリビュータに許可し（要素定義で許可されるアクション）、それらのファイルを表示できるサイト上の領域（セカンダリ・ページにおける置換え可能なリージョン）を設定する必要があります。

## 4.15 Site Studio マネージャ

Site Studio デザイナを使用して Web サイトを作成およびデプロイしたら、そのサイトを管理するユーザーにサイトの管理責任を譲渡できます。これは、Web ベースのアプリケーションである Site Studio マネージャを使用して行います。

図 4-39 Site Studio マネージャ・アプリケーション



マネージャを使用するには、マネージャ機能が有効化されている Web ページに移動します（第 12 章「マネージャの設定」を参照）。実装方法に応じて、マネージャは常に表示されるか、またはコントリビューション・モードでのみ表示されます。マネージャは、各ページまたはサイトの指定セクションから起動できます。

マネージャでは、サイト階層、セクションに関連付けられたページ・テンプレート、セクションのプロパティなどを変更できます。サイト・マネージャは、効果的にサイトを管理するため、マネージャでのみ作業するか、マネージャとコントリビュータの両方で作業するかを選択できます。

マネージャおよびコントリビュータ・アプリケーションをサイトに導入する場合、2つのアプリケーションを使用する方法と、2つのアプリケーションを各マネージャとコントリビュータが併用する方法について検討する必要があります。デザイナーは、マネージャとコントリビュータにその役割と責任に関する情報を提供する必要があります。

マネージャの使用方法の詳細は、『Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド』を参照してください。

## 4.16 Site Studio コントリビュータ

Site Studio デザイナで Web サイトを作成およびデプロイしたら、そのサイトでコンテンツを追加および更新するユーザーに権限を譲渡できます。これらのユーザーは、コントリビュータと呼ばれ、コントリビュータ・アプリケーションを使用してサイトを更新します。

サイトのデザイナーもコントリビュータ・アプリケーションを使用できますが、頻繁に使用するのには、サイト・コントリビューションをテストする場合、サイトにサンプル・ページを移入する場合、または破損したページを修正する場合です。

コントリビュータを起動するには、(デザイナーで設定された) 編集可能なコントリビューション・リージョンを含む Web ページに移動し、ページ・ビューをコントリビューション・モードに変更します (状況によっては Web サイトにログインするように求められます)。その後、ページ上のコントリビューション・グラフィックをクリックして、コントリビュータでそのページの編集を開始できます。

次の項で、コントリビュータの概要情報について説明します。

- 4-36 ページの「[コントリビュータの起動](#)」
- 4-38 ページの「[コントリビュータ・エディタ](#)」
- 4-39 ページの「[コントリビュータとワークフロー](#)」

### 4.16.1 コントリビュータの起動

コントリビュータ・アプリケーションを起動するには、コントリビューション・リージョンが含まれる Web ページに移動し、キーボードのキーストロークの組合せ (デフォルトは **[Ctrl]+[Shift]+[F5]**) を使用してコントリビューション・モードを有効にします。その後、ログイン資格証明を入力するよう求められます。

コントリビューション・モードに入っていることは、画面の一番上にある細長い「Contribution Mode」バーからわかります。また、プレースホルダごとに1つずつ、ページ上に1つ以上のコントリビューション・グラフィック (図 4-40) も表示されます。

図 4-40 コントリビューション・グラフィック



各コントリビューション・グラフィックは、コントリビュータまたはサード・パーティ・アプリケーション (ネイティブ・ドキュメントの使用時) で開いて編集できる、Web ページ上の編集可能な領域を示します。プレースホルダ名が最初にリストされ、次に編集アイコンとメニュー・アイコンが続きます。編集するには、編集アイコンをクリックするか、メニュー・アイコンをクリックして「Edit」を選択します。

次のことに注意してください。

- コントリビューション・グラフィックの数は、ページの編集可能領域の数とコントリビュータのログイン資格証明に応じて変化します (デザイナーがサイトのファイルごとに異なるセキュリティを設定している場合)。
- コントリビューション・グラフィック内には様々な意味を持つ様々なアイコンが表示される場合があります。コンテンツがプレースホルダに割り当てられていない場合、グラフィックには小さい緑のプラス (+) 記号 (図 4-41) が表示されます。

図 4-41 コンテンツが割り当てられていないことを示すコントリビューション・グラフィック





コントリビュータにリージョン・コンテンツを切り替えるアクセス権がある場合、グラフィックには小さい黄色の矢印 (図 4-42) が表示されます。

図 4-42 コンテンツが切替え可能であることを示すコントリビューション・グラフィック



コンテンツがワークフロー内にある場合、コントリビューション・グラフィックの左側にある緑の歯車アイコン (図 4-43) で示されます。

図 4-43 ワークフローを示すコントリビューション・グラフィック

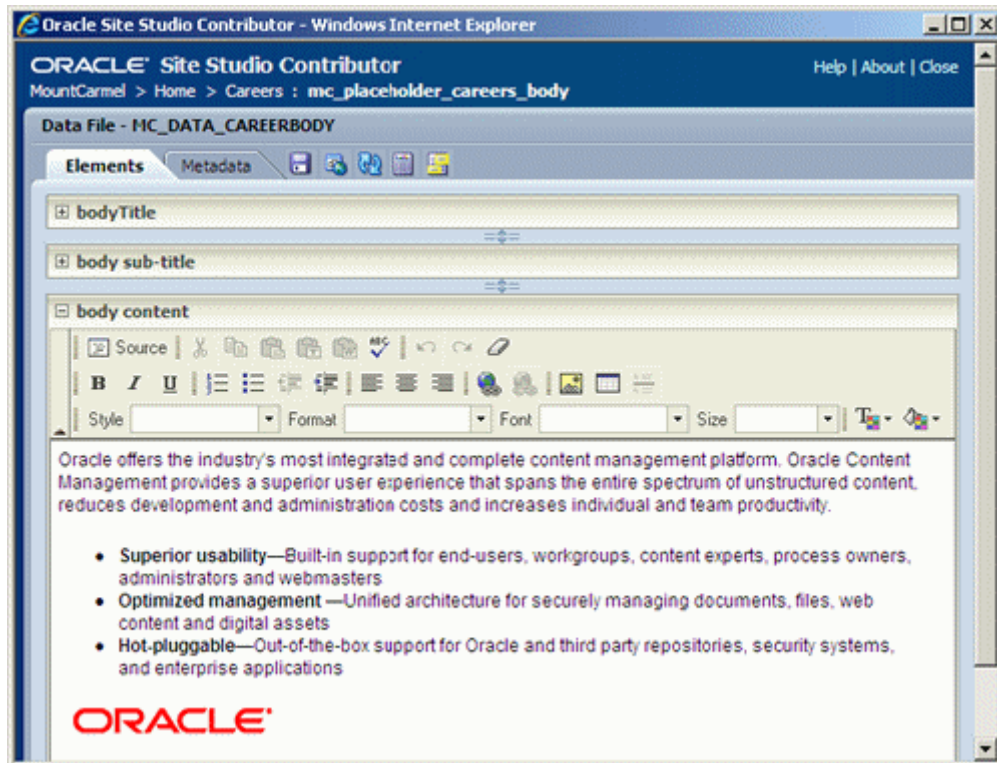


- デフォルトのキーストロークの組合せ ([Ctrl]+[Shift]+[F5]) を変更する方法の詳細は、『Site Studio インストラクション・ガイド』を参照してください。
- どの Web ページにコントリビューション・リージョンが含まれるか、およびそのうちのどのリージョンを編集する必要があるかを指示するため、デザイナーは、Web ページの URL を転送するか、ワークフローを使用してコントリビュータに通知する必要があります。

## 4.16.2 コントリビュータ・エディタ

Web ページのコントリビューション・リージョンを編集することを選択すると、コントリビュータ・エディタがブラウザ・ポップアップ・ウィンドウ内で起動し (図 4-44)、現在のコントリビューション・リージョンのコンテンツの編集を開始できます。このブラウザ・ポップアップ・ウィンドウが、ポップアップ・ブロック・ソフトウェアによって抑制されている場合があります。その場合は、サイトでのポップアップを許可するようにそのソフトウェアを構成する必要があります。また、コントリビュータ・エディタが起動すると、元の Web ページを表示している Web ブラウザが一時的に使用できなくなります。コントリビュータ・エディタを閉じると、Web ブラウザに戻ることができます。

図 4-44 コントリビュータ・エディタ



コントリビュータのインターフェースは、ワード・プロセッサ・プログラムのインターフェースとよく似ています。テキスト、イメージ、ハイパーリンクなどを追加、削除および編集できます。単純または複雑なリストを管理できるリスト・オプションもあります。コントリビュータの外観と動作は、デザイナーで各コントリビューション・リージョンおよび要素がどのように設定されているかによって変化します。サイトのデザイナーは、コントリビュータのインターフェースを平易で単純なものに、または高度で強力なものにするように、コントリビューション・リージョンを設定および変更できます。

エディタのメイン・ウィンドウは次の様々な要素で構成されています。

- ページ・ヘッダーには、サイト階層内の Web ページのパスと、編集中のコントリビューション・リージョンの名前が含まれます。
- 「Data File」には、コンテンツ・サーバーにある、編集可能なコントリビューション・リージョンに関連付けられたデータ・ファイルのコンテンツ ID が表示されます。
- 「Elements」タブは、コントリビューション・リージョンのすべての要素に対する編集環境を提供します。編集中のコントリビューション・リージョンに実際に表示されているのが一部の要素のみの場合でも、関連付けられたデータ・ファイル内のすべての要素が表示されます。(コントリビューション・リージョンに実際に表示されない情報は Web サイトの別の場所で使用されている場合があるため、その情報を編集するとサイトの他のページに影響を与える可能性があります。)
- 「Metadata」タブには、編集可能なコントリビューション・リージョンに関連付けられたデータ・ファイルのコンテンツ情報 (メタデータ) が表示されます (サイト・デザイナーがコントリビューション・リージョンにメタデータを使用できるように選択した場合のみ)。
- コントリビューション・ツールバーでは、コントリビューション・リージョン全体に適用する一連の機能を提供します。データ変更の保存またはプレビュー、現在のビューのリフレッシュ、データ・ファイルの使用状況レポートの起動、および Web ページに加えられた変更の表示を行うことができます。
- 1つ以上の編集領域。Web ページのコントリビューション・リージョンに関連付けられたコントリビュータ・データ・ファイル内の要素ごとに1つずつあります。これらの編集領域で、テキストの入力やドキュメントの書式設定を行います。
- 編集領域の要素ツールバーでは、編集するコンテンツのタイプに関連する編集機能を提供します。サイト・デザイナーが、要素タイプごとに使用可能な編集オプションを制御します。

### 4.16.3 コントリビュータとワークフロー

サイトにコンテンツを投稿する以外に、各コントリビュータは、コンテンツの確認と承認を担当することがあります。この作業は、組織のレビューアが単独で担当することもあります。コンテンツを確認および承認するプロセスは、ワークフローと呼ばれます。

ワークフローは、コンテンツ・サーバーの既存のワークフロー機能を使用して Site Studio で作成します。この作業に慣れていれば、通常は、ワークフロー・プロセスを迅速にサイトに導入できます。ワークフローは、Web ページ上のコントリビューション・リージョンに割り当てられたコンテンツに対して有効化できます。コントリビュータがその Web ページに新規データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを追加すると、コンテンツは自動的にワークフローに移行します (ページが承認プロセスを通過せずに稼働状態になることはありません)。

ワークフローに参加する場合、レビューアは、ワークフローの電子メール・メッセージにあるリンクをクリックし、確認が必要な Web ページに移動します (ページはコントリビューション・モードになります)。レビューアは、コントリビューション・グラフィックのワークフロー・アイコン (図 4-45) を右クリックし、「Approve Document」、「Reject Document」または「Edit」を選択できます。

図 4-45 ワークフローのコントリビューション・アイコン



レビューアが「Approve Document」を選択すると、ワークフローの次のレビューアに同様の電子メール・メッセージが送信されます。レビューアがワークフローの最後のレビューアの場合、「Approve Document」をクリックすると、コンテンツは実際の (稼働状態の) Web サイトに表示されます。

レビューアが「Reject Document」を選択すると、ワークフローの前のレビューアに電子メールが送信されます。レビューアが「Edit」をクリックすると、コンテンツを編集できるようにコントリビュータが起動します。詳細は、14-2 ページの「コントリビュータのワークフローの使用状況」および『Site Studio コントリビュータ・ガイド』を参照してください。

完全なワークフロー・プロセスは、コンテンツ・サーバーでのワークフローの設定方法に応じて変化します。詳細は、[第 14 章「ワークフローの使用方法」](#) および Content Server のマニュアルを参照してください。

## 4.17 コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページ

「Site Studio Administration」ページは、コンテンツ・サーバーへの Site Studio コンポーネントのインストール時に作成され、「Content Server Administration」ページからアクセスできません。

このページを使用して、Web サイトのための複数の管理タスクを実行します（一部のタスクはデザイナーでも実行できます）。「Site Studio Administration」ページの使用により、Web サイトに関する情報の表示、サイトの開始と停止、サイトのレプリケート、サイトのアップグレードなどが可能になります。

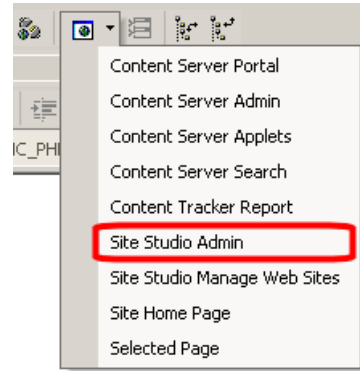
このページには、次のオプションがあります。

- **Manage Web Site:** 「Manage Web Sites」ページを開きます。このページで、各サイトの表示、ナビゲーションの更新、サイト・レポートの表示、サイトの停止と開始、およびサイトのリロードができます。
- **Manage Web Site Addresses:** 「Manage Web Site Addresses」ページを開きます。このページで、Web サイトを示すドメイン・アドレスを追加できます。
- **Manage Fragment Libraries:** 「Manage Fragment Libraries」ページを開きます。このページで、フラグメント・ライブラリをデプロイし、必要に応じて JSP サポートを構成できます。
- **Set Default Project Document Information:** 「Set Project Default Document Information」ページを開きます。このページで、(デザイナーで作成した) プロジェクト・ファイルに割り当てるデフォルト・メタデータを指定できます。
- **Manage Site Replication:** 「Manage Site Replication」ページを開きます。このページで、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをレプリケートできます。
- **Backup and Restore:** 「Backup and Restore」ページを開きます。このページで、Web サイトのバックアップの作成や、Web サイトのバックアップからのリストアができます。
- **General Component Information:** 「General Component Information」ページを開きます。このページで、サイトに関する有益な情報（バージョン、Site Studio 固有のメタデータ、ディレクトリ・パスなど）を参照できます。

これらの各オプションの詳細は、『Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド』を参照してください。

Content Server のユーザー・インターフェースを使用する以外にも、デザイナーのサイト・ツールバーで「View Pages」アイコンの横にある下向き矢印をクリックし、「Site Studio Admin」を選択すると、「Site Studio Administration」ページを簡単に開くことができます (図 4-46)。これにより、デザイナーが現在接続している、サイトをホストするコンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページが表示されます。

図 4-46 「View」メニューの「Site Studio Admin」オプション





---

---

## デザイナーのカスタマイズ

デザイナー・インタフェースにより、Web サイトを作成および管理するための優れた作業環境が提供されます。最初にデザイナーを起動すると、5つの主な作業領域が表示されます。つまり、左側に「Site Hierarchy」ペインとオンスクリーンの「Properties」ペイン、中央に作業領域と「Site Assets」ペイン、右側に「Toolbox」が表示されます（4-2 ページの「[デザイナーのメイン・ウィンドウ](#)」を参照）。

作業領域と各ペインの配置は、単なるデフォルトです。一般的なアプリケーションのように、インタフェースは必要に応じてすべてカスタマイズできます。たとえば、各ペインの隠蔽、移動およびサイズ変更を行うことや、使用可能なメニューとツールバーの変更、キーボード・ショートカットの追加または変更を行うことが可能です。

この項の内容は次のとおりです。

- 5-2 ページの「[デザイナーのペインのカスタマイズ](#)」
- 5-3 ページの「[「Customize」ダイアログの使用](#)」
- 5-4 ページの「[新規メニューの作成](#)」
- 5-5 ページの「[ツールバーのカスタマイズ](#)」
- 5-6 ページの「[「Tools」メニューへのショートカットの追加](#)」
- 5-8 ページの「[キーボード・ショートカットの割当て](#)」
- 5-8 ページの「[メニューのカスタマイズ](#)」
- 5-10 ページの「[表示オプションの設定](#)」
- 5-10 ページの「[「SOURCE」ビューのコードの書式設定](#)」
- 5-11 ページの「[警告メッセージの表示または非表示](#)」
- 5-11 ページの「[その他のオプションの設定](#)」
- 5-12 ページの「[ログ・ファイル設定の変更](#)」

## 5.1 デザイナのペインのカスタマイズ

デザイナでは、各ウィンドウおよびペインの場所と配置を変更して、作業環境を変更できます。たとえば、次のことを実行できます。

- 5-2 ページの「ペインの表示または非表示」
- 5-2 ページの「ペインのサイズ変更」
- 5-3 ページの「ペインの移動または別の枠線へのドッキング」

### 5.1.1 ペインの表示または非表示

デザイナのペインおよびツールバーの表示と非表示を切り替えるには、次の手順を実行します。

1. 「View」をクリックします。
2. インタフェースに表示する項目または表示しない項目をクリックします。

「Site Hierarchy」ペイン、「Properties」ペイン、「Site Assets」ペイン、ツールボックス、ステータス・バー、標準ツールバー、サイト・ツールバー、書式設定ツールバーおよび表ツールバーの表示と非表示を切り替えることができます。

図 5-1 インタフェース項目の表示と非表示



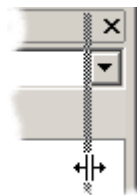
3. 選択したウィンドウまたはツールバーが、デザイナ・インタフェースに表示されるか、非表示になります。

### 5.1.2 ペインのサイズ変更

デザイナのペインのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. ペインの枠線の上にマウス・カーソルを置きます。
2. 枠線をクリックしてドラッグし、ペインのサイズを変更します。

図 5-2 ペインの枠線のドラッグ



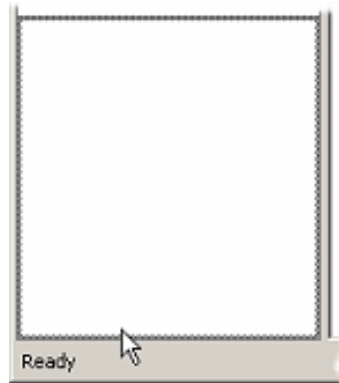


### 5.1.3 ペインの移動または別の枠線へのドッキング

デフォルトでは、「Site Hierarchy」ペインと「Properties」ペインは左側にドッキングしており、「Toolbox」は右側にドッキングしています。これらのペインは移動することが可能で、デザイナの別の枠線にドッキングすることもできます。

1. 移動するペインのタイトル・バーを選択します。
2. ペインをクリックして別の場所にドラッグし、マウス・ボタンを離します。
3. 別の枠線にウィンドウをドッキングするには、ペインをクリックして新しい枠線までドラッグし、領域を囲むグレーのボックスが表示されたらマウス・ボタンを離します。

図 5-3 ペインのドッキング



## 5.2 「Customize」ダイアログの使用

各ペインのサイズや場所を変更できるだけでなく、デザイナ・インタフェースをカスタマイズできます。「Customize」ダイアログで、キーボード・コマンド、右クリック・メニュー、外部アプリケーションへのショートカットなどをカスタマイズできます。「Customize」ダイアログを表示するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。  
「Customize」ダイアログが表示されます（A-4 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）。
2. 必要な変更を行って「Close」をクリックします。

### ダイアログのタブ

「Customize」ダイアログには、次のタブがあります。

- **Commands:** このタブは、メニュー・バーにメニューを追加する場合や、メニューおよびツールバーにコマンドを追加する場合に使用します。5-4 ページの「[新規メニューの作成](#)」を参照してください。
- **Toolbars:** このタブは、ツールバーをカスタマイズする場合に使用します。5-5 ページの「[ツールバーのカスタマイズ](#)」を参照してください。
- **Tools:** このタブは、外部アプリケーションへのショートカットを追加する場合に使用します。ショートカットは、「Tools」メニューに表示されます。5-6 ページの「[「Tools」メニューへのショートカットの追加](#)」を参照してください。
- **Keyboard:** このタブは、デザイナのコマンドにキーボード・ショートカットを割り当てる場合に使用します。5-8 ページの「[キーボード・ショートカットの割当て](#)」を参照してください。
- **Menu:** このタブは、デザイナのメニューをカスタマイズする場合に使用します。5-8 ページの「[メニューのカスタマイズ](#)」を参照してください。

- **Options:** このタブは、画面上のヒント、ツールバーの大きなアイコン、およびパーソナライズ・メニューを表示する場合に使用します。5-10 ページの「[表示オプションの設定](#)」を参照してください。
- **Source View:** このタブは、ページ・テンプレートの「SOURCE」ビューに表示されるテキストのフォント、サイズおよびその他の書式設定を制御する場合に使用します。5-10 ページの「[「SOURCE」ビューのコードの書式設定](#)」を参照してください。
- **Warning Dialogs:** このタブは、デザイナーでの作業時に表示される警告の表示と非表示を切り替える場合に使用します。5-11 ページの「[警告メッセージの表示または非表示](#)」を参照してください。
- **Miscellaneous:** このタブは、デザイナーの起動時におけるその他の特定のオプションを指定する場合に使用します。5-11 ページの「[その他のオプションの設定](#)」を参照してください。
- **Log File:** このタブは、ロギング・オプションを指定する場合に使用します。5-12 ページの「[ログ・ファイル設定の変更](#)」を参照してください。

## 5.3 新規メニューの作成

「Customize」ダイアログの「Commands」タブ（A-4 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Commands」タブ](#)」を参照）では、デザイナーのメニュー・バーで使用できるメニューとコマンドを参照して、メニューを作成して、このタブに表示されているメニューのコマンドを移入できます。「Toolbars」タブのオプションと組み合わせると、よく使用するコマンドがまとめて表示されたツールバーを作成できます（この場合もこのタブのコマンドをコピーします）。

メニューを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Commands」タブの「Categories」で、「New Menu」をクリックします。
3. 「Commands」で、「New Menu」をクリックし、マウス・ボタンを押したままにします。  
小さなアイコンが表示されます。
4. アイコンをメニュー・バーにドラッグします。マウス・ボタンを離します。  
メニュー・バーに「New Menu」というメニューが表示されます。
5. メニュー・バーの「New Menu」をクリックすると、メニュー名の下に空の領域が表示されます。  
他のメニューからこの領域にコマンドをドラッグ・アンド・ドロップし、メニューを作成できます。
6. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

### 注意

- 作成したメニューの名前は、メニューを右クリックしてポップアップ・メニューの「Button Appearance」をクリックすることで変更できます。
- 「Toolbars」タブでツールバーを作成する方法の詳細は、5-5 ページの「[ツールバーのカスタマイズ](#)」を参照してください。ツールバーを作成したら、「Commands」タブのコマンドをそのツールバーにドラッグ・アンド・ドロップできます。（ドラッグ・アンド・ドロップを使用する場合、コマンドはツールバーにコピーされます。コマンドは、元のメニューでも引き続き使用できます。）
- デザイナーの右クリック・ポップアップ・メニューをカスタマイズする方法の詳細は、5-8 ページの「[メニューのカスタマイズ](#)」を参照してください。
- 作成したメニューを削除するには、メニューをクリックし、マウス・ボタンを押したままメニュー・バーからドラッグして、別の場所でマウス・ボタンを離します。

## 5.4 ツールバーのカスタマイズ

「Customize」ダイアログの「Toolbars」タブ（A-5 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Toolbars」タブ](#)」を参照）では、デザイナーで使用できるツールバーの表示と非表示を切り替えるオプションを設定できます。ツールバーを作成して「Commands」タブのコマンドを移入することや、作成したツールバーを削除することもできます。また、元のツールバーから以前に削除したアイコンを復元することも可能です。

次のことを実行できます。

- 5-5 ページの「[ツールバーの表示と非表示](#)」
- 5-5 ページの「[新規ツールバーの作成](#)」
- 5-6 ページの「[ツールバーのリセット](#)」

### 5.4.1 ツールバーの表示と非表示

ツールバーの表示と非表示を切り替えるには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Toolbars」タブをクリックします。
  - ツールバーを表示するには、適切なチェック・ボックスを選択します。
  - ツールバーを非表示にするには、適切なチェック・ボックスを選択解除します。
3. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

「View」メニューのドロップダウン・リストで適切なツールバーの名前をクリックし、ツールバーの表示と非表示を直接切り替えることもできます。ツールバー・アイコンに説明テキストを表示する場合は、「Show text labels」を選択します。

### 5.4.2 新規ツールバーの作成

ツールバーを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Toolbars」タブで、「New」をクリックします。
2. 「Toolbar Name」ダイアログで、ツールバーの名前を入力し、「OK」をクリックします。  
ツールバーの名前が「Toolbars」列に表示されます。ツールバー・アイコンが名前の反対側に表示されます。
3. 「Toolbars」タブから、デザイナーの他のツールバーと関連する適切な位置にツールバー・アイコンをドラッグします。マウス・ボタンを離すと、ツールバー・アイコンは、空のツールバーを示すように変化します。
4. ツールバーにコマンドを移入するには、「Commands」タブを表示してツールバーに追加する個々のコマンドを識別し、各アイコンを「Commands」ボックスからツールバーにドラッグします。（他のツールバーのコマンドをドラッグ・アンド・ドロップすることもできます。）マウス・ボタンを離すと、各コマンドのアイコンまたはテキストがツールバーに表示されます。（アイコンはコピーされるだけで、元のメニューとの関連付けは維持されません。）
5. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

ツールバーを作成したら、アイコンまたはテキストを右クリックしてポップアップ・メニューの「Button Appearance」をクリックすることで、そのツールバーをさらにカスタマイズできます。

デザイナーに付属している元のツールバーは、いずれも削除できません。自分で作成したツールバーを削除するには、「Toolbars」タブでそのツールバーを選択し、「Delete」ボタンをクリックします。

### 5.4.3 ツールバーのリセット

デザイナーに付属している元のツールバーからアイコンを削除した場合、それらのアイコンはいつでもツールバーに復元できます。

ツールバーをリセットするには、次の手順を実行します。

1. 「Toolbars」タブで、復元するツールバーを選択し、「Reset」をクリックします。  
ツールバーに元から関連付けられているすべてのアイコンが表示されます。
2. すべてのツールバーを復元するには、「Reset All」をクリックします。
3. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

---

**注意:** 「Reset」および「Reset All」コマンドは、デザイナーに付属しているツールバーのデフォルト・セットにのみ適用されます。ツールバーを作成し、後でそのツールバーからアイコンを削除した場合、アイコンを復元する唯一の方法は、「Commands」タブに再度移動し、「Commands」ボックスからツールバーに同じアイコンをドラッグ・アンド・ドロップすることです。

---

## 5.5 「Tools」メニューへのショートカットの追加

「Customize」ダイアログの「Tools」タブ（A-7 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Tools」タブ](#)」を参照）では、外部アプリケーションに即座にアクセスできるように、デザイナーの「Tools」メニューに外部アプリケーションへのショートカットを追加できます。

ツールへのショートカットを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Tools」タブをクリックします。
3. 「Menu Contents」ペインの上にあるアイコン・バーの「New」([図 5-4](#)) をクリックします。

**図 5-4 「New Shortcut」アイコン**



ペインにツールのプレースホルダが表示されます。

「Command」テキスト・フィールドにカーソルを配置し、「Tools」メニューで使用するアプリケーションの実行可能ファイルのフルパスを入力します。

または

「Command」テキスト・フィールドにカーソルを配置し、フィールドの反対側の「Open」ボタン ([図 5-5](#)) をクリックします。「Open」ダイアログで、追加するアプリケーションの実行可能ファイルを検索します。ファイルを選択し、「Open」をクリックします。

**図 5-5 「Open」アイコン**



「Command」行に実行可能ファイルのフルパスを入力するかわりに、実行可能ファイルの名前のみを入力し、「Initial Directory」フィールドに実行可能ファイルのディレクトリを入力することもできます。

4. 「Arguments」フィールドを使用して、アプリケーションに特定のファイルを開くよう指示できます。引数として、実行可能ファイルのフルパスとファイル名を指定し、その後に開くドキュメントのフルパスとファイル名を指定する必要があります。この場合、実行可能ファイルのパスはスラッシュで区切り、2つのパスの間に空白を入れ、ドキュメントのパスは引用符で囲む必要があります。たとえば、次のようになります。

```
C:/Program Files/Office/winword.exe "C:¥Documents¥sa.doc"
```

5. 「Command」フィールドに実行可能ファイルの名前を単独で入力した場合（手順3）のみ、「Initial Directory」フィールドに実行可能ファイルのディレクトリを入力します。それ以外の場合、このフィールドは空白のままとします。
6. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

これで、アプリケーションのショートカットを「Tools」メニューで使用できます。引数を入力した場合、「Tools」メニューでアプリケーションを選択すると、そのアプリケーションが起動するだけでなく、引数で指定したドキュメントも開かれます。

ツールは、「Menu Contents」ペインのツールを選択して「Delete」（[図 5-6](#)）をクリックすることでいつでも削除できます。

**図 5-6 「Delete」アイコン**



「Tools」メニューに表示されるツールの順序を変更するには、「Move Up」または「Move Down」アイコン（それぞれ[図 5-7](#)および[図 5-8](#)）をクリックします。

**図 5-7 「Move Up」アイコン**



**図 5-8 「Move Down」アイコン**



## 5.6 キーボード・ショートカットの割当て

「Customize」ダイアログの「Keyboard」タブ（A-8 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Keyboard」タブ](#)」を参照）では、デザイナのメニューのコマンドにキーボード・ショートカットを割り当てることができます。デフォルトで、多くのコマンドに1つ以上のキーボード・ショートカットが割り当てられています。これらのキーボード・ショートカットは、変更または削除することや、新規に追加することができます。

キーボード・ショートカットを割り当てするには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Keyboard」タブをクリックします。
3. 「Category」で、ショートカットの割当て先となるコマンドを含むメニューを選択します。
4. 「Commands」で、ショートカットの割当て先となるコマンドを選択します。

コマンドの説明は、「Description」パネルに表示されます。割当て済のキーボード・ショートカットは、「Current Keys」に表示されます。

5. デザイナでの作業時にキーボード・ショートカットを一般的に使用する場合、「Set Accelerator For」ドロップダウン・リストから「Default」を選択します。
6. 「Press New Shortcut Key」テキスト・ボックスにカーソルを配置します。次に、キーボードで、ショートカットとして割り当てて実際のキーまたはキーの組合せを押します。

[Shift]、[Ctrl] または [Alt] キーと別の文字を組み合わせて使用するには、[Shift]、[Ctrl] または [Alt] の次にその文字を押します。

7. 「Assign」ボタンをクリックします。
8. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

## 5.7 メニューのカスタマイズ

「Customize」ダイアログの「Menu」タブ（A-10 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Menu」タブ](#)」を参照）では、デザイナのポップアップ・メニューの動作をカスタマイズできます。

次のことを実行できます。

- 5-8 ページの「[ポップアップ・メニューへのコマンドの追加](#)」
- 5-9 ページの「[ポップアップ・メニューからのコマンドの削除](#)」
- 5-9 ページの「[メニューの表示の制御](#)」

### 5.7.1 ポップアップ・メニューへのコマンドの追加

ポップアップ・メニューにコマンドを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Menu」タブをクリックします。
3. 「Select Context Menu」で、カスタマイズするポップアップ・メニューを選択します。

ポップアップ・メニューが「Customize」ダイアログの左上に表示されます。

4. 「Customize」ダイアログで、「Commands」タブをクリックします。
5. 「Categories」で、適切なメニューを選択します。「Commands」で、ポップアップ・メニューに追加するコマンドを選択します。コマンドをポップアップ・メニューにドラッグし、メニュー上で表示する場所に配置します。マウス・ボタンを離します。
6. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

## 5.7.2 ポップアップ・メニューからのコマンドの削除

ポップアップ・メニューからコマンドを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Menu」タブをクリックします。
3. 「Select Context Menu」で、編集するポップアップ・メニューを選択します。  
ポップアップ・メニューが「Customize」ダイアログの左上に表示されます。
4. ポップアップ・メニューで、削除するコマンドを右クリックし、表示されたポップアップ・メニューの「Delete」をクリックします。
5. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

削除したコマンドをポップアップ・メニューに復元するには、「Select Context Menu」ドロップダウン・リストからメニューを選択し、「Reset」ボタンをクリックします。

## 5.7.3 メニューの表示の制御

画面上のメニューの表示は、2つの方法で制御できます。メニューの周囲に表示される影の表示または非表示の切替と、メニューの展開方法の制御を行うことができます。これらのオプションが適用されるのは、メニュー・バーのメニューと、「Site Hierarchy」ペインのセクションまたはページ・テンプレートを右クリックした場合、あるいはツールボックスのフラグメントを右クリックした場合に表示されるメニューです。

画面上のメニューの表示方法を制御するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Menu」タブをクリックします。
3. 「Select Context Menu」で、任意のポップアップ・メニューを選択します。

---

---

**注意：** どのメニューを選択しても、手順4の選択はデザイナーのすべてのメニューに適用されます。

---

---

4. 「Menu Animations」で、使用するアニメーションを選択します。
  - **None:** メニュー・コマンドのリストが通常どおりに表示されます。
  - **Unfold:** メニュー・コマンドのリストが左上から右下に開きます。
  - **Slide:** メニュー・コマンドのリストが上から下に開きます。
  - **Fade:** メニュー・コマンドのリストが画面上に徐々に表示されます。
5. メニューの周囲に影の効果を表示するには、「Menu shadows」チェック・ボックスを選択します。影の効果を非表示にするには、チェック・ボックスの選択を解除します。
6. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

デザイナーのメニュー・バーのメニューをカスタマイズする方法の詳細は、5-4 ページの「[新規メニューの作成](#)」を参照してください。



## 5.8 表示オプションの設定

「Customize」ダイアログの「Options」タブ（A-11 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Options」タブ](#)」を参照）では、画面上のヒント、ツールバーの大きなアイコン、パーソナライズ・メニューなどの表示設定を制御できます。

表示オプションを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Options」タブをクリックします。
3. カーソルの上に置いたときにアイコンを識別するためのポップアップ・テキストを表示する場合、「Toolbar」の「**Show ScreenTips on toolbars**」を選択します。画面上のヒントに、コマンドに割り当てられたショートカット・キーも表示する場合、「**Show shortcut keys in ScreenTips**」を選択します。大きなアイコンを表示する場合、「**Large Icons**」を選択します。
4. 自分の使用頻度に関連した順序でメニュー・コマンドを表示する場合、「Personalized Menus and Toolbars」の「**Menu show recently used commands first**」チェック・ボックスを選択します。  
このオプションを選択した場合、「**Show full menus after a short delay**」も選択できます。
5. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

「Reset my usage data」ボタンをクリックすることで、いつでもデザイナを元の状態に戻すことができます。

## 5.9 「SOURCE」ビューのコードの書式設定

「Customize」ダイアログの「Source View」タブ（A-12 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Source View」タブ](#)」を参照）では、「SOURCE」ビューに表示するときのページ・テンプレートのコードの表示方法を変更できます。フォントの種類およびサイズを変更することや、自動書式設定オプションを適用することができます。

また、このペインでは、DOCTYPE メニューで、ページが準拠する必要のある DTD を制御します。

「SOURCE」ビューに表示されるコードを書式設定するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Source View」タブをクリックします。
3. 「Editor」で、「Font」ドロップダウン・リストから使用可能なフォントを選択し、「Size」ドロップダウン・リストから表示するコードのフォント・サイズを選択します。
4. 「Automatic Formatting」で、「**Apply automatic formatting when switching to Source view**」を選択すると、このタブのオプションに従ってコードが自動的に書式設定されます。

各書式設定オプションの詳細は、A-12 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Source View」タブ](#)」を参照してください。

5. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。



## 5.10 警告メッセージの表示または非表示

「Customize」ダイアログの「Warning Dialogs」タブ（A-14 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Warning Dialogs」タブ](#)」を参照）では、デザイナーでの作業時にどの警告メッセージを表示し、どのメッセージを非表示にするかを制御できます。

警告メッセージの表示と非表示を切り替えるには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Warning Dialogs」タブをクリックします。
3. 表示する警告メッセージのチェック・ボックスを選択し、表示しない警告メッセージのチェック・ボックスを選択解除します。  
すべてのメッセージを表示する場合は「Check All」を、すべてのメッセージを非表示にする場合は「Clear All」をクリックします。
4. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

---

**注意：** デフォルトでは、デザイナーの最初の実行時に一部の警告メッセージが表示されます。

---

## 5.11 その他のオプションの設定

「Customize」ダイアログの「Miscellaneous」タブ（A-15 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Miscellaneous」タブ](#)」を参照）では、デザイナーの様々なオプション（最後に作業していたサイトに接続するかどうか、サイトに無関係のフラグメントがツールボックスに表示されないようにするかどうかなど）を変更できます。

デザイナーのその他のオプションを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Miscellaneous」タブをクリックします。
3. 現在のサイトと同じ言語（HCSP/JSP または ASP）で記述されているフラグメントのみをツールボックスに表示する場合、「Filter fragments in other languages」を選択します。
4. 現在のサイトに属している（コンテンツ・サーバーの他のサイトに属していない）フラグメントのみをツールボックスに表示する場合、「Filter libraries from other sites」を選択します。  
サイトの一部として識別されないフラグメント・ライブラリのフラグメントは、ツールボックスに表示されなくなります。フラグメントをサイトの一部にするには、「Fragment Libraries」カテゴリにそのフラグメントをサイト・アセットとして追加します。
5. 自分で作成したフラグメントのみをツールボックスに表示する（Site Studio に付属するデフォルトのフラグメントを表示しない）場合、「Filter default libraries」を選択します。
6. デザイナーの起動時に、最後に作業していたサイトに自動的に接続する場合、「Reconnect at startup」を選択します。
7. デザイナーのステータス・バーにプロジェクト・ステータス・アイコンを表示する場合、「Enable project status checking」を選択します。（詳細は、6-10 ページの「[デザイナーでのプロジェクト・ステータスの表示](#)」を参照してください。）
8. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

## 5.12 ログ・ファイル設定の変更

「Customize」ダイアログの「Log File」タブ（A-16 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Log File」タブ](#)」を参照）では、ログ・ファイルを作成するタイミングと、ログ・ファイルの詳細度を指定できます。

ログ・ファイル設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. 「View」 → 「Customize」 をクリックします。
2. 「Log File」 タブをクリックします。
3. デザイナを起動するたびにログ・ファイルを作成する場合、「Reset log file each time Designer starts」 チェック・ボックスを選択します。
4. コンテンツ・サーバーとのすべての通信に関する詳細なログを作成する場合、「Log details of all communication with the Content Server」 チェック・ボックスを選択します。
5. 「Close」 をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

---

## Web サイトの作成

Site Studio で行う最初の作業は、コンテンツ・サーバーに接続してアセットを作成することです。これは、デザイナの接続マネージャを使用して行います。接続マネージャで、コンテンツ・サーバーを識別し、そのサーバーで Web サイト（正確にはプロジェクト・ファイル）を作成します。また、サイトに接続するためにデザイナで使用される接続名を作成します。

この作業が完了すれば、すぐに Web サイトへのサイト・アセットの構築を開始し、サイト階層を使用して情報の編成を定義できます。サイト階層は、サイトの個々のセクション（Products、Services、About Us など）で構成されます。各セクションには、プライマリ・ページと（多くの場合は）セカンダリ・ページがあります。

デザイナは、サイトとサイト階層の設定にかなりの時間を費やす場合があります（後続の説明を参照）。

- 6-2 ページの「[サイト接続](#)」
- 6-5 ページの「[サイト・アドレス指定](#)」
- 6-9 ページの「[プロジェクト・ファイル](#)」
- 6-11 ページの「[Web サイトの開始と停止](#)」

## 6.1 サイト接続

Site Studio では、コンテンツ・サーバーでサイトを作成し、そのサイトに様々なファイル（ページ・テンプレート、フラグメント、データ・ファイルなど）を関連付けます。サイトを作成するには、デザイナーでサイト接続と呼ばれるものを作成する必要があります。

デザイナーでは、コンテンツ・サーバーに格納された Web サイトへの接続とその更新にサイト接続が使用されます。サイト接続の動作は、別のプログラムまたはファイルに迅速にアクセスするためにデスクトップに追加する一般的なショートカットとよく似ています。サイト接続を追加、編集および削除しても、コンテンツ・サーバーの実際の Web サイトは影響を受けません。それぞれ異なる Web サイトに接続するためのサイト接続を必要な数だけ追加できます。

---

**注意：** Site Studio 10gR4 には完全な下位互換性があります。つまり、Site Studio デザイナー 10gR4 を使用して、以前のリリースの Site Studio で作成されたサイトを処理できます。ただし、これらのサイトは引き続きレガシー・モードで動作します。すなわち、10gR4 より前のアーキテクチャを使用し、Site Studio 10gR4 で導入されたアーキテクチャや機能は使用しません。

---

サイト接続を管理するには、次の項に説明されている手順を実行します。

- 6-2 ページの「[新規サイト接続の作成](#)」
- 6-4 ページの「[サイト接続の編集](#)」
- 6-5 ページの「[サイト接続の削除](#)」

### 6.1.1 新規サイト接続の作成

Web サイトを作成するには、コンテンツ・サーバーの Web サイトに接続してそれを更新するためのサイト接続を作成する必要があります。初めてデザイナーを起動した場合、このためのダイアログが自動的に表示されます。

サイト接続を作成するには、次の手順を実行します。

1. サイト・ツールバーの「Site Connection Manager」アイコンをクリックするか、「File」→「Site」→「Connection Manager」を選択し、「Site Connection Manager」ダイアログを表示します。詳細は、A-17 ページの「[「Site Connection Manager」ダイアログ](#)」を参照してください。

#### 図 6-1 「Site Connection Manager」アイコン



2. 「New」をクリックして、「Site Connection Details」ダイアログを表示します。詳細は、A-18 ページの「[「Site Connection Details」ダイアログ](#)」を参照してください。
3. 「Server Cgi URL」テキスト・ボックスに、サイトをホストするコンテンツ・サーバーの CGI URL アドレスを入力します。

サーバーの完全なアドレスを入力するかわりに、メニューでアドレスを選択できます（<server> は実際のサーバーの名前で置き換えてください）。

デフォルト・アドレスの `http://<server>/stellent/idcplg` は、Content Server リリース 7.x、10gR3 および 10gR4 用です。ドロップダウン・リストで使用できる他の 2 つのアドレスは、レガシー・バージョン用です（Windows の場合は `http://<server>/intradoc-cgi/idc_cgi_isapi.dll`、UNIX の場合は `http://<server>/intradoc-cgi/nph-idc_cgi.exe`）。

4. 「Connect」をクリックします。場合によっては、ログイン資格証明を入力するよう求められます。

5. 「New」をクリックしてコンテンツ・サーバーにサイトを作成します。  
「Create New Site」ダイアログが表示されます（A-19 ページの「「Create New Site」ダイアログ」を参照）。  
サーバーの既存の Web サイトを使用してサイト接続を作成する場合は、「Site Label」の名前のリストからサイト名を選択し、手順 10 に移動してください。
6. Web サイトの ID を入力します。（この ID は、Web サイトの URL や、サイトで参照されるファイルのメタデータなど、サイト全体で使用されます。）
7. Web サイトの名前を入力します。（名前は、デザイナーと、コンテンツ・サーバーの「Web Sites」メニューに表示されます。必要に応じて、空白や特殊文字を含むわかりやすい名前を使用できます。）
8. タイプとして「hcsp/jsp」を選択します。（このサイト・タイプは、デザイナーでの他のスクリプト関連の選択、特にページ・テンプレートおよびフラグメント用のスクリプト形式の選択に影響します。）

---

**重要：** JSP または ASP を使用して、サイトを作成できます。ただし、10gR4 に導入された機能を利用できるのは、HCSP を使用して作成されたサイトのみです。つまり、JSP および ASP サイトは、10gR4 より前のサイトとして動作します。

---



---

**注意：** このダイアログでの選択後は ID またはタイプを変更できません。

---

9. 「OK」をクリックして「Site Connection Details」ダイアログに戻ります。
10. Site Studio により、自動的に接続名が挿入されます。この接続名は、デザイナーでサイトに接続したときに表示されます（「Site Hierarchy」メニューと「Recent Sites」メニュー）。この名前をそのまま使用するか、別の名前を入力できます。
11. 「OK」をクリックして「Site Connection Manager」ダイアログに戻ります。
12. 「Automatically connect when done」を選択し（まだ選択されていない場合）、「Done」をクリックします。  
デザイナーにより、コンテンツ・サーバーのサイトが開かれ、そこに格納されている使用可能なフラグメントがダウンロードされます。Web サイトは、「Site Hierarchy」ペインに表示されます。

図 6-2 「Site Hierarchy」ページの Web サイト



## 6.1.2 サイト接続の編集

デザイナーで作成したサイト接続を編集できます。サイト接続の名前、サイト接続に関連付けられているコンテンツ・サーバー、およびサイト接続に関連付けられている Web サイトを変更できます。(サイトの ID、名前またはタイプは変更できません。)

デザイナーで現在サイトを開いている場合、サイト接続を編集するには、まずサイトとの接続を切断する必要があります。

サイト接続を編集するには、次の手順を実行します。

1. 編集するサイトに現在接続している場合、サイト・ツールバーの「Disconnect」アイコン (図 6-3) をクリックするか、「File」→「Site」→「Disconnect」を選択します。

図 6-3 「Disconnect」アイコン



2. サイト・ツールバーの「Site Connection Manager」アイコン (図 6-4) をクリックするか、「File」→「Site」→「Connection Manager」を選択し、「Site Connection Manager」ダイアログを表示します。詳細は、A-17 ページの「「Site Connection Manager」ダイアログ」を参照してください。

図 6-4 「Site Connection Manager」アイコン



3. 接続名を選択し、「Edit」をクリックします。
4. 「Site Connection Details」ダイアログで、「Server Cgi URL」、「Site Label」または「Connection Name」の内容を必要に応じて変更します。詳細は、A-18 ページの「「Site Connection Details」ダイアログ」を参照してください。
5. 「OK」をクリックして「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックスに戻ります。
6. 編集したサイト接続が選択された状態で、「Automatically connect when done」を選択し (まだ選択されていない場合)、「Done」をクリックします。

---

**注意:** サイトの作成後に ID またはタイプを変更することはできません。これらの値は、サイト全体で使用されます。

---

### 6.1.3 サイト接続の削除

デザイナーで作成したサイト接続を削除できます。これにより、接続は削除されますが、コンテンツ・サーバーの実際の Web サイトは削除されません（後続の説明を参照）。デザイナーで現在サイトを開いている場合、サイト接続を削除するには、まずサイトとの接続を切断する必要があります。

サイト接続を削除するには、次の手順を実行します。

1. 編集するサイトに現在接続している場合、サイト・ツールバーの「Disconnect」アイコン（[図 6-5](#)）をクリックするか、「File」→「Site」→「Disconnect」を選択します。

図 6-5 「Disconnect」アイコン



2. サイト・ツールバーの「Site Connection Manager」アイコン（[図 6-6](#)）をクリックするか、「File」→「Site」→「Connection Manager」を選択し、「Site Connection Manager」ダイアログを表示します。詳細は、A-17 ページの「[「Site Connection Manager」ダイアログ](#)」を参照してください。

図 6-6 「Site Connection Manager」アイコン



3. 接続名を選択し、「Delete」をクリックします。
4. 「Yes」をクリックして削除を確認します。
5. 「Done」をクリックして「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックスを閉じます。

コンテンツ・サーバーの実際の Web サイトを削除するには、サーバーにログインし、Site Studio により作成されたプロジェクト・ファイルを削除する必要があります。これを行う場合、削除中にプロジェクト・ファイルのリビジョンが（自動的に）チェックインされないように、事前に実行中の Web サイトを停止しておく必要があります（[6-11 ページの「Web サイトの開始と停止」](#)を参照）。

## 6.2 サイト・アドレス指定

他の Web サイトと同様に、Site Studio では、デザイナー、コントリビュータおよび訪問者が Web ブラウザでサイトの場所を特定できるように、Web サイトにアドレスを関連付ける必要があります。

ドメイン名アドレスとフォルダ名アドレスという 2 種類のアドレスを使用できます。たとえば、ドメイン名アドレスは <http://www.mycompany.com>（[www.mycompany.com](http://www.mycompany.com) はドメイン名）、フォルダ名アドレスは <http://UserPC/mysite>（UserPC はサイトをホストしているコンピュータの名前、mysite はサイトの ID）のようになります。

デザイナーで最初にサイトを設定すると、ホスト・コンピュータの名前とサイト ID で構成されたフォルダ名アドレスが割り当てられます。このアドレスは、部門内 Web サイトやデモンストレーション・サイトなどの内部目的に適しています。ただし、サイトをインターネット上に公開する場合、1 つ以上のドメイン名を構成してサイトに関連付ける必要があります。

次の項で、サイト・アドレス指定について詳細に説明します。

- [6-6 ページの「サイトへのドメイン名のマッピング」](#)
- [6-8 ページの「サイト・アドレスに使用されるパスの変更」](#)

## 6.2.1 サイトへのドメイン名のマッピング

ドメイン名は、Web サイトを識別する一意の名前です。1 つ以上のドメイン名を Site Studio Web サイトに割り当てることができますが、これは、一般的に、サイトをインターネット上に公開する場合に行います。

ドメイン名を使用するには、ドメイン名を取得してネーム・サーバーで構成し、Site Studio を使用してそのドメイン名を独自のサイトにマップします。この項では、最後の手順であるドメイン名のマッピングについてのみ説明します。ドメイン名の構成方法の詳細は、適切なサーブド・パーティに連絡して確認してください。

Site Studio では、次の 2 つの場所でドメイン名をマップできます。

- 6-6 ページの「[デザイナーを使用したドメイン名のマッピング](#)」
- 6-7 ページの「[「Manage Web Site Addresses」 ページを使用したドメイン名のマッピング](#)」

### 6.2.1.1 デザイナーを使用したドメイン名のマッピング

Site Studio デザイナーを使用してドメイン名をマップするには、次の手順を実行します。

1. 「File」 → 「Site」 → 「Advanced」 → 「Edit Site Addresses」 を選択します。  
これにより、「Site Addresses」 ダイアログ (図 6-7) が表示されます。詳細は、A-20 ページの「[「Site Addresses」 ダイアログ](#)」を参照してください。
2. ドメインを追加するには、「New Site Address」 アイコン (図 6-7) をクリックし、指定された空白に名前を入力します。

図 6-7 「New Site Address」 アイコン



ドメイン名を入力する場合、プロトコル指定子 (http または https) は追加しないでください。ドメイン名のみを入力します。

3. キーボードの [Enter] を押してドメインを追加します。  
追加するドメイン名ごとに前述の手順を繰り返します。
4. ドメイン名を、Site Studio で使用されるデフォルトに設定するには、「Set Default」 をクリックします。
5. 既存のドメイン名を削除するには、そのドメイン名を選択して「Delete」 アイコン (図 6-8) をクリックします。

図 6-8 「Delete」 アイコン



6. 「OK」 をクリックします。



### 6.2.1.2 「Manage Web Site Addresses」 ページを使用したドメイン名のマッピング

「Manage Web Site Addresses」 ページを使用してドメイン名をマップするには、次の手順を実行します。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインし、「**Administration**」をクリックします。
2. 「**Site Studio Administration**」をクリックして「Site Studio Administration」 ページを表示します。
3. 「**Manage Web Site Addresses**」をクリックして「Manage Web Site Addresses」 ページを表示します。
4. ドメインを追加するには、「**Web Site**」メニューで Web サイトを選択します。
5. 「**Address**」フィールドにドメイン名を入力します。
6. 「**Add**」をクリックして Web サイトにドメイン名を追加します。  
ページがリフレッシュされ、アドレスのリストに Web サイト・アドレスが表示されます。
7. ドメイン名を、Site Studio で使用されるデフォルトに設定するには、名前の横の「**Actions**」アイコン (図 6-9) をクリックし、「**Select As Default Address**」を選択します。
8. 既存のドメイン名を削除するには、名前の横の「**Actions**」アイコン (図 6-9) をクリックし、「**Remove Site Address**」を選択します。

図 6-9 「Actions」アイコン



サイトには複数のドメイン名をマップできます。この場合、ユーザーがサイトへのアクセスにどのドメイン名を使用しても、サイトのブラウズ中はずっとそのドメイン名が表示されます。デフォルトとして指定したドメイン名は、デザイナーによるサイトのプレビュー時やリージョンへのコンテンツの割当て時などに Site Studio によって使用されます。

## 6.2.2 サイト・アドレスに使用されるパスの変更

ドメインベース・アドレスを使用してサイトを開くと、http プロトコル (コンテンツ・サーバーの設定方法によっては https)、ドメイン名、セクション、Web ページの順にアドレスが表示されます。たとえば、次のようになります。

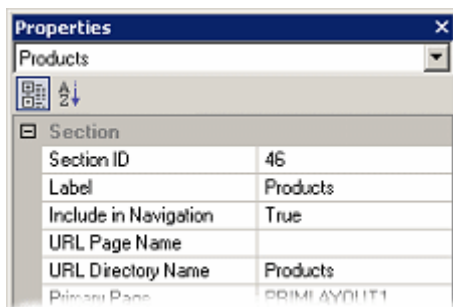
http://www.mydomain.com/products/index.htm

フォルダベース・アドレスを使用してサイトを開くと、http プロトコル (コンテンツ・サーバーの設定方法によっては https)、(サイトをホストする) コンピュータの名前、Web サイトの ID、セクション、ページ名の順にアドレスが表示されます。たとえば、次のようになります。

http://UserPC/mysite/products/index.htm

サイトのプロパティ、セクションのプロパティおよびページ・テンプレートのプロパティを変更することで、このパスに表示される名前を変更できます。これらの値を変更するには、「Properties」ペイン (図 6-10) を使用します。

図 6-10 「Properties」ペイン



サイト・アドレスに使用されるパス名を変更するには、次の手順を実行します。

パスの名前	URL の値を変更する方法
パスベース・アドレスのサーバー関連の名前を変更する場合	<p>サイト ID の値を上書きするには、サイト階層のルート URL ディレクトリ名を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「Site Hierarchy」ペインを表示します。</li> <li>サイトのルートをクリックします。</li> <li>「Properties」ペインを表示します。</li> <li>「URL Directory Name」に値を入力します。</li> </ul>
セクションの名前を変更する場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Site Hierarchy」ペインを表示します。</li> <li>変更するセクションをクリックします。</li> <li>「Properties」ペインを表示します。</li> <li>「URL Directory Name」に値を入力します。</li> </ul>
プライマリ・ページの名前を変更する場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Site Hierarchy」ペインを表示します。</li> <li>変更するページ・テンプレートをクリックします。</li> <li>「Properties」ペインを表示します。</li> <li>「URL Page Name」に値を入力します。</li> </ul>

セカンダリ・ページに使用される名前は、そのページに表示されるコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのコンテンツ ID (dDocName) です。必要に応じて、異なる値を指定できます。URL ディレクトリ名を指定する場合、URL に影響を与えることなく何度でもセクションのラベルを変更できます。

## 6.3 プロジェクト・ファイル

Web サイトを作成すると、Site Studio によりプロジェクト・ファイルが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされます。プロジェクト・ファイルには、サイト階層と、Web サイトに関する主な情報が格納されます。デザイナーでサイト階層を開いて編集する場合、常にプロジェクト・ファイルを編集することになります。

プロジェクト・ファイルを直接編集する必要はありませんが、プロジェクト・ファイルに影響を与える次の手順を実行する場合があります。

- 6-9 ページの「プロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータの指定」
- 6-10 ページの「デザイナーでのプロジェクト・ステータスの表示」
- 6-10 ページの「プロジェクト・ファイルに対する変更のコミット」
- 6-10 ページの「プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページの表示」

### 6.3.1 プロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータの指定

Web サイトを最初に作成すると (6-2 ページの「新規サイト接続の作成」を参照)、Site Studio によりプロジェクト・ファイルが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされます。他のコンテンツ・アイテムと同様に、このファイルに割り当てる必要のあるメタデータ値が存在します。

コンテンツ・サーバーの「Set Project Default Document Information」ページを使用して、すべてのプロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータを指定できます。





新規プロジェクト・ファイルのメタデータを指定するには、次の手順を実行します。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインし、「Administration」をクリックします。
2. 「Site Studio Administration」をクリックして「Site Studio Administration」ページを表示します。
3. 「Set Project Default Document Information」をクリックして、「Set Project Default Document Information」ページを表示します。
4. Site Studio プロジェクト・ファイルに使用するメタデータを選択します。
5. 「Update」をクリックします。

## 6.3.2 デザイナでのプロジェクト・ステータスの表示

デザイナーでの作業時に、右下隅にプロジェクト・ステータス・アイコンが表示されます。このアイコンにより、コンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルに接続しているかどうかと、サイト階層とプロジェクト・ファイルが相互に同期しているかどうかのかわかります。

次に、デザイナーのプロジェクト・ステータス領域に表示される各アイコンの概要を示します。

アイコン	定義
	現在のサイト階層はコンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルと一致しています。
	現在のサイト階層はコンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルと一致していません。サイト階層をリフレッシュする必要があります。
	最新のステータスを確認できません。コンテンツ・サーバーが停止しているか、ネットワーク接続が失われました。これを解決するには、ネットワーク接続またはコンテンツ・サーバーを実行しているマシンをトラブルシューティングします。
	デザイナーが Web サイトに接続されていません。これを解決するには、Web サイトに再接続します (6-2 ページの「 <a href="#">サイト接続</a> 」を参照)。

## 6.3.3 プロジェクト・ファイルに対する変更のコミット

デザイナーでサイト階層に加えた変更は、コンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルの内容に影響します。Site Studio では、10 分ごとにプロジェクト・ファイルのリビジョンが自動的にチェックインされます。このスケジュール間隔より早くプロジェクト・ファイルに対して変更をコミットする場合、次のようにします。

プロジェクト・ファイルに対してサイト階層の変更をコミットするには、次の手順を実行します。

1. デザイナで、「File」→「Site」→「Advanced」→「Commit Project Changes」を選択します。
2. 確認メッセージに対して「OK」をクリックします。

---

**注意：**プロジェクト・ファイルは、Site Studio により一定の方法で管理されるため、コンテンツ・サーバーとの接続が途絶えるか、サーバーが一時的に停止しても、サイト階層の変更が失われることはありません。

---

## 6.3.4 プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページの表示

デザイナーでは、プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページをいつでも参照できます。コンテンツ・サーバーにあるプロジェクト・ファイルの詳細の参照、メタデータの更新、ファイルのダウンロードなどの際に、コンテンツ情報ページを表示すると便利です。

プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページを表示するには、デザイナーで「File」→「Site」→「Advanced」→「View Project DOC\_INFO」を選択します。

これにより、コンテンツ・サーバーにあるプロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページが表示されます。

## 6.4 Web サイトの開始と停止

Site Studio の Web サイトの開始および停止は、Web サーバーの Web サイトの開始および停止と同じ方法で行うことができます。Web サイトの開始と停止は、たとえば、サイトをトラブルシューティングする場合、グローバル更新後にサイトを再起動する場合、またはコンテンツの閲覧やダウンロードを禁止する場合に実行します。

サイトを停止する前に、サイトの停止時にそのサイトのかわりに表示する一時ページを作成しておく必要があります。これにより、ユーザーはサイトにアクセスできない理由を確認できます。

次の操作を実行できます。

- 6-11 ページの「Web サイトの停止」
- 6-11 ページの「停止サイト用の一時ページの構成」

### 6.4.1 Web サイトの停止

Web サイトを停止するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Studio Administration」ページを表示します。
2. 「Manage Web Sites」をクリックして、「Manage Web Sites」ページを表示します。
3. Web サイトを選択し、「Stop Web Site」をクリックします。
4. サイトに必要な管理タスクを終了したら、「Manage Web Sites」ページに戻ってサイトを選択し、「Start Web Site」をクリックします。

### 6.4.2 停止サイト用の一時ページの構成

サイトの停止時に表示する一時ページを構成するには、次の手順を実行します。

1. サイトが一時的に停止していることを示す Web ページを作成し、そのファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインします。
2. デザイナの「Site Hierarchy」ペインで、サイトまたはセクションを選択します。
3. 「Properties」ペインを表示します。
4. 「Stopped Site Page」の横にある「Additional Information」アイコン (図 6-11) をクリックし、サイトの停止時に使用する Web ページを指定します。

図 6-11 「Additional Information」アイコン





---

---

## サイト・アセットの定義

この項では、サイト・アセットの定義について説明します。次の内容で構成されます。

- 7-2 ページの「[サイト・アセットについて](#)」
- 7-3 ページの「[要素定義](#)」
- 7-8 ページの「[リージョン定義](#)」
- 7-12 ページの「[ブレースホルダ定義](#)」
- 7-17 ページの「[ページ・テンプレート](#)」
- 7-21 ページの「[リージョン・テンプレート](#)」
- 7-25 ページの「[サブテンプレート](#)」
- 7-29 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイル](#)」
- 7-33 ページの「[ネイティブ・ドキュメント](#)」
- 7-37 ページの「[イメージ](#)」
- 7-40 ページの「[スクリプト](#)」
- 7-43 ページの「[Cascading Style Sheet \(CSS\)](#)」
- 7-47 ページの「[カスタム構成スクリプト](#)」
- 7-50 ページの「[カスタム要素フォーム](#)」
- 7-54 ページの「[検証スクリプト](#)」
- 7-57 ページの「[フラグメント・ライブラリ](#)」
- 7-59 ページの「[マネージャ構成設定](#)」
- 7-63 ページの「[変換定義](#)」

## 7.1 サイト・アセットについて

サイト・アセットは、Web サイトに関連付けられ、コンテンツ・サーバーで管理されるファイルです。Site Studio では、これらのアセットを使用して Web サイトを作成して、Web サイトの管理をはるかに簡単に行えます。管理対象のサイト・アセットは、Web サイト内や複数の Web サイト間で同時に使用および再利用できます。

コントリビュータ・データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントなど、一部のサイト・アセットは、Web ページに表示されるコンテンツです。リージョン・テンプレート、ページ・テンプレート、CSS、プレースホルダ定義など、それ以外のサイト・アセットは、Web ページ上のデータの配置場所と配置方法を制御します。

カスタム構成スクリプト、検証スクリプト、マネージャ構成設定など、それ以外のアセットは、Web サイトのコントリビュータとマネージャが Web サイトを編集および管理する方法を制御するために使用します。

すべてのサイト・アセットは、デザイナーの「Site Assets」ペインを使用して管理します。詳細は、4-14 ページの「[Site Assets](#) ペイン」を参照してください。

Site Studio では次のサイト・アセットを操作します。

- **要素定義**: 要素タイプの編集操作を定義するファイル。特に、コントリビュータが要素の編集時に実行可能な操作を指定します。詳細は、7-3 ページの「[要素定義](#)」を参照してください。
- **リージョン定義**: 特定のタイプの要素を構成するコンテンツのタイプを定義するファイル。また、コントリビューション・リージョンにコントリビュータが使用できるコンテンツ作成および切替えオプションを指定し、これらのリージョンに関連付けられるコンテンツ・ファイルのデフォルト・メタデータを設定します。詳細は、7-8 ページの「[リージョン定義](#)」を参照してください。
- **プレースホルダ定義**: 関連付けられたプレースホルダに許可されるリージョン定義、リージョン・テンプレートおよびサブテンプレートを定義するファイル。プレースホルダに対して許可されるコントリビュータ・アクションも指定します。詳細は、7-12 ページの「[プレースホルダ定義](#)」を参照してください。
- **ページ・テンプレート**: コントリビューション・リージョン（ページ上の編集可能領域）の配置、ナビゲーション補助（フラグメントの形式によるもの）およびサイト全体のイメージ（バナーなど）を含む、Web ページのレイアウトと上位レベルのルック・アンド・フィールを定義する完全に形成された HTML ファイル。ページ・テンプレートは最上位レベルのサイト設計オブジェクトです。詳細は、7-17 ページの「[ページ・テンプレート](#)」を参照してください。
- **リージョン・テンプレート**: Web ページ内にあるコントリビューション・リージョンのデータのレイアウトとルック・アンド・フィールを定義する部分的な HTML ファイル（ヘッドおよびボディ・セクションのないファイル）。詳細は、7-21 ページの「[リージョン・テンプレート](#)」を参照してください。
- **サブテンプレート**: ページ・テンプレートを独自のプレースホルダとコントリビューション・リージョンを持つさらに小さい再利用可能な領域に分割するために、ページ・テンプレートのプレースホルダに挿入可能な部分的な HTML ファイル（ヘッドおよびボディ・セクションのないファイル）。詳細は、7-25 ページの「[サブテンプレート](#)」を参照してください。
- **コントリビュータ・データ・ファイル**: Site Studio によって生成される XML 形式のコンテンツ・ファイル。コントリビュータ・データ・ファイルは、Site Studio コントリビュータ・アプリケーションを使用して編集されます。詳細は、7-29 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイル](#)」を参照してください。
- **ネイティブ・ドキュメント**: サード・パーティ・アプリケーション（Microsoft Word など）を使用して作成されたコンテンツ・ファイル。ネイティブ・ドキュメントは、Dynamic Converter を使用して HTML 形式に変換され、関連付けられたアプリケーションを使用して編集されます。詳細は、7-33 ページの「[ネイティブ・ドキュメント](#)」を参照してください。



- **イメージ**: コンテンツ・ファイルまたはページ・テンプレートに含まれる、企業のバナーや製品イメージなどのグラフィック・ファイル (JPG、GIF、PNG)。詳細は、7-37 ページの「[イメージ](#)」を参照してください。
- **スクリプト**: ユーザー・インタラクションなしで実行可能な一連のコマンドを提供する JavaScript ファイル。多くの場合、スクリプトは Web ページに追加機能を提供するために使用されます。詳細は、7-40 ページの「[スクリプト](#)」を参照してください。
- **Cascading Style Sheet (CSS)**: ページ・コンテンツの表示方法 (具体的には、ヘッダーやリンクなどの様々な HTML 要素がページ上にどのように表示されるか) を制御するファイル。CSS ファイルへのリンクはページ・テンプレートに埋め込まれていることが多いため、その書式設定ルールはこれらのテンプレートに基づいてすべての Web ページに適用されます。詳細は、7-43 ページの「[Cascading Style Sheet \(CSS\)](#)」を参照してください。
- **カスタム構成スクリプト**: コントリビュータにカスタマイズした編集操作を提供するために、デフォルトのコントリビュータ・エディタ構成を上書きする JavaScript ファイル。詳細は、7-47 ページの「[カスタム構成スクリプト](#)」を参照してください。
- **カスタム要素フォーム**: 要素で使用するカスタム・フォームを定義する HTML ファイル (特定のファイル・タイプを選択するフォームなど)。Site Studio には、複数の事前定義済みのカスタム要素フォームが付属します ([`CS-Dir`]\%`custom`\%`SiteStudio`\%`elementforms` 内)。これらのフォームはまた、Site Studio コンポーネントがインストールされるとコンテンツ・サーバーにチェックインされます。詳細は、7-50 ページの「[カスタム要素フォーム](#)」を参照してください。
- **検証スクリプト**: 要素データが要件 (最大長を超えていないことや、不正な文字が含まれていないことなど) を満たしているかどうかを判断するための検証ルールを定義する JavaScript ファイル。詳細は、7-54 ページの「[検証スクリプト](#)」を参照してください。
- **フラグメント・ライブラリ**: Site Studio Web サイトの機能を拡張する (たとえば、動的ナビゲーション補助や標準のページ・フッターを提供して拡張する) コードのチャンク (フラグメント) の集合。詳細は、7-57 ページの「[フラグメント・ライブラリ](#)」を参照してください。
- **マネージャ構成設定**: Site Studio マネージャで使用できる機能を定義するファイル。マネージャは Web ベースのツールで、指定されたユーザー (サイト・マネージャ) が Web サイトの構造を変更する場合に使用できます。詳細は、7-59 ページの「[マネージャ構成設定](#)」を参照してください。
- **変換定義**: Web サイト上のネイティブ・ドキュメントの変換ルールを指定するファイル。詳細は、7-63 ページの「[変換定義](#)」を参照してください。

## 7.2 要素定義

この項の内容は次のとおりです。

- 7-3 ページの「[要素定義について](#)」
- 7-4 ページの「[新規要素定義の作成](#)」
- 7-4 ページの「[要素定義のコピー](#)」
- 7-6 ページの「[要素定義の編集](#)」
- 7-6 ページの「[要素定義のコンテンツ情報の表示](#)」
- 7-7 ページの「[サイトへの要素定義の追加](#)」
- 7-7 ページの「[サイトからの要素定義の削除](#)」

### 7.2.1 要素定義について

要素は、コントリビュータが編集できる領域、具体的にはコントリビュータがどのようにデータを編集できるかを定義するために使用するオブジェクトです。使用できる要素は、WYSIWYG (What You See Is What You Get)、プレーン・テキスト、イメージのみ、静的リス

トおよび動的リストです。データ駆動型サイト作成の処理など、様々な状況で使用可能なカスタム要素を作成することもできます。

## 7.2.2 新規要素定義の作成

要素定義を作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Element Definitions」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-1) をクリックし、「New」を選択してから、要素定義タイプを選択します。次の要素タイプを使用できます。
  - WYSIWYG Element Definition
  - Plain Text Element Definition
  - Image Element Definition
  - Custom Element Definition
  - Static List Element Definition
  - Dynamic List Element Definition

「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-1 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
5. 要素定義が作成されます。状況によっては、要素定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-2) をクリックする必要があります。

図 7-2 「Refresh」アイコン



要素定義 (どのタイプの場合でも) が作成されたら、その要素定義を開いて編集できます。定義を編集するときに、コントリビュータがアクセスできるツールバーなど、特定の設定を変更できます。詳細は、7-6 ページの「[要素定義の編集](#)」を参照してください。

## 7.2.3 要素定義のコピー

要素定義は簡単にコピーできるため、要素定義の設定内容の一部を変更するだけでアセットをすばやく作成できます。

要素定義をコピーするには、次の手順を実行します。

### リストからの要素定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Element Definitions」を選択します。
2. コピーする要素定義をリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-3) をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-3 「Create New」 アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. 要素定義がコピーされます。状況によっては、要素定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-4) をクリックする必要があります。

図 7-4 「Refresh」 アイコン



#### サーバーからの要素定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Element Definitions」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-3) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーする要素定義に対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. 要素定義がコピーされます。状況によっては、要素定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-4) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからの要素定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Element Definitions」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-3) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。
3. ローカル・インスタンスで、コピーする要素定義に移動します。
4. 要素定義を選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. 要素定義がコピーされます。状況によっては、要素定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-4) をクリックする必要があります。

## 7.2.4 要素定義の編集

要素定義を編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Element Definitions」を選択します。
2. 編集する要素定義をリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-5) をクリックします。

選択した要素定義を編集できるダイアログが開きます。要素タイプに応じて、次のいずれかの画面が表示されます。

- A-55 ページの「WYSIWYG 要素の定義ダイアログ」
- A-61 ページの「プレーン・テキスト要素の定義ダイアログ」
- A-65 ページの「イメージ要素の定義ダイアログ」
- A-68 ページの「カスタム要素の定義ダイアログ」
- A-72 ページの「静的リスト要素の定義ダイアログ」
- A-78 ページの「動的リスト要素の定義ダイアログ」
- A-68 ページの「カスタム要素の定義ダイアログ」

図 7-5 「Edit」アイコン



3. 要素定義の「Info」を入力します。これは、要素定義をどのように設定したかを思い出せるようにするための、要素の簡単な説明です。ここに入力した情報によって、要素定義の具体的な設定内容を一目で思い出せるようにします。これは、類似した要素定義を複数作成して、それぞれの「Action」の設定がわずかに異なる場合に特に便利です。
4. 選択した要素定義に対してコントリビュータに許可するアクションを選択または選択解除します。

カスタム要素を作成する場合、プロセスは異なります。

それぞれの場合で、編集作業の中心は、コントリビュータがツールバーで利用できるオブジェクトを選択することです。定義する各要素には独自のツールバーがあり、そのツールバーに表示されるもの（たとえば、フォント・サイズ、フォント・スタイル、段落の書式設定などを変更できるツールバー・ボタンなど）は、要素定義の「Action」リストでチェック・ボックスを選択または選択解除すると定義されます。

ユーザーが異なるインスタンスで異なるツールバーを表示できるように、各タイプに複数の定義を作成することをお勧めします。各要素定義で変更可能なアクションの詳細は、前述の個別の画面を参照してください。

## 7.2.5 要素定義のコンテンツ情報の表示

要素定義のコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Element Definitions」を選択します。
2. リストから要素定義を選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-6) をクリックします。

コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-6 「Doc Info」アイコン



## 7.2.6 サイトへの要素定義の追加

すでにコンテンツ・サーバーにある要素定義をサイトに追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Element Definitions**」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-7) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-7 「Add to Site」アイコン



3. 追加する要素定義を選択し、「**Site Studio**」 → 「**Select Marked Documents**」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「**OK**」をクリックします。  
要素定義が Web サイトに関連付けられ、定義を開いて編集できるようになります。

## 7.2.7 サイトからの要素定義の削除

サイトから要素定義を削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Element Definitions**」を選択します。
2. 削除する要素定義をリストから選択し、「**Remove From Site**」アイコン (図 7-8) をクリックします。  
要素定義を削除すると、その要素定義はサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-8 「Remove From Site」アイコン



## 7.3 リージョン定義

この項の内容は次のとおりです。

- 7-8 ページの「[リージョン定義について](#)」
- 7-8 ページの「[新規リージョン定義の作成](#)」
- 7-9 ページの「[リージョン定義のコピー](#)」
- 7-10 ページの「[リージョン定義の編集](#)」
- 7-11 ページの「[リージョン定義のコンテンツ情報の表示](#)」
- 7-11 ページの「[サイトへのリージョン定義の追加](#)」
- 7-11 ページの「[サイトからのリージョン定義の削除](#)」

### 7.3.1 リージョン定義について

一般的なリージョン定義には複数の要素が含まれます。また、これらの要素の様々な組合せは、複数の異なるリージョン・テンプレートで使用されます。各リージョン定義には、関連付けられたリージョン・テンプレート上に配置可能な要素のリストが含まれています。これにより、複数のリージョン・テンプレートが同じ要素のグループ（同じデータ・ファイルである必要はありません）にアクセスし、異なる方法で配置できます。

リージョン定義によりコントリビューション・モデルでの要素の使用が制限されるため、リージョン定義用の適切なネーミング規則に従うことが特に重要です。リージョン定義の数は、他のどのサイト・アセットよりも多くなる可能性があります。適切なネーミング規則を使用すると、複数のリージョン定義を開いてそれぞれの正確な用途を確認しなくても、作成した様々なリージョン・テンプレートに最適な定義を判別できます。

リージョン・テンプレートを作成するときにはリージョン定義と関連付ける必要があるため、リージョン定義を最初に作成してからリージョン・テンプレートを作成することをお勧めします。

詳細は、A-81 ページの「[リージョン定義ダイアログ](#)」および 8-27 ページの「[リージョン定義](#)」を参照してください。

### 7.3.2 新規リージョン定義の作成

リージョン定義を作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Region Definitions**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン（[図 7-9](#)）をクリックし、「New」→「**Region Definition**」を選択します。

「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

**図 7-9 「Create New」アイコン**



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
5. リージョン定義が作成されます。状況によっては、リージョン定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン（[図 7-10](#)）をクリックする必要があります。

**図 7-10 「Refresh」アイコン**



### 7.3.3 リージョン定義のコピー

リージョン定義は簡単にコピーできるため、リージョン定義の設定内容の一部を変更するだけで、アセットをすばやく簡単に作成できます。

リージョン定義をコピーするには、次の手順を実行します。

#### リストからのリージョン定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Region Definitions**」を選択します。
2. コピーするリージョン定義をリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-11) をクリックし、「**Copy**」→「**Selected**」を選択します。「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

#### 図 7-11 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力して、リージョン定義をコンテンツ・サーバーにチェックインします。
5. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
6. リージョン定義がコピーされます。状況によっては、リージョン定義をリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-12) をクリックする必要があります。

#### 図 7-12 「Refresh」アイコン



#### サーバーからのリージョン定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Region Definitions**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-11) をクリックし、「**Copy**」→「**from Server**」を選択します。検索結果ページが表示されます。
3. コピーするリージョン定義に対応する「**Select**」ボタンをクリックします。「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
6. リージョン定義がコピーされます。状況によっては、リージョン定義をリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-12) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからのリージョン定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Region Definitions**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-11) をクリックし、「**Copy**」→「**from Local**」を選択します。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするリージョン定義に移動します。
4. リージョン定義を選択して、「**Open**」をクリックします。「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. リージョン定義がコピーされます。状況によっては、リージョン定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-12) をクリックする必要があります。

### 7.3.4 リージョン定義の編集

リージョン定義が作成されると、そのリージョン定義を開いて必要な要素定義を含めたり、メタデータ情報やその他のリージョン定義の詳細情報を変更したりできます。

リージョン定義を編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Region Definition」を選択します。
2. 編集するリージョン定義をリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-13) をクリックします。

リージョン定義ダイアログが開きます。詳細は、A-81 ページの「リージョン定義ダイアログ」を参照してください。

図 7-13 「Edit」アイコン



3. リージョン定義の説明を入力します。
4. リージョン定義に要素を追加するには、「Add」をクリックします。

「Element」ダイアログが開きます。

要素に指定した「Name」は、リージョン定義内とこのリージョン定義を参照する他のサイト・アセットで、要素の識別に使用されます。

要素定義に指定した「Label」は、コントリビュータでの要素の名前になります (ツールバーに表示)。

要素に入力した「Info」は、コントリビュータがマウスを「Label」に置いたときにツールチップとして表示されます。

5. 要素を削除するには、要素を選択して「Remove」をクリックします。
6. リージョン定義内での要素の順序を変更するには、要素を選択して、「Move Up」または「Move Down」をクリックします。

このリージョン定義を含むコントリビューション・リージョンに対してコントリビュータが起動されると、この順序に従って要素が表示されます。

このダイアログで、リージョン定義に含める要素をすべて追加する必要があります。リージョン・テンプレートとリージョン定義が関連付けられると、これらの要素定義をリージョン・テンプレートで使用および配置できます。

詳細は、8-27 ページの「リージョン定義」を参照してください。



### 7.3.5 リージョン定義のコンテンツ情報の表示

リージョン定義のコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Region Definitions」を選択します。
2. リストからリージョン定義を選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-14) をクリックします。

コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-14 「Doc Info」アイコン



### 7.3.6 サイトへのリージョン定義の追加

別のサイトですでに使用されているリージョン定義を簡単に取り込むことができます。これらのリージョン定義を複数のサイトに含めると、複数サイトの管理が容易になります。リージョン定義がすでにコンテンツ・サーバーにあり、まだ現在の Web サイトに関連付けられていない場合は、リージョン定義を追加するだけでサイトに含めることができます。

サイトにリージョン定義を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Region Definitions」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-15) をクリックします。

検索結果ページが表示されます。

図 7-15 「Add to Site」アイコン



3. 追加するリージョン定義を選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。

リージョン定義が Web サイトに関連付けられ、定義を開いて編集できるようになります。

### 7.3.7 サイトからのリージョン定義の削除

サイトからリージョン定義を削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Region Definitions」を選択します。
2. 削除するリージョン定義をリストから選択し、「Remove From Site」アイコン (図 7-16) をクリックします。

リージョン定義を削除すると、そのリージョン定義はサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-16 「Remove From Site」アイコン



## 7.4 プレースホルダ定義

この項の内容は次のとおりです。

- 7-12 ページの「[プレースホルダ定義について](#)」
- 7-13 ページの「[新規プレースホルダ定義の作成](#)」
- 7-13 ページの「[プレースホルダ定義のコピー](#)」
- 7-15 ページの「[プレースホルダ定義の編集](#)」
- 7-15 ページの「[プレースホルダ定義のコンテンツ情報の表示](#)」
- 7-16 ページの「[サイトへのプレースホルダ定義の追加](#)」
- 7-16 ページの「[サイトからのプレースホルダ定義の削除](#)」

### 7.4.1 プレースホルダ定義について

プレースホルダ定義は、表示のためにそのプレースホルダに関連付けられているコンテンツやその他のアセットと各プレースホルダを結び付けるものです。プレースホルダはページ上の単なるマーカーであるため、プレースホルダ定義は、コントリビュータがプレースホルダ内に表示されるコンテンツの編集やレポートの表示などのアクションを実行できるかどうかを判断するのに使用されます。

また、プレースホルダ定義には、プレースホルダの領域（コントリビューション領域とも呼ばれる）内で使用可能なリージョン定義も含まれます。これらのリージョン定義は1つ以上のリージョン・テンプレートと結び付けられます。また、これらのリージョン・テンプレートも、プレースホルダ定義内にリストすることで可用性が制御されます。

サブテンプレートは、複数のプレースホルダ（および関連する他のプレースホルダ定義）が含まれることがある HTML のセクションです。このサブテンプレートも、プレースホルダ定義に使用できるようにリストできます。サブテンプレートは、リージョン定義とリージョン・テンプレートのかわりにコントリビューション・リージョンで使用できます。

プレースホルダ定義は、プレースホルダ内で使用可能なリージョン定義を制御します。プレースホルダ定義内により多くのリージョン定義を含めることで、コントリビューション・リージョンに割り当てられたデータ・ファイルの制御手段としてリージョン定義を使用する場合のオプションが多くなります。

リージョン・テンプレート、サブテンプレート、ページ・テンプレートなどのテンプレートは、関連付けられたデータの表示方法を制御する場合に使用します。リージョン定義、プレースホルダ定義、要素定義などの定義は、表示されるデータおよびコントリビュータとそのデータのインタラクション方法を制御します。

詳細は、8-21 ページの「[プレースホルダ定義](#)」を参照してください。

## 7.4.2 新規プレースホルダ定義の作成

プレースホルダ定義を作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Placeholder Definitions」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-17) をクリックし、「New」→「Placeholder Definition」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-17 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
5. プレースホルダ定義が作成されます。状況によっては、プレースホルダ定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-18) をクリックする必要があります。

図 7-18 「Refresh」アイコン



プレースホルダ定義が作成されると、そのプレースホルダ定義を編集用に関き、リージョン定義、リージョン・テンプレート、サブテンプレートおよびその他のコントリビュータ・アクセスの詳細情報を割り当てることができます。

## 7.4.3 プレースホルダ定義のコピー

すでに作成したプレースホルダ定義を簡単にコピーできるため、プレースホルダ定義の設定内容の一部を変更するだけでアセットをすばやく作成できます。

プレースホルダ定義を作成するには、次の手順を実行します。

### リストからのプレースホルダ定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Placeholder Definitions」を選択します。
2. コピーするプレースホルダ定義をリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-19) をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-19 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。

6. プレースホルダ定義がコピーされます。状況によっては、プレースホルダ定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-20) をクリックする必要があります。

図 7-20 「Refresh」アイコン



プレースホルダ定義がコピーされたら、開いて編集できます。

#### サーバーからのプレースホルダ定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Placeholder Definitions」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-19) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするプレースホルダ定義に対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. プレースホルダ定義がコピーされます。状況によっては、プレースホルダ定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-20) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからのプレースホルダ定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Placeholder Definitions」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-19) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするプレースホルダ定義に移動します。
4. プレースホルダ定義を選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. プレースホルダ定義がコピーされます。状況によっては、プレースホルダ定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-20) をクリックする必要があります。

## 7.4.4 プレースホルダ定義の編集

プレースホルダ定義には、コントリビューション・リージョンで使用するコンテンツの定義に使用するリージョン定義、リージョン・テンプレートおよびサブテンプレートが含まれている必要があります。

プレースホルダ定義を編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Placeholder Definitions」を選択します。
2. 編集するプレースホルダ定義をリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-21) をクリックします。

プレースホルダ定義ダイアログが開きます。詳細は、A-114 ページの「プレースホルダの定義ダイアログ」および 8-21 ページの「プレースホルダ定義」を参照してください。

図 7-21 「Edit」アイコン



3. プレースホルダ定義の説明を入力します。プレースホルダ定義を使用しやすくする適切なネーミング規則を使用する必要があります。名前からプレースホルダ定義の用途がわかれば、使用を検討するたびにそのプレースホルダ定義を表示する必要がなくなります。
4. プレースホルダ定義で許可するアクションを選択または選択解除します。これらのすべてのアクションは、コントリビュータによるコントリビューション・リージョンの操作に影響を与えます。
5. リージョン定義とリージョン・テンプレートを追加するには、「Allowed Region Definitions」で「Add」をクリックします。
6. サブテンプレートを追加するには、「Allowed Subtemplates」で「Add」をクリックします。
7. 選択したリージョン定義、リージョン・テンプレートまたはサブテンプレートを必要に応じて削除するには、該当するセクションで「Remove」をクリックします。

プレースホルダ定義の編集時には、リージョン定義、リージョン・テンプレートおよびサブテンプレートを考慮する必要があります。

詳細は、A-114 ページの「プレースホルダの定義ダイアログ」および 8-21 ページの「プレースホルダ定義」を参照してください。

## 7.4.5 プレースホルダ定義のコンテンツ情報の表示

プレースホルダ定義のコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Placeholder Definitions」を選択します。
2. リストからプレースホルダ定義を選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-22) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-22 「Doc Info」アイコン



## 7.4.6 サイトへのプレースホルダ定義の追加

サイトにプレースホルダ定義を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Placeholder Definitions」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-23) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-23 「Add to Site」アイコン



3. 追加するプレースホルダ定義を選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。

プレースホルダ定義が Web サイトに関連付けられ、定義を開いて編集できるようになります。

## 7.4.7 サイトからのプレースホルダ定義の削除

サイトからプレースホルダ定義を削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Placeholder Definitions」を選択します。
2. 削除するプレースホルダ定義をリストから選択し、「Remove From Site」アイコン (図 7-24) をクリックします。

プレースホルダ定義を削除すると、そのプレースホルダ定義はサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-24 「Remove From Site」アイコン



## 7.5 ページ・テンプレート

この項の内容は次のとおりです。

- 7-17 ページの「[ページ・テンプレートについて](#)」
- 7-18 ページの「[新規ページ・テンプレートの作成](#)」
- 7-19 ページの「[ページ・テンプレートのコピー](#)」
- 7-20 ページの「[ページ・テンプレートの編集](#)」
- 7-20 ページの「[ページ・テンプレートのコンテンツ情報の表示](#)」
- 7-20 ページの「[サイトへのページ・テンプレートの追加](#)」
- 7-21 ページの「[サイトからのページ・テンプレートの削除](#)」

### 7.5.1 ページ・テンプレートについて

ページ・テンプレートでは、Web ページの完全な構造を定義します。Web サイトに必要なページ・テンプレートの数は、サイトの複雑さによって異なりますが、通常は少ない方が簡単に使用できます。

使用するページ・テンプレートの数を少なくすると、サイト全体の変更がはるかに簡単になります。ページ・テンプレートが表すアセットは、HCSP、JSP または ASP による完全な Web ページです。リージョン・テンプレートまたはサブテンプレートの場合と同様に、テンプレートにはテキスト、イメージ、フラグメントなど、何でも直接配置でき、このテンプレートは、テンプレートが使用されるすべてのインスタンスで表示されます。これは、サブテンプレートとリージョン・テンプレートでも同様です。

ページ・テンプレートを再利用する場合、フラグメントからイメージ、テキスト、プレースホルダなどのサイト・アセットに至るまで、ページ・テンプレートに配置されている各部分は、ページ・テンプレートが表示されるたびに表示されます（インスタンスごとに、サイト・アセットに異なる定義を関連付けることができます。たとえば、ページ・テンプレートが Web ページの別のセクションで使用されるときに別のプレースホルダ定義を使用するなどして関連付けます）。

ページ・テンプレートを効率よく使用すると、非常に少ない数（場合によっては1つ）のページ・テンプレートで Web サイト全体を作成できます。これにより、Web サイトの標準的なルック・アンド・フィールを維持しながら、サイト管理を可能なかぎり簡素化できます。

詳細は、2-21 ページの「[ページ・テンプレート](#)」および 8-2 ページの「[テンプレートの操作](#)」を参照してください。

## 7.5.2 新規ページ・テンプレートの作成

ページ・テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Page Templates」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-25) をクリックし、「New」→「HCSP Page Template」または「JSP Page Template」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-25 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
5. ページ・テンプレートが作成されます。状況によっては、ページ・テンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-26) をクリックする必要があります。

図 7-26 「Refresh」アイコン



ページ・テンプレートは次の方法でも作成できますが、サイト階層の作成後にのみ実行する必要があります。

1. サイト階層で、セクションを右クリックし、ページ・テンプレートを使用する場所に応じて「Select Home Page」、「Select Primary Page」、「Select Secondary Page」のいずれかを選択します。  
メニューでの選択内容に応じて、次のいずれかのダイアログが表示されます。
  - A-26 ページの「Select (Home) Page Template」ダイアログ
  - A-28 ページの「Select (Primary) Page Template」ダイアログ
  - A-30 ページの「Select (Secondary) Page Template」ダイアログ
2. 「Create a new page template」を選択します。
3. 「OK」をクリックします。
4. 情報を入力して、ページ・テンプレートをコンテンツ・サーバーにチェックインします。
5. ページ・テンプレートが作成され、セクションに関連付けられます。

ページ・テンプレートをこの方法で作成すると、コンテキスト・データが「PREVIEW」タブに表示されます。「Site Assets」ペインでページ・テンプレートを作成すると、ページ・テンプレートをセクションに割り当てて、ページが含まれるセクションに基づいてデータが表示されることを確認する必要があります。



## 7.5.3 ページ・テンプレートのコピー

リストからページ・テンプレートを選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーからページ・テンプレートを選択してコピーするか、ローカル・サーバーからページ・テンプレートを選択してコピーできます。

### リストからのページ・テンプレートのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Page Templates」を選択します。
2. コピーするページ・テンプレートをリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-27) をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-27 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. ページ・テンプレートがコピーされます。状況によっては、ページ・テンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-28) をクリックする必要があります。

図 7-28 「Refresh」アイコン



### サーバーからのページ・テンプレートのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Page Templates」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-27) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするページ・テンプレートに対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. ページ・テンプレートがコピーされます。状況によっては、ページ・テンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-28) をクリックする必要があります。

### ローカル・インスタンスからのページ・テンプレートのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Page Templates」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-27) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするページ・テンプレートに移動します。
4. ページ・テンプレートを選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. ページ・テンプレートがコピーされます。状況によっては、ページ・テンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-28) をクリックする必要があります。

## 7.5.4 ページ・テンプレートの編集

ページ・テンプレートには、いずれかのセクションでページ・テンプレートが使用されるたびに取り込む必要があるアセットがすべて含まれます。サイドバー・ナビゲーション・フラグメントを使用する場合など、ページ上のアセットのレイアウトはインスタンスごとにページ・テンプレートを使用して表示されます。プレースホルダは、置き換え可能なコンテンツを持つページの部分をマークするために、ページ・テンプレート上に配置されます。

詳細は、8-2 ページの「テンプレートの操作」を参照してください。

ページ・テンプレートを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Page Templates」を選択します。
2. 編集するページ・テンプレートをリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-29) をクリックします。

選択したページ・テンプレートが開き、「SOURCE」ビューまたは「DESIGN」ビューで編集できるようになります。

図 7-29 「Edit」アイコン



## 7.5.5 ページ・テンプレートのコンテンツ情報の表示

ページ・テンプレートのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Page Templates」を選択します。
2. リストからページ・テンプレートを選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-30) をクリックします。

コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-30 「Doc Info」アイコン



## 7.5.6 サイトへのページ・テンプレートの追加

サイトにページ・テンプレートをアセットとして追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Page Templates」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-31) をクリックします。

検索結果ページが表示されます。

図 7-31 「Add to Site」アイコン



3. 追加するページ・テンプレートを選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。

4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。

ページ・テンプレートが Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。

### 7.5.7 サイトからのページ・テンプレートの削除

サイトから使用可能なアセットとしてのページ・テンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Page Templates」を選択します。
2. 削除するページ・テンプレートをリストから選択し、「Remove From Site」アイコン (図 7-32) をクリックします。

ページ・テンプレートを削除すると、そのページ・テンプレートはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-32 「Remove From Site」アイコン



## 7.6 リージョン・テンプレート

この項の内容は次のとおりです。

- 7-21 ページの「リージョン・テンプレートについて」
- 7-22 ページの「新規リージョン・テンプレートの作成」
- 7-22 ページの「リージョン・テンプレートのコピー」
- 7-24 ページの「リージョン・テンプレートの編集」
- 7-24 ページの「リージョン・テンプレートのコンテンツ情報の表示」
- 7-24 ページの「サイトへのリージョン・テンプレートの追加」
- 7-25 ページの「サイトからのリージョン・テンプレートの削除」

### 7.6.1 リージョン・テンプレートについて

リージョン・テンプレートは、プレースホルダ内にデータを表示する場合や要素（リージョン定義で制限される）を Web サイトで必要なレイアウトに配置する場合に使用します。詳細は、2-14 ページの「リージョン・テンプレートとリージョン定義」を参照してください。

リージョン・テンプレートを作成するときにはリージョン定義と関連付ける必要があるため、リージョン定義を最初に作成してからリージョン・テンプレートを作成することをお勧めします。

## 7.6.2 新規リージョン・テンプレートの作成

リージョン・テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Region Templates**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-33) をクリックし、「New」→「**HCSP Region Template**」を選択します。  
「Select a Region Definition」ダイアログが表示されます。リージョン・テンプレートに関連付けられているリージョン定義を選択します。

図 7-33 「Create New」アイコン



3. 「OK」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
6. リージョン・テンプレートが作成されます。状況によっては、リージョン・テンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-34) をクリックする必要があります。

図 7-34 「Refresh」アイコン



## 7.6.3 リージョン・テンプレートのコピー

リストからリージョン・テンプレートを選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーからリージョン・テンプレートを選択してコピーするか、ローカル・サーバーからリージョン・テンプレートを選択してコピーできます。

### リストからのイメージのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Region Templates**」を選択します。
2. コピーするリージョン・テンプレートをリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-35) をクリックし、「Copy」→「**Selected**」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-35 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。

6. リージョン・テンプレートがコピーされます。状況によっては、リージョン・テンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-36) をクリックする必要があります。

図 7-36 「Refresh」アイコン



#### サーバーからのイメージのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Region Templates」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-35) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするリージョン・テンプレートに対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. リージョン・テンプレートがコピーされます。状況によっては、リージョン・テンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-36) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからのイメージのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Region Templates」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-35) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするリージョン・テンプレートに移動します。
4. リージョン・テンプレートを選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. リージョン・テンプレートがコピーされます。状況によっては、リージョン・テンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-36) をクリックする必要があります。

## 7.6.4 リージョン・テンプレートの編集

リージョン・テンプレートを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Region Templates」を選択します。
2. 編集するリージョン・テンプレートをリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-37) をクリックします。

選択したリージョン・テンプレートが開き、「SOURCE」ビューまたは「DESIGN」ビューで編集できるようになります。

図 7-37 「Edit」アイコン



## 7.6.5 リージョン・テンプレートのコンテンツ情報の表示

リージョン・テンプレートのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Region Templates」を選択します。
2. リストからリージョン・テンプレートを選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-38) をクリックします。

コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-38 「Doc Info」アイコン



## 7.6.6 サイトへのリージョン・テンプレートの追加

サイトにリージョン・テンプレートを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Region Templates」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-39) をクリックします。

検索結果ページが表示されます。

図 7-39 「Add to Site」アイコン



3. 追加するリージョン・テンプレートを選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。

リージョン・テンプレートが Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。

## 7.6.7 サイトからのリージョン・テンプレートの削除

サイトからリージョン・テンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「**Region Templates**」を選択します。
2. 削除するリージョン・テンプレートをリストから選択し、「**Remove From Site**」アイコン (図 7-40) をクリックします。

リージョン・テンプレートを削除すると、そのリージョン・テンプレートはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-40 「Remove From Site」アイコン



## 7.7 サブテンプレート

この項の内容は次のとおりです。

- 7-25 ページの「サブテンプレートについて」
- 7-26 ページの「新規サブテンプレートの作成」
- 7-26 ページの「サブテンプレートのコピー」
- 7-27 ページの「サブテンプレートの編集」
- 7-28 ページの「サブテンプレートのコンテンツ情報の表示」
- 7-28 ページの「サイトへのサブテンプレートの追加」
- 7-28 ページの「サイトからのサブテンプレートの削除」

### 7.7.1 サブテンプレートについて

サブテンプレートを表示できるのはプレースホルダ内のみです。サブテンプレートには、プレースホルダや HTML またはイメージなどの静的コンテンツを含めることができます。サブテンプレートでは、CSS の参照やフラグメントの使用も可能です。

コード関連では、ページ・テンプレートが完全なページであることを除いて、サブテンプレートはページ・テンプレートと同じです。また、サブテンプレートには `<HEAD>` が含まれていません。それ以外の場合は、ページ・テンプレートでできることは、サブテンプレートでも実現できます。

サブテンプレートは、多くの場合、ページ・テンプレートに単独で配置される 1 つのプレースホルダを複数のプレースホルダに分割する手段として使用されます。これにより、ページ・テンプレートが再利用しやすくなります。また、デザイナーが大きなコードのセグメントを作成して、それを様々な場所で再利用する場合にも役立ちます。この場合、各インスタンスごとに、リージョン・テンプレートとリージョン定義（およびそれに関連付けられた作成済の構造）の異なるグループを割り当てるだけで、個々の完成した Web ページが生成されます。

ページ・テンプレートと同様に、サブテンプレートにも複数のプレースホルダを含めることができます。プレースホルダとプレースホルダ定義により、含まれる構造は、他のサイト・アセットでの場合と同じになります。つまり、プレースホルダとプレースホルダ定義により、コンテンツ・リージョンが定義されます。

詳細は、2-21 ページの「ページ・テンプレート」および 8-2 ページの「テンプレートの操作」を参照してください。

## 7.7.2 新規サブテンプレートの作成

サブテンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Subtemplates」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-41) をクリックし、「New」→「HCSP Subtemplate」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-41 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
5. サブテンプレートが作成されます。状況によっては、サブテンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-42) をクリックする必要があります。

図 7-42 「Refresh」アイコン



## 7.7.3 サブテンプレートのコピー

サブテンプレートは簡単にコピーできるため、サブテンプレートの設定内容の一部を変更するだけでアセットをすばやく作成できます。

### リストからのサブテンプレートのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Subtemplates」を選択します。
2. コピーするサブテンプレートをリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-43) をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-43 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. サブテンプレートがコピーされます。状況によっては、サブテンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-44) をクリックする必要があります。

図 7-44 「Refresh」アイコン





### サーバーからのサブテンプレートのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Subtemplates」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-43) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするサブテンプレートに対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. サブテンプレートがコピーされます。状況によっては、サブテンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-44) をクリックする必要があります。

### ローカル・インスタンスからのサブテンプレートのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Subtemplates」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-43) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするサブテンプレートに移動します。
4. サブテンプレートを選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. サブテンプレートがコピーされます。状況によっては、サブテンプレートをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-44) をクリックする必要があります。

## 7.7.4 サブテンプレートの編集

サブテンプレートを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Subtemplates」を選択します。
2. 編集するサブテンプレートをリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-45) をクリックします。  
選択したサブテンプレートが開き、「SOURCE」ビューまたは「DESIGN」ビューで編集できるようになります。

### 図 7-45 「Edit」アイコン



サブテンプレートが「SOURCE」ビューで編集用に開き、アセットを追加できるようになります。詳細は、8-2 ページの「テンプレートの操作」を参照してください。

## 7.7.5 サブテンプレートのコンテンツ情報の表示

サブテンプレートのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Subtemplates」を選択します。
2. リストからサブテンプレートを選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-46) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-46 「Doc Info」アイコン



## 7.7.6 サイトへのサブテンプレートの追加

サイトにサブテンプレートを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Subtemplates」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-47) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-47 「Add to Site」アイコン



3. 追加するサブテンプレートを選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。  
サブテンプレートが Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。

## 7.7.7 サイトからのサブテンプレートの削除

サイトからサブテンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Subtemplates」を選択します。
2. 削除するサブテンプレートをリストから選択し、「Remove From Site」アイコン (図 7-48) をクリックします。  
サブテンプレートを削除すると、そのサブテンプレートはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-48 「Remove From Site」アイコン



## 7.8 コントリビュータ・データ・ファイル

この項の内容は次のとおりです。

- 7-29 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルについて](#)」
- 7-29 ページの「[新規コントリビュータ・データ・ファイルの作成](#)」
- 7-30 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルのコピー](#)」
- 7-31 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルの編集](#)」
- 7-31 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルのコンテンツ情報の表示](#)」
- 7-32 ページの「[サイトへのコントリビュータ・データ・ファイルの追加](#)」
- 7-32 ページの「[サイトからのコントリビュータ・データ・ファイルの削除](#)」

### 7.8.1 コントリビュータ・データ・ファイルについて

コントリビュータ・データ・ファイルは、Site Studio で導入されている XML ファイルで、コントリビュータ・アプリケーションで開いて編集するように設定されています。コントリビュータ・ファイルのコンテンツがプレースホルダに関連付けられると、リージョン・テンプレートに配置された要素定義で定義されているとおりに、コントリビュータがデータにアクセスできます。コントリビュータがデータ・ファイルを変更すると、ファイルは即座に更新されて Web ページに追加されます。

詳細は、2-23 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント](#)」を参照してください。

### 7.8.2 新規コントリビュータ・データ・ファイルの作成

コントリビューション・データ・ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Contributor Data Files」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-49) をクリックし、「New」→「Contributor Data File」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-49 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
5. コントリビュータ・データ・ファイルが作成されます。状況によっては、コントリビュータ・データ・ファイルをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-50) をクリックする必要があります。

図 7-50 「Refresh」アイコン



コントリビュータ・データ・ファイルは、コンテンツを割り当てるときに作成することもできます。Switch Content ウィザードの実行時に (A-119 ページの「[Switch Content ウィザード](#)」を参照)、ウィザードでコントリビュータ・データ・ファイルを作成できます。

## 7.8.3 コントリビュータ・データ・ファイルのコピー

リストからコントリビュータ・データ・ファイルを選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーからコントリビュータ・データ・ファイルを選択してコピーするか、ローカル・インスタンスからコントリビュータ・データ・ファイルを選択してコピーできます。

### リストからのコントリビュータ・データ・ファイルのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Contributor Data Files」を選択します。
2. コピーするコントリビュータ・データ・ファイルをリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-51) をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-51 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. コントリビュータ・データ・ファイルがコピーされます。状況によっては、コントリビュータ・データ・ファイルをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-52) をクリックする必要があります。

図 7-52 「Refresh」アイコン



### コンテンツ・サーバーからのコントリビュータ・データ・ファイルのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Contributor Data Files」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-51) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするコントリビュータ・データ・ファイルに対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. コントリビュータ・データ・ファイルがコピーされます。状況によっては、コントリビュータ・データ・ファイルをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-52) をクリックする必要があります。

### ローカル・インスタンスからのコントリビュータ・データ・ファイルのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Contributor Data Files」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-51) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするコントリビュータ・データ・ファイルに移動します。

4. コントリビュータ・データ・ファイルを選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできません。
5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. コントリビュータ・データ・ファイルがコピーされます。状況によっては、コントリビュータ・データ・ファイルをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-52) をクリックする必要があります。

## 7.8.4 コントリビュータ・データ・ファイルの編集

コントリビュータ・データ・ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Contributor Data Files」を選択します。
2. 編集するコントリビュータ・データ・ファイルをリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-53) をクリックします。  
選択したコントリビュータ・データ・ファイルが開き、「SOURCE」ビューで編集できるようになります。

図 7-53 「Edit」アイコン



コントリビュータ・データ・ファイルは、デザイナーの「SOURCE」ビューではなく、コントリビュータで編集を行うように設計されています。ファイルを直接編集することもできますが、コントリビュータでコントリビュータ・データ・ファイルを編集する方がはるかに簡単です。

## 7.8.5 コントリビュータ・データ・ファイルのコンテンツ情報の表示

コントリビュータ・データ・ファイルのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Contributor Data Files」を選択します。
2. リストからコントリビュータ・データ・ファイルを選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-54) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-54 「Doc Info」アイコン



## 7.8.6 サイトへのコントリビュータ・データ・ファイルの追加

サイトにコントリビュータ・データ・ファイルを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Contributor Data Files」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-55) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-55 「Add to Site」アイコン



3. 追加するコントリビュータ・データ・ファイルを選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。  
コントリビュータ・データ・ファイルが Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。

## 7.8.7 サイトからのコントリビュータ・データ・ファイルの削除

サイトからコントリビュータ・データ・ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Contributor Data Files」を選択します。
2. 削除するコントリビュータ・データ・ファイルをリストから選択し、「Remove From Site」アイコン (図 7-56) をクリックします。  
コントリビュータ・データ・ファイルを削除すると、そのコントリビュータ・データ・ファイルはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-56 「Remove From Site」アイコン



## 7.9 ネイティブ・ドキュメント

この項の内容は次のとおりです。

- 7-33 ページの「ネイティブ・ドキュメントについて」
- 7-33 ページの「新規ネイティブ・ドキュメントの作成」
- 7-34 ページの「ネイティブ・ドキュメントのコピー」
- 7-35 ページの「ネイティブ・ドキュメントの編集」
- 7-35 ページの「ネイティブ・ドキュメントのコンテンツ情報の表示」
- 7-36 ページの「サイトへのネイティブ・ドキュメントの追加」
- 7-36 ページの「サイトからのネイティブ・ドキュメントの削除」

### 7.9.1 ネイティブ・ドキュメントについて

ネイティブ・ドキュメントは、Site Studio に表示されるサード・パーティ製のファイルであり、それを最初に作成したときのアプリケーション（たとえば、Word ドキュメントの場合は Microsoft Word）を使用して編集します。ファイルは、チェックインされると（Dynamic Converter を使用して）Web ページに変換され、Web ページで使用できるようになります。

詳細は、2-23 ページの「コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント」および第 10 章「ネイティブ・ドキュメントの操作」を参照してください。

### 7.9.2 新規ネイティブ・ドキュメントの作成

ネイティブ・ドキュメントを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Native Documents」を選択します。
2. 「Create New」アイコン（[図 7-57](#)）をクリックし、「New」を選択して、次のリストからドキュメント・タイプを選択します。
  - Microsoft Word 97-2003 Document
  - Microsoft Word Document
  - Microsoft Excel 97-2003 Workbook
  - Microsoft Excel Workbook
  - Microsoft Powerpoint 97-2003 Presentation
  - Microsoft Powerpoint Presentation
  - Microsoft Visio Document
  - Adobe Frame Maker
  - Adobe Photoshop Image
  - Text Document
  - Rich Text Format

「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-57 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。

5. ネイティブ・ドキュメント（空白のもの）が作成されます。状況によっては、ネイティブ・ドキュメントをリストに表示するために、「Refresh」アイコン（[図 7-58](#)）をクリックする必要があります。

図 7-58 「Refresh」アイコン



### 7.9.3 ネイティブ・ドキュメントのコピー

リストからネイティブ・ドキュメントを選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーからネイティブ・ドキュメントを選択してコピーするか、ローカル・インスタンスからネイティブ・ドキュメントを選択してコピーできます。

#### リストからのネイティブ・ドキュメントのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Native Documents」を選択します。
2. コピーするネイティブ・ドキュメントをリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン（[図 7-59](#)）をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-59 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. ネイティブ・ドキュメントがコピーされます。状況によっては、ネイティブ・ドキュメントをリストに表示するために、「Refresh」アイコン（[図 7-60](#)）をクリックする必要があります。

図 7-60 「Refresh」アイコン



#### サーバーからのネイティブ・ドキュメントのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Native Documents」を選択します。
2. 「Create New」アイコン（[図 7-59](#)）をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするネイティブ・ドキュメントに対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. ネイティブ・ドキュメントがコピーされます。状況によっては、ネイティブ・ドキュメントをリストに表示するために、「Refresh」アイコン（[図 7-60](#)）をクリックする必要があります。



### ローカル・インスタンスからのネイティブ・ドキュメントのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Native Documents」 を選択します。
2. 「Create New」 アイコン (図 7-59) をクリックし、「Copy」 → 「from Local」 を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするネイティブ・ドキュメントに移動します。
4. ネイティブ・ドキュメントを選択して、「Open」 をクリックします。  
「Assign Info Form」 が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
5. 「Assign Info Form」 に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」 をクリックします。
7. ネイティブ・ドキュメントがコピーされます。状況によっては、ネイティブ・ドキュメントをリストに表示するために、「Refresh」 アイコン (図 7-60) をクリックする必要があります。

## 7.9.4 ネイティブ・ドキュメントの編集

ネイティブ・ドキュメントを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Native Documents」 を選択します。
2. 編集するネイティブ・ドキュメントをリストから選択し、「Edit」 アイコン (図 7-61) をクリックします。

ネイティブ・ドキュメントを編集するには、Check Out and Open がインストールされている必要があります。ドキュメントは適切なアプリケーションで開きます。たとえば、Microsoft Word や Powerpoint などです。

図 7-61 「Edit」 アイコン



3. 編集が終了したら、ファイルを保存します。ファイルはサーバーに保存されます。

## 7.9.5 ネイティブ・ドキュメントのコンテンツ情報の表示

ネイティブ・ドキュメントのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Native Documents」 を選択します。
2. リストからネイティブ・ドキュメントを選択します。
3. 「Doc Info」 アイコン (図 7-62) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-62 「Doc Info」 アイコン



## 7.9.6 サイトへのネイティブ・ドキュメントの追加

サイトにネイティブ・ドキュメントを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Native Documents」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-63) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-63 「Add to Site」アイコン



3. 追加するネイティブ・ドキュメントを選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。  
ネイティブ・ドキュメントが Web サイトに関連付けられます。

## 7.9.7 サイトからのネイティブ・ドキュメントの削除

サイトからネイティブ・ドキュメントを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Native Documents」を選択します。
2. 削除するネイティブ・ドキュメントをリストから選択し、「Remove From Site」アイコン (図 7-64) をクリックします。

ネイティブ・ドキュメントを削除すると、そのネイティブ・ドキュメントはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-64 「Remove From Site」アイコン



## 7.10 イメージ

この項の内容は次のとおりです。

- 7-37 ページの「イメージについて」
- 7-37 ページの「新規イメージの作成」
- 7-38 ページの「イメージのコピー」
- 7-39 ページの「イメージのコンテンツ情報の表示」
- 7-39 ページの「サイトへのイメージの追加」
- 7-39 ページの「サイトからのイメージの削除」

### 7.10.1 イメージについて

グラフィック・イメージの追加、イメージのコピー、サイトへのイメージの追加およびサイトからのイメージの削除を行うことができます。サポートされるイメージ形式は、GIF と JPG です。イメージを Web サイトに追加するには、イメージがコンテンツ・サーバーにアセットとして追加されている必要があります。

### 7.10.2 新規イメージの作成

イメージを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Images**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-65) をクリックし、「**New**」→「**GIF Image**」または「**JPG Image**」を選択します。

「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできません。

図 7-65 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
5. イメージが作成されます。状況によっては、イメージをリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-66) をクリックする必要があります。

図 7-66 「Refresh」アイコン



### 7.10.3 イメージのコピー

リストからイメージを選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーからイメージを選択してコピーするか、ローカル・インスタンスからイメージを選択してコピーできます。

#### リストからのイメージのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Images」を選択します。
2. リストからコピーするイメージを選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-67) をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-67 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. イメージがコピーされます。状況によっては、イメージをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-68) をクリックする必要があります。

図 7-68 「Refresh」アイコン



#### サーバーからのイメージのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Images」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-67) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするイメージに対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. イメージがコピーされます。状況によっては、イメージをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-68) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからのイメージのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Images」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-67) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするイメージに移動します。
4. イメージを選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。

6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. イメージがコピーされます。状況によっては、イメージをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-68) をクリックする必要があります。

#### 7.10.4 イメージのコンテンツ情報の表示

イメージのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Images」を選択します。
2. リストからイメージを選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-69) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-69 「Doc Info」アイコン



#### 7.10.5 サイトへのイメージの追加

サイトにイメージを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Images」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-70) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-70 「Add to Site」アイコン



3. 追加するイメージを選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。  
イメージが Web サイトに関連付けられます。

#### 7.10.6 サイトからのイメージの削除

サイトからイメージを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Images」を選択します。
2. 削除するイメージをリストから選択し、「Remove From Site」アイコン (図 7-71) をクリックします。

イメージを削除すると、そのイメージはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-71 「Remove From Site」アイコン



## 7.11 スクリプト

この項の内容は次のとおりです。

- 7-40 ページの「スクリプトについて」
- 7-40 ページの「新規スクリプトの作成」
- 7-41 ページの「スクリプトのコピー」
- 7-42 ページの「スクリプトの編集」
- 7-42 ページの「スクリプトのコンテンツ情報の表示」
- 7-42 ページの「サイトへのスクリプトの追加」
- 7-43 ページの「サイトからのスクリプトの削除」

### 7.11.1 スクリプトについて

スクリプトは、多くの場合、Web サイトでの情報表示やユーザー・インタラクションをより効果的に行うために Web サイトで使用します。スクリプトの追加、スクリプトの編集、スクリプトのコピー、スクリプトのサイトへの追加およびサイトからの削除を行うことができます。

### 7.11.2 新規スクリプトの作成

スクリプトを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Scripts**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-72) をクリックし、「**New**」→「**Javascript File**」または「**VBScript File**」を選択します。

「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできません。

---

**注意：**VBScript は、カスタム検証スクリプトの記述には使用できません。

---

図 7-72 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
5. スクリプトが作成されます。状況によっては、スクリプトをリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-73) をクリックする必要があります。

図 7-73 「Refresh」アイコン



新規追加時のスクリプトには、コードが含まれていません。空白の状態です。

### 7.11.3 スクリプトのコピー

リストからスクリプトを選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーからスクリプトを選択してコピーするか、ローカル・インスタンスからスクリプトを選択してコピーできます。

#### リストからのスクリプトのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「**Scripts**」を選択します。
2. リストからコピーするスクリプトを選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-74) をクリックし、「**Copy**」→「**Selected**」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-74 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
6. スクリプトがコピーされます。状況によっては、スクリプトをリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-75) をクリックする必要があります。

図 7-75 「Refresh」アイコン



#### サーバーからのスクリプトのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「**Scripts**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-74) をクリックし、「**Copy**」→「**from Server**」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするスクリプトに対応する「**Select**」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
6. スクリプトがコピーされます。状況によっては、スクリプトをリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-75) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからのスクリプトのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「**Scripts**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-74) をクリックし、「**Copy**」→「**from Local**」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするスクリプトに移動します。
4. スクリプトを選択して、「**Open**」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。

6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. スクリプトがコピーされます。状況によっては、スクリプトをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-75) をクリックする必要があります。

#### 7.11.4 スクリプトの編集

スクリプトを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Scripts」を選択します。
2. 編集するスクリプトをリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-76) をクリックします。  
選択したスクリプトが開き、「SOURCE」ビューで編集できるようになります。

図 7-76 「Edit」アイコン



#### 7.11.5 スクリプトのコンテンツ情報の表示

スクリプトのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Scripts」を選択します。
2. リストからスクリプトを選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-77) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-77 「Doc Info」アイコン



#### 7.11.6 サイトへのスクリプトの追加

サイトにスクリプトを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Scripts」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-78) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-78 「Add to Site」アイコン



3. 追加するスクリプトを選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。  
スクリプトが Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。



### 7.11.7 サイトからのスクリプトの削除

サイトからスクリプトを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Scripts**」を選択します。
2. 削除するスクリプトをリストから選択し、「Remove From Site」アイコン (図 7-79) をクリックします。

スクリプトを削除すると、そのスクリプトはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-79 「Remove From Site」アイコン



## 7.12 Cascading Style Sheet (CSS)

この項の内容は次のとおりです。

- 7-43 ページの「[CSS について](#)」
- 7-43 ページの「[新規 CSS の作成](#)」
- 7-44 ページの「[CSS のコピー](#)」
- 7-45 ページの「[CSS の編集](#)」
- 7-45 ページの「[CSS のコンテンツ情報の表示](#)」
- 7-46 ページの「[サイトへの CSS の追加](#)」
- 7-46 ページの「[サイトからの CSS の削除](#)」

### 7.12.1 CSS について

Cascading Style Sheet (CSS) は、ページへの配置、レイアウトおよびその他のスタイルを制御するために使用します。スタイルシートは「SOURCE」ビューで編集します。スタイルシートは通常、静的 HTML ページに挿入する場合と同様に、ページ・テンプレートやサブテンプレートなどの他のオブジェクトに追加します。

### 7.12.2 新規 CSS の作成

CSS を作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**CSS**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-80) をクリックし、「**New**」→「**CSS Stylesheet**」を選択します。

「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできません。

図 7-80 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。

5. CSS が作成されます。状況によっては、CSS をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-81) をクリックする必要があります。

図 7-81 「Refresh」アイコン



アセットとして新規追加されたときの Cascading Style Sheet には、コードが含まれていません。空白の状態です。編集してスタイルを追加する必要があります。

### 7.12.3 CSS のコピー

リストから CSS を選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーから CSS を選択してコピーするか、ローカル・サーバーから CSS を選択してコピーできます。

#### リストからの CSS のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「CSS」を選択します。
2. リストからコピーする CSS を選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-82) をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-82 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. CSS がコピーされます。状況によっては、CSS をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-83) をクリックする必要があります。

図 7-83 「Refresh」アイコン



#### サーバーからの CSS のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「CSS」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-82) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーする CSS に対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. CSS がコピーされます。状況によっては、CSS をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-83) をクリックする必要があります。

### ローカル・インスタンスからの CSS のコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「CSS」 を選択します。
2. 「Create New」 アイコン (図 7-82) をクリックし、「Copy」 → 「from Local」 を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーする CSS に移動します。
4. CSS を選択して、「Open」 をクリックします。  
「Assign Info Form」 が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできません。
5. 「Assign Info Form」 に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」 をクリックします。
7. CSS がコピーされます。状況によっては、CSS をリストに表示するために、「Refresh」 アイコン (図 7-83) をクリックする必要があります。

## 7.12.4 CSS の編集

CSS を編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「CSS」 を選択します。
2. 編集する CSS をリストから選択し、「Edit」 アイコン (図 7-84) をクリックします。  
選択した CSS が開き、「SOURCE」 ビューで編集できるようになります。

図 7-84 「Edit」 アイコン



## 7.12.5 CSS のコンテンツ情報の表示

CSS のコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「CSS」 を選択します。
2. リストから CSS を選択します。
3. 「Doc Info」 アイコン (図 7-85) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-85 「Doc Info」 アイコン



## 7.12.6 サイトへの CSS の追加

サイトに CSS を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「CSS」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-86) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-86 「Add to Site」アイコン



3. 追加する Cascading Style Sheet を選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。

Cascading Style Sheet が Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。

## 7.12.7 サイトからの CSS の削除

サイトから CSS を削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「CSS」を選択します。
2. 削除する CSS をリストから選択し、「Remove From Site」アイコン (図 7-87) をクリックします。

CSS を削除すると、その CSS はサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-87 「Remove From Site」アイコン



## 7.13 カスタム構成スクリプト

この項の内容は次のとおりです。

- 7-47 ページの「[カスタム構成スクリプトについて](#)」
- 7-47 ページの「[新規カスタム構成スクリプトの作成](#)」
- 7-48 ページの「[カスタム構成スクリプトのコピー](#)」
- 7-49 ページの「[カスタム構成スクリプトの編集](#)」
- 7-49 ページの「[カスタム構成スクリプトのコンテンツ情報の表示](#)」
- 7-49 ページの「[サイトへのカスタム構成スクリプトの追加](#)」
- 7-50 ページの「[サイトからのカスタム構成スクリプトの削除](#)」

### 7.13.1 カスタム構成スクリプトについて

カスタム構成スクリプトは、コントリビュータの要素内の編集のインタフェースを変更する場合に使用します。各構成スクリプトを使用して、コマンド、ツールバー・ボタンおよびコンテキスト・メニュー・アイテムを追加または置換できます。エディタのどの部分も、特定の要件を満たすためにカスタマイズできます。

詳細は、11-11 ページの「[カスタム構成スクリプト](#)」を参照してください。

### 7.13.2 新規カスタム構成スクリプトの作成

カスタム構成スクリプトを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Custom Configuration Scripts**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-88) をクリックし、「**New**」→「**Custom Configuration Script**」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-88 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
5. カスタム構成スクリプトが作成されます。状況によっては、カスタム構成スクリプトをリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-89) をクリックする必要があります。

図 7-89 「Refresh」アイコン



---

**注意:** 「Assets」ペインを使用してスクリプトを作成すると、FCK 要素と互換性のあるコードがカスタマイズ情報として事前に入力されます。Ephox を使用している場合は、事前に入力されたコードを削除する必要があります。

---

### 7.13.3 カスタム構成スクリプトのコピー

リストからカスタム構成スクリプトを選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーからカスタム構成スクリプトを選択してコピーするか、ローカル・サーバーからカスタム構成スクリプトを選択してコピーできます。

#### リストからのカスタム構成スクリプトのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Custom Configuration Script」を選択します。
2. コピーするカスタム構成スクリプトをリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-90) をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-90 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. カスタム構成スクリプトがコピーされます。状況によっては、カスタム構成スクリプトをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-91) をクリックする必要があります。

図 7-91 「Refresh」アイコン



#### サーバーからのカスタム構成スクリプトのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Custom Configuration Script」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-90) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするカスタム構成スクリプトに対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. カスタム構成スクリプトがコピーされます。状況によっては、カスタム構成スクリプトをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-91) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからのカスタム構成スクリプトのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Custom Configuration Script」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-90) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするカスタム構成スクリプトに移動します。
4. カスタム構成スクリプトを選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. カスタム構成スクリプトがコピーされます。状況によっては、カスタム構成スクリプトをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-91) をクリックする必要があります。

### 7.13.4 カスタム構成スクリプトの編集

カスタム構成スクリプトを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Custom Configuration Script」を選択します。
2. 編集するスクリプトをリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-92) をクリックします。  
選択したスクリプトが開き、「SOURCE」ビューで編集できるようになります。

図 7-92 「Edit」アイコン



### 7.13.5 カスタム構成スクリプトのコンテンツ情報の表示

カスタム構成スクリプトのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Custom Configuration Script」を選択します。
2. リストからカスタム構成スクリプトを選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-93) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-93 「Doc Info」アイコン



### 7.13.6 サイトへのカスタム構成スクリプトの追加

サイトにカスタム構成スクリプトを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Custom Configuration Script」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-94) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-94 「Add to Site」アイコン



3. 追加するカスタム構成スクリプトを選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。  
構成スクリプトが Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。

### 7.13.7 サイトからのカスタム構成スクリプトの削除

サイトからカスタム構成スクリプトを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Custom Configuration Script**」を選択します。
2. 削除するカスタム構成スクリプトをリストから選択し、「**Remove From Site**」アイコン (図 7-95) をクリックします。

カスタム構成スクリプトを削除すると、そのスクリプトはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-95 「Remove From Site」アイコン



## 7.14 カスタム要素フォーム

この項の内容は次のとおりです。

- 7-50 ページの「カスタム要素フォームについて」
- 7-51 ページの「新規カスタム要素フォームの作成」
- 7-51 ページの「カスタム要素フォームのコピー」
- 7-52 ページの「カスタム要素フォームの編集」
- 7-53 ページの「カスタム要素フォームのコンテンツ情報の表示」
- 7-53 ページの「サイトへのカスタム要素フォームの追加」
- 7-53 ページの「サイトからのカスタム要素フォームの削除」

### 7.14.1 カスタム要素フォームについて

カスタム要素フォームは、カスタム要素定義を操作するために設計されたもので、他の要素と同様にリージョン・テンプレートとリージョン定義に追加します。カスタム要素フォームは、コントリビュータが Web サイトに各種コンテンツを追加したり、それらを制御したりする場合に使用するカスタム・インタフェースを作成するために使用します。Site Studio には、複数の事前定義済みのカスタム要素フォームが付属します ([CS-Dir]¥custom¥SiteStudio¥elementforms 内)。



## 7.14.2 新規カスタム要素フォームの作成

カスタム要素フォームを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「**Custom Element Forms**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-96) をクリックし、「**New**」→「**Custom Element Form**」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-96 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
5. カスタム要素フォームが作成されます。状況によっては、カスタム要素フォームをリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-97) をクリックする必要があります。

図 7-97 「Refresh」アイコン



## 7.14.3 カスタム要素フォームのコピー

リストからカスタム要素フォームを選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーからカスタム要素フォームを選択してコピーするか、ローカル・サーバーからカスタム要素フォームを選択してコピーできます。

### リストからのカスタム要素フォームのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「**Custom Element Form**」を選択します。
2. コピーするカスタム要素フォームをリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-98) をクリックし、「**Copy**」→「**Selected**」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-98 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
6. カスタム要素フォームがコピーされます。状況によっては、カスタム要素フォームをリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-99) をクリックする必要があります。

図 7-99 「Refresh」アイコン



#### サーバーからのカスタム要素フォームのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Custom Element Form」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-98) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするカスタム要素フォームに対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. カスタム要素フォームがコピーされます。状況によっては、カスタム要素フォームをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-99) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからのカスタム要素フォームのコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Custom Element Form」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-98) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーするカスタム要素フォームに移動します。
4. カスタム要素フォームを選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. カスタム要素フォームがコピーされます。状況によっては、カスタム要素フォームをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-99) をクリックする必要があります。

### 7.14.4 カスタム要素フォームの編集

カスタム要素フォームを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Custom Element Form」を選択します。
2. 編集するカスタム要素フォームをリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-100) をクリックします。  
選択したフォームが開き、「SOURCE」ビューで編集できるようになります。

図 7-100 「Edit」アイコン



## 7.14.5 カスタム要素フォームのコンテンツ情報の表示

カスタム要素フォームのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Custom Element Form**」を選択します。
2. リストからカスタム要素フォームを選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-101) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-101 「Doc Info」アイコン



## 7.14.6 サイトへのカスタム要素フォームの追加

サイトにカスタム要素を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Custom Element Form**」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-102) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-102 「Add to Site」アイコン



3. 追加するカスタム要素フォームを選択し、「**Site Studio**」 → 「**Select Marked Documents**」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「**OK**」をクリックします。  
カスタム要素フォームが Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。

## 7.14.7 サイトからのカスタム要素フォームの削除

サイトからカスタム要素フォームを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Custom Element Form**」を選択します。
2. 削除するカスタム要素フォームをリストから選択し、「**Remove From Site**」アイコン (図 7-103) をクリックします。

カスタム要素フォームを削除すると、そのカスタム要素フォームはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-103 「Remove From Site」アイコン



## 7.15 検証スクリプト

この項の内容は次のとおりです。

- 7-54 ページの「[検証スクリプトについて](#)」
- 7-54 ページの「[新規検証スクリプトの作成](#)」
- 7-55 ページの「[検証スクリプトのコピー](#)」
- 7-56 ページの「[検証スクリプトの編集](#)」
- 7-56 ページの「[検証スクリプトのコンテンツ情報の表示](#)」
- 7-56 ページの「[サイトへの検証スクリプトの追加](#)」
- 7-57 ページの「[サイトからの検証スクリプトの削除](#)」

### 7.15.1 検証スクリプトについて

独自の検証スクリプトを使用して、追加されるコンテンツなどのサイト・ルールを適用できます。検証スクリプトは、JavaScript でのみ記述できます。

検証スクリプトは要素定義に関連付けられており、コントリビュータが加えた編集内容を検証する場合に使用します。

### 7.15.2 新規検証スクリプトの作成

検証スクリプトを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Validation Scripts**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-104) をクリックし、「**New**」 → 「**Javascript File**」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-104 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
5. 検証スクリプトが作成されます。状況によっては、検証スクリプトをリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-105) をクリックする必要があります。

図 7-105 「Refresh」アイコン



初期作成時の検証スクリプトには、コードが含まれていません。空白の状態です。コードを記述するには、スクリプトを編集する必要があります。

---

**注意：** 検証スクリプトは VBScript では実行できません。

---

### 7.15.3 検証スクリプトのコピー

リストから検証スクリプトを選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーから検証スクリプトを選択してコピーするか、ローカル・サーバーから検証スクリプトを選択してコピーできます。

#### リストからの検証スクリプトのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Validation Scripts」を選択します。
2. リストからコピーする検証スクリプトを選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-106) をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-106 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. 検証スクリプトがコピーされます。状況によっては、検証スクリプトをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-107) をクリックする必要があります。

図 7-107 「Refresh」アイコン



#### サーバーからの検証スクリプトのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Validation Scripts」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-106) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーする検証スクリプトに対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. 検証スクリプトがコピーされます。状況によっては、検証スクリプトをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-107) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからの検証スクリプトのコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Validation Scripts」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-106) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーする検証スクリプトに移動します。
4. 検証スクリプトを選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. 検証スクリプトがコピーされます。状況によっては、検証スクリプトをリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-107) をクリックする必要があります。

## 7.15.4 検証スクリプトの編集

検証スクリプトを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Validation Scripts」を選択します。
2. 編集するスクリプトをリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-108) をクリックします。  
選択したスクリプトが開き、「SOURCE」ビューで編集できるようになります。

図 7-108 「Edit」アイコン



## 7.15.5 検証スクリプトのコンテンツ情報の表示

検証スクリプトのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Validation Scripts」を選択します。
2. リストから検証スクリプトを選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-109) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-109 「Doc Info」アイコン



## 7.15.6 サイトへの検証スクリプトの追加

サイトに検証スクリプトを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Validation Scripts」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-110) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-110 「Add to Site」アイコン



3. 追加する検証スクリプトを選択し、「Site Studio」→「Select Marked Documents」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。  
検証スクリプトが Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。

## 7.15.7 サイトからの検証スクリプトの削除

サイトから検証スクリプトを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Validation Scripts」を選択します。
2. 削除する検証スクリプトをリストから選択し、「Remove From Site」アイコン (図 7-111) をクリックします。

検証スクリプトを削除すると、その検証スクリプトはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-111 「Remove From Site」 アイコン



## 7.16 フラグメント・ライブラリ

この項の内容は次のとおりです。

- 7-57 ページの「フラグメント・ライブラリについて」
- 7-57 ページの「フラグメント・ライブラリのコンテンツ情報の表示」
- 7-58 ページの「サイトへのフラグメント・ライブラリの追加」
- 7-58 ページの「サイトからのフラグメント・ライブラリの削除」

### 7.16.1 フラグメント・ライブラリについて

フラグメントは、HTML とコンテンツが組み合わされたセクションです。フラグメントは、HTML、Idoc スクリプト、JavaScript および参照ファイル（グラフィック、CSS、インクルードなど）と、オプション言語である JSP または ASP のコンテナです。フラグメントの例として、ブレッドクラム追跡、ナビゲーション・バー、またはフッターの著作権表示などがあります。

フラグメントの仕様は、XML で記述され、フラグメント・ライブラリに格納されます（選択した場合は他のフラグメントも一緒に格納されます）。フラグメント・ライブラリは、その内容を記述した単一の XML ファイルと、各フラグメントで 사용되는すべてのアセットを格納した ZIP ファイルで構成されます。フラグメント・ライブラリは、コンテンツ・サーバーに格納されます。各ライブラリは、Site Studio コンポーネントをインストールすると自動的にチェックインされます。

Site Studio で提供されるフラグメントのサンプルは直接編集できません。コピーしてから編集する必要があります。

### 7.16.2 フラグメント・ライブラリのコンテンツ情報の表示

フラグメント・ライブラリのコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Fragment Libraries」を選択します。
2. リストからフラグメント・ライブラリを選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-112) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-112 「Doc Info」 アイコン



### 7.16.3 サイトへのフラグメント・ライブラリの追加

サイトにフラグメント・ライブラリを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Fragment Libraries**」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-113) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-113 「Add to Site」アイコン



3. 追加するフラグメント・ライブラリを選択し、「**Site Studio**」 → 「**Select Marked Documents**」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「**OK**」をクリックします。  
フラグメント・ライブラリが Web サイトに関連付けられます。

### 7.16.4 サイトからのフラグメント・ライブラリの削除

サイトからフラグメント・ライブラリを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Fragment Libraries**」を選択します。
2. 削除するフラグメント・ライブラリをリストから選択し、「**Remove From Site**」アイコン (図 7-114) をクリックします。

フラグメント・ライブラリを削除すると、そのフラグメント・ライブラリはサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-114 「Remove From Site」アイコン





## 7.17 マネージャ構成設定

この項の内容は次のとおりです。

- 7-59 ページの「マネージャ構成設定について」
- 7-59 ページの「新規マネージャ構成設定の作成」
- 7-60 ページの「マネージャ構成設定のコピー」
- 7-61 ページの「マネージャ構成設定の編集」
- 7-61 ページの「マネージャ構成設定のコンテンツ情報の表示」
- 7-62 ページの「サイトへのマネージャ構成設定の追加」
- 7-62 ページの「サイトからのマネージャ構成設定の削除」

### 7.17.1 マネージャ構成設定について

マネージャ構成設定は、マネージャ・コンポーネント（複数の構成が作成された場合は複数のマネージャ・コンポーネント）の制御に使用します。マネージャ・コンポーネントを使用することにより、マネージャはサイト階層を制御し、ページ・テンプレートを割り当てることができます。マネージャ構成設定は、マネージャ・インタフェースでマネージャに許可されるアクセス・レベルを制御します。

詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド』を参照してください。

### 7.17.2 新規マネージャ構成設定の作成

マネージャ構成設定を作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Manager Configuration Settings**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン（[図 7-115](#)）をクリックし、「New」→「**Minimal Enabled**」または「**Maximum Enabled**」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-115 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
5. マネージャ構成設定が作成されます。状況によっては、マネージャ構成設定をリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン（[図 7-116](#)）をクリックする必要があります。

図 7-116 「Refresh」アイコン



作成時のマネージャ構成設定には、デフォルト設定が含まれています。構成は空白ではないため、他のサイト・アセットとは異なり、作成後の編集が必要ない場合もあります。

### 7.17.3 マネージャ構成設定のコピー

リストからマネージャ構成設定を選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーからマネージャ構成設定を選択してコピーするか、ローカル・サーバーからマネージャ構成設定を選択してコピーできます。

#### リストからのマネージャ構成設定のコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Manager Configuration Settings」を選択します。
2. コピーするマネージャ構成設定をリストから選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-117) をクリックし、「Copy」→「Selected」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-117 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. マネージャ構成設定がコピーされます。状況によっては、マネージャ構成設定をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-118) をクリックする必要があります。

図 7-118 「Refresh」アイコン



#### サーバーからのマネージャ構成設定のコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Manager Configuration Settings」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-117) をクリックし、「Copy」→「from Server」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーするマネージャ構成設定に対応する「Select」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
6. マネージャ構成設定がコピーされます。状況によっては、マネージャ構成設定をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-118) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからのマネージャ構成設定のコピー

1. 「Site Assets」 ペインのメニューで、「Manager Configuration Settings」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-119) をクリックし、「Copy」→「from Local」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。

図 7-119 「Create New」アイコン



3. ローカル・インスタンスで、コピーするマネージャ構成設定に移動します。
4. マネージャ構成設定を選択して、「Open」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. マネージャ構成設定がコピーされます。状況によっては、マネージャ構成設定をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-120) をクリックする必要があります。

図 7-120 「Refresh」アイコン



### 7.17.4 マネージャ構成設定の編集

マネージャ構成設定を編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Manager Configuration Settings」を選択します。
2. リストから編集するマネージャ構成設定を選択して、「Edit」アイコン (図 7-121) をクリックします。

「Manager Configuration Settings」ダイアログが開きます。詳細は、A-110 ページの「Manager Configuration Settings」ダイアログを参照してください。

図 7-121 「Edit」アイコン



3. マネージャの「General」オプション、「Actions」および「Properties」を選択して、マネージャが使用できるようにします。マネージャがサイト階層で作業するときにメニューで使用できるアクセスを選択します。一部のオプションは、「SOURCE」ビューでのみ使用できます。
4. 「OK」をクリックします。

### 7.17.5 マネージャ構成設定のコンテンツ情報の表示

マネージャ構成設定のコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Manager Configuration Settings」を選択します。
2. リストからマネージャ構成設定を選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-122) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-122 「Doc Info」アイコン



## 7.17.6 サイトへのマネージャ構成設定の追加

サイトにマネージャ構成設定を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Manager Configuration Settings**」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-123) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-123 「Add to Site」アイコン



3. 追加するマネージャ構成設定を選択し、「Site Studio」→「**Select Marked Documents**」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「OK」をクリックします。  
マネージャ構成設定が Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。

## 7.17.7 サイトからのマネージャ構成設定の削除

サイトからマネージャ構成設定を削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Manager Configuration Settings**」を選択します。
2. 削除するマネージャ構成設定をリストから選択し、「**Remove From Site**」アイコン (図 7-124) をクリックします。  
マネージャ構成設定を削除すると、その設定はサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-124 「Remove From Site」アイコン



## 7.18 変換定義

この項の内容は次のとおりです。

- 7-63 ページの「[変換定義について](#)」
- 7-63 ページの「[新規変換定義の作成](#)」
- 7-64 ページの「[変換定義のコピー](#)」
- 7-65 ページの「[変換定義の編集](#)」
- 7-65 ページの「[変換定義のコンテンツ情報の表示](#)」
- 7-66 ページの「[サイトへの変換定義の追加](#)」
- 7-66 ページの「[サイトからの変換定義の削除](#)」

### 7.18.1 変換定義について

変換定義は、ネイティブ・ドキュメントを変換して Web サイトでインライン表示する場合に使用します。変換定義は、ネイティブ・ドキュメントを HTML に変換する方法とページに表示する方法を定義するルール、テンプレートまたはその組合せです。

Web ページにネイティブ・ドキュメントを割り当てる場合は、Web ページへのドキュメントの変換に使用される (Dynamic Converter の) テンプレートまたはルールを変換定義で指定できます。

### 7.18.2 新規変換定義の作成

変換定義を作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Conversion Definitions**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-125) をクリックし、「New」→「**Conversion Definition**」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-125 「Create New」アイコン



3. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
4. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
5. 変換定義が作成されます。状況によっては、変換定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-126) をクリックする必要があります。

図 7-126 「Refresh」アイコン



追加時の変換定義は空白です。ネイティブ・ドキュメントの変換に使用するには、編集してルールを指定する必要があります。

### 7.18.3 変換定義のコピー

リストから変換定義を選択してコピーするか、コンテンツ・サーバーから変換定義を選択してコピーするか、ローカル・サーバーから変換定義を選択してコピーできます。

#### リストからの変換定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Conversion Definitions**」を選択します。
2. リストからコピーする変換定義を選択します。
3. 「Create New」アイコン (図 7-127) をクリックし、「**Copy**」→「**Selected**」を選択します。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。

図 7-127 「Create New」アイコン



4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
6. 変換定義がコピーされます。状況によっては、変換定義をリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-128) をクリックする必要があります。

図 7-128 「Refresh」アイコン



#### サーバーからの変換定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Conversion Definitions**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-127) をクリックし、「**Copy**」→「**from Server**」を選択します。  
検索結果ページが表示されます。
3. コピーする変換定義に対応する「**Select**」ボタンをクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
4. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。
5. 入力したら、「**Assign Info**」をクリックします。
6. 変換定義がコピーされます。状況によっては、変換定義をリストに表示するために、「**Refresh**」アイコン (図 7-128) をクリックする必要があります。

#### ローカル・インスタンスからの変換定義のコピー

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Conversion Definitions**」を選択します。
2. 「Create New」アイコン (図 7-127) をクリックし、「**Copy**」→「**from Local**」を選択します。  
ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。
3. ローカル・インスタンスで、コピーする変換定義に移動します。
4. 変換定義を選択して、「**Open**」をクリックします。  
「Assign Info Form」が表示され、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインできます。
5. 「Assign Info Form」に適切な値を入力します。

6. 入力したら、「Assign Info」をクリックします。
7. 変換定義がコピーされます。状況によっては、変換定義をリストに表示するために、「Refresh」アイコン (図 7-128) をクリックする必要があります。

## 7.18.4 変換定義の編集

変換定義を編集するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Conversion Definitions」を選択します。
2. 編集する変換定義をリストから選択し、「Edit」アイコン (図 7-129) をクリックします。  
変換定義ダイアログが開きます。詳細は、A-48 ページの「[変換の定義ダイアログ](#)」を参照してください。

図 7-129 「Edit」アイコン



3. 変換を追加するには、「Add」をクリックします。「Native Document Conversion Settings」ダイアログが表示されます (A-50 ページの「[Native Document Conversion Settings](#) ダイアログ」を参照)。このダイアログを使用して、Dynamic Converter からの動的変換設定を指定します。
4. 変換を削除するには、「Remove」をクリックします。
5. 変換を編集するには、変換定義ダイアログで「Edit」をクリックします。「Native Document Conversion Settings」ダイアログが開き、選択した変換定義の情報が表示されます。
6. 指定した変換定義として使用するため、指定した変換ルールをクリックして選択します。
7. 「OK」をクリックします。

## 7.18.5 変換定義のコンテンツ情報の表示

変換定義のコンテンツ情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「Conversion Definitions」を選択します。
2. リストから変換定義を選択します。
3. 「Doc Info」アイコン (図 7-130) をクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。

図 7-130 「Doc Info」アイコン



## 7.18.6 サイトへの変換定義の追加

サイトに変換定義を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Conversion Definitions**」を選択します。
2. 「Add to Site」アイコン (図 7-131) をクリックします。  
検索結果ページが表示されます。

図 7-131 「Add to Site」アイコン



3. 追加する変換定義を選択し、「**Site Studio**」→「**Select Marked Documents**」をクリックします。
4. 構成に応じて、既存のアセットをサイトに追加しようとしていることを示す警告が表示される場合があります。「**OK**」をクリックします。  
変換定義が Web サイトに関連付けられ、開いて編集できるようになります。

## 7.18.7 サイトからの変換定義の削除

サイトから変換定義を削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインのメニューで、「**Conversion Definitions**」を選択します。
2. 削除する変換定義をリストから選択し、「**Remove From Site**」アイコン (図 7-132) をクリックします。  
変換定義を削除すると、その変換定義はサイトからのみ削除され、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

図 7-132 「Remove From Site」アイコン





---

---

## アセットからのサイトの構築

Site Studio で行う最初の作業は、コンテンツ・サーバーに接続してアセットを作成することです。これは、デザイナの接続マネージャを使用して行います。接続マネージャで、コンテンツ・サーバーを識別し、そのサーバーで Web サイト（正確にはプロジェクト・ファイル）を作成します。また、サイトに接続するためにデザイナで使用される接続名を作成します。

この作業が完了すれば、すぐに Web サイトへのサイト・アセットの構築を開始し、サイト階層を使用して情報の編成を定義できます。サイト階層は、サイトの個々のセクション（Products、Services、About Us など）で構成されます。一般的に、各セクションには、そのセクションの主ページとして使用されるプライマリ・ページがあります。通常は、セカンダリ・ページも使用されます。

デザイナは、サイトとサイト階層の設定にかなりの時間を費やします（後続の説明を参照）。

- 8-2 ページの「[テンプレートの操作](#)」
- 8-21 ページの「[定義の操作](#)」
- 8-28 ページの「[サイト階層の操作](#)」
- 8-42 ページの「[フラグメントの操作](#)」
- 8-42 ページの「[コンテンツの割当て](#)」
- 8-43 ページの「[Web ページの変更の比較](#)」

## 8.1 テンプレートの操作

Site Studio では、Web サイトの処理方法が一般的な Web サイト開発ツールとは異なります。この違いを明確に確認できる点は、ページ・テンプレート、サブテンプレートおよびリージョン・テンプレートの使用にあります。

これらのテンプレートには、どのような静的コンテンツおよび動的コンテンツも追加できます。ただし、これらの各テンプレートでの作業経験を重ねると、サイトを構築するのに、ページに直接追加する静的コンテンツを比較的少なくし、他のアセットを操作して、追加するコンテンツの大部分を節約する方が適切であることがわかります。

テンプレートに直接追加するコンテンツとしてよく使用されるのは、サイト全体の静的な（変化しない）背景情報です。これは、サイトの基本的なルック・アンド・フィールを決定するもので、背景色、背景イメージ、HTML 表（テキストやグラフィックの位置決め用）などを含みます。

残りのコンテンツは、コントリビュータ・データ・ファイルから構築されます。このファイルはコントリビュータが更新し、テンプレートに関連付けられます。データの表示方法はテンプレートによって制御され、表示するデータは定義によって制御されます。

ページ・テンプレート、サブテンプレートおよびリージョン・テンプレートをそれぞれ同様に操作して静的コンテンツと動的コンテンツを結合し、各テンプレートが制御するサイトの各部分を完了します。

この項では、特に、ページ・テンプレート、サブテンプレートまたはリージョン・テンプレートへのアセットの追加について説明します。

サイト・アセットを追加するには、次の手順を実行します。

- 8-22 ページの「グローバル・ブレースホルダ定義マッピングの作成」
- 8-3 ページの「ブレースホルダの挿入」
- 8-3 ページの「アセットの挿入」
- 8-4 ページの「テンプレートでのアセットの配置」
- 8-4 ページの「テキストの操作」
- 8-4 ページの「CSS クラスの適用」
- 8-5 ページの「HTML 表の操作」
- 8-6 ページの「ネイティブ・ドキュメントと変換定義の操作」
- 8-6 ページの「リンクの操作」
- 8-19 ページの「ページ・テンプレートのコンテンツ情報ページの表示」
- 8-20 ページの「コントリビューション・リージョンの理解」

## 8.1.1 プレースホルダの挿入

プレースホルダは、ページ・テンプレート上のコンテンツの配置領域をマークするために使用されます。プレースホルダはサイト・アセットではありません。ページでのプレースホルダの使用方法与ページに配置するコンテンツを定義するプレースホルダ定義がサイト・アセットです。

プレースホルダを挿入するには、次の手順を実行します。

1. テンプレート内のプレースホルダを配置する場所をクリックします。
2. ツールバーの「**Insert Placeholder**」ボタンをクリックします。
3. 「**Define Placeholder**」ダイアログ (A-118 ページの「**Define Placeholder**」ダイアログ) を参照) が表示されます。

ダイアログには、「**Placeholder Definition Mappings**」ダイアログ (A-116 ページの「**Placeholder Definition Mappings**」ダイアログ) を参照) で作成されたマッピングがリストされます。

4. プレースホルダに関連付けるプレースホルダ定義マッピングを選択するか、マッピング名を入力して、「**OK**」をクリックします。

## 8.1.2 アセットの挿入

アセットは、サイト・アセットをテンプレートに直接配置して簡単に追加できます。これを行うには、ツールバーからアイコンを選択するかテンプレートを右クリックして、使用可能なサイト・アセットを追加します。

ページ・テンプレート、サブテンプレートまたはリージョン・テンプレートへのアセットの追加は非常に簡単です。

アセットを追加するには、次の手順を実行します。

1. テンプレート内のアセットを配置する場所を右クリックします。
2. コンテキスト・メニューが表示されます。「**Insert Object**」を選択します。
3. 次のコンテキスト・メニューが開き、挿入可能なサイト・アセットが表示されます。  
たとえば、要素は、リージョン・テンプレート进行操作している場合のみ選択できます。
4. サイト・アセットを選択した後に、そのサイト・アセットがテンプレートに追加されます。

動的コンテンツ (プレースホルダなど) を含むアセットを追加すると、コンテンツが表示されるかわりにマーカーが表示されます。静的コンテンツ (イメージなど) を含むアセットを追加すると、コンテンツが表示されます。

アセットは「**SOURCE**」ビューで直接追加することもできます。

リージョン・テンプレートでは、リージョン定義によって追加可能な要素が制限されます。

## 8.1.3 フラグメントの挿入

フラグメントはどのテンプレートにも簡単に追加されます。フラグメントをテンプレートに追加するには、フラグメント・ツールボックスからフラグメントを選択します。選択したフラグメントは、テンプレート内の選択した場所に挿入されます。

ただし、フラグメントでの使用には重要な考慮事項が1つあります。

Site Studio デザイナに付属するフラグメントは、ページ・テンプレートのヘッドとボディで使用されるスニペットで構成されます。サブテンプレートとリージョン・テンプレートにはヘッドがなく、ボディのみが含まれます。したがって、フラグメントをこれらのテンプレートに挿入すると、そのフラグメントは適切に動作しません。

サブテンプレートまたはリージョン・テンプレートでフラグメントを適切に動作するには、ヘッド・スニペットがなく、1つのボディ・スニペットが含まれる独自のフラグメントを作成する必要があります。

詳細は、第9章「フラグメントの操作」を参照してください。

## 8.1.4 テンプレートでのアセットの配置

特定のレイアウト構造が必要な場合に、HTML 表または CSS を使用してオブジェクトを配置し、ページに情報を配置できます。

アセットをページ・テンプレート、サブテンプレートまたはリージョン・テンプレートに挿入すると、ほとんどの場合、アセットはカーソルを置いた場所に挿入されます。ただし、アセットは、必ずしもデザイナーに表示されたように最終的な Web ページに表示されるとはかぎりません。ユーザーのブラウザ選択やブラウザのウィンドウ・サイズが異なったり、コントリビュータがコントリビュータ・データ・ファイルに他のどのオブジェクトを配置したかによっては、Web サイトが異なって編成されたように表示される場合があります。

CSS ファイルは管理オブジェクトであり、再利用性が最大限発揮されるため、より効率のよい手段となります。表をサブテンプレートなどのアセットに配置する場合、他のアセットでその表と同じ構造を使用するには、表を再作成する必要があります。この方法で表を使用すると、変更が必要な場合に複数の場所を変更する必要があります。

CSS を使用すれば、スタイル・シート内で要素などの各サイト・アセットの正確な位置を特定できます。

Web ページでの設定と作成が容易なため、多くのユーザーは表の使用を好みます。表は、相対的配置の構造化を簡単に解決できるソリューションです。表を使用すれば、データを互いに相対的に配置するセルの形状を作成できます。

## 8.1.5 テキストの操作

「DESIGN」ビューでのテキストの操作は、ワードラップ、改行、書式設定オプションなどの機能を備えたワード・プロセッサ・プログラムでのテキストの操作によく似ています。ページ・テンプレートにテキストを追加するには、単にページ・テンプレートでテキストを追加する場所をクリックし、入力を開始します。必要な HTML コードは、デザイナーによって内部的に処理されます。

テキストを追加して編集したら、書体やフォント・サイズの変更、テキストのインデントまたは中央揃え、記号付きリストや番号付きリストの追加などを行ってテキストを書式設定できます。

## 8.1.6 CSS クラスの適用

Site Studio のデフォルトでは、フォントとパラグラフの設定が直接（インラインで）テキストに適用されます。

別の方法として、Cascading Style Sheet (CSS) のクラスをテキスト（およびイメージ）に適用できます。CSS クラスを使用して、フォントおよびパラグラフ設定のすべてを1つの場所に格納し、それらの設定を Web ページに適用できます。

これにより、見出しやパラグラフごとにフォントおよびパラグラフ設定を変更することなく、それぞれに対応するクラスを指定できるため、作業時間が短縮されます。これらの設定を変更する必要がある場合は、クラスを更新すれば済みます。

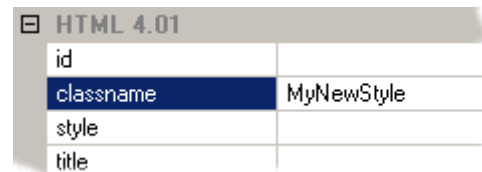
CSS クラスを実装するには、ページ・テンプレートのヘッドにスタイル・シートへの参照を挿入します。これには、次のように相対パスを使用できます。

```
<link href="<!--$HttpRelativeWebRoot-->groups/public/documents/adacct/  
stylesheet.css" type="text/css" rel="stylesheet" />
```

また、通常は、CSS クラスをフラグメントに挿入します。CSS 参照をフラグメントに配置しても、サーバーのディレクトリ構造は公開されません。

次に、「SOURCE」ビューでページ・テンプレートを編集するか、「DESIGN」ビューで「Properties」ペインを使用して、スタイル・シートのクラス名をテキストおよびグラフィックに適用します。

図 8-1 「Properties」ペインを使用した MyNewStyle クラスの適用



デザイナーの「Site Assets」ペインは、コンテンツ・サーバーの Cascading Style Sheet (CSS) へのパスを追加、編集および識別する際に非常に便利です (第 7 章「サイト・アセットの定義」を参照)。

Site Studio に付属するフラグメントの多くには、フラグメントのアセットとして CSS ファイルが含まれます (9-18 ページの「フラグメント・アセットの追加、編集および削除」を参照)。必要に応じて、これらの CSS ファイルのクラス名を参照することもできます。

コントリビュータ・アプリケーションでの作業時に各コントリビュータがこれらのクラスを使用できるようにすることも可能です。これにより、サイト全体の一貫性が確保され、サイト全体でのスタイルの更新がずっと簡単になります。

## 8.1.7 HTML 表の操作

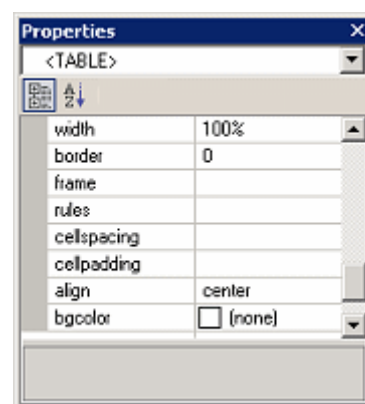
HTML 表は、Web ページの設計でよく使用されます。Web ページの構造化に Cascading Style Sheet を使用しない場合に HTML 表を使用できます。ページ・テンプレートでの HTML 表の操作方法は、他の Web ページの表と同じです。

HTML 表の主な用途は、(1) データを表形式で表示することと、(2) テキストやグラフィックを Web ページ上に適切に配置することの 2 つです。サイトのデザイナーは、後者の用途で頻繁に表を使用することになります。

表で作業する場合、表のサイズと場所、それぞれの行と列のサイズ、および各セルに配置するコンテンツを指定することで、Web ページでのコンテンツの表示方法を制御できます。表の枠線を非表示にすれば、サイト訪問者に表は表示されません。Site Studio で表が特に役立つのは、コントリビューション・リージョンと、その内部の要素の位置決めを行う場合です。

表で特定の編集を行う場合、「Properties」ペインで HTML <TABLE> タグを直接変更できます。変更は、「SOURCE」ビューでも可能です。

図 8-2 「DESIGN」ビューでの <TABLE> タグのプロパティ



「Properties」ペインでは、背景色、枠線の幅、セル内の余白および他のいくつかの設定を変更できます。<TABLE> タグに入力されたすべての属性は、「Properties」パネルで使用できます。<TABLE> タグの詳細は、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト (<http://www.w3.org/TR/html401/struct/tables.html#edef-TABLE>) の説明を参照してください。

## 8.1.8 ネイティブ・ドキュメントと変換定義の操作

ネイティブ・ドキュメントを使用する場合、ネイティブ・ドキュメントを Web ページで読み取ることができるように変換するためのルールとテンプレートを定義する変換定義が使用可能になっている必要があります。ネイティブ・ドキュメントの使用と変換を行うには、まず Check Out and Open と Dynamic Converter をコンテンツ・サーバーにインストールする必要があります。

動的変換を配置できるのはリージョン・テンプレートのみです。変換はリージョン・テンプレートに簡単に追加できます。他のアセットをテンプレートに追加する場合と方法は同じです。

動的変換をリージョン・テンプレートに追加するには、次の手順を実行します。

1. 変換されるドキュメントを表示するリージョン・テンプレートを開きます。
2. 右クリックして、メニューから **「Insert Object」** → **「Dynamic Conversion」** を選択します。  
 「Dynamic Conversion」ダイアログ (A-123 ページの **「Dynamic Conversion」ダイアログ** を参照) が表示されます。
3. 使用する動的変換を選択します。
4. **「OK」** をクリックします。

## 8.1.9 リンクの操作

リンクにより、訪問者は、ある Web ページから別の Web ページに簡単に移動できます。リンクが最も一般的に使用される場所は、トップ・メニュー、サイド・メニュー、ブレッドクラムなどのサイト・ナビゲーション内です。Site Studio では、ナビゲーション・フラグメントを使用してこれらのメニューを簡単に作成できます (C-2 ページの **「ナビゲーション・フラグメント」** を参照)。

ただし、ユーザーを特定のコンテンツに移動させる追加リンクを作成することもできます。サイトの別のセクション、サイトのコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント、別の Web サイトなどに対するリンクを追加できます。これを行うには、Link Wizard を使用します。

デザイナーは、デザイナーでリンクを作成する以外に、コントリビュータ・アプリケーションでのリンクの作成と編集を各コントリビュータに許可できます。この設定は、コントリビューション・リージョンに要素を追加する際に行います。

Link Wizard に従えば、リンクに関するあらゆる作業を実行できます。

- 8-7 ページの **「Web サイトの別のセクションに対するリンクの作成」**
- 8-8 ページの **「コンテンツ・サーバーの既存のファイルに対するリンクの作成」**
- 8-10 ページの **「URL に対するリンクの作成」**
- 8-11 ページの **「新規コンテンツ・ファイルに対するリンクの作成」**
- 8-13 ページの **「コンテンツ・サーバーの既存のファイルに対するリンクの作成」**
- 8-14 ページの **「既存のローカル・ファイルに対するリンクの作成」**
- 8-16 ページの **「ハイパーリンクの編集」**
- 8-16 ページの **「リンクの削除」**
- 8-17 ページの **「デフォルトのリンク形式の選択」**
- 8-18 ページの **「ハイパーリンクの形式」**

### 8.1.9.1 Web サイトの別のセクションに対するリンクの作成

Web サイトの別のセクションまたはコンテンツ・サーバーの別の Site Studio サイトのセクションに対するリンクを作成するには、次の手順を実行します。

1. リンクに変換するテキスト（またはイメージ）を選択します。
2. ツールバーの「Create Hyperlink」アイコン（[図 8-3](#)）をクリックします。

#### 図 8-3 「Create Hyperlink」アイコン



Link Wizard が起動します（A-36 ページの「[Link Wizard](#)」を参照）。

3. 「Link to a section」を選択します。
4. 「Next」をクリックします。

---

**注意：** ウィザードの手順をより早く進めるには、使用するオプションの左側にある青い矢印をクリックします。これにより、オプションが自動的に選択され、ウィザードが次の手順に進みます。

---

5. リンク先のセクションを選択します。現在の Web サイトのセクションまたはコンテンツ・サーバーの別の Site Studio サイトのセクションを選択できます。サイト階層でターゲット・セクションを選択します。
6. 「Next」をクリックします。
7. サイトの構成によっては、リンクの URL 形式の選択を求められることがあります。
  - **Path Based URL:** リンクにはターゲット・ロケーションへのパスが含まれます。このタイプのリンクには次の 2 つの選択肢があります。
    - **Absolute Path:** フルパスを生成します。たとえば、  
`<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->products/index.htm`  
 (<!--\$ssServerRelativeSiteRoot--> は Web サイトのルートのパスに置き換えられる) のようになります。
    - **Relative Path:** フルパスではなく相対パスを生成します。たとえば、  
`../products/index.htm` のようになります。
 ターゲット・セクションとしてコンテンツ・ファイルのデフォルトの Web サイト・セクションを使用するように選択した場合（前述の手順を参照）、このオプションは使用できません。
  - **ID Based URL:** リンクには、パスベースの名前ではなく、ターゲットの場所のコード化された ID が含まれます。このタイプのリンクには 3 つの選択肢があります。
    - **Client Side Script Format:** クライアント側の JavaScript を使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、  
`javascript:nodelink('10024');` のようになります。
    - **Server Side Script Format:** サーバー側の Idoc スクリプトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、  
`[!--$wcmUrl('nodelink','10024')--]` のようになります。
    - **URL Token Format:** サーバーでリダイレクトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、`ssNODELINK/10024` のようになります。
8. 「Options...」をクリックします。  
 「Link Target Options」ダイアログが表示されます。



9. リンクをクリックしたときに Web ブラウザの新規ウィンドウで開く場合、「**Open link target in new window**」チェック・ボックスを選択し、メニューでターゲットを選択します（「\_blank」）。必要に応じて、テキスト・ボックスにターゲットの名前を直接入力することも可能です。ただし、無効なターゲットを入力した場合、リンクはエラーになります。
10. 「**OK**」または「**Cancel**」をクリックしてウィザードに戻ります。
11. 「**Next**」をクリックします。
12. リンクの URL を確認します。
13. 「**Finish**」をクリックします。

### 8.1.9.2 コンテンツ・サーバーの既存のファイルに対するリンクの作成

現在のサイトの既存のコンテンツ・ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）、あるいはコンテンツ・サーバーの別のサイトのコンテンツ・ファイルに対するリンクを作成できます。

コンテンツ・サーバーの既存のファイルに対するリンクを作成するには、次の手順を実行します。

1. リンクに変換するテキスト（またはイメージ）を選択します。
2. ツールバーの「**Create Hyperlink**」アイコン（[図 8-4](#)）をクリックします。

**図 8-4 「Create Hyperlink」アイコン**



Link Wizard が起動します（A-36 ページの「[Link Wizard](#)」を参照）。

3. 「**Link to a file**」を選択します。
4. 「**Next**」をクリックします。

---

**注意：** ウィザードの手順をより早く進めるには、使用するオプションの左側にある青い矢印をクリックします。これにより、オプションが自動的に選択され、ウィザードが次の手順に進みます。

---

5. 「**Existing file from server**」を選択して、「**Next**」をクリックします。

コンテンツ・サーバーでの標準の検索結果ページが表示され、Web サイトに関連付けられているすべてのコンテンツ・ファイルが表示されます。

---

**注意：** デザイナでは、Link Wizard からのコンテンツ・サーバーの問合せはオープン問合せです。コントリビュータでは、問合せはより制御されます。

---

6. リンク先のファイルの横にある「**Select**」をクリックします。
7. リンクのターゲット・セクションを選択します。次のオプションから選択できます。
  - **Use default website section metadata:** このオプションを選択すると、コンテンツ・ファイルの Web Site Section メタデータ・フィールドに現在指定されているとおりに、ハイパーリンク先のコンテンツ・ファイルが Web サイト・セクションに表示されます。
  - **Choose a website section:** このオプションを選択すると、ハイパーリンク先のコンテンツ・ファイルが選択した Web サイト・セクションに表示されます（コンテンツ・ファイルのデフォルト・ターゲット・セクションが上書きされます）。現在の Web サイトのセクションでも、コンテンツ・サーバーにある別の Site Studio サイトのセクションでも選択できます。



- **Link to the Content Item's URL:** このオプションを選択すると、Web サイトのフレームワーク内ではなくコンテンツ・サーバーに格納されたファイルが正確に表示されます。これは PDF ファイルなどのネイティブ・ドキュメントにリンクする場合に便利です。

「Next」をクリックして続行します。

8. サイトの構成によっては、リンクの URL 形式の選択を求められることがあります。

- **Path Based URL:** リンクにはターゲット・ロケーションへのパスが含まれます。このタイプのリンクには次の2つの選択肢があります。
  - **Absolute Path:** フルパスを生成します。たとえば、  
`<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->Menus/  
switched_region_CDF ("<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->"` は Web サイトのルートのパスで置き換えられる) のようになります。
  - **Relative Path:** フルパスではなく相対パスを生成します。たとえば、  
`../Menus/switched_region_CDF` のようになります。

ターゲット・セクションとしてコンテンツ・ファイルのデフォルトの Web サイト・セクションを使用するように選択した場合（前述の手順を参照）、このオプションは使用できません。

- **ID Based URL:** リンクには、パスベースの名前ではなく、ターゲットの場所のコード化された ID が含まれます。このタイプのリンクには3つの選択肢があります。
  - **Client Side Script Format:** クライアント側の JavaScript を使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、  
`javascript:link('switched_region_CDF');` のようになります。
  - **Server Side Script Format:** サーバー側 Idoc スクリプトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、  
`<!--$wcmUrl("link","switched_region_CDF")-->` のようになります。
  - **URL Token Format:** サーバーでリダイレクトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、`ssLINK/switched_region_CDF` のようになります。

9. 「Options...」をクリックします。

「Link Target Options」ダイアログが表示されます。

10. リンクをクリックしたときに Web ブラウザの新規ウィンドウで開く場合、「Open link target in new window」チェック・ボックスを選択し、メニューでターゲットを選択します（「\_blank」）。必要に応じて、テキスト・ボックスにターゲットの名前を直接入力することも可能です。ただし、無効なターゲットを入力した場合、リンクはエラーになります。
11. 「OK」または「Cancel」をクリックしてウィザードに戻ります。
12. 「Next」をクリックします。
13. リンクの URL を確認します。
14. 「Finish」をクリックします。

### 8.1.9.3 URL に対するリンクの作成

特定の URL (Web アドレス) に対するリンク、たとえば、インターネット Web サイトまたはコンテンツ・サーバーのファイル (PDF ファイル、メディア・ファイル、zip ファイルなど、コンテンツリビューション用に使用されないファイル) に対するリンクを作成できます。

特定の URL に対するリンクを作成するには、次の手順を実行します。

1. リンクに変換するテキスト (またはイメージ) を選択します。
2. ツールバーの「**Create Hyperlink**」アイコン (図 8-5) をクリックします。

図 8-5 「Create Hyperlink」アイコン



Link Wizard が起動します (A-36 ページの「[Link Wizard](#)」を参照)。

3. 「**Link to following URL**」を選択します。
4. 付属のフィールドに Web アドレスを入力します (例: <http://www.oracle.com>)。URL を指定するまで、ウィザードの先には進めません。
5. 「**Options...**」をクリックします。  
「Link Target Options」ダイアログが表示されます。
6. リンクをクリックしたときに Web ブラウザの新規ウィンドウで開く場合、「**Open link target in new window**」チェック・ボックスを選択し、メニューでターゲットを選択します (「\_blank」)。必要に応じて、テキスト・ボックスにターゲットの名前を直接入力することも可能です。ただし、無効なターゲットを入力した場合、リンクはエラーになります。

---

**注意：**別の Web サイトに対するリンクを作成する場合、「Open link target in new window」オプションが役に立つ場合があります。このオプションにより、ユーザーがリンクを誤ってクリックして現在の Web サイトから離れてしまうことを回避できます。

---

7. 「**OK**」または「**Cancel**」をクリックしてウィザードに戻ります。
8. 「**Next**」をクリックします。
9. リンクの URL を確認します。
10. 「**Finish**」をクリックします。

### 8.1.9.4 新規コンテンツ・ファイルに対するリンクの作成

コンテンツ・サーバーに管理対象のサイト・アセットとしてチェックインされている新規コンテンツ・ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）に対するリンクを作成できます。

新規コンテンツ・ファイルに対するリンクを作成するには、次の手順を実行します。

1. リンクに変換するテキスト（またはイメージ）を選択します。
2. ツールバーの「Create Hyperlink」アイコン（[図 8-6](#)）をクリックします。

図 8-6 「Create Hyperlink」アイコン



Link Wizard が起動します（A-36 ページの「[Link Wizard](#)」を参照）。

3. 「Link to a file」を選択します。
4. 「Next」をクリックします。

---

**注意：** ウィザードの手順をより早く進めるには、使用するオプションの左側にある青い矢印をクリックします。これにより、オプションが自動的に選択され、ウィザードが次の手順に進みます。

---

5. 追加するファイルのタイプに従って、「New Contributor data file」または「New native file」を選択します。新規ネイティブ・ドキュメントの場合は、メニューからファイル形式も選択します。許可される新規ネイティブ・ドキュメントのファイル形式はサイト・デザインが決定します。

6. 「Next」をクリックします。

コンテンツ・サーバーでの標準のコンテンツ・チェックイン・ページが表示されます。

7. 適切なコンテンツ情報（メタデータ）を入力して、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインします。ほとんどの情報は自動的に設定されます。フィールド名が赤くマークされているものは、必須フィールドです（つまり、そのフィールドが空だとアイテムをチェックインできません）。新規コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントは、編集される（通常はコントリビュータが編集する）まで空です。

終了したら、「Next」をクリックします。

8. リンクのターゲット・セクションを選択します。次のオプションから選択できます。

- **Use default website section metadata:** このオプションを選択すると、コンテンツ・ファイルの Web Site Section メタデータ・フィールドに現在指定されているとおりに、ハイパーリンク先のコンテンツ・ファイルが Web サイト・セクションに表示されます。
- **Choose a website section:** このオプションを選択すると、ハイパーリンク先のコンテンツ・ファイルが選択した Web サイト・セクションに表示されます（コンテンツ・ファイルのデフォルト・ターゲット・セクションが上書きされます）。現在の Web サイトのセクションでも、コンテンツ・サーバーにある別の Site Studio サイトのセクションでも選択できます。
- **Link to the Content Item's URL:** このオプションを選択すると、Web サイトのフレームワーク内ではなくコンテンツ・サーバーに格納されたファイルが正確に表示されます。これは PDF ファイルなどのネイティブ・ドキュメントにリンクする場合に便利です。

「Next」をクリックして続行します。

9. サイトの構成によっては、リンクの URL 形式の選択を求められることがあります。
  - **Path Based URL:** リンクにはターゲット・ロケーションへのパスが含まれます。このタイプのリンクには次の2つの選択肢があります。
    - **Absolute Path:** フルパスを生成します。たとえば、  
`<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->Menus/switched_region_CDF`  
 ("`<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->`" は Web サイトのルートのパスで置き換えられる) のようになります。
    - **Relative Path:** フルパスではなく相対パスを生成します。たとえば、  
`../Menus/switched_region_CDF` のようになります。
 ターゲット・セクションとしてコンテンツ・ファイルのデフォルトの Web サイト・セクションを使用するように選択した場合（前述の手順を参照）、このオプションは使用できません。
  - **ID Based URL:** リンクには、パスベースの名前ではなく、ターゲットの場所のコード化された ID が含まれます。このタイプのリンクには3つの選択肢があります。
    - **Client Side Script Format:** クライアント側の JavaScript を使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、  
`javascript:link('switched_region_CDF');` のようになります。
    - **Server Side Script Format:** サーバー側 Idoc スクリプトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、  
`<!--$wcmUrl("link","switched_region_CDF")-->` のようになります。
    - **URL Token Format:** サーバーでリダイレクトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、`ssLINK/switched_region_CDF` のようになります。
10. 「Options...」をクリックします。  
 「Link Target Options」ダイアログが表示されます。
11. リンクをクリックしたときに Web ブラウザの新規ウィンドウで開く場合、「Open link target in new window」チェック・ボックスを選択し、メニューでターゲットを選択します（「\_blank」）。必要に応じて、テキスト・ボックスにターゲットの名前を直接入力することも可能です。ただし、無効なターゲットを入力した場合、リンクはエラーになります。
12. 「OK」または「Cancel」をクリックしてウィザードに戻ります。
13. 「Next」をクリックします。
14. リンクの URL を確認します。
15. 「Finish」をクリックします。

### 8.1.9.5 コンテンツ・サーバーの既存のファイルに対するリンクの作成

現在のサイトの既存のコンテンツ・ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）、あるいはコンテンツ・サーバーの別のサイトのコンテンツ・ファイルに対するリンクを作成できます。

コンテンツ・サーバーの既存のファイルに対するリンクを作成するには、次の手順を実行します。

1. リンクに変換するテキスト（またはイメージ）を選択します。
2. ツールバーの「Create Hyperlink」アイコン（[図 8-7](#)）をクリックします。

#### 図 8-7 「Create Hyperlink」アイコン



Link Wizard が起動します（A-36 ページの「[Link Wizard](#)」を参照）。

3. 「Link to a file」を選択します。
4. 「Next」をクリックします。

---

**注意：** ウィザードの手順をより早く進めるには、使用するオプションの左側にある青い矢印をクリックします。これにより、オプションが自動的に選択され、ウィザードが次の手順に進みます。

---

5. 「Existing file from server」を選択して、「Next」をクリックします。

コンテンツ・サーバーでの標準の検索結果ページが表示され、Web サイトに現在関連付けられているすべてのコンテンツ・ファイルが表示されます。

6. リンク先のファイルの横にある「Select」をクリックします。
7. リンクのターゲット・セクションを選択します。次のオプションから選択できます。
  - **Use default website section metadata:** このオプションを選択すると、コンテンツ・ファイルの Web Site Section メタデータ・フィールドに現在指定されているとおりに、ハイパーリンク先のコンテンツ・ファイルが Web サイト・セクションに表示されます。
  - **Choose a website section:** このオプションを選択すると、ハイパーリンク先のコンテンツ・ファイルが選択した Web サイト・セクションに表示されます（コンテンツ・ファイルのデフォルト・ターゲット・セクションが上書きされます）。現在の Web サイトのセクションでも、コンテンツ・サーバーにある別の Site Studio サイトのセクションでも選択できます。
  - **Link to the Content Item's URL:** このオプションを選択すると、Web サイトのフレームワーク内ではなくコンテンツ・サーバーに格納されたファイルが正確に表示されます。これは PDF ファイルなどのネイティブ・ドキュメントにリンクする場合に便利です。

「Next」をクリックして続行します。

8. サイトの構成によっては、リンクの URL 形式の選択を求められることがあります。

- **Path Based URL:** リンクにはターゲット・ロケーションへのパスが含まれます。このタイプのリンクには次の 2 つの選択肢があります。
  - **Absolute Path:** フルパスを生成します。たとえば、  
`<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->Menus/switched_region_CDF`  
 ("<!--\$ssServerRelativeSiteRoot-->" は Web サイトのルートのパスで置き換えられる) のようになります。

- **Relative Path:** フルパスではなく相対パスを生成します。たとえば、  
../Menus/switched\_region\_CDF のようになります。

ターゲット・セクションとしてコンテンツ・ファイルのデフォルトの Web サイト・セクションを使用するように選択した場合（前述の手順を参照）、このオプションは使用できません。

- **ID Based URL:** リンクには、パスベースの名前ではなく、ターゲットの場所のコード化された ID が含まれます。このタイプのリンクには 3 つの選択肢があります。
  - **Client Side Script Format:** クライアント側の JavaScript を使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、  
javascript:link('switched\_region\_CDF'); のようになります。
  - **Server Side Script Format:** サーバー側 Idoc スクリプトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、  
<!--\$wcmUrl("link","switched\_region\_CDF")--> のようになります。
  - **URL Token Format:** サーバーでリダイレクトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、ssLINK/switched\_region\_CDF のようになります。

9. 「Options...」をクリックします。

「Link Target Options」ダイアログが表示されます。

10. リンクをクリックしたときに Web ブラウザの新規ウィンドウで開く場合、「Open link target in new window」チェック・ボックスを選択し、メニューでターゲットを選択します（「\_blank」）。必要に応じて、テキスト・ボックスにターゲットの名前を直接入力することも可能です。ただし、無効なターゲットを入力した場合、リンクはエラーになります。

11. 「OK」または「Cancel」をクリックしてウィザードに戻ります。

12. 「Next」をクリックします。

13. リンクの URL を確認します。

14. 「Finish」をクリックします。

### 8.1.9.6 既存のローカル・ファイルに対するリンクの作成

コンテンツ・サーバーに管理対象のサイト・アセットとしてチェックインされている既存のローカル・ファイル（ユーザーのコンピュータ上のファイル）に対するリンクを作成できます。

既存のローカル・ファイルに対するリンクを作成するには、次の手順を実行します。

1. リンクに変換するテキスト（またはイメージ）を選択します。
2. ツールバーの「Create Hyperlink」アイコン（図 8-8）をクリックします。

図 8-8 「Create Hyperlink」アイコン



Link Wizard が起動します（A-36 ページの「Link Wizard」を参照）。

3. 「Link to a file」を選択します。
4. 「Next」をクリックします。

---

**注意：** ウィザードの手順をより早く進めるには、使用するオプションの左側にある青い矢印をクリックします。これにより、オプションが自動的に選択され、ウィザードが次の手順に進みます。

---

## 5. 「Existing local file」を選択して、「Next」をクリックします。

コンテンツ・サーバーでの標準のコンテンツ・チェックイン・ページが表示されます。

## 6. 適切なコンテンツ情報（メタデータ）を入力して、アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインします。ほとんどの情報は自動的に設定されます。フィールド名が赤くマークされているものは、必須フィールドです（つまり、そのフィールドが空だとアイテムをチェックインできません）。「Primary File」フィールドの横にある「Browse」ボタンを使用して、コンピュータ上のファイルにナビゲートし、選択します。また、必ずタイトルを指定します。

終了したら、「Next」をクリックします。

## 7. リンクのターゲット・セクションを選択します。次のオプションから選択できます。

- **Use default website section metadata:** このオプションを選択すると、コンテンツ・ファイルの Web Site Section メタデータ・フィールドに現在指定されているとおりに、ハイパーリンク先のコンテンツ・ファイルが Web サイト・セクションに表示されます。
- **Choose a website section:** このオプションを選択すると、ハイパーリンク先のコンテンツ・ファイルが選択した Web サイト・セクションに表示されます（コンテンツ・ファイルのデフォルト・ターゲット・セクションが上書きされます）。現在の Web サイトのセクションでも、コンテンツ・サーバーにある別の Site Studio サイトのセクションでも選択できます。
- **Link to the Content Item's URL:** このオプションを選択すると、Web サイトのフレームワーク内ではなくコンテンツ・サーバーに格納されたファイルが正確に表示されます。これは PDF ファイルなどのネイティブ・ドキュメントにリンクする場合に便利です。

「Next」をクリックして続行します。

## 8. サイトの構成によっては、リンクの URL 形式の選択を求められることがあります。

- **Path Based URL:** リンクにはターゲット・ロケーションへのパスが含まれます。このタイプのリンクには次の 2 つの選択肢があります。
  - **Absolute Path:** フルパスを生成します。たとえば、  
`<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->Menus/switched_region_CDF`  
 ("<!--\$ssServerRelativeSiteRoot-->" は Web サイトのルートのパスで置き換えられる) のようになります。
  - **Relative Path:** フルパスではなく相対パスを生成します。たとえば、  
`../Menus/switched_region_CDF` のようになります。

ターゲット・セクションとしてコンテンツ・ファイルのデフォルトの Web サイト・セクションを使用するように選択した場合（前述の手順を参照）、このオプションは使用できません。

- **ID Based URL:** リンクには、パスベースの名前ではなく、ターゲットの場所のコード化された ID が含まれます。このタイプのリンクには 3 つの選択肢があります。
  - **Client Side Script Format:** クライアント側の JavaScript を使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、  
`javascript:link('switched_region_CDF');` のようになります。
  - **Server Side Script Format:** サーバー側 Idoc スクリプトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、  
`<!--$wcmUrl("link","switched_region_CDF")-->` のようになります。
  - **URL Token Format:** サーバーでリダイレクトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、`ssLINK/switched_region_CDF` のようになります。

## 9. 「Options...」をクリックします。

「Link Target Options」ダイアログが表示されます。

10. リンクをクリックしたときに Web ブラウザの新規ウィンドウで開く場合、「**Open link target in new window**」チェック・ボックスを選択し、メニューでターゲットを選択します（「\_blank」）。必要に応じて、テキスト・ボックスにターゲットの名前を直接入力することも可能です。ただし、無効なターゲットを入力した場合、リンクはエラーになります。
11. 「OK」または「Cancel」をクリックしてウィザードに戻ります。
12. 「Next」をクリックします。
13. リンクの URL を確認します。
14. 「Finish」をクリックします。

### 8.1.9.7 ハイパーリンクの編集

ハイパーリンクを追加したら、リンクを選択して Link Wizard を起動することでそのリンクを編集できます。

ハイパーリンクを編集するには、次の手順を実行します。

1. ページ・テンプレートで、ハイパーリンクとして機能しているテキストまたはグラフィックにカーソルを置きます。
2. 書式設定ツールバーの「Create Hyperlink」アイコン (図 8-9) をクリックします。

図 8-9 「Create Hyperlink」アイコン



3. これにより、Link Wizard が起動します。このウィザードで、追加したときと同じ手順を使用してハイパーリンクを変更できます。
4. 「Finish」をクリックしてウィザードを閉じ、ページ・テンプレートに戻ります。

ハイパーリンクを編集する場合、リンクとして機能しているテキストまたはグラフィックにカーソルを置き、「Properties」ペインで href 属性を編集する方法もあります。

### 8.1.9.8 リンクの削除

Link Wizard を使用してリンクを追加した後で、そのリンクはいつでも簡単に削除できます。リンクを削除するには、次の手順を実行します。

1. ハイパーリンク設定されたテキストの任意の場所にマウス・カーソルを置きます（つまり、テキストを選択します）。
2. ツールバーの「Remove Hyperlink」アイコン (図 8-10) をクリックします。  
テキストからハイパーリンクが削除されます。

図 8-10 「Remove Hyperlink」アイコン





### 8.1.9.9 デフォルトのリンク形式の選択

Link Wizard を使用してハイパーリンクを作成する場合、リンク形式に関して様々な選択を行います。リンク形式は、リンクの構成方法に相当します。リンクでは、ターゲット・ロケーションを指定するのにパスベース URL または ID ベース URL を使用します。

各形式内で、さらに別の選択を行う必要があります（相対パス、クライアント側 ID、サーバー側 ID など）。各オプションには、メリットとデメリットがあります（8-18 ページの「[ハイパーリンクの形式](#)」を参照）。そのため、デフォルトの形式を選択し、Link Wizard でデザイナーとコントリビュータを対象にこのオプションを非表示にできます。

デフォルトのリンク形式を選択するには、次の手順を実行します。

1. 「File」 → 「Site」 → 「Advanced」 → 「Set Default Link Format」 を選択します。

これにより、「Choose Default Link Format」ダイアログが表示されます（A-21 ページの「[Choose Default Link Format](#) ダイアログ」を参照）。

2. ターゲットの場所へのパスをリンクに使用する場合、「Path-based URL」を選択します。

- **Absolute path:** フルパスを生成します。たとえば、  
`<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->products/index.htm`  
（"`<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->`" は Web サイトのルートのパスで置き換えられる）のようになります。
- **Relative path:** フルパスではなく相対パスを生成するには、このオプションを選択します。たとえば、`../products/index.htm` のようになります。

3. セクション名やラベルを参照しないで、ターゲットの場所のハードコードされた ID をリンクに使用する場合、「ID-based URL」を選択します。

- リンクでクライアント側 JavaScript とターゲット・ロケーションの ID を使用する場合、「**Client Side javascript:link() / javascript:nodelink() format**」を選択します。
- サーバー側 Idoc スクリプトとターゲットの場所の ID をリンクに使用する場合、「**Server Side wcmUrl() format**」を選択します。
- リンクで Site Studio トークンとターゲット・ロケーションの ID を使用する場合、「**URL Token ssLINK / ssNODELINK format**」を選択します。

4. デザイナーでのリンクの作成時にこのオプションを非表示にする場合、「**Hide the "Choose Format" page in the Link Wizard**」を選択します。

5. コントリビュータでのリンクの作成時にこのオプションを非表示にする場合、「**Hide the "Choose Format" page in the Link Wizard**」を選択します。

6. 「OK」をクリックします。

Link Wizard の「Choose Format」画面は、いくつかの理由から非表示にする場合があります（たとえば、ユーザーの混乱を防ぐため、ユーザーによる不適切なリンク選択を防ぐため、またはサイト全体でハイパーリンクの一貫性を保つためです）。

### 8.1.9.10 ハイパーリンクの形式

ハイパーリンクを作成する場合、リンク形式に関して様々な選択を行います。リンク形式は、リンクの構成方法に相当します。リンクには、パスベース URL または ID ベース URL を選択できます。

パスベースを選択する場合、フルパスまたは相対パスを選択できます。ID ベースを選択する場合、クライアント側スクリプト、サーバー側スクリプト、または Site Studio が提供する特殊なトークンを選択できます。

各方法にはメリットとデメリットがあります。次の比較一覧表を確認してください。

#### 比較一覧

メリット	フルパス	相対パス	サーバー側 ID	クライアント側 ID	URL トークン
自然なサイト・アドレス	○	○	○	×	×
わかりにくい siteID および nodeID 値の隠蔽	○	○	○	×	×
検索エンジンによる索引付けが可能	○	○	○	×	○
サイト階層の変更による影響を受けない	×	×	○	○	○
再利用されたページ・テンプレートでの動作	○	×	○	○	○
サーバー側スクリプトが不要	○	○	×	○	○
クライアント側スクリプトが不要	○	○	○	×	○
サーバーでのリダイレクトが不要	○	○	○	×	×
ブックマーク・リンクが可能	○	○	○	×	×
パラメータの受渡しに対応	○	○	×	×	○
ポップアップ・ウィンドウで表示可能	○	○	○	×	○
ネイティブ・ドキュメントで使用可能	○	○	×	○	○

## 各カテゴリの説明

カテゴリ	説明
自然なサイト・アドレス	URL にパススペースのわかりやすいアドレスが表示されます。
わかりにくい siteID および nodeID 値の隠蔽	サイトを参照する訪問者とコントリビュータに、URL のわかりにくい Site Studio テクノロジーが表示されません。
検索エンジンによる索引付けが可能	検索エンジンはサイトに索引を付けることができます。
サイト階層の変更による影響を受けない	リンクに影響を与えることなくサイト階層を変更できます (セクション名の変更や、あるセクションの別のセクションへの移動などが可能です)。
再利用されたページ・テンプレートでの動作	サイト全体を通じてページ・テンプレート、データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを再利用できます。リンクは常に同じように機能します。
サーバー側スクリプトが不要	Web サイトは、サーバー側スクリプト (Idoc スクリプトなど) に依存する必要がありません。
クライアント側スクリプトが不要	Web サイトは、クライアント側 JavaScript に依存する必要がありません。
サーバーでのリダイレクトが不要	Web サイトは、ID ベースのアドレスをパススペースのアドレスに転送するサーバー側のリダイレクトに依存する必要がありません (このリダイレクトは、サイトのパフォーマンスを低下させる可能性があります)。
ブックマーク・リンクが可能	ユーザーが Web ページの任意の場所にリンクできる、ブックマーク・リンク用のリンクを使用できます。
パラメータの受渡しに対応	適切な結果を得るために、URL にパラメータを追加する (受け渡す) ことができます。
ポップアップ・ウィンドウで表示可能	リンクを使用して、新規ポップアップ・ウィンドウを開くことができます (スクリプト処理が必要)。
ネイティブ・ドキュメントで使用可能	ネイティブ・ドキュメントで同じ形式のリンクを使用できます。

## 8.1.10 ページ・テンプレートのコンテンツ情報ページの表示

必要に応じて、ページ・テンプレートのコンテンツ情報ページを参照できます。コンテンツ・サーバーに含まれる機能を使用して、メタデータの更新、電子メールによるファイル・リンクの送信、メール配信のサブスクライブなどを実行できます。

コンテンツ情報ページは、「Site Hierarchy」ペインを使用して表示できます。

ページ・テンプレートのメタデータを表示するには、「Site Hierarchy」ペインで適切なページ・テンプレートを右クリックし、「View Document Info」を選択します。

## 8.1.11 コントリビューション・リージョンの理解

コントリビュータが編集できる領域をコントリビューション・リージョンと呼びます。この領域はデザイナーがプレースホルダを使用して定義します。プレースホルダ内では、サブテンプレート（使用する場合）とリージョン・テンプレートを 사용하여、コントリビューション・リージョン内に関連付けられたデータの表示方法が制御されます。コントリビュータがそのデータを編集したり対話処理したりする方法は、プレースホルダ、リージョンおよび要素などの各定義を使用して制御されます。

要素定義を使用して、コントリビュータが使用できるツールバー・アイコンと編集機能を決定します。要素はリージョン・テンプレートに配置されます。リージョン・テンプレートはサイト・アセットとして制御される HTML の最小のチャンクです。これにより、その HTML の 1 つの特定のセクションおよびテンプレート経由で渡される関連付けられたコンテンツを利用および再利用できます。リージョン定義では、リージョン・テンプレートで使用可能な要素が定義されます。また、リージョン・コンテンツの切替えに関するコントリビュータのアクセス・レベルが定義されます。

リージョン定義には、リージョン・テンプレートに配置されるよりも多くの要素定義を含めることができます。リージョン・テンプレートで使用されていなくてもリージョン定義にリストされている要素定義は、データ・ファルの編集時にコントリビュータに表示されます。あるページのティザー情報を使用して、別のページの完全な情報セットに移動する場合、これは特に役立ちます。この概念の詳細は、2-14 ページの「[リージョン・テンプレートとリージョン定義](#)」でさらに詳しく説明します。

コントリビューション・リージョンの境界はプレースホルダによって設定されます。一般的に、プレースホルダはコントリビューション・リージョンと呼ばれる領域を意味します。プレースホルダはサイト・アセットではありません。プレースホルダは単なるページ・テンプレート（またはサブテンプレート）上のマーカーです。これを使用して、サイトのテンプレートまたはサブテンプレート上にある他のオブジェクトの配置に対するコントリビューション・リージョンの相対的な位置を示します。プレースホルダに割り当てるプレースホルダ定義には、コントリビュータにデータ編集のアクセス権を与えるかどうかや、コントリビュータがコンテンツを切り替えることができるかどうかを定義します。

さらに、プレースホルダ定義には、プレースホルダで利用可能なリージョン定義、使用可能なリージョン・テンプレートおよびプレースホルダ内の各リージョン定義のデフォルトが定義されます。

プレースホルダへのアクセスを必ずしもコントリビュータに与える必要はありません。また、プレースホルダにサブテンプレートを含め、そのサブテンプレートを他のプレースホルダに分割することもできるため、プレースホルダが常に厳格にコントリビューション・リージョンになるとはかぎりません。ただし、簡単なプレースホルダを考える場合、一般的に、そのプレースホルダはコントリビュータが作業するコントリビューション・リージョンになります。

## 8.2 定義の操作

テンプレート（ページ・テンプレート、サブテンプレート、リージョン・テンプレート）を使用して、データの表示方法を制御します。定義（プレースホルダ定義、リージョン定義、要素定義）では、表示するデータを制御します。さらに、コントリビュータによるデータの対話処理方法も制御します。

定義を関連付けると、その定義に関連付けられたアセットに何を含めることができるかが規定されます。プレースホルダ定義にはプレースホルダに表示できるリージョン・テンプレート、リージョン定義およびサブテンプレートを指定します。リージョン定義にはリージョン・テンプレートに表示できる要素を指定します。要素定義では、コントリビュータがコントリビュータ・データ・ファイル内のデータをどのように変更できるかを制御します。

この項の内容は次のとおりです。

- 8-21 ページの「[プレースホルダ定義](#)」
- 8-27 ページの「[リージョン定義](#)」
- 8-28 ページの「[要素定義](#)」

### 8.2.1 プレースホルダ定義

ページ・テンプレートにプレースホルダを挿入する場合、プレースホルダはコンテンツの表示場所を示す単なる名前付きのマーカーです。プレースホルダ定義では、プレースホルダでデータをどのように表示するかが制御されます。さらにプレースホルダでは、コントリビュータがワークフローでアセットを承認または却下できるかどうか、コントリビュータが Web レポートを参照できるかどうか、コントリビュータがプレースホルダ内のアセットを編集できるかどうかなどが制御されます。

プレースホルダ名とプレースホルダ定義間の関係をマッピングと呼びます。新しいプレースホルダを作成するときに、デフォルトとして使用するプレースホルダ定義がこのマッピングを使用して決まります。

マッピングを設定する方法は 4 つあります。デフォルト・マッピングは、「Web Site Properties」の「Default Placeholder Definition」で定義されます。他の 3 つのマッピングが定義されていない場合、ここで作成されたマッピングがプレースホルダ定義とプレースホルダ名の間で使用されます。

「Placeholder Definition Mappings」ダイアログ（A-116 ページの「[Placeholder Definition Mappings](#)」ダイアログ）を参照して作成されるグローバル・マッピングでは、サイト全体にわたるプレースホルダ名のデフォルト・マッピングが確立されます。プレースホルダ名は複数セクションの複数テンプレートで使用できますが、同じマッピングが適用されます。

セクション・プロパティのマッピングは、セクション・プロパティの「Primary Page Placeholder Definition Mappings」と「Secondary Page Placeholder Definition Mappings」で定義します。このマッピングが行われたセクションでは、プレースホルダが使用される他のセクションとは異なるマッピングが使用されます。グローバル・マッピングとデフォルト・マッピングはセクション・プロパティのマッピングにより上書きされますが、タグ内のマッピングは上書きされません。

4 つ目のマッピング作成方法では、プレースホルダ・タグ自身にマッピングが定義されます。この種類のマッピングでは、グローバル・マッピングを含む他のすべてのマッピングが上書きされます。プレースホルダ・タグにマッピングを定義する場合、プレースホルダ・タグの変更は「SOURCE」ビューで行います。この方法のマッピングを使用すると、ページ・テンプレートが使用されるたびに、テンプレートのプレースホルダでは、ページ・テンプレートが使用される Web サイトの場所に関係なく、指定されたプレースホルダ定義が常に使用されます。

この項の内容は次のとおりです。

- 8-22 ページの「[デフォルトのプレースホルダ定義の指定](#)」
- 8-22 ページの「[グローバル・プレースホルダ定義マッピングの作成](#)」
- 8-23 ページの「[セクション・プロパティのプレースホルダ定義マッピングの作成](#)」
- 8-24 ページの「[プレースホルダ・タグへのプレースホルダ定義の直接指定](#)」

- 8-24 ページの「グローバル・プレースホルダ定義へのプレースホルダの関連付け」
- 8-25 ページの「プレースホルダ定義へのリージョン定義の追加」
- 8-25 ページの「プレースホルダ定義へのリージョン・テンプレートの関連付け」
- 8-26 ページの「プレースホルダ定義へのサブテンプレートの関連付け」

### 8.2.1.1 デフォルトのプレースホルダ定義の指定

デフォルトのプレースホルダ定義は、他のマッピングが適用されていない場合に使用されるプレースホルダ定義です。これは、包括的な定義とみなされます。

デフォルトのプレースホルダ定義を指定するには、次の手順を実行します。

1. 「Web Site Properties」の「Default Placeholder Definition」をクリックします。
2. 表示される「Additional Information」アイコンをクリックします。  
コンテンツ・サーバーの検索が表示され、使用可能なプレースホルダ定義が表示されます。
3. デフォルトとして使用するプレースホルダ定義を選択します。
4. 「Web Site Properties」にデフォルトのプレースホルダ定義が表示されます。

### 8.2.1.2 グローバル・プレースホルダ定義マッピングの作成

使用可能なグローバル・プレースホルダ・マッピングのリストは「Placeholder Definition Mappings」ダイアログで定義します（A-116 ページの「[Placeholder Definition Mappings](#) ダイアログ」を参照）。このダイアログにアクセスするには、メニュー・バーの「Tools」を選択し、「Define Placeholder Definition Mappings」を選択します。プレースホルダ・マッピングを使用すれば、プレースホルダがプライマリとセカンダリのどちらのページで使用されるかによって、プレースホルダの定義を変更することができます。マッピングは Web サイトのプロジェクト・ファイルに格納されます。

グローバル・プレースホルダ定義マッピングは、「Web Site Properties」のデフォルトのプレースホルダ定義として作成されたマッピングを上書きします（8-22 ページの「[デフォルトのプレースホルダ定義の指定](#)」を参照）。

グローバル・プレースホルダ・マッピングを作成するには、次の手順を実行します。

1. メニュー・バーから「Tools」→「Define Placeholder Definition Mappings」を選択します。  
「Placeholder Definition Mappings」ダイアログが表示されます（A-116 ページの「[Placeholder Definition Mappings](#) ダイアログ」を参照）。
2. 「Add」をクリックして、新規マッピングを作成します。  
「Placeholder Definition Mappings」ダイアログが表示されます（A-117 ページの「[Placeholder Definition Mappings](#) ダイアログ」を参照）。
3. わかりやすく、どのようなマッピングかを把握できるプレースホルダ名を入力します。プライマリ・ページとセカンダリ・ページのプレースホルダによって使用されるプレースホルダ定義を、2つのメニューで入力します。プライマリ・ページまたはセカンダリ・ページ、あるいはその両方に対して入力できます。
4. 「OK」をクリックします。
5. 入力したプレースホルダの定義は、「Placeholder Definition Mappings」ダイアログに表示され、プレースホルダを挿入するときに選択できます。

### 8.2.1.3 セクション・プロパティのプレースホルダ定義マッピングの作成

セクション・プロパティのプレースホルダ定義マッピングには、プレースホルダ名とプレースホルダ定義間のマッピングがリストされます。このマッピングが含まれるセクションでは、プレースホルダが使用される他のセクションとは異なるマッピングが使用されます。

グローバル・プレースホルダ定義マッピングとデフォルトのプレースホルダ定義は、セクション・プロパティのプレースホルダ定義マッピングによって上書きされます。

このセクション・プロパティを作成するには、ダイアログを使用する方法と、プレースホルダ名とプレースホルダ定義をセクション・プロパティに直接入力する方法の2つがあります。ダイアログでは、わかりやすいユーザー・インターフェースが使用されます。

ダイアログを使用してセクション・プロパティのプレースホルダ定義マッピングを作成するには、次の手順を実行します。

1. 階層の適切なセクション内にあるページ・テンプレートを右クリックします。メニューの「Placeholder Section Properties...」を選択します。

「Placeholder Section Properties」ダイアログが表示されます (A-112 ページの「Placeholder Section Properties」ダイアログを参照)。

2. 「Add」をクリックします。

「Placeholder Section Properties」ダイアログが表示されます (A-113 ページの「Placeholder Section Properties」ダイアログを参照)。

3. 「Name」と Placeholder Definition ID」を入力します。リージョン・テンプレート、サブテンプレートまたはコントリビュータ・データ・ファイルをセクション・プロパティに含める場合、それらも追加します。

4. 「OK」をクリックして、「Placeholder Section Properties」ダイアログを閉じます。

セクション・プロパティのプレースホルダ名マッピングが作成されます。

5. 「OK」をクリックして、「Placeholder Section Properties」ダイアログを閉じます。

セクション・プロパティのプレースホルダ定義マッピングをセクション・プロパティに直接作成するには、次の手順を実行します。

1. マッピングの作成先のセクションのセクション・プロパティを表示します。
2. 「Primary Page Placeholder Definition Mappings」でプレースホルダ名とプレースホルダ定義を次の形式で入力します。

```
name=contentID
```

name はプレースホルダ名、contentID はプレースホルダ定義のコンテンツ ID です。複数のプレースホルダ名とプレースホルダ定義を入力するには、次のようにアンパサンド('&')を各ペアの間に挿入します。

```
name1=contentID1&name2=contentID2&name3=contentID3
```

3. セカンダリ・ページについては、「Secondary Page Placeholder Definition Mappings」に対してプレースホルダ名とプレースホルダ定義を入力します。名前と定義のペアは、「Primary Page Placeholder Definition Mappings」のように複数入力できます。
4. 「Primary Page Placeholder Definition Mappings」と「Secondary Page Placeholder Definition Mappings」がセクション・プロパティに表示されます。

### 8.2.1.4 プレースホルダ・タグへのプレースホルダ定義の直接指定

プレースホルダ・タグにプレースホルダ定義が明示的に指定されるようにプレースホルダ・タグを記述することができます。この直接指定はページ・テンプレートが使用されるたびに使用されます。

プレースホルダ定義とプレースホルダ・タグをこの方法で関連付けると、他のすべてのプレースホルダ定義マッピングが上書きされます。

プレースホルダ・タグにプレースホルダ定義を直接指定するには、次の手順を実行します。

1. プレースホルダを含むページ・テンプレートを開きます。
2. 「Source View」タブをクリックします。
3. 次のように、プレースホルダ・タグにマッピングを入力します。

```
<!--$wcmPlaceholder("Sales",
"placeholderDefinitionDocName=placedef_salescontact")-->
```

この例では、プレースホルダ名が Sales で、プレースホルダ定義のコンテンツ ID が placedef\_salescontact になります。

4. これでタグにマッピングが作成されます。

「Define Placeholder」ダイアログで (A-118 ページの「[Define Placeholder](#)」ダイアログ) を参照)、タグに書き込むプレースホルダ定義を割り当てることもできます。

1. プレースホルダを含むページ・テンプレートを開きます。
2. プレースホルダをダブルクリックします。  
「Define Placeholder」ダイアログが表示されます。  
新規プレースホルダを挿入することもできます。
3. メニューに表示された名前は、選択したプレースホルダの名前です (新規プレースホルダでない場合)。「**Optionally specify the placeholder definition on the template**」チェック・ボックスを選択します。  
ダイアログが展開されます。メニューからプレースホルダ・タグにマップするプレースホルダ定義を選択します。
4. これでタグにマッピングが作成されます。

### 8.2.1.5 グローバル・プレースホルダ定義へのプレースホルダの関連付け

プレースホルダ・マッピングを作成している場合、プレースホルダ定義は、マッピングに従って作成したプレースホルダに関連付けられます。

プレースホルダで異なるプレースホルダ定義を使用することで、異なるサブテンプレートやリージョン・テンプレートを使用できるようになります。また、コントリビュータは、プレースホルダのいくつかのインスタンスを編集で使用したり、プレースホルダ定義に定義されたその他の側面で使用できるようになります。

プレースホルダをグローバル・プレースホルダ定義に関連付けるには、次の手順を実行します。

1. プレースホルダをページ・テンプレートに挿入します (8-3 ページの「[プレースホルダの挿入](#)」を参照)。
2. プレースホルダを挿入すると、「Define Placeholder」ダイアログ (A-118 ページの「[Define Placeholder](#)」ダイアログ) を参照) が表示されます。プレースホルダ名を選択します。
3. 「OK」をクリックします。
4. これでプレースホルダ定義がプレースホルダに関連付けられます。



### 8.2.1.6 プレースホルダ定義へのリージョン定義の追加

プレースホルダ定義には、プレースホルダに関連付けられた（使用可能な）リージョン定義、リージョン・テンプレート、サブテンプレートがリストされます。リージョン定義をプレースホルダ定義に追加したり、プレースホルダ定義から削除したりする作業は非常に簡単です。

リージョン定義がプレースホルダに関連付けられている場合、コントリビュータはそのリージョン定義に関連付けられた要素のみを使用できます。これは、リージョン・コンテンツまたはリージョン・テンプレートを切り替えるためのアクセス権をコントリビュータに与える場合に特に重要です。

リージョン定義をプレースホルダ定義に関連付けるには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインでプレースホルダ定義を開きます。

プレースホルダの定義ダイアログ（A-114 ページの「[プレースホルダの定義ダイアログ](#)」を参照）が表示されます。

2. 「Allowed Region Definitions」 ペインで、「Add」 をクリックします。

「Select a Region Definition」 ダイアログが表示されます。

3. リージョン定義を選択して、「OK」 をクリックします。

4. これでリージョン定義がプレースホルダ定義に関連付けられます。

リージョン定義を追加したら、リージョン・テンプレートを追加してその定義に関連付けることができます。

プレースホルダ定義からリージョン定義を削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインでプレースホルダ定義を開きます。

プレースホルダの定義ダイアログ（A-114 ページの「[プレースホルダの定義ダイアログ](#)」を参照）が表示されます。

2. 「Allowed Region Definitions」 ペインで、リージョン定義を選択します。

3. 「Remove」 をクリックします。

4. これでリージョン定義がプレースホルダ定義から削除されます。

### 8.2.1.7 プレースホルダ定義へのリージョン・テンプレートの関連付け

プレースホルダ定義には、プレースホルダに関連付けられた（使用可能な）リージョン定義、リージョン・テンプレート、サブテンプレートがリストされます。リージョン定義をプレースホルダ定義に追加したり、プレースホルダ定義から削除したりする作業は非常に簡単です。

リージョン・テンプレートをプレースホルダに関連付けると、そのリージョン・テンプレートと使用するリージョン定義によって、データを表示する要素定義を定義でき、またそのリージョン・テンプレートと使用するリージョン定義をコントリビュータで使用できるようになります。リージョン・テンプレートは要素の特定のレイアウトを定義するために使用します。リージョン・テンプレートを追加する場合は、そのリージョン・テンプレートを、プレースホルダ定義にすでに含まれているリージョン定義に関連付ける必要があります。

リージョン・テンプレートをプレースホルダ定義に関連付けるには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインでプレースホルダ定義を開きます。

プレースホルダの定義ダイアログ（A-114 ページの「[プレースホルダの定義ダイアログ](#)」を参照）が表示されます。

2. 「Allowed Region Definitions」 ペインで、リージョン・テンプレートを使用するリージョン定義を選択します。

3. 「Allowed Region Templates」 ペインで、「Add」 をクリックします。

「Select a Region Template」 ダイアログが表示されます。

4. リージョン定義を選択して、「OK」 をクリックします。

5. これでリージョン定義がプレースホルダ定義に関連付けられます。

「Select Region Template」ダイアログには、リージョン定義に関連付けられたリージョン・テンプレートのみが表示されます。リージョン・テンプレートとリージョン定義間の関連付けは、メタデータとしてリージョン・テンプレートに格納されます。

リージョン・テンプレートをデフォルトにするには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインでプレースホルダ定義を開きます。  
プレースホルダの定義ダイアログ (A-114 ページの「[プレースホルダの定義ダイアログ](#)」を参照) が表示されます。
2. 「Allowed Region Definitions」 ペインで、リージョン定義を選択します。  
「Allowed Region Templates」 ペインに、関連付けられたリージョン・テンプレートが表示されます。
3. 「Allowed Region Templates」 ペインで、リージョン定義を選択します。
4. 「Make Default」 をクリックします。
5. これで、このプレースホルダ定義内では、このリージョン・テンプレートが、選択したリージョン定義のデフォルト・テンプレートとなります。

プレースホルダ定義からリージョン・テンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインでプレースホルダ定義を開きます。  
プレースホルダの定義ダイアログ (A-114 ページの「[プレースホルダの定義ダイアログ](#)」を参照) が表示されます。
2. 「Allowed Region Templates」 ペインで、リージョン・テンプレートを選択します。
3. 「Remove」 をクリックします。
4. これでリージョン・テンプレートがプレースホルダ定義から削除されます。

### 8.2.1.8 プレースホルダ定義へのサブテンプレートの関連付け

プレースホルダ定義には、プレースホルダに関連付けられた (使用可能な) リージョン定義、リージョン・テンプレート、サブテンプレートがリストされます。サブテンプレートをプレースホルダ定義に追加したり、プレースホルダ定義から削除したりする作業は非常に簡単です。

プレースホルダに関連付けられたサブテンプレートを使用する場合、最終的な Web ページには、サイト・アセットおよびサブテンプレート上のすべてのプレースホルダが表示されます。サブテンプレートは必ずしも使用する必要はありません。

サブテンプレートは、静的アセットとプレースホルダで構成される HTML の任意のセクションとすることができ、それぞれに独自の定義を含めることができます。これは、リージョン・コンテンツまたはリージョン・テンプレートを切り替えるためのアクセス権をコントリビュータに与える場合に特に重要です。

サブテンプレートをプレースホルダ定義に関連付けるには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインでプレースホルダ定義を開きます。  
プレースホルダの定義ダイアログ (A-114 ページの「[プレースホルダの定義ダイアログ](#)」を参照) が表示されます。
2. 「Allowed Subtemplates」 ペインで、「Add」 をクリックします。  
「Select a Subtemplate」 ダイアログが表示されます。
3. サブテンプレートを選択して、「OK」 をクリックします。
4. これでサブテンプレートがプレースホルダに関連付けられます。

サブテンプレートをプレースホルダ定義から削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインでプレースホルダ定義を開きます。  
プレースホルダの定義ダイアログ (A-114 ページの「[プレースホルダの定義ダイアログ](#)」を参照) が表示されます。
2. 「Allowed Subtemplates」 ペインで、サブテンプレートを選択します。
3. 「Remove」 をクリックします。
4. これでサブテンプレートがプレースホルダ定義から削除されます。

## 8.2.2 リージョン定義

各リージョン定義には、関連付けられた要素定義のリストが含まれます。この定義リストは、リージョン・テンプレートとリージョン定義が関連付けられた後にリージョン・テンプレートのレイアウト内で使用できる、すべての要素のリストです。

リージョン・テンプレートでは、リージョン定義内で使用可能なすべての要素を使用する必要はありません。通常、リージョン・テンプレートには一部の要素が表示されます。ただし、コンピュータを起動すると、関連付けられたリージョン・テンプレートに表示されるかどうかに関係なく、すべての要素がエディタに表示されます。

リージョン・テンプレートとリージョン定義間の関連付けは、リージョン・テンプレートの `xRegionDefinition` メタデータに格納されます。

### リージョン定義への要素定義の関連付け

リージョン定義には、リージョン・テンプレートで使用可能な要素定義がリストされます。要素定義をリージョン定義に追加したり、リージョン定義から削除したりする作業は非常に簡単です。

要素定義をリージョン定義に関連付けるには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインでリージョン定義を開きます。  
リージョン定義ダイアログ (A-81 ページの「[リージョン定義ダイアログ](#)」を参照) が表示されます。
2. 「Add」 をクリックします。  
「Element」 ダイアログ (A-82 ページの「[Element](#) ダイアログ」を参照) が表示されます。
3. 要素の情報を入力 (適切なネーミング規則を使用して、使用時に要素定義を簡単に把握できるようにする) し、メニューから要素定義を選択して、「OK」 をクリックします。
4. これで要素定義がリージョン定義に関連付けられます。

要素定義は、リージョン定義に埋め込むこともできます。要素定義を埋め込む場合、名前付きの要素定義の単一インスタンスをリージョン定義内に作成します。これは、参照によって要素定義を含める方法で実行されるグローバル変更による影響を受けません。

要素定義をリージョン定義に埋め込むには、「Element」 ダイアログで (A-82 ページの「[Element](#) ダイアログ」を参照)、「**Embed the element definition inside the region definition**」 チェック・ボックスを選択し、通常どおりに要素定義の追加作業を行います。

要素定義をリージョン定義から削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」 ペインでリージョン定義を開きます。  
リージョン定義ダイアログ (A-81 ページの「[リージョン定義ダイアログ](#)」を参照) が表示されます。
2. 要素定義を選択します。「Remove」 をクリックします。
3. これで要素定義がリージョン定義から削除されます。

## 8.2.3 要素定義

各要素定義を使用して、ツールバーおよび含める必要のあるすべてのカスタマイズ・スクリプトと検証スクリプトを指定します。これらのスクリプトは、各要素定義を作成するときに含まれます。

## 8.3 サイト階層の操作

サイト階層は、サイト構造の構成要素となる個々のセクションと Web ページの集合です。フォルダ階層のフォルダと同様に、サイト階層のセクションは、関連情報を格納するのに使用されます。サイト階層は、すべてのセクションを最上位に配置してフラットな階層にすることも、多くのセクションを他のセクション内に配置して深い階層にすることもできます。

デザイナーはサイト階層を使用して Web サイトのコンテンツを編成および分類しますが、Site Studio はサイト階層を使用して多くの内部タスクを実行します（ナビゲーション・リンクの生成やページ・テンプレートの編成など）。

**サイト・ナビゲーション:** サイト階層は、サイト・ナビゲーション全体の基盤となります。Site Studio では、サイト階層を読み取り、各セクションをリンクに変換します。この処理は、ナビゲーション・フラグメントの使用時に確認できます（C-2 ページの「[ナビゲーション・フラグメント](#)」を参照）。サイト階層に Products、Services、Contact Us というセクションがある場合、これらの名前はユーザーがクリック可能なナビゲーション・メニューに表示されます。

**ページ・テンプレート:** サイト階層は、ページ・テンプレートに表示するコンテンツ（コントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメント、フラグメントなど）を編成する場合にも使用されます。Web サイトのセクションには、多くの Web ページを作成せず、1つのプライマリ・ページと1つのセカンダリ・ページのみを作成します。デザイナーによるサイト階層の編成に応じて、Site Studio によりプライマリ・ページまたはセカンダリ・ページでコンテンツが構成されます。

サイト階層では、一般的に次のタスクを実行します。

- 8-29 ページの「[サイト階層へのセクションの追加](#)」
- 8-29 ページの「[サイト階層のセクション名の変更](#)」
- 8-30 ページの「[サイト階層のセクションの並替え](#)」
- 8-30 ページの「[サイト階層からのセクションの削除](#)」
- 8-31 ページの「[ホームページの割当て](#)」
- 8-32 ページの「[プライマリ・ページの割当て](#)」
- 8-33 ページの「[セカンダリ・ページの割当て](#)」
- 8-35 ページの「[サイト・ナビゲーションへのセクションの表示](#)」
- 8-36 ページの「[エラー・ハンドラ・セクションの指定](#)」
- 8-37 ページの「[サイトまたはセクションのセキュリティの変更](#)」
- 8-38 ページの「[Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集](#)」
- 8-40 ページの「[セクションのカスタム・プロパティの定義](#)」
- 8-41 ページの「[サイト階層の展開と縮小](#)」
- 8-41 ページの「[デザイナーでのサイト階層のリフレッシュ](#)」

これらのサイト階層タスクの多くは、マネージャ・アプリケーションを有効化することでサイト・マネージャに委任できます（第 12 章「[マネージャの設定](#)」を参照）。

### 8.3.1 サイト階層へのセクションの追加

デザイナの「Site Hierarchy」ペインを使用して、Web サイトにセクションを追加できます。

セクションを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、Web サイトを右クリックし、「Add New Section」を選択します。

これにより、「New Section」ダイアログが表示されます（A-23 ページの「[New Section](#) ダイアログ」を参照）。

2. 「Label」に値を入力します。このラベルは、「Site Hierarchy」ペインとサイトのナビゲーション・メニューに表示されます。
3. 「URL」に値を入力します。この URL は、サイト・アドレスと、このセクションを宛先とするすべての（パスベースの）リンクで使用されます。

---

**注意：** Site Studio により、空白または特殊文字を含まない値が自動的に挿入されます。

---

4. このセクションの識別方法を選択します。セクション ID（ノード ID とも呼ばれる）は、このセクションを宛先とするすべての（ID ベースの）リンクで使用されます。
  - 「Auto-generate section ID」を選択すると、Site Studio により ID が自動的に生成されます。
  - 「Manually enter section ID」を選択すると、セクションに対応する独自の ID を指定できます。付属のボックスに独自の ID を入力してください。

**重要：**セクション ID は、Web サイト内で一意である必要があります。

5. 「OK」をクリックしてこのダイアログを閉じ、サイト階層に戻ります。

（ナビゲーション・フラグメントにより生成される）サイトのナビゲーション・メニューに新規セクションを表示するには、8-35 ページの「[サイト・ナビゲーションへのセクションの表示](#)」を参照してください。

サブセクション（セクション内のセクション）を追加するには、サイト階層で既存のセクションを右クリックし、「Add New Section」を選択します。

### 8.3.2 サイト階層のセクション名の変更

「Site Hierarchy」ペインを使用して、セクション名を変更できます。ID、URL、セキュリティなどの他の値は、「Properties」ペインを使用して編集できます（8-38 ページの「[Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集](#)」を参照）。

サイト階層のセクション名を変更するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、適切なセクションを右クリックし、「Rename Section」を選択します。
2. 新しいセクション名を入力し、キーボードの [Enter] を押すか、「Site Hierarchy」ペインの任意の場所をクリックします。
3. 変更を即座に反映するためにサイトのナビゲーションを更新するには、サイト・ツールの「Update Navigation」アイコン（[図 8-11](#)）をクリックします。ナビゲーションを更新しないと、サイトのプレビュー時に更新するよう求められます。

図 8-11 「Update Navigation」アイコン



### 8.3.3 サイト階層のセクションの並替え

サイト階層に表示されるセクションの順序を変更できます。この順序は、サイトにおけるサイト・ナビゲーションの表示順序に影響します。これを行うには、デザイナーの「Site Hierarchy」ペインで、右クリックしてドラッグ・アンド・ドロップするマウス操作を使用します。

サイト階層の新しい場所にセクションを移動するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、適切なセクションを右クリックします。マウス・ボタンを押したまま、そのセクションをサイト階層の新しい場所にドラッグし、ボタンを離します。
2. 表示されるポップアップ・メニューで、「Move Before」、「Move After」または「Move Into」をクリックし、マウス・ボタンを離したときにハイライト表示されているセクションの前、後または内部にセクションを移動します。
3. 移動の警告メッセージに対して「OK」をクリックします。

左マウス・ボタンのドラッグ・アンド・ドロップを使用すると、前述の「Move Into」と同じ操作になります。

セクションの新しい順序は、ナビゲーションを更新するとすぐに Web サイト・ナビゲーションに表示されます。ページ・テンプレートをプレビューすると、ナビゲーション・ファイルを更新するよう求められます。このファイルは、サイト・ツールバーの「Update Navigation」アイコン (図 8-12) をクリックして手動で更新することもできます。

図 8-12 「Update Navigation」アイコン



### 8.3.4 サイト階層からのセクションの削除

デザイナーの「Site Hierarchy」ペインを使用して、Web サイトからセクションを削除できます。

セクションを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、削除するセクションを右クリックし、「Delete Section」をクリックします。
2. 「OK」をクリックして削除を確認します。

このセクションがサイト・ナビゲーションに含まれる場合、ナビゲーションの更新時にリンクも Web サイトから削除されます。ページ・テンプレートをプレビューすると、ナビゲーション・ファイルを更新するよう求められます。このファイルは、サイト・ツールバーの「Update Navigation」アイコン (図 8-13) をクリックして手動で更新することもできます。

図 8-13 「Update Navigation」アイコン





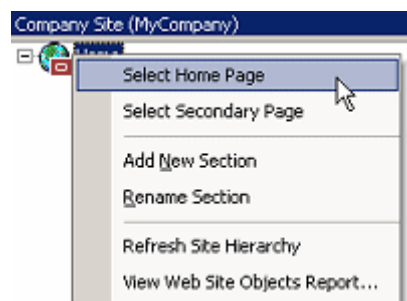
## 8.3.5 ホームページの割当て

Web サイトのホームページは入口です。Web サイトを訪れるユーザーは、通常、ホームページを最初に訪れます。

ページ・テンプレートをセクションのホームページとして使用するよう割り当てるには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、Web サイトを右クリックし、ポップアップ・メニューから「Select Home Page」を選択します。

図 8-14 ポップアップ・メニューの「Select Home Page」オプション



2. 「Select Page Template」ダイアログ（ホームページ）で（A-26 ページの「[Select (Home) Page Template] ダイアログ」を参照）、ホームページの作成方法を選択します。

- **Create a new page template:** 新規ページ・テンプレートが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、このセクションに関連付けられます。ファイル拡張子として、「hcsp」、「jsp」または「asp」を選択します。

使用可能な拡張子は、サイトの作成時に選択したサイト・タイプに依存します。

- **Select existing page template from the content server:** コンテンツ・サーバーの既存のページ・テンプレートがこのセクションに関連付けられます。メニューのページ・テンプレートを選択するか、「<Choose From Server>」を選択してこのダイアログの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。

- **Create a new page template from an existing one:** 別のページ・テンプレートに基づいて新規 HCSP、JSP または ASP ページが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、Web サイトに関連付けられます。新規ページ・テンプレートの作成に使用するページ・テンプレートは、次の 2 つのソースから取得できます。

- **stored in the content server:** コンテンツ・サーバーに格納されたページ・テンプレートが使用されます。ページ・テンプレートが最近作成したものである場合、メニューからページ・テンプレートを選択します。メニューに存在しない場合、「<Choose From Server>」を選択してこのダイアログ・ボックスの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。
- **stored on the file system:** ファイル・システムに格納されたページ・テンプレートが使用されます。このオプションは、ファイル・システムに（サード・パーティ・エディタなどを使用して）ページ・テンプレートを作成しており、その設計をこのページ・テンプレートで使用する場合に便利です。ファイルには、適切なファイル拡張子（hcsp、jsp または asp）が付けられている必要があります。

3. 同じページ・テンプレートを Web サイトのこのセクション以下のすべてのセクションで使用する場合、「Apply recursively to all subsections」ボックスを選択します。（これにより、サイト階層全体でページ・テンプレートを再利用する場合と同じアクションが実行されます。）

4. 「OK」をクリックして「Select Page Template」ダイアログ（ホームページ）を閉じます。  
 ここまでの選択によっては、既存のページ・テンプレートを選択するか、新規ページ・テンプレートにメタデータを割り当てるためのコンテンツ・サーバーの画面が表示されることがあります。

サイト階層のルートにセカンダリ・ページを追加し、コントリビュータにより追加される新規ファイルの背景として使用することも可能です。

Site Studio により、ユーザーをこのページに誘導する Home という値が Web サイトに自動的に割り当てられます。この値を変更する場合、「Site Hierarchy」ペインで Web サイトを選択し、「Properties」ペインを開いて、「Label」に異なる値を入力します。

ホームページは、プライマリ・ページやセカンダリ・ページとは次の点で異なります。第 1 に、ホームページは、セクションではなくサイトのルートに関連付けられます。第 2 に、一部のナビゲーション・フラグメントのホームページ・リンクによる移動先は、他のページ・テンプレートではなくこのページです。第 3 に、コンテンツ・サーバーの「Websites」メニューによる移動先は、Web サイトのこのページです。

ページ・テンプレートに割り当てる名前とメタデータ値（コンテンツ ID、タイプ、タイトル、セキュリティ・グループなど）には細心の注意を払う必要があります。これにより、特にページ・テンプレートをサイト階層で再利用する場合に、ページ・テンプレートの管理性が向上します。

### 8.3.6 プライマリ・ページの割当て

プライマリ・ページは、Web サイトの各セクションのランディング・ページ（デフォルト・ページ）のように動作します。ユーザーがリンクをクリックして特定のセクション（Products など）に移動すると、そのセクションに関連付けられたプライマリ・ページが表示されます。

プライマリ・ページとセカンダリ・ページにより、Web サイトが成長するための真のスケラビリティが提供されます。少数のページ・テンプレートを設定するだけで、サイト全体のリンク・アンド・フィールドを（そのサイトの規模にかかわらず）管理できます。

ページ・テンプレートをセクションのプライマリ・ページとして使用するように割り当てるには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、適切なセクションを右クリックし、「Select Primary Page」を選択します。
2. 「Select Page Template」ダイアログ（プライマリ・ページ）で（A-28 ページの「[Select \(Primary\) Page Template](#)」ダイアログを参照）、このセクションのプライマリ・ページの作成方法を選択します。
  - **Create a new page template:** 新規ページ・テンプレートが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、このセクションに関連付けられます。ファイル拡張子として、「**hcsp**」、「**jsp**」または「**asp**」を選択します。使用可能な拡張子は、サイトの作成時に選択したサイト・タイプに依存します。
  - **Select existing page template from the content server:** コンテンツ・サーバーの既存のページ・テンプレートがこのセクションに関連付けられます。メニューのページ・テンプレートを選択するか、「**<Choose From Server>**」を選択してこのダイアログの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。



- **Create a new page template from an existing one:** 別のページ・テンプレートに基づいて新規 HCSP、JSP または ASP ページが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、このセクションに関連付けられます。新規ページ・テンプレートの作成に使用するページ・テンプレートは、次の 2 つのソースから取得できます。
    - **stored in the content server:** コンテンツ・サーバーに格納されたページ・テンプレートが使用されます。ページ・テンプレートが最近作成したものである場合、メニューからページ・テンプレートを選択します。メニューに存在しない場合、「<Choose From Server>」を選択してこのダイアログ・ボックスの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。
    - **stored on the file system:** ファイル・システムに格納されたページ・テンプレートが使用されます。このオプションは、ファイル・システムに（サード・パーティ・エディタなどを使用して）ページ・テンプレートを作成しており、その設計をこのページ・テンプレートで使用する場合に便利です。ファイルには、適切なファイル拡張子（hcsp、jsp または asp）が付けられている必要があります。
  - **Use an external URL:** ページ・テンプレートのかわりに別の Web サイトの Web ページが使用されます。結果として、このセクションにアクセスした訪問者は、ここで指定された Web ページ URL に転送されます。（このオプションは、プライマリ・ページにのみ適用され、ホームページまたはセカンダリ・ページでは使用できません。）
3. 「OK」をクリックして「Select (Primary) Page Template」ダイアログを閉じます。

ここまでの選択によっては、既存のページ・テンプレートを選択するか、新規ページ・テンプレートにメタデータを割り当てるためのコンテンツ・サーバーの画面が表示されることがあります。

セクションでプライマリ・ページもセカンダリ・ページも使用しない唯一の場合は、「Select Layout」ダイアログで外部 URL を使用するように選択した場合です。このオプションでは、セクションにページ・テンプレートのかわりに別の Web サイトの URL が挿入されます。訪問者がこのセクションのリンクをクリックすると、指定された Web サイトに移動します。（このオプションは、パートナ・サイトまたは同じ組織内の部門レベルのサイトにリンクする場合に便利です。）

### 8.3.7 セカンダリ・ページの割当て

サイト階層の各セクション（サイトのルートを含む）では、Web サイトへの新規ファイル（データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）の追加をコントリビュータに許可する場合、セカンダリ・ページが必要です。セカンダリ・ページは、コントリビュータによりサイトに追加される新規コンテンツの背景として機能します。

プライマリ・ページとセカンダリ・ページにより、Web サイトが成長するための真のスケールビリティが提供されます。少数のページ・テンプレートを設定するだけで、サイト全体のルック・アンド・フィールを（そのサイトの規模にかかわらず）管理できます。

各セクションのセカンダリ・ページ（使用する場合は）、動的配置されるコンテンツを含めることができるページのテンプレートです。セカンダリ・ページは、コントリビュータによりサイトに追加される新規ファイルの背景として機能します。ページ・テンプレートは、サイトに追加される各新規データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントで再利用されるため、それぞれのセクションに複数の Web ページを作成する必要はなく、かわりに 1 つのプライマリ・ページと 1 つのセカンダリ・ページを作成すれば済みます。

ページ・テンプレートを選択したセクションのセカンダリ・ページとして使用するよう割り当てるには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」 ペインで、適切なセクション（またはルート）を右クリックし、「**Select Secondary Page**」を選択します。
2. 「Select (Secondary) Page Template」 ダイアログで（A-30 ページの「**Select (Secondary) Page Template**」ダイアログを参照）、このセクションのセカンダリ・ページの作成方法を選択します。
  - **Create a new page template:** 新規ページ・テンプレートが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、このセクションに関連付けられます。ファイル拡張子として、「**hcsp**」、「**jsp**」または「**asp**」を選択します。使用可能な拡張子は、サイトの作成時に選択したサイト・タイプに依存します。
  - **Select existing page template from the content server:** コンテンツ・サーバーの既存のページ・テンプレートがこのセクションに関連付けられます。メニューのページ・テンプレートを選択するか、「**<Choose From Server>**」を選択してこのダイアログの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。
  - **Create a new page template from an existing one:** 別のページ・テンプレートに基づいて新規 HCSP、JSP または ASP ページが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、このセクションに関連付けられます。新規ページ・テンプレートの作成に使用するページ・テンプレートは、次の2つのソースから取得できます。
    - **stored in the content server:** コンテンツ・サーバーに格納されたページ・テンプレートが使用されます。ページ・テンプレートが最近作成したものである場合、メニューからページ・テンプレートを選択します。メニューに存在しない場合、「**<Choose From Server>**」を選択してこのダイアログ・ボックスの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。
    - **stored on the file system:** ファイル・システムに格納されたページ・テンプレートが使用されます。このオプションは、ファイル・システムに（サード・パーティ・エディタなどを使用して）ページ・テンプレートを作成しており、その設計をこのページ・テンプレートで使用する場合に便利です。ファイルには、適切なファイル拡張子（hcsp、jsp または asp）が付けられている必要があります。
3. 同じセカンダリ・ページを Web サイトのこのセクション以下のすべてのセクションで使用する場合、「**Apply recursively to all subsections**」ボックスを選択します。（これにより、サイト階層全体でページ・テンプレートを再利用する場合と同じアクションが実行されます。）
4. 「**OK**」をクリックして「Select (Secondary) Page Template」ダイアログを閉じます。

ここまでの選択によっては、既存のページ・テンプレートを選択するか、新規ページ・テンプレートにメタデータを割り当てるためのコンテンツ・サーバーの画面が表示されることがあります。

### 8.3.8 サイト・ナビゲーションへのセクションの表示

Site Studio では、サイト階層の各セクションをサイトのナビゲーション・メニューのハイパーリンクに変換します（ナビゲーション・メニューはナビゲーション・フラグメントにより作成されます）。この処理は、サイト・ナビゲーションにセクションを含めると自動的に行われます。

デフォルトでは、新規セクションはサイト・ナビゲーションに含まれないため、Web サイトにリンクとして自動的に追加されません。「Site Hierarchy」ペインで、空のフォルダ・アイコン（[図 8-15](#)）付きのセクションはサイト・ナビゲーションに含まれておらず、色の付いたフォルダ・アイコン（[図 8-16](#)）付きのセクションはサイト・ナビゲーションに含まれています。

図 8-15 空のフォルダ：サイト・ナビゲーションに含まれない



図 8-16 色の付いたフォルダ：サイト・ナビゲーションに含まれる



サイト・ナビゲーションにセクションを表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、適切なセクションを右クリックし、「**Include Section in Navigation**」をクリックします。
2. サイト・ツールバーの「Update Navigation」アイコン（[図 8-17](#)）をクリックし、このセクションへのリンクをサイト・ナビゲーションに追加します。

図 8-17 「Update Navigation」アイコン



サイト・ナビゲーションは、ページ・テンプレートのプレビュー時に、navigation.js ファイルを再生成するようプロンプトが表示されたときに「Yes」をクリックしても更新できません。

サイト・ナビゲーションにセクションを含めるかどうかは、「Properties」ペインでも指定できます（8-38 ページの「[Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集](#)」を参照）。

ツールボックスの一部のナビゲーション・フラグメントは、階層の第 2 または第 3 レベルのセクションのみを表示するように設計されています（たとえば、C-5 ページの「[垂直方向のナビゲーション・プレーン](#)」を参照）。階層に第 2 または第 3 のレベルがない状態でこれらのフラグメントのいずれかを使用すると、ナビゲーション・メニューにセクションが表示されない可能性があります。

### サイト・ナビゲーションにセクションを表示しない理由

いくつかの理由から、サイト・ナビゲーションにセクションを含めないこともあります。次に、その例を示します。

- **サイトに検索機能を追加する場合**、ページ・テンプレートに検索ボックスを追加し (C-6 ページの「[検索ボックス・プレーン](#)」を参照)、検索結果を表示するためのページ・テンプレートを指定する必要があります (C-8 ページの「[検索結果プレーン](#)」を参照)。検索結果ページは、サイト・ナビゲーションに含まれていないセクションに存在する必要があります。含まれていると、ユーザーはサイト・ナビゲーションのリンクをクリックして直接検索結果ページに移動できることとなりますが、その場合、検索結果ページには何も表示されません。
- **カスタム・エラー・ページを作成する場合**、サイト階層内にカスタム・エラー・ハンドラとして機能するセクションを作成します (8-36 ページの「[エラー・ハンドラ・セクションの指定](#)」を参照)。次に、そのセクション内にカスタム・エラー・メッセージを表示するページ・テンプレートを作成します。このセクションは、サイト・ナビゲーションに含まれないようにします。含まれていると、ユーザーはサイト・ナビゲーションのリンクをクリックして直接カスタム・エラー・ページに移動できることとなりますが、その場合、カスタム・エラー・ページはユーザーにとって意味を持ちません。
- **新しい機能またはページ・テンプレートを導入する場合**、他のユーザーから未完成の作業を参照されないように、それらの機能またはページ・テンプレートを、サイト・ナビゲーションに含まれないセクションに配置できます。機能やページ・テンプレートおよび関連するサイト・アセットの準備が完了するまでテストを繰り返すことができます。その後で、そのセクションをサイト・ナビゲーションに含めることができます。

サイト・ナビゲーションにセクションを含めない方法のかわりとして、セクションがコントリビューション・モードでのみ表示されるように、コントリビュータ専用セクションを作成できます。

## 8.3.9 エラー・ハンドラ・セクションの指定

場合によって、エラー・メッセージがサイトの訪問者またはコントリビュータに表示されることがあります。

たとえば、コントリビュータ・データ・ファイルの格納先となるセクションにセカンダリ・ページ・テンプレートが存在しない場合、セカンダリ・ページが見つからないというメッセージが表示される可能性があります。または、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントがサイトから削除されたにもかかわらず、まだサイトの他の部分からリンクされている場合、ファイルが欠落しているというメッセージが表示される可能性があります。

このようなエラーが表示されないように、任意のセクションをエラー・ハンドラとして指定し、そのセクションにカスタム・エラー・ページ (ページ・テンプレート) を作成できます。

セクションをエラー・ハンドラとして指定するには、次の手順を実行します。

1. Web サイトに新規セクションを追加します (8-29 ページの「[サイト階層へのセクションの追加](#)」を参照)。

---

**注意:** 使用するラベルは、サイトのどこにも表示されません。

---

2. セクションを右クリックし、「**Set Section as Error Handler**」を選択します。

セクションのアイコンが、感嘆符付きで赤く表示されます (図 8-18)。

**図 8-18 エラー・ハンドラ・セクション・アイコン**



3. セクションを再度右クリックして「**Select Primary Page**」を選択し、セクションにページ・テンプレートを追加する手順を実行します（8-32 ページの「[プライマリ・ページの割当て](#)」を参照）。
4. ページ・テンプレートで、カスタム・エラー・メッセージを作成するか、ツールボックスに付属するサンプル・フラグメントを使用します（C-27 ページの「[エラー・ハンドラ・メッセージ](#)」を参照）。

セクションをエラー・ハンドラとして指定する場合、そのセクションはサイト・ナビゲーションに含めません。

### 8.3.10 サイトまたはセクションのセキュリティの変更

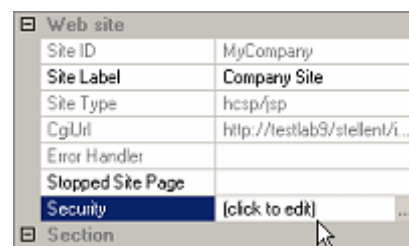
必要に応じて、特定のセクションまたはサイト全体のセキュリティを変更できます。サイトのセキュリティでは、コンテンツ・サーバーのセキュリティ・モデルを使用します。

この操作は、サイト階層へのアクセスを許可する組織内のユーザーを指定し、権限のないユーザーによるサイト階層の変更を禁止する場合に便利です。

セクションまたはサイトのセキュリティを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、サイトのルートまたはサイトの任意のセクションを選択します。
2. 「Properties」ペインを表示します。
3. 「Security」プロパティ（[図 8-19](#)）をクリックします。

**図 8-19 「Security」プロパティ**

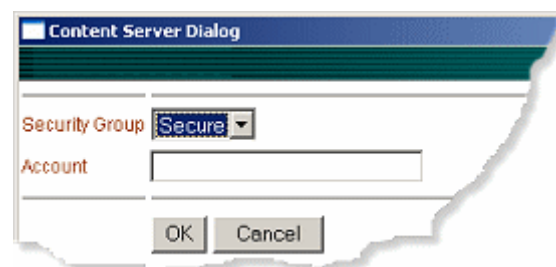


4. 「Additional Information」アイコン（[図 8-20](#)）をクリックして「Content Server」ダイアログ（[図 8-21](#)）を表示します。

**図 8-20 「Additional Information」アイコン**



**図 8-21 「Content Server」ダイアログ**



5. 「Security Group」メニューで、サイトまたはセクションに割り当てるグループを選択します。

6. 「Account」フィールドで、サイトまたはセクションのアカウントを指定します。
7. 「OK」をクリックします。

### 8.3.11 Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集

「Properties」ペインを使用すると、サイトおよび各セクションのすべてのプロパティを表示することや、特定のプロパティを変更することができます。これは、サイト階層を管理および編集する場合に便利です。

サイト・プロパティまたはサイトのセクション・プロパティを表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、サイトのルートまたはサイトの適切なセクションを選択します。
2. 「Properties」ペインを開き、サイトおよび各セクションに関連するプロパティを表示します。

グレー表示されているプロパティは、「Properties」ペインでは変更できません。他のすべてのプロパティは、直接変更できます。各プロパティの値は変化する可能性があります。

#### Web サイト

プロパティ	定義
Site ID	サイトの ID。これは、コンテンツ・サーバーにおけるサイトの一意の識別子です。フォルダベース・アドレスを使用してサイトにアクセスする場合、この値はサイト・アドレスにも表示されます。
Site Label	Web サイトの名前（わかりやすい説明）。サイト・ラベルは、デザイナーと、コンテンツ・サーバーの「Websites」メニューに表示されます。
Site Type	サイトのスクリプト形式（HCSP/JSP または ASP）。
CgiUrl	サイトをホストするコンテンツ・サーバーの CGI URL アドレス。
Error Handler	サイトのエラー・ハンドラとして機能するセクションの名前（8-36 ページの「エラー・ハンドラ・セクションの指定」を参照）。
Stopped Site Page	サイトが停止したときに表示されるページ（8-42 ページの「フラグメントの操作」を参照）。
Security	サイトのセキュリティを制御します（8-37 ページの「サイトまたはセクションのセキュリティの変更」を参照）。

**注意：**「Site ID」の値は、選択したサイトのルートで「URL Directory Name」の値を入力することにより上書きできます。これにより、フォルダベースのサイト・アドレスに表示される名前を変更できます。

## セクション

プロパティ	定義
Section ID	セクションの ID (ノード ID とも呼ばれる)。これは、Site Studio がサイトのセクションを呼び出す際に使用されます。
Label	セクションに選択した名前。これは、「Site Hierarchy」ペインとサイト・ナビゲーションに表示されます。
Include in Navigation	「True」に設定すると、セクションはサイト・ナビゲーションに表示されます。「False」に設定すると、セクションはサイト・ナビゲーションに表示されません。8-35 ページの「 <a href="#">サイト・ナビゲーションへのセクションの表示</a> 」を参照してください。
URL Page Name	このセクションのプライマリ・ページを示す URL。名前を指定しないと、index.htm が使用されます。
URL Directory Name	このセクションを示す Web サイト・アドレスの URL。
Primary Page	このセクションに関連付けられたプライマリ・ページ。
Primary Page Params	プライマリ・ページにコントリビューション・リージョンが含まれる場合、そのリージョンの名前と、そのリージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルがここに表示されます。
Secondary Page	このセクションに関連付けられたセカンダリ・ページ。
Secondary Page Params	セカンダリ・ページにコントリビューション・リージョンが含まれる場合、そのリージョンの名前と、そのリージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルがここに表示されます。
Replaceable Region	ページ・テンプレートに置換え可能なリージョンが含まれる場合、そのリージョンの名前がここに表示されます。
Contributor-Only Section	「True」に設定すると、セクションは、Web ページをコントリビューション・モードで参照したときのみサイト・ナビゲーションに表示されます。「False」に設定すると、セクションは常にサイトに表示されます。
Max Age (caching)	プライマリ・ページをキャッシュできる最大時間を指定します。 このオプションは、サイトにリバース・プロキシ・キャッシュを設定する場合に便利です。
Max Age Secondary	セカンダリ・ページをキャッシュできる最大時間を指定します。 このオプションは、サイトにリバース・プロキシ・キャッシュを設定する場合に便利です。
Security	セクションのセキュリティを制御します (8-37 ページの「 <a href="#">サイトまたはセクションのセキュリティの変更</a> 」を参照)。

**注意：**セカンダリ・ページに使用される名前（「URL Page Name」と同等）は、そのページに表示されるデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのコンテンツ ID (dDocName) から導出されます。

### カスタム・セクション・プロパティ

サイト階層に 1 つ以上のカスタム・セクション・プロパティを作成した場合、この第 3 のプロパティ・カテゴリが表示されます。カスタム・セクション・プロパティを作成すると、サイト階層のセクションごとに一意の値を指定し、ページ・テンプレートおよびフラグメントでそのプロパティを参照できます。(8-40 ページの「[セクションのカスタム・プロパティの定義](#)」を参照してください。)

## 8.3.12 セクションのカスタム・プロパティの定義

サイト階層の各セクションには、ラベル、そのセクションに関連付けられたページ・テンプレートの名前、セキュリティなど、様々なプロパティが含まれます (8-38 ページの「[Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集](#)」を参照)。

これらの値とは別に、サイト階層のセクションごとにカスタム・プロパティを定義し、それらの値を読み取って実行するように Web サイトを変更できます。これは、サイト階層の特定のセクションの外観と動作をカスタマイズする場合に特に便利です (ナビゲーション・フラグメントでセクションのハイパーリンクを表示する方法を変更する場合など)。

カスタム・セクション・プロパティを定義するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの「Custom Section Properties」アイコン (図 8-22) をクリックするか、「Tools」→「Define Custom Section Properties」を選択します。

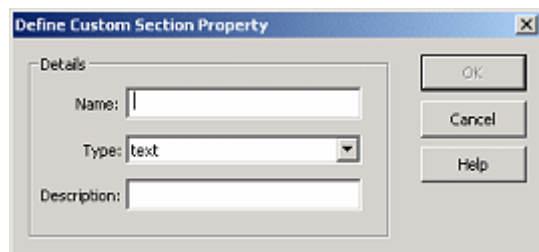
図 8-22 「Custom Properties」アイコン



2. 「Custom Section Properties」ダイアログで (A-24 ページの「[Custom Section Properties](#)」ダイアログ」を参照)、「Add」をクリックします。

「Define Custom Section Property」ダイアログが表示されます (図 8-23)。詳細は、A-25 ページの「[Define Custom Section Property](#)」ダイアログ」を参照してください。

図 8-23 「Define Custom Section Property」ダイアログ



3. 「Name」フィールドに名前を入力します。この名前は、サイト階層でセクションを選択したときに「Properties」ペインに表示されます。
4. 「Type」の値を選択します。これにより、実行されるアクションが決定されます (各タイプの詳細は、A-25 ページの「[Define Custom Section Property](#)」ダイアログ」を参照してください)。
5. 「Description」フィールドに説明を入力します (オプション)。これは、「Properties」ペインの一番下の説明領域に表示されます。
6. 「OK」を 2 回クリックして各ダイアログ・ボックスを閉じ、デザイナーに戻ります。

カスタム・プロパティは、サイト階層の各セクションの「Properties」ペインに表示されます (8-38 ページの「[Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集](#)」を参照)。

カスタム・セクション・プロパティを定義した後、サイト階層を経由して各セクションの値を入力する必要があります。次に、追加したカスタム・プロパティを読み取って実行するように、フラグメントまたはページ・テンプレートに必要なコードを挿入する必要があります (使用例は、C-13 ページの「[CSP サンプル・ナビゲーション \(クライアント\)](#)」を参照してください)。



### 8.3.13 サイト階層の展開と縮小

「Site Hierarchy」ペインのサイト階層は、展開してすべてのセクションおよびページ・テンプレートを一度に表示したり、縮小してビューから隠したりできます。これを行うには、デザイナのツールバーを使用します。

サイト階層を展開および縮小するには、次の手順を実行します。

- サイト階層を展開するには、ツールバーの「Expand Site Hierarchy」アイコン (図 8-24) をクリックします。
- サイト階層を縮小するには、ツールバーの「Collapse Site Hierarchy」アイコン (図 8-25) をクリックします。

図 8-24 「Expand Site Hierarchy」アイコン



図 8-25 「Collapse Site Hierarchy」アイコン



### 8.3.14 デザイナでのサイト階層のリフレッシュ

デザイナで作業していると、サイト階層がコンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルとの同期を失うことがあります。同期を行って常に最新のプロジェクト・ファイルで作業するために、デザイナでサイト階層をリフレッシュできます。

デザイナでサイト階層をリフレッシュするには、次の手順を実行します。

- デザイナ・ツールバーの「Refresh」アイコン (図 8-26) をクリックします。

図 8-26 「Refresh」アイコン



- 「Site Hierarchy」ペインでサイトのルートを右クリックし、「Refresh Site Hierarchy」を選択します。

デザイナの右下隅のアイコンが「Synchronized」アイコン (図 8-27) に変化し、サイト階層がプロジェクト・ファイルと同期していることが示されます。

図 8-27 「Synchronized」アイコン



## 8.4 フラグメントの操作

フラグメントは、Web サイトを構築および管理するための追加のツールを提供します。フラグメントは、パッケージされた機能または機能の断片のようなもので、追加前も追加後もページ・テンプレートとは独立して管理できます。

フラグメントは、動的である必要があり、頻繁な更新が必要とされ、Web サイト全体または複数の Web サイトで再利用されるコンテンツのオプションです。デザイナーは、どのようなコンテンツ（単純なテキスト行からサーバー側スクリプトまで）もフラグメントに変換できます。

フラグメントは、Site Studio の強力な機能です。第 9 章「フラグメントの操作」を参照してください。

## 8.5 コンテンツの割当て

サイトの構築が完了しても、完全な Web サイトのフレームワークが得られるのみで、コンテンツは含まれていません。コンテンツはコントリビュータ・データ・ファイルに含まれ、コントリビュータ・データ・ファイルはコントリビュータによって編集されます。コントリビュータ・データ・ファイルを追加するには、2つの方法があります。1つはコントリビュータにコンテンツの追加を任せることです。もう1つはデザイナーがコンテンツを追加することです。

デザイナーがコンテンツを追加するには、次の手順を実行します。

右クリックして「Assign Content」を選択するか、サイト階層のページ・テンプレートを選択してツールバーの「Assign Content」アイコンをクリックして、「Assign Region Content」ウィンドウを開きます（A-91 ページの「Assign Region Content」ダイアログを参照）。

割り当てられたコンテンツがない場合、コントリビューション・グラフィック（図 8-28）に緑色のプラス記号が表示されます。

図 8-28 コンテンツが割り当てられていないことを示すコントリビューション・グラフィック



プラス記号の付いた編集アイコンをクリックすると、Switch Content ウィザードが起動します（A-119 ページの「Switch Content ウィザード」を参照）。すでに割り当てられているコンテンツがある場合、コントリビューション・グラフィックには緑色のプラス記号ではなく黄色の矢印が表示されます（図 8-29）。

図 8-29 リージョン切替え矢印を表示するコントリビューション・グラフィック



Switch Content ウィザードを使用すれば、新規コンテンツの作成および割当てや、サーバーにすでに存在するコンテンツの割当てを簡単に実行できます。ローカルに格納されたコンテンツを割り当てることもできます。

コンテンツを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. サイト階層のページ・テンプレートを右クリックして、「Assign Region Content」ウィンドウを開きます（A-91 ページの「Assign Region Content」ダイアログを参照）。  
ダイアログにページが開き、コントリビューション・グラフィックが表示されます。
2. コンテンツがすでに割り当てられているかどうかによって、緑色のプラス記号または黄色の矢印を表示するコントリビューション・グラフィックをクリックします。

Switch Content ウィザードが開きます（A-119 ページの「Switch Content ウィザード」を参照）。

3. 使用可能なオプションは、プレースホルダ定義にリストされたリージョン定義とサブテンプレートによって異なります。

サブテンプレートを選択すると、ウィザードは終了します。サブテンプレート内にプレースホルダがある場合、プレースホルダごとにウィザードを実行する必要があります。

リージョン定義を選択すると、ウィザードは続行します。

4. ウィザードの次の画面で、新規コントリビュータ・データ・ファイル、新規ネイティブ・ドキュメント、コンテンツ・サーバーの既存のファイルまたはローカル・コンピュータのファイルを追加できます。

選択したファイルがサーバーに存在しない場合、コンテンツを関連付ける前に、そのファイルをサーバーにチェックインするよう求められます。

サーバーのファイルを選択した場合、ウィンドウが開き、コンテンツ・サーバーの検索結果が表示されます。ファイルを選択すると、そのファイルが関連付けられます。

5. ウィザードが終了すると、「Assign Region Content」ウィンドウ内のページはリロードされ、ウィザードによって関連付けられたデータが新しく表示されます。

## 8.6 Web ページの変更の比較

サイト階層のページ・テンプレートを編集していると、自分や他のユーザーが特定のページを編集した前と後でそのページがどのように変化したかを確認したいときがあります。たとえば、削除されたテキストの量、追加された新規テキストの量、編集の多くが発生している場所などを確認できます。

これを行うには、Site Studio のドキュメント比較機能を使用します。この機能を使用して、デザイナーでページ・テンプレートを比較したり、Web ページのコントリビューション・グラフィックを通じて Web ページを比較したりできます。使用方法に応じて、異なる結果を比較することになります。

- **デザイナーでページ・テンプレートを比較する場合**、ページ・テンプレートの 2 つのバージョン（メモリー内に格納されているバージョンとコンテンツ・サーバーにチェックインされた最新のバージョン）が比較されます。つまり、ページを保存する前にそのページに加えた変更を確認できます。
- **コントリビューション・グラフィックを使用して Web ページを比較する場合**、データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメント、ページ・テンプレート、フラグメントなどで構成された完全な Web ページの 2 つのバージョンが比較されます。この方法で Web ページを比較すると、ページの現行バージョンと、コンテンツ・サーバーの最新のリリース済バージョンが比較されます。

リリース日付が将来の日時に設定されている場合や、ページがワークフローの一部でまだ承認されていない場合、Web ページの現行バージョンと最新のリリース済バージョン間の差異のみが表示されます。詳細は、[第 14 章「ワークフローの使用法」](#)を参照してください。

次の項で、この機能について詳細に説明します。

- [8-44 ページの「Web ページの比較時における差異の色分け」](#)
- [8-45 ページの「変更比較機能の使用」](#)

## 8.6.1 Web ページの比較時における差異の色分け

デザイナーのページ・テンプレートまたは Web サイトの Web ページの 2 つのバージョンを比較する場合、実際の差異を示すなんらかの色分け規則が必要です。Site Studio では、次の規則を使用して変更されたコンテンツを示します。

- 新規テキストは、緑でハイライト表示されます。
- 削除されたテキストは、取消し線とともに赤で表示されます。
- 変更されていないテキストは、黒のまま表示されます。

図 8-30 デザイナーで編集されたページ・テンプレートの例

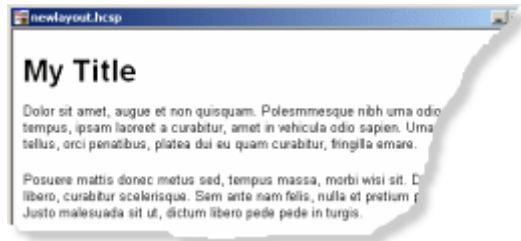
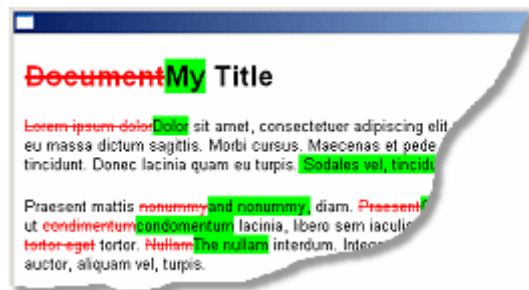


図 8-31 変更がハイライト表示された同じページ・テンプレート



## 8.6.2 変更比較機能の使用

デザイナーでページ・テンプレートに加えられた変更を比較できます。また、Web サイトの Web ページに加えられた変更を比較できます (8-43 ページの「Web ページの変更の比較」を参照)。

### ページ・テンプレートの変更の比較

デザイナーでページ・テンプレートに加えられた変更を比較するには、次の手順を実行します。

1. ページ・テンプレートを変更した後に、サイト・ツールバーの「Compare Changes」アイコン (図 8-32) をクリックします。

図 8-32 「Compare Changes」アイコン



2. ページ・テンプレートの 2 つのバージョン間の差異を示した新規ウィンドウが表示されます (8-44 ページの「Web ページの比較時における差異の色分け」を参照)。

これにより、保存されていないページ・テンプレートのバージョンとコンテンツ・サーバーに保存されたバージョンが比較されます。変更を確認し、ウィンドウを閉じます。

### Web ページの変更の比較

Web サイトの Web ページに加えられた変更を比較するには、次の手順を実行します。

1. 適切な Web ページに移動し、コントリビュータを開始します。
2. Web ページの 2 つのバージョン (現行バージョンと最新のリリース済バージョン) を比較するには、ページの一番上にあるコントリビューション・モード (図 8-33) のメニュー・アイコンをクリックし、「View Differences」を選択します。

図 8-33 コントリビューション・モードのトップ・バー



3. Web ページの 2 つのバージョン間の差異を示した新規ウィンドウが表示されます (8-44 ページの「Web ページの比較時における差異の色分け」を参照)。

Web ページの現行バージョンとコンテンツ・サーバーの最新のリリース済バージョン間に差異が存在する場合、新規ウィンドウにはその変更のみが表示されます。通常、この状況が発生するのは、ページに将来のリリース日付が含まれる場合か、ページがワークフローの一部である場合のみです (第 14 章「ワークフローの使用方法」を参照)。変更を確認し、ウィンドウを閉じます。

Web ページの 2 つのバージョンを比較する場合、データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメント、ページ・テンプレート、フラグメントなどを含む Web ページ上のすべてのものが比較されます。

この機能では、コンテンツの変更が比較され、書式設定の変更は比較されません。たとえば、テキストのフォント・サイズを変更するか、テキストを太字に設定しても、差異は表示されません。ただし、ある語を別の語に置き換えると、その差異が表示されます。イメージのサイズを変更したりイメージを置き換えると、その差異が表示されます。



---

---

## フラグメントの操作

この項の内容は次のとおりです。

- 9-2 ページの「フラグメントについて」
- 9-2 ページの「フラグメントの追加と編集」
- 9-2 ページの「テンプレートでのフラグメント処理」
- 9-3 ページの「ツールボックスのフラグメント」
- 9-4 ページの「ツールボックスのフラグメントのフィルタ」
- 9-5 ページの「テンプレートへのフラグメントの追加」
- 9-5 ページの「フラグメントのプレビュー」
- 9-8 ページの「フラグメントの編集」
- 9-11 ページの「新規フラグメントの作成」
- 9-11 ページの「フラグメントの削除」
- 9-12 ページの「ツールボックスのフラグメントの削除」
- 9-12 ページの「フラグメント・エディタの使用」
- 9-25 ページの「フラグメント・ライブラリ」

## 9.1 フラグメントについて

ページ・テンプレートを最初に設計する場合、通常は、背景色、グラフィック、テキストおよび表レイアウトを使用して、サイトの基本的なルック・アンド・フィールを作成することから始めます。この種の情報は、Web サイトのすべてのページに（または Web サイトのセクションに）同じように表示されます。そのため、この情報は、「SOURCE」または「DESIGN」ビューでページ・テンプレート、サブテンプレートまたはリージョン・テンプレートに直接追加できます。

フラグメントには、単一行のテキスト（著作権表示など）を指定することも、クライアント側およびサーバー側のアクションを実行するスクリプトの複雑なコレクション（JavaScript ベースのメニューなど）を指定することもできます。

ページ・テンプレート、サブテンプレートまたはリージョン・テンプレートに追加するものはどのようなものでもフラグメントとして追加できます。フラグメントをどの程度使用するかは、自分の好みと Web サイトの要件に応じて変化します。

## 9.2 フラグメントの追加と編集

フラグメントは、デザイナーのツールボックスを使用して追加および編集できます。Site Studio のツールボックスには、独自に使用またはカスタマイズできる多くのサンプル・フラグメントが含まれます（9-3 ページの「[ツールボックスのフラグメント](#)」を参照）。フラグメントを使用するには、テンプレートでフラグメントを表示する場所にカーソルを置き、ツールボックスの適切なフラグメントをクリックします。

テンプレートでのフラグメントの表示方法をカスタマイズするには、フラグメントをテンプレートに追加する際に表示される「Fragment Parameters」ダイアログでフラグメントのパラメータを変更します。

フラグメントにはパラメータが含まれており、テンプレートで使用するたびにフラグメントをカスタマイズできます。パラメータに変更できない設定がある場合は、いつでもフラグメント・エディタでフラグメントを開いてカスタマイズできます（必要に応じて独自のカスタム・パラメータを追加することも可能です）。

## 9.3 テンプレートでのフラグメント処理

完全な HTML ドキュメントであるページ・テンプレートのコードには、<HEAD> と <BODY> があります。ただし、サブテンプレートとリージョン・テンプレートに <HEAD> セクションはありません。フラグメントを配置する場合やフラグメントを作成および編集する場合も、この違いを認識しておく必要があります。

フラグメント内のスニペットでは、「head」、「drop-point」、「top-of-body」および「bottom-of-body」の場所が指定されます。これらの場所は、フラグメント・エディタ・ダイアログ（A-95 ページの「[フラグメント・エディタ・ダイアログ](#)」を参照）でフラグメントを作成または編集するときに指定します。「head」の場所が指定されたスニペットは、<HEAD> を含むテンプレートに配置する必要があります。つまり、ページ・テンプレートに配置する必要があります。これは、スニペットで、機能するヘッダーが必要になるためです。「head」の場所が指定されたスニペットを含むフラグメントをリージョン・テンプレートまたはサブテンプレートに配置すると、そのフラグメントは機能できません。

フラグメントをページ・テンプレートに配置する場合は、XML データ・アイランド（特に <SSINFO> タグ）に情報が含まれます。フラグメントをサブテンプレートまたはリージョン・テンプレートに配置する場合は、wcmFragment タグが HTML に配置されます。どちらの場合も「SOURCE」ビューで確認できます。

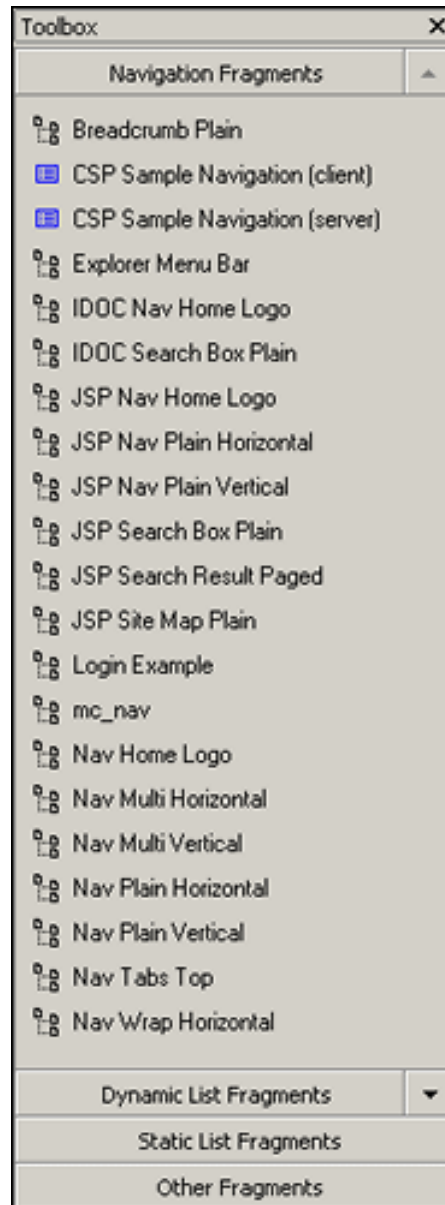
可能なかぎり、単一ボディのスニペットを含むフラグメントを作成することをお勧めします。そうすることで、フラグメントは、ページ・テンプレート、サブテンプレート、リージョン・テンプレートのどのテンプレートに配置されているかに関係なく、どのような状況でも使用できます。



## 9.4 ツールボックスのフラグメント

Site Studio には、即座に使用できる多くのフラグメントが付属しているため、作成方法や編集方法を知らなくてもすぐにフラグメントの使用を開始できます。サンプル・フラグメントを使用することで、Web サイトに単純な機能を簡単に追加できると同時に、フラグメントの実際の使用方法とその応用について学習できます。

図 9-1 ツールボックスのサンプル・フラグメント



サンプル・フラグメントは、ツールボックスにあり、次の4つのカテゴリに分類されています。

- **Navigation Fragments:** このカテゴリには、Web サイトにサイト・ナビゲーションを提供するフラグメントが含まれます (ナビゲーション・バー、ブレッドクラム、検索ボックスなど)。ナビゲーション・フラグメントの優れた点は、既存のサイト階層を自動的に読み取って、各セクションをナビゲーション・メニューに表示されるハイパーリンクに変換できることです。結果として、サイト階層を更新および変更すると、それらの変更は Web サイトに即座に反映されます。これらのフラグメントの詳細は、C-2 ページの「[ナビゲーション・フラグメント](#)」を参照してください。
- **Dynamic List Fragments:** このカテゴリには、拡張コントリビューション機能、特に、コンテンツ・サーバーのコントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメントを問い合わせる機能を Web サイトに提供するフラグメントが含まれます。各コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションを使用して、リストのファイルを追加、削除および編集できます (C-22 ページの「[動的リスト・フラグメント](#)」を参照)。
- **Static List Fragments:** このカテゴリには、拡張コントリビューション機能、特に、要素 (WYSIWYG、プレーン・テキスト、イメージおよびカスタム) の構造化されたレイアウトを作成する機能を Web サイトに提供するフラグメントが含まれます。各コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションを使用して、リストに含まれる情報の行および列を追加、削除および編集できます (C-25 ページの「[静的リスト・フラグメント](#)」を参照)。
- **Other Fragments:** このカテゴリには、サイトにとって役立つ可能性のあるその他のフラグメントが含まれます (コピーライト行、埋込み Flash プレゼンテーション、動的変換ネイティブ・ドキュメント、マネージャなど)。これらのフラグメントの詳細は、C-26 ページの「[その他のフラグメント](#)」を参照してください。

## 9.5 ツールボックスのフラグメントのフィルタ

デザイナのツールボックスには、Web サイトの構築時に使用可能なフラグメントがすべて表示されます。ただし、各デザイナが1つ以上のサイトにフラグメントを導入することで、ツールボックスのフラグメントの合計数は、すぐに管理が困難なほどに増加する可能性があります。

ツールボックスに表示されるフラグメントを制御するために、フラグメントのスクリプト言語、フラグメントがサイトに属しているかどうか、およびフラグメントがデザイナにより導入されたものか、Site Studio に付属しているものかに基づいてフラグメントをフィルタできます。

ツールボックスのフラグメントをフィルタするには、次の手順を実行します。

1. 「View」メニューで、「Customize」を選択します。
2. 「Miscellaneous」タブをクリックします。
3. 現在のサイトと同じ言語 (HCSP/JSP または ASP) で記述されているフラグメントのみを表示する場合、「Filter fragments in other languages」を選択します。
4. 現在のサイトに属している (他のサイトに属していない) フラグメントのみを表示する場合、「Filter libraries from other sites」を選択します。

サイトの一部として識別されないフラグメント・ライブラリのフラグメントは、ツールボックスに表示されなくなります。フラグメントをサイトの一部にするには、「Fragment Libraries」カテゴリにそのフラグメントをサイト・アセットとして追加します。

5. 自分で作成したフラグメントのみを表示する (Site Studio に付属するデフォルトのフラグメントを表示しない) 場合、「Filter default libraries」を選択します。
6. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログを閉じます。

サーバーで使用可能なフラグメントをすべて表示する可能性があるのは、それらのフラグメントの1つをコピーしてサイトの一部にする場合です。

## 9.6 テンプレートへのフラグメントの追加

「DESIGN」または「SOURCE」ビューでの作業時に、ツールボックスを使用してテンプレートにフラグメントを直接追加できます。

フラグメントを追加するには、次の手順を実行します。

1. テンプレートでフラグメントを表示する場所にカーソルを置きます。  
リスト・フラグメントを追加する場合、状況によっては最初にコントリビューション・リージョンを作成し、そのリージョン内にフラグメントを配置する必要があります。
2. ツールボックスで、フラグメント・カテゴリの「**Navigation Fragments**」、「**Dynamic List Fragments**」、「**Static List Fragments**」または「**Other Fragments**」をクリックします。
3. 適切なフラグメントをクリックします（各フラグメントの詳細は、付録C「**サンプル・フラグメント**」を参照してください）。
4. フラグメントにパラメータが含まれる場合、「**Fragment Parameters**」ダイアログで追加情報を指定するよう求められます（A-106 ページの「**Fragment Parameters**」ダイアログを参照）。
5. 付属のフィールドに適切な値を入力し、「**OK**」をクリックしてフラグメントを追加します。  
フラグメントが、テンプレートで最後にカーソルを置いていた場所に表示されます。

テンプレート上のフラグメントの場所を示すため、多くのサンプル・フラグメントでは、視覚的な目印となる短いテキストまたはグラフィックが挿入されます。この小さなマーカーをデザイン・ビュー・コードと呼びます。多くのフラグメントに含まれる動的コンテンツやサーバー側スクリプトは、Web サイト上で Web ブラウザを使用して表示しなければ適切に表示されないため、このようなデザイン・ビュー・コードが使用されます。

プレースホルダは、Web サイトでフラグメントがどのように表示されるかを正確に表すものではありません。プレースホルダは、必要に応じてフラグメント・エディタで変更できます（9-16 ページの「**フラグメント・スニペットの追加、編集および削除**」の手順 5 を参照）。

## 9.7 フラグメントのプレビュー

フラグメントのプレビューは、フラグメントをテンプレートの一部にする前に、その外観と動作を確認するのに役立ちます。フラグメントをプレビューするには、ツールボックスの右クリック・メニューの「**Preview**」オプションを使用するか、フラグメント・エディタの「**Preview**」ボタンを使用します（9-12 ページの「**フラグメント・エディタの使用**」を参照）。

この項の内容は次のとおりです。

- 9-5 ページの「**フラグメントのプレビュー**」
- 9-6 ページの「**フラグメントの異なるパラメータの選択**」
- 9-6 ページの「**フラグメント追加時の異なるパラメータの選択**」
- 9-7 ページの「**フラグメントのパラメータの変更**」

### 9.7.1 フラグメントのプレビュー

フラグメントをプレビューするには、次の手順を実行します。

1. ツールボックスで、フラグメント・カテゴリの「**Navigation Fragments**」、「**Dynamic List Fragments**」、「**Static List Fragments**」または「**Other Fragments**」をクリックします。
2. 適切なフラグメントを右クリックし、「**Preview**」を選択します。
3. フラグメントにパラメータが含まれる場合、「**Fragment Parameters**」ダイアログが表示されます（A-106 ページの「**Fragment Parameters**」ダイアログを参照）。  
付属のフィールドに適切な値を入力し、「**OK**」をクリックします。
4. 「**Fragment Preview**」ダイアログが表示されます（A-107 ページの「**Fragment Preview**」ダイアログを参照）。このダイアログで、フラグメントの外観を確認できます。

5. サイト階層ペインでセクションをクリックすると、Web サイトの異なるセクションでフラグメントがどのように表示されるかを確認できます。

サイト階層のセクションがサイト・ナビゲーションに含まれていない場合、プライマリ・ページがセクションに関連付けられていない場合、またはセクションが外部 URL を参照している場合、そのセクションを選択してこのダイアログでプレビューできません。

6. 異なるパラメータ値を選択してフラグメントの外観を確認するには、「**Change Parameter Values**」をクリックして付属のフィールドに適切な値を入力してから、「**OK**」をクリックして「**Fragment Preview**」ダイアログに戻ります。

7. フラグメントのプレビューが終了したら、「**Finished**」をクリックします。

ツールボックスのすべてのサンプル・フラグメントとそのパラメータの詳細は、[付録 C 「サンプル・フラグメント」](#)を参照してください。

静的リスト・フラグメントは、適切に表示するにはコンテンツを含んだコントリビュータ・データ・ファイルが必要なため、「**Fragment Preview**」ダイアログではプレビューできません。

### 9.7.2 フラグメントの異なるパラメータの選択

フラグメントの表示方法をカスタマイズするには、フラグメントをプレビューするかページ・テンプレート、サブテンプレートまたはリージョン・テンプレートに追加する際に、「**Fragment Parameters**」ダイアログでそのパラメータを変更します。これらの値は、フラグメントを追加した後でも変更できます。

### 9.7.3 フラグメント追加時の異なるパラメータの選択

フラグメントの追加時に異なるパラメータを選択するには、次の手順を実行します。

1. テンプレートでフラグメントを表示する場所にカーソルを置きます。
2. ツールボックスで、フラグメント・カテゴリの「**Navigation Fragments**」、「**Dynamic List Fragments**」、「**Static List Fragments**」または「**Other Fragments**」をクリックします。次に、適切なフラグメントをクリックします。
3. 「**Fragment Parameters**」ダイアログで (A-106 ページの「[「Fragment Parameters」ダイアログ](#)」を参照)、付属のフィールドに適切な値を入力し、「**OK**」をクリックします。

または

コントリビューション・リージョンにリスト・フラグメントを追加する場合、「**Element**」ダイアログに適切な値を入力し、「**Parameters**」をクリックしてそのパラメータを変更します。

「**OK**」を 2 回クリックして「**Fragment Parameters**」ダイアログと「**Element**」ダイアログを閉じます。

## 9.7.4 フラグメントのパラメータの変更

テンプレートにフラグメントを追加した後でも、そのパラメータを修正して Web ページ上の外観を変更できます。

フラグメントのパラメータを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「DESIGN」ビューで、フラグメントをダブルクリックします。

または

「SOURCE」ビューで、フラグメントを右クリックし、「**Edit Fragment Instance**」を選択します。

2. 「Fragment Parameters」ダイアログで適切なパラメータ値を変更します（A-106 ページの「[Fragment Parameters](#)」ダイアログを参照）。
3. 「OK」をクリックします。

フラグメントに「simple」というタイプでインクルードされたスニペットが含まれる場合、ページ・テンプレートに追加されているフラグメントのパラメータ値を変更できません（9-16 ページの「[フラグメント・スニペットの追加、編集および削除](#)」を参照）。

サンプル・フラグメントに含まれる各パラメータの詳細は、[付録 C 「サンプル・フラグメント」](#)を参照してください（ただし、パラメータを含まないフラグメントもあります）。

フラグメントにパラメータを追加するか、フラグメントを詳細にカスタマイズする場合、フラグメント・エディタでフラグメントを編集できます（9-8 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照）。

---

**注意：**「Fragment Parameters」ダイアログで選択したオプションは、フラグメントを追加したテンプレート上の 1 つのインスタンスにのみ適用されます。テンプレートにフラグメントを追加するたびに、サイト上の別の場所で使用されている同じフラグメントの外観に影響を与えることなく、異なる値を選択できます。

---

## 9.8 フラグメントの編集

Web サイトのフラグメントの外観を変更する方法は2つあります。パラメータを変更する方法 (9-6 ページの「[フラグメントの異なるパラメータの選択](#)」を参照) とフラグメントを変更する方法です。

フラグメントを編集すれば、その外観や機能をニーズに合わせて完全に変更できます。また、フラグメントを実際にテンプレートに追加する際に、後から編集上の選択ができるように、独自のパラメータを作成することも可能です。

フラグメントを編集するには、次の2つの方法があります。

- 9-8 ページの「[フラグメントのコピーの編集](#)」
- 9-9 ページの「[フラグメントの編集](#)」

### 9.8.1 フラグメントのコピーの編集

元のフラグメントを変更せずにフラグメントを編集する場合、フラグメントのコピーを編集すると便利です。フラグメントが含まれるフラグメント・ライブラリが、別のユーザーによりチェックアウトされている場合や、読取り専用として設定されている場合も (9-27 ページの「[読取り専用フラグメント・ライブラリの設定](#)」を参照)、フラグメントのコピーを編集する必要があります。

---

---

**注意：** Site Studio に付属するフラグメントは読取り専用のため、フラグメントを編集する場合はこのオプションを選択する必要があります。

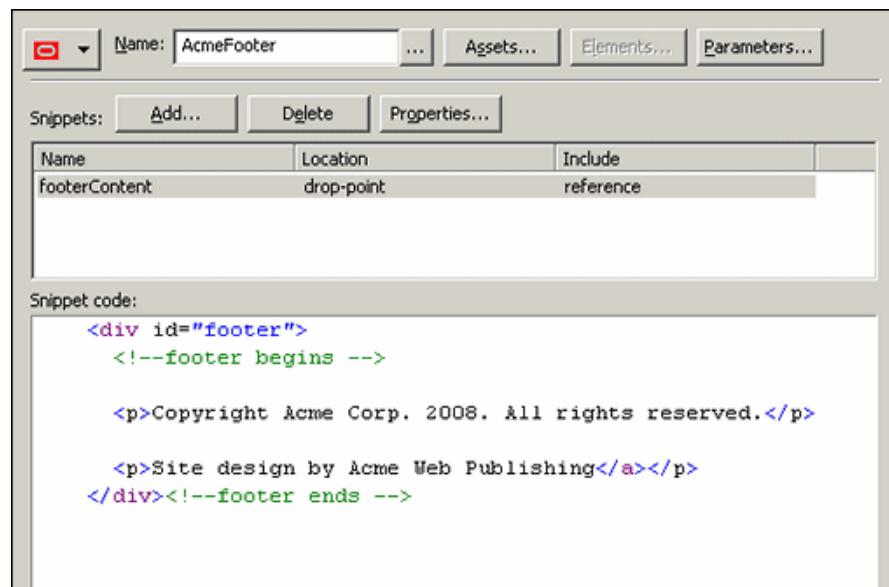
---

---

フラグメントのコピーを編集するには、次の手順を実行します。

1. ツールボックスで、フラグメント・カテゴリの「**Navigation Fragments**」、**Dynamic List Fragments**」、**Static List Fragments**」または「**Other Fragments**」をクリックします。
2. 適切なフラグメントを右クリックし、「**Copy and Edit**」を選択します。
3. フラグメント・プロパティ・ダイアログが表示されます (A-97 ページの「[フラグメント・プロパティ・ダイアログ](#)」を参照)。このダイアログで、フラグメントの個々のプロパティを指定できます。
4. 「**OK**」をクリックしてフラグメント・プロパティのダイアログを閉じます。
5. フラグメントがフラグメント・エディタに表示されます。このエディタでフラグメントを変更できます (9-12 ページの「[フラグメント・エディタの使用](#)」を参照)。

図 9-2 フラグメントが表示されたフラグメント・エディタ



6. 変更作業が終了したら、ツールバーの「Save」アイコン（図 9-3）をクリックするか、「File」→「Save」をクリックし、9-26 ページの「フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存」に記載された手順に従います。

図 9-3 「Save」アイコン



フラグメントが他のフラグメントとともにツールボックスに表示されます。この新規フラグメントは、コンテンツ・サーバーのすべてのサイトで使用できます。

## 9.8.2 フラグメントの編集

自分または他のデザイナーがツールボックスにフラグメントを追加した時点から、そのフラグメントの編集をすぐに開始できます。

---

**注意：** Site Studio に付属するフラグメントは、読取り専用であるため、直接編集することはできません。

---

フラグメントを編集するには、次の手順を実行します。

1. ツールボックスで、フラグメント・カテゴリの「Navigation Fragments」、「Dynamic List Fragments」、「Static List Fragments」または「Other Fragments」をクリックします。
2. 適切なフラグメントを右クリックし、「Edit」を選択します。
3. フラグメントがフラグメント・エディタに表示されます。このエディタでフラグメントを変更できます（9-12 ページの「フラグメント・エディタの使用」を参照）。
4. 作業が終了したら、ツールバーの「Save」アイコン（図 9-4）をクリックするか、「File」をクリックして、「Save」を選択します。

図 9-4 「Save」アイコン



5. コンテンツ・サーバーの情報割当てフォームで、ライブラリの適切なメタデータを入力し、「Assign Info」をクリックします。

---

**注意：**フラグメント・エディタでフラグメントを編集する場合、（フラグメントが格納されている）フラグメント・ライブラリは、コンテンツ・サーバーからチェックアウトされ、フラグメント・エディタが閉じられると再度チェックインされます。（フラグメントが保存される場合も、毎回チェックアウトとチェックインが行われます。）これにより、各デザイナーは、共有違反を起こすことや、お互いの作業を上書きすることがなくなります（組織内に複数のデザイナーがいる場合）。

---

状況によっては、ツールボックスに最新のフラグメント・リスト（コンテンツ・サーバーから読み取られます）を表示するため、デザイナーの「Refresh」アイコン（[図 9-5](#)）をクリックする必要があります。

#### 図 9-5 「Refresh」アイコン



Site Studio の作業では、フラグメントのコピーを作成して、元のフラグメントのかわりにそのコピーを編集することをお勧めします。これには、次のようにいくつかの理由があります。

- 編集中のフラグメントになんらかの問題が発生しても、必要に応じて元のフラグメントに迅速かつ簡単に戻ることができます。
- 既存のフラグメントに含まれるすべてのコードを再作成することなく、独自のフラグメントの作成を迅速に開始できます（既存のページ・テンプレートに基づいてページ・テンプレートを作成する場合と同様です）。
- 他のデザイナーの作業が上書きされることで、Web サイトで予期しない結果が発生する危険性が低下します。デザイナーで作成および編集されるフラグメントは、コンテンツ・サーバーの 1 つの場所に格納されることから、このような事態が発生します。これらのフラグメントは、同じコンテンツ・サーバーに接続しているデザイナーのすべてのインスタンスに表示されるため、結果として複数のデザイナーが異なる Web サイトで同じフラグメントを使用できます。



## 9.9 新規フラグメントの作成

フラグメントを編集するか、既存のフラグメントからフラグメントを作成する以外に (9-8 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照)、最初からフラグメントを作成してそのフラグメントに独自のコンテンツを追加できます。この方法は、機能を導入する場合や、別の Web サイトに含まれる既存のコンテンツ (Site Studio で作成されていないコンテンツ) を使用する場合に適しています。

フラグメントを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「File」メニューで、「Fragment」→「New」を選択します。
2. 「New Fragment」ダイアログで、フラグメントのプロパティ値を入力します (A-97 ページの「[フラグメント・プロパティ・ダイアログ](#)」を参照)。
3. 「OK」をクリックしてフラグメント・プロパティのダイアログを閉じると、フラグメント・エディタが表示されます。
4. フラグメント・エディタで、適切なスニペット、アセット、パラメータおよび要素 (静的リストの場合) をフラグメントに追加します。9-12 ページの「[フラグメント・エディタの使用](#)」を参照してください。
5. 変更作業が終了したら、ツールバーの「Save」アイコン (図 9-6) をクリックするか、「File」→「Save」をクリックし、9-26 ページの「[フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存](#)」に記載された手順に従います。

図 9-6 「Save」アイコン



フラグメントが他のフラグメントとともにツールボックスに表示されます。この新規フラグメントは、コンテンツ・サーバーのすべてのサイトで使用できます。

## 9.10 フラグメントの削除

テンプレートからフラグメントを削除する方法は、表、グラフィックおよびその他のオブジェクトを削除する方法と同じです。

フラグメントを削除するには、次の手順を実行します。

1. フラグメントを選択して、キーボードで [Del] キーを押します。

または

「SOURCE」ビューで、フラグメント・コードを右クリックし、「Delete Fragment Instance」を選択します。

2. 「Yes」をクリックして削除を確認します。

フラグメント・インスタンスは削除されます。フラグメント自体は、ツールボックスに残るため、他のテンプレートで引き続き使用できます。

## 9.11 ツールボックスのフラグメントの削除

ツールボックスのフラグメントを削除できます（この場合、そのフラグメントはコンテンツ・サーバーからも削除されます）。

---

**注意：** Site Studio のフラグメントは、Content Server に格納されており、サーバーのすべての Web サイトで使用できます。ある Web サイトのフラグメントを削除すると、その同じフラグメントを使用している他の Web サイトも影響を受けます。そのため、フラグメントを削除する前に、そのフラグメントが別の場所で使用されていないことを確認する必要があります。

---

ツールボックスのフラグメントを削除するには、次の手順を実行します。

1. ツールボックスで、適切なフラグメントを右クリックします。
2. 「Delete」を選択します。
3. 「Yes」をクリックして削除を確認します。

フラグメントがツールボックスに表示されなくなります。

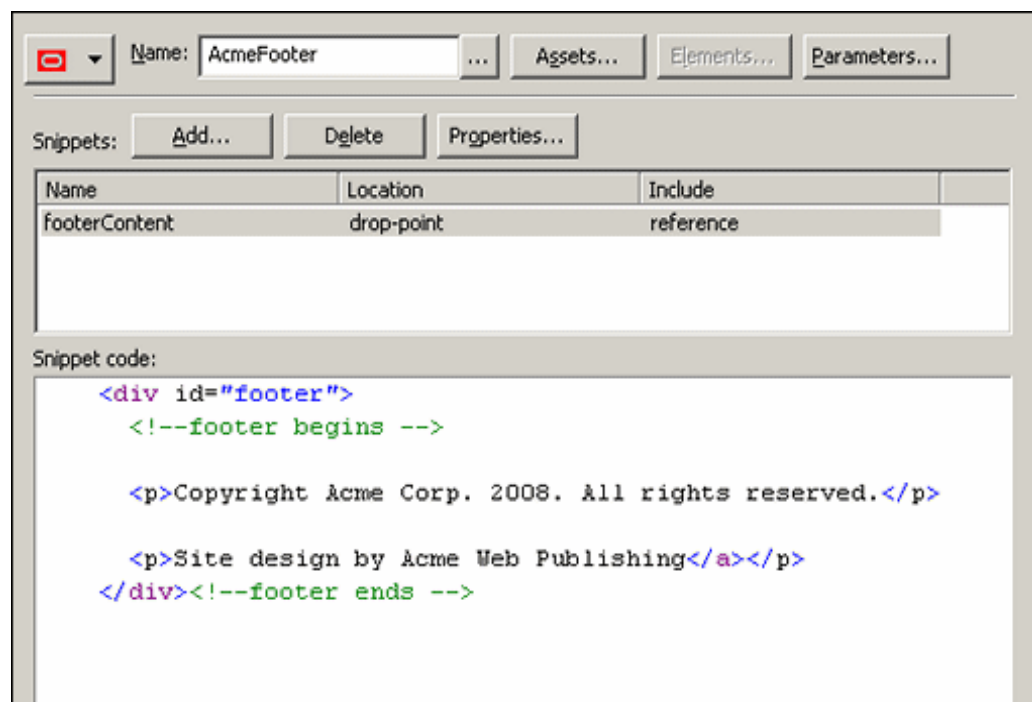
## 9.12 フラグメント・エディタの使用

フラグメントは、コード（HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプト）、そのコードに参照されるファイル（グラフィック、CSS、追加スクリプトなど）、およびテンプレートに対するそのコードの追加方法を制御するパラメータのコンテナです。

この情報を含むファイルは、XML で記述され、フラグメント・アセットとともにコンテンツ・サーバーに格納されます。XML ファイルとフラグメント・アセットは、まとめてフラグメント・ライブラリと呼ばれます。

フラグメントと、そのフラグメントに参照されるファイルは、フラグメント・エディタで表示および編集できます。

図 9-7 フラグメント・エディタのフラグメント



フラグメント・エディタを使用して、既存のフラグメントを変更することや、独自のフラグメントを作成することができます。任意のコードや機能をフラグメントに変換できます。フラグメントは、テンプレートに追加しますが、テンプレートとは別に管理できます。

フラグメント・エディタで実行できるタスクは、次のとおりです。

- 9-13 ページの「[フラグメント・エディタの起動](#)」
- 9-14 ページの「[フラグメント・プロパティの指定](#)」
- 9-15 ページの「[フラグメントに関連付けられたアイコンの変更](#)」
- 9-16 ページの「[フラグメント・スニペットの追加、編集および削除](#)」
- 9-18 ページの「[フラグメント・アセットの追加、編集および削除](#)」
- 9-20 ページの「[フラグメント・パラメータの追加、編集および削除](#)」
- 9-23 ページの「[フラグメント要素の追加、編集および削除](#)」

フラグメント・エディタの「Preview」ボタンをクリックすると、ツールボックスの右クリック・メニューの「Preview」オプションを使用したときと同じアクションが実行されます (9-5 ページの「[フラグメントのプレビュー](#)」を参照)。

### 9.12.1 フラグメント・エディタの起動

フラグメント・エディタは、フラグメントの表示と編集に使用しているデザイナー・アプリケーション内で起動できます。フラグメント・エディタは、テンプレートと同じように作業領域に表示されます。実際、デザイナー・ツールバーのいくつかのオプション (切取り、コピー、貼付け、保存、ウィンドウ制御など) は、フラグメントにも適用されます。

フラグメント・エディタは、次の2つの方法で起動できます。

- ツールボックスの既存のフラグメントを右クリックし、「Edit」または「Copy and Edit」を選択します (9-8 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照)。  
または
- 「File」メニューで、「Fragments」→「New」を選択します (9-11 ページの「[新規フラグメントの作成](#)」を参照)。

## 9.12.2 フラグメント・プロパティの指定

デザイナーでフラグメントを作成するたびに、フラグメントの個々のプロパティを確認または作成するように求められます。**追加情報**アイコン (図 9-8) をクリックして、フラグメント・エディタ内で既存のプロパティを表示および変更することもできます。

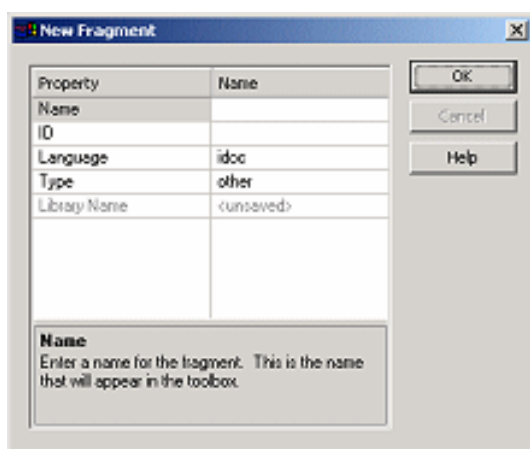
図 9-8 「Additional Information」 アイコン



フラグメントのプロパティを指定するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・プロパティ・ダイアログを開きます (A-97 ページの「フラグメント・プロパティ・ダイアログ」を参照)。

図 9-9 フラグメント・プロパティ・ダイアログ



2. 「Name」フィールドにフラグメントの名前を入力します。この名前は、ツールボックスに表示されます。
3. 「ID」フィールドに識別子を入力します。これにより、フラグメントとその多くの構成要素 (スニペット、フラグメント・アセット、パラメータなど) が識別されます。ID は、XML 属性として、およびフラグメントのクラス、ファイル、ディレクトリのベース名としても機能します。ID をフラグメントに割り当てたら、その ID は変更できません。

---

**注意：** ID は、空白や非 ASCII 文字を含まない、簡潔な文字列にする必要があります。

---

4. 「Language」フィールドで、フラグメントの言語を選択します。この言語は、サーバー側スクリプトで使用されるもので、Web サイト・タイプと関連している必要があります。
  - hcsp/jsp サイトの場合、「idoc」または「jsp」を選択します。
  - asp サイトの場合、「asp」を選択します。

5. 「Type」フィールドで、フラグメント・タイプを選択します。タイプにより、ツールボックスでフラグメントが表示される場所（9-3 ページの「[ツールボックスのフラグメント](#)」を参照）と、フラグメント・エディタで使用できる特定の編集オプションが決定されます。次の4つのタイプから選択します。
- **navigation:** ナビゲーション・フラグメントは、Web サイトにサイト・ナビゲーション（ナビゲーション・バー、ブレッドクラム、検索ボックスなど）を提供します。
  - **dynamiclist:** 動的リスト・フラグメントは、コントリビュータが編集できるデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのリストを表示することで、拡張コントリビューション機能を提供します。
  - **staticlist:** 静的リスト・フラグメントは、コントリビュータが情報の行および列を追加、編集および削除できる、要素の構造化されたレイアウトを表示することで、拡張コントリビューション機能を提供します。
  - **other:** フラグメントのこのカテゴリは、前述したもの以外のすべてのフラグメント、つまり、その他のフラグメント用として設計されています（コピーライト、埋込み Flash プレゼンテーション、動的変換ドキュメントなど）。
6. 「OK」をクリックしてプロパティ・ダイアログを閉じ、フラグメント・エディタに戻ります。

プロパティ・ダイアログの「Library Name」は、フラグメントが格納されるフラグメント・ライブラリを示しています。フラグメントを最初に保存するときに、この場所を選択します（9-26 ページの「[フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存](#)」を参照）。

---

**注意：** フラグメント ID、アセット・ファイル名およびフォルダ名には、ASCII 文字のみを使用する必要があります。アセット用として自動的に作成される ZIP ファイル内のフォルダの名前は、フラグメント ID から導出されますが、ZIP 形式では拡張文字がサポートされないためです。この制限は、アセットに使用されるすべてのフォルダの名前と、アセット・ファイル自体の名前にも適用されます。

---

### 9.12.3 フラグメントに関連付けられたアイコンの変更

ツールボックスの各フラグメントには、他のフラグメントとの区別に使用できるアイコンが関連付けられています。このアイコンは、フラグメントの用途をより反映した別のアイコンに変更できます。

フラグメントに関連付けられたアイコンを変更するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、左上の変更アイコン（[図 9-10](#)）をクリックします。（このアイコンは、選択したフラグメントごとに変化します。ここに表示されているアイコンが、新規フラグメントに表示されるアイコンになります。）

#### 図 9-10 変更アイコン



2. メニューにある適切なアイコンをクリックします。

アイコンは、フラグメント・エディタではこのボタン内に表示され、フラグメントを保存するとツールボックスに表示されます。

## 9.12.4 フラグメント・スニペットの追加、編集および削除

スニペットは、フラグメントによりテンプレートに追加される実際のテキストまたはコードです。フラグメントには、テンプレートの挿入ポイント（ページのヘッド、ボディ、ドロップポイントなど）により定義されたスニペットを1つ以上含める必要があります。

たとえば、フラグメントでページの1つの場所にテキストを追加する場合、そのフラグメントには1つのスニペットのみを作成します。ただし、フラグメントでページの複数の場所にテキストまたはコードを挿入する場合（たとえば、ヘッドとボディにスクリプトを配置する必要がある場合）、フラグメントにはヘッド用とボディ用の2つのスニペットを作成する必要があります。

フラグメント・エディタを使用して、フラグメント・スニペットを追加、編集および削除できます。

スニペットを追加または編集するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Add」をクリックしてスニペットを作成するか、既存のスニペットを選択して「Properties」をクリックします。

これにより、スニペット・プロパティ・ダイアログが表示されます（A-104 ページの「スニペット・プロパティ・ダイアログ」を参照）。

2. 「Name」フィールドにスニペットの名前を入力します。（名前には、必要に応じて空白と特殊文字を含めることができます。）
3. 「Location」で、次の使用可能なオプションを選択します。
  - **drop-point:** テンプレートのカーソルが置かれている場所にスニペットを挿入します。
  - **head:** ページ・テンプレートのヘッド（具体的には<HEAD> タグの最後）にスニペットを挿入します。
  - **top-of-body:** ページ・テンプレートのボディの最初（<BODY> タグの直後）にスニペットを挿入します。
  - **bottom-of-body:** ページ・テンプレートのボディの最後（</BODY> タグの直前）にスニペットを挿入します。
4. 「Include」で、次の使用可能なオプションを選択します。
  - **simple:** スニペットのコンテンツ全体をテンプレートに追加します。パラメータが存在する場合、その値はテンプレートに直接追加され、ページの永続的な構成要素となります。その結果、フラグメントはフラグメントとみなされなくなるため、そのパラメータは変更できません（9-6 ページの「フラグメントの異なるパラメータの選択」を参照）。
  - **inline:** スニペットのコンテンツ全体をテンプレートに追加します。ただし、インライン・スニペットでは、フラグメントとそのパラメータが引き続きフラグメントとして認識されます。フラグメントの移動および削除と、そのパラメータの変更が可能です。
  - **reference:** スニペットへの参照をテンプレートに追加します。参照スニペットでは、フラグメントが引き続きフラグメントとして認識および管理されるだけでなく、フラグメント・エディタでフラグメントを編集すると、その変更がテンプレートに即座に反映されます（複数の場所でフラグメントを使用している場合は、複数のテンプレートに反映されます）。この動作は、他の Web サイトにおけるインクルード・ファイル（HTML、CSS、スクリプトなど）の動作に似ています。
5. 「Design View Code」に、テンプレートの「DESIGN」ビューでフラグメントのプレースホルダとして表示するテキストを入力します（この機能は、ページ・テンプレートの（ヘッドではなく）ドロップポイントまたはボディに挿入されるスニペット用です）。


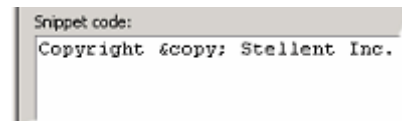
テキスト・エディタを開くには「Additional Information」アイコン（ 図 9-11）をクリックします。テキストを入力し、「OK」をクリックしてテキスト・エディタを閉じます。

図 9-11 「Additional Information」アイコン



6. 「OK」をクリックしてスニペット・プロパティを閉じ、フラグメント・エディタに戻ります。
7. スニペットを選択し、「Snippet code」テキスト・ボックスでスニペットのコンテンツを追加および編集します。

図 9-12 「Snippet Code」テキスト・ボックス



このフラグメントで追加または編集するすべてのスニペットに対して前述の手順を繰り返します。必要な数だけスニペットを追加できます。

スニペットを削除するには、そのスニペットを選択して「Delete」をクリックします。

フラグメント・スニペットは、HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプト、JavaServer Pages (JSP) および Active Server Pages (ASP) で記述できます。ただし、ASP と JSP では、フラグメント・アセットにコードを配置し (9-18 ページの「[フラグメント・アセットの追加、編集および削除](#)」を参照)、そのコードをインライン・フラグメント・スニペットから参照する必要があります。

インライン・ヘッド・スニペットで BODY という語を使用しないでください。この名前は、Site Studio がページ・テンプレートのヘッド部分とボディ部分を管理するために使用しているコードと競合するためです。この語をスニペットで使用する必要がある場合、(a) スニペットのインクルード方法をインラインから参照に変更するか、(b) フラグメント・アセットにコードを配置し (9-18 ページの「[フラグメント・アセットの追加、編集および削除](#)」を参照)、それをフラグメントに所定の方法でインクルードするか、(c) BODY という語を 2 つの部分 (2 つの連結文字列) に分割するようにコードを変更します。

コンテンツ・サーバーの複数の Web サイトで参照スニペットを含む同じフラグメントを使用している場合、フラグメントに加えた変更は、そのフラグメントが使用されているすべての Web サイトに即座に反映されます。この動作に問題がある場合、サイトごとに異なるフラグメントを作成する必要があります (9-8 ページの「[フラグメントのコピーの編集](#)」を参照)。

---

**注意：** ASP フラグメントで使用できるスニペットのインクルード方法は、「simple」または「inline」のみです。「reference」によるインクルードは、ASP コードのインクルード処理方法が原因で使用できません。

---



## 9.12.5 フラグメント・アセットの追加、編集および削除

アセットは、フラグメント内（特にフラグメントのスニペット内）から参照されるファイルです。グラフィック、Cascading Style Sheet (CSS) およびスタンドアロン JavaScript ファイルは、すべて一般的に使用されるアセットです（ASP または JSP の実装については、後続の最初の「注意」を参照してください）。フラグメントにアセットを追加すると、アセットはそのフラグメントの一部となり、コンテンツ・サーバーのフラグメント・ライブラリで管理されます。フラグメントを移動またはコピーする場合、そのアセットもすべて含まれます。

フラグメント・エディタの「Fragment Assets」ダイアログで、フラグメント・アセットを追加、編集および削除できます。

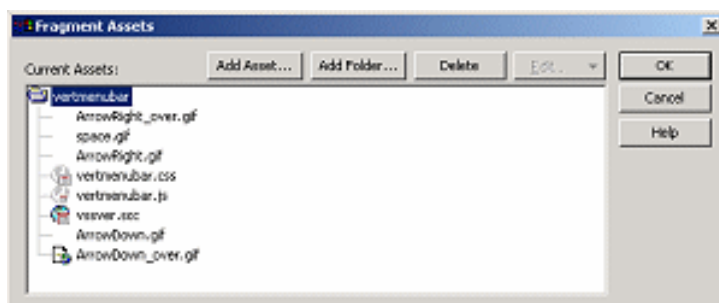
- 9-18 ページの「アセットの追加」
- 9-19 ページの「アセットの編集」
- 9-19 ページの「アセットの削除」

### 9.12.5.1 アセットの追加

アセットを追加するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Assets」をクリックします。  
これにより、「Fragment Assets」ダイアログが表示されます（A-98 ページの「[Fragment Assets](#)」ダイアログ・ボックスを参照）。

図 9-13 「Fragment Assets」ダイアログ・ボックス



2. アセットのサブフォルダを作成するには（オプション）、「Add Folder」をクリックしてフォルダ名を入力し、キーボードの [Enter] を押します。  
デフォルトでは、Site Studio によりフラグメントの ID に基づいてアセット・フォルダが作成されます（9-14 ページの「[フラグメント・プロパティの指定](#)」を参照）。すべてのプラットフォーム（特に UNIX）でフラグメントが確実に動作するように、フォルダ名にはすべて小文字が使用されます。サブフォルダを作成する場合も、すべて小文字を使用する必要があります。また、ASCII 文字のみを使用する必要があります（後続の説明を参照）。
3. アセットを追加するフォルダを選択し、「Add Asset」をクリックします（アセットのデフォルトの場所は、ルート（最上位フォルダ）です）。
4. ファイル・システムのファイルを検索し、Windows のダイアログで「開く」をクリックします。
5. 「OK」をクリックして「Fragment Assets」ダイアログを閉じ、フラグメント・エディタに戻ります。

フラグメントを保存すると、アセットはフラグメントとともにパッケージされ、コンテンツ・サーバーのフラグメント・ライブラリに格納されます。これで、フラグメントの各スニペットからアセットを参照できます。



### 9.12.5.2 アセットの編集

アセットを編集するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Assets」をクリックします。
2. 「Fragment Assets」ダイアログで、アセットを選択し、「Edit」をクリックして2つの編集オプションを表示します。

図 9-14 「Fragment Assets」ダイアログ・ボックスの編集オプション



- 「Edit」をクリックすると、そのファイル・タイプに関連付けられたデフォルト・アプリケーションでアセットが開かれます（たとえば、Cascading Style Sheet (CSS) はメモ帳などで開かれます）。
  - 「Edit with」をクリックすると、「Edit With」ダイアログが表示され、異なるアプリケーションを使用してファイルを編集できます。
3. アセットを変更したら、アセットの編集に使用したアプリケーションを閉じます。
  4. 「OK」をクリックして「Fragment Assets」ダイアログを閉じ、フラグメント・エディタに戻ります。

### 9.12.5.3 アセットの削除

アセットを削除するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Assets」をクリックします。
2. 「Fragment Assets」ダイアログで、アセットを選択し、「Delete」をクリックします。
3. 「OK」をクリックして「Fragment Assets」ダイアログを閉じ、フラグメント・エディタに戻ります。

フラグメント ID、アセット・ファイル名およびフォルダ名には、ASCII 文字のみを使用する必要があります。アセット用として自動的に作成される ZIP ファイル内のフォルダの名前は、フラグメント ID から導出されますが、ZIP 形式では拡張文字がサポートされないためです。この制限は、アセットに使用されるすべてのフォルダの名前と、アセット・ファイル自体の名前にも適用されます。

フラグメントにすでに含まれている Cascading Style Sheet (CSS) アセットを編集するかわりに、フラグメント・スニペットの CSS 宣言を変更して、独自の CSS を参照できます。

Cascading Style Sheet (CSS) や JavaScript ファイルなどのテキストベースのアセットには、フラグメント ID で使用しているものと同じ名前を使用することをお勧めします (9-14 ページの「フラグメント・プロパティの指定」を参照)。たとえば、フラグメント ID が myfragment の場合、myfragment.css や myfragment.js などの名前を使用します。これにより、フラグメントに関連付けられたファイルの識別が簡単になるだけでなく、「Copy and Edit」機能を使用してこのフラグメントに基づいてフラグメントを作成すると、すべてのアセットとアセット内のコードが、フラグメント名を反映するように更新されます。そのため、アセットは、フラグメントでもシームレスに動作します。

---

**注意：** JSP または ASP でフラグメントを記述する場合、フラグメント・アセットにコードを配置し、そのコードをインライン・フラグメント・スニペットから参照する必要があります。

---

## 9.12.6 フラグメント・パラメータの追加、編集および削除

パラメータは、テンプレートに追加されるフラグメントの外観と動作を制御する属性のセットです。フラグメントにパラメータが含まれる場合、フラグメントをテンプレートに追加する前に、「Fragment Parameters」ダイアログに情報を入力するよう求められます。パラメータは、テキスト、色、サイズ、コンテンツ・サーバーでの問合せなどを追加するために使用できます。テンプレートにフラグメントを追加するたびに、パラメータの値を変更できます。

パラメータは、フラグメント作成時には省略できますが、フラグメントのカスタマイズと再利用を可能にする場合には非常に便利です。フラグメントの機能の大部分は、フラグメントのソースに追加するか、フラグメントの実際の使用時に変更できるパラメータとして追加できます。

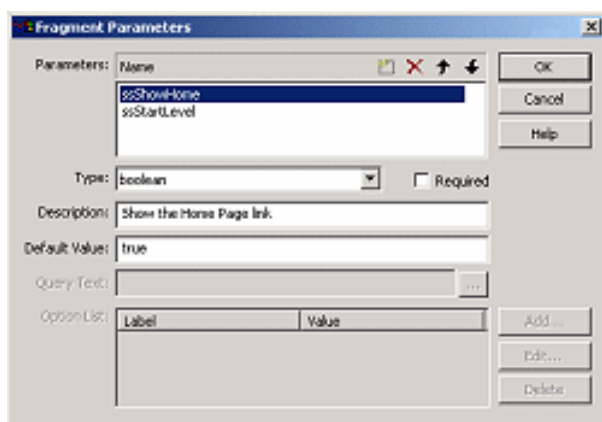
パラメータを使用すると、同じテンプレートの同じフラグメントで、インスタンスごとに異なるパラメータを使用してフラグメントの複数のレンディションを保持できます。さらに、パラメータは、Web サイト用のコードを記述し、そのコードをパッケージされた機能（カスタマイズ可能なフラグメント）としてサイト・デザイナーに配布する予定の開発者にとっても役立ちます（これは、デザイナーに複数のユーザーが存在する場合の使用例です）。

### 9.12.6.1 フラグメントのパラメータの編集

フラグメントのパラメータを編集するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Parameters」をクリックします。
2. 「Fragment Parameters」ダイアログで（A-97 ページの「[フラグメント・プロパティ・ダイアログ](#)」を参照）、「Name」リストからパラメータを選択します。

図 9-15 「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスでのパラメータの選択



3. 「Type」、「Description」、「Default Value」、「Query Text」および「Option List」で適切な変更を行います（「Query Text」および「Option List」は、すべてのパラメータ・タイプに適用されるわけではありません）。A-97 ページの「[フラグメント・プロパティ・ダイアログ](#)」を参照してください。
4. 「Parameter Up」アイコン（[図 9-16](#)）または「Parameter Down」アイコン（[図 9-17](#)）をクリックして、リスト内のパラメータを上または下に移動します（この順序は、「Fragment Parameters」ダイアログでのパラメータの位置にも影響します）。

図 9-16 「Parameter Up」アイコン



図 9-17 「Parameter Down」アイコン



5. 「OK」をクリックして「Fragment Parameters」ダイアログを閉じます。

サンプル・フラグメントのパラメータの詳細は、付録C「サンプル・フラグメント」を参照してください。

### 9.12.6.2 フラグメントへの新規パラメータの追加

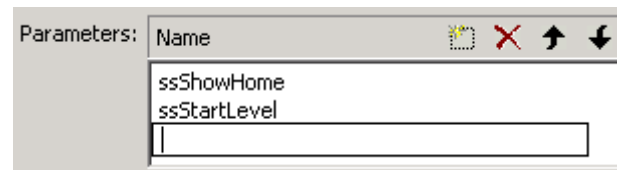
フラグメントにパラメータを追加するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Parameters」をクリックします。
2. 「Fragment Parameters」ダイアログで (A-97 ページの「フラグメント・プロパティ・ダイアログ」を参照)、「New Parameter」アイコン (図 9-18) をクリックし、指定されたテキスト・ボックスにパラメータの名前を入力します。

図 9-18 「New Parameter」アイコン



図 9-19 「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスでのパラメータ名の入力



3. 「Type」メニューからタイプを選択します (各タイプの詳細は、A-100 ページの「Fragment Parameters」ダイアログを参照してください)。
4. 「Description」フィールドに説明を入力します。  
説明は、フラグメントの使用時に、「Fragment Parameters」ダイアログの一番下に表示されます。
5. 「Default Value」に値を入力します。  
この値は、テンプレートへのフラグメントの追加時に、「Fragment Parameters」ダイアログでパラメータ値を選択しない場合に使用されます。
6. 「Query Text」および「Option List」に値を入力します (このオプションは、「text」、「manageddoc」および「managedurl」タイプのパラメータにのみ適用されます)。
7. 「Parameter Up」アイコン (図 9-20) または「Parameter Down」アイコン (図 9-21) をクリックして、リスト内のパラメータを上または下に移動します (この順序は、「Fragment Parameters」ダイアログでのパラメータの位置にも影響します)。

図 9-20 「Parameter Up」アイコン



図 9-21 「Parameter Down」アイコン



8. 「OK」をクリックして「Fragment Parameters」ダイアログを閉じます。

### 9.12.6.3 スニペットへのパラメータおよびパラメータ宣言の挿入

「Fragment Parameters」ダイアログで1つ以上のパラメータを作成したら、それらのパラメータをフラグメントの個々のスニペットに挿入できます（スニペットの詳細は、9-16 ページの「[フラグメント・スニペットの追加、編集および削除](#)」を参照してください）。

フラグメント・エディタには、パラメータとパラメータ宣言を直接スニペット・コードに挿入するための便利なオプションがあります。パラメータまたはパラメータ宣言を挿入するには、それらを追加するコードにカーソルを置き、右クリックして適切なアクションを選択します。

図 9-22 パラメータ宣言の挿入用メニュー

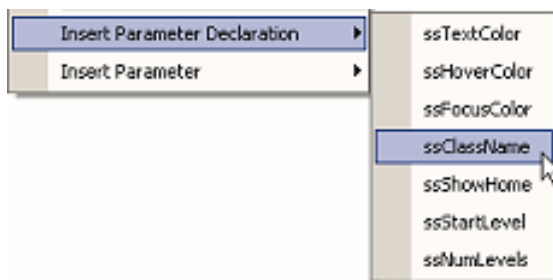
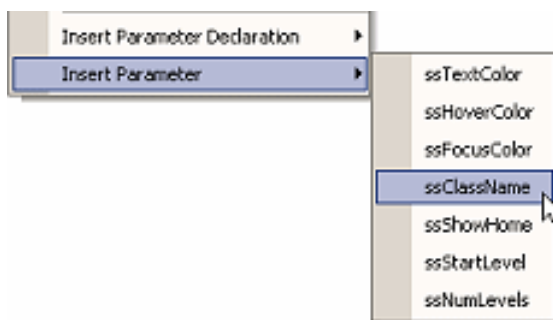


図 9-23 パラメータの挿入用メニュー



パラメータの作成方法と使用方法を習得するには、ツールボックスのサンプル・フラグメントを開き、そのパラメータがどのように使用されているかを確認することをお勧めします。これらのフラグメントとそのパラメータの詳細は、[付録 C「サンプル・フラグメント」](#)を参照してください。

## 9.12.7 フラグメント要素の追加、編集および削除

要素は、コントリビュータ・アプリケーションを使用して編集できるコントリビューション・リージョン内の領域です。これらの要素は、コントリビュータ・アプリケーションではフィールドとして表示され、そこでユーザー（コントリビュータ）はテキスト、グラフィックおよびその他のコンテンツを編集できます。

要素の最も一般的な使用方法では、最初にページ・テンプレートにコントリビューション・リージョンを作成し、次にそのリージョンに1つ以上の要素（WYSIWYG、プレーン・テキスト、イメージまたはカスタム）を追加します。各コントリビュータは、リージョンを含む Web ページを開き、各フィールドでテキストやグラフィックを追加および編集できます。

要素のより高度な使用方法では、要素をフラグメントに挿入して静的リストを作成します。静的リストにより、複数の要素が表形式のレイアウトにまとめられるため、各コントリビュータは要素の行および列を追加、編集、削除および再編成できます（C-25 ページの「静的リスト・フラグメント」を参照）。

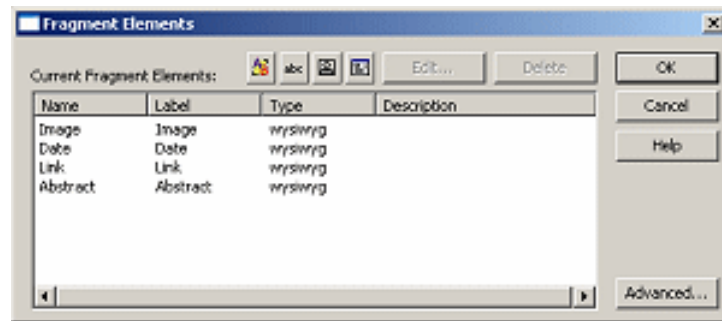
### 9.12.7.1 フラグメントへの要素の追加

フラグメントに要素を追加するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Elements」をクリックします。

これにより、「Fragment Elements」ダイアログが表示されます（A-99 ページの「[Fragment Elements] ダイアログ・ボックス」を参照）。

図 9-24 「Fragment Elements」ダイアログ・ボックス



2. フラグメントに追加する要素のタイプ（WYSIWYG、プレーン・テキスト、イメージまたはカスタム）をクリックします。

図 9-25 WYSIWYG 要素アイコン



図 9-26 プレーン・テキスト要素アイコン



図 9-27 イメージ要素アイコン



図 9-28 カスタム要素アイコン



3. 「Element」ダイアログで、コントリビューション・リージョンに要素を追加する場合と同じ手順を実行します。
4. 「OK」をクリックして「Element」ダイアログを閉じ、再度「OK」をクリックして「Fragment Elements」ダイアログを閉じます。

### 9.12.7.2 フラグメントの要素の編集

フラグメントの要素を編集するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Elements」をクリックします。
2. A-99 ページの「[「Fragment Elements」ダイアログ・ボックス](#)」で、適切な要素を選択して「Edit」をクリックします。
3. 「Element」ダイアログで、コントリビューション・リージョンの要素を編集する場合と同じ手順を実行します。
4. 「OK」をクリックして「Element」ダイアログを閉じ、再度「OK」をクリックして「Fragment Elements」ダイアログを閉じます。

### 9.12.7.3 フラグメントの要素の削除

フラグメントの要素を削除するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Elements」をクリックします。
2. 「Fragment Elements」ダイアログで (A-99 ページの「[「Fragment Elements」ダイアログ・ボックス](#)」を参照)、適切な要素を選択して「Delete」をクリックします。
3. 「OK」をクリックして「Fragment Elements」ダイアログを閉じます。

フラグメント・エディタの「Elements」ボタンは、フラグメントのタイプが「staticlist」である場合にのみ表示されます (9-14 ページの「[フラグメント・プロパティの指定](#)」を参照)。

「Fragment Elements」ダイアログには、「Advanced」ボタンが含まれます。このボタンをクリックすると、要素を詳細にカスタマイズできるテキスト・エディタが表示されます。ただし、この方法で要素の編集を開始したら、「Fragment Elements」ダイアログのグラフィカル・ユーザー・インタフェースに戻ることはできません (これらの編集作業にはインタフェース・サポートが存在しないためです)。

静的リスト・フラグメントは、コントリビュータ・アプリケーションでの使用を目的として設計されています。そのため、ページ・テンプレートに静的リストを追加する場合、静的リストをコントリビューション・リージョンに追加して、そのリージョンにデータ・ファイルを割り当てる必要があります。

## 9.13 フラグメント・ライブラリ

フラグメントは、コード（HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプトと、オプションで JSP または ASP）、そのコードに参照されるファイル（グラフィック、CSS、追加スクリプトなど）、およびテンプレートに対するそのコードの追加方法を制御するパラメータのコンテナです。

フラグメント・ライブラリは、1 つ以上のフラグメントのコンテナであり、Site Studio ではフラグメント・ライブラリを使用してフラグメントを格納および管理します。

フラグメント・ライブラリの操作方法は、次のとおりです。

- 9-25 ページの「[フラグメント・ライブラリについて](#)」
- 9-26 ページの「[フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存](#)」
- 9-27 ページの「[読取り専用フラグメント・ライブラリの設定](#)」
- 9-28 ページの「[フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード](#)」

### 9.13.1 フラグメント・ライブラリについて

フラグメントは、フラグメント・ライブラリに格納されます。フラグメント・ライブラリは、管理対象コンテンツ・アイテムとしてコンテンツ・サーバーに格納されます。

ライブラリは、2 つの部分（XML ファイルと ZIP ファイル）で構成されます。XML ファイルでは、ライブラリのすべてのフラグメントが記述され、ZIP ファイルには、ライブラリの各フラグメントに参照されるすべてのフラグメント・アセットが格納されます。

コンテンツ・サーバーでは、XML ファイルは代替ファイル（Web ロケーション）として機能し、ZIP ファイルはネイティブ・ファイルとして機能します。フラグメント・ライブラリの SS\_Fragments\_Examples（Site Studio に付属するライブラリ）を検索すると、コンテンツ情報ページに次のデータが表示されます。

メタデータ	割当て値
Content ID:	SS_Fragments_Examples
Title:	SS_Fragments_Examples
WebsiteObjectType:	Fragment
Web Location:	HTTP://<Site>/groups/public/documents/adacct/ss_fragments_examples.xml
Native File:	SS_Fragments_Examples.zip

Site Studio に付属するデフォルト・フラグメントは、次のフラグメント・ライブラリに格納されています。

- SS\_Fragments\_IDOC
- SS\_Fragments\_JSP
- SS\_Fragments\_ASP
- SS\_Fragments\_Examples
- SS\_Fragments\_Dynamic
- SS\_Fragments\_Plain
- SS\_Fragments\_CSP\_Examples

## 9.13.2 フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存

フラグメント・エディタで作成したフラグメントを保存する場合、フラグメントを格納するフラグメント・ライブラリを選択する必要があります。フラグメントは、それぞれ独自のライブラリに格納するか、他のいくつかのフラグメントとともに同じライブラリに格納できます。フラグメントを最初に保存する場合、フラグメント・ライブラリを選択するよう求められます。

フラグメント・ライブラリにフラグメントを保存するには、次の手順を実行します。

1. フラグメントの変更が終了したら (9-8 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照)、デザイナー・ツールバーの「Save」アイコン (図 9-29) をクリックするか、「File」→「Save」を選択します。

図 9-29 「Save」アイコン



「Save Fragment」ダイアログ (A-108 ページの「[Save Fragment](#) ダイアログ」を参照) が表示されます。

2. 「New」をクリックしてフラグメントのライブラリを作成します。  
または、すでにライブラリを作成している場合、リストからそのライブラリを選択して「OK」をクリックします。
3. 情報割当てフォームで、ライブラリの適切なメタデータ (コンテンツ ID、タイプ、タイトルなど) を入力し、「Assign Info」をクリックします。

ライブラリがコンテンツ・サーバーに作成され、次回「Save Fragment」ダイアログを開いたときに、「server:」というテキストの後に表示されます。

---

**注意:** 「Save Fragment」ダイアログは、フラグメントを最初に保存する場合にのみ表示されます。その後の保存作業では、情報割当てフォームに直接移動します。

---

フラグメントは個別に移動、バックアップまたは配布できないため、フラグメントを作成および管理する際には、関連するフラグメントを比較的少ない数ごとにまとめるか、状況によっては 1 つのフラグメントをそれ独自のライブラリに格納すると扱いが容易になります。これらは、フラグメント・ライブラリとして処理および管理されます (9-28 ページの「[フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード](#)」を参照)。

Site Studio に付属するデフォルト・フラグメントは、読取り専用フラグメント・ライブラリに格納されているため、「Save Fragment」ダイアログには表示されません (したがって、個々のフラグメントを編集することもできません)。

他のユーザーが誤ってフラグメントを上書きまたは消去しないように、独自のフラグメント・ライブラリを読取り専用を設定できます (9-27 ページの「[読取り専用フラグメント・ライブラリの設定](#)」を参照)。



### 9.13.3 読取り専用フラグメント・ライブラリの設定

同じ組織内の複数のデザイナーと共同で作業をしている場合など、フラグメント・ライブラリを読取り専用を設定すると非常に便利です。Site Studio に付属するサンプル・フラグメントは、誤って消去または上書きされないように、すべて読取り専用フラグメント・ライブラリに格納されています。

フラグメント・ライブラリを読取り専用を設定すると、次の効果が得られます。

- 他のユーザーは、フラグメント・ライブラリのフラグメントを上書きまたは削除できなくなります（コピーして編集することのみが許可されます）。
- フラグメント・ライブラリは、「Save Fragment」ダイアログに表示されなくなります。そのため、他のユーザーは、そのライブラリにフラグメントを追加できなくなります。

フラグメントを読取り専用に設定するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーにログインし、フラグメント・ライブラリを検索します。
2. フラグメント・ライブラリのコンテンツ情報ページを表示します。
3. (.xml ファイル拡張子付きの) Web ロケーション・ファイルを右クリックし、「Save Target As」を選択して自分のシステムに保存します。
4. コンテンツ・サーバーからフラグメント・ライブラリをチェックアウトし、(.zip 拡張子付きの) ネイティブ・ファイルをダウンロードします。
5. .xml ファイルをテキスト・エディタで開き、`readonly="true"` というテキストをルート要素の `<fragments>` タグに追加します。追加後のタグは次のようになります。

```
<fragments name="SS_Fragments" readonly="true">
```

6. ファイルを保存して閉じ、2つのファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインします。その際、.zip ファイルは**プライマリ・ファイル**として、.xml ファイルは**代替ファイル**として指定します。

状況によっては、読取り専用フラグメントを表示するために、デザイナーのツールボックスをリフレッシュする必要があります。

前述の手順のかわりに、デザイナーの「Download Fragment Library」機能を使用して、ダウンロードした ZIP から .xml ファイルを抽出し、その後 ZIP に再アーカイブしてから、デザイナーの「Upload Fragment Library」機能を使用してライブラリをコンテンツ・サーバーに戻すこともできます。(9-28 ページの「フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード」を参照してください。)

## 9.13.4 フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード

フラグメントまたはフラグメントのコレクションを作成および編集したら、フラグメントが格納されているフラグメント・ライブラリを、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーに移動できます。これは、他のデザイナーや開発者と共同作業をしており、全員でフラグメントを共有する場合に特に便利です。または、単に保管用としてフラグメント・ライブラリのバックアップを作成できます。

これを行うには、デザイナーの「Download Fragment Library」および「Upload Fragment Library」機能を使用します。

### 9.13.4.1 フラグメント・ライブラリのダウンロード

フラグメント・ライブラリをダウンロードすると、Site Studio によってそのライブラリ（現在コンテンツ・サーバーに存在するライブラリ）は単一の ZIP ファイルに格納され、使用中のシステムにダウンロードされます。その後、その ZIP ファイルを簡単に転送できます。

サーバーからフラグメント・ライブラリをダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. 「File」 → 「Fragments」 → 「Download Fragment Library」 を選択します。
2. 「Content Server」 ダイアログで、ダウンロードするフラグメント・ライブラリの横の「Select」 をクリックします。
3. Windows の「名前を付けて保存」ダイアログで、ファイル・システム上の場所を指定し、「保存」 をクリックします。

### 9.13.4.2 フラグメント・ライブラリのアップロード

（前述の手順に従ってダウンロードした後に）フラグメント・ライブラリをアップロードすると、Site Studio によって ZIP ファイルがコンテンツ・サーバーにチェックインされ、Web サイトで使用できる適切なディレクトリ（\weblayout\fragments\）にその内容が抽出されます。

サーバーにフラグメントをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. 「File」 → 「Fragments」 → 「Upload Fragment Library」 を選択します。
2. Windows の「ファイルを開く」ダイアログで、ファイル・システム上のフラグメント・ライブラリ（ZIP ファイル）を検索し、「開く」 をクリックします。
3. 情報割当てフォームで、フラグメント・ライブラリのコンテンツ ID、タイプおよびタイトルを入力します。

---

**注意：** WebsiteObjectType メタデータは変更しないでください。Web サイトで認識されるためには、このメタデータは Fragment に設定されている必要があります。

---

4. 「Assign Info」 をクリックして「Content Server」ダイアログを閉じ、デザイナーに戻ります。

デザイナーの「Upload Fragment Library」機能を使用するかわりに、フラグメント・ライブラリを直接コンテンツ・サーバーにチェックインし、「Site Studio Administration」ページを使用して必要な場所にフラグメント・ライブラリをデプロイすることもできます。フラグメント・ライブラリのデプロイの詳細は、『Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド』を参照してください。

---

## ネイティブ・ドキュメントの操作

この項の内容は次のとおりです。

- 10-2 ページの「[ネイティブ・ドキュメントについて](#)」
- 10-2 ページの「[ネイティブ・ドキュメントの要件](#)」
- 10-3 ページの「[ネイティブ・ドキュメントでの変換定義の使用方法](#)」
- 10-4 ページの「[Dynamic Converter テンプレートの選択ルール](#)」
- 10-5 ページの「[ネイティブ・ドキュメントのサンプル・フラグメント](#)」

## 10.1 ネイティブ・ドキュメントについて

Site Studio では、コントリビューション・リージョンにコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当て、各コントリビュータは、Web サイト上でコントリビュータ・データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントを追加および編集できます。

コントリビュータ・データ・ファイルは Site Studio で生成されます。これは、コントリビュータ・アプリケーションで編集するように設計された XML ファイルです。Web 対応形式の XML ファイルであり、Web ページに簡単に挿入できます（インクルード・ファイルを別の Web ページに挿入する方法と似ています）。

一方で、ネイティブ・ドキュメントはサード・パーティ製アプリケーション（Microsoft Word、Excel、PowerPoint など）で生成され、通常はデザイナーやコントリビュータによって導入されます。このドキュメントは元の状態では Web ページで表示できないため、サーバーがページをブラウザに配信するときに（Dynamic Converter を使用して）Web ページに変換します。

コントリビュータ・データ・ファイルとは異なり、ネイティブ・ドキュメントの編集にはコントリビュータは必要ありません。変換後のドキュメントは、ページが表示されるとプレースホルダ内に表示され、コントリビュータがデータを編集するときには該当するアプリケーション（Microsoft Word など）がロードされます。

## 10.2 ネイティブ・ドキュメントの要件

ネイティブ・ドキュメントは、コントリビュータ・データ・ファイルをコントリビューション・リージョンに割り当てる方法と同様にリージョンに割り当てることができます。ネイティブ・ドキュメントは、サイトにコントリビュータ・データ・ファイルを追加する方法（ファイルへのリンクの作成、動的リストへのファイルの追加、およびメタデータが動的リストまたはサイトに対して実行される問合せに一致するようにファイルをチェックインするなど）と同様に、サイトに追加されます。

ただし、ネイティブ・ドキュメントの場合は、コントリビュータ・データ・ファイルとは異なり、ドキュメントが意図したとおりに Web サイトに表示されるように、サーバーで追加の設定手順を行う必要があります。次の手順を行います。

- ネイティブ・ドキュメントを Dynamic Converter で Web ページに変換できるように、Dynamic Converter をインストールしてコンテンツ・サーバー上で実行する必要があります。
- コントリビュータが、コントリビューション・グラフィックのメニューを使用して Web サイトから直接ネイティブ・ドキュメントをチェックアウトして編集できるように、Check Out and Open をインストールしてコンテンツ・サーバー上で実行する必要があります。
- ネイティブ・ドキュメントは、Dynamic Converter でサポートされるファイル形式である必要があります。
- デフォルトでは、空の Dynamic Converter テンプレート（最小限の設定が行われているテンプレート）を使用して、ドキュメントの見た目が元の状態に近くなるようにドキュメントを変換します。Web ページがサイトと一致するようにその外観をさらにカスタマイズするには、ドキュメントの変換に使用するテンプレートを微調整する必要があります（10-3 ページの「ネイティブ・ドキュメントでの変換定義の使用法」を参照）。
- デザイナーまたはコントリビュータは、関連するサード・パーティ製アプリケーション（ファイルの編集に使用する）をコンピュータ上にインストールしておく必要があります。
- デザイナーまたはコントリビュータが Site Studio の外部メソッド（Content Server チェックイン・フォーム、WebDAV クライアント、Web フォルダなど）を使用してサイトにネイティブ・ドキュメントを追加する場合は、サイトおよび必要に応じてサイトのセクションで使用される同じメタデータとともに該当ファイルをチェックインする必要があります。

## 10.3 ネイティブ・ドキュメントでの変換定義の使用法

コントリビューション・リージョンにネイティブ・ドキュメントを割り当てる場合（またはサイトへのネイティブ・ドキュメントの追加をコントリビュータに許可する場合）、変換定義はネイティブ・ドキュメントを変換して Web サイトにインライン表示するために使用されます。変換定義は、ネイティブ・ドキュメントを HTML に変換する方法とページに表示する方法を定義するルール、テンプレートまたはその組み合わせです。

変換定義を定義すると、ネイティブ・ドキュメントを、他のアセットを追加するときと同じように簡単に Web ページに追加できます。

リージョン・テンプレートに変換定義を追加するには、次の手順を実行します。

1. リージョン・テンプレートで右クリックします。コンテキスト・メニューが表示されます。
2. 「Insert Object」 → 「Dynamic Conversion」を選択します。  
「Dynamic Conversion」ダイアログ（A-123 ページの「[「Dynamic Conversion」ダイアログ](#)」を参照）が表示されます。
3. メニューから変換定義を選択するか、新規変換定義の名前を入力します。
4. 「OK」をクリックします。
5. 変換定義がリージョン・テンプレートに配置されます。これで、「Assign Region Content」ダイアログ（A-91 ページの「[「Assign Region Content」ダイアログ](#)」を参照）を使用してネイティブ・ドキュメントを割り当てるか、コントリビュータがネイティブ・ドキュメントを追加できます。

変換定義は、「SOURCE」ビューで直接記述することもできます。

ネイティブ・ドキュメントを使用する場合、（要素内で正確に制御できる）コントリビュータ・データ・ファイルのように、最終的な Web ページで書式設定を制御することはできません。

そのため、サイトに固有の変換テンプレートを設計し、変換テンプレートのスタイルにマップできるスタイルをネイティブ・ドキュメントで使用するようコントリビュータに促すには、かなりの時間を費やす必要があります。

変換定義の作成および関連付けられたルールとテンプレートの変更など、変換定義の詳細は、7-63 ページの「[変換定義](#)」を参照してください。

## 10.4 Dynamic Converter テンプレートの選択ルール

サイトでネイティブ・ドキュメントを使用する場合、Web サイト上のドキュメントのリンク・アンド・フィールドを制御する変換定義を指定する必要があります。変換定義内の変換テンプレートまたは（変換テンプレートの使用を制御する）ルールは、「Native Document Conversion Settings」ダイアログ（A-50 ページの「[Native Document Conversion Settings](#) ダイアログ」を参照）で指定できます。

使用可能なテンプレートとルールがこのダイアログに表示されますが、これらのテンプレートとルールは Dynamic Converter の「Template Selection Rules」ページで事前に設定しておく必要があります。「Template Selection Rules」ページにアクセスするには、コンテンツ・サーバーに Dynamic Converter コンポーネントがインストールされている必要があります。サーバーのメイン・メニューから、「Administration」→「Dynamic Converter Admin」→「Template Selection Rules」を選択します。

図 10-1 「Dynamic Converter Template Selection Rules」ページ

**Template Selection Rules**

**Template Selection Rules (In order of evaluation)**

Move Up  
Move Down  
Delete Rule

New rule name:  
Add New Rule

**Criteria for selected rule**

Field = Value And  
Field = Value

**Template and layout for selected rule**

Template Available Templates Template Types  
Edit Template GUI Template

Layout Available Layouts

**File Extension**  
File extension of the dynamic converted page.

**Forced Conversion**  
Indicates that this rule is to be used for forced conversions. This rule will always be applied to content items as long as the content items match the rule criteria. The conversion results can be retrieved using the `incDynamicConversionByRule` Idoc Script function or the `GET_DYNAMIC_CONVERSION` service with the `conversionRule` parameter specified.

**Exclude From User Request**  
Use this option to prevent the rule to be used when a user clicks on the HTML Rendition link or menu item. Rules designed for fragments and used by the `incDynamicConversionByRule` Idoc Script function should be excluded from Dynamic Converter's rule evaluation during a user request.

Update Quick Help

「Template Selection Rules」ページでは、ルール、GUI テンプレート、レイアウトなどを作成および編集できます。詳細は、『Dynamic Converter System Administration Guide』を参照してください。

## 10.5 ネイティブ・ドキュメントのサンプル・フラグメント

ツールボックスの「Other Fragments」の下には、デザイナーが使用可能な、ネイティブ・ドキュメント用に特殊設計された複数のフラグメントがあります。各フラグメントを使用すると、ページ・テンプレート（プレースホルダの外部）にネイティブ・ドキュメントを直接追加し、Dynamic Converter の変換テンプレートとレイアウトを使用して動的変換を実行できます。

- **Dynamic Conversion:** 変換されたドキュメントをページ・テンプレートに追加します。この中には、ドキュメント、変換テンプレートおよび変換レイアウトを指定できる3つのパラメータがあります。
- **Dynamic Conversion IFrame:** 最初のフラグメントと似ていますが、変換されたドキュメントを IFrame で追加する点が異なります（このため、Web ページを下にスクロールしないでドキュメント全体をスクロールできます）。この中には、ドキュメント、変換テンプレートおよび IFrame の属性を指定できる複数のパラメータがあります。
- **Random Conversion:** コンテンツ・サーバーで指定された問合せに基づいて、ネイティブ・ドキュメントのランダムな動的変換を実行します。この中には、問合せ、問合せの制限および変換テンプレートを指定できる4つのパラメータがあります。

これらのフラグメントの詳細は、C-26 ページの「[その他のフラグメント](#)」を参照してください。





---

## カスタム・フォームとスクリプトの操作

この項の内容は次のとおりです。

- 11-2 ページの「[カスタム・フォームとスクリプトについて](#)」
- 11-2 ページの「[カスタム要素フォーム](#)」
- 11-11 ページの「[カスタム構成スクリプト](#)」
- 11-12 ページの「[デフォルトの検証オプション](#)」

## 11.1 カスタム・フォームとスクリプトについて

コントリビュータが要素（または要素を含むフラグメント）ですぐに使用可能な動作よりもさらに多くの操作を行うことができるようにするには、要素に適用するカスタム・フォームまたはスクリプトを使用できます。

たとえば、WYSIWYG 要素でサポートされないオブジェクトの追加をコントリビュータに許可する場合や、コンテンツの要件や制限をコントリビュータに対して実施する場合にデザイナーが使用するメカニズムとして、カスタム・フォームやスクリプトを使用します。

Site Studio は、すぐに使用できる複数のサンプル・フォームとスクリプトをコンテンツ・サーバーに備えています（前述のトピックを参照）。これらのファイルの編成、編集および管理に役立つように、サイトに各フォームやスクリプトをサイト・アセットとして追加できます。

## 11.2 カスタム要素フォーム

カスタム要素は、ユーザー定義の要素です。他の要素（WYSIWYG、テキスト専用、イメージ専用、静的リスト、動的リスト）に加え、カスタム要素により、個々のビジネス・ニーズにあわせて Site Studio を拡張する方法が提供されます。カスタム要素は、適した要素が他にないときに作成します。

カスタム要素は、コントリビュータ・フォームの IFRAME 内に存在する完全な HTML ファイルです。カスタム要素が Site Studio 要素として正しく機能するためには、カスタム要素で API を使用して複数のコールバックを実装する必要があります。

---

---

**重要：** Site Studio サイトを 10gR3 (10.1.3.3.3) より前のバージョンからアップグレードする場合は、サイト内のすべてのカスタム要素を手動で更新する必要があります。11-10 ページの「[下位互換性とアップグレード](#)」を参照してください。

---

---

カスタム要素フォームは、カスタム要素を操作するために設計されたもので、他の要素と同様にコントリビューション・リージョンに追加します。このフォームの一意性は、コントリビュータが Web サイトに各種コンテンツを追加する際に使用するカスタム・インタフェースを作成できる点にあります。

たとえば、特定のファイル・タイプについてコンテンツ・サーバーに問合せを実行するカスタム・フォームを作成したり、その中のいずれかのファイルをユーザーが選択できるようにしたり、ユーザーをコントリビュータに戻したりできます。あるいは、コントリビュータがソース・コードや書式設定されたテキストをコピーして Web ページに貼り付けるためのテキスト・ボックスを表示するフォームを作成できます。

このフォームはユーザーから任意の情報を収集するブラウザベースの汎用フォームで、ホスト（この場合はコントリビュータ）に値を返します。

この項の内容は次のとおりです。

- 11-3 ページの「[カスタム要素の実装](#)」
- 11-10 ページの「[下位互換性とアップグレード](#)」
- 11-10 ページの「[サンプル・カスタム要素](#)」

## 11.2.1 カスタム要素の実装

カスタム要素がコントリビュータ・フォームで正しく機能するためには、カスタム要素で API を使用していくつかのコールバックを実装する必要があります。次の項では、カスタム要素を作成する観点から、ElementAPI とそのメソッドを中心に説明します。

---

**注意：** カスタム要素のパス（URL）は、コントリビュータ・フォームと同じドメインである必要があります。これにより、コントリビュータ・フォームとカスタム要素が、クロスドメイン・スクリプト・ルールに違反することなく通信できるようにします。

---

### ElementAPI

ElementAPI オブジェクトは、コントリビュータ・フォームとカスタム要素間の通信を支援するカスタム要素ページに明示的にロードされる JavaScript オブジェクトです。ElementAPI により、カスタム要素がコントリビュータ・フォームと通信するためのメソッドと、コントリビュータ・フォームがカスタム要素に通知を送信するためのコールバック・メカニズムが提供されます。

### ElementAPI JavaScript オブジェクトのロード

ElementAPI とそのサポート・ライブラリを使用する前に、ElementAPI をカスタム要素ページにロードする必要があります。ElementAPI のロード後、カスタム要素は、ページの初期化を継続し、カスタム要素がロードされて使用可能になったことをコントリビュータ・フォームに通知します。

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Strict//EN"
    "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-strict.dtd">

<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml">
  <head>
    <title>Simple Custom Element</title>

    <style type="text/css">
      * { padding: 0; margin: 0; }
      body { font-size: 10pt; font-family: Tahoma; }
      #container { height: 150px; overflow: auto; width: 100%; text-align: center; align:
center;}
      #content { width: 99%; }
    </style>

    <script type="text/javascript">
      var Custom = {};

      Custom.originalData = null;

      Custom.Initialize = function()
      {
        // Set callback methods for the Contributor Form to send notifications to this
Element.
        ElementAPI.SetCallback('GetElementContent', function(callback)
        {
          callback(Custom.GetData());
        });
        ElementAPI.SetCallback('ActivateElement', function(callback){
$ID('content').focus(); callback(); });
        ElementAPI.SetCallback('CanCloseElement', function(callback){ callback({canClose:
true}); });
        ElementAPI.SetCallback('Show', function(callback){ callback(); });
        ElementAPI.SetCallback('Hide', function(callback){ callback(); });
        ElementAPI.SetCallback('IsDirty', function()
        {
          return { isDirty: (Custom.originalData !== Custom.GetData()) };
        }
      }
    </script>
  </head>
  <body>
    <div id="container">
      <div id="content">
        <input type="text" value="Enter text here" />
      </div>
    </div>
  </body>
</html>
```

```

});

// Set the height of the Custom Element form's host.
var height = ( ElementAPI.GetElementCount() == 1 ) ? '100%' : '150px';
var flags = ElementAPI.GetElementConfigProperty('flags') || {};
var config = ElementAPI.GetElementConfiguration() || {};
if( flags.canSetHeight && config.height && ( config.height.length > 0 ) )
{
    height = config.height;
}
height = ElementAPI.SetHostHeight(height);

// Get the default content stored within the data file.
$ID('content').value = Custom.GetDefaultData();

// Add base styles
WCM.DHTML.AddStyleSheet({path: WCM.path + './base/wcm.base.css', context: window});

// Add a resize handler for when the window is resized.
var ResizeHandler = function()
{
    WCM.DHTML.SetStyle('container', 'height', WCM.DHTML.GetViewportHeight() + 'px');
    WCM.DHTML.SetStyle('container', 'width', WCM.DHTML.GetViewportWidth() + 'px');
};
ResizeHandler();

WCM.DHTML.AddWindowResizeEvent(window, ResizeHandler);

// Immediately store the original data as a baseline for the IsDirty comparison.
Custom.originalData = Custom.GetData();

// Let the Contributor Form know this Custom Element is ready. (required)
ElementAPI.Ready();
};

Custom.GetDefaultData = function()
{
    return ElementAPI.GetDefaultData()
        .replace(/<pre>/g, '')
        .replace(/<¥/pre>/g, '')
        .replace(/&lt;/g, "<"
        .replace(/&gt;/g, ">") || 'Some default content.';
};

Custom.GetData = function()
{
    return '<pre>' + $ID('content').value.replace(/</g, "&lt;").replace(/>/g, "&gt;") +
'</pre>';
};

try {
    // Tell the Contributor Form to load the Custom Element dependent JavaScript
    libraries. (required)
    // PARAMETERS
    // 1st parameter: The context (window) in which the form loads the Custom Element
    dependent JavaScript libraries into.
    // 2nd parameter: A user defined function pointer for the Contributor Form to call
    when initialization is complete.
    window.top.WCM.InitializeCustomElement(window, Custom.Initialize);
    catch(e) { }
}
</script>

</head>

```

```

<body>
  <div id="container">
    <div id="title">Simple Custom Element</div>
    <div><textarea id="content" rows="5"></textarea></div>
  </div>
</body>
</html>

```

---

**注意：**コード例では、ElementAPI をロードし、コントリビュータ・フォームに対して ElementAPI がロードされて使用可能になったことを通知します。ただし、データの収集または保存は行いません。

---

### コントリビュータ・フォームからカスタム要素への通信

コントリビュータ・フォームは、カスタム要素により実装された関数を実行することで、カスタム要素と通信します。初期化プロセスの一部として、カスタム要素では、コントリビュータ・フォームにこれらの関数のポインタを渡して各関数を登録する必要があります。

次の表に、コントリビュータ・フォームに登録できる関数を示します。これらの関数は、いずれもカスタム要素により実装する必要はありませんが、コントリビュータ・ユーザーからデータを収集して保存する場合は、いくつかの関数が必要になります。また、(IsDirty() 関数以外の) すべての関数は、実行されると、タスク完了時の実行のためにコールバック関数のポインタを渡します。これにより、実行時にカスタム要素で非同期タスクを実行する必要がある場合に、非同期通信を実行できます。

関数シグネチャ	説明
CanCloseElement(callback);	コントリビュータ・フォームは、コントリビュータ・ユーザーが更新を実行したときにこのメソッドを実行します。関数の実装では、カスタム要素を安全に閉じることができるかどうかを評価する必要があります。たとえば、データが検証に合格しない場合、カスタム要素が閉じられないことを示す必要があります。
GetElementContent(callback);	コントリビュータ・フォームは、コントリビュータ・ユーザーが更新を実行したときにこのメソッドを実行します。関数の実装では、保存される文字列コンテンツを戻す必要があります。
Hide(callback);	<p>コントリビュータ・フォームは、カスタム要素の上に HTML 要素をオーバーレイ表示する DHTML タスクをフォームで実行するときに常にこのメソッドを実行します。たとえば、このメソッドは「Metadata」タブがアクティブ化され、コントリビュータ要素が隠蔽されたときに実行されます。</p> <p>このメソッドは、特に Ephox ベースの要素向けに導入されています (Java アプレットには常に top z-index が含まれるため)。他のすべての要素 (HTML ベースの要素) では、このメソッドを無視できます。</p>
Show(callback);	<p>コントリビュータ・フォームは、カスタム要素を再表示する (オーバーレイを削除する) DHTML タスクをフォームで実行するときに常にこのメソッドを実行します。</p> <p>このメソッドは、特に Ephox ベースの要素向けに導入されています (Java アプレットには常に top z-index が含まれるため)。他のすべての要素 (HTML ベースの要素) では、このメソッドを無視できます。</p>
IsDirty();	コントリビュータ・フォームは、更新なしにフォーム・ポップアップが閉じられるときに常にこのメソッドを実行します。カスタム要素は、未保存の変更があるかどうかを評価して、保存していない変更がある場合はコントリビュータ・ユーザーに通知します。

次に、カスタム要素がコントリビュータ・フォームに関数を登録する方法を表す JavaScript のコード・スニペットを示します。

```
function CanCloseElement (callback)
{
    // No data validation in this sample - just pass back a true value.
    callback({canClose: true});

    // Here is an example of passing a false value
    // callback({canClose: false, reason: 'Failed validation. Use only lowercase
    // letters.'});
}

function GetElementContent (callback)
{
    // Pass back some sample content for demo purposes.
    callback('This is my Custom Element Content.');
```

```
function Show(callback)
{
    // Just handle this notification by executing the callback.
    callback();
}
```

```
function Hide(callback)
{
    // Just handle this notification by executing the callback.
    callback();
}
```

```
function IsDirty()
{
    // This Custom Element is never dirty - so pass a false value.
    return {isDirty: false};
}
```

```
// Set callback methods for the Contributor Form to send notifications to this
// Element.
ElementAPI.SetCallback('CanCloseElement', CanCloseElement);
ElementAPI.SetCallback('GetElementContent', GetElementContent);
ElementAPI.SetCallback('Show', Show);
ElementAPI.SetCallback('Hide', Hide);
ElementAPI.SetCallback('IsDirty', IsDirty);
```

## カスタム要素からコントリビュータ・フォームへの通信

カスタム要素では、ElementAPI JavaScript オブジェクトを使用して、コントリビュータ・フォームとの通信を開始します。次に、使用可能な ElementAPI メソッドのリストを示します。

関数シグネチャ	説明
ElementAPI.GetDefaultData();	データ・ファイルに格納されたデフォルト・コンテンツを取得します。
ElementAPI.GetSearchResults(options);	Content Server の「Get Search Results」ページを表示します。
ElementAPI.GetQueryText(options);	「Get Query Text」ユーザー・インタフェースを表示します。
ElementAPI.CaptureQuery(options);	Content Server の「Capture Query」ページを表示します。
ElementAPI.GetHyperlink(options);	「Hyperlink Wizard」ユーザー・インタフェースを表示します。
ElementAPI.FocusForm(options);	親ウィンドウにフォーカスし、「Element」ウィンドウを隠蔽します。
ElementAPI.SetHostHeight(height);	要素を格納する IFRAME の高さを設定します。
ElementAPI.SetRequiredIndicator(isRequired);	「Contributor Form」ユーザー・インタフェースで「Required」グラフィック・インジケータを切り替えます。
ElementAPI.GetSite(options);	「Choose Website」選択ユーザー・インタフェースを表示します。
ElementAPI.GetSection(options);	「Choose Website Section」選択ユーザー・インタフェースを表示します。
ElementAPI.GetColor(options);	「Color」選択ユーザー・インタフェースを表示します。
ElementAPI.GetFont(options);	「Get Font」選択ユーザー・インタフェースを表示します。

## ElementAPI 依存スクリプト

ElementAPI がカスタム要素ページにロードされる際に、ElementAPI 依存スクリプトもロードされます。これらのスクリプトには、JavaScript WCM ライブラリのほとんどが含まれており、カスタム要素の作成者が使用することもできます。次のスクリプト・ファイルがカスタム要素にロードされます。

- wcm.js
- ./base/wcm.dhtml.js
- ./base/wcm.get.js
- ./base/wcm.http.js
- ./base/wcm.popup.js
- ./sitestudio/wcm.contentserver.popup.js
- ./form/elements/wcm.elementapi.js
- ./sitestudio/elements/wcm.sitestudio.elementapi.js
- ./sitestudio/wcm.idc.js
- ./form/elements/element/wcm.element.js
- ./form/elements/custom/wcm.custom.js





```
    }
    height = ElementAPI.SetHostHeight(height);

    $ID('input-value').value = ElementAPI.GetDefaultData();

    WCM.DHTML.AddStyleSheet({path: WCM.path + './base/wcm.base.css', context: window});

    var ResizeHandler = function()
    {
        var viewPortWidth = WCM.DHTML.GetViewportWidth();
        var viewPortHeight = WCM.DHTML.GetViewportHeight();
        WCM.DHTML.SetStyle('container', 'height', viewPortHeight + 'px');
        WCM.DHTML.SetStyle('container', 'width', viewPortWidth + 'px');
        WCM.DHTML.SetStyle('input-value', 'height', (viewPortHeight - 15) + 'px');
        WCM.DHTML.SetStyle('input-value', 'width', (viewPortWidth - (WCM.IS_IE ? 15 :
15) + 'px');
    };
    ResizeHandler();

    WCM.DHTML.AddWindowResizeEvent(window, ResizeHandler);
    Custom.originalData = Custom.GetData();
    ElementAPI.Ready();
};

Custom.GetData = function()
{
    return $ID('input-value').value;
};

try {
    window.top.WCM.InitializeCustomElement(window, Custom.Initialize);
} catch(e) { }
</script>

</head>
<body>
    <div id="container" nowrap>
        <textarea id="input-value" class="controls" type="text" title="URL"></textarea>
    </div>
</body>
</html>
```

## 11.2.2 下位互換性とアップグレード

Site Studio 10gR3 (10.1.3.3.3) より前の Site Studio リリースと互換性があるすべてのカスタム要素フォームは、Site Studio 10gR4 (10.1.4) 以降のリリースとは互換性がないため、手動でアップグレード (再作成) する必要があります。下位互換性が維持されていない主な理由は、以前の Site Studio が Internet Explorer の独自仕様の `window.external` 機能に依存しているためです。このため、コントリビュータ・アプリケーションでは ActiveX が使用されています。`window.external` 機能は、コード実行の時点でブロックされ、クロスブラウザ / プラットフォームの DHTML ソリューションでは簡単に複製できません。下位互換性をなくしたことによるメリットは、新規カスタム要素がより一層柔軟になり、(クロスブラウザ / プラットフォーム・ソリューションであることに加え) コントリビュータ・アプリケーション・アーキテクチャに緊密に統合されたことです。

### レガシー・カスタム要素フォームの検出

レガシー・カスタム要素フォーム (10gR3、10.1.3.3.3 より前) は、新しいコントリビュータ・アプリケーションにロードされると、(デフォルトで) 検出されます。その際、コントリビュータ・フォーム内の検出された場所にエラー・メッセージが表示されます。コントリビュータ・アプリケーションはこの検出を行うために、まずカスタム要素フォームをダウンロードし、ソース・コードを解析して、カスタム要素フォームが新しいコントリビュータ・アプリケーションと互換性があるかどうかを確認します。

レガシー・カスタム要素フォームを検出する機能とそのオーバーヘッドは、本番インストール環境では不要です。すべてのレガシー・カスタム要素フォームをアップグレードしたら、この機能は無効にする必要があります。レガシー・カスタム要素フォームの検出機能は無効化するには、次の行をコンテンツ・サーバーの `config.cfg` ファイルに追加して、サーバーを再起動してください。

```
SSValidateCustomElements=false
```

## 11.2.3 サンプル・カスタム要素

Site Studio 10gR4 には、11 のサンプル・カスタム・フォームまたは要素が付属しています。これらのサンプル・フォームは、コントリビュータ・フォームのフレームワーク内で動作するカスタム要素の実装例です。

これらのサンプルは、Site Studio コンポーネントのインストール時に、Custom Element Form という `xWebsiteObjectType` メタデータ値とともにコンテンツ・サーバーにチェックインされます。

### **ss\_boolean\_checkbox\_form.htm**

このサンプル・フォームは、チェック・ボックスを含む単純なカスタム要素の例です。

### **ss\_boolean\_radio\_form.htm**

このサンプル・フォームは、ラジオ・ボタンを含む単純なカスタム要素の例です。

### **ss\_docname\_form.htm**

このサンプル・フォームは、コンテンツ・サーバーの検索でコンテンツ ID を選択できるカスタム要素の例です。

### **ss\_option\_form.htm**

このサンプル・フォームは、オプション・リストを作成できるカスタム要素の例です。この例は、非常に単純なものです。より複雑な例では、コンテンツ・サーバーのメタデータなど、他の多くのソースからリストにデータを入力できます。

### **ss\_query\_form.htm**

このサンプル・フォームは、コンテンツ・サーバーの間合せを取得できるカスタム要素の例です。

**ss\_url\_form.htm**

このサンプル・フォームは、コンテンツ・サーバーの検索で weblayout URL を返すことができるカスタム要素の例です。

**ss\_textarea\_form.htm**

このサンプル・フォームは、最小限のコードを含む単純なカスタム要素の例です。この特定の例では、TEXTAREA HTML 要素を使用してテキスト専用のカスタム要素を実装しています。TEXTAREA HTML 要素は、テキスト専用エディタを提供する非常に簡易なメソッドです。

**ss\_integer\_form.htm**

このサンプル・フォームは、整数値を取得するためのカスタム要素の例です。このカスタム要素は他の場所で使用するパラメータを取得する場合に有用です。

**ss\_simple\_form.htm**

このサンプル・フォームは、最小限のコードを含む単純なカスタム要素の例です。この特定の例では、TEXTAREA HTML 要素を使用してテキスト専用のカスタム要素を実装しています。TEXTAREA HTML 要素は、テキスト専用エディタを提供する非常に簡易なメソッドです。

**ss\_flash\_form.htm**

このサンプル・フォームは、コントリビュータ・ユーザーがコンテンツ・サーバーから FLASH オブジェクトを選択できるカスタム要素の例です。

**ss\_sample\_form.htm**

このサンプル・フォームは、使用可能なすべての ElementAPI メソッドを使用するカスタム要素の例です。これらのメソッドの完全なリストは、11-3 ページの「[カスタム要素の実装](#)」に記載されています。

## 11.3 カスタム構成スクリプト

カスタム構成スクリプトは、特に、個々の要素に対応するコントリビュータの編集領域を変更するために使用される JavaScript ファイルです。構成スクリプトには、様々な要素を関連付けることができます。ただし、各要素では個別にスクリプトを呼び出す必要があります。

カスタマイズは、FCKeditor ベースおよび Ephox ベースの要素に影響します。これらの要素は、WYSIWYG、テキスト専用およびイメージ専用です。カスタム構成スクリプトを使用すると、コマンド、ツールバー・ボタンおよびコンテキスト・メニュー・アイテムを追加または置換できます。エディタのどの部分も、特定の要件を満たすためにカスタマイズできます。

Site Studio には、複数のサンプル・カスタム構成スクリプトが付属しています。これらのサンプルは、Site Studio コンポーネントをコンテンツ・サーバーにインストールするときに、Custom Configuration Script という xWebsiteObjectType メタデータ値とともにコンテンツ・サーバーにチェックインされます。

サンプルには次のスクリプトが含まれています。

### FCKeditor 互換のサンプル・スクリプト

- **ss\_fck\_simple\_command.js:** このサンプル・スクリプトは、単純な FCKeditor コマンドの例です。この例では、FCKeditor コマンド、ツールバー・ボタンおよびメニュー・アイテムを実装しています。
- **ss\_fck\_image\_command.js:** このサンプル・スクリプトは、既存の sslmage コマンドと Image コマンドを上書きする FCKeditor コマンドの例です。この例では、コマンドを再定義し、既存の「Image」ツールバー・ボタンとコンテキスト・メニュー・アイテムを再利用しています。
- **ss\_fck\_load\_multiple\_commands.js:** このサンプル・スクリプトは、複数のカスタム構成スクリプトをロードする方法を示しています。

- `ss_fck_template_command.js`: このサンプル・スクリプトは、ユーザーが定義済の HTML を挿入できるようにします。

#### Ephox 互換のサンプル・スクリプト

- `ss_ephox_sample_command.js`: このサンプル・スクリプトは、単純な Ephox コマンドの例です。この例では、「Ephox」ツールバー・ボタンを実装しています。
- `ss_ephox_template_command.js`: このサンプル・スクリプトは、ユーザーが定義済の HTML を挿入できるようにします。

「Site Assets」 ペインの「Custom Configuration Scripts」の詳細は、7-47 ページの「[カスタム構成スクリプト](#)」を参照してください。

## 11.4 デフォルトの検証オプション

要素の検証ダイアログのデフォルトの検証オプションは、操作する要素のタイプに応じて異なります（次を参照）。

要素タイプ	検証オプション
WYSIWYG	<p><b>min:</b> 最小量のテキスト（最小文字数）を規定します。</p> <p><b>max:</b> 最大量のテキスト（最大文字数）を規定します。</p> <p><b>Disallowed characters:</b> ここで指定する文字をコントリビュータが使用できないようにします。</p> <p><b>Allow line breaks &lt;br&gt;:</b> 選択した場合、コントリビュータは改行（ソフト・リターン）を作成できます。作成するには、通常キーボードで [Shift] + [Enter] を押します。</p> <p><b>Allow paragraphs &lt;p&gt;:</b> 選択した場合、コントリビュータは新しい段落（ハード・リターン）を作成できます。作成するには、通常キーボードで [Enter] を押します。</p> <p><b>Allow images &lt;img&gt;:</b> 選択した場合、コントリビュータはイメージを追加できます。</p>
プレーン・テキスト	<p><b>min:</b> 最小量のテキスト（最小文字数）を規定します。</p> <p><b>max:</b> 最大量のテキスト（最大文字数）を規定します。</p> <p><b>Disallowed characters:</b> ここで指定する文字をコントリビュータが使用できないようにします。</p> <p><b>Allow multiple lines:</b> 選択した場合、コントリビュータはテキストの新しい行を追加できます（キーボードで [Enter] を押します）。</p>
イメージ	<p><b>Width:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>min:</b> 最小幅（ピクセル単位）を規定します。</li> <li>■ <b>max:</b> 最大幅（ピクセル単位）を規定します。</li> </ul> <p><b>Height:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>min:</b> 最低の高さ（ピクセル単位）を規定します。</li> <li>■ <b>max:</b> 最大の高さ（ピクセル単位）を規定します。</li> </ul>
静的リスト	<p><b>Number Rows</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>min:</b> 最小行数を規定します。</li> <li>■ <b>max:</b> 最大行数を規定します。</li> </ul>

# 12

---

## マネージャの設定

この項の内容は次のとおりです。

- 12-2 ページの「[Site Studio マネージャについて](#)」
- 12-2 ページの「[マネージャの表示場所と表示時間の選択](#)」
- 12-2 ページの「[マネージャの表示時間](#)」
- 12-3 ページの「[サイトへのマネージャの追加](#)」
- 12-4 ページの「[マネージャ構成設定ファイルの作成](#)」
- 12-5 ページの「[マネージャ構成設定のカスタマイズ](#)」
- 12-6 ページの「[マネージャ構成設定ファイルの説明](#)」

## 12.1 Site Studio マネージャについて

Site Studio マネージャは Web ベースのアプリケーションで、サイト階層の変更や各セクションの変更に使えます。ユーザー（サイト・マネージャ）はこのアプリケーションを使用して、セクションの追加と削除、ページ・テンプレートの割当て、サイト・プロパティの変更などを行います。

マネージャは、サイトからアプリケーションを直接開いて変更を開始する点でコントリビュータと似ています。マネージャをサイトに追加する方法は、コントリビュータとは異なります。コントリビューション・リージョンはありません。デザインはツールボックスから、Site Studio マネージャのフラグメントを追加するのみです。マネージャの外観をカスタマイズするには、フラグメントを変更します。マネージャの機能をカスタマイズするには、マネージャの構成設定ファイルを編集します（12-5 ページの「[マネージャ構成設定のカスタマイズ](#)」を参照）。

---

**注意：** Site Studio マネージャの使用の詳細は、『Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド』を参照してください。

---

## 12.2 マネージャの表示場所と表示時間の選択

サイトでのマネージャの表示場所と表示時間の選択は、サイト・マネージャによるサイトの使用に影響を与えるため、重要な決定になります。コントリビュータとは異なり、コントリビューション・アイコンを使用してコンテンツとすぐに関連付けられるわけではありません。かわりに、マネージャを使用して、ページ全体またはサイト全体に影響を与える設定（ページ・テンプレートの割当てやセクション・プロパティの変更など）を変更します。

そのため、マネージャ用の論理的な場所を作成して、その表示に適切な時間を選択します（コントリビューション・モードでは常に有効または表示のみ）。

マネージャは次の 3 箇所に表示できます。

- **サイトのすべてのページ：**サイトのすべてのページにマネージャを追加して、すでに表示されているセクションやページをユーザーが変更できるようにします。
- **指定したセクション：**ユーザーがすべてのコンテンツを管理するために移動するサイトの指定のセクションにマネージャを追加できます。この操作により、ユーザーは中央の位置からサイトを管理できます。
- **「Site Studio Administration」 ページ：**マネージャにはコンテンツ・サーバーの「Manage Web Sites」ページから常にアクセスできます。マネージャに行うカスタマイズによって、このページが影響を受けることはありません。

セクションにマネージャを追加する場合、そのセクションをコントリビュータでのみ表示可能にします。また、マネージャ用のページ・テンプレートの設計に特に時間を費します。

## 12.3 マネージャの表示時間

マネージャは次の 2 つの状態を表示できます。

- **コントリビューション・モード：**一般のユーザーには表示されずに、コントリビューションのアクセス権を持つユーザーのみに表示されるように、コントリビューション・モードでのみマネージャを表示できます。
- **すべての時間：**一般のユーザーを含む全員に表示されるように、サイトにマネージャが常に表示されるようにします。

マネージャのデフォルト設定はすべての時間での表示です。

## 12.4 サイトへのマネージャの追加

サイトにマネージャを追加する場合、サイト階層の変更と複数のサイト管理タスクの実行をユーザー（サイト・マネージャ）に許可します。次の2つの方法でサイトにマネージャを追加できます。

- 12-3 ページの「[デフォルト設定によるマネージャの追加](#)」
- 12-3 ページの「[カスタム設定によるマネージャの追加](#)」

### 12.4.1 デフォルト設定によるマネージャの追加

サイトにマネージャを追加するには、ページ・テンプレートに Site Studio マネージャのフラグメントを追加します。追加する場合、ユーザーに対して最大限の設定を有効にしてマネージャを追加します。

デフォルト設定でマネージャを追加するには、次の作業を行います。

1. サイト階層からページ・テンプレートを開き、マネージャを表示するページ上の場所にカーソルを置きます。
2. ツールボックスの「**Other Fragments**」をクリックします。
3. 「**Site Studio Manager**」フラグメントをクリックします。

「Fragment Parameters」ダイアログが表示されます（A-106 ページの「[「Fragment Parameters」ダイアログ](#)」を参照）。

4. テーマの「**blue**」、「**red**」または「**grey**」を選択します。

これらのテーマで使用できる設定以外でロック・アンド・フィールドを変更するには、フラグメント・エディタを使用して「Site Studio Manager」フラグメントを編集します（9-8 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照）。

5. 「Fragment Parameters」ダイアログを閉じるには、「**OK**」をクリックします。

ブラウザで参照すると、マネージャ・アプリケーションがページに表示されます。

### 12.4.2 カスタム設定によるマネージャの追加

ユーザーが使用可能な設定を変更する場合、最初にマネージャ構成設定ファイルを作成してファイルを編集し、Site Studio マネージャのフラグメントを追加する必要がありますが、今回は作成したマネージャ構成設定ファイルを参照します。

マネージャ構成設定ファイルでマネージャを追加するには、次の作業を行います。

1. マネージャ構成設定ファイルを作成する手順を実行します（12-4 ページの「[マネージャ構成設定ファイルの作成](#)」を参照）。
2. サイト階層からページ・テンプレートを開き、マネージャを表示するページ上の場所にカーソルを置きます。
3. ツールボックスの「**Other Fragments**」をクリックします。
4. 「**Site Studio Manager**」フラグメントをクリックします。

「Fragment Parameters」ダイアログが表示されます（A-106 ページの「[「Fragment Parameters」ダイアログ](#)」を参照）。

5. テーマの「**blue**」、「**red**」または「**grey**」を選択します。

これらのテーマで使用できる設定以外でロック・アンド・フィールドを変更するには、フラグメント・エディタを使用して「Site Studio Manager」フラグメントを編集します（9-8 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照）。

6. 設定フィールドの「Name」列にカーソルを配置し、その横のアイコン (図 12-1) をクリックします。

図 12-1 「Additional Information」アイコン



検索結果ページが表示され、コンテンツ・サーバー上の使用可能なマネージャ構成設定ファイルがすべて示されます。

7. 使用するマネージャ構成設定ファイルの横にある「Select」をクリックします。
8. 「Fragment Parameters」ダイアログを閉じるには、「OK」をクリックします。

マネージャ・アプリケーションが、マネージャ構成設定ファイルで有効にしたオプションが含まれた状態でページ・テンプレートに表示されます。

## 12.5 マネージャ構成設定ファイルの作成

編集可能な XML ファイルのマネージャ構成設定ファイルはマネージャで読み取られ、サイト・マネージャが使用する編集オプションの数を決定します。マネージャで有効なデフォルトのオプションで十分な場合は、マネージャ構成設定ファイルを作成せずに、Site Studio マネージャのフラグメントを追加するのみで構いません。

ただし、どのオプションを有効にして、どのオプションを無効にするかを制御する場合は、マネージャ構成設定ファイルを作成する必要があります。作成は「Site Assets」ペインで行います。作成できるマネージャ構成設定ファイルには、起点となる次の 2 つのファイルがあります。1 つは最小限の設定が有効になっているファイル、もう 1 つは最大限の設定が有効になっているファイルです。必要な数のマネージャ構成設定ファイルを作成できます。

マネージャ構成設定ファイルを作成するには、次の作業を行います。

1. デザイナで「Site Assets」ペインを開きます。
2. 上部のメニューをクリックして、「Manager Configuration Settings」を選択します。
3. 「New File」アイコン (図 12-2) をクリックします。

図 12-2 「New File」アイコン



4. マネージャ構成設定ファイルを作成するには、次のいずれかの作業を行います。
  - 「New」 → 「Minimal Enabled」を選択して、最小限のユーザー設定を備えるマネージャ・インタフェースを作成します。
  - 「New」 → 「Maximum Enabled」を選択して、最大限のユーザー設定を備えるマネージャ・インタフェースを作成します。

詳細は、12-6 ページの「[マネージャ構成設定ファイルの説明](#)」を参照してください。

または、既存のマネージャ構成設定ファイルのコピーを作成するには、次の作業を行います。

- 「Copy」 → 「Selected」を選択して、現在選択されているマネージャ構成設定ファイルを新しいファイルにコピーします。
- 「Copy」 → 「from Server」を選択して、コンテンツ・サーバーの既存のファイルをコピーします。
- 「Copy」 → 「from Local」を選択して、ファイル・システムの既存のファイルをコピーします。

標準のコンテンツ・チェックイン・ページが表示されます。



- マネージャ構成設定ファイルのメタデータを入力し、ページの一番下にある「Assign Info」をクリックして、メタデータをコンテンツ・サーバーにチェックインします。必須のメタデータ・フィールドはすべて赤でマークされています。

マネージャ構成設定ファイルが「Site Assets」ペインに表示され、このペインで編集用のファイルを選択したり、フラグメントからファイルを参照したりできます。設定ファイルのカスタマイズの詳細は、12-5 ページの「[マネージャ構成設定のカスタマイズ](#)」を参照してください。

## 12.6 マネージャ構成設定のカスタマイズ

マネージャで使用可能なオプションをカスタマイズするには、マネージャ構成設定ファイルを編集します。これはマネージャで読み取られる XML ファイルで、ユーザー（サイト・マネージャ）が使用可能なオプションを決定します。このファイルを変更する場合、セクションの追加、ページ・テンプレートの割当て、サイト・プロパティの変更などをユーザーが行えるかどうかを制御できます。

マネージャ構成設定ファイルを編集するには、次のように「Site Assets」ペインを使用します。

- 「Site Assets」ペインで、アセット・タイプ「**Manager Configuration Settings**」を選択します。
- 目的のマネージャ構成設定ファイルを選択して、「Edit」アイコン（[図 12-3](#)）をクリックします。

図 12-3 「Edit」アイコン



「FORM」ビュー（[図 12-4](#)）に「Manager Configuration Settings」ダイアログ（A-110 ページの「[Manager Configuration Settings](#) ダイアログ」）が開きます。

図 12-4 マネージャ構成設定ファイルの「FORM」ビュー

---

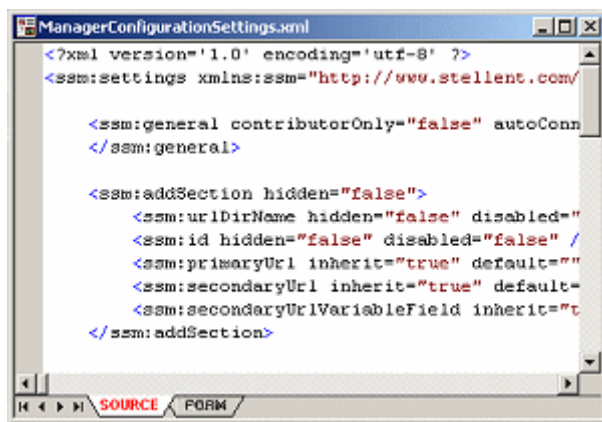
**注意：** 編集しているマネージャ構成設定ファイルに非表示の階層がある場合、設定の多くは無効（グレー表示）になっています。

---

- ユーザーに対して有効または無効になっている各設定の横にあるチェック・ボックスを選択または選択解除します。各設定の詳細は、12-6 ページの「[マネージャ構成設定ファイルの説明](#)」を参照してください。

4. あるいは、「SOURCE」タブをクリックして、マネージャ構成設定ファイルのXMLソース・コードを直接編集します。

図 12-5 「SOURCE」ビューでのマネージャ構成設定ファイルの編集



5. 詳細は、12-6 ページの「マネージャ構成設定ファイルの説明」を参照してください。
6. 作業内容を保存して、マネージャ構成設定ファイルを閉じます。

色のスキーム、フォント、その他のレイアウト設定などのマネージャの外観を変更するには、フラグメント・エディタで Site Studio マネージャのフラグメントを編集します (9-8 ページの「フラグメントの編集」を参照)。

## 12.7 マネージャ構成設定ファイルの説明

マネージャ構成設定ファイルはマネージャ・アプリケーションで読み取られ、ユーザー (サイト・マネージャ) が使用可能な編集オプションを決定します。セクションの追加と削除、ページ・テンプレートの割当て、セクション・プロパティの変更などのオプションがあります。サイトのデザイナーの場合は、各オプションを有効または無効にできます。

次に、「FORM」ビューで参照した場合のマネージャ構成設定ファイルの各設定について説明します。

設定	説明
Visible in Contributor Mode only	コントリビューション・モードで参照した場合のみマネージャが表示されます。
Automatically load Manager	ブラウザで参照すると、マネージャがページに自動的に表示されます。
Hierarchy	<p>ユーザーは、サイト階層のこの部分のみを変更できます。次の3つのオプションのいずれかを選択します。</p> <p><b>Hide:</b> サイト階層を変更することはできません。</p> <p><b>Show All Sections:</b> サイト階層全体を変更できます。</p> <p><b>Show Current Section Only:</b> 現在のセクション (マネージャを表示しているセクション) のみを変更できます。</p>
Add New Section	<p>サイト階層にセクションを追加して、セクションの作成時に次の情報を指定できます。</p> <p><b>Set UrlDirName:</b> Web サイトのアドレスでセクションを表す URL。</p> <p><b>Set Section ID:</b> サイトのセクションを呼び出すために Site Studio で使用されるセクションの ID。</p>
Remove Section	サイト階層からセクションを削除できます。

設定	説明
Move Section	サイト階層でセクションを移動できます。
Set the Error Handler Section	セクションをエラー・ハンドラとして指定できます (カスタム・エラー・ページで使用する場合)。
Change the Primary Page Template	セクションに関連付けられたプライマリ・ページ・テンプレートを変更できます。
Change the Secondary Page Template	セクションに関連付けられたセカンダリ・ページ・テンプレートを変更できます。
Section ID	セクションに関連付けられた ID を変更できます。 <b>disabled:</b> 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。
Label	セクションに関連付けられたラベルを変更できます。 <b>disabled:</b> 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。
Include in Navigation	このセクションをサイト・ナビゲーションに表示するかどうかを制御できます。 <b>disabled:</b> 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。
Contributor Only	サイトがコントリビューション・モードで参照される場合のみにこのセクションを表示するかどうかを制御できます。 <b>disabled:</b> 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。
UrlDirName	Web サイトのアドレスでセクションを表す URL を指定できます。 <b>disabled:</b> 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。
UrlPageName	このセクションのプライマリ・ページを表す URL を指定できます。(デザインまたはサイト・マネージャが) 名前を指定しない場合は、 <code>index.htm</code> が使用されます。 <b>disabled:</b> 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。
MaxAge	ページをキャッシュできる最大時間を指定できます。これは、サイトで配信用にリバース・プロキシ・キャッシュを使用している場合に特に役立ちます。 <b>disabled:</b> 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。
Custom	サイトに作成されたカスタム・プロパティを変更できます。



---

## サイト・レポートの操作

この項の内容は次のとおりです。

- 13-2 ページの「[サイト・レポートについて](#)」
- 13-2 ページの「[Web サイト・オブジェクト・レポート](#)」
- 13-3 ページの「[サイト使用状況レポート](#)」
- 13-4 ページの「[コンテンツ追跡レポート](#)」
- 13-5 ページの「[Web サイト・オブジェクト・レポートの表示](#)」
- 13-6 ページの「[Web サイト使用状況レポートの表示](#)」
- 13-7 ページの「[コンテンツ追跡レポートの表示](#)」

## 13.1 サイト・レポートについて

大規模な Web サイトまたは複数のサイトを管理していると、サイトに関連付けられているファイルの数、それらのファイルの使用場所、特定のユーザーによるそれらのファイルの閲覧頻度などを確認する必要がある場合があります。たとえば、特定のデータ・ファイルの存在するサイト上の場所や、そのファイルの閲覧頻度などです。これは、ネイティブ・ドキュメント、フラグメント、スクリプトなどでも同様です。

これらの情報を確認する方法の 1 つは、Site Studio のサイト・レポート機能を使用することです。サイト・レポートは、必要に応じてオンラインで参照するか、印刷により出力できます。

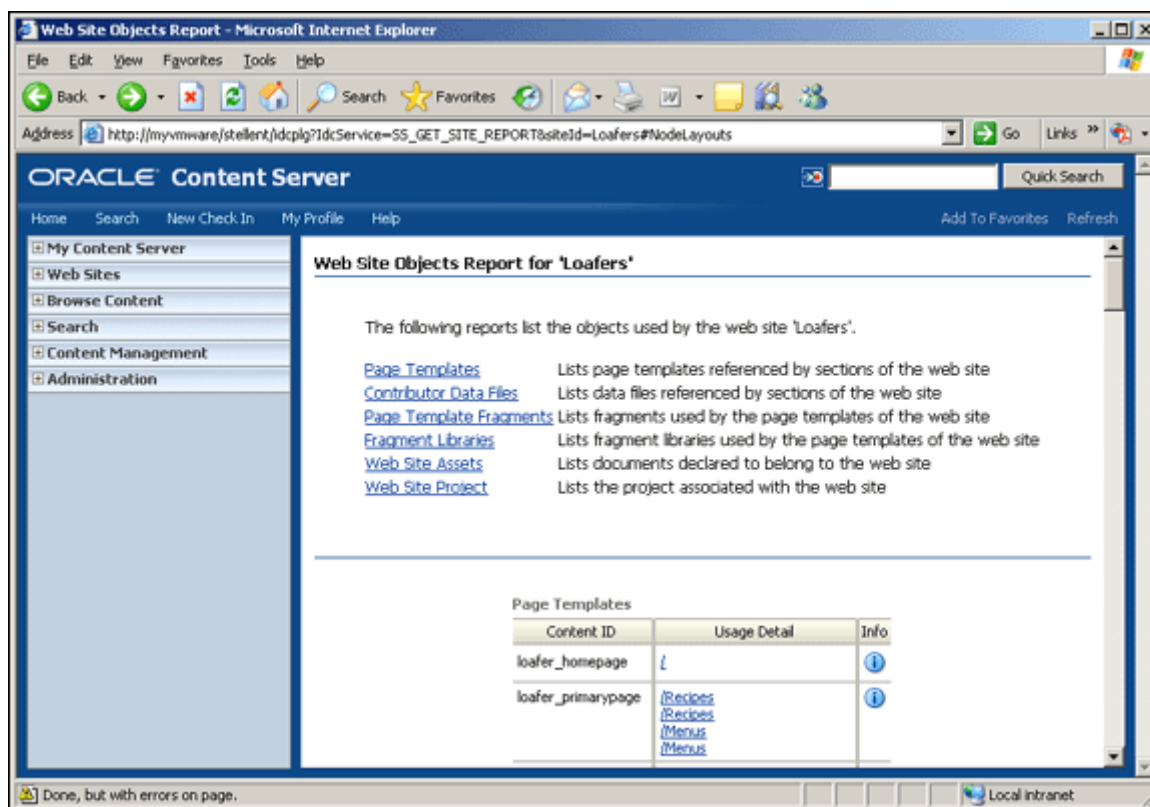
次の 3 つのタイプのレポートを参照できます。

- [Web サイト・オブジェクト・レポート](#)
- [サイト使用状況レポート](#)
- [コンテンツ追跡レポート](#)

## 13.2 Web サイト・オブジェクト・レポート

Web サイト・オブジェクト・レポート (図 13-1) には、サイトで使用されている明示的に参照されるすべてのファイルが表示されます。このレポートでは、ファイルがカテゴリ別に表示されます (ページ・テンプレート、コントリビュータ・データ・ファイル、フラグメント・ライブラリなど)。

図 13-1 Web サイト・オブジェクト・レポート

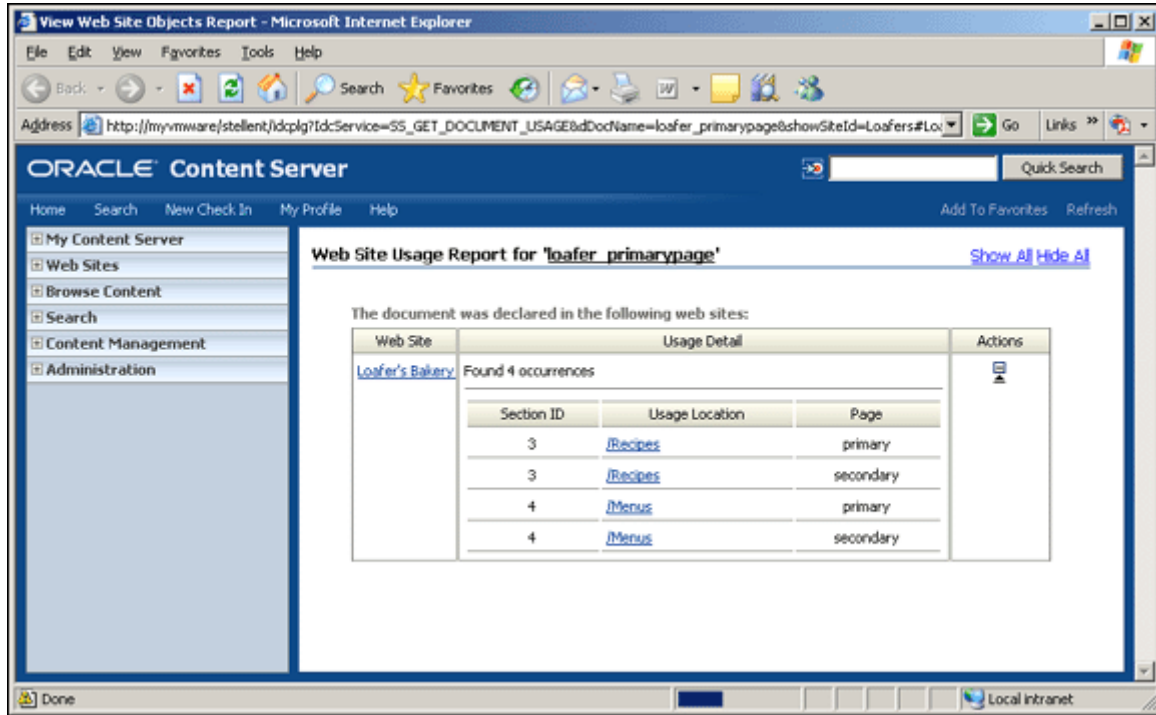


詳細は、13-5 ページの「[Web サイト・オブジェクト・レポートの表示](#)」を参照してください。

## 13.3 サイト使用状況レポート

サイト使用状況レポート (図 13-2) には、単一のファイルの詳細なサマリー (特にそのファイルの使用場所) が表示されます。このレポートでは、ファイルが使用されている Web サイトや、ファイルが使用されているセクションなどに基づいて情報が分類されます。

図 13-2 ページ・テンプレートの詳細を示す Web サイト使用状況レポート



詳細は、13-6 ページの「Web サイト使用状況レポートの表示」を参照してください。

---

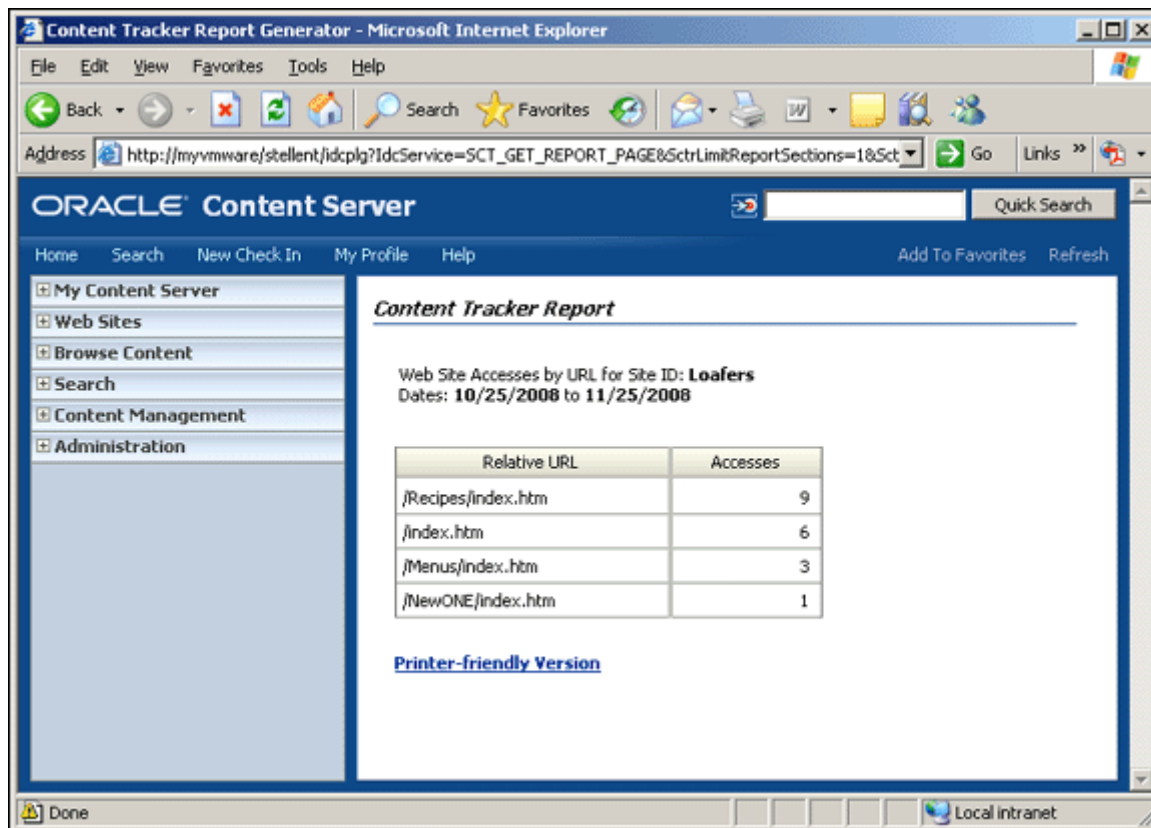
**重要:** レポートの生成に使用される基準の 1 つは、各ファイルに割り当てられたメタデータです。したがって、ファイルに不正確なメタデータが含まれると、そのファイルはレポートに間違って表示されるか、またはまったく表示されない可能性があります。メタデータ・モデルが効率的であるほど、サイト・レポートも効率的になります。

---

## 13.4 コンテンツ追跡レポート

コンテンツ追跡レポート（図 13-3）には、任意のコンテンツの閲覧回数が表示されます。Content Tracker を使用すると、特定のニーズに合わせてレポートの表示をカスタマイズできます。

図 13-3 コンテンツ追跡レポート



詳細は、13-7 ページの「コンテンツ追跡レポートの表示」を参照してください。



## 13.5 Web サイト・オブジェクト・レポートの表示

サイト・オブジェクト・レポートには、サイトで使用されているすべてのファイルが表示されます。レポートを参照すると、カテゴリ別（ページ・テンプレート、コントリビュータ・データ・ファイル、フラグメント・ライブラリなど）に分類されたファイルを確認できます。

Site Studio の様々な場所でレポートを表示できます。

- 13-5 ページの「[デザイナーでのレポートの表示](#)」
- 13-5 ページの「[「Site Studio Administration」 ページでのレポートの表示](#)」

### 13.5.1 デザイナーでのレポートの表示

デザイナーでレポートを表示するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 「File」 → 「Site」 → 「Advanced」 → 「View Web Site Objects Report」 を選択します。  
または
- 「Site Hierarchy」 ペインで、Web サイトのルートをクリックし、「View Web Site Objects Report」 を選択します。

### 13.5.2 「Site Studio Administration」 ページでのレポートの表示

「Site Studio Administration」 ページを使用してレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Studio Administration」 ページを表示します。
2. 「Manage Web Sites」 をクリックします。
3. レポートを表示する Web サイトを選択します。
4. 「View Web Site Objects Report」 をクリックします。

使用可能であれば、リンクをクリックすることで、サイトで使用されているファイルをプレビューできます。

ホームページ・アイコン（[図 13-4](#)）をクリックすると、サイトのホームページを参照できます。

図 13-4 ホームページ・アイコン



情報アイコン（[図 13-5](#)）をクリックすると、ファイルのコンテンツ情報ページを参照できます。

図 13-5 情報アイコン



ファイルがこのレポートに表示されるためには、現在のサイトと一致する必須メタデータがファイルに含まれている必要があります。

## 13.6 Web サイト使用状況レポートの表示

サイト使用状況レポートには、単一のファイルの詳細なサマリー（特にそのファイルが使用されているコンテンツ・サーバーの1つ以上のサイトの場所）が表示されます。レポート自体は、コンテンツ・サーバーに格納されます。レポートを参照すると、ファイルが使用されている Web サイトやセクションなどに基づいて分類された情報を確認できます。

Site Studio の様々な場所でレポートを表示できます。

- 13-6 ページの「[デザイナーでのページ・テンプレートのレポートの表示](#)」
- 13-6 ページの「[デザイナーでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示](#)」
- 13-7 ページの「[Web ページでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示](#)」
- 13-7 ページの「[他のすべてのファイルのレポートの表示](#)」

### 13.6.1 デザイナーでのページ・テンプレートのレポートの表示

デザイナーでページ・テンプレートのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

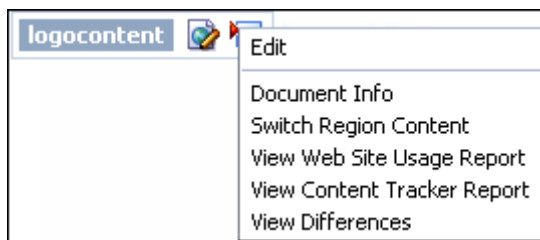
1. 「Site Hierarchy」ペインで、レポートを表示するページ・テンプレートを含むセクションを展開します。
2. ページ・テンプレート（プライマリまたはセカンダリ）を右クリックし、「**View Web Site Usage Report**」を選択します。

### 13.6.2 デザイナーでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示

デザイナーでデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. デザイナーで「Assign Region Content」ダイアログを表示します（A-91 ページの「[Assign Region Content](#)」ダイアログを参照）。
2. コントリビューション・アイコン（[図 13-6](#)）のメニューを開きます。

図 13-6 コントリビューション・アイコンのメニュー



3. 「View Web Site Usage Report」をクリックします。

### 13.6.3 Web ページでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示

Web ページでコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントが表示されている Web ページに移動します。
2. コントリビューション・モードを有効化します。
3. コントリビューション・アイコンのメニューを開いて、「**View Web Site Usage Report**」を選択します。

このオプションは、デザイナのプレースホルダ定義で有効化されている場合のみ使用できます。

### 13.6.4 他のすべてのファイルのレポートの表示

他のすべてのファイルのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. レポートを表示するファイルのコンテンツ情報ページを表示します。
2. 「Actions」の横のメニューを使用して、「**View Web Site Usage Report**」を選択します。

使用可能であれば、リンクをクリックすることで、ファイルがサイトで使用されている場所をプレビューできます。

ホームページ・アイコン (図 13-7) をクリックすると、サイトのホームページを参照できます。

図 13-7 ホームページ・アイコン



「**Show All**」をクリックすると、すべての Web サイトでファイルが使用されている場所の詳細が表示され、「**Hide All**」をクリックすると、それらの詳細が非表示になります。また、「+」アイコンをクリックすると、特定のサイトでファイルが使用されている場所の詳細が表示され、「-」アイコンをクリックすると、それらの詳細が非表示になります。

ファイルがレポートに表示されるためには、現在のサイトと一致する必須メタデータがファイルに含まれている必要があります。

サイト使用状況レポートは、コントリビュータ・アプリケーションでも表示できます (『Site Studio コントリビュータ・ガイド』を参照)。

## 13.7 コンテンツ追跡レポートの表示

コンテンツ追跡レポートには、Web サイトで任意のコンテンツが閲覧された回数のサマリーが表示されます。このレポートは、次の 2 つの方法で表示できます。

- 13-7 ページの「[ファイルが表示される Web ページでのレポートの表示](#)」
- 13-8 ページの「[サイトにおけるすべてのファイルのレポートの表示](#)」

### 13.7.1 ファイルが表示される Web ページでのレポートの表示

ファイルが表示される Web ページでレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントが表示されている Web ページに移動します。
2. コントリビュータを開始します。
3. コントリビューション・グラフィックをクリックし、「**View Content Tracker Report**」を選択します。

このオプションは、コンテンツを表示するプレースホルダに割り当てられたプレースホルダ定義で有効化されており、コンテンツ追跡レポート・コンポーネントがコンテンツ・サーバーにインストールされている場合のみ使用できます。

## 13.7.2 サイトにおけるすべてのファイルのレポートの表示

サイトにおける他のすべてのファイルのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. デザイナで、「View Pages」アイコン (図 13-8) のメニューをクリックします。

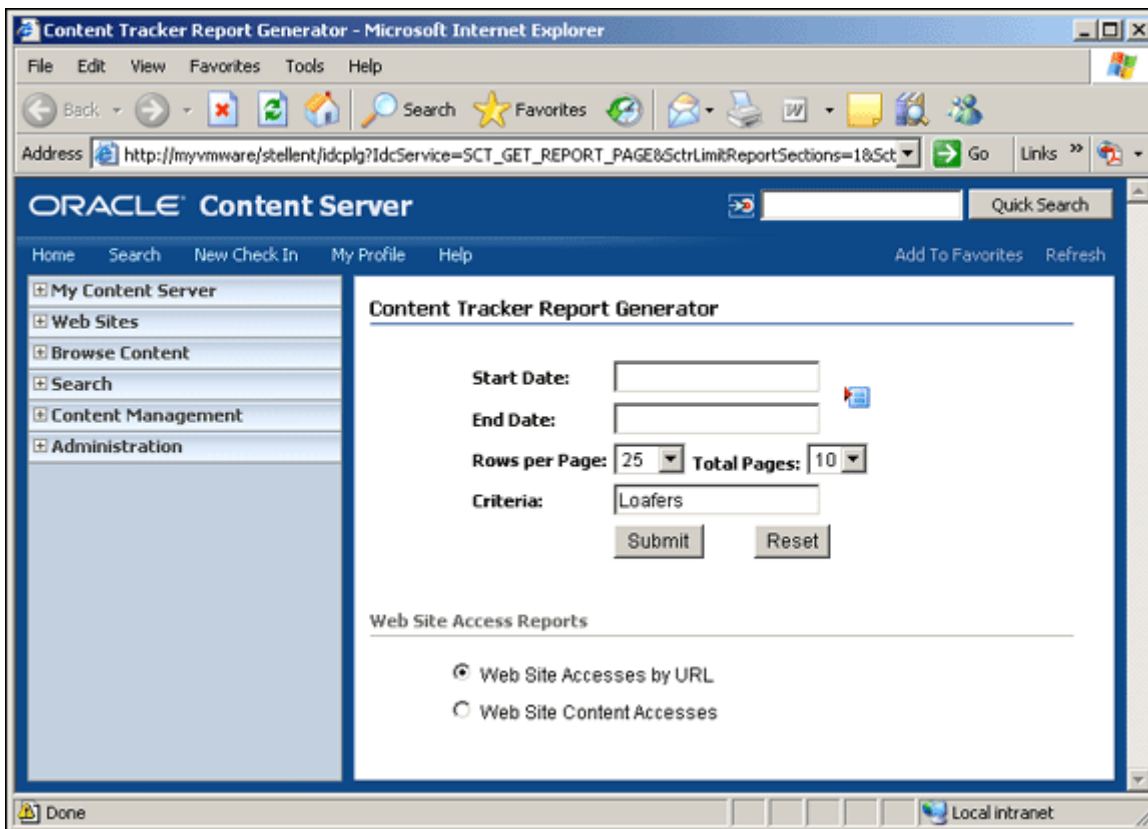
図 13-8 「View Pages」アイコン



2. 「Content Tracker Report」を選択します。

これにより、表示するレポートを指定できる「Content Tracker Report Generator」ページ (図 13-9) が表示されます。

図 13-9 Content Tracker Report Generator



このオプションは、コンテンツ追跡レポート・コンポーネントがコンテンツ・サーバーにインストールされている場合のみ使用できます。

---

---

## ワークフローの使用方法

Content Server のワークフロー機能と Site Studio を一緒に使用して、サイトを作成および管理できます。ワークフローにより、デザイナーからマネージャ、またはデザイナーからコントリビュータへの情報の流れが円滑になります。ページ・テンプレートや Cascading Style Sheet などのデザイナー同士の間で渡される情報も制御できます。

この項の内容は次のとおりです。

- 14-2 ページの「ワークフローについて」
- 14-2 ページの「ワークフローのタイプ」
- 14-2 ページの「コントリビュータのワークフローの使用状況」
- 14-3 ページの「ワークフローの設定」
- 14-3 ページの「ワークフローの例」

ワークフローの詳細は、Content Server のドキュメントを参照してください。

## 14.1 ワークフローについて

Site Studio のワークフローを設計するには、ほとんどの場合、コンテンツ・サーバーの他のコンテンツ・アイテムのワークフローを作成する場合と同じプロセスや手順を実行します。1つの主な違いは、ワークフローを構成するコントリビューション・リージョン（Web ページの編集可能部分）と、そのリージョンのコンテンツにアクセスできるユーザーを決定する必要がある点です。

コントリビュータがワークフローにアクセスして Web サイトの一部を確認する方法は、14-2 ページの「[コントリビュータのワークフローの使用状況](#)」を参照してください。

## 14.2 ワークフローのタイプ

ワークフローには、次の2つのタイプがあります。

- **基本ワークフロー**では、確認プロセスが特定のコンテンツ・アイテムに対して手動で開始されます。
- **基準ワークフロー**では、コンテンツ・アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインして、そのメタデータが Site Studio デザイナやコンテンツ・サーバーで指定した定義済の基準と一致する場合、そのアイテムが自動的にワークフローに挿入されます。

Site Studio で最も使用頻度の高いのは基準ワークフローです。

## 14.3 コントリビュータのワークフローの使用状況

Web サイトのコンテンツを追加または編集するには、通常、コントリビュータはコントリビューション・モードで Web ページのコントリビューション・グラフィックの編集アイコンをクリックして Site Studio コントリビュータを開きます。コントリビュータでは、コントリビューション・リージョンに割り当てられているコンテンツが編集可能なフォームで利用できます。ワークフローを使用する場合、参加者は確認する Web ページへのリンクが含まれたメール・メッセージを最初に受信します。このリンクをクリックすると、Web ページがコントリビューション・モードで開きます。

Web ページがコントリビューション・モードになると、ページ上の編集可能なコントリビューション・リージョンごとに1つずつ、1つ以上のコントリビューション・グラフィックが表示されます。コンテンツ・リージョンのコンテンツがワークフロー内にある場合、コントリビューション・グラフィックのリージョン名の左側に表示される特別なアイコン（緑の歯車）で示されます（[図 14-1](#)を参照）。

図 14-1 ワークフローを示すアイコンが表示されたコントリビューション・グラフィック



この場合、ワークフローの設計とワークフローにおけるコントリビュータの役割に応じて、コントリビュータはコントリビューション・グラフィック・メニューで次のワークフロー・オプションを選択できます。

- **Approve Document:** コントリビュータがこのオプションをクリックすると、ワークフローの次の参加者に自動的にメールで通知が送信されます。ワークフローの最後の参加者が、Web ページのコンテンツを格納するコントリビュータ・データ・ファイルを承認すると、そのコントリビュータ・データ・ファイルは最終的な宛先にリリースされます。その後、Web ページ自体が Web サイトで稼働状態になります。
- **Reject Document:** コントリビュータがこのオプションをクリックすると、コンテンツを却下する理由の説明を「Rejection Form」に入力できます。メールは、ワークフローの以前のレビューアに送信されます。
- **Edit:** メニューでこのオプションをクリックすると、ワークフローが設定されていない状態でコントリビューション・アイコンをクリックした場合と同じになります。つまり、コントリビュータが起動され、コントリビューション・リージョンのコンテンツが編集可能なフォームに表示されます。

## 14.4 ワークフローの設定

ワークフローの設定は、Site Studio の場合も Content Server の場合も同じです。ただし、Site Studio の場合、デザイナーでプレースホルダ定義を設定する際に、ワークフローのプレースホルダ定義機能を有効にする必要があります。これにより、ページをコントリビューション・モードで参照するときに、プレースホルダにワークフロー・オプションが追加されます。

プレースホルダ定義のワークフロー機能を有効にするには、次の適切なワークフロー・チェック・ボックスを選択します。

- **Workflow approve:** このチェック・ボックスを選択すると、コントリビューション・グラフィック・メニューに「Approve Document」オプションが追加され、ワークフローのレビューアがリージョン・コンテンツを承認できます。
- **Workflow reject:** このチェック・ボックスを選択すると、コントリビューション・グラフィック・メニューに「Reject Document」オプションが追加され、ワークフローのレビューアがリージョン・コンテンツを却下できます。

## 14.5 ワークフローの例

Site Studio で使用する次のコンテンツ・アイテムにワークフロー機能を使用すると役立ちます。

- 14-3 ページの「ワークフローのコントリビュータ・データ・ファイル」
- 14-4 ページの「ワークフローのネイティブ・ドキュメント」
- 14-4 ページの「ワークフローのイメージ」

これらのファイルには、Web サイトの一部と認識されるように Site Studio の適切なメタデータを含める必要があります。組織で認識可能な値を含めたワークフローのカスタム・メタデータ・フィールドを使用して、いずれかのコンテンツ・タイプをワークフローに入力できます。

---

**注意：** ページ・テンプレート、サブテンプレート、リージョン・テンプレートおよびスクリプトがデザイナーで編集される場合は、ワークフロー内で承認または却下できません。

---

### 14.5.1 ワークフローのコントリビュータ・データ・ファイル

Web サイトに対してコントリビュータが最も一般的に使用するワークフロー・プロセスは、コントリビュータ・データ・ファイルに基準ワークフローを通過させる形態です。このファイルは、Web ページの実際のコンテンツを表すため、コントリビュータで Web ページを編集するたびに更新が反映されます。

コントリビュータ・データ・ファイルをワークフローに追加すると、Web サイトのコントリビューション・リージョンに対する変更は、実際には、必ず承認プロセスを経てから稼働状態の Web サイトにポストされるようになります。

## 14.5.2 ワークフローのネイティブ・ドキュメント

ネイティブ・ドキュメントを基準ワークフローに追加すると、次のような様々な状況で役立ちます。

- インライン動的変換
- ランダム動的変換
- 動的変換済ドキュメントを使用する動的リスト

ネイティブ・ドキュメントを HTML に正常に変換するには、コンテンツ・サーバーに Dynamic Converter がインストールされ、稼働している必要があります（詳細は、『Site Studio インストール・ガイド』を参照）。

### インライン動的変換

インライン動的変換（ドキュメントがサイト・レイアウトに挿入される）を使用する場合、ネイティブ・ドキュメントを基準ワークフローに追加すると、ネイティブ・ドキュメントへの変更が必ず承認プロセスを経てから実際に Web サイトに挿入されるため、便利です。

### ランダム動的変換

ランダム動的変換（問合せを含むランダム動的変換フラグメントが Web サイトに追加される）を使用する場合、ネイティブ・ドキュメントを基準ワークフローに追加すると、コンテンツ・サーバーにチェックインしたコンテンツ・アイテムが必ず最初に承認プロセスを経てからサイトに組み込まれるため、便利です。

---

---

**注意：** コンテンツ・アイテムは、ワークフローからリリースされるとコンテンツ・サーバーの検索結果に追加されます。このため、コンテンツ・アイテムは、そのアイテムのリリースされたリビジョンがある場合のみ動的リストに表示されます。

---

---

たとえば、ランダムに選択された引用句を動的変換して Web サイトに表示できます。この場合、新しい引用句で追加されたすべてのネイティブ・ドキュメントが順不同でサイトに挿入されます。これらのドキュメントを基準ワークフローに配置すると、ドキュメントはワークフローを経由して承認されるまでリリースされません。リリース後、ドキュメントは動的変換結果に追加され、Web サイトに表示されます。

### 動的変換済ドキュメントを使用する動的リスト

動的変換済ドキュメントをターゲットとする動的リストを使用する場合、ネイティブ・ドキュメントを基準ワークフローに追加すると役立ちます。これにより、コンテンツ・サーバーにチェックインされたネイティブ・ドキュメントのうち、動的問合せの結果に一致するすべてのドキュメントが、必ずワークフローを経てから、Web サイトに表示される動的リストに追加されるようにすることができます。この方法は、動的変換済ドキュメントをターゲットとするプレス・リリースの動的リストを Web サイトに表示する場合などに役立ちます。

---

---

**注意：** コンテンツ・アイテムは、ワークフローからリリースされるとコンテンツ・サーバーの検索結果に追加されます。このため、コンテンツ・アイテムは、そのアイテムのリリースされたリビジョンがある場合のみ動的リストに表示されます。

---

---

## 14.5.3 ワークフローのイメージ

イメージを基準ワークフローに追加すると、たとえば、コンテンツ・サーバーにチェックインしたすべてのイメージを、グラフィック・デザイナーが必ず確認および承認してから、稼働状態の Web サイトに追加する必要がある場合に役立ちます。



---

---

## ユーザー・インタフェース

Site Studio デザイナには、ダイアログや管理ページが多数用意されており、これらを使用してサイトを作成および管理します。

- A-4 ページの「[Customize](#)」ダイアログ・ボックス
- A-17 ページの「[Site Connection Manager](#)」ダイアログ
- A-18 ページの「[Site Connection Details](#)」ダイアログ
- A-19 ページの「[Create New Site](#)」ダイアログ
- A-20 ページの「[Site Addresses](#)」ダイアログ
- A-21 ページの「[Choose Default Link Format](#)」ダイアログ
- A-22 ページの「[Define Environment Properties](#)」ダイアログ
- A-23 ページの「[New Section](#)」ダイアログ
- A-24 ページの「[Custom Section Properties](#)」ダイアログ
- A-25 ページの「[Define Custom Section Property](#)」ダイアログ
- A-26 ページの「[Select \(Home\) Page Template](#)」ダイアログ
- A-28 ページの「[Select \(Primary\) Page Template](#)」ダイアログ
- A-30 ページの「[Select \(Secondary\) Page Template](#)」ダイアログ
- A-32 ページの「[Site Asset Categories](#)」ダイアログ
- A-33 ページの「[Enable Metadata Modification](#)」ダイアログ
- A-34 ページの「[Select Site](#)」ダイアログ
- A-35 ページの「[Select Section](#)」ダイアログ
- A-36 ページの「[Link Wizard](#)」
- A-44 ページの「[Contribution Region](#)」ダイアログ
- A-46 ページの「[Region Content Options](#)」ダイアログ
- A-47 ページの「[Choose Document Types](#)」ダイアログ
- A-48 ページの「[Edit Query Text](#)」ダイアログ
- A-48 ページの「[変換の定義](#)ダイアログ」
- A-49 ページの「[Native Document Conversion Settings](#)」ダイアログ (レガシー)
- A-50 ページの「[Native Document Conversion Settings](#)」ダイアログ
- A-52 ページの「WYSIWYG 要素の「[Element](#)」ダイアログ」
- A-55 ページの「[WYSIWYG 要素の定義](#)ダイアログ」
- A-59 ページの「[プレーン・テキスト要素の「Element](#)」ダイアログ」

- 
- A-61 ページの「プレーン・テキスト要素の定義ダイアログ」
  - A-63 ページの「イメージ要素の「Element」ダイアログ」
  - A-65 ページの「イメージ要素の定義ダイアログ」
  - A-67 ページの「カスタム要素の「Element」ダイアログ」
  - A-68 ページの「カスタム要素の定義ダイアログ」
  - A-69 ページの「「Custom Element Settings」ダイアログ」
  - A-70 ページの「静的リスト要素の「Element」ダイアログ」
  - A-72 ページの「静的リスト要素の定義ダイアログ」
  - A-74 ページの「「Elements」ダイアログ」
  - A-75 ページの「「Static List Element Validation」ダイアログ」
  - A-76 ページの「動的リスト要素の「Element」ダイアログ」
  - A-78 ページの「動的リスト要素の定義ダイアログ」
  - A-80 ページの「「Dynamic List Settings」ダイアログ」
  - A-81 ページの「リージョン定義ダイアログ」
  - A-82 ページの「「Element」ダイアログ」
  - A-83 ページの「「Link Settings」ダイアログ」
  - A-84 ページの「「Select CSS Classes」ダイアログ」
  - A-85 ページの「「WYSIWYG Element Validation」ダイアログ」
  - A-86 ページの「「Plain Text Element Validation」ダイアログ」
  - A-87 ページの「「Select HTML Tags」ダイアログ」
  - A-88 ページの「「Image Only Element Validation」ダイアログ」
  - A-89 ページの「「Advanced Element Validation」ダイアログ」
  - A-90 ページの「「New Item Settings」ダイアログ」
  - A-91 ページの「「Assign Region Content」ダイアログ」
  - A-93 ページの「「Choose Region Content」ダイアログ」
  - A-94 ページの「「Generate Unique Region Content」ダイアログ」
  - A-95 ページの「フラグメント・エディタ・ダイアログ」
  - A-97 ページの「フラグメント・プロパティ・ダイアログ」
  - A-98 ページの「「Fragment Assets」ダイアログ・ボックス」
  - A-99 ページの「「Fragment Elements」ダイアログ・ボックス」
  - A-100 ページの「「Fragment Parameters」ダイアログ」
  - A-102 ページの「「Edit Query Text」ダイアログ」
  - A-103 ページの「「New Option」ダイアログ」
  - A-104 ページの「スニペット・プロパティ・ダイアログ」
  - A-106 ページの「「Fragment Parameters」ダイアログ」
  - A-107 ページの「「Fragment Preview」ダイアログ」
  - A-108 ページの「「Save Fragment」ダイアログ」
  - A-109 ページの「「Manage Site」ページ」
  - A-110 ページの「「Manager Configuration Settings」ダイアログ」

- 
- A-112 ページの「Placeholder Section Properties」ダイアログ
  - A-113 ページの「Placeholder Section Properties」ダイアログ
  - A-114 ページの「プレースホルダの定義ダイアログ」
  - A-116 ページの「Placeholder Definition Mappings」ダイアログ
  - A-117 ページの「Placeholder Definition Mappings」ダイアログ
  - A-118 ページの「Define Placeholder」ダイアログ
  - A-119 ページの「Switch Content ウィザード」
  - A-122 ページの「Switch Region Template」ダイアログ
  - A-123 ページの「Dynamic Conversion」ダイアログ
  - A-124 ページの「Custom Configuration Scripts」ダイアログ
  - A-125 ページの「Contribution Element」ダイアログ

## A.1 「Customize」 ダイアログ・ボックス

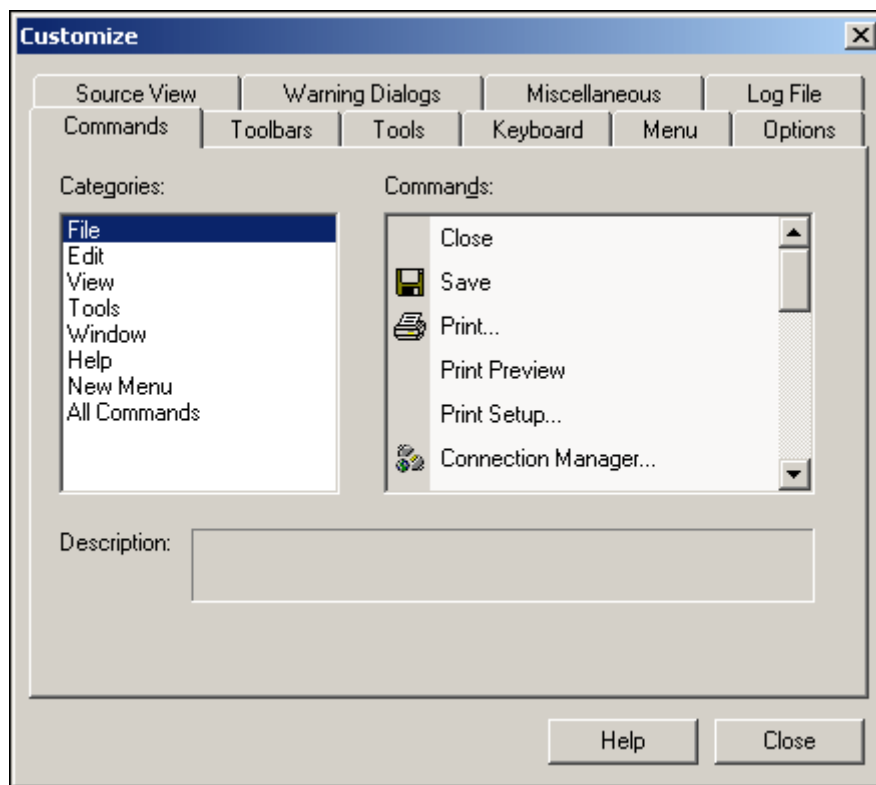
「Customize」 ダイアログを使用して、デザイナーのニーズに合うようにデザイナーのインターフェースを変更します。

- A-4 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Commands」 タブ](#)」
- A-5 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Toolbars」 タブ](#)」
- A-7 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Tools」 タブ](#)」
- A-8 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Keyboard」 タブ](#)」
- A-10 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Menu」 タブ](#)」
- A-11 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Options」 タブ](#)」
- A-12 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Source View」 タブ](#)」
- A-14 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Warning Dialogs」 タブ](#)」
- A-15 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Miscellaneous」 タブ](#)」
- A-16 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Log File」 タブ](#)」

### A.1.1 「Customize」 ダイアログ：「Commands」 タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くのメニューとコマンドがあります。これらのメニューやコマンドの表示方法の変更、メニューの作成、コマンドを伴うメニューの移入を行うことができます。「Toolbars」 タブ（A-5 ページの「[「Customize」 ダイアログ：「Toolbars」 タブ](#)」を参照）と連動して、使用頻度の高いコマンドを表示するツールバーを作成できます。

図 A-1 「Commands」 タブのダイアログ

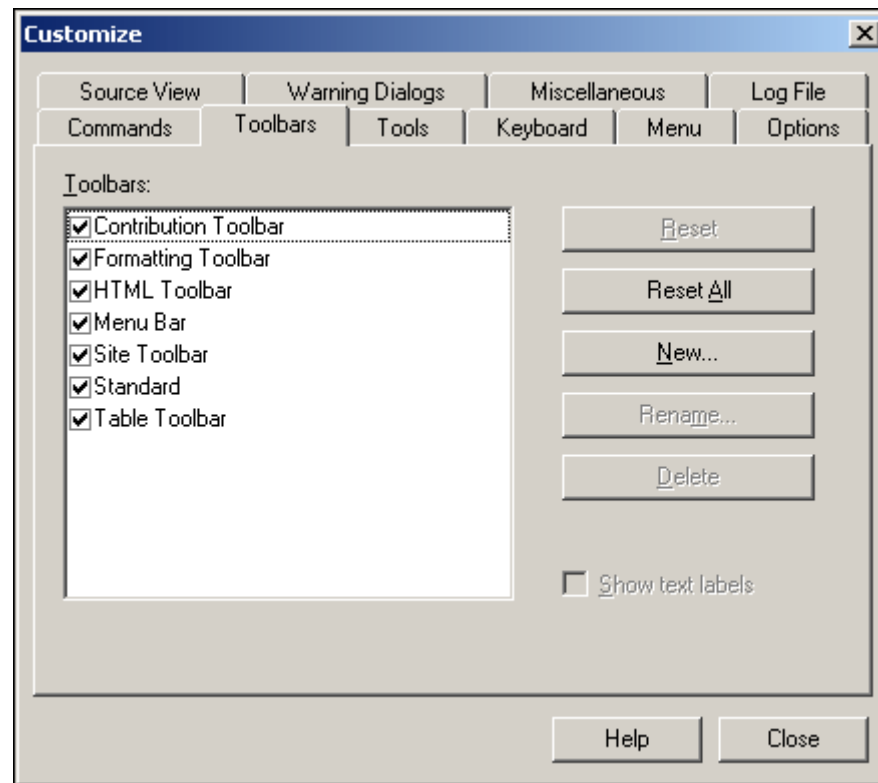


要素	説明
Categories	既存のメニューを表示します。デザイナーでメニューを作成するには「New Menu」を使用します。
Commands	使用可能なコマンドを表示します。デザイナーでメニューのコマンドを作成するには「New Menu」を使用します。
Description	選択したメニューの説明を表示します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Close	「Customize」ダイアログを閉じます。

## A.1.2 「Customize」ダイアログ：「Toolbars」タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くのツールバーがあります。これらのツールバーの表示と非表示、ツールバーの作成、コマンドを伴うツールバーの移入（A-4 ページの「[「Customize」ダイアログ：「Commands」タブ](#)」を参照）、ツールバーの削除、元のツールバーから削除されたアイコンのリストアを行うことができます。

図 A-2 「Toolbars」タブのダイアログ

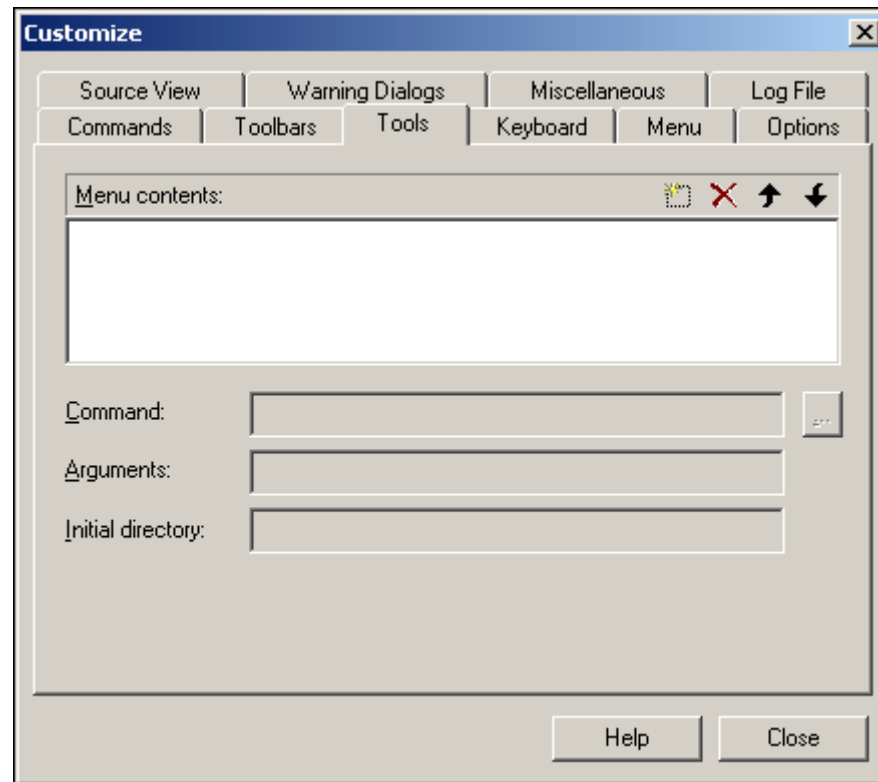






要素	説明
Toolbars	<p>デザイナーの各ツールバー・アイテムのチェック・ボックスを表示します。ツールバーの該当アイテムを表示するにはチェック・ボックスを選択し、そのアイテムを非表示にするにはチェック・ボックスの選択を解除します。ツールバーの詳細は、4-17 ページの「ツールバー」を参照してください。</p> <p><b>Contributor Toolbar:</b> 「Insert Region」、「Insert Element」などがあります。</p> <p><b>Formatting Toolbar:</b> 書体、太字、左揃えなどがあります。</p> <p><b>HTML Toolbar:</b> HTML スタイル、イメージの挿入、ルールの挿入などがあります。</p> <p><b>Menu Bar:</b> 「File」、「Edit」、「View」などがあります。</p> <p><b>Site Toolbar:</b> 「Choose Site」、「Assign Content」などがあります。</p> <p><b>Standard:</b> 「Copy」、「Paste」、「Save」などがあります。</p> <p><b>Table Toolbar:</b> 「Insert Table」、「Insert Row」、「Insert Column」などがあります。</p>
Reset	<p>既存のツールバーをリセットします。リストアするツールバーを選択してからこのボタンをクリックします。</p> <p>このコマンドは、デザイナーに用意されているデフォルトのツールバーのセットにのみ適用されます。ツールバーを作成して、そのバーからアイコンを削除した後に、そのアイコンをリストアする場合は、「Commands」タブに移動し、「Commands」ボックスからアイコンをドラッグしてツールバーにドロップする必要があります。</p>
Reset All	<p>デザイナーのすべてのツールバーをリセットします。</p> <p>このコマンドは、デザイナーに用意されているデフォルトのツールバーのセットにのみ適用されます。ツールバーを作成して、そのバーからアイコンを削除した後に、そのアイコンをリストアする場合は、「Commands」タブに移動し、「Commands」ボックスからアイコンをドラッグしてツールバーにドロップする必要があります。</p>
New	<p>ツールバーを作成できる「Toolbar Name」ダイアログを開きます。</p> <p>ツールバーが「Toolbars」列に表示される場合、そのアイコンを「Toolbars」タブから、デザイナーの他のツールバーに関連する目的の位置にドラッグします。</p> <p>ツールバーを移入するには、「Commands」タブを開き、各アイコン（コマンドを表す）を「Commands」ボックスからツールバーにドラッグします。さらにツールバーをカスタマイズするには、アイコンまたはテキストを右クリックして、ポップアップ・メニューで「Button Appearance」をクリックします。</p>
Rename	<p>ツールバーの名前を変更します。作成したツールバーの名前のみを変更できます。デザイナーに付属のツールバーの名前は変更できません。</p>
Delete	<p>ツールバーを削除します。作成したツールバーのみを削除できます。デザイナーに付属のツールバーは削除できません。</p>
Show text labels	<p>ツールバー・アイコンとともに説明のテキストを表示します。</p>
Help	<p>このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。</p>
Close	<p>「Customize」ダイアログを閉じます。</p>

### A.1.3 「Customize」ダイアログ：「Tools」タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くのツールバーとメニューがあります。それ以外に、デザイナー・アプリケーションにすぐにアクセスできるように、「Tools」メニューの外部アプリケーションにショートカットを追加できます。

図 A-3 「Tools」タブのダイアログ



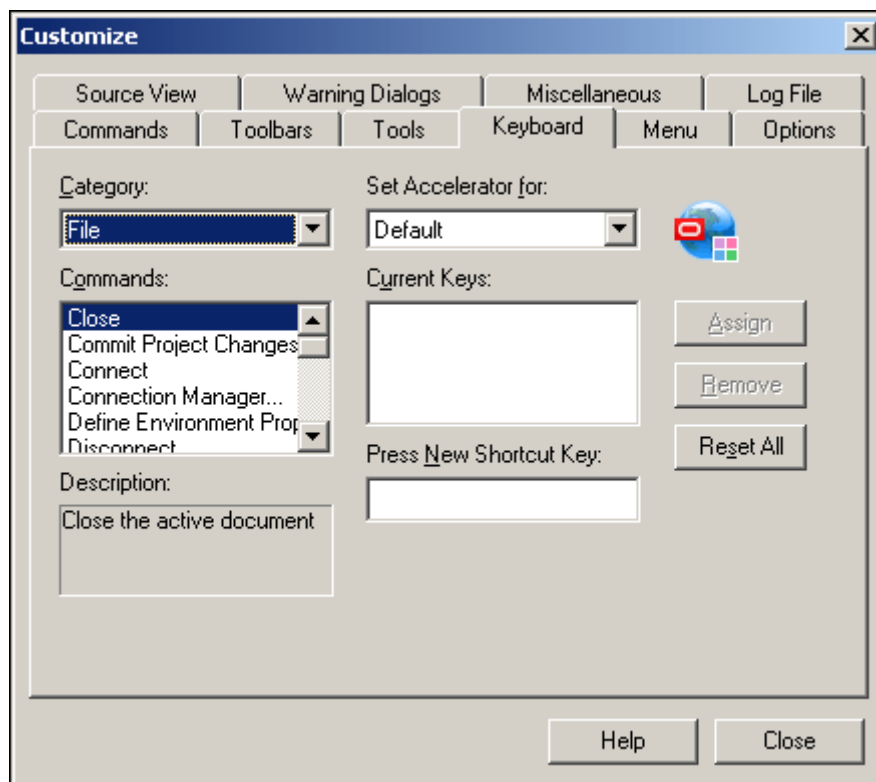
要素	説明
Menu contents	既存のメニューの名前を表示します。
	メニューを作成します。ツールのプレースホルダは、「Menu contents」ペインに表示されます。
	作成したメニューを削除します。
	「Tools」メニューのアイテムを上に移動します。
	「Tools」メニューのアイテムを下に移動します。
Command	このメニューに使用される実行可能ファイル（アプリケーション）のパスを指定します。 フルパスで入力するのではなく、実行可能ファイルを参照するには「Browse」ボタンを使用します。 パスを使用せずに実行可能ファイルの名前を入力し、最初のディレクトリを使用してパスを特定することも可能です。

要素	説明
Menu contents	既存のメニューの名前を表示します。
Arguments	アプリケーションに対して特定のファイルを開くように指示します。この引数では、実行可能ファイルのフルパスとファイル名（ファイルを開く際に使用）の後に該当ファイルのフルパスとファイル名が必要になります。  実行可能ファイルのパスにはフォワード・スラッシュを使用し、2つのパスの間に空白を入れる必要があります。また、パスに含まれないドキュメントは引用符で囲む必要があります。たとえば、次のようになります。  C:/Program Files/Office/winword.exe "C:¥Documents¥sa.doc"
Initial directory	実行可能ファイルが単独で「Command」フィールドに入力された場合のみの実行可能ファイルのディレクトリです。それ以外の場合は、このフィールドは空白のまま構いません。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Close	「Customize」ダイアログを閉じます。

### A.1.4 「Customize」ダイアログ：「Keyboard」タブ

デザイナー・アプリケーションには多くのコマンドがあり、これらのコマンドには1つ以上のキーボード・ショーカットが割り当てられます。キーボード・ショーカットを作成、変更および削除できます。

図 A-4 「Keyboard」タブのダイアログ



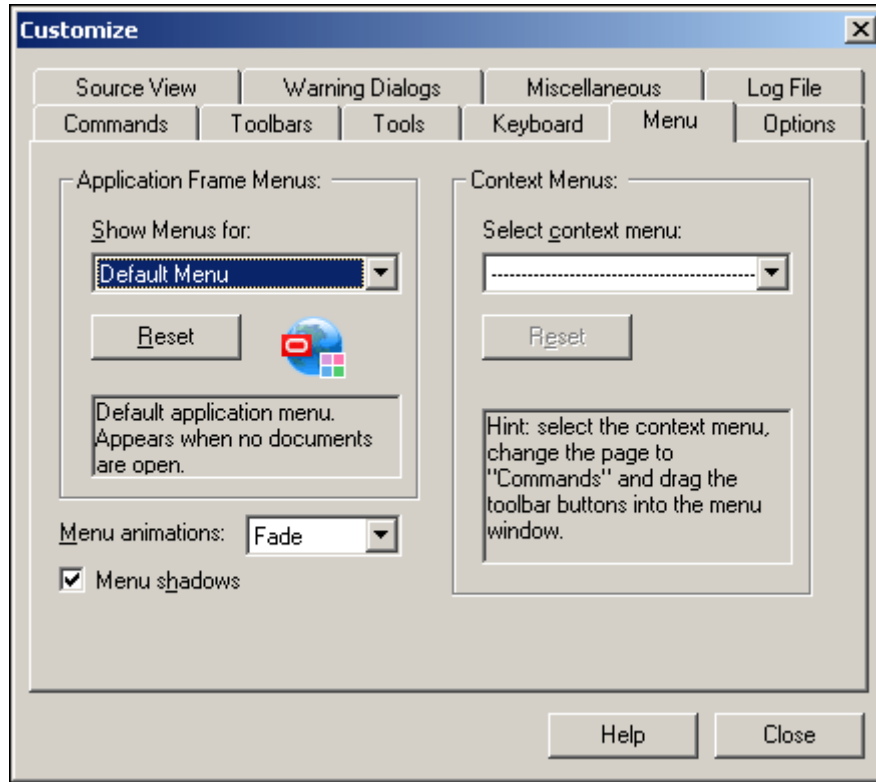


要素	説明
Category	メニューを表示します。ショートカットを割り当てるコマンドを含むメニューを選択します。
Commands	メニューで使用可能なコマンドを表示します。ショートカットを割り当てるコマンドを選択します。
Description	コマンドの説明を表示します。
Set Accelerator for	キーボード・ショートカットが使用可能なときに指定します。デザイナーでの作業中に通常キーボード・ショートカットを使用可能にする場合は、「Default」を選択します。
Current Keys	コマンドにすでに割り当てられているキーボード・ショートカットを表示します。
Press New Shortcut Key	このテキスト・ボックスにカーソルを置き、キーボードを使用してショートカットに割り当てる実際のキーの組合せを押します。
Assign	コマンドにショートカット・キーを割り当てます。
Remove	キーボード・ショートカットを削除します。
Reset All	デザイナーを初めて起動したときに使用可能なキーボード・ショートカットをすべてリストアします。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Close	「Customize」ダイアログを閉じます。

## A.1.5 「Customize」ダイアログ：「Menu」タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くのポップアップ・メニューがあります。これらのポップアップ・メニューの動作をカスタマイズするには、そのポップアップ・メニューの機能を追加、削除および変更します。

図 A-5 「Menu」タブのダイアログ



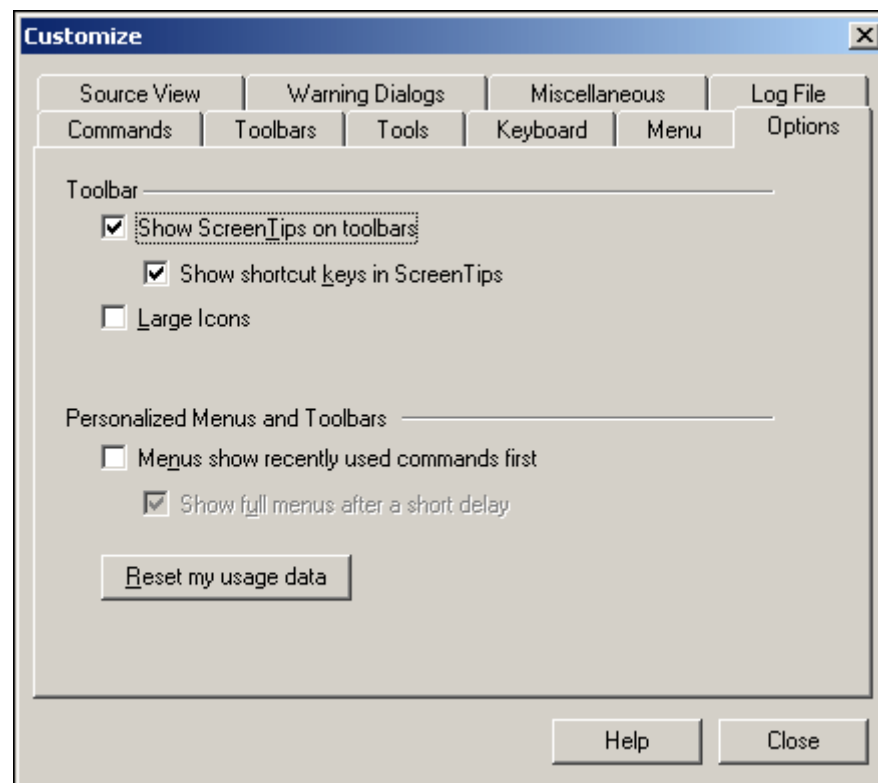
要素	説明
Show Menus for	変更するメニューを選択します。デザイナーでは「Default Menu」が使用されます。
Reset	デザイナーのメニューをリセットします。
Menu animations	メニュー・コマンド（「Menu」バーのメニューやポップアップ・メニューなど）のデザイナーでの表示状況を制御します。次の4つのオプションがあります。 <b>None:</b> メニュー・コマンドのリストが通常どおりに表示されます。 <b>Unfold:</b> メニュー・コマンドのリストが左上から右下に開きます。 <b>Slide:</b> メニュー・コマンドのリストが上から下に開きます。 <b>Fade:</b> メニュー・コマンドのリストが画面上に徐々に表示されます。
Menu shadows	メニューの周囲にシャドウ効果を表示します。

要素	説明
Select context menu	メニュー・コマンドを変更します。 この要素を選択する場合、「Customize」ダイアログの左上隅にポップアップ・メニューが表示されます。「Commands」タブをクリックして、「Categories」の下にある適切なメニューを選択します。 「Commands」で、ポップアップ・メニューに追加するコマンドを選択します。 ポップアップ・メニューにコマンドをドラッグして、そのコマンドをメニュー上の表示する場所に配置します。
Reset	「Select Context Menu」ドロップダウン・リストのコマンドをリセットします。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Close	「Customize」ダイアログを閉じます。

## A.1.6 「Customize」ダイアログ：「Options」タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くのメニュー、アイコンおよび画面上のヒントがあります。このタブでは、これらの機能を制御できます。

図 A-6 「Options」タブのダイアログ

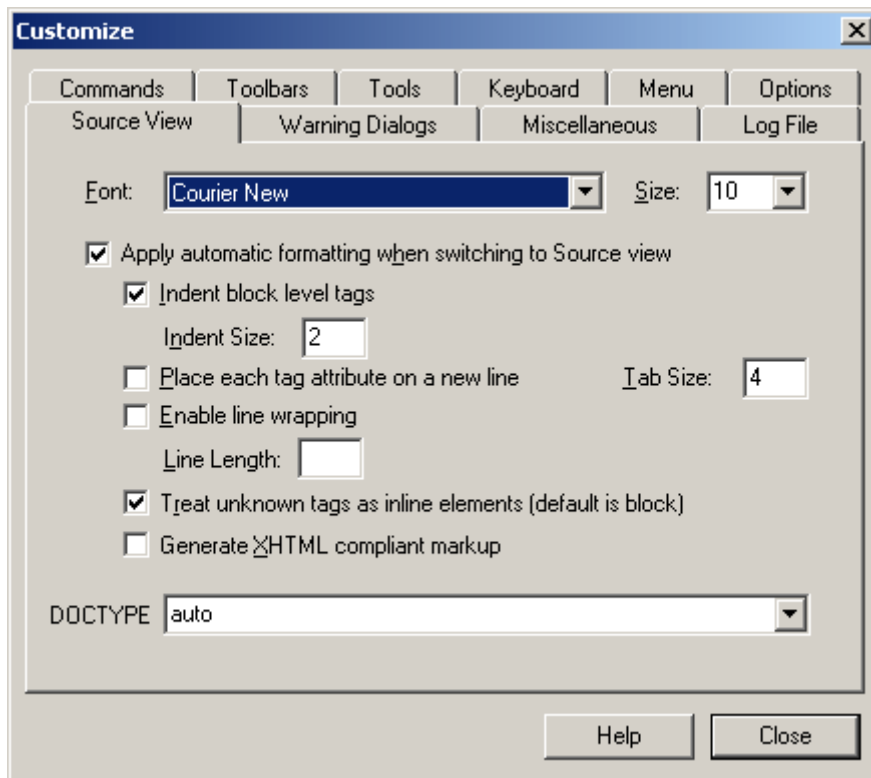


要素	説明
Show ScreenTips on toolbars	カーソルをアイコンの上に置くと、ポップアップ・テキスト（画面上のヒント）が表示されます。
Show shortcut keys in ScreenTips	カーソルをアイコンの上に置くと表示される画面上のヒントには、そのコマンドに割り当てられているショートカット・キーも表示されます。
Large Icons	ユーザー・インタフェースの大きなアイコンを表示します。
Menus show recently used commands first	コマンドが使用頻度に基づいてリストされます。
Show full menus after a short delay	わずかに遅れて、すべてのメニューを表示します。
Reset my usage data	デザイナを元の状態に戻します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Close	「Customize」 ダイアログを閉じます。

### A.1.7 「Customize」 ダイアログ：「Source View」 タブ

デザイナ・アプリケーションには、サイト・アセットの複数のビューが表示されます。これらのビューには、「SOURCE」ビュー、「DESIGN」ビューおよび「PREVIEW」があります。「SOURCE」ビューでのコードの表示方法をカスタマイズするには、書体、フォント・サイズ、および特定の自動書式設定を変更します。

図 A-7 「Source View」 タブのダイアログ

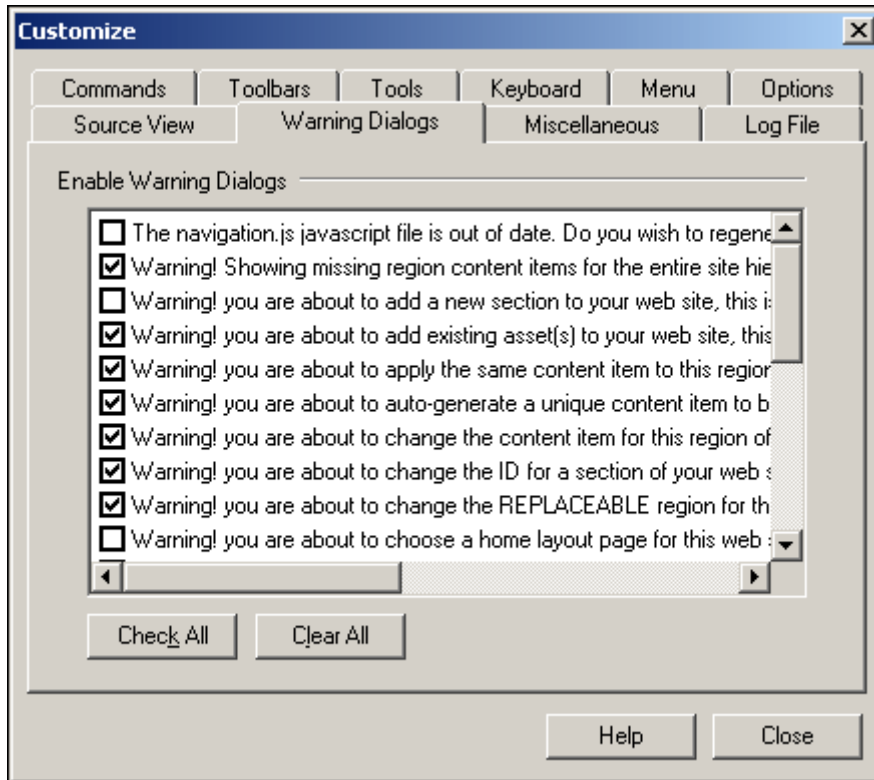


要素	説明
Font	「SOURCE」ビューでのコードの表示に使用するフォントを（コンピュータで使用可能なフォントから）選択します。
Size	「SOURCE」ビューでのコードの表示に使用するフォント・サイズを選択します。
Apply automatic formatting when switching to Source view	アセットでの作業中に「SOURCE」ビューに切り替えるたびに、コードは次の選択内容に応じて自動的に書式設定されます。
Indent block level tags	連続するブロックレベルのタグがインデントされ、テキストが読みやすくなります。
Indent Size	文字数を基準にインデント・サイズを設定します。
Place each tag attribute on a new line	タグの各属性が新しい行に表示されます。属性は、タグ自体と同じ程度でインデントされます。
Tab size	タブ1つ当たりの文字数を特定します。
Enable Line Wrapping	行折返しを有効にします。
Line Length	行折返しを有効にする場合の1行当たりの最大文字数を指定します。
Treat unknown tags as inline elements	HTML Tidy のアクション中に、デザイナーで検出された不明なタグが汎用のインライン要素（SPAN など）として扱われます。
Generate XHTML-compliant markup	既存の HTML を XHTML 準拠のマークアップにします。この結果、HTML の要素と XML を組み合わせ、標準対応言語が作成されます（すべての HTML タグの終了など）。
doctype	指定した doctype を Web ページの HTML のヘッダーに追加します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Close	「Customize」ダイアログを閉じます。

## A.1.8 「Customize」ダイアログ：「Warning Dialogs」タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くの警告メッセージと確認メッセージが表示されます。どの警告メッセージを表示するか、非表示にしておくかを制御できます。

図 A-8 「Warning Dialogs」タブのダイアログ

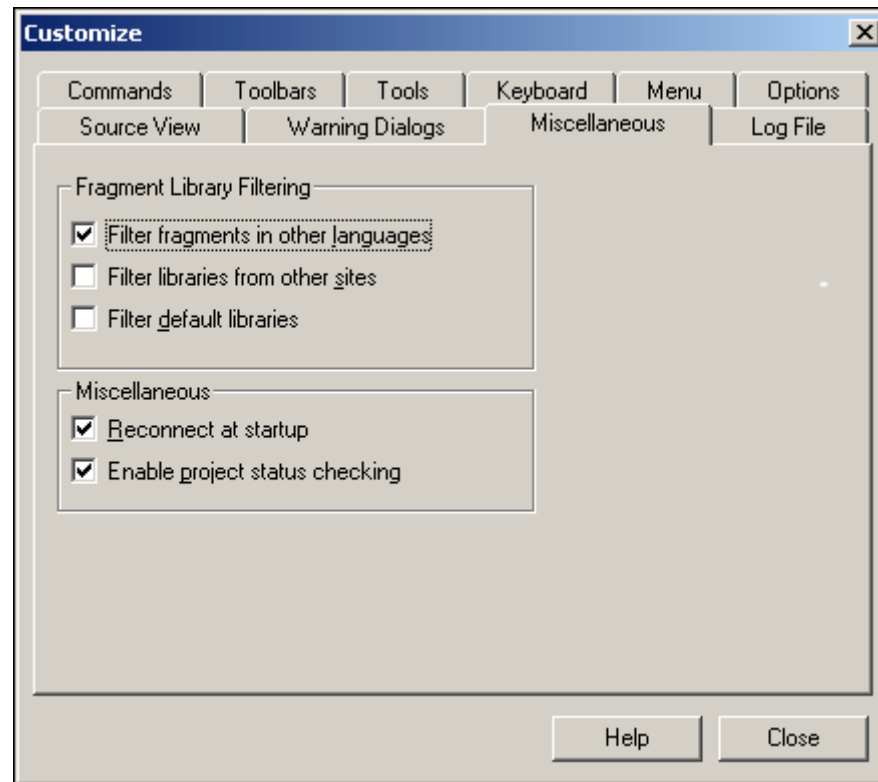


要素	説明
Enable Warning Dialogs	各警告メッセージの近くにチェック・ボックスを表示します。 警告メッセージを表示するにはチェック・ボックスを選択し、警告メッセージを非表示にするにはチェック・ボックスの選択を解除します。 デフォルトでは、デザイナーを初めて開く際に特定の警告メッセージが表示されます。
Check All	すべての警告メッセージが表示されるようにメッセージをすべて選択します。
Clear All	すべての警告メッセージが表示されないようにすべてのメッセージの選択を解除します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Close	「Customize」ダイアログを閉じます。

## A.1.9 「Customize」ダイアログ：「Miscellaneous」タブ

デザイナを開くと、最後に作業していたサイトに自動的に接続され、表示する特定のフラグメントがツールボックスにダウンロードされます。これらのオプションは、必要に応じて変更できます。

図 A-9 「Miscellaneous」タブのダイアログ

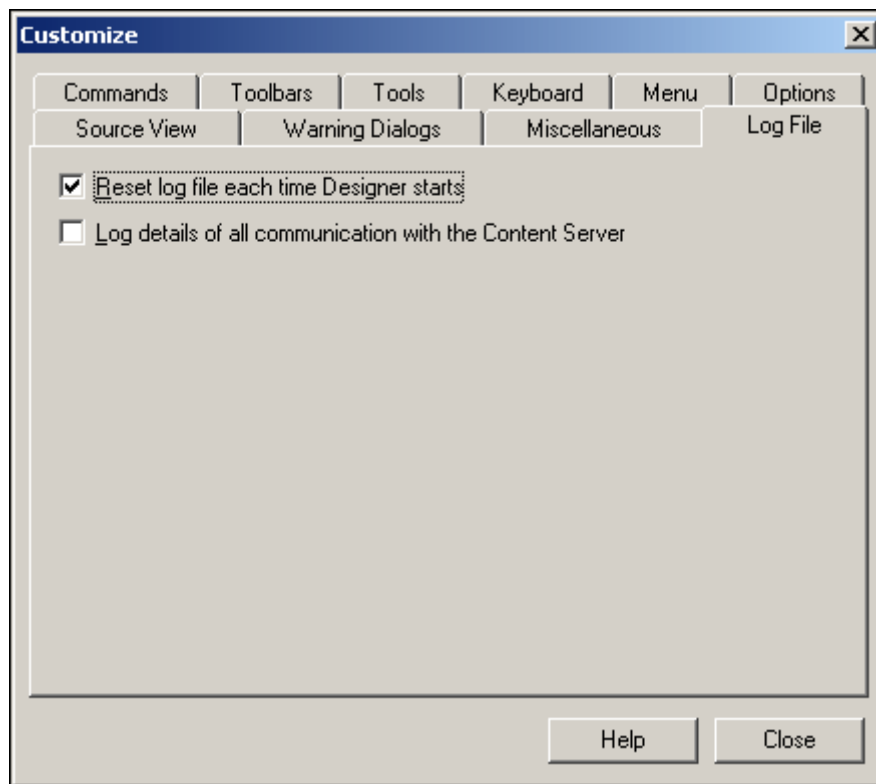


要素	説明
Filter fragments in other languages	選択すると、サイトと同じ言語で作成されたフラグメント（HCSP/JSP または ASP）のみがツールボックスに表示されます。
Filter fragments from other sites	（コンテンツ・サーバーの他のサイトではなく）使用するサイトに属するフラグメントのみがツールボックスに表示されます。 サイトの一部として識別されないフラグメント・ライブラリのフラグメントは、ツールボックスに表示されなくなります。フラグメントをサイトの一部にするには、「Fragment Libraries」カテゴリにそのフラグメントをサイト・アセットとして追加します。
Filter default libraries	（Site Studio に付属のデフォルトのフラグメントではなく）サイトに作成したフラグメントのみがツールボックスに表示されます。
Reconnect at startup	デザイナを開くと、最後に作業したサイトに自動的に接続します。
Enable project status checking	デザイナでの作業中に、プロジェクト・ステータス・アイコンが右下に表示され、サイト階層がコンテンツ・サーバーの最新のプロジェクト・ファイルと一致しているかどうかを知らせます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Close	「Customize」ダイアログを閉じます。

## A.1.10 「Customize」ダイアログ：「Log File」タブ

Site Studio では、サイトの詳細ログ・ファイルを作成します。このタブでは、ログの内容やログの詳細を制御できます。

図 A-10 「Log File」タブのダイアログ



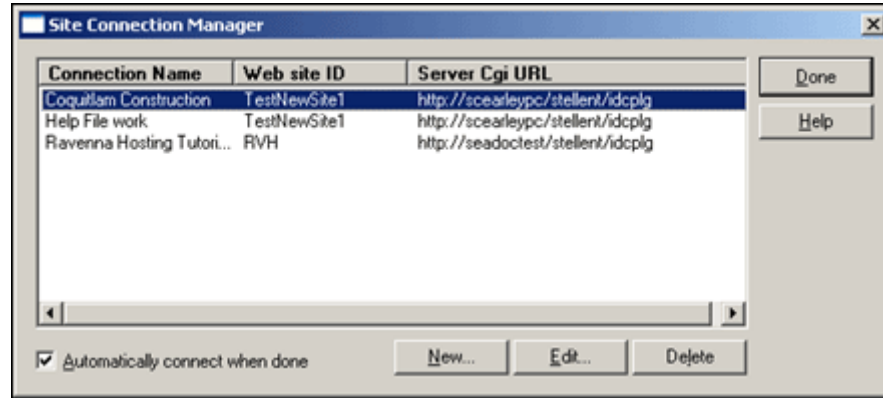
要素	説明
Reset log file each time Designer starts	デザイナを開始するたびにログ・ファイルを作成します。
Log details of all communication with the Content Server	コンテンツ・サーバーとのすべてのやり取りの詳細ログを作成します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Close	「Customize」ダイアログを閉じます。



## A.2 「Site Connection Manager」ダイアログ

デザイナーでは、コンテンツ・サーバーの Web サイトに接続するサイト接続を使用して、その Web サイトを更新します。このダイアログでは、サイト接続を作成、編集および削除できます。

図 A-11 「Site Connection Manager」ダイアログ



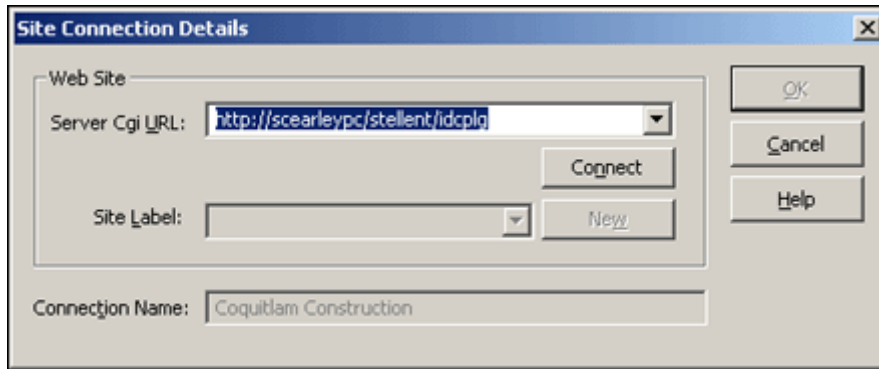
要素	説明
Connection Name   Web site ID   Server Cgi URL (ステータス領域)	各接続名、対応する Web サイト、およびコンテンツ・サーバーの CGI の URL を表示します。
Automatically connect when done	「Site Connection Manager」ダイアログを閉じると、(作成したサイト接続を使用して) サイトに自動的に接続します。
New	「Site Connection Details」ダイアログ (A-18 ページの「 <a href="#">「Site Connection Details」ダイアログ</a> 」を参照) を開きます。このダイアログでは、サイト接続を作成できます。
Edit	「Site Connection Details」ダイアログ (A-18 ページの「 <a href="#">「Site Connection Details」ダイアログ</a> 」を参照) を開きます。このダイアログでは、既存のサイト接続を編集できます。
Delete	既存のサイト接続を削除します。
Done	「Site Connection Manager」ダイアログを閉じ、「Automatically connect when done」を選択した場合は) ハイライト表示されたサイト接続を使用して Web サイトに接続します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

「Site Connection Manager」で Web サイトを編集または削除するには、最初にそのサイトへの接続を解除する必要があります。

## A.3 「Site Connection Details」 ダイアログ

デザイナーでは、コンテンツ・サーバーの Web サイトに接続するサイト接続を使用して、その Web サイトを更新します。このダイアログでは、サイト接続を作成および編集できます。サイト接続を作成する場合、サイトが存在するコンテンツ・サーバー、実際の Web サイトの名前、および接続名を特定します。

図 A-12 「Site Connection Details」 ダイアログ

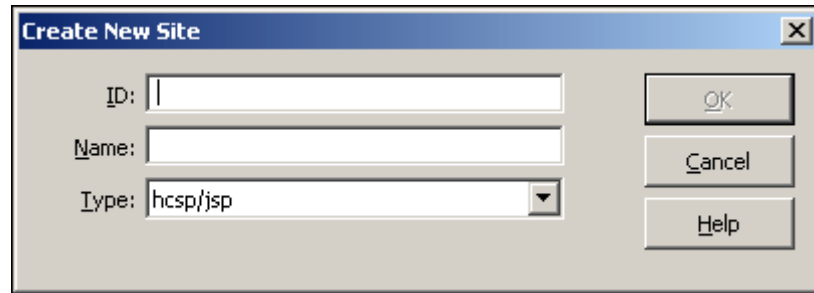


要素	説明
Server Cgi URL	Web サイトをホストするコンテンツ・サーバーのアドレス。 コンテンツ・サーバーの CGI の完全な URL アドレスを入力できます。または、メニューでプレースホルダ・アドレスを選択して、<server> を各自のサーバー名に置き換えます。
Connect	前述で指定した CGI の URL アドレスを使用してコンテンツ・サーバーに接続します。 サーバーに接続する際にログイン資格証明の入力が求められます。
Site Label	サーバーの既存の Web サイトを表示します。既存のサイトを選択するか、または「New」をクリックして新しいサイトを作成します。
New	「Create New Site」ダイアログ (A-19 ページの「 <a href="#">「Create New Site」ダイアログ</a> 」を参照) を開きます。このダイアログでは、Web サイトを作成できます。
Connection Name	デザイナーに表示される名前で、このサイト接続を特定します。 用意されているデフォルト名を使用するか、または新しい名前を入力できます。
OK	設定を保存して、「Site Connection Details」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Site Connection Details」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.4 「Create New Site」ダイアログ

デザイナーでは、コンテンツ・サーバーの Web サイトに接続するサイト接続を使用して、その Web サイトを更新します。このダイアログでは Web サイトを作成できます（「Site Connection Details」ダイアログ（A-18 ページの「[「Site Connection Details」ダイアログ](#)」を参照）からアクセスできます）。サイトを作成する場合、サイト ID、名前およびタイプを指定します。

図 A-13 「Create New Site」ダイアログ

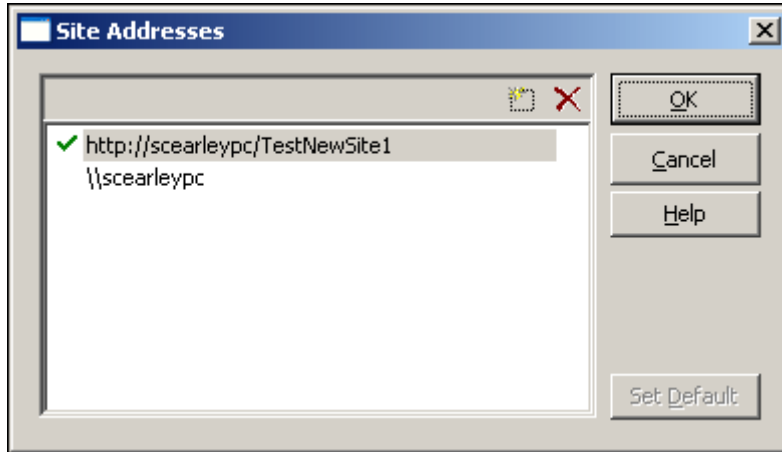




要素	説明
ID	Web サイトの ID。この ID を使用して、このサイトとそれに関連するコンテンツ・サーバーのファイルを一意に特定します（コンテンツ ID と混同しないでください）。  有効な文字のみを使用してください（空白、記号などは不可）。このダイアログでは、値の入力時に有効な文字の使用が強制されます。また、値は比較的短くなるようにします。  siteid フラグメント・パラメータまたは CSP を操作する際にこの ID が再表示されます。
Name	Web サイトの名前。  使用する名前は、コンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルのタイトルになります。これは、コンテンツ・サーバーの「Web Sites」メニューにサイトのタイトルとして表示されます。（この値がページ・テンプレートの TITLE タグに影響を与えることはありません。）
Type	Web サイトのタイプ（スクリプトの選択）。  <b>hjsp/jsp:</b> Idoc スクリプトまたは JavaServer Pages 対応 Web サイトを作成します。これにより、Site Studio での他の選択内容が決まります。  <b>asp:</b> Active Server Pages 対応 Web サイトを作成します。これにより、Site Studio での他の選択内容が決まります。  HCSP、JSP または ASP を使用して、Web サイトを作成できます。ただし、Site Studio 10gR4 に導入されたすべての機能およびアーキテクチャが組み込まれるのは、HCSP を使用して構築したサイトのみです。
OK	設定を保存して、「Create New Site」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Create New Site」ダイアログを閉じます。

## A.5 「Site Addresses」 ダイアログ

ドメインベースのアドレスまたはフォルダベースのアドレスを使用して、サイトを開くことができます。このダイアログでは、Web サイトを指し示す1つ以上のドメイン名を追加できます。

図 A-14 「Site Addresses」 ダイアログ



要素	説明
	Web サイトに解決するドメイン名を追加するには、このオプションをクリックします。 (これをクリックするとテキスト・ボックスが表示され、このボックスでアドレスを入力した後、 <b>[Enter]</b> を押します。)
	選択したサイト・アドレスを削除します。
Set Default	選択したアドレスをデフォルトのアドレスとして設定します。 デフォルトのアドレスは、Site Studio の複数の場面で使用されます。たとえば、デザイナーの接続、サイトのプレビュー、コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当てなどに使用されます。
OK	設定を保存して、「Site Addresses」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Site Addresses」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

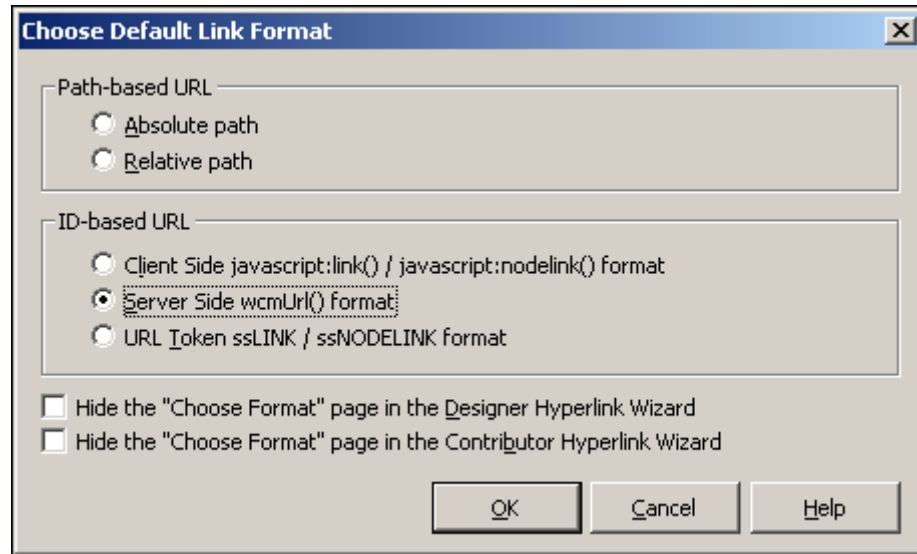
ドメイン名アドレスが機能するには、ネーム・サーバーでドメイン名 (DNS レコード) を適切に構成する必要があります。

このダイアログを初めて開いたときに表示されるデフォルトのフォルダ・アドレスは、サイトを初めて作成したときに Site Studio で使用されるフォルダ・アドレスです。

## A.6 「Choose Default Link Format」 ダイアログ

デザイナーやコントリビュータでハイパーリンクを作成する場合、リンクの形式に関する多くの選択肢があります。このダイアログでは、デザイナーやコントリビュータが使用するデフォルトのリンク形式を選択できます。また、このオプションが Link Wizard (A-36 ページの「[Link Wizard](#)」を参照) に表示されないように非表示にできます。

図 A-15 「Choose Default Link Format」 ダイアログ



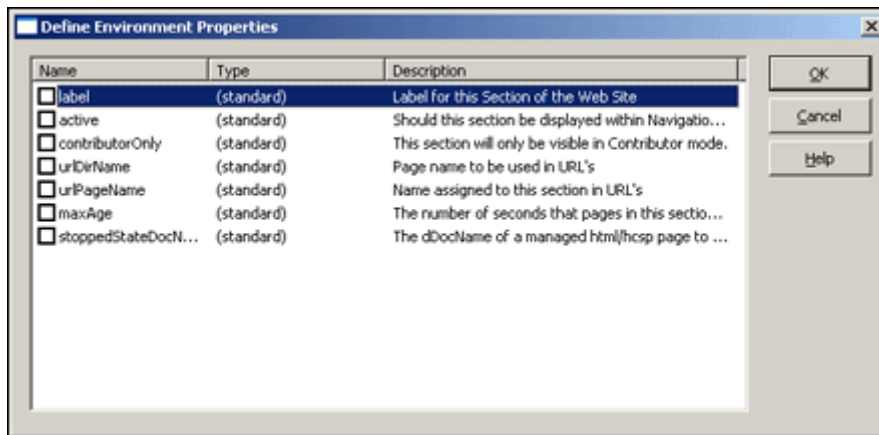
要素	説明
Path-based URL	<p><b>Absolute path:</b> フルパスを生成します。たとえば、<code>&lt;!--\$ssServerRelativeSiteRoot--&gt;products/index.htm</code> (<code>&lt;!--\$ssServerRelativeSiteRoot--&gt;</code> は、Web サイトのルートのパスに置き換えられる) のようになります。</p> <p><b>Relative path:</b> フルパスではなく相対パスを使用します。たとえば、<code>../products/index.htm</code> のようになります。</p>
ID-based URL	<p>セクション名やラベルを参照せずに、ターゲットの場所のハードコードされた ID が含まれます。次のオプションを選択します。</p> <p><b>Client Side javascript:link() / javascript:nodelink() format:</b> クライアント側の JavaScript およびターゲットの場所の ID を使用します。</p> <p><b>Server Side wcmUrl() format:</b> サーバー側の Idoc スクリプトおよびターゲットの場所の ID を使用します。</p> <p><b>URL Token ssLINK / ssNODELINK format:</b> Site Studio トークンおよびターゲットの場所の ID を使用します。</p>
Hide the "Choose Format" page in the Designer Hyperlink Wizard	デザイナー用の Create Hyperlink Wizard で「Create Hyperlink Wizard - Choose Format」画面 (A-38 ページの「 <a href="#">Link Wizard - 「Choose URL format」</a> 」を参照) が表示されないようにします。
Hide the "Choose Format" page in the Contributor Hyperlink Wizard	コントリビュータ用の Create Hyperlink Wizard で「Create Hyperlink Wizard - Choose Format」画面 (A-38 ページの「 <a href="#">Link Wizard - 「Choose URL format」</a> 」を参照) が表示されないようにします。
OK	設定を保存して、「Choose Default Link Format」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Choose Default Link Format」ダイアログを閉じます。

要素	説明
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

## A.7 「Define Environment Properties」 ダイアログ

Web サイトをレプリケートする場合、サイトのプロパティも、サーバーから次のサーバーにレプリケートされます。このダイアログでは、レプリケートされずに、ソース・サーバーに残るプロパティを指定できます。この設定を環境プロパティと言います。

図 A-16 「Define Environment Properties」 ダイアログ

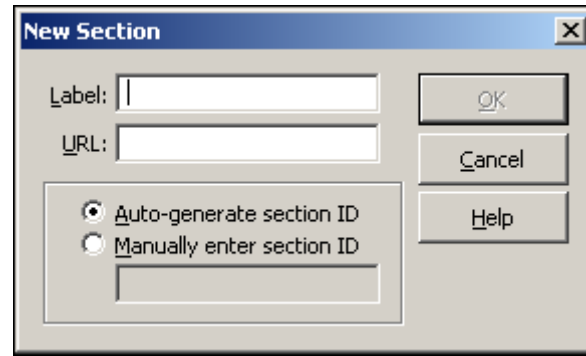


要素	説明
Name	プロパティの名前。 環境プロパティにする名前のおそばにあるボックスを選択します。
Type	プロパティのタイプ。
Description	プロパティの説明。
OK	設定を保存して、「Define Environment Properties」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Define Environment Properties」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.8 「New Section」 ダイアログ

サイト階層の各セクションには、ラベル、URL のディレクトリ名、およびセクション ID があります。これらの値は、サイト全体で繰り返し使用されます。セクションを初めて作成するときにこれらの値を選択でき、セクションを作成した後に（「Site Hierarchy」ペインと「Properties」ペインを使用して）値を編集できます。

図 A-17 「New Section」 ダイアログ

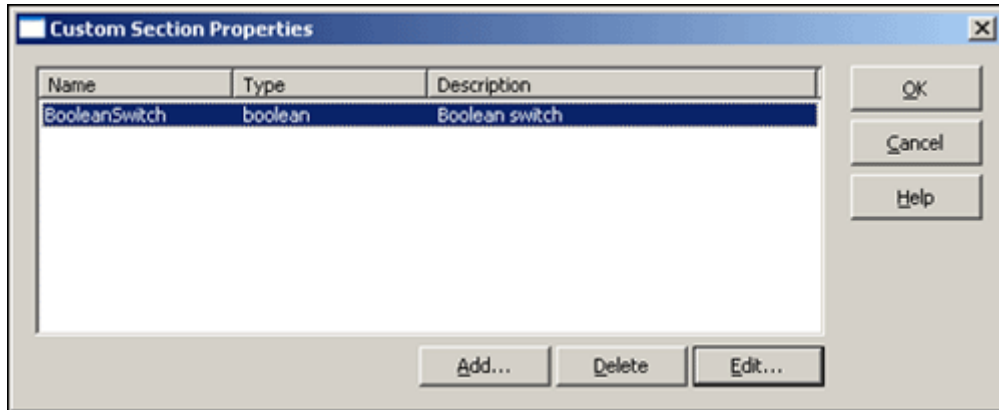


要素	説明
Label	セクション・ラベルは、Web サイトの「Site Hierarchy」ペインとナビゲーション・メニュー（ナビゲーション・フラグメントで生成）に表示されます。
URL	URL は Web ブラウザのアドレス・バーで使用され、セクションをターゲットとするすべての（パスベースの）ハイパーリンクに表示されます。この値では、空白や特殊文字は使用しないでください。Web サイトでリンクの問題が発生する可能性があります。 Site Studio では、ラベルを入力すると不正な文字が自動的にストリッピングされます。
Auto-generate section ID	セクションをターゲットとする特定の（ID ベースの）ハイパーリンクで使用されるセクション ID（nodeID と呼ばれる）を自動的に生成します。
Manually enter section ID	セクション ID（nodeID と呼ばれる）を自分で入力する場合に選択します。この値は、セクションをターゲットとする特定の（ID ベースの）ハイパーリンクで使用されます。
OK	設定を保存して、「New Section」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「New Section」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.9 「Custom Section Properties」 ダイアログ

サイト階層の各セクションには、プロパティ（ID、ラベル、デフォルトのプレースホルダ定義など）があります。この他に、カスタム・プロパティを作成し、Web サイトを変更してその値を読み取り、特定の機能を実行できます。ここでは、サイトに追加するカスタム・セクション・プロパティを示します。このダイアログを使用して、カスタム・セクション・プロパティの編集や削除を常時行うことができます。

図 A-18 「Custom Section Properties」 ダイアログ



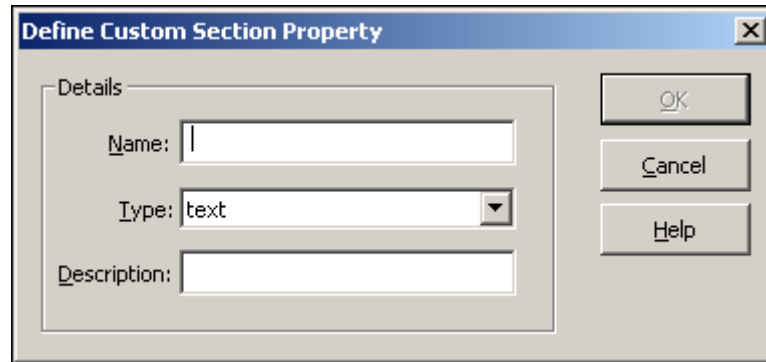
要素	説明
Name   Type   Description (表示領域)	既存のカスタム・セクション・プロパティを表示します。
Add	「Define Custom Section Property」ダイアログ（A-25 ページの「 <a href="#">「Define Custom Section Property」ダイアログ</a> 」を参照）を開きます。このダイアログでは、カスタム・セクション・プロパティを追加できます。
Delete	カスタム・セクション・プロパティを削除します。
Edit	「Define Custom Section Property」ダイアログ（A-25 ページの「 <a href="#">「Define Custom Section Property」ダイアログ</a> 」を参照）を開きます。このダイアログでは、カスタム・セクション・プロパティを編集できます。
OK	設定を保存して、「Define Custom Section Properties」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Define Custom Section Properties」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。



## A.10 「Define Custom Section Property」 ダイアログ

サイト階層の各セクションには、プロパティ（ID、ラベル、デフォルトのプレースホルダ定義など）があります。この他に、カスタム・プロパティを作成し、Web サイトを変更してその値を読み取り、特定の機能を実行できます。このダイアログを使用して、カスタム・セクション・プロパティの追加と編集を行うことができます。

図 A-19 「Define Custom Section Property」 ダイアログ



要素	説明
Name	カスタム・セクション・プロパティの名前。「Site Hierarchy」ペインでセクションを選択すると、この名前が「Properties」ペインに表示されます。
Type	このプロパティに対して行われるアクションのタイプ（フラグメント・パラメータの機能と似ています）。 <b>text:</b> テキストの追加に使用できる単純なテキスト・ボックスを表示します。 <b>bigtext:</b> テキストを追加および編集できる大きめのテキスト・ボックス（ポップアップ・ウィンドウ）を表示します。 <b>boolean:</b> 選択可能な値として「True」または「False」を表示します。 <b>integer:</b> 整数値を表示します。整数値では小数点は使用できません。 <b>float:</b> 小数点を含む値を表示します。 <b>size:</b> サイズの値をピクセルまたはパーセンテージで表示します。 <b>color:</b> RGB の 16 進数値 (0xFF0000 など) とカラー・ピッカーを表示します。 <b>url:</b> URL を参照してその URL を値として選択するダイアログ (A-36 ページの「Link Wizard - 「Choose type of link」」を参照) を表示します。 <b>manageddoc:</b> コンテンツ・サーバーのドキュメントを参照し、そのドキュメントを値 (dDocName) として選択するコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。 <b>managedurl:</b> コンテンツ・サーバーのドキュメントの URL を参照し、その URL を値として選択するコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。 <b>managedquery:</b> 問合せを作成できる「Edit Query Text」ダイアログ (A-48 ページの「Edit Query Text」ダイアログ」を参照) を開きます。 <b>cssstyle:</b> CSS スタイルの値を指定できるテキスト・ボックスを表示します。 <b>siteid:</b> コンテンツ・サーバーの Web サイトを選択するダイアログ (A-34 ページの「Select Site」ダイアログ」を参照) を表示します。 <b>nodeid:</b> サイト階層のセクションを選択するダイアログ (A-35 ページの「Select Section」ダイアログ」を参照) を開きます。
Description	「Properties」ペインの下部にプロパティの説明を表示するオプションの設定。
OK	カスタム・セクション・プロパティを追加して、「Define Custom Section Property」ダイアログを閉じます。

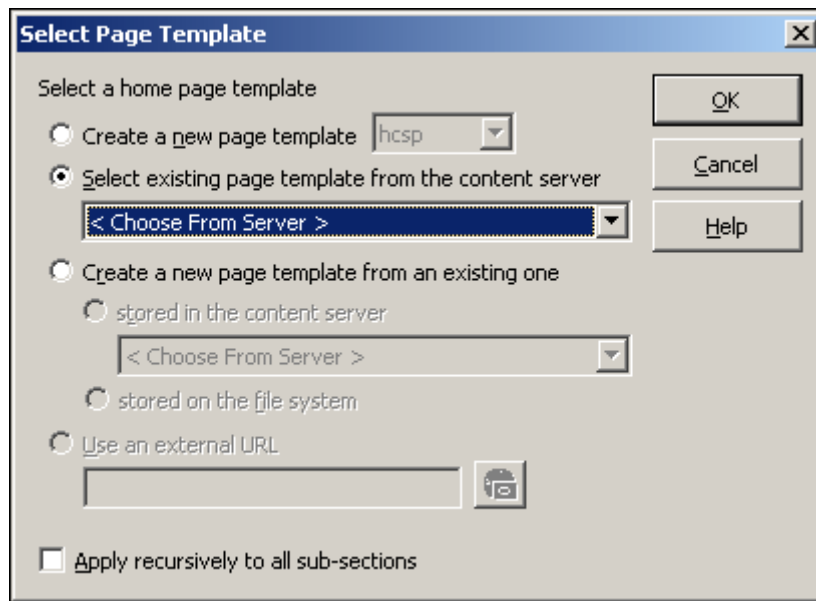
要素	説明
Cancel	設定をキャンセルして、「Define Custom Section Property」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

カスタム・セクション・プロパティを追加した後、サイト階層を経由して各セクションの値を入力する必要があります。その後、サイト・アセットを変更してカスタム・プロパティを読み取り、特定の機能を実行する必要があります。

## A.11 「Select (Home) Page Template」 ダイアログ

ホームページとプライマリ・ページは似ています。違いは、ホームページには Web サイトのいずれかのセクションではなくそのルートが関連付けられている点です。ホームページは、ビジターがサイトを訪問する際のデフォルト（ランディング）のページになります。このダイアログを使用して、ホームページを追加できます。

図 A-20 「Select Page Template」 ダイアログ



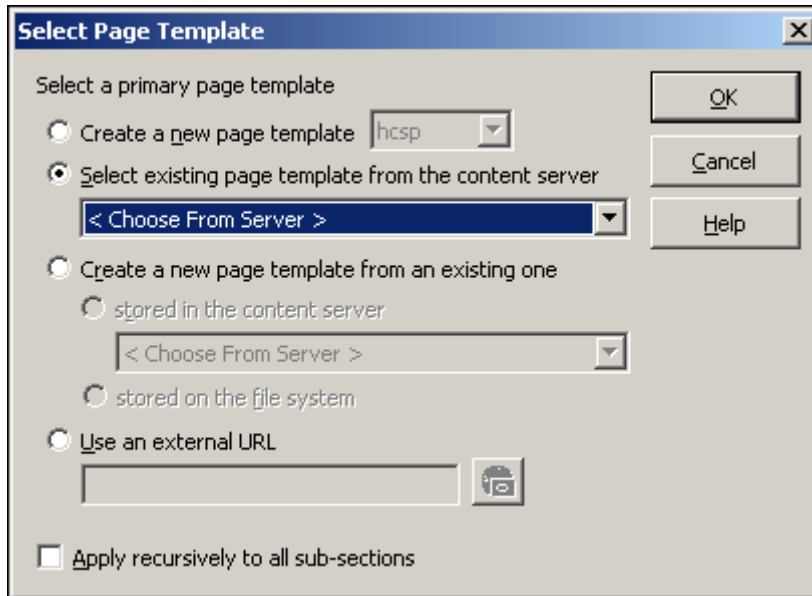
要素	説明
Create a new page template	次に指定するファイル拡張子でホームページを作成します。 <b>hcsp:</b> Idoc スクリプトの Web サイトに使用します。 <b>jsp:</b> JSP の Web サイトに使用します。 <b>asp:</b> ASP の Web サイトに使用します。 使用可能なファイル拡張子は、「Site Connection Details」ダイアログ (A-18 ページの「 <a href="#">「Site Connection Details」ダイアログ</a> 」を参照) で作成したサイトのタイプによって決まります。 HCSP、JSP または ASP を使用して、Web サイトを作成できます。ただし、10gR4 以降のリリースの機能が組み込まれるのは、HCSP を使用して構築したサイトのみです。ASP または JSP を使用して構築したサイトが特に必要になる場合を除き、ASP または JSP を使用して Web サイトを作成しないでください。

要素	説明
Select existing page template from the content server	Web サイトに（コンテンツ・サーバーの）既存のページ・テンプレートを追加して、そのテンプレートをホームページにします。ページ・テンプレートが最近作成したテンプレートの場合は、メニューから選択できます。最近作成したテンプレートではない場合は、このダイアログを終了し、コンテンツ・サーバーで「<Choose From Server>」を選択してテンプレートを参照します。
Create a new page template from an existing one	<p>既存のページ・テンプレートのコピーを作成して Web サイトに追加し、そのテンプレートをホームページにします。この場合、最初から設計を再作成するのではなく、別のページ・テンプレートを再利用するため時間を節約できます。</p> <p>この作成元のページ・テンプレートは、次の 2 つのソースのいずれかを元としています。</p> <p><b>stored in the content server:</b> コンテンツ・サーバーに保存されているページ・テンプレートを選択します。ページ・テンプレートが最近作成したテンプレートの場合は、メニューから選択できます。最近作成したテンプレートではない場合は、このダイアログを終了し、コンテンツ・サーバーで「&lt;Choose From Server&gt;」を選択してテンプレートを参照します。</p> <p><b>stored on the file system:</b> ファイル・システムに保存されているページ・テンプレートを選択します。このオプションは、ファイル・システム上のページ・テンプレートを作成し、それを再利用する場合は特に便利です。ただし、ファイルの拡張子は .hcsp、.jsp または .asp である必要があります。</p>
Use an external URL	このオプションは、プライマリ・ページ（A-28 ページの「 <a href="#">Select (Primary) Page Template</a> 」ダイアログを参照）にのみ適用されます。
Apply recursively to all subsections	<p>サイト階層のこのセクションの下にあるすべてのセクションに同じページ・テンプレートを適用します。</p> <p>これは、サイト階層の各セクションを開いて、ページ・テンプレートを追加し、「Select existing page template from the content server」を選択する場合と同じアクションになります。</p>
OK	「Select Page Template」ダイアログを閉じて、ページ・テンプレートと、サイト階層のルートを関連付けます。
Cancel	ページ・テンプレートと、サイト階層のルートを関連付けずに「Select Page Template」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.12 「Select (Primary) Page Template」 ダイアログ

ほとんどの場合、サイト階層の各セクションには、そのセクションのデフォルト（ランディング）のページとして機能するプライマリ・ページが含まれます。サイト階層の各セクションのプライマリ・ページを作成したり、サイト階層全体で同じプライマリ・ページを再利用したりすることができます。このダイアログでプライマリ・ページを追加できます。

図 A-21 「Select Page Template」 ダイアログ



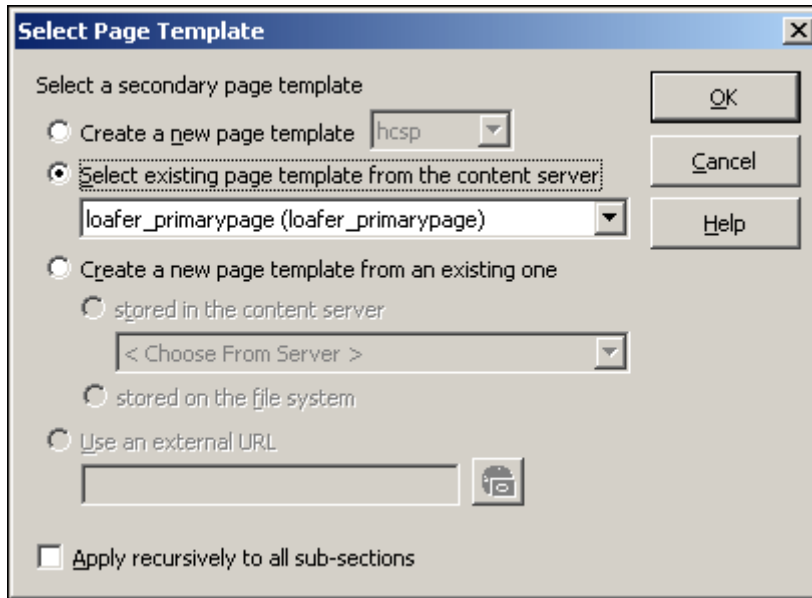
要素	説明
Create a new page template	次に指定するファイル拡張子を使用して、サイトのこのセクションのプライマリ・ページを作成します。 <b>hcsp:</b> Idoc スクリプトの Web サイトに使用します。 <b>jsp:</b> JSP の Web サイトに使用します。 <b>asp:</b> ASP の Web サイトに使用します。 使用可能なファイル拡張子は、作成したサイトのタイプによって決まります (A-18 ページの「 <a href="#">Site Connection Details</a> 」ダイアログを参照)。 HCSP、JSP または ASP を使用して、Web サイトを作成できます。ただし、10gR4 以降のリリースの機能が組み込まれるのは、HCSP を使用して構築したサイトのみです。ASP または JSP を使用して構築したサイトが特に必要な場合を除き、ASP または JSP を使用して Web サイトを作成しないでください。
Select existing page template from the content server	Web サイトにコンテンツ・サーバーの既存のページ・テンプレートを追加して、そのテンプレートをこのセクションのプライマリ・ページにします。ページ・テンプレートが最近作成したテンプレートの場合は、メニューから選択できます。最近作成したテンプレートではない場合は、このダイアログを終了し、コンテンツ・サーバーで「<Choose From Server>」を選択してテンプレートを参照します。

要素	説明
Create a new page template from an existing one	<p>既存のページ・テンプレートのコピーを作成して Web サイトに追加し、そのテンプレートをこのセクションのプライマリ・ページにします。この場合、最初から設計を再作成するのではなく、別のページ・テンプレートを再利用するため時間を節約できます。</p> <p>新しいページ・テンプレートの作成に使用するページ・テンプレートは、次の 2 つのソースのいずれかを元にしています。</p> <p><b>stored in the content server:</b> コンテンツ・サーバーに格納されたページ・テンプレートが使用されます。ページ・テンプレートが最近作成したテンプレートの場合は、メニューから選択できます。最近作成したテンプレートではない場合は、このダイアログを終了し、コンテンツ・サーバーで「&lt;Choose From Server&gt;」を選択してテンプレートを参照します。</p> <p><b>stored on the file system:</b> ファイル・システムに格納されたページ・テンプレートが使用されます。このオプションは、ファイル・システム上のページ・テンプレートを作成し、それを再利用する場合は特に便利です。ファイルの拡張子は .hjsp、.jsp または .asp である必要があります。</p>
Use an external URL	<p>ページ・テンプレートではなく、別の Web サイト（パートナ・サイトまたは部署レベルのサイト）の Web ページを使用します。ビジターがこのセクションに移動すると、ここで指定した URL に誘導されます。</p>
Apply recursively to all subsections	<p>このセクションの下にあるすべてのセクションに同じページ・テンプレートを適用します。これは、サイト階層のこのセクションの下にある各セクションを開いて、ページ・テンプレートを追加し、「Select existing page template from the content server」を選択する場合と同じアクションになります。</p>
OK	<p>「Select Page Template」ダイアログを閉じて、プライマリ・ページと、サイト階層のこのセクションを関連付けます。</p>
Cancel	<p>プライマリ・ページと、サイト階層のこのセクションを関連付けずに「Select Page Template」ダイアログを閉じます。</p>
Help	<p>このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。</p>

## A.13 「Select (Secondary) Page Template」 ダイアログ

ほとんどの場合、セカンダリ・ページは、アイテムのリストや、検索で見つかったアイテムのリストを表示するために使用されます。また、セカンダリ・ページは、コントリビュータがサイトに追加したファイル（データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）の背景として機能します。そのため、Web サイトへのファイルの追加をコントリビュータに許可した場合のみセカンダリ・ページが必要になります。セカンダリ・ページは、サイトのルートおよびサイトのセクションに追加できます。さらに、セカンダリ・ページを作成したり、別のセクションからセカンダリ・ページを再利用したりすることができます。このダイアログでセカンダリ・ページを追加します。

図 A-22 「Select Page Template」 ダイアログ



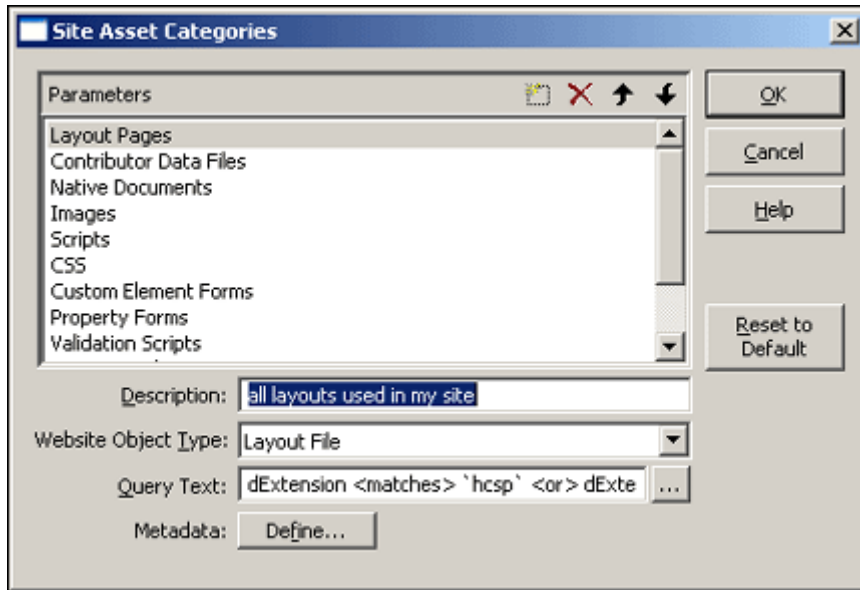
要素	説明
Create a new page template	次に指定するファイル拡張子を使用して、サイトのこのセクションのセカンダリ・ページを作成します。 <b>hcsp</b> : Idoc スクリプトの Web サイトに使用します。 <b>jsp</b> : JSP の Web サイトに使用します。 <b>asp</b> : ASP の Web サイトに使用します。 使用可能なファイル拡張子は、作成したサイトのタイプによって決まります (A-18 ページの「 <a href="#">Site Connection Details</a> 」ダイアログを参照)。 HCSP、JSP または ASP を使用して、Web サイトを作成できます。ただし、10gR4 以降のリリースの機能が組み込まれるのは、HCSP を使用して構築したサイトのみです。ASP または JSP を使用して構築したサイトが特に必要になる場合を除き、ASP または JSP を使用して Web サイトを作成しないでください。
Select existing page template from the content server	Web サイトにコンテンツ・サーバーの既存のページ・テンプレートを追加して、そのテンプレートをこのセクションのセカンダリ・ページにします。ページ・テンプレートが最近作成したテンプレートの場合は、メニューから選択できます。最近作成したテンプレートではない場合は、このダイアログを終了し、コンテンツ・サーバーで「<Choose From Server>」を選択してテンプレートを参照します。

要素	説明
Create a new page template from an existing one	<p>既存のページ・テンプレートのコピーを作成して Web サイトに追加し、そのテンプレートをこのセクションのセカンダリ・ページにします。この場合、最初から設計を再作成するのではなく、別のページ・テンプレートを再利用するため時間を節約できます。</p> <p>新しいページ・テンプレートの作成に使用するページ・テンプレートは、次の2つのソースのいずれかを元としています。</p> <p><b>stored in the content server:</b> コンテンツ・サーバーに格納されたページ・テンプレートが使用されます。ページ・テンプレートが最近作成したテンプレートの場合は、メニューから選択できます。最近作成したテンプレートではない場合は、このダイアログを終了し、コンテンツ・サーバーで「&lt;Choose From Server&gt;」を選択してテンプレートを参照します。</p> <p><b>stored on the file system:</b> ファイル・システムに格納されたページ・テンプレートが使用されます。このオプションは、ファイル・システム上のページ・テンプレートを作成し、それを再利用する場合は特に便利です。ファイルの拡張子は .hcsp、.jsp または .asp である必要があります。</p>
Use an external URL	このオプションは、プライマリ・ページ (A-28 ページの「「Select (Primary) Page Template」ダイアログ」を参照) にのみ適用されます。
Apply recursively to all subsections	このセクションの下にあるすべてのセクションに同じページ・テンプレートを適用します。これは、サイト階層のこのセクションの下にある各セクションを開いて、ページ・テンプレートを追加し、「Select existing page template from the content server」を選択する場合と同じアクションになります。
OK	「Select Page Template」ダイアログを閉じて、セカンダリ・ページと、サイト階層のこのセクションを関連付けます。
Cancel	セカンダリ・ページと、サイト階層のこのセクションを関連付けずに「Select Page Template」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.14 「Site Asset Categories」 ダイアログ

「Site Asset Categories」ダイアログを使用して、デザイナーでカテゴリをカスタマイズしたり、カテゴリを「Site Assets」ペインに追加したりします。

図 A-23 「Site Asset Categories」 ダイアログ



要素	説明
	カテゴリを作成します。(テキスト・ボックスが表示され、このボックスでカテゴリを入力した後、キーボードの <b>[Enter]</b> を押します。)
	既存のカテゴリを削除します。(そのカテゴリ内の既存のファイルはコンテンツ・サーバーから削除されません。)
	リストの選択したカテゴリを上に移動します。
	リストの選択したカテゴリを下に移動します。
Description	アセット・カテゴリを説明します。
Website Object Type	アセットの Web サイト・オブジェクト・タイプを示します。
Query Text	<p>コンテンツ・サーバーで実行される問合せ。このカテゴリに属するアセットを表示します。</p> <p>通常、問合せによって (前述の) 適切なタイプが含まれるアセットがすべて取得されますが、この値を使用して、このカテゴリに表示されるアセットをさらにカスタマイズできます。</p> <p>「Additional Information」ボタンにより、「Edit Query Text」ダイアログ (A-48 ページの「<a href="#">「Edit Query Text」ダイアログ</a>」を参照) が開き、このダイアログでカスタム問合せの指定、テストおよび取得を行います。</p>
Metadata	<p>クリックして「Enable Metadata Modification」ダイアログ (A-33 ページの「<a href="#">「Enable Metadata Modification」ダイアログ</a>」を参照) を開きます。このダイアログでは、「Site Assets」ペインを使用してアセットを追加する際の特定のメタデータを使用可能にできます。</p>
OK	設定を保存して、「Site Asset Categories」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Site Asset Categories」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。



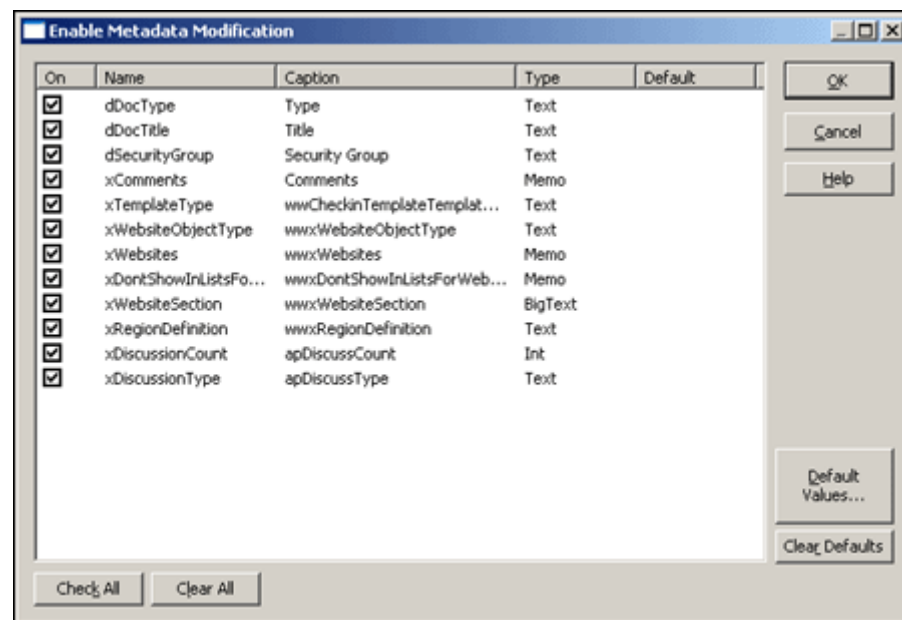
要素	説明
Reset to Default	デフォルトの「Site Asset」カテゴリをリセットします（作成したカテゴリを削除します）。

サイト・アセットを「Site Assets」ペインに表示するには、コンテンツ・サーバーで適切な「Websites」メタデータと「Website Object Type」メタデータをそのサイト・アセットに割り当てる必要があります。

## A.15 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ

「Site Assets」ペインを使用してアセットを追加するときに使用可能なメタデータを指定できます。また、新しい各アセットに割り当てられるデフォルトのメタデータも指定できます。

図 A-24 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ



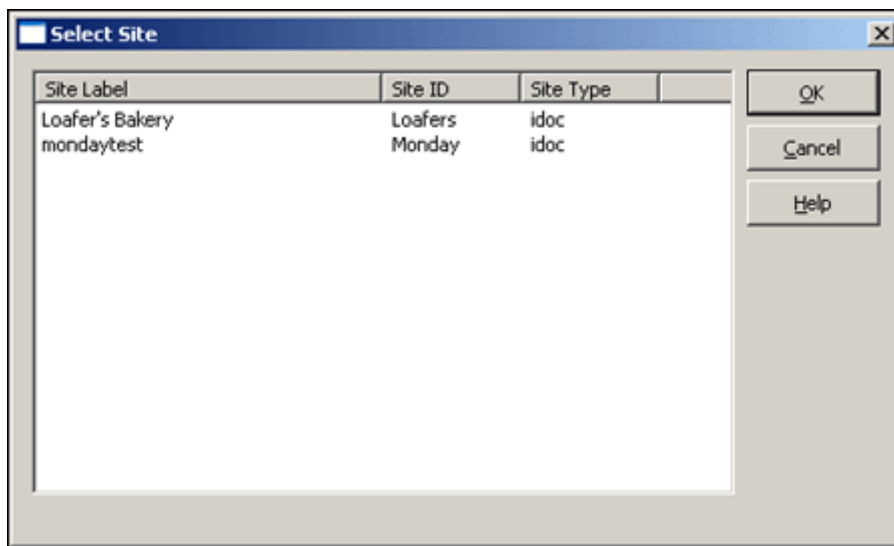
要素	説明
On   Name   Caption   Type   Default (表示領域)	コンテンツ・サーバーの各メタデータ値のチェック・ボックスを表示します。コントリビュータ・データ・ファイルを保存するときに各メタデータの値の変更をコントリビュータに許可するには、その値のそばにあるボックスを選択します。または、コントリビュータがそのメタデータの値を変更できないようにする場合は、そのチェック・ボックスの選択を解除します。  「Default」列には、デフォルトで割り当てられるメタデータの値が表示されます（次の「Default Values」ボタンを参照）。
Check All	メタデータの値をすべて選択して、「Site Assets」ペインでファイルを追加するときにそれらの値がすべて使用できるようにします。
Clear All	すべてのメタデータの値の選択を解除して、「Site Assets」ペインでファイルを追加するときにそれらの値をすべて変更できないようにします。
OK	設定を保存して、「Enable Metadata Modification」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Enable Metadata Modification」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

要素	説明
Default Values	(コンテンツ・サーバーで)「Assign Info Form」を開きます。ここでは、「Site Assets」 ペインで追加したサイト・アセットに割り当てられるデフォルトのメタデータを指定します。これは、「Enable Metadata Modification」ダイアログでいずれかのメタデータの値を無効にした場合は特に重要です。
Clear Defaults	デフォルトのメタデータ値の選択を解除します。
Profile Trigger Value	Content Server 上のプロフィールを入力して、選択したプロフィールの設定を有効にするボックスを表示します。このフィールドは、プロフィールが Content Server で有効な場合のみ表示されます。

## A.16 「Select Site」 ダイアログ

コンテンツの一部が表示される、コンテンツ・サーバーの Web サイト (ターゲットの場所とも呼ばれる) を指定する必要がある場合にこのダイアログを使用します。たとえば、siteid タイプのフラグメント・パラメータやカスタム・セクション・プロパティ内などの場所になります。

図 A-25 「Select Site」 ダイアログ

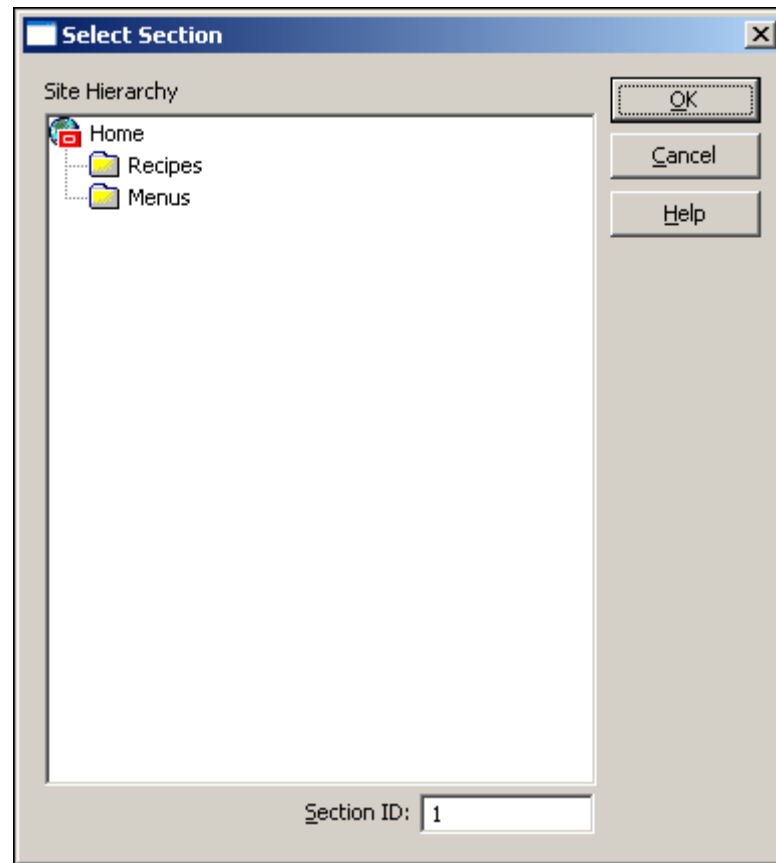


要素	説明
Site Label   Site ID   Site Type	コンテンツ・サーバーの使用可能な Web サイトを表示します。 使用する Web サイトを選択します。
OK	設定を保存して、「Select Site」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Select Site」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.17 「Select Section」 ダイアログ

コンテンツの一部が表示される場所を特定する場合（nodeid タイプのフラグメント・パラメータの値を指定する場合など）、ターゲットの場所として Web サイト上のセクションを選択する必要があります。このダイアログでセクションを選択できます。

図 A-26 「Select Section」 ダイアログ



要素	説明
Site Hierarchy	サイト階層の使用可能なセクションを表示します。 セクションをクリックして値として使用します。
Section ID	セクションのノード ID。Site Hierarchy ウィンドウでセクションを選択すると、値が自動的に挿入されます。 値を手動で入力することもできます。
OK	設定を保存して、「Select Section」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Select Section」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.18 Link Wizard

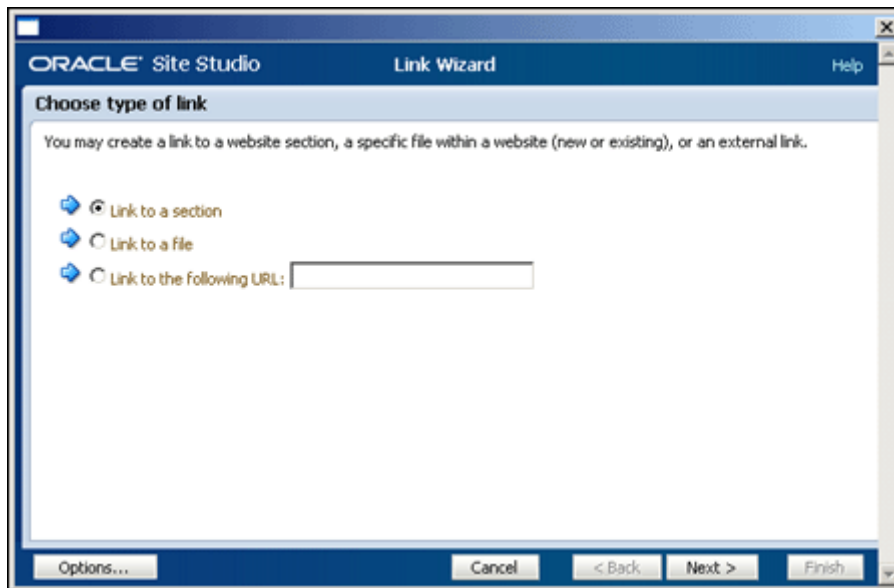
Link Wizard を使用して、使用するサイトや他のサイトの様々な場所への各種リンクを作成できます。

- A-36 ページの「Link Wizard - 「Choose type of link」」
- A-37 ページの「Link Wizard - 「Choose a section」」
- A-38 ページの「Link Wizard - 「Choose URL format」」
- A-39 ページの「Link Wizard - 「Choose content file」」
- A-40 ページの「Link Wizard - 「Choose target section」」
- A-41 ページの「Link Wizard - 「Check-in content」」
- A-42 ページの「Link Wizard - 「Confirm link」」
- A-43 ページの「Link Wizard - 「Link Target Options」」

### A.18.1 Link Wizard - 「Choose type of link」

Link Wizard で最初に表示される画面では、リンク・タイプの選択が求められます。ここでの選択内容に応じて、ウィザードに表示されるオプションが異なります。

図 A-27 Link Wizard - 「Choose type of link」ダイアログ



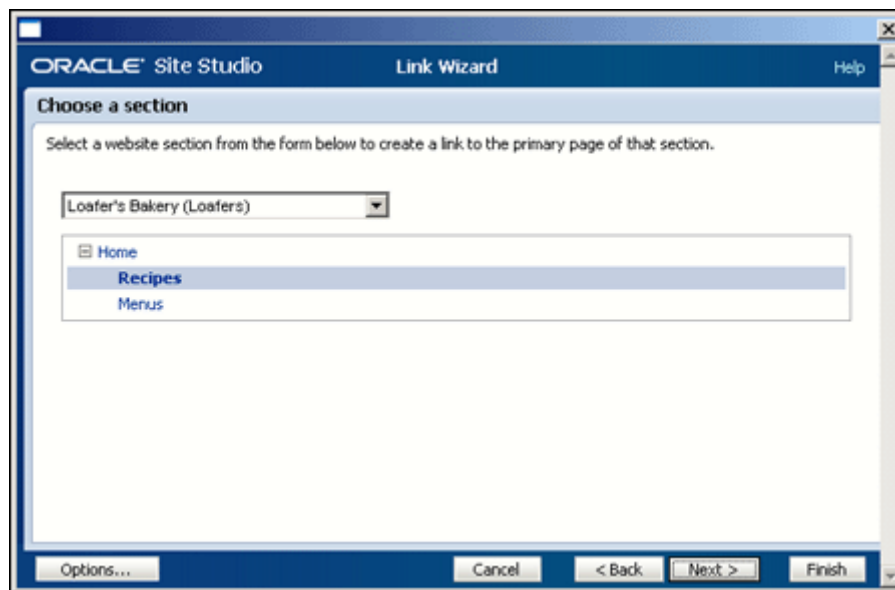
要素	説明
Link to a section	使用するサイト上の別のセクションへのリンク、またはコンテンツ・サーバーの別のサイトのセクションに対するリンクを作成します。
Link to a file	使用するサイト、またはコンテンツ・サーバーの別のサイトのコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントへのリンクを作成します。 このオプションを後で使用して、新規または既存のファイルへのリンクを作成できます。
Link to following URL	このテキスト・ボックスで指定する URL へのリンクを作成します。
Cancel	設定をキャンセルして、Link Wizard を閉じます。

要素	説明
Back	この画面では無効です。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.18.2 Link Wizard - 「Choose a section」

Link Wizard のこの画面では、リンク先のセクションを特定します。

図 A-28 Link Wizard - 「Choose a section」 ダイアログ

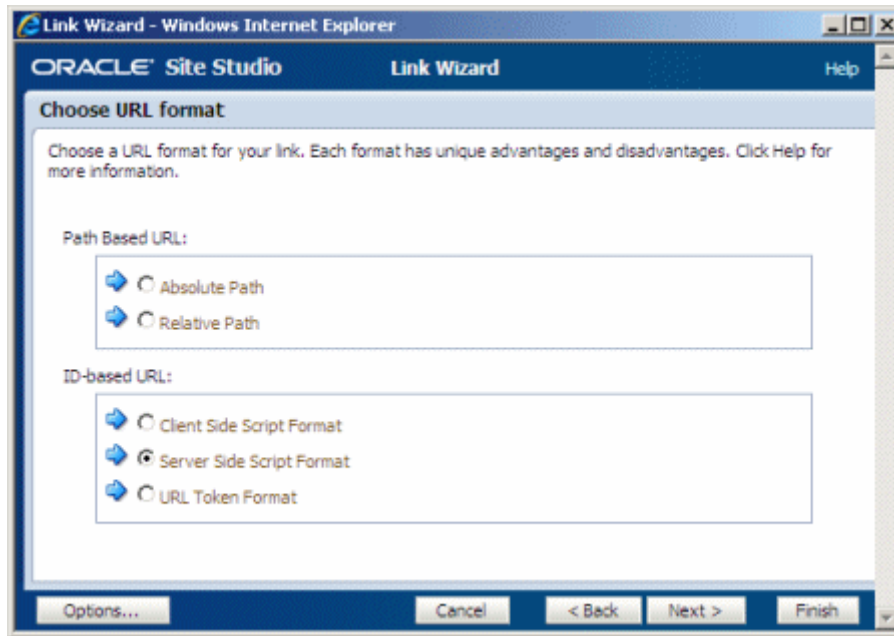


要素	説明
Menu	リンク先として作成できる、コンテンツ・サーバーの使用可能なサイトをリストします。
Site hierarchy window	リンク先として作成できる、(前述の) 選択したサイトのセクションをリストします。
Cancel	設定をキャンセルして、Link Wizard を閉じます。
Back	ウィザードの前の画面に移動します。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Finish	ウィザードを終了して、リンクを挿入します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.18.3 Link Wizard - 「Choose URL format」

Link Wizard では、ハイパーリンク用の様々なリンク形式を使用できます。各形式にはメリットとデメリットがあります。

図 A-29 Link Wizard - 「Choose URL format」 ダイアログ



要素	説明
Path Based URL	<p>リンクには、ターゲットの場所のパスが含まれます。このタイプのリンクには次の2つの選択肢があります。</p> <p><b>Absolute path:</b> フルパスを生成します。たとえば、<code>&lt;!--\$ssServerRelativeSiteRoot--&gt;products/index.htm</code> (<code>&lt;!--\$ssServerRelativeSiteRoot--&gt;</code> は、Web サイトのルートに置き換えられる) のようになります。</p> <p><b>Relative Path:</b> フルパスではなく相対パスを生成します。たとえば、<code>../products/index.htm</code> のようになります。</p>
ID-based URL	<p>リンクには、パスベースの名前ではなく、ターゲットの場所のコード化されたIDが含まれます。このタイプのリンクには3つの選択肢があります。</p> <p><b>Client Side Script Format:</b> クライアント側の JavaScript を使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、<code>javascript:nodelink('123');</code>、<code>avascript:link('myfile');</code> または <code>javascript:link('myfile','123');</code> のようになります。</p> <p><b>Server Side Script Format:</b> サーバー側の Idoc スクリプトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、<code>&lt;!--\$ssNodeLink("123")--&gt;</code>、<code>&lt;!--\$ssLink("myfile")--&gt;</code> または <code>&lt;!--\$ssLink("myfile","123")--&gt;</code> のようになります。</p> <p><b>URL Token Format:</b> サーバーでリダイレクトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します。たとえば、<code>ssNODELINK/123</code>、<code>ssLINK/myfile</code> または <code>ssLINK/123/myfile</code> のようになります。</p>
Cancel	設定をキャンセルして、Link Wizard を閉じます。
Back	ウィザードの前の画面に移動します。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。

要素	説明
Finish	ウィザードを終了して、リンクを挿入します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

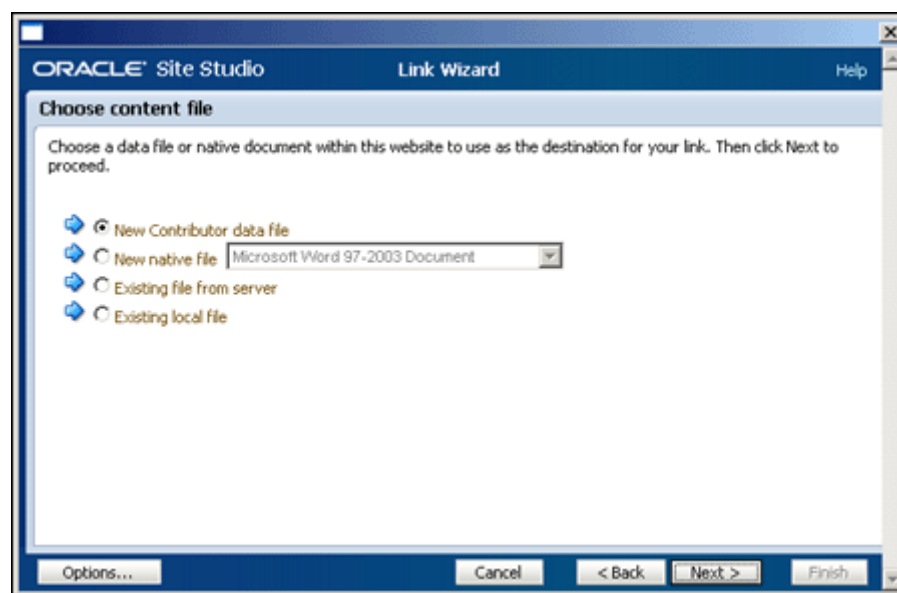
同じ形式を常に選択することが分かっている場合は、「Choose Default Link Format」ダイアログ (A-21 ページの「[「Choose Default Link Format」ダイアログ](#)」を参照) を使用して、デザイナーとコントリビュータにこの画面が再表示されないように非表示にしておくことができます。

「Path Based URL」オプションは、以前の画面で選択した内容に応じて無効にできます (たとえば、ファイルへのリンクを作成する際にターゲット・セクションとして「Web Site Section」メタデータを選択した場合などです)。

## A.18.4 Link Wizard - 「Choose content file」

Link Wizard では、新規または既存のコントリビュータ・データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントへのリンクを作成できます。新規ファイルへのリンクを作成する場合、リストからファイル・タイプを選択でき、Site Studio によってそのタイプがチェックインされます。既存のファイルを選択した場合は、コンテンツ・サーバーからファイルを選択するか、またはローカルでファイルを参照できます。

図 A-30 「Choose content file」ダイアログ



要素	説明
New Contributor data file	リンクのターゲットとなる新しいコントリビュータ・データ・ファイルをチェックインする場合に選択します。
New native file	リンクのターゲットとなる新しいネイティブ・ドキュメントをチェックインする場合に選択します。 メニューからネイティブ・ドキュメントのタイプを選択します。
Existing file from server	サーバー上の現在の Web サイトに関連付けられたファイルを表示する場合に選択します。 選択されたファイルがリンクのターゲットとなります。
Existing local file	リンクのターゲットとなるローカル・ファイルをチェックインする場合に選択します。

要素	説明
Current item	現在のファイルをリンクのターゲットとして選択する場合に選択します。
Cancel	設定をキャンセルして、Link Wizard を閉じます。
Back	ウィザードの前の画面に移動します。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

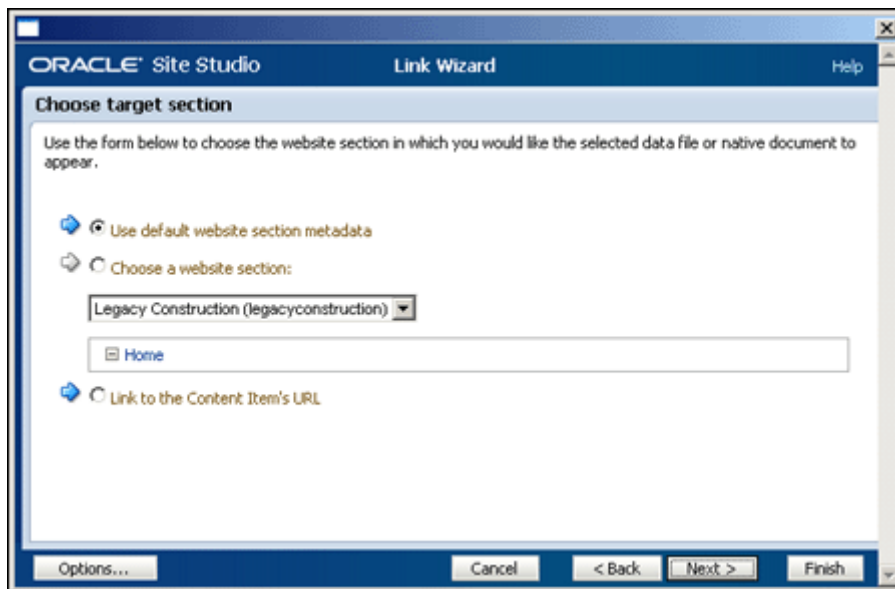
Link Wizard を使用して、ファイルの選択やサイトへのファイルの追加を行う場合、Site Studio では、そのファイルがサイトの構成要素として認識されるように、ファイルに適切なメタデータを自動的に割り当てます。

## A.18.5 Link Wizard - 「Choose target section」

Link Wizard では、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントへのリンクを作成し、リンクをクリックしたときにそのファイルが Web サイトのどこに表示されるかを制御できます。そのファイルが実際に Web サイトまたはコンテンツ・サーバーのどこに格納されているかは関係ありません。使用するサイトまたは別のサイト上のどの場所も指定できます。

あるいは、Web サイトでファイルが現在使用されているセクションを Site Studio で特定することもできます。

図 A-31 Link Wizard - 「Choose target section」ダイアログ



要素	説明
Use default website section metadata	ファイルは、そのファイルが格納されているセクションに表示されます（「xWebsiteSection」で定義されたメタデータを使用します）。この値を選択した場合は、次の画面で ID ベースのリンク形式を使用する必要があります。
Choose a website section	ファイルは、メニューで指定するセクションに表示されます。



要素	説明
Menu	コンテンツ・サーバーの使用可能なサイトをリストします。 このうちのいずれかのサイトを、ファイルのターゲットの場所として選択します。
Site hierarchy window	(前述の) 選択したサイトで使用可能なセクションをリストします。 このうちのいずれかのセクションを、ファイルのターゲットの場所として選択します。
Link to the Content Item's URL	作成されたリンクは、アイテムの Web レイアウト URL に直接リンクされます。
Options	リンク・オプションのダイアログを開きます (A-43 ページの「Link Wizard - 「Link Target Options」」を参照)。
Cancel	設定をキャンセルして、Link Wizard を閉じます。
Back	ウィザードの前の画面に移動します。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Finish	ウィザードを終了して、リンクを挿入します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.18.6 Link Wizard - 「Check-in content」

新規ファイルへのリンクを作成する場合、またはローカルでホストされているファイルにリンクしている場合、アイテムがコンテンツ・サーバーにチェックインされます。ウィザードのこのセクションは、必要なコンテンツ・サーバー・データをすべて収集するために使用します。赤でマークされたフィールドはすべて必須です。つまり、アイテムをチェックインするには、これらのフィールドに値を入力する必要があります。

図 A-32 Link Wizard - 「Check-in content」 ダイアログ

The screenshot shows the 'Check-in content' dialog box within the Oracle Site Studio Link Wizard. The dialog has a title bar with 'Link Wizard' and 'ORACLE Site Studio Link Wizard'. Below the title bar, there is a 'Help' button. The main area contains the following fields:

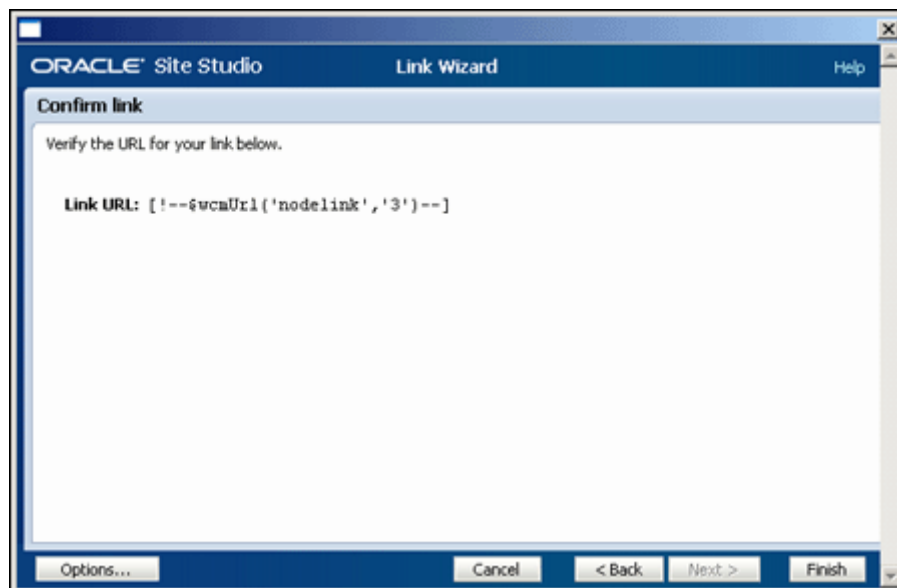
- \* Content ID: [Empty text box]
- \* Type: [ADACCT - Acme Accounting Department (dropdown)]
- \* Title: [Contributor Data File (text box)]
- \* Author: [sysadmin (text box) | sysadmin (dropdown)]
- \* Security Group: [Public (dropdown)]
- \* Primary File: [default.xml (text box)]
- \* Revision: [1 (text box)]
- Comments: [Empty text box with vertical scrollbar]

At the bottom of the dialog, there are five buttons: 'Options...', 'Cancel', '< Back', 'Next >', and 'Finish'.

## A.18.7 Link Wizard - 「Confirm link」

Link Wizard の最後の画面では、ハイパーリンクの表示状況を確認できます。

図 A-33 Link Wizard - 「Confirm link」 ダイアログ

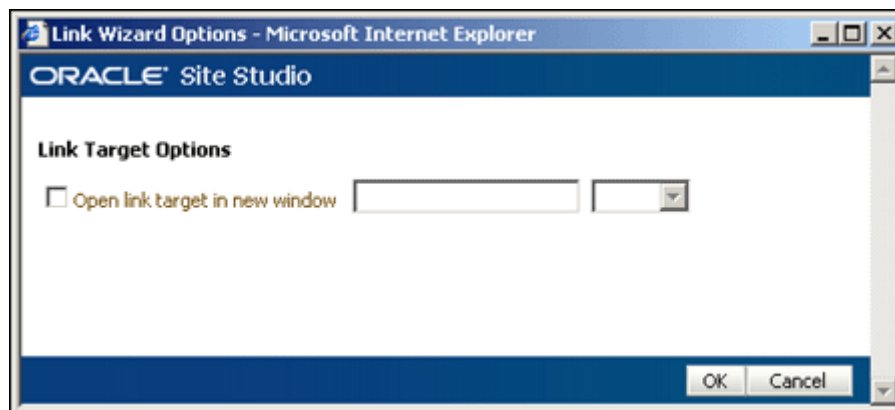


要素	説明
Link URL	生成されたリンクの表示状況を示します。 このリンクをそのまま表示したり、リンクをコピーして別のファイルに貼り付けたりすることができます。
Options	リンク・オプションのダイアログを開きます (A-43 ページの「 <a href="#">Link Wizard - 「Link Target Options」</a> 」を参照)。
Cancel	設定をキャンセルして、Link Wizard を閉じます。
Back	ウィザードの前の画面に移動します。
Finish	ウィザードを終了して、リンクを挿入します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.18.8 Link Wizard - 「Link Target Options」

リンクのオプションは、ウィザードのどの時点からでも、この小さなダイアログを表示して使用できます。ここでは、リンクを新しいウィンドウで開くかどうかを制御できます。

図 A-34 Link Wizard - 「Link Target Options」



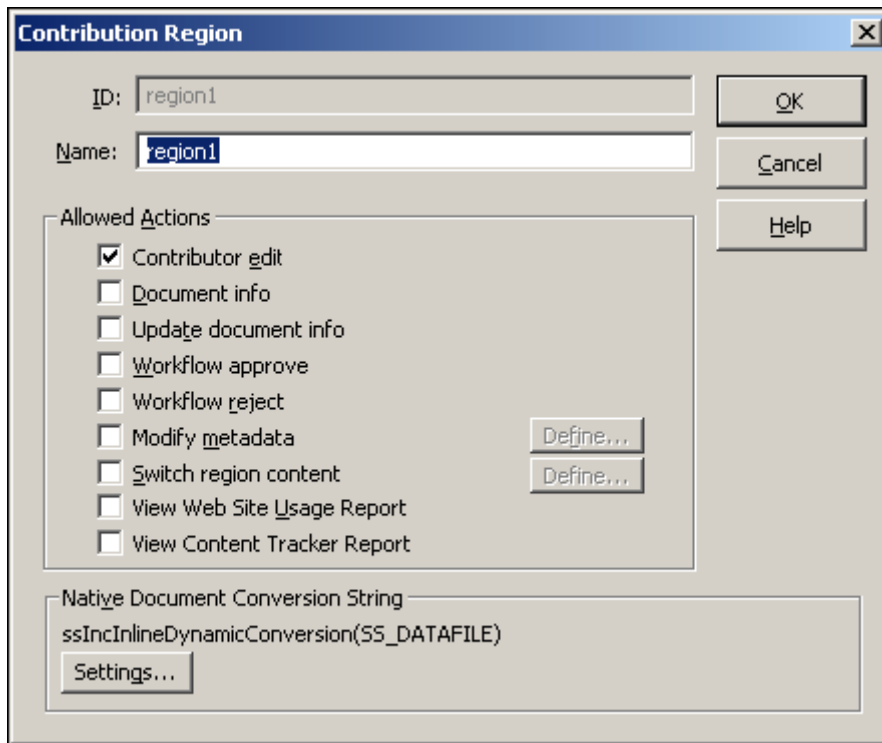
要素	説明
Open link target in new window	選択した場合、リンクは新しいブラウザ・ウィンドウで開きます。 _blank: リンクが開くときに指定される値。
OK	入力したオプションを承認し、ダイアログの表示元の画面に戻ります。
Cancel	設定をキャンセルして、「Link Target Options」ダイアログを閉じます。

ビジターがリンクをクリックしたときに意図せずに Web ページから離れてしまうことを防ぐには、「Open link target in new window」の選択が便利です。

## A.19 「Contribution Region」 ダイアログ

コントリビューション・リージョンを使用すると、コントリビュータはコントリビュータ・アプリケーションまたはサード・パーティ製アプリケーション（ネイティブ・ドキュメントを使用する場合）を使用して、Web ページの一部を編集できます。このダイアログでは、ページ・テンプレートへのコントリビューション・リージョンの追加、コントリビュータが使用可能なオプションの指定、およびドキュメント変換設定のカスタマイズ（ネイティブ・ドキュメントの場合）を行うことができます。

図 A-35 「Contribution Region」 ダイアログ



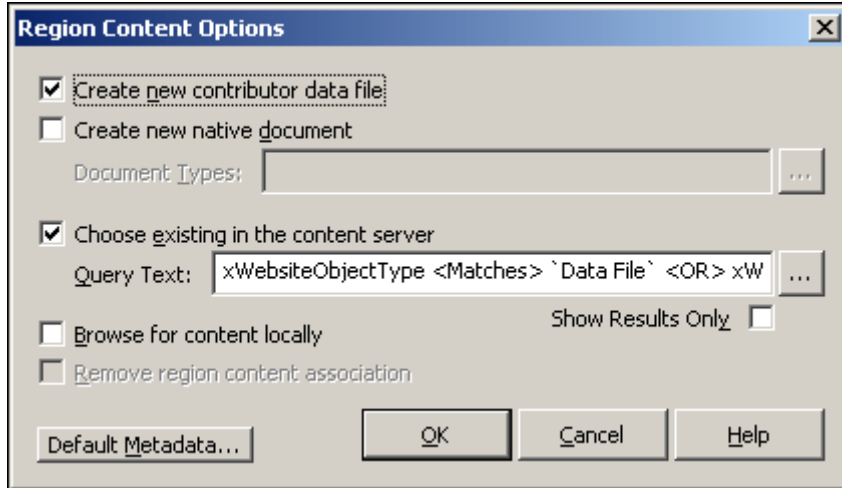
要素	説明
ID	Site Studio で自動生成される ID。
Name	<p>コントリビューション・リージョンに割り当てる名前。名前は「DESIGN」ビューに表示され、リージョンを表します。（リージョンの名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。）</p> <p>同じデータ・ファイルを複数のページ・テンプレートで再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。</p>
Contributor edit	<p>コントリビューション・リージョンの編集を可能にします。これにより、コントリビュータは、コントリビューション・アイコンを左クリックするか、アイコンを右クリックして「Edit」（データ・ファイル用にコントリビュータを起動する場合）または「Check Out and Open」（ネイティブ・ドキュメント用にサード・パーティ製アプリケーションを起動する場合）を選択することで、リージョンに割り当てられたコンテンツを編集できます。</p>
Document info	<p>コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Document info」リンクを追加します。コントリビュータはこのリンクを使用して、リージョンに割り当てられたデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの「Content Information」ページに移動できます。</p>

要素	説明
Workflow approve	コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Approve Document」リンクを追加します。コントリビュータ（ワークフローのレビューアまたはコントリビュータとして指定されたコントリビュータ）はこのリンクを使用して、リージョンに割り当てられたデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを承認します。
Workflow reject	コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Reject Document」リンクを追加します。レビューア（ワークフローのレビューアまたはコントリビュータとして指定されたコントリビュータ）はこのリンクを使用して、リージョンに割り当てられたデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを却下します。
Modify metadata	<p>コントリビュータがデータ・ファイルのメタデータを更新できるように、リージョンに割り当てられたデータ・ファイルを保存する前に「Assign Info Form」ページにコントリビュータを誘導します。</p> <p><b>Define:</b> 「Enable Metadata Modification」ダイアログ（A-33 ページの「<a href="#">Enable Metadata Modification</a>」ダイアログ）を開きます。このダイアログでは、リージョンに割り当てられたファイルを保存するときにコントリビュータが使用可能なメタデータを指定できます。</p>
Switch region content	<p>コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Switch Region Content」リンクを追加します。コントリビュータはこのリンクを使用して、ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）を作成するか、既存のファイルを参照して、そのファイルをリージョンに割り当てます。</p> <p><b>Define:</b> 「Region Content Options」ダイアログ（A-46 ページの「<a href="#">Region Content Options</a>」ダイアログ）を参照）を開きます。このダイアログでは、コンテンツを切り替えたり、コンテンツをリージョンに割り当てたりするときにコントリビュータが使用可能なオプションを指定します。</p>
Switch region template	コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Switch Region Template」リンクを追加します。コントリビュータはこのリンクを使用して、コントリビューション・リージョンで使用する別のリージョン・テンプレートを選択します。
View Web Site Usage Report	コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「View Web Site Usage Report」リンクを追加します。コントリビュータはこのリンクを使用して、ファイル（リージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）がサイト全体で使用される場所を示すサイト・レポートを表示します。
View Content Tracker Report	コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「View Content Tracker Report」リンクを追加します。コントリビュータはこのリンクを使用して、ファイル（リージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）の参照回数と参照者を示すサイト・レポートを表示します。
Settings	「Native Document Conversion Settings」ダイアログ（A-49 ページの「 <a href="#">Native Document Conversion Settings</a> 」ダイアログ（レガシー））を参照）を開きます。このダイアログでは、リージョンに割り当てられたネイティブ・ドキュメントの変換に使用される Dynamic Converter のテンプレートまたはルールを指定します。
OK	設定を保存して、「Contribution Region」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Contribution Region」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.20 「Region Content Options」 ダイアログ

このダイアログでは、コントリビュータが割り当てることができるファイルのタイプを定義します。

図 A-36 「Region Content Options」 ダイアログ



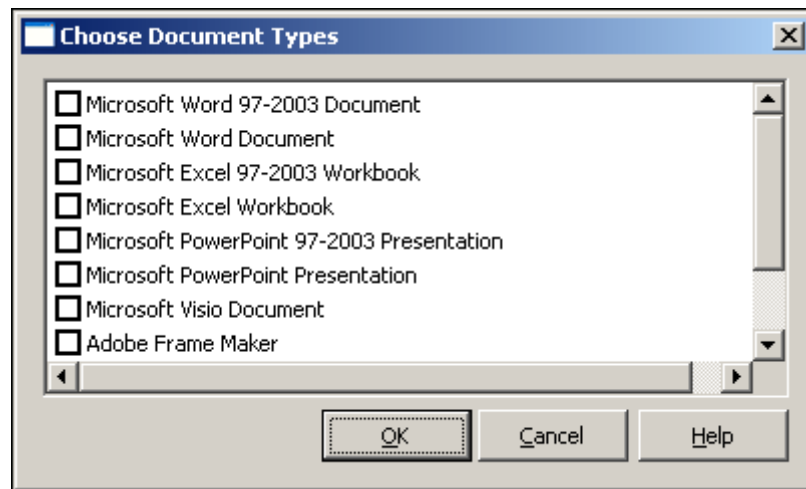
要素	説明
Create new contributor data file	コントリビュータ・データ・ファイルの作成と割当てをコントリビュータに許可します。
Create new native document	ネイティブ・ドキュメントの作成と割当てをコントリビュータに許可します。 <b>Document Types:</b> コントリビュータが作成可能なネイティブ・ドキュメントを指定します。 「Additional Information」 ボタンにより、「Choose Document Types」 ダイアログ (A-47 ページの「 <a href="#">Choose Document Types</a> 」ダイアログ) を参照) が開き、このダイアログでネイティブ・ドキュメントのタイプをリストから選択できます。
Choose existing in the content server	コンテンツ・サーバーでの既存のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの検索と割当てをコントリビュータに許可します。 <b>Query Text:</b> コンテンツ・サーバーで実行されて既存のファイルを表示する実際の間合せを指定します。 「Additional Information」 ボタンにより、「Edit Query Text」 ダイアログ (A-48 ページの「 <a href="#">Edit Query Text</a> 」ダイアログ) を参照) が開き、このダイアログで既存のファイルの表示に使用する間合せを作成、取得およびテストできます。 <b>Show Results Only:</b> コンテンツ・サーバー環境ではなく、検索結果のみを表示します。(これは、コントリビュータがコンテンツ・サーバーの他のコンテンツを参照できないようにする場合に便利です。)
Browse for content locally	ローカル・ファイル・システムでのファイルの参照と、そのファイルのチェックインをコントリビュータに許可します。
Remove region content association	すでに割り当てられた既存のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの削除をコントリビュータに許可します。(これにより、「Choose Region Content」ダイアログに「None」オプションが追加されます。)

要素	説明
Default Metadata	「Enable Metadata Modification」ダイアログ (A-33 ページの「 <a href="#">Enable Metadata Modification</a> 」ダイアログ) を開きます。このダイアログでは、コントリビュータが使用可能なメタデータと、コントリビュータがファイルを作成するときに割り当てられるデフォルトのメタデータを指定します。
OK	設定を保存して、「Region Content Options」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Region Content Options」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.21 「Choose Document Types」 ダイアログ

ネイティブ・ドキュメントの作成とそのファイルのサイトへの追加をコントリビュータに許可する場合は、作成可能なネイティブ・ドキュメントのタイプ (Microsoft Word、Excel および PowerPoint など) を指定する必要があります。

図 A-37 「Choose Document Types」 ダイアログ



要素	説明
List of file types	システムで使用可能なネイティブ・ドキュメントを表示します。コントリビュータに作成を許可するドキュメントのタイプの横のボックスを選択します。このダイアログのドキュメント・タイプがすべてコントリビューション用にサポートされるわけではありません (イメージ・オーサリング・ソフトウェアなど)。
OK	設定を保存して、「Choose Document Types」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Choose Document Types」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.22 「Edit Query Text」 ダイアログ

コンテンツ・サーバーで実行するカスタム問合せを指定する状況は何度もあります。この問合せでは、1つ以上のメタデータの値と一致するファイルを検索し、デザイナー、コントリビュータまたは Web サイトにその結果を表示します（使用する要素によって異なります）。

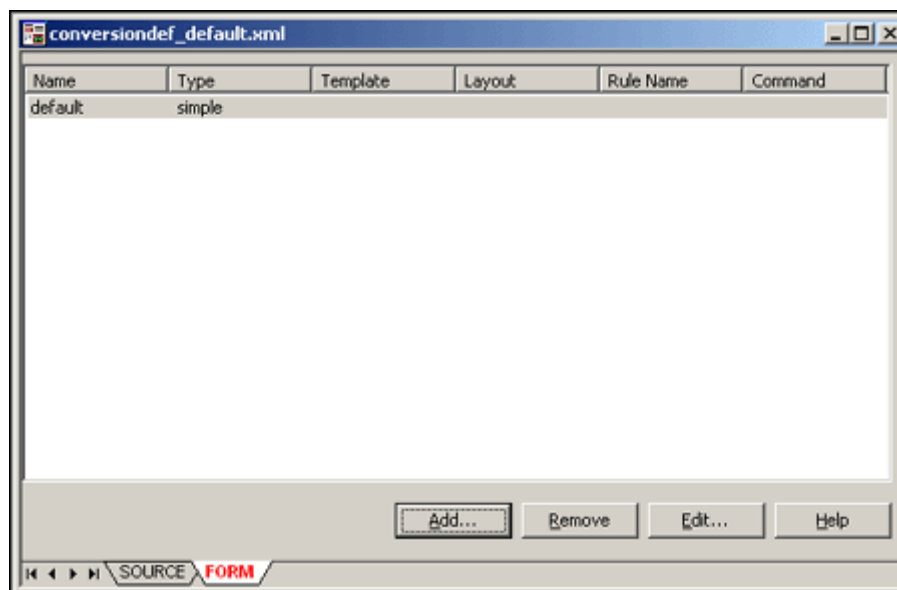
このダイアログで、使用する問合せを指定、テストおよび取得できます。

要素	説明
[Text field]	このテキスト・ボックスで問合せを指定します。
Capture Query	コンテンツ・サーバーで「Content Query Capture」画面を開き、この画面で問合せを実行してからその問合せを保存（取得）します。
Test Query	コンテンツ・サーバーで問合せをテストします。
OK	設定を保存して、「Edit Query Text」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Edit Query Text」ダイアログを閉じます。

## A.23 変換の定義ダイアログ

変換の定義ダイアログでは、変換テンプレートまたはルールをサイト・アセットとして編成し、割り当てます。変換定義を作成し、名前を付けると、その定義はサイト・アセットとして使用可能になります。

図 A-38 変換の定義ダイアログ



要素	説明
変換の定義	名前付き変換定義がすべてリストされます。
Add	「Native Document Conversion Settings」ダイアログ (A-50 ページの「Native Document Conversion Settings」ダイアログ) を開き、動的変換テンプレートまたはルールを変換定義に追加します。
Remove	選択した変換定義を削除します。

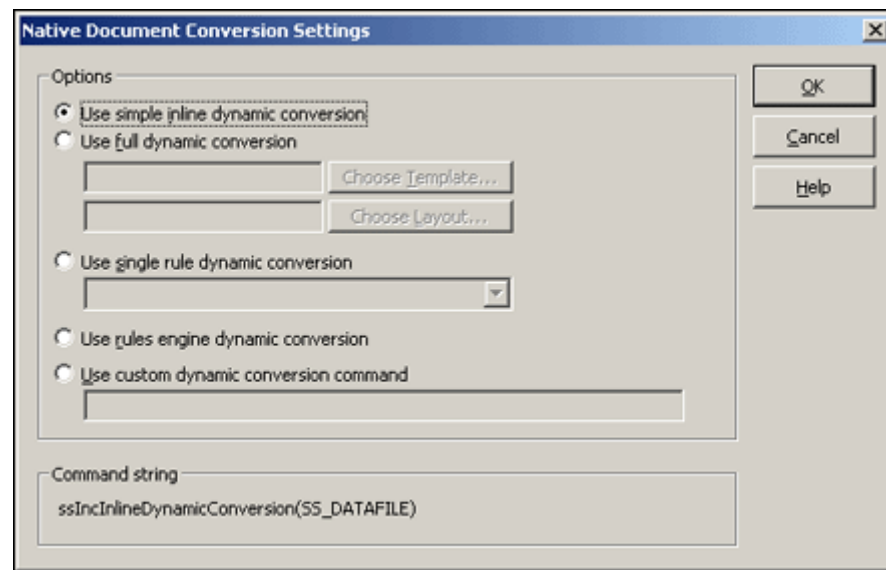


要素	説明
Edit	「Native Document Conversion Settings」ダイアログ (A-50 ページの「Native Document Conversion Settings」ダイアログ) を参照) で選択した定義のデータを開き、選択した変換定義を編集します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.24 「Native Document Conversion Settings」ダイアログ (レガシー)

コントリビューション・リージョンにネイティブ・ドキュメントを割り当てる場合は、Web ページへのドキュメントの変換に使用される Dynamic Converter のテンプレートまたはルールを指定できます。このダイアログでテンプレートやルールを指定します。

図 A-39 「Native Document Conversion Settings」ダイアログ



要素	説明
Use simple inline dynamic conversion	空のテンプレートを使用して、ネイティブ・ドキュメントを変換します。このテンプレートの変換設定は最小限に抑えられているため、結果として作成される Web ページは (望ましいかどうかを問わず) 元のドキュメントに近い状態で表示されます。
Use full dynamic conversion	コンテンツ・サーバーに現在チェックインしている Dynamic Converter の変換テンプレートとレイアウト・ページ・テンプレートを指定します。 <b>Choose Template:</b> 変換テンプレートを選択できるコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。 <b>Choose Layout:</b> Dynamic Converter のレイアウト・ページを選択できるコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。 レイアウトについては、 <code>snippet_layout.txt</code> を使用することをお勧めします。これは HTML の開始タグと終了タグをストリッピングするためです。 <code>snippet_layout.txt</code> を使用すると、変換されたドキュメントを別の Web ページに挿入できます。これは Site Studio に必要な作業です (『Dynamic Converter System Administration Guide』を参照)。
Use single rule dynamic conversion	ネイティブ・ドキュメントを評価および変換する 1 つの変換ルールを指定します。メニューからルールを選択できます。

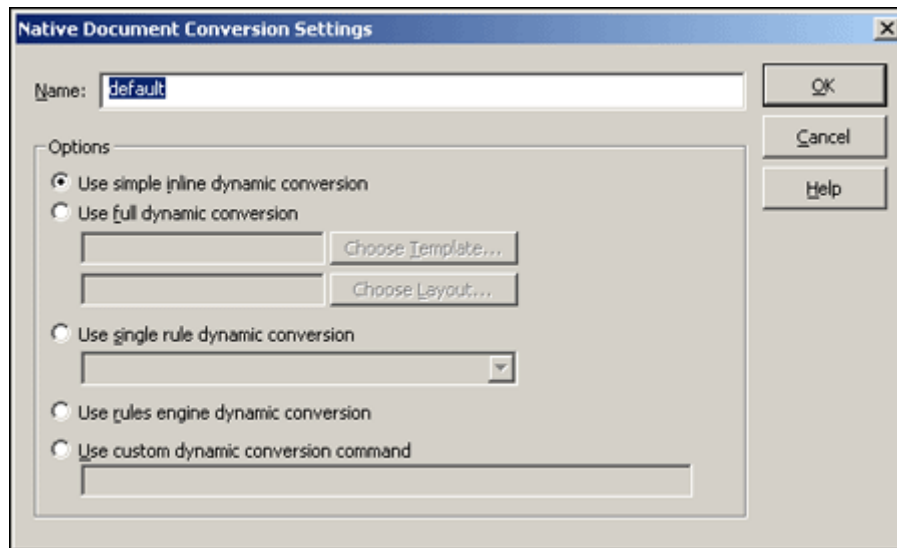
要素	説明
Use rules engine dynamic conversion	デフォルトのルール評価がネイティブ・ドキュメントの評価と変換に適用されることを指定します。
Use custom dynamic conversion command	<p>ネイティブ・ドキュメントの変換に使用されるカスタム・スクリプトを指定します。</p> <p>このオプションを使用して、変換シーケンスに独自の Idoc スクリプトを追加できます。これを選択する場合、「Command string」領域（次を参照）から既存の変換構文をコピーして、このフィールドに貼り付け、その構文にカスタム・スクリプトを追加できます。</p> <p>変換コマンドが欠落しているか、無効な場合、動的変換は行われません。</p>
Command string	ネイティブ・ドキュメントの変換に使用される変換構文を表示します。
OK	設定を保存して、「Native Document Conversion Settings」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Native Document Conversion Settings」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

この機能を使用するには、Dynamic Converter で変換テンプレートまたはルールを作成する必要があります。

## A.25 「Native Document Conversion Settings」 ダイアログ

Web ページにネイティブ・ドキュメントを割り当てる場合は、Web ページへのドキュメントの変換に使用される（Dynamic Converter の）テンプレートまたはルールを変換定義で指定できます。このダイアログでテンプレートやルールを指定します。

図 A-40 「Native Document Conversion Settings」 ダイアログ

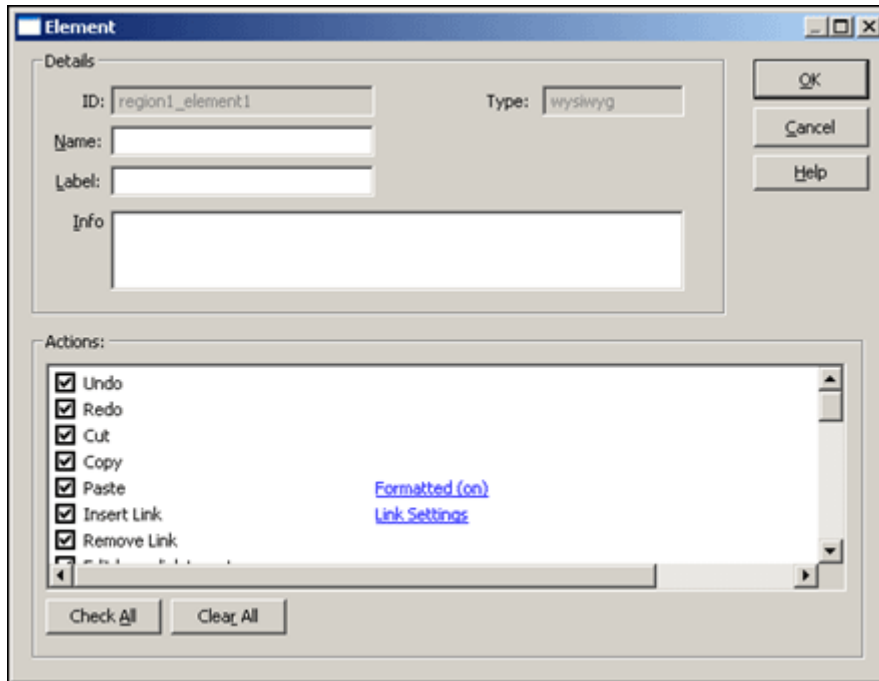


要素	説明
Name	変換を識別する名前。
Use simple inline dynamic conversion	空のテンプレートを使用して、ネイティブ・ドキュメントを変換します。このテンプレートの変換設定は最小限に抑えられているため、結果として作成される Web ページは（望ましいかどうかを問わず）元のドキュメントに近い状態で表示されます。
Use full dynamic conversion	<p>コンテンツ・サーバーに現在チェックインしている Dynamic Converter の変換テンプレートとレイアウト・ページを指定します。</p> <p><b>Choose Template:</b> 変換テンプレートを選択できるコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。</p> <p><b>Choose Layout:</b> Dynamic Converter のレイアウト・ページを選択できるコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。</p> <p>レイアウトについては、<code>snippet_layout.txt</code> を使用することをお勧めします。これは HTML の開始タグと終了タグをストリッピングするためです。<code>snippet_layout.txt</code> を使用すると、変換されたドキュメントを別の Web ページに挿入できます。これは Site Studio に必要な作業です（『Dynamic Converter System Administration Guide』を参照）。</p>
Use single rule dynamic conversion	ネイティブ・ドキュメントを評価および変換する 1 つの変換ルールを指定します。メニューからルールを選択できます。
Use rules engine dynamic conversion	デフォルトのルール評価がネイティブ・ドキュメントの評価と変換に適用されることを指定します。
Use custom dynamic conversion command	<p>ネイティブ・ドキュメントの変換に使用されるカスタム・スクリプトを指定します。</p> <p>このオプションを使用して、変換シーケンスに独自の Idoc スクリプトを追加できます。これを選択する場合、「Command string」領域（次を参照）から既存の変換構文をコピーして、このフィールドに貼り付け、その構文にカスタム・スクリプトを追加できます。</p> <p>変換コマンドが欠落しているか、無効な場合、動的変換は行われません。</p>
Command string	ネイティブ・ドキュメントの変換に使用される変換構文を表示します。
OK	設定を保存して、「Native Document Conversion Settings」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Native Document Conversion Settings」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.26 WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログ

WYSIWYG 要素はコントリビュータ内のフィールドになります。このフィールドでユーザー（コントリビュータ）は、テキスト、グラフィックなどの追加、編集および削除を行います。このダイアログでは、コントリビュータの使用状況を制御できます。この特定の要素は、レガシー・サイトで使用されます。

図 A-41 WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログ



要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。名前には、空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数の場所で再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。

要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p><b>Undo:</b> 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p><b>Redo:</b> 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p><b>Cut:</b> テキストとイメージを切り取ることができます。</p> <p><b>Copy:</b> テキストとイメージをコピーできます。</p> <p><b>Paste:</b> テキストとイメージを貼り付けることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Formatted (on/off):</b> テキストをコントリビュータに貼り付ける際に、書式設定を許可または削除します。</li> </ul> <p><b>Insert Link:</b> ハイパーリンクを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Link Settings:</b> 「Link Settings」ダイアログ (A-83 ページの「<a href="#">「Link Settings」ダイアログ</a>」を参照) を開き、このダイアログでコントリビュータのリンクのオプションを指定します。</li> </ul> <p><b>Remove Link:</b> ハイパーリンクを削除できます。</p> <p><b>Edit hyperlink targets:</b> ハイパーリンクのターゲットのファイルを編集できます (「Element」メニューを使用してメニューを右クリックします)。</p> <p><b>Bold:</b> テキストを太字にします。</p> <p><b>Italic:</b> テキストをイタリックにします。</p> <p><b>Underline:</b> テキストに下線を引きます。</p> <p><b>Remove Formatting:</b> テキストの書式設定を削除できます。</p> <p><b>Ordered List:</b> 順序付けられた (番号付き) リストを追加できます。</p> <p><b>Unordered List:</b> 順序付けられていない (箇条書き) リストを追加できます。</p> <p><b>Indent:</b> テキストとイメージをインデントできます。</p> <p><b>Outdent:</b> テキストとイメージをアウトデントできます。</p> <p><b>Left Justify:</b> テキストとイメージを左に揃えることができます。</p> <p><b>Center Justify:</b> テキストとイメージを中央に揃えることができます。</p> <p><b>Right Justify:</b> テキストとイメージを右に揃えることができます。</p> <p><b>Insert Image:</b> イメージ (gif、jpg および png) の追加と置換えを行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set QueryText:</b> 「Edit Query Text」ダイアログを開きます (A-48 ページの「<a href="#">「Edit Query Text」ダイアログ</a>」を参照)。このダイアログでは、コントリビュータへのイメージの表示に使用される問合せを指定します。</li> <li>■ <b>Show Results Only (On/Off):</b> イメージを検索する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。</li> </ul> <p><b>Insert Horizontal Rule:</b> 水平ルールを追加できます。</p> <p><b>Insert Line Break:</b> 改行を追加できます。</p> <p><b>Insert Non-Breaking Space:</b> ハード・スペースを追加できます。</p>

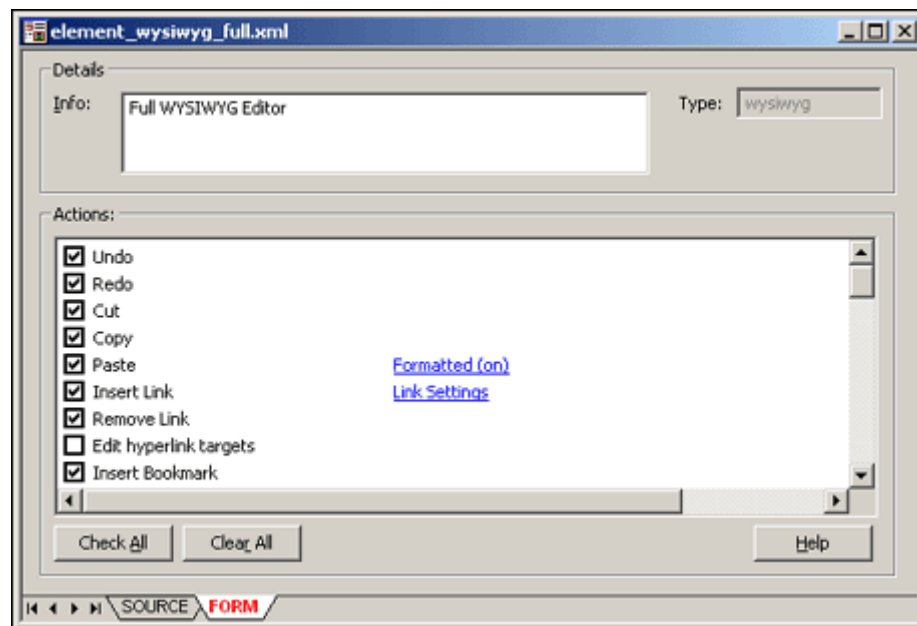
要素	説明
Actions (続き)	<p><b>Change Font Face:</b> 書体を変更できます。</p> <p><b>Change Font Size:</b> フォント・サイズを変更できます。</p> <p><b>Change Foreground Color:</b> テキストの色を変更できます。</p> <p><b>Change Background Color:</b> テキストの背景色を変更できます。</p> <p><b>Spell Checker:</b> スペル・チェックを実行できます。</p> <p><b>Required:</b> コントリビュータを終了する前に、フィールドへの情報の入力が必要 です。</p> <p><b>Apply CSS Classes:</b> 様々な CSS クラスを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Class Names:</b> 「Select CSS Classes」ダイアログ (A-84 ページの「<a href="#">Select CSS Classes</a>」ダイアログ)を参照)を開きます。このダイアログでは、コントリビュータで使用可能なクラスを指定します。</li> </ul> <p><b>Table Support:</b> 表を追加および編集できます。</p> <p><b>Validation:</b> コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Validation Settings:</b> 「WYSIWYG Element Validation」ダイアログ (A-85 ページの「<a href="#">WYSIWYG Element Validation</a>」ダイアログ)を開き、このダイアログで検証するコンテンツを指定します。</li> </ul> <p><b>Edit Object Properties:</b> 選択すると、コントリビュータはオブジェクト・プロパティを変更できます。</p> <p><b>Custom Configuration:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select Custom Configuration:</b> 「Custom Configuration Scripts」ダイアログ (A-124 ページの「<a href="#">Custom Configuration Scripts</a>」ダイアログ)を開きます。選択された構成スクリプトの数が右側に表示されます。</li> </ul> <p><b>Accessibility Report:</b> 選択すると、コントリビュータは Web ページに関するアクセシビリティ・レポートを WYSIWYG ツールバーから実行して、そのページが複数のアクセシビリティの基準を満たしているかどうかを判断できます。ただし、このオプションが意味を持つのは、Ephox がコントリビュータ・エディタとして使用される場合のみです (Ephox はデフォルトではありません)。</p> <p><b>Source Mode:</b> WYSIWYG または HTML での編集の選択をコントリビュータに許可します。選択を解除すると、コントリビュータは WYSIWYG でのみ編集できます。</p> <p><b>Expand Editor:</b> 編集領域の全画面表示をコントリビュータに許可します。ただし、このオプションが意味を持つのは、Ephox がコントリビュータ・エディタとして使用される場合のみです (Ephox はデフォルトではありません)。</p> <p><b>Apply HTML Tags:</b> HTML で編集するコントリビュータが使用可能なタグを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Tag Names:</b> コントリビュータに許可する特定のタグを選択します。詳細は、A-87 ページの「<a href="#">Select HTML Tags</a>」ダイアログを参照してください。</li> </ul> <p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul> <p><b>Do Not Enclose Text in Editor:</b> HTML でのキャリッジ・リターンの処理方法を定義します。テキストが囲まれている場合、コントリビュータがリターンを入力するたびに、段落が作成されます。テキストが囲まれていない場合、リターンごとに改行が挿入されます。ただし、このオプションが意味を持つのは、Ephox がコントリビュータ・エディタとして使用される場合のみです (Ephox はデフォルトではありません)。</p> <p><b>Override Editor CSS:</b> エディタ・ウィンドウのスタイル・シートを実装します。</p>

要素	説明
Check All	コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。
Clear All	コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。
OK	設定を保存して、WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.27 WYSIWYG 要素の定義ダイアログ

WYSIWYG 要素はコントリビュータ内のフィールドになります。このフィールドでユーザー（コントリビュータ）は、テキスト、グラフィックなどの追加、編集および削除を行います。このダイアログでは、コントリビュータの使用状況を制御できます。

図 A-42 WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログ



要素	説明
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p><b>Undo:</b> 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p><b>Redo:</b> 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p><b>Cut:</b> テキストとイメージを切り取ることができます。</p> <p><b>Copy:</b> テキストとイメージをコピーできます。</p> <p><b>Paste:</b> テキストとイメージを貼り付けることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Formatted (on/off):</b> テキストをコントリビュータに貼り付ける際に、書式設定を許可または削除します。</li> </ul> <p><b>Insert Link:</b> ハイパーリンクを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Link Settings:</b> 「Link Settings」ダイアログ (A-83 ページの「<a href="#">Link Settings</a>」ダイアログ) を参照) を開き、このダイアログでコントリビュータのリンクのオプションを指定します。</li> </ul> <p><b>Remove Link:</b> ハイパーリンクを削除できます。</p> <p><b>Edit hyperlink targets:</b> ハイパーリンクのターゲットのファイルを編集できます (「Element」メニューを使用してメニューを右クリックします)。</p> <p><b>Insert bookmark:</b> ブックマークのリンクを挿入できます。</p> <p><b>Bold:</b> テキストを太字にします。</p> <p><b>Italic:</b> テキストをイタリックにします。</p> <p><b>Underline:</b> テキストに下線を引きます。</p> <p><b>Superscript:</b> テキストを上付き文字にします。</p> <p><b>Subscript:</b> テキストを下付き文字にします。</p> <p><b>Strikethrough:</b> テキストに取消し線を引きます。</p> <p><b>Remove Formatting:</b> テキストの書式設定を削除できます。</p> <p><b>Ordered List:</b> 順序付けられた (番号付き) リストを追加できます。</p> <p><b>Unordered List:</b> 順序付けられていない (箇条書き) リストを追加できます。</p> <p><b>Indent:</b> テキストとイメージをインデント (右に移動) できます。</p> <p><b>Outdent:</b> テキストとイメージをアウトデント (左に移動) できます。</p> <p><b>Left Justify:</b> テキストとイメージを左に揃えることができます。</p> <p><b>Center Justify:</b> テキストとイメージを中央に揃えることができます。</p> <p><b>Right Justify:</b> テキストとイメージを右に揃えることができます。</p> <p><b>Full Justify:</b> テキストとイメージの間隔を均等に配置できます。</p> <p><b>Blockquote:</b> テキストを blockquote 内に配置して揃えることができます。</p> <p><b>Insert Image:</b> イメージ (gif、jpg および png) の追加と置換えを行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set QueryText:</b> 「Edit Query Text」ダイアログを開きます (A-48 ページの「<a href="#">Edit Query Text</a>」ダイアログ) を参照)。このダイアログでは、コントリビュータへのイメージの表示に使用される問合せを指定します。</li> <li>■ <b>Show Results Only (On/Off):</b> イメージを検索する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。</li> </ul>



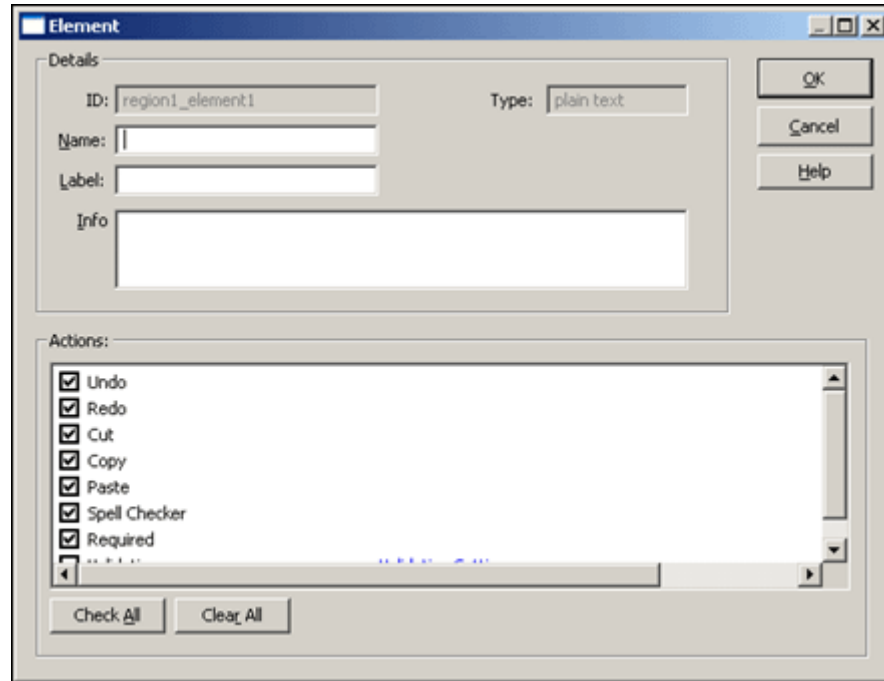
要素	説明
Actions (続き)	<p><b>Insert Horizontal Rule:</b> 水平ルールを追加できます。</p> <p><b>Insert Line Break:</b> 改行を追加できます。</p> <p><b>Insert Symbol:</b> 記号マップから特殊文字を追加できます。</p> <p><b>Edit hyperlink targets:</b> ハイパーリンクのターゲットのファイルを編集できます (「Element」メニューを使用してメニューを右クリックします)。</p> <p><b>Change Font Face:</b> 書体を変更できます。</p> <p><b>Change Font Size:</b> フォント・サイズを変更できます。</p> <p><b>Change Foreground Color:</b> テキストの色を変更できます。</p> <p><b>Change Background Color:</b> テキストの背景色を変更できます。</p> <p><b>Spell Checker:</b> スペル・チェックを実行できます。</p> <p><b>Required:</b> コントリビュータを終了する前に、フィールドへの情報の入力が必要です。</p> <p><b>Apply CSS Classes:</b> 様々な CSS クラスを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Class Names:</b> 「Select CSS Classes」ダイアログ (A-84 ページの「<a href="#">Select CSS Classes</a>」ダイアログ) を開きます。このダイアログでは、コントリビュータで使用可能なクラスを指定します。</li> </ul> <p><b>Table Support:</b> 表を追加および編集できます。</p> <p><b>Form support:</b> フォームを追加および編集できます。</p> <p><b>Validation:</b> コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Validation Settings:</b> 「WYSIWYG Element Validation」ダイアログ (A-85 ページの「<a href="#">WYSIWYG Element Validation</a>」ダイアログ) を開き、このダイアログで検証するコンテンツを指定します。</li> </ul> <p><b>Edit Object Properties:</b> プロパティ・フォームを使用して、コントリビュータで HTML タグを編集できます。</p> <p><b>Insert Flash:</b> Flash ファイルを挿入できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set QueryText:</b> 「Edit Query Text」ダイアログを開きます (A-48 ページの「<a href="#">Edit Query Text</a>」ダイアログ) を参照)。このダイアログでは、コントリビュータへのイメージの表示に使用される問合せを指定します。</li> <li>■ <b>Show Results Only (On/Off):</b> イメージを検索する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。</li> </ul> <p><b>Custom Configuration:</b> コントリビュータの編集ウィンドウの変更を構成スクリプトに許可します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select Custom Configuration:</b> 「Custom Configuration Scripts」ダイアログ (A-124 ページの「<a href="#">Custom Configuration Scripts</a>」ダイアログ) を開きます。選択された構成スクリプトの数が右側に表示されます。</li> </ul> <p><b>Accessibility Report:</b> 選択すると、コントリビュータは Web ページに関するアクセシビリティ・レポートを WYSIWYG ツールバーから実行して、そのページが複数のアクセシビリティの基準を満たしているかどうかを判断できます。ただし、このオプションが意味を持つのは、Ephox がコントリビュータ・エディタとして使用される場合のみです (Ephox はデフォルトではありません)。</p> <p><b>Select All:</b> エディタ内のすべてを選択できます。</p> <p><b>Print:</b> コンテンツを、エディタに表示されるとおりに印刷できます。コンテンツは、Web ページに表示されるとおりに書式設定されません。</p> <p><b>Find and Replace:</b> 編集時に検索および置換機能を実行できます。</p> <p><b>Show HTML Elements:</b> データに対して HTML タグが使用されている場所とその使用方法を確認できます。</p>

要素	説明
Actions (続き)	<p><b>Source Mode:</b> WYSIWYG または HTML での編集の選択をコントリビュータに許可します。選択を解除すると、コントリビュータは WYSIWYG でのみ編集できます。</p> <p><b>Expand Editor:</b> 編集領域の全画面表示をコントリビュータに許可します。</p> <p><b>Apply HTML Tags:</b> HTML で編集するコントリビュータが使用可能なタグを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Tag Names:</b> コントリビュータに許可する特定のタグを選択します。詳細は、A-87 ページの「<a href="#">Select HTML Tags</a> ダイアログ」を参照してください。</li> </ul> <p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位（センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント）を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul> <p><b>Do Not Enclose Text in Editor:</b> HTML でのキャリッジ・リターン処理方法を定義します。テキストが囲まれている場合、コントリビュータがリターンを入力するたびに、段落が作成されます。テキストが囲まれていない場合、リターンごとに改行が挿入されます。</p> <p><b>Override Editor CSS:</b> エディタ・ウィンドウのスタイル・シートを実装します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select CSS File:</b> 使用可能なコンテンツの CSS ファイルを表示します。</li> </ul>
Check All	コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。
Clear All	コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。
OK	設定を保存して、WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.28 プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログ

プレーン・テキスト要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドでは、切り取り、コピー、貼付けなどの基本的な（ある程度制限された）編集を行います。コントリビュータがテキストを書式設定できないようにする（一貫した Web ページや場合によってはクリーンな Web ページを作成する）場合に役立ちます。この特定の要素は、レガシー・サイトで使用されます。

図 A-43 プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログ



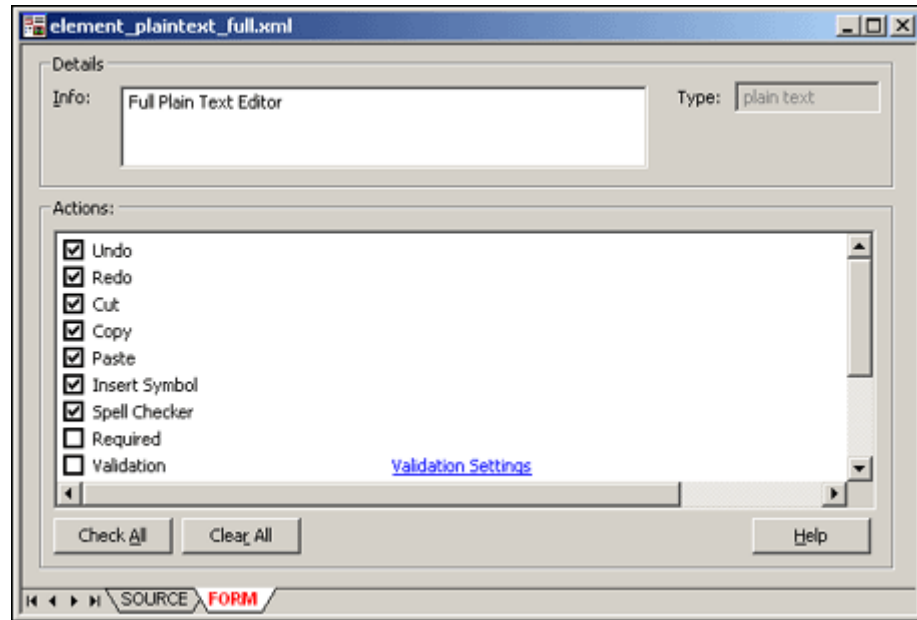
要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数の場所で再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。

要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p><b>Undo:</b> 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p><b>Redo:</b> 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p><b>Cut:</b> テキストを切り取ることができます。</p> <p><b>Copy:</b> テキストをコピーできます。</p> <p><b>Paste:</b> テキストを貼り付けることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Formatted (on/off):</b> テキストをコントリビュータに貼り付ける際に、書式設定を許可または削除します (プレーン・テキスト要素の場合、テキストには HTML 書式設定タグが含まれるか、書式設定タグが含まれません)。</li> </ul> <p><b>Spell Checker:</b> 作業内容のスペル・チェックを実行できます。</p> <p><b>Required:</b> コントリビュータを終了する前に、フィールドへの情報の入力を必須にします。</p> <p><b>Validation:</b> コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Validation Settings:</b> 「Plain Text Element Validation」ダイアログ (A-86 ページの「<a href="#">Plain Text Element Validation</a>」ダイアログ) を開き、このダイアログで検証するコンテンツを指定します。</li> </ul> <p><b>Custom Configuration:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select Custom Configuration:</b> コントリビュータがカスタム構成を選択する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。</li> </ul> <p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul>
Check All	<p>コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。</p>
Clear All	<p>コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。</p>
OK	<p>設定を保存して、プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。</p>
Cancel	<p>設定をキャンセルして、プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。</p>
Help	<p>このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。</p>

## A.29 プレーン・テキスト要素の定義ダイアログ

プレーン・テキスト要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドでは、切り取り、コピー、貼付けなどの基本的な（ある程度制限された）編集を行います。コントリビュータがテキストを書式設定できないようにする（一貫した Web ページや場合によってはクリーンな Web ページを作成する）場合に役立ちます。

図 A-44 プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログ



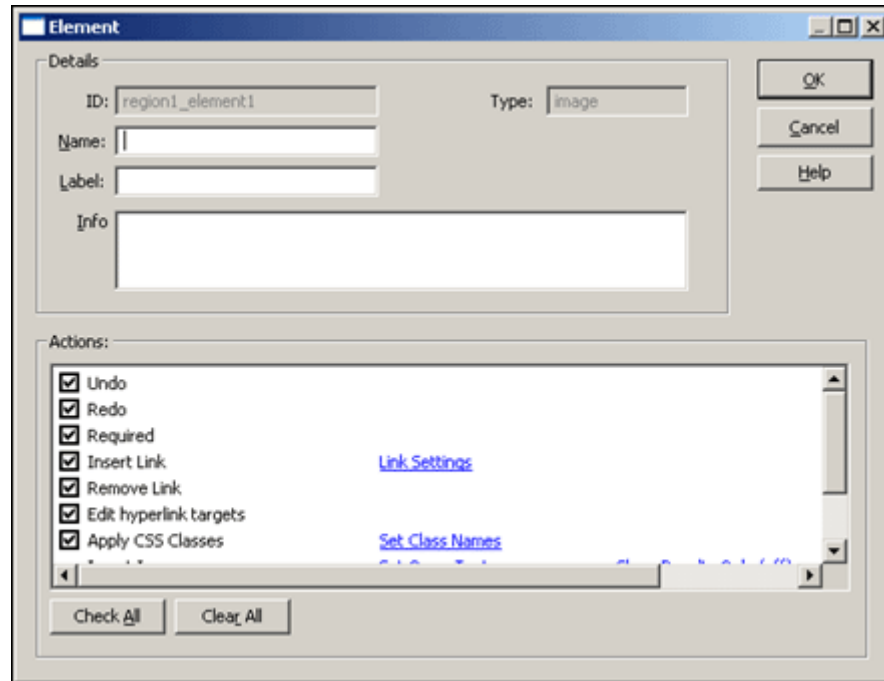
要素	説明
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p><b>Undo:</b> 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p><b>Redo:</b> 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p><b>Cut:</b> テキストを切り取ることができます。</p> <p><b>Copy:</b> テキストをコピーできます。</p> <p><b>Paste:</b> テキストを貼り付けることができます。</p> <p><b>Insert Symbol:</b> 記号マップから特殊文字を追加できます。</p> <p><b>Spell Checker:</b> 作業内容のスペル・チェックを実行できます。</p> <p><b>Required:</b> コントリビュータを終了する前に、フィールドへの情報の入力を必須にします。</p> <p><b>Validation:</b> コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します（コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>Validation Settings:</b> 「Plain Text Element Validation」ダイアログ（A-86 ページの「<a href="#">Plain Text Element Validation</a>」ダイアログ）を開き、このダイアログで検証するコンテンツを指定します。 </li> </ul>

要素	説明
Actions (続き)	<p><b>Custom Configuration:</b> コントリビュータの編集ウィンドウの変更を構成スクリプトに許可します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select Custom Configuration:</b> 「Custom Configuration Scripts」ダイアログ (A-124 ページの「<a href="#">Custom Configuration Scripts</a>」ダイアログ) を開きます。選択された構成スクリプトの数が右側に表示されます。</li> </ul> <p><b>Select All:</b> エディタ内のすべてを選択できます。</p> <p><b>Print:</b> コンテンツを、エディタに表示されるとおりに印刷できます。コンテンツは、Web ページに表示されるとおりに書式設定されません。</p> <p><b>Find and Replace:</b> 編集時に検索および置換機能を実行できます。</p> <p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul> <p><b>Override Editor CSS:</b> エディタ・ウィンドウのスタイル・シートを実装します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select CSS File:</b> 使用可能なコンテンツの CSS ファイルを表示します。</li> </ul>
Check All	<p>コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。</p>
Clear All	<p>コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。</p>
OK	<p>設定を保存して、プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。</p>
Cancel	<p>設定をキャンセルして、プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。</p>
Help	<p>このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。</p>

## A.30 イメージ要素の「Element」ダイアログ

イメージ要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドでは、イメージとリンクの挿入、および CSS クラスの適用といったイメージの処理に関連する基本的な編集を実行できます。これは、コントリビュータの権限を制限してイメージの編集を簡単にする場合に役立ちます。この特定の要素は、レガシー・サイトで使用されます。

図 A-45 イメージ要素の「Element」ダイアログ



要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数の場所で再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。

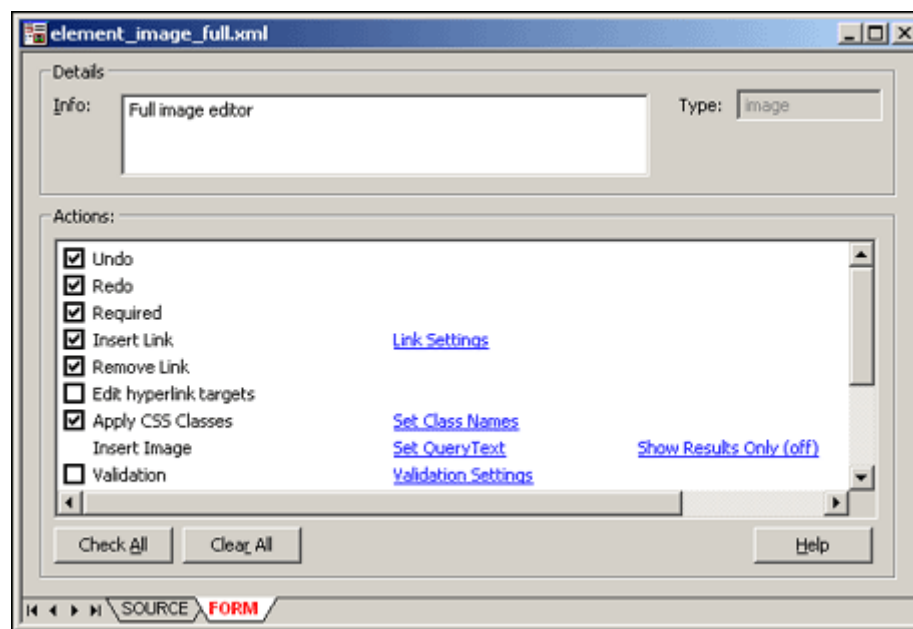
要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p><b>Undo:</b> 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p><b>Redo:</b> 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p><b>Required:</b> コントリビュータを終了する前に、フィールドへの情報の入力が必要不可欠です。</p> <p><b>Insert Link:</b> ハイパーリンクを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Link Settings:</b> 「Link Settings」ダイアログ (A-83 ページの「<a href="#">Link Settings</a>」ダイアログ) を開き、このダイアログでコントリビュータのリンクのオプションを指定します。</li> </ul> <p><b>Remove Link:</b> ハイパーリンクを削除できます。</p> <p><b>Edit hyperlink targets:</b> ハイパーリンクのターゲットのファイルを編集できます (「Element」メニューを使用してメニューを右クリックします)。</p> <p><b>Apply CSS Classes:</b> 様々な CSS クラスを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Class Names:</b> 「Select CSS Classes」ダイアログ (A-84 ページの「<a href="#">Select CSS Classes</a>」ダイアログ) を開きます。このダイアログでは、コントリビュータで使用可能なクラスを指定します。</li> </ul> <p><b>Insert Image:</b> イメージ (gif、jpg および png) の追加と置換えを行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set QueryText:</b> 「Edit Query Text」ダイアログを開きます (A-48 ページの「<a href="#">Edit Query Text</a>」ダイアログ) を参照)。このダイアログでは、コンテンツ・サーバーで使用してイメージをコントリビュータに表示する問合せを指定します。</li> <li>■ <b>Show Results Only (On/Off):</b> イメージを検索する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。</li> </ul> <p><b>Validation:</b> コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Validation Settings:</b> 「Image Only Element Validation」ダイアログ (A-88 ページの「<a href="#">Image Only Element Validation</a>」ダイアログ) を参照) を開き、このダイアログで検証するコンテンツを指定します。</li> </ul> <p><b>Edit Object Properties:</b> プロパティ・フォームを使用して、コントリビュータで HTML タグを編集できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select Properties Form:</b> コントリビュータが使用可能な (コンテンツ・サーバーの) プロパティ・フォームを選択します。</li> </ul> <p><b>Custom Configuration:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select Custom Configuration:</b> 「Custom Configuration Scripts」ダイアログ (A-124 ページの「<a href="#">Custom Configuration Scripts</a>」ダイアログ) を参照) を開きます。選択された構成スクリプトの数が右側に表示されます。</li> </ul> <p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul>
Check All	<p>コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。</p>
Clear All	<p>コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。</p>
OK	<p>設定を保存して、イメージ要素の「Element」ダイアログを閉じます。</p>
Cancel	<p>設定をキャンセルして、イメージ要素の「Element」ダイアログを閉じます。</p>
Help	<p>このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。</p>



## A.31 イメージ要素の定義ダイアログ

イメージ要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドでは、イメージとリンクの挿入、および CSS クラスの適用といったイメージの処理に関連する基本的な編集を実行できます。これは、コントリビュータの権限を制限してイメージの編集を簡単にする場合に役立ちます。

図 A-46 イメージ要素の「Element」ダイアログ



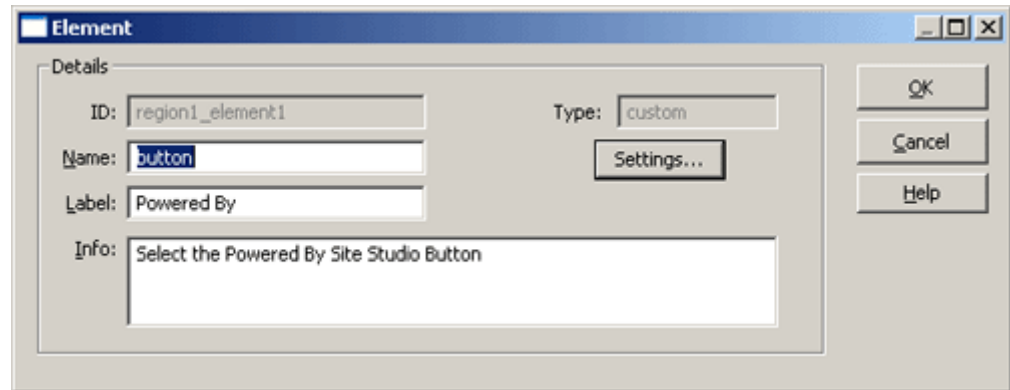
要素	説明
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p><b>Undo:</b> 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p><b>Redo:</b> 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p><b>Required:</b> コントリビュータを終了する前に、フィールドへの情報の入力が必要不可欠です。</p> <p><b>Insert Link:</b> ハイパーリンクを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>Link Settings:</b> 「Link Settings」ダイアログ (A-83 ページの「<a href="#">Link Settings</a>」ダイアログ) を開き、このダイアログでコントリビュータのリンクのオプションを指定します。                 </li> </ul> <p><b>Remove Link:</b> ハイパーリンクを削除できます。</p> <p><b>Edit hyperlink targets:</b> ハイパーリンクのターゲットのファイルを編集できます (「Element」メニューを使用してメニューを右クリックします)。</p>

要素	説明
Actions (続き)	<p><b>Apply CSS Classes:</b> 様々な CSS クラスを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Class Names:</b> 「Select CSS Classes」ダイアログ (A-84 ページの「<a href="#">Select CSS Classes</a>」ダイアログ) を参照) を開きます。このダイアログでは、コントリビュータで使用可能なクラスを指定します。</li> </ul> <p><b>Insert Image:</b> イメージ (gif、jpg および png) の追加と置換えを行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set QueryText:</b> 「Edit Query Text」ダイアログを開きます (A-48 ページの「<a href="#">Edit Query Text</a>」ダイアログ) を参照)。このダイアログでは、コンテンツ・サーバーを使用してイメージをコントリビュータに表示する問合せを指定します。</li> <li>■ <b>Show Results Only (On/Off):</b> イメージを検索する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。</li> </ul> <p><b>Validation:</b> コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Validation Settings:</b> 「Image Only Element Validation」ダイアログ (A-88 ページの「<a href="#">Image Only Element Validation</a>」ダイアログ) を開き、このダイアログで検証するコンテンツを指定します。</li> </ul> <p><b>Edit Object Properties:</b> プロパティ・フォームを使用して、コントリビュータで HTML タグを編集できます。</p> <p><b>Custom Configuration:</b> コントリビュータの編集ウィンドウの変更を構成スクリプトに許可します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select Custom Configuration:</b> 「Custom Configuration Scripts」ダイアログ (A-124 ページの「<a href="#">Custom Configuration Scripts</a>」ダイアログ) を開きます。選択された構成スクリプトの数が右側に表示されます。</li> </ul> <p><b>Select All:</b> エディタ内のすべてを選択できます。</p> <p><b>Print:</b> コンテンツを、エディタに表示されるとおりに印刷できます。コンテンツは、Web ページに表示されるとおりに書式設定されません。</p> <p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul> <p><b>Override Editor CSS:</b> エディタ・ウィンドウのスタイル・シートを実装します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select CSS File:</b> 使用可能なコンテンツの CSS ファイルを表示します。</li> </ul>
Check All	コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。
Clear All	コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。
OK	設定を保存して、イメージ要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、イメージ要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.32 カスタム要素の「Element」ダイアログ

カスタム要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドを使用すると、ユーザー（コントリビュータ）は他の要素（WYSIWYG、プレーン・テキストおよびイメージ）では追加できないコンテンツを追加できます。具体的には、カスタム要素によって、各種コンテンツ（マルチメディア・ファイル、ソース・コードなど）の追加に使用されるカスタム・インタフェース（カスタム要素フォームとも呼ばれる）を作成できます。この特定の要素は、レガシー・サイトで使用されます。

図 A-47 カスタム要素の「Element」ダイアログ

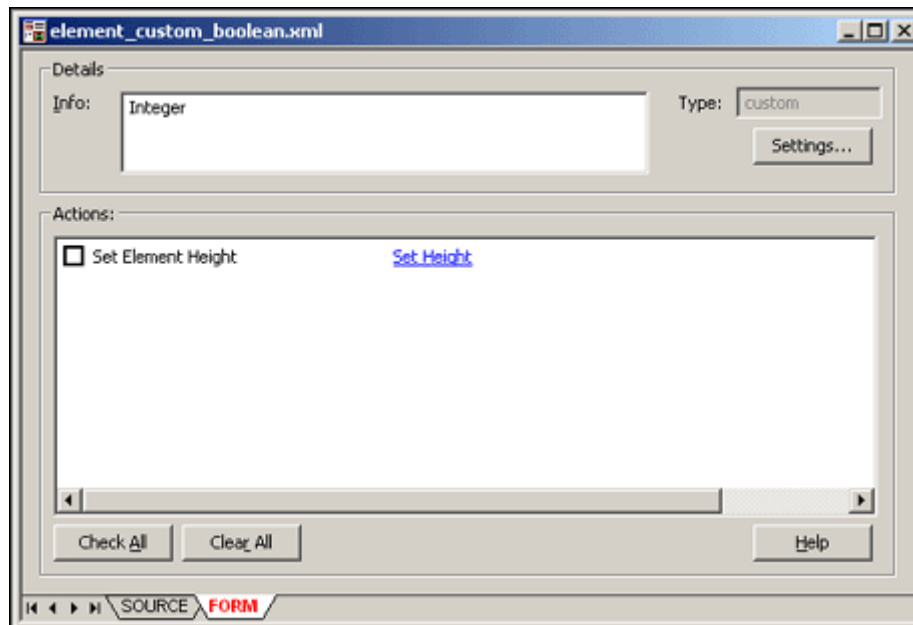


要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト場所で再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	要素の詳細な説明。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。
Settings	「Custom Element Settings」ダイアログ（A-69 ページの「 <a href="#">Custom Element Settings</a> 」ダイアログ）を開きます。このダイアログでは、コントリビュータが使用するカスタム要素フォームを指定できます。
Actions	<b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位（センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、ピカ、ピクセル、ポイント）を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul>
OK	設定を保存して、カスタム要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、カスタム要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.33 カスタム要素の定義ダイアログ

カスタム要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドを使用すると、ユーザー（コントリビュータ）は他の要素（WYSIWYG、プレーン・テキストおよびイメージ）では追加できないコンテンツを追加できます。具体的には、カスタム要素によって、各種コンテンツの追加に使用されるカスタム・インタフェース（カスタム要素フォームとも呼ばれる）を作成できます。また、カスタム要素では、データ駆動型の Web サイトで値に基づいてパブリッシュするように定義することもできます。これは、カスタム要素では、ブール値、整数値、および Web ページに配置するデータのソートとフィルタを行う他のメソッドを定義できるためです。

図 A-48 カスタム要素の「Element」ダイアログ

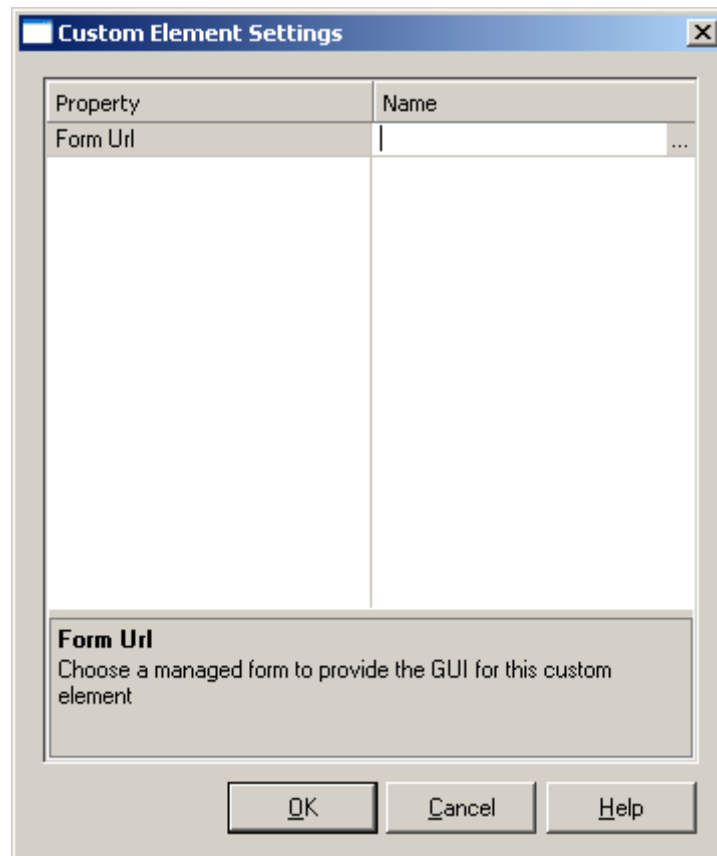


要素	説明
Info	要素の詳細な説明。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。
Settings	「Custom Element Settings」ダイアログ（A-69 ページの「 <a href="#">Custom Element Settings</a> 」ダイアログ）を開きます。このダイアログでは、コントリビュータが使用するカスタム要素フォームを指定できます。
Actions	<p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>Set Height:</b> 数値と測定単位（センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント）を入力して、要素の高さを設定します。                 </li> </ul>
OK	設定を保存して、カスタム要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、カスタム要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.34 「Custom Element Settings」 ダイアログ

カスタム要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドを使用すると、ユーザー（コントリビュータ）は他の要素（WYSIWYG、プレーン・テキストおよびイメージ）では追加できないコンテンツを追加できます。具体的には、カスタム要素によって、各種コンテンツ（マルチメディア・ファイル、ソース・コードなど）の追加に使用されるカスタム・インタフェース（カスタム要素フォームとも呼ばれる）を作成できます。このダイアログを使用して、カスタム要素にカスタム要素フォームを追加します。

図 A-49 「Custom Element Settings」 ダイアログ

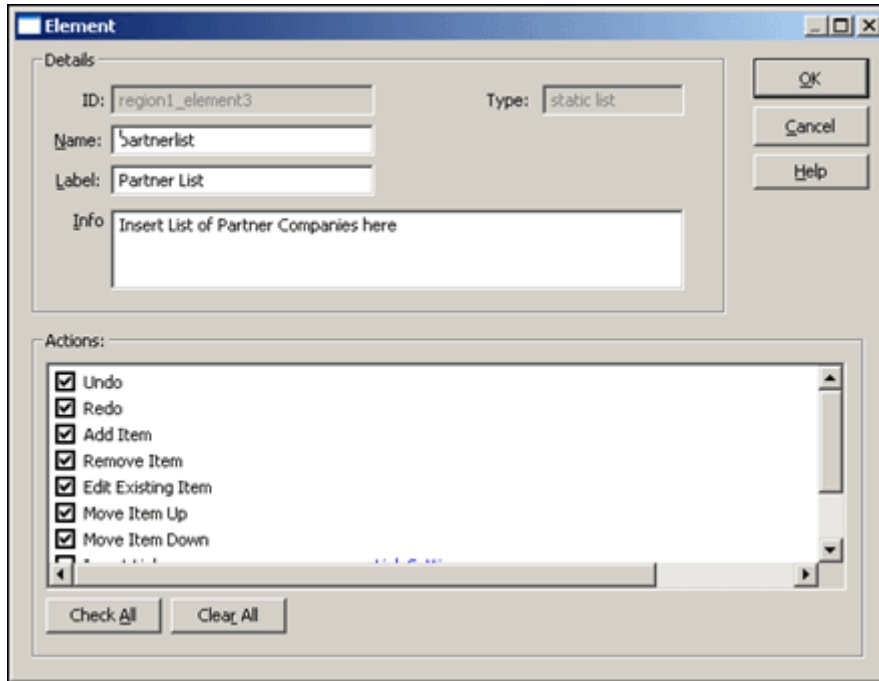


要素	説明
Form Url	カスタム要素で使用するカスタム要素フォームを指定します。
OK	設定を保存して、「Custom Element Settings」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Custom Element Settings」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.35 静的リスト要素の「Element」ダイアログ

静的リストとは、強力で柔軟性のあるフラグメントと、コントリビュータでの要素のコントリビューション機能を組み合わせたものです。静的リストは、複数の要素を表のようなレイアウトでまとめることができます。コントリビュータは、情報を示す行と列を追加、編集、削除、および再配置できます。このダイアログでは、コントリビュータが使用可能な静的リストのオプションを制御できます。この特定の要素は、従来の技術の1つです。

図 A-50 静的リスト要素の「Element」ダイアログ



要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数のページ・テンプレートで再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。

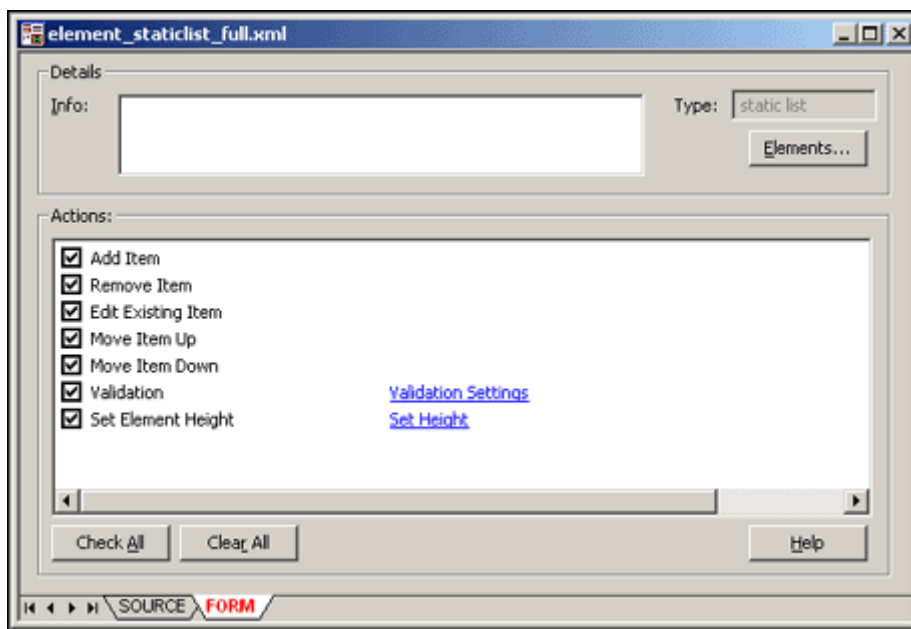
要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p><b>Undo:</b> 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p><b>Redo:</b> 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p><b>Add Item:</b> リストに行または列を追加できます。</p> <p><b>Remove Item:</b> リストから行または列を削除できます。</p> <p><b>Edit Existing Item:</b> リストの行または列を編集できます。</p> <p><b>Move Item Up:</b> リストの行を上に移動できます。</p> <p><b>Move Item Down:</b> リストの行を下に移動できます。</p> <p><b>Insert link:</b> ハイパーリンクを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Link Settings:</b> 「Link Settings」ダイアログ (A-83 ページの「<a href="#">Link Settings</a> ダイアログ」を参照) を開き、このダイアログでコントリビュータのリンクのオプションを指定します。</li> </ul> <p><b>Remove link:</b> ハイパーリンクを削除できます。</p> <p><b>Edit hyperlink targets:</b> ハイパーリンクのターゲットのファイルを編集できます (「Element」メニューを使用してメニューを右クリックします)。</p> <p><b>Insert Image:</b> イメージ (gif、jpg および png) の追加と置換えを行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set QueryText:</b> 「Edit Query Text」ダイアログを開きます (A-48 ページの「<a href="#">Edit Query Text</a> ダイアログ」を参照)。このダイアログでは、コンテンツ・サーバーで使用してコントリビュータにイメージを表示する問合せを指定します。</li> <li>■ <b>Show Results Only (On/Off):</b> イメージを検索する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。</li> </ul> <p><b>Apply CSS Classes:</b> テキストやグラフィックに Cascading Style Sheet (CSS) の様々なクラスを適用できます。このオプションを有効にする場合、CSS クラスをさらに厳密に実行するために、その他の書式設定オプション (書体、フォント・サイズ、太字、イタリックなど) を無効にする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Class Names:</b> 「Select CSS Classes」ダイアログ (A-84 ページの「<a href="#">Select CSS Classes</a> ダイアログ」を参照) を開きます。このダイアログでは、コントリビュータで使用可能なクラスを指定します。</li> </ul> <p><b>Validation:</b> コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Validation Settings:</b> 「Static List Element Validation」ダイアログ (A-75 ページの「<a href="#">Static List Element Validation</a> ダイアログ」を参照) を開き、このダイアログで検証するコンテンツを指定します。</li> </ul> <p><b>Apply HTML Tags:</b> HTML で編集するコントリビュータが使用可能なタグを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Tag Names:</b> コントリビュータに許可する特定のタグを選択します。</li> </ul> <p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、ピカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul> <p><b>Do Not Enclose Text in Editor:</b> HTML でのキャリッジ・リターンの処理方法を定義します。テキストが囲まれている場合、コントリビュータがリターンを入力するたびに、段落が作成されます。テキストが囲まれていない場合、リターンごとに改行が挿入されます。</p>
Check All	<p>コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。</p>
Clear All	<p>コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。</p>

要素	説明
OK	設定を保存して、静的リスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、静的リスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.36 静的リスト要素の定義ダイアログ

静的リストとは、フラグメントが持つ機能と柔軟性、およびコントリビュータでの要素のコントリビューション機能を組み合わせたものです。静的リストは、複数の要素を表のようなレイアウトでまとめることができます。コントリビュータは、情報を示す行と列を追加、編集、削除、および再配置できます。このダイアログでは、コントリビュータが使用可能な静的リストのオプションを制御できます。

図 A-51 静的リスト要素の「Element」ダイアログ



要素	説明
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。
Elements	要素の選択画面を開きます (A-74 ページの「[Elements] ダイアログ」を参照)。



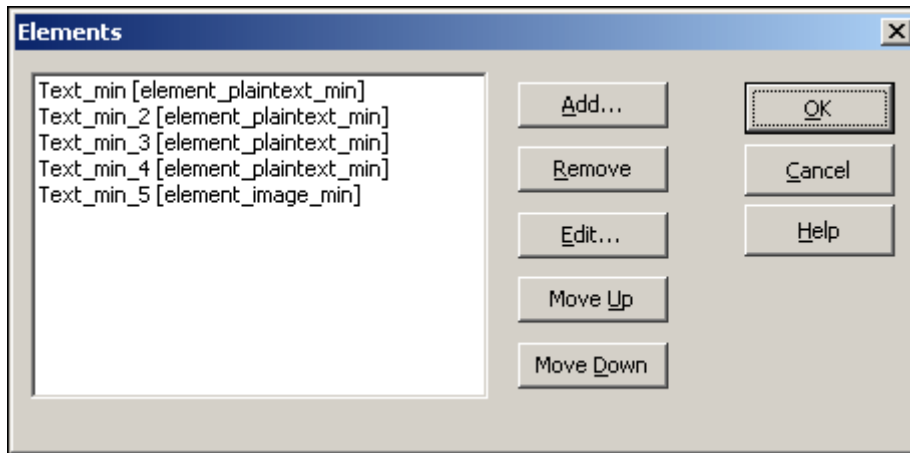
要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p><b>Add Item:</b> リストに行または列を追加できます。</p> <p><b>Remove Item:</b> リストから行または列を削除できます。</p> <p><b>Edit Existing Item:</b> リストの行または列を編集できます。</p> <p><b>Move Item Up:</b> リストの行を上に移動できます。</p> <p><b>Move Item Down:</b> リストの行を下に移動できます。</p> <p><b>Validation:</b> コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Validation Settings:</b> 「Static List Element Validation」ダイアログ (A-75 ページの「<a href="#">Static List Element Validation</a>」ダイアログ) を開き、このダイアログで検証するコンテンツを指定します。</li> </ul> <p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul>
Check All	コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。
Clear All	コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。
OK	設定を保存して、静的リスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、静的リスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

静的リスト要素で使用可能なアクションは、リスト全体で使用できます。静的リスト内で参照される要素定義の特定の要素定義オプションは、各要素定義内で制御されます。

## A.37 「Elements」 ダイアログ

「Elements」 ダイアログでは、静的リストに関連付けられた要素を管理します。リストでは他の要素の追加、再編成、変更または削除を行うことができます。

図 A-52 要素の選択ダイアログ

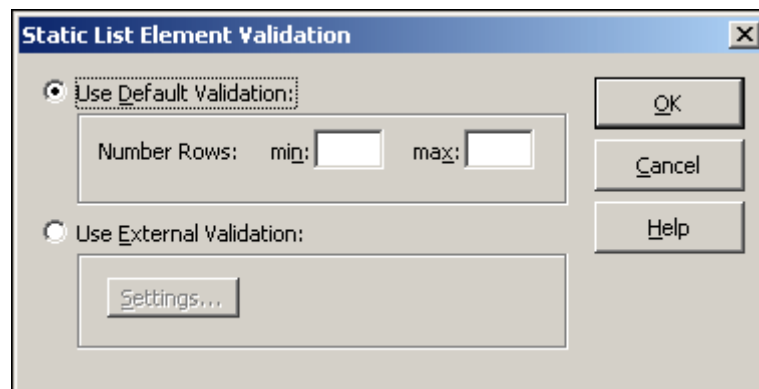


要素	説明
List	リージョン定義に関連付けられた名前付き要素とその定義のリスト。
Add	要素の追加ダイアログを開きます (A-82 ページの「 <a href="#">「Element」ダイアログ</a> 」を参照)。このダイアログでは、リストに追加する要素を選択します。
Remove	選択した要素をリストから削除します。
Edit	要素の追加ダイアログ (A-82 ページの「 <a href="#">「Element」ダイアログ</a> 」を参照) を開き、選択した要素を編集します。
Move Up	リストで選択した要素を上に移動します。
Move Down	リストで選択した要素を下に移動します。
OK	設定を保存して、要素の選択ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、要素の選択ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.38 「Static List Element Validation」 ダイアログ

コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションで作業する場合、通常はどのようなコンテンツも自由に追加できます。ただし、デザイナーの場合は、特定の基準（コントリビュータが静的リストに追加できる行数を制限するなど）の実施が目的になります。このような作業を行うには、要素の検証を使用します。

図 A-53 「Static List Element Validation」 ダイアログ



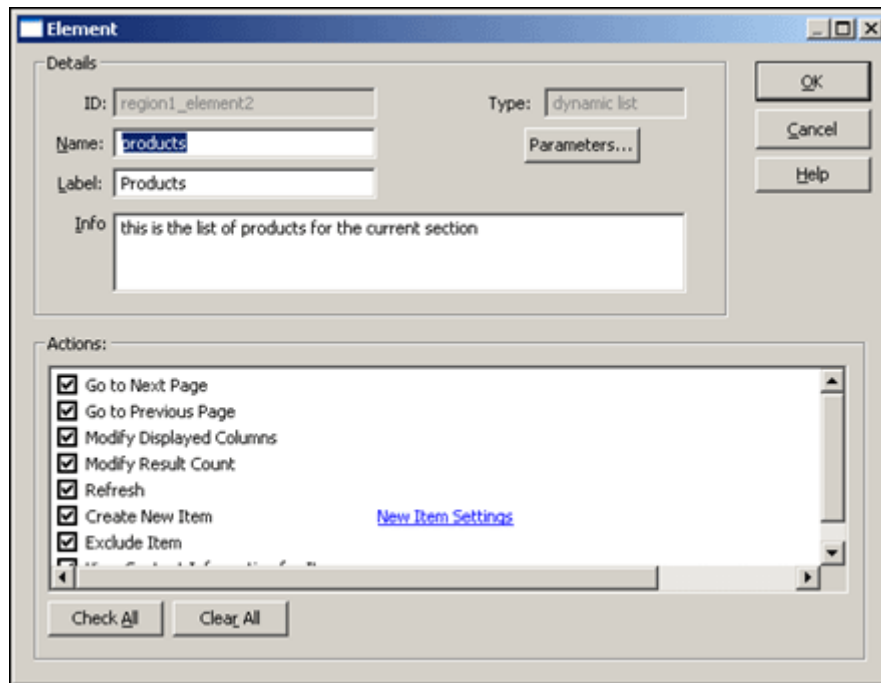
要素	説明
Use default validation	<p><b>Number Rows</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>min:</b> 最小行数を規定します。</li> <li>■ <b>max:</b> 最大行数を規定します。</li> </ul>
Use external validation	<p>指定した外部の検証スクリプトを使用します。</p> <p><b>Settings:</b> 「Advanced Element Validation」ダイアログ (A-89 ページの「Advanced Element Validation」ダイアログ) を開きます。このダイアログでは、使用するスクリプトの値を入力できます。</p>
OK	設定を保存して、「Static List Element Validation」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Static List Element Validation」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

このダイアログのデフォルトの検証オプションは、Site Studio に付属のスクリプト `ss_default_validation_script.js` から派生したものです。

## A.39 動的リスト要素の「Element」ダイアログ

動的リストとは、強力で柔軟性のあるフラグメントと、コントリビューション機能を組み合わせたものです。動的リストは、コンテンツ・サーバーで問合せを実行してその問合せに一致するファイルを表示します。このリストを使用すると、コントリビュータは該当ファイルの変更や新規ファイルの追加を行うことができます。このダイアログでは、動的リストで使用可能なコントリビューション・オプションを制御できます。この特定の要素は、レガシー・サイトで使用されるか、新しいサイトで従来の技術として使用されます。

図 A-54 動的リスト要素の「Element」ダイアログ



要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数の場所で再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示される詳細な説明。
Type	追加する要素のタイプを示します。

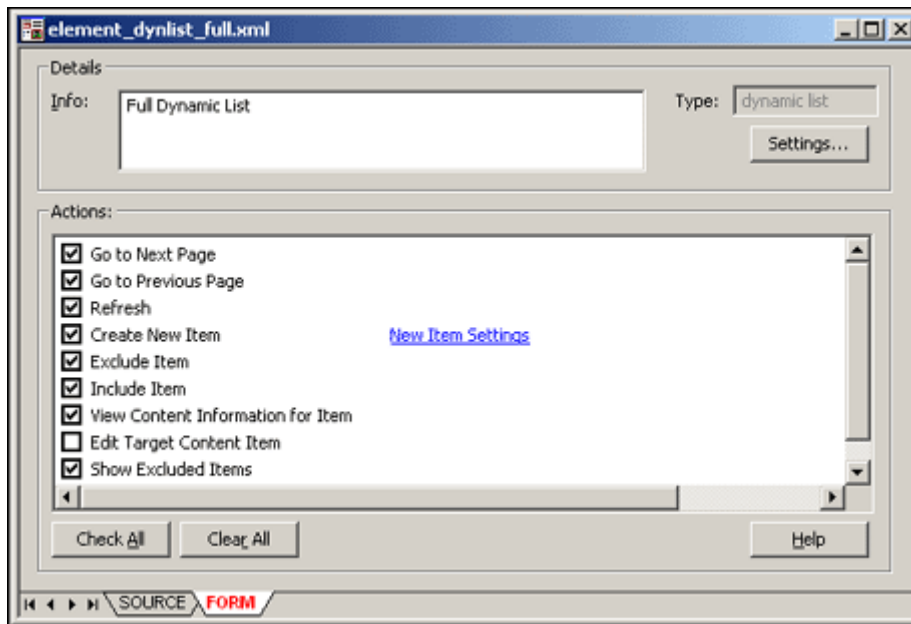
要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p><b>Go to Next Page:</b> 該当する場合、次の一致内容をコントリビュータで参照できます。</p> <p><b>Go to Previous Page:</b> 該当する場合、前の一致内容をコントリビュータで参照できます。</p> <p><b>Refresh:</b> コントリビュータで動的リストをリフレッシュできます。多くの場合、リストにアイテムを追加した後にリフレッシュします。</p> <p><b>Create New Item:</b> 動的リストにアイテム（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）を追加できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>New Item Settings:</b> 「Region Content Options」ダイアログ（A-46 ページの「<a href="#">Region Content Options</a>」ダイアログ）を開きます。このダイアログでは、コントリビュータがリストに追加できるファイルのタイプを指定します。</li> </ul> <p><b>Exclude Item:</b> 動的リストからアイテムを削除できます。（アイテムは、Web サイトのすべての動的リストから削除されますが、コンテンツ・サーバーからは削除されません。）</p> <p><b>Include Item:</b> （以前に除外した）アイテムを動的リストに挿入できます。</p> <p><b>View Content Information for Item:</b> リストのアイテムの「Content Information」ページを参照できます。</p> <p><b>Edit Target Content Item:</b> リストにファイルを追加した後、そのファイルを編集できます。</p> <p><b>Show Excluded Items:</b> 動的リストに含まれていないアイテムを参照して、リストに再適用できます。</p> <p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位（センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント）を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul>
Check All	コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。
Clear All	コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。
パラメータ	「Fragment Parameters」ダイアログ（A-106 ページの「 <a href="#">Fragment Parameters</a> 」ダイアログ）を参照）を開き、このダイアログで動的リストの外観と動作を変更できます。
OK	設定を保存して、動的リスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、動的リスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

リストへのアイテムの追加をコントリビュータに許可する場合、最終的にはコントリビュータが Web サイトに Web ページを追加することになります。

## A.40 動的リスト要素の定義ダイアログ

動的リストとは、フラグメントが持つ機能と柔軟性、およびコントリビューション機能を組み合わせたものです。動的リストは、コンテンツ・サーバーで問合せを実行してその問合せに一致するファイルを表示します。このリストを使用すると、コントリビュータは該当ファイルの変更や新規ファイルの追加を行うことができます。このダイアログでは、動的リストで使用可能なコントリビューション・オプションを制御できます。この特定の要素は、レガシー・サイトで使用されます。

図 A-55 動的リスト要素の「Element」ダイアログ



要素	説明
Info	コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示される詳細な説明。
Type	追加する要素のタイプを示します。
Settings	「Dynamic List Settings」ダイアログを開きます。(A-80 ページの「 <a href="#">Dynamic List Settings</a> 」ダイアログを参照してください)

要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p><b>Go to Next Page:</b> 該当する場合、次の一致内容をコントリビュータで参照できます。</p> <p><b>Go to Previous Page:</b> 該当する場合、前の一致内容をコントリビュータで参照できます。</p> <p><b>Refresh:</b> コントリビュータで動的リストをリフレッシュできます。多くの場合、リストにアイテムを追加した後にリフレッシュします。</p> <p><b>Create New Item:</b> 動的リストにアイテム（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）を追加できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>New Item Settings:</b> 「New Item Settings」ダイアログ（A-90 ページの「<a href="#">「New Item Settings」ダイアログ</a>」を参照）を開きます。このダイアログでは、コントリビュータがリストに追加できるファイルのタイプを指定します。</li> </ul> <p><b>Exclude Item:</b> 動的リストからアイテムを削除できます。（アイテムは、Web サイトのすべての動的リストから削除されますが、コンテンツ・サーバーからは削除されません。）</p> <p><b>Include Item:</b> （以前に除外した）アイテムを動的リストに挿入できます。</p> <p><b>View Content Information for Item:</b> リストのアイテムの「Content Information」ページを参照できます。</p> <p><b>Edit Target Content Item:</b> リストにファイルを追加した後、そのファイルを編集できます。</p> <p><b>Show Excluded Items:</b> 動的リストに含まれていないアイテムを参照して、リストに再適用できます。</p>
Actions	<p><b>Set Element Height:</b> 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Set Height:</b> 数値と測定単位（センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント）を入力して、要素の高さを設定します。</li> </ul>
Check All	コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。
Clear All	コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。
OK	設定を保存して、動的リスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、動的リスト要素の「Element」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

リストへのアイテムの追加をコントリビュータに許可する場合、最終的にはコントリビュータが Web サイトに Web ページを追加することになります。

## A.41 「Dynamic List Settings」 ダイアログ

「Dynamic List Settings」 ダイアログでは、動的リスト要素の定義の設定を変更します。この設定には、ソート順序や、コンテンツ・サーバーへの特定の問合せがあります。

図 A-56 「Dynamic List Settings」 ダイアログ

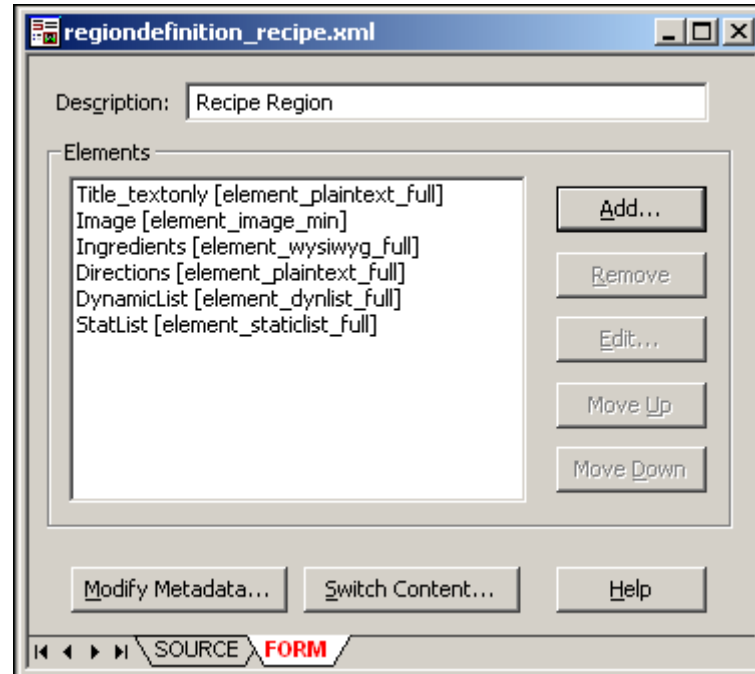
要素	説明
Query Text	動的リストに表示するアイテムを定義する、コンテンツ・サーバーへの問合せ。
Edit	「Edit Query Text」ダイアログ (A-48 ページの「 <a href="#">「Edit Query Text」ダイアログ</a> 」を参照) を開き、問合せを作成します。
Sort Field	返された検索結果のソート・フィールドとして機能するフィールドを選択します。
Sort Order	検索結果を昇順にソートするか、降順にソートするかを選択します。
Number of results per page	ページごとに返される検索結果の数を入力します。
Limit search scope to this website	Web サイトに関連付けられたサイト・アセットのみを返す場合に選択します。
Section to display result items	結果を表示する Web サイト内のターゲット・セクション。
Edit	「Select Section」ダイアログ (A-35 ページの「 <a href="#">「Select Section」ダイアログ</a> 」を参照) を開き、ターゲット・セクションを選択します。
OK	設定を保存して、「Dynamic List Settings」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Dynamic List Settings」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。



## A.42 リージョン定義ダイアログ

リージョン定義ダイアログでは、選択したリージョン・テンプレートで使用可能な要素を、要素定義によって定義します。また、使用可能な要素定義のセットを編成します。

図 A-57 リージョン定義ダイアログ

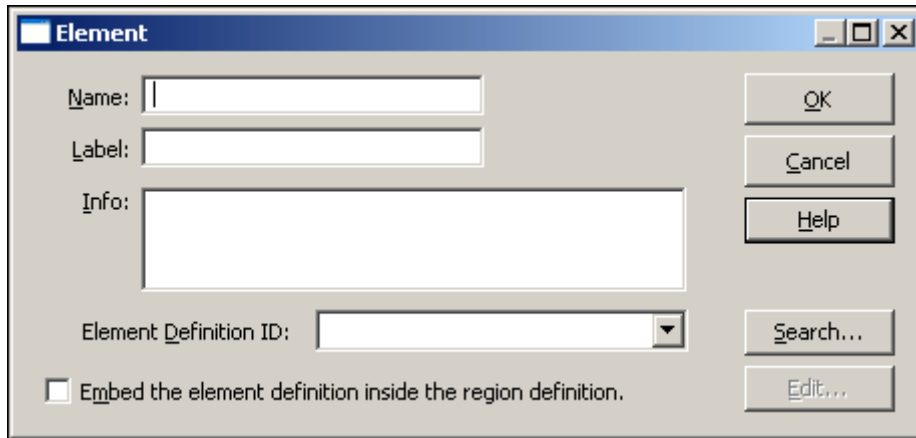


要素	説明
Description	リージョン定義の名前。
Elements	選択したクラス名をコントリビュータで使用可能にします。
Add	要素の追加ダイアログ (A-82 ページの「 <a href="#">「Element」ダイアログ</a> 」を参照) を開き、リージョン定義に要素定義を追加します。
Remove	コントリビュータで使用可能にするクラス名を指定します。 この方法でクラス名を追加する場合は、このクラスを含む CSS ファイルをページ・テンプレートまたはフラグメントに追加する必要があります。
Edit	要素の追加ダイアログ (A-82 ページの「 <a href="#">「Element」ダイアログ</a> 」を参照) を開きます。このダイアログでは、選択した要素定義の情報を編集できます。
Move Up	リストで選択した要素定義を上に移動します。
Move Down	リストで選択した要素定義を下に移動します。
Modify Metadata	「 <a href="#">Enable Metadata Modification</a> 」ダイアログ (A-33 ページの「 <a href="#">Enable Metadata Modification</a> 」ダイアログ」を参照) を開き、リージョン定義の「Metadata」フィールドを更新します。
Switch Content	「 <a href="#">Region Content Options</a> 」ダイアログ (A-46 ページの「 <a href="#">Region Content Options</a> 」ダイアログ」を参照) を開き、リージョン・コンテンツを切り替えるためにコントリビュータが使用するパラメータを選択します。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.43 「Element」ダイアログ

「Element」ダイアログでは、リージョン定義または静的リスト要素定義に要素定義を追加します。このダイアログでは、名前固有の情報を追加できます。これにより、要素定義の再利用性を維持したまま、リージョン定義または静的リスト内で要素定義に特定の識別名を割り当てることができます。

図 A-58 「Element」ダイアログ



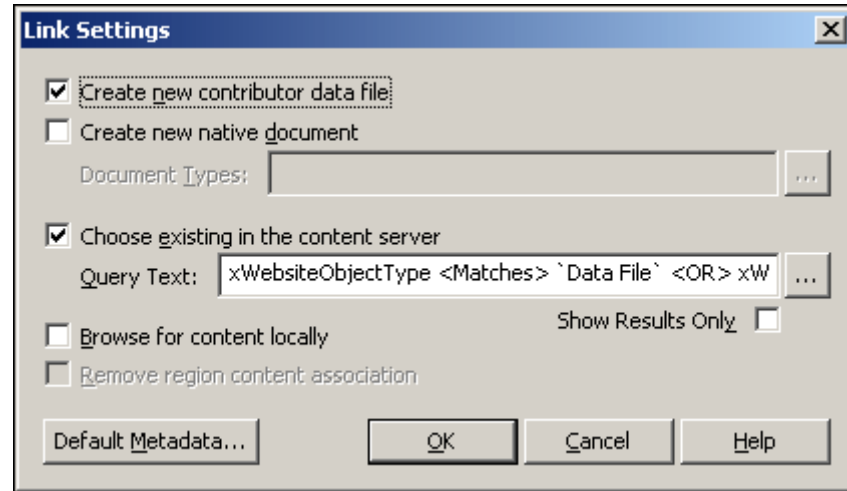
要素	説明
Name	デザイナーのビューに表示される要素の名前。
Label	要素のラベル。ラベルは、コントリビュータの編集リージョンの編集リージョン名として機能します。
Info	要素定義に関する追加情報。ここに入力した情報は、コントリビュータでラベルの上にマウスを置くと、ツールチップとして表示されます。
Element Definition ID	使用する要素定義の名前を選択します。
Embed the element definition inside the region definition	要素定義をリージョン定義に埋め込む場合にボックスを選択します。これにより、要素定義がリージョン定義にコピーされます。したがって、要素定義を更新する場合は、リージョン定義を更新する必要があります。
OK	設定を保存して、「Element」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Define Placeholder」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Search	コンテンツ・サーバーでの要素定義の検索結果を表示するウィンドウを開きます。
Edit	埋め込む要素定義のタイプを選択するダイアログを開きます。

「Info」の内容は、コントリビュータでマウスオーバーしたときにツールチップに示されます。

## A.44 「Link Settings」ダイアログ

リンクの作成をコントリビュータに許可する場合、Link Wizard (デザイナーで使用できるウィザードと同じ) を使用して、別のセクションへのリンク、別のサイトへのリンク、または別のファイルへのリンクを作成できます。このダイアログでは、コントリビュータがリンク設定できるファイルのタイプ (コントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント) や、新規ファイルと既存ファイルのどちらかにリンク設定するかを制御できます。

図 A-59 「Link Settings」ダイアログ



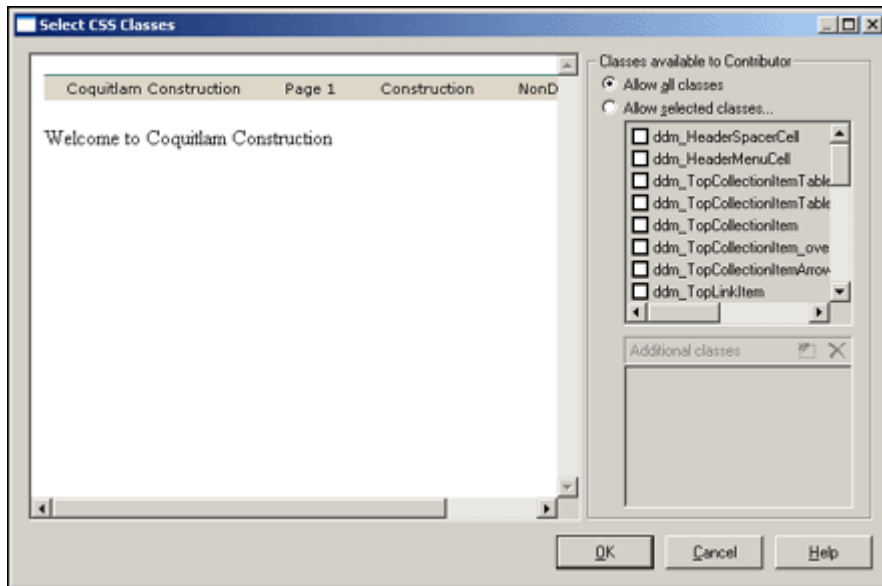
要素	説明
Create new contributor data file	リンク設定可能なコントリビュータ・データ・ファイルの作成をコントリビュータに許可します。
Create new native document	リンク設定可能なネイティブ・ドキュメントの作成をコントリビュータに許可します。 <b>Document Types:</b> コントリビュータが作成可能なネイティブ・ドキュメントを指定します。 「Additional Information」ボタンにより、「Choose Document Types」ダイアログ (A-47 ページの「 <a href="#">Choose Document Types</a> ダイアログ」を参照) が開き、このダイアログでコントリビュータが使用可能なドキュメント・タイプを選択できます。
Choose existing in the content server	リンク設定可能な既存のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントをコンテンツ・サーバーで検索することをコントリビュータに許可します。 <b>Query Text:</b> コンテンツ・サーバーで実行されて既存のファイルを表示する実際の間合せを指定します。 「Additional Information」ボタンにより、「Edit Query Text」ダイアログ (A-48 ページの「 <a href="#">Edit Query Text</a> ダイアログ」を参照) が開き、このダイアログで既存のファイルの表示に使用する間合せを作成、取得およびテストできます。 <b>Show Results Only:</b> 通常のコンテンツ・サーバー環境ではなく、検索結果のみを表示します。(これは、コンテンツ・サーバーの他のコンテンツをコントリビュータが参照できないようにする場合に便利です。)
Browse for content locally	リンク設定可能なファイルをローカル・ファイル・システムで参照することをコントリビュータに許可します。


要素	説明
Remove region content association	デザイナーがリンク設定を指定する場合、このオプションは無効です。これは、コントリビュータ用にコントリビューション・リージョンのオプションを設定する場合のみ使用できます。
Default Metadata	「Enable Metadata Modification」ダイアログ（A-33 ページの「 <a href="#">Enable Metadata Modification</a> 」ダイアログ）を参照を開きます。このダイアログでは、使用可能なメタデータと、コントリビュータがファイルを作成するときに使用されるデフォルトのメタデータを指定できます。
OK	設定を保存して、「Link Settings」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Link Settings」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.45 「Select CSS Classes」 ダイアログ

ページ・テンプレート、サブテンプレートまたはリージョン・テンプレートに Cascading Style Sheet (CSS) を追加する場合、コントリビュータでテキストとグラフィックを編集する際にコントリビュータが選択できるスタイル・シートの特定のクラスを指定できます。これは、Web ページの適切な設計と一貫性を確保する場合に便利です。このダイアログで、使用できるクラス名を指定できます。

図 A-60 「Select CSS Classes」 ダイアログ



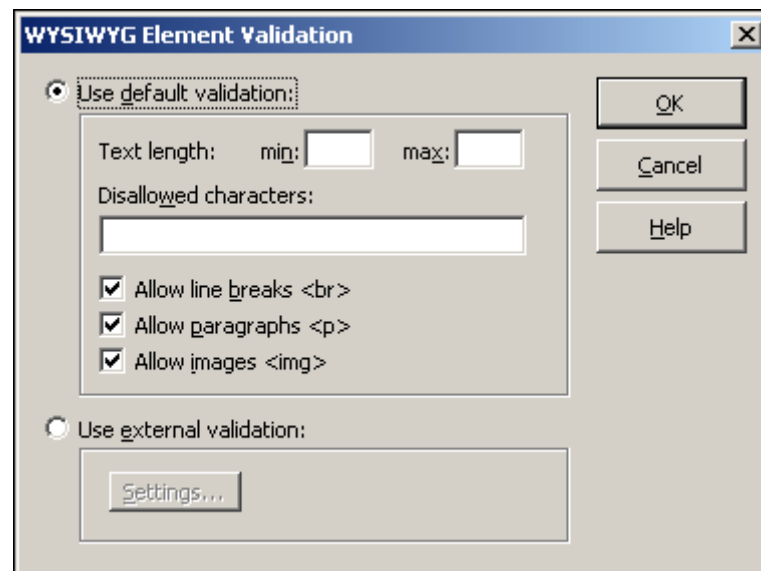
要素	説明
Allow all classes	すべてのクラスをコントリビュータで使用可能にします。
Allow selected classes	選択したクラス名をコントリビュータで使用可能にします。
Additional classes	コントリビュータで使用可能にするクラス名を指定します。 この方法でクラス名を追加する場合は、このクラスを含む CSS ファイルをページ・テンプレートまたはフラグメントに追加する必要があります。
	クラス名を作成します。

要素	説明
✗	(以前のオプションで) 追加したクラス名を削除します。
OK	設定を保存して、「Select CSS Classes」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Select CSS Classes」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.46 「WYSIWYG Element Validation」 ダイアログ

コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションで作業する場合、通常はどのようなテキスト、グラフィックおよびその他のコンテンツも自由に追加できます。ただし、デザイナーの場合は、Web ページ間の一貫性（特に書式設定の一貫性）の確保が目的になります。また、特定のページに対するコンテンツを最小限に抑える場合もあります。（「WYSIWYG Element」ダイアログで使用可能な）要素の検証を使用して、このような基準を実施できます。

図 A-61 「WYSIWYG Element Validation」 ダイアログ



要素	説明
Use default validation	Site Studio に付属のデフォルトの検証オプションを使用します。次の中から選択します。 <b>min:</b> 最小量のテキスト（最小文字数）を規定します。 <b>max:</b> 最大量のテキスト（最大文字数）を規定します。 <b>Disallowed characters:</b> ここで指定する文字を使用できないようにします。 <b>Allow line breaks &lt;br&gt;:</b> 選択した場合、コントリビュータは改行（ソフト・リターン）を作成できます。作成するには、通常キーボードで [Shift] + [Enter] を押します。 <b>Allow paragraphs &lt;p&gt;:</b> 選択した場合、コントリビュータは段落（ハード・リターン）を作成できます。作成するには、通常はキーボードで [Enter] を押します。 <b>Allow images &lt;img&gt;:</b> 選択した場合、コントリビュータはイメージを追加できます。

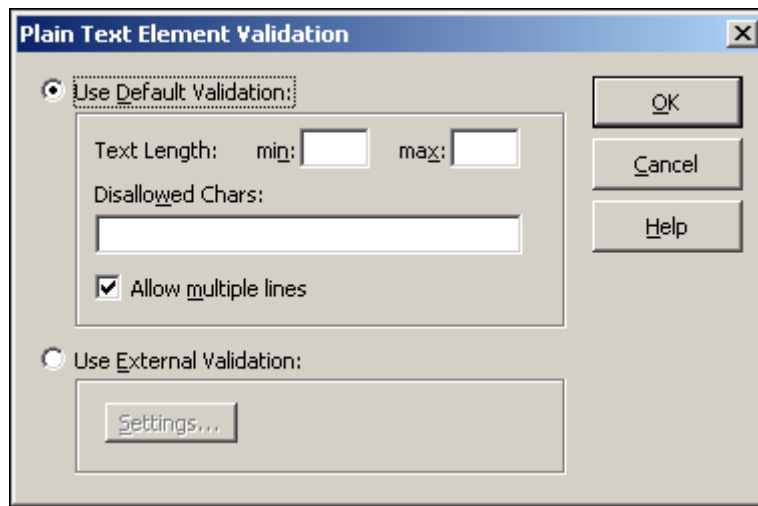
要素	説明
Use external validation	指定した外部の検証スクリプトを使用します。 <b>Settings:</b> 「Advanced Element Validation」 ダイアログ (A-89 ページの「Advanced Element Validation」 ダイアログ) を参照) を開きます。このダイアログでは、使用するスクリプトの値を入力できます。
OK	設定を保存して、「WYSIWYG Element Validation」 ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「WYSIWYG Element Validation」 ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

このダイアログのデフォルトの検証オプションは、Site Studio に付属のスクリプト `ss_default_validation_script.js` から派生したものです。

## A.47 「Plain Text Element Validation」 ダイアログ

コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションで作業する場合、通常はどのようなテキストも (プレーン・テキスト要素の書式設定の制限がある場合でも) 自由に追加できます。ただし、デザイナーの場合は、一貫性の確保 (特に特定のページに対してコンテンツを最小限に抑える必要がある場合) が目的になります。「Plain Text Element」 ダイアログで使用可能な要素の検証を使用して、このような基準を実施できます。

図 A-62 「Plain Text Element Validation」 ダイアログ



要素	説明
Use default validation	Site Studio に付属のデフォルトの検証オプションを使用します。次の中から選択します。 <b>min:</b> 最小量のテキスト (最小文字数) を規定します。 <b>max:</b> 最大量のテキスト (最大文字数) を規定します。 <b>Disallowed characters:</b> ここで指定する文字を使用できないようにします。 <b>Allow multiple lines:</b> 選択した場合、コントリビュータはテキストの行を追加できます (キーボードで [Enter] を押します)。

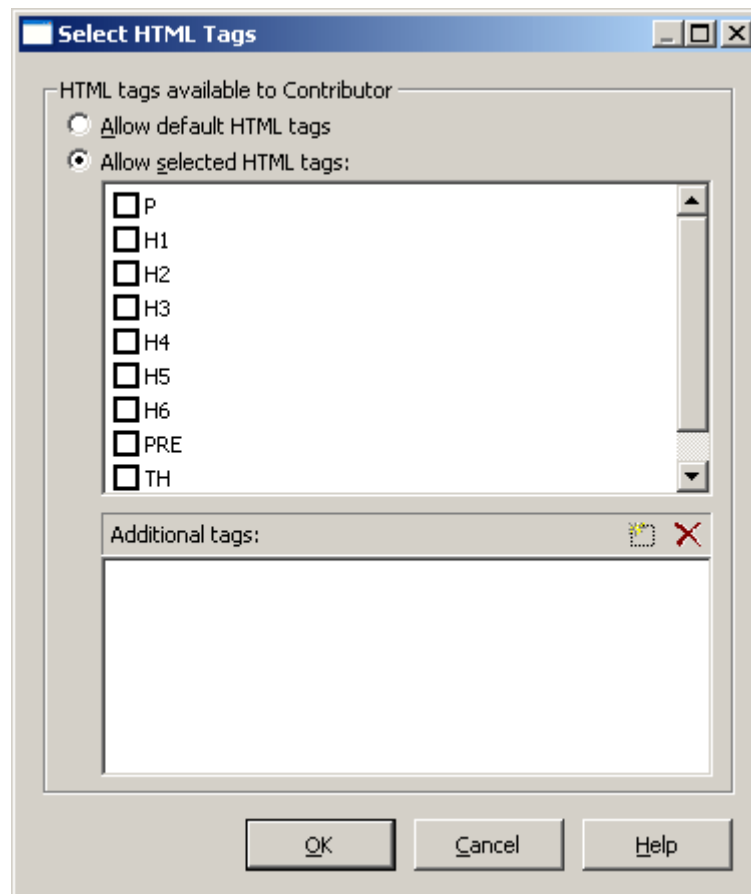
要素	説明
Use external validation	指定した外部の検証スクリプトを使用します。 <b>Settings:</b> 「Advanced Element Validation」ダイアログ (A-89 ページの「 <a href="#">Advanced Element Validation</a> 」ダイアログ) を参照) を開きます。このダイアログでは、使用するスクリプトの値を入力できます。
OK	設定を保存して、「Plain Text Element Validation」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Plain Text Element Validation」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。



このダイアログのデフォルトの検証オプションは、Site Studio に付属のスクリプト `ss_default_validation_script.js` から派生したものです。

## A.48 「Select HTML Tags」 ダイアログ

コントリビュータが WYSIWYG インタフェースを使用せずに HTML で Web ページを編集できる場合、指定したリージョンの HTML での編集をコントリビュータに許可できます。デザイナーは、コントリビュータがリージョンの編集で使用できるタグを制限できます。これは、一部のコントリビュータが保持する高度な機能のバランスを保ち、Web ページ間で基準を実施する場合に役立ちます。

図 A-63 「Select HTML Tags」 ダイアログ

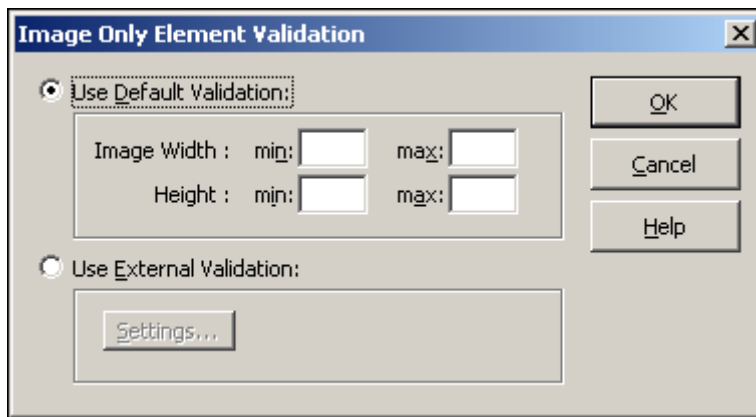


要素	説明
Allow default HTML tags	HTML タグのデフォルト・セットの使用をコントリビュータに許可します。
Allow selected HTML tags	選択するタグのみの使用をコントリビュータに許可します。
	許可された HTML タグを作成します。
	(以前のオプションで) 追加した HTML タグを削除します。
OK	設定を保存して、「Plain Text Element Validation」 ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Plain Text Element Validation」 ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.49 「Image Only Element Validation」 ダイアログ

コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーション (特にイメージ要素) で作業する場合、通常はどのようなイメージも自由に追加できます。ただし、デザイナーの場合は、ページ間での一貫性 (特にイメージ・サイズ) の確保が目的になります。「Image Element」ダイアログで使用可能な) 要素の検証を使用して、このような基準を実施できます。

図 A-64 「Image Only Element Validation」 ダイアログ



要素	説明
Use default validation	Site Studio に付属のデフォルトの検証オプションを使用します。次の中から選択します。 <b>Width:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>min:</b> 最小幅 (ピクセル単位) を規定します。</li> <li>■ <b>max:</b> 最大幅 (ピクセル単位) を規定します。</li> </ul> <b>Height:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>min:</b> 最低の高さ (ピクセル単位) を規定します。</li> <li>■ <b>max:</b> 最大の高さ (ピクセル単位) を規定します。</li> </ul>
Use external validation	指定した外部の検証スクリプトを使用します。 <b>Settings:</b> 「Advanced Element Validation」ダイアログ (A-89 ページの「Advanced Element Validation」ダイアログ) を参照) を開きます。このダイアログでは、使用するスクリプトの値を入力できます。
OK	設定を保存して、「Image Only Element Validation」ダイアログを閉じます。



要素	説明
Cancel	設定をキャンセルして、「Image Only Element Validation」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

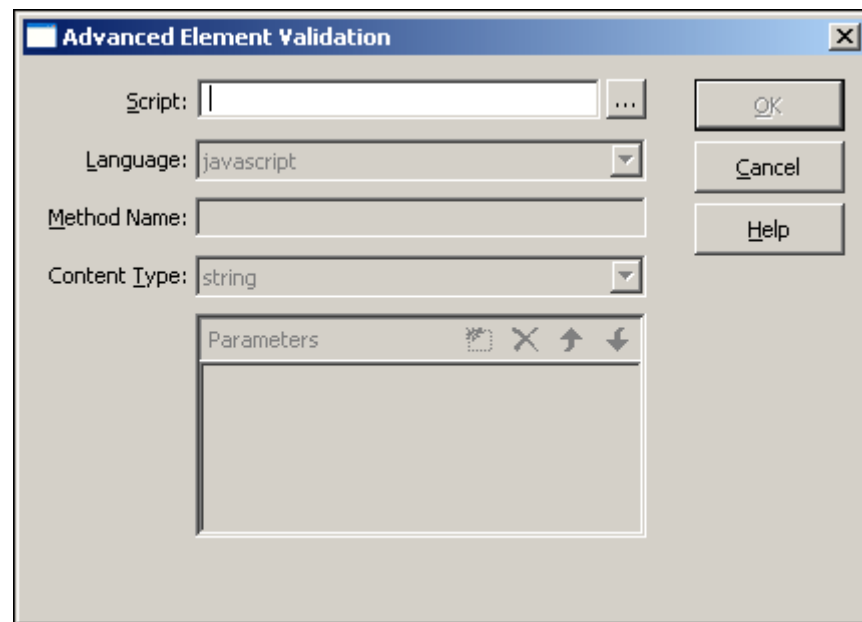
特定のイメージ・サイズをピクセル単位にする場合、イメージ・プロパティ・フォームを使用してイメージのサイズの変更方法をコントリビュータに指示できます。


このダイアログのデフォルトの検証オプションは、Site Studio に付属のスクリプト `ss_default_validation_script.js` から派生したものです。




## A.50 「Advanced Element Validation」 ダイアログ

コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションで作業する場合、通常はどのようなテキスト、グラフィックおよびその他のコンテンツも自由に追加できます。ただし、デザイナーの場合は、一貫性の確保や、Web ページに投稿されるコンテンツの量の制限が目的になります。このダイアログでは、デザイナーでデフォルトの検証オプションを使用したり、独自の検証スクリプトを作成して要素に追加したりすることができます。

図 A-65 「Advanced Element Validation」 ダイアログ



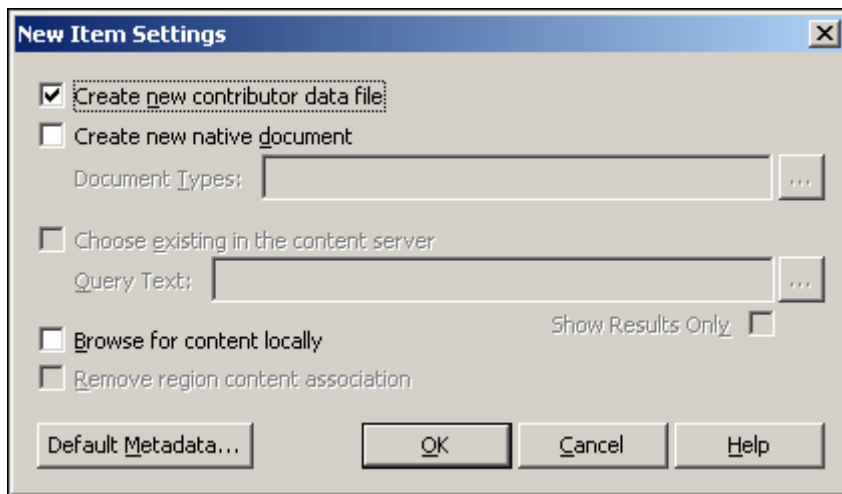
要素	説明
Script	要素に使用するカスタム検証スクリプトを指定します。 「Additional Information」ボタンによって「Content Server Dialog」が開き、このダイアログで、コンテンツ・サーバーから検証スクリプトを選択できます。
Language	検証で使用されるスクリプト言語（「JavaScript」または「VBScript」）を指定します。
Method Name	検証の実行に使用するメソッドを指定します。
Content Type	検証で使用されるコンテンツ・タイプ（「string」、「XML」、「HTML」）を指定します。
	パラメータを追加します。

要素	説明
	既存のパラメータを削除します。
	リストのパラメータを上に移動します。
	リストのパラメータを下に移動します。
OK	設定を保存して、「Advanced Element Validation」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Advanced Element Validation」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.51 「New Item Settings」 ダイアログ

動的リストへのアイテムの追加をコントリビュータに許可する場合、コントリビュータは新規または既存のコントリビュータ・データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントを追加できます。(動的リスト要素の定義ダイアログからアクセス可能な) このダイアログでは、追加できるファイルのタイプを正確に制御できます。

図 A-66 「New Item Settings」 ダイアログ



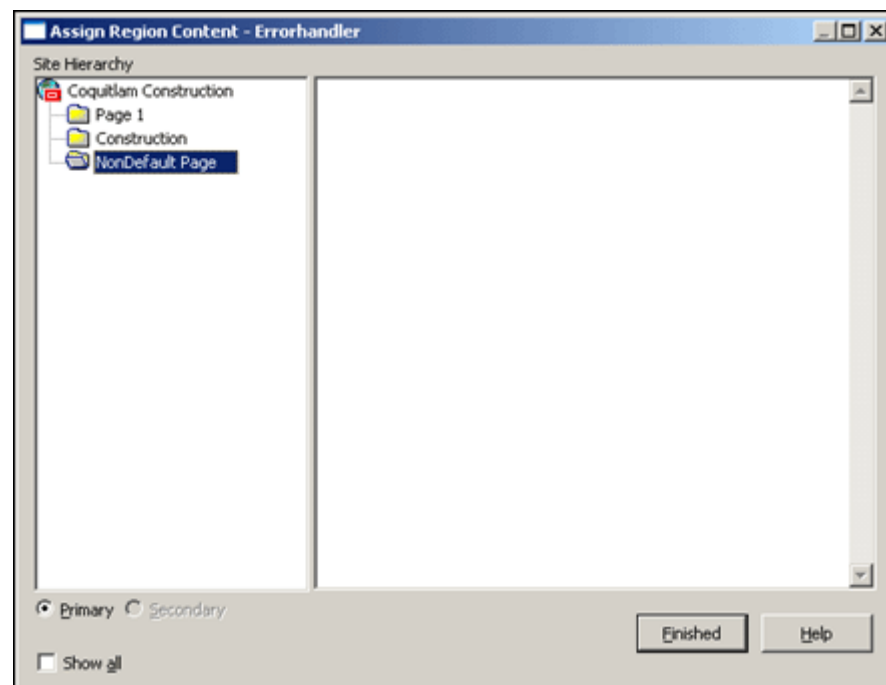
要素	説明
Create new contributor data file	コントリビュータ・データ・ファイルの作成と、そのファイルのリストへの追加をコントリビュータに許可します。
Create new native document	<p>ネイティブ・ドキュメントの作成と、そのファイルのリストへの追加をコントリビュータに許可します。</p> <p><b>Document Types:</b> コントリビュータが作成可能なネイティブ・ドキュメントを指定します。</p> <p>「Additional Information」ボタンにより、「Choose Document Types」ダイアログ (A-47 ページの「<a href="#">Choose Document Types</a>」ダイアログ) を参照) が開き、このダイアログでコントリビュータが使用可能なドキュメント・タイプを選択できます。</p>

要素	説明
Choose existing in the content server	このオプションは、動的リストの間合せでコンテンツ・サーバー内の既存のファイルがすでに取得されるため、動的リストのコンテキストでは無効になります。  コントリビュータがリストに表示されていないコンテンツ・サーバーの既存のファイルを追加するには、リストで使用されるメタデータと一致するようにそのファイルのメタデータを変更する必要があります。
Browse for content locally	ローカル・ファイル・システムでのファイルの参照と、そのファイルのリストへの追加をコントリビュータに許可します。
Remove region content association	このオプションは、動的リストのコンテキストでは無効です。これは、コントリビュータ用にコントリビューション・リージョンのオプションを設定する場合のみ使用できます。
Default Metadata	「Enable Metadata Modification」ダイアログ（A-33 ページの「 <a href="#">Enable Metadata Modification</a> 」ダイアログ）を参照）を開きます。このダイアログでは、使用可能なメタデータと、リストに追加するファイルに割り当てられるデフォルトのメタデータを指定できます。
OK	設定を保存して、「New Item Settings」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「New Item Settings」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.52 「Assign Region Content」 ダイアログ

プライマリ・ページの各プレースホルダには、コントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントまたはサブテンプレートを割り当てる必要があります。セカンダリ・ページの各プレースホルダには、サブテンプレート、データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てるか、それらのファイルを置換え可能として指定する必要があります。このダイアログでこれらのタスクを実行します。コントリビュータは、データ・ファイルの割当てと、プレースホルダに割り当てられたデータ・ファイルの編集も可能です（デザイナーがこれらのアクションを許可している場合）。

図 A-67 「Assign Region Content」 ダイアログ



要素	説明
Site Hierarchy	<p>サイト階層を表示して、コンテンツが割り当てられているプレースホルダを示します。</p> <p>フォルダ・アイコンは、セクションにコンテンツが割り当てられているか、またはセクションが置換えとして指定されていることを示します。</p> <p>X フォルダ・アイコンは、セクションにコンテンツが存在しないか、またはセクションを置換え可能として指定する必要があることを示します。</p> <p>セクションをクリックして、プライマリ・ページとセカンダリ・ページのプレースホルダを表示および構成します。</p>
Primary	サイト階層にプライマリ・ページを表示します。
Secondary	サイト階層にセカンダリ・ページを表示します。
Show all	<p>サイト階層を展開し、コンテンツが存在しないセクションや置換え可能として指定されていないセクションを表示します。リージョンが複数ある場合は、各リージョンの経由に使用できるナビゲーション・コントロール（次を参照）が表示されます。</p>
Finished	設定を保存して、「Assign Region Content」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

リージョンにコンテンツを割り当てるのではなく、コントリビュータにこのタスクを実行するように選択できます。

#### プレースホルダ情報のツールチップ

「Assign Region Content」ダイアログにコントリビューション・グラフィックが表示されている場合、プレースホルダのコントリビューション・グラフィックの上にマウスを置くと、リージョンが選択され、小さいポップアップ・ウィンドウにプレースホルダ情報のツールチップ (図 A-68) も表示されます。

図 A-68 プレースホルダ情報のツールチップ

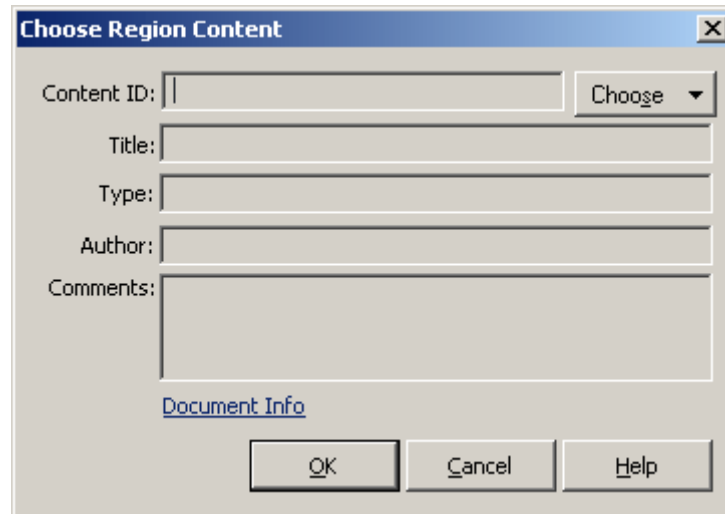
<b>Placeholder Name</b>	Default
<b>Content ID</b>	loafer_frontpage
<b>Placeholder Definition</b>	placeholderdef_default Global Mappings
<b>Region Definition</b>	regiondefinition_basic Metadata
<b>Region Template</b>	regiontemplate_default Placeholder Definition

プレースホルダ情報のツールチップには、選択されたコントリビューション・リージョンで割り当てられているプレースホルダ・マッピング、プレースホルダ定義、リージョン定義およびリージョン・テンプレートの名前がリストされます。また、ページ・テンプレートのコンテンツ ID も表示されます。この情報は、各プレースホルダに編成されているサイト・アセットを確認するときに役立ちます。

## A.53 「Choose Region Content」 ダイアログ

プライマリ・ページの各リージョンには、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てる必要があります。セカンダリ・ページの各リージョンには、ファイルを割り当てるか、ファイルを置換え可能として指定する必要があります。(A-91 ページの「[Assign Region Content](#)」ダイアログから使用可能な) このダイアログでは、リージョンに新規または既存のコントリビュータ・データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントを割り当てることができます。

図 A-69 「Choose Region Content」 ダイアログ



要素	説明
Content ID	リージョンに割り当てられたファイルのコンテンツ ID を表示します。 (このフィールドと、その後のフィールドは、リージョンにファイルを割り当てるまでは空白になっています。)
Title	リージョンに割り当てられたファイルのタイトルを表示します。
Type	リージョンに割り当てられたファイルのタイプ (ドキュメント・タイプ) を表示します。
Author	リージョンに割り当てられたファイルの作成者を表示します。
Comments	リージョンに割り当てられたファイルのコメントを表示します。
Document Info	リージョンに割り当てられたファイルの「Content Information」ページを開きます。
Choose	リージョンに割り当てられるファイルを選択します。次の 4 つから選択します。 <b>Existing:</b> 「Content Server」ダイアログを開き、このダイアログで既存のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを選択して、そのファイルをリージョンに割り当てることができます。 <b>New:</b> 作成してリージョンに割り当てることができるファイル・タイプのリストを表示します。 <b>Local:</b> ローカル・ファイル・システムからファイルを選択して、そのファイルをチェックインし、リージョンに割り当てるウィンドウを開きます。 <b>None:</b> リージョンに割り当てられた既存のファイルを削除します。
OK	設定を保存して、「Choose Region Content」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Choose Region Content」ダイアログを閉じます。

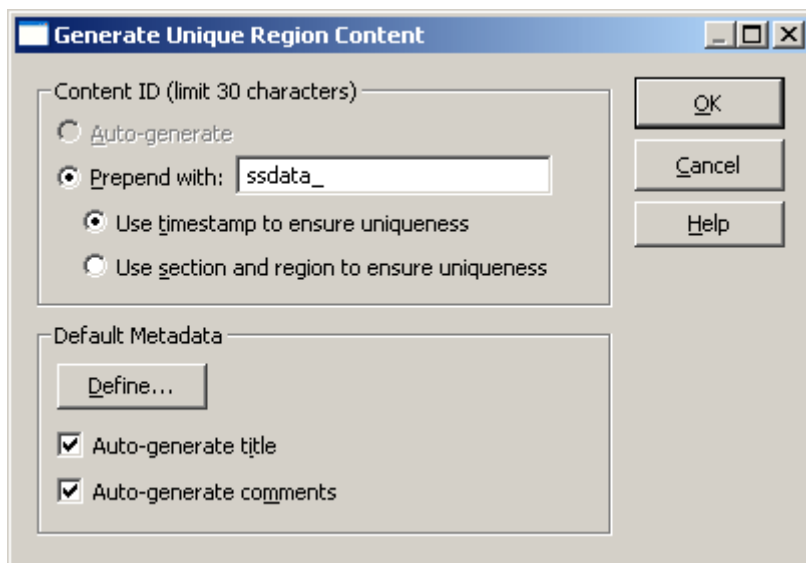
要素	説明
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.54 「Generate Unique Region Content」 ダイアログ

Site Studio では、サイト階層全体で同じページ・テンプレートの各リージョンに対して一意のコントリビュータ・データ・ファイルを自動的に生成できます。これは、ページ・テンプレートを再利用して、そのページにコントリビューション・リージョンを移入する場合（該当ページがサイトのどこで使用される場合でも）に便利です。この機能を使用する際は、それぞれのネーミング規則を指定できます。

すでにリージョンに割り当てられているコントリビュータ・データ・ファイルは上書きされません。

図 A-70 「Generate Unique Region Content」 ダイアログ



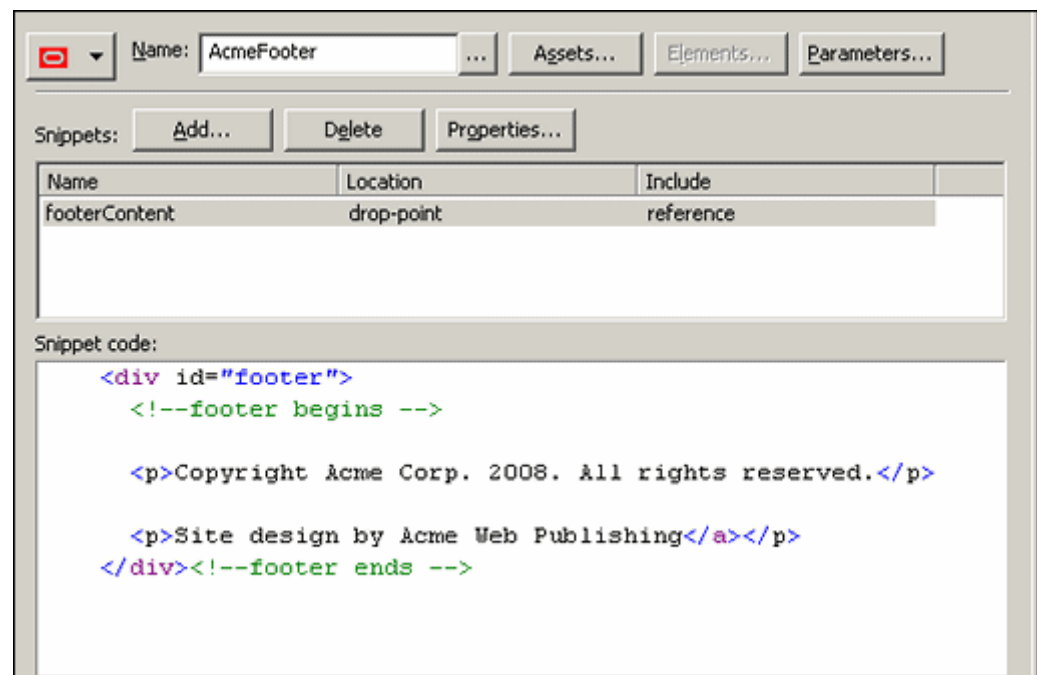
要素	説明
Use auto-generated Content IDs	コンテンツ ID は、コンテンツ・サーバーの設定に基づいて自動的に生成されません。 このオプションは、コンテンツ・サーバーがコンテンツ ID を自動生成するように設定されていない場合は無効です。
Create Content IDs from the following	コンテンツ ID は、ここで指定したネーミング規則に基づいて自動的に生成されます。 <b>Prepend with:</b> この接頭辞が使用された後、次に指定するネーミング規則が使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Use timestamp to ensure uniqueness:</b> 名前は一意のタイムスタンプ（ファイルが作成されてコンテンツ・サーバーにチェックインされた時間）に基づきます。</li> <li>■ <b>Use section and region to ensure uniqueness:</b> 名前は、ファイルが Web サイトに配置されるセクションとリージョンに基づきます。</li> </ul>
Define	コンテンツ・サーバーの「Assign Info Form」を使用して、各ファイルの追加のデフォルトのメタデータ値を定義します。



要素	説明
Auto-generate title	セクションの名前とリージョンの名前に基づいて、タイトルを自動生成します。 たとえば、次のようなタイトルになります。 セクション Products、リージョン Region1 のコントリビューション・データ
Auto-generate comments	セクションの名前とリージョンの名前に基づいて、コメントを自動生成します。 たとえば、次のようなコメントになります。 コメント:これは、Site Studio の Web サイト・セクション Products、リージョン Region1 のリージョン・コンテンツです。
OK	設定を保存して、「Generate Unique Region Content」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Generate Unique Region Content」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.55 フラグメント・エディタ・ダイアログ

フラグメント・エディタは、フラグメントのすべての部分（スニペット、アセット、パラメータ、要素など）を編集できる編集オプション一式で構成されています。「File」メニューからフラグメント・エディタを開き、ツールボックスでいつでもフラグメントを編集できます。

図 A-71 フラグメント・エディタ・ダイアログ



要素	説明
	フラグメントに関連付けられているアイコンを変更します。アイコンは、フラグメントを保存するとツールボックスに表示されます。 使用可能なアイコンを表示して、その中のいずれかのアイコンを選択するには、このボタンをクリックします。
	フラグメント・プロパティ・ダイアログ（A-97 ページの「フラグメント・プロパティ・ダイアログ」を参照）を開き、このダイアログでフラグメントの名前、言語およびタイプを変更できます。

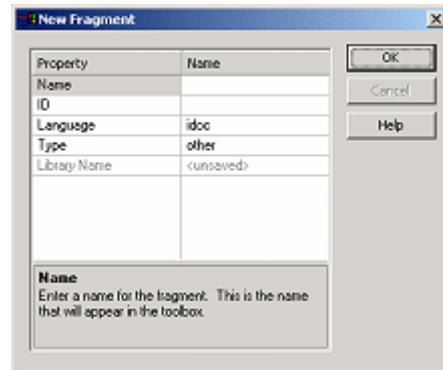
要素	説明
Assets	「Fragment Assets」ダイアログ (A-98 ページの「 <a href="#">「Fragment Assets」ダイアログ・ボックス</a> 」を参照) を開き、このダイアログでフラグメントのアセットを追加、編集および削除できます。
Elements	「Fragment Elements」ダイアログ (A-99 ページの「 <a href="#">「Fragment Elements」ダイアログ・ボックス</a> 」を参照) を開き、このダイアログでフラグメントの各要素を追加、編集および削除できます。  要素は、静的リストのフラグメントにのみ使用できます。そのため、フラグメント・タイプが「staticlist」(A-97 ページの「 <a href="#">フラグメント・プロパティ・ダイアログ</a> 」を参照) ではない場合、このボタンは無効です。
Parameters	「Fragment Parameters」ダイアログ (A-100 ページの「 <a href="#">「Fragment Parameters」ダイアログ</a> 」を参照) を開き、このダイアログでフラグメントの各パラメータを追加、編集および削除できます。
Add	スニペット・プロパティ・ダイアログ (A-104 ページの「 <a href="#">スニペット・プロパティ・ダイアログ</a> 」を参照) を開き、このダイアログでフラグメントにスニペットを追加できます。
Delete	フラグメントからスニペットを削除します。
Properties	スニペット・プロパティ・ダイアログ (A-104 ページの「 <a href="#">スニペット・プロパティ・ダイアログ</a> 」を参照) を開き、このダイアログでフラグメントのスニペットを編集できます。
Name   Location   Include  (ステータス領域)	フラグメントの既存のスニペットを表示します。
Snippet code	スニペット・コードを表示します。このウィンドウでテキストを編集できます。
Preview	「Fragment Preview」ダイアログ (A-107 ページの「 <a href="#">「Fragment Preview」ダイアログ</a> 」を参照) を開き、このダイアログでフラグメントをプレビューできます。  フラグメントをプレビューするには、一連のパラメータの値の選択が求められます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。



## A.56 フラグメント・プロパティ・ダイアログ

フラグメントのプロパティには、フラグメントの名前、ID、言語およびタイプなどがあります。フラグメントを作成するたびに、これらの値の入力が求められます。このダイアログでは、フラグメントの作成後にこのような値の変更も可能です。

図 A-72 フラグメント・プロパティ・ダイアログ

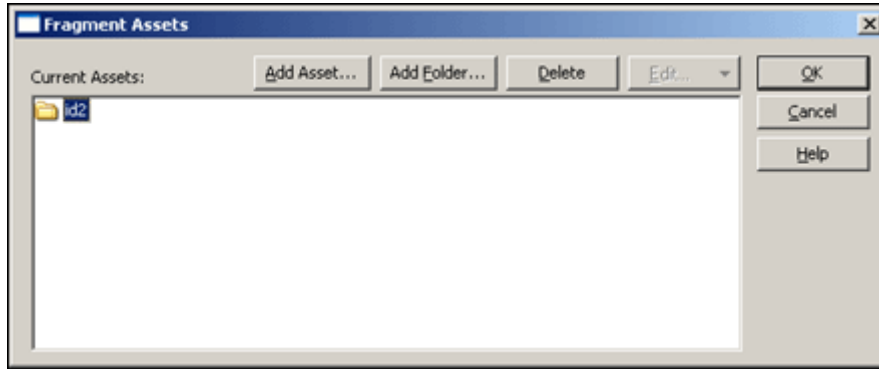


要素	説明
Name	フラグメントを特定します。 フラグメントの名前がツールボックスに表示されます。空白や特殊文字などを使用したわかりやすい名前にします。
ID	フラグメントとその各部分（スニペット、アセット、パラメータなど）を特定します。 初めてフラグメントを作成する場合は ID のみを変更できます。フラグメントでは、XML 属性、およびクラス、ファイル、ディレクトリのベース名としても機能します。ID は簡潔にして、空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。
Language	サーバー側スクリプトのフラグメントで使用される言語を特定します。 サイトのタイプが「hcsp/jsp」の場合、使用可能な言語は「idoc」または「jsp」になります。サイトのタイプが「asp」の場合、使用可能な言語は「asp」になります。
Type	フラグメントのタイプと使用目的を特定します。この選択により、フラグメントに使用可能なオプションと、ツールボックスでのフラグメントの場所が決まります。次の 4 つのタイプがあります。 <b>navigation:</b> フラグメントは、サイト・ナビゲーション（ナビゲーション・バー、ブレッドクラム、検索など）に使用されます。 <b>staticlist:</b> フラグメントを使用して、コントリビュータが各要素を編集できる高度なコントリビューション機能が提供されます。 <b>dynamic list:</b> フラグメントを使用して、コントリビュータがリストに表示されるファイルを変更できる高度なコントリビューション機能が提供されます。 <b>other:</b> フラグメントは、著作権の行、埋め込まれたマルチメディア、またはログイン・スクリプトなどの目的に使用されます。
Library Name	フラグメントが格納されているライブラリを特定します。 初めてフラグメントを保存するまでは「<unsaved>」が表示され、無効になっています。
OK	設定を保存して、フラグメント・プロパティ・ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、フラグメント・プロパティ・ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.57 「Fragment Assets」 ダイアログ・ボックス

アセットとは、フラグメントで参照されるファイルで、通常はフラグメントのスニペット内にあります。グラフィック、Cascading Style Sheet (CSS) およびスタンドアロンのスクリプトはすべて、使用頻度の高いアセットになります。このダイアログでは、アセットを追加、編集および削除できます。

図 A-73 「Fragment Assets」 ダイアログ

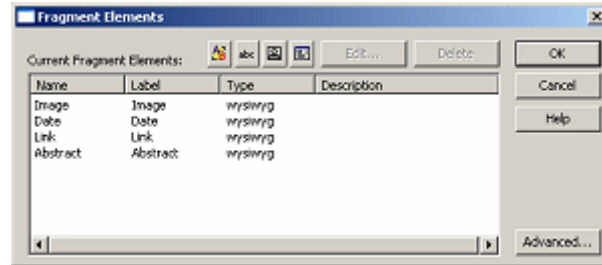


要素	説明
Current Assets	既存のフラグメント・アセットを表示します。
Add Asset	フラグメントにアセットを追加します。 ファイル・システムのアセットを追加します。その後、Site Studio でファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインして、このフラグメントとともにパッケージ化します。
Add Folder	アセットのサブフォルダを追加します。このサブフォルダを使用すると、ファイルをさらに適切に編成できます。 すべてのプラットフォーム（特に UNIX）での互換性を確保するために、サブフォルダではすべて小文字を使用してください。
Delete	フラグメントからアセットを削除します。
Edit	(サード・パーティ製アプリケーションを使用して) アセットを編集します。2つのオプションを使用できます。 <b>Edit:</b> そのファイル・タイプに関連付けられているアプリケーションでアセットを開きます。 <b>Edit With:</b> ファイルを開くアプリケーションを選択するダイアログを開きます。
OK	設定を保存して、「Fragment Assets」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Fragment Assets」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.58 「Fragment Elements」ダイアログ・ボックス

要素はコントリビュータ内のフィールドになります。このフィールドでユーザーはコンテンツ（テキストとグラフィック）を追加および編集できます。要素をフラグメントでまとめて、静的リストを作成することもできます。静的リストを使用すると、コントリビュータは、情報を示す行と列を追加、編集、削除、および再配置できます。このダイアログでは、要素を追加、編集および削除できます。

図 A-74 「Fragment Elements」ダイアログ



### 要素

### 説明



WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログ（A-52 ページの「WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログ」を参照）を開き、このダイアログでフラグメントに要素を追加します。

abc

プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログ（A-59 ページの「プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログ」を参照）を開き、このダイアログでフラグメントに要素を追加します。



イメージ要素の「Element」ダイアログ（A-63 ページの「イメージ要素の「Element」ダイアログ」を参照）を開き、このダイアログでフラグメントに要素を追加します。



カスタム要素の「Element」ダイアログ（A-67 ページの「カスタム要素の「Element」ダイアログ」を参照）を開き、このダイアログでフラグメントに要素を追加します。

Edit

フラグメントの選択した要素を編集します。

Delete

フラグメントの選択した要素を削除します。

Name | Label |  
Type |  
Description

フラグメントの既存の要素を表示します。

OK

設定を保存して、「Fragment Elements」ダイアログを閉じます。

Cancel

設定をキャンセルして、「Fragment Elements」ダイアログを閉じます。

Help

このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

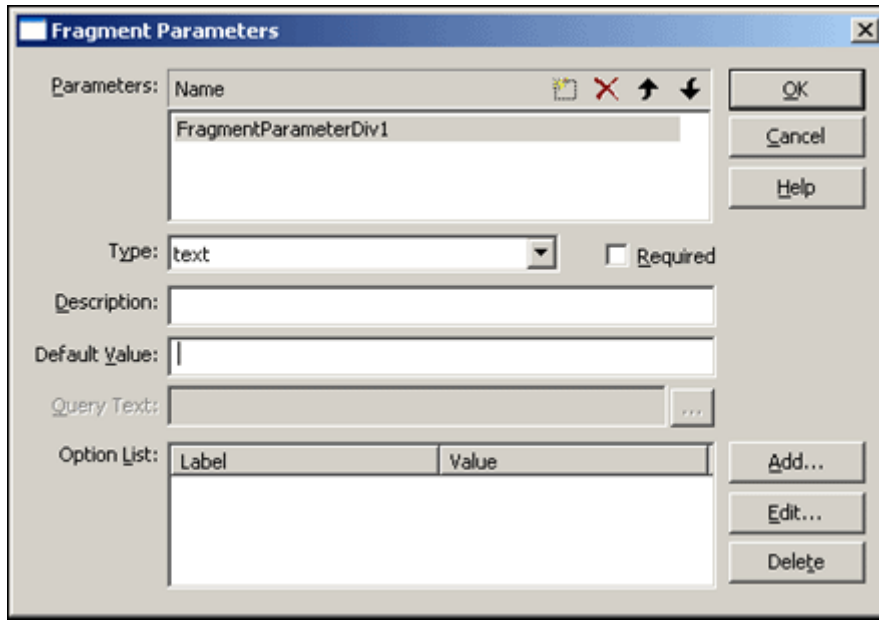
Advanced

要素のカスタマイズなどに使用するテキスト・エディタを開きます。  
この方法で要素を編集すると、「Fragment Elements」ダイアログのグラフィカル・ユーザー・インターフェースに戻ることはできません。サポートされているインターフェースを使用できないためです。

## A.59 「Fragment Parameters」 ダイアログ

パラメータとは、ページ・テンプレートにフラグメントを追加するときその外観と動作を制御する属性です。このダイアログでパラメータを作成してから、フラグメントを使用する際にこれらのパラメータから選択します（A-106 ページの「[「Fragment Parameters」 ダイアログ](#)」を参照）。

図 A-75 「Fragment Parameters」 ダイアログ



要素	説明
Parameters: Name	フラグメントの既存のパラメータを表示します。
	フラグメントのパラメータを作成します。 名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。また、like (Idoc スクリプトで文字列の比較演算子として使用される) などのコーディング目的で一般的に使用される用語も使用しないでください。
	フラグメントのパラメータを削除します。
	リストのパラメータを上に移動します。移動すると、このダイアログと「 <a href="#">「Fragment Parameters」 ダイアログ</a> 」（A-106 ページの「 <a href="#">「Fragment Parameters」 ダイアログ</a> 」を参照）でのパラメータの位置が変わります。
	リストのパラメータを下に移動します。移動すると、このダイアログと「 <a href="#">「Fragment Parameters」 ダイアログ</a> 」（A-106 ページの「 <a href="#">「Fragment Parameters」 ダイアログ</a> 」を参照）でのパラメータの位置が変わります。

要素	説明
Type	<p>パラメータの機能（目的）を定義します。次の複数のタイプがあります。</p> <p><b>text:</b> フラグメントを使用する場合にテキストを挿入できる単純なテキスト・ボックスを表示します。（「Option List: Label   Value」で、テキストのオプション・リストを作成できます）。</p> <p><b>bigtext:</b> フラグメントを使用する場合にテキストを追加および編集できる大きめのテキスト・ボックスを（ポップアップ・ウィンドウに）表示します。</p> <p><b>boolean:</b> フラグメントを使用する場合に指定できる値「True」または「False」を表示します。</p> <p><b>integer:</b> フラグメントを使用する場合に指定できる整数値を表示します。（この値では小数点は使用できません。）</p> <p><b>float:</b> フラグメントを使用する場合に指定できる値（小数点を含む）を表示します。</p> <p><b>size:</b> フラグメントを使用する場合に指定できるサイズの値（ピクセルまたはパーセンテージ）を表示します。</p> <p><b>color:</b> フラグメントを使用する場合に色の選択に使用できる RGB の 16 進数値（0xFF0000 など）とカラー・ピッカーを表示します。</p> <p><b>url:</b> フラグメントを使用する場合に URL を参照して、その URL を値として選択できるダイアログを表示します。</p> <p><b>manageddoc:</b> フラグメントを使用する場合にコンテンツ・サーバーのドキュメントを参照して、そのドキュメントを値（dDocName）として選択するコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。（次の「Query Text」フィールドを使用して問合せを取得します。）</p> <p><b>managedurl:</b> フラグメントを使用する場合にコンテンツ・サーバーのドキュメントの URL を参照して、その URL を値として選択するコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。（次の「Query Text」フィールドを使用して問合せを取得します。）</p> <p><b>managedquery:</b> 「Edit Query Text」ダイアログ（A-48 ページの「<a href="#">「Edit Query Text」ダイアログ</a>」を参照）を開き、このダイアログでフラグメントを使用する場合に問合せを作成できます。このパラメータは、動的リスト・フラグメントの場合に最も役立ちます。</p> <p><b>cssstyle:</b> フラグメントを使用する場合に CSS スタイルの値を指定できるテキスト・ボックスを表示します。</p> <p><b>siteid:</b> フラグメントを使用する場合にコンテンツ・サーバーの Web サイトを選択するダイアログ（A-34 ページの「<a href="#">「Select Site」ダイアログ</a>」を参照）を表示します。</p> <p><b>nodeid:</b> フラグメントを使用する場合にサイト階層のセクションを選択するダイアログ（A-35 ページの「<a href="#">「Select Section」ダイアログ</a>」を参照）を開きます。</p> <p><b>custom:</b> フラグメント・パラメータの高度な機能を表示します。</p>
Required	<p>パラメータを必須にします。</p> <p>フラグメントを使用する場合、「Fragment Parameters」ダイアログ（A-106 ページの「<a href="#">「Fragment Parameters」ダイアログ</a>」を参照）を閉じる前に、各パラメータの値を入力する必要があります。</p> <p>パラメータを必須にして、受入れ可能なデフォルトの値を指定することもできます。</p>
Description	<p>パラメータの説明を表示します。</p> <p>説明は、フラグメントの使用時に、「Fragment Parameters」ダイアログの一番下に表示されます。</p>
Default Value	フラグメントを実際に使用する場合、パラメータのデフォルトの値を表示します。

要素	説明
Query Text	(前述の) パラメータ・タイプ「manageddoc」または「managedurl」を使用して、ドキュメントを参照する場合に使用される問合せを指定します。 問合せを指定しない場合は、コンテンツ・サーバーのすべてのコンテンツが検索されます。 「Additional Information」ボタンにより、「Edit Query Text」ダイアログ (A-102 ページの「 <a href="#">「Edit Query Text」ダイアログ</a> 」を参照) が開きます。このダイアログでは、コンテンツ・サーバーでの問合せの入力、取得およびテストを行うことができます。
Option List: Label   Value	フラグメントの既存のオプション・リストを表示します。 オプション・リストを使用して、(前述の) パラメータ・タイプ「text」に可能な値のリストを指定します。フラグメントを使用する場合、値は「Fragment Parameters」ダイアログのオプションのポップアップ・リストに表示されます。
Add	「New Option」ダイアログ (A-103 ページの「 <a href="#">「New Option」ダイアログ</a> 」を参照) を開き、このダイアログでオプション・リストを追加できます。
Edit	「New Option」ダイアログ (A-103 ページの「 <a href="#">「New Option」ダイアログ</a> 」を参照) を開き、このダイアログでオプション・リストを編集できます。
Delete	オプション・リストを削除します。
OK	設定を保存して、「Fragment Parameters」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Fragment Parameters」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.60 「Edit Query Text」 ダイアログ

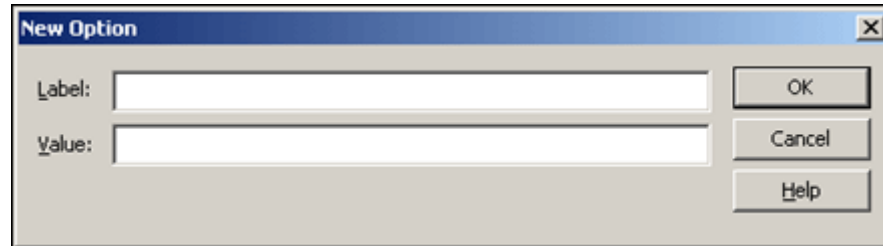
コンテンツ・サーバーの検索に使用されるパラメータ (たとえば、「manageddoc」、  
「managedurl」、  
「managedquery」のパラメータ) をフラグメントに追加する場合、実行する問合せを指定する必要があります。このダイアログを使用して、問合せを指定、取得およびテストできます。

要素	説明
[Text field]	このテキスト・ボックスで問合せを指定します。
Capture Query	コンテンツ・サーバーで「Content Query Capture」画面を開き、この画面で問合せを実行してからその問合せを保存 (取得) します。
Test Query	コンテンツ・サーバーで問合せをテストします。
OK	設定を保存して、「Edit Query Text」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Edit Query Text」ダイアログを閉じます。

## A.61 「New Option」 ダイアログ

フラグメントで「text」タイプのパラメータを作成する場合（A-100 ページの「[Fragment Parameters](#)」ダイアログを参照）、値のリストをオプション・リストの形式で作成できます。フラグメントをページ・テンプレートに追加すると、これらの値は「Fragment Parameters」ダイアログのポップアップ・リストで表示されます。このダイアログでは、オプション・リストを作成できます。

図 A-76 「New Option」 ダイアログ

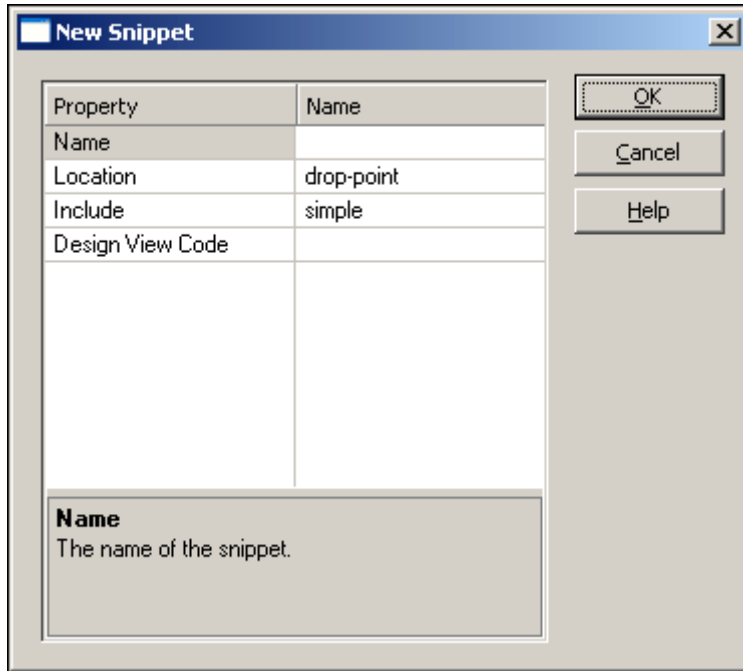


要素	説明
Label	オプション・リストの名前を表示します。
Value	オプション・リストの値（ページ・テンプレートに追加されている値）を表示します。
OK	設定を保存して、「New Option」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「New Option」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.62 スニペット・プロパティ・ダイアログ

スニペットとは、フラグメントがページ・テンプレート（4つの場所のいずれか）に追加するテキストまたはコードです。フラグメントには1つ以上のスニペットが必要です。このダイアログでスニペットのプロパティを定義して、フラグメント・エディタでそのスニペットのコンテンツを編集できます。

図 A-77 スニペット・プロパティ・ダイアログ



要素	説明
Name	スニペットの名前。 (名前には、必要に応じて空白と特殊文字を含めることができます。)
Location	スニペットをページ・テンプレートのどこに追加するかを決定します。 次の4つのオプションがあります。 <b>drop-point:</b> ページ・テンプレートのカーソルを置いた場所にスニペットを挿入します。 <b>head:</b> ページ・テンプレートのヘッド (<HEAD> タグの終了地点) にスニペットを挿入します。 <b>top-of-body:</b> ページ・テンプレートの本文の開始地点 (<BODY> タグの直後) にスニペットを挿入します。 <b>bottom-of-body:</b> ページ・テンプレートの本文の終了地点 (</BODY> タグの直前) にスニペットを挿入します。



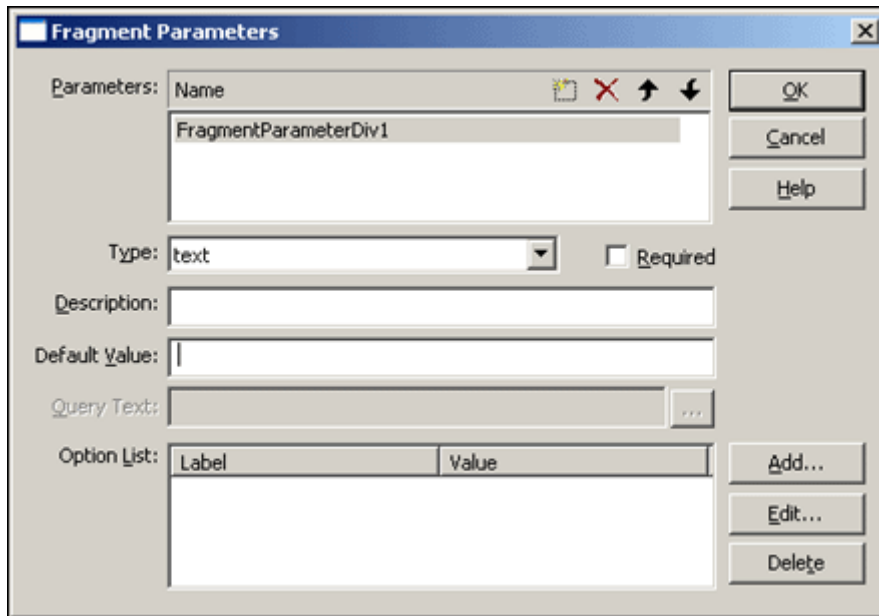
要素	説明
Include	<p>スニペットをページ・テンプレートに追加する方法を決定します。</p> <p>次の3つのオプションがあります。</p> <p><b>simple:</b> ページ・テンプレートにスニペット全体を追加します。パラメータが存在する場合、その値はページに直接追加され、ページの永続的な構成要素となります。フラグメントはフラグメントとみなされなくなり、そのパラメータは変更できません。</p> <p><b>inline:</b> ページ・テンプレートにスニペット全体を追加します。ただし、インライン・スニペットでは、フラグメントとそのパラメータが引き続きフラグメントとして認識されます。フラグメントの移動と削除、そのパラメータの変更を引き続き行うことができます。</p> <p><b>reference:</b> ページ・テンプレートのスニペットに参照を追加します（インクルード・ファイルと類似します）。参照スニペットの場合、引き続きフラグメントとみなされて管理されます。また、フラグメント・エディタでフラグメントを編集したり、ページ・テンプレートで変更内容を確認したりすることもできます。</p>
Design View Code	<p>スニペットを「DESIGN」ビューで参照するときにフラグメントのスニペットのプレースホルダ・テキストを作成します。</p> <p>「Additional Information」ボタンにより、プレースホルダ・テキストの入力に使用するテキスト・エディタが開きます。</p> <p>この要素の目的は、「drop-point」、「top-of-body」および「bottom-of-body」の各位置にスニペットを挿入することです（「head」は除外）。</p>
OK	設定を保存して、スニペット・プロパティ・ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、スニペット・プロパティ・ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.63 「Fragment Parameters」 ダイアログ

パラメータとは、ページ・テンプレートにフラグメントを追加するときその外観と動作を制御する属性です。フラグメントを使用する場合、フラグメント・エディタでパラメータを作成し（A-100 ページの「[「Fragment Parameters」 ダイアログ](#)」を参照）、このダイアログでこれらのパラメータから選択できます。

パラメータはオプションのため、すべてのフラグメントに存在するわけではありません。

図 A-78 「Fragment Parameters」 ダイアログ



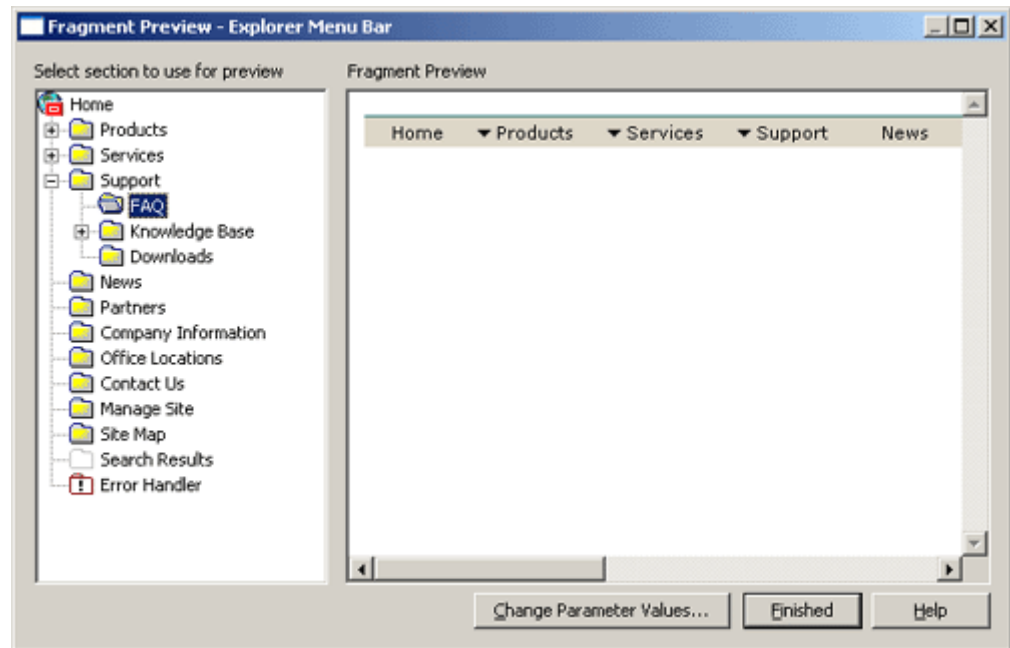
要素	説明
Property	フラグメントで使用可能なパラメータをリストします。 各フラグメントには様々なパラメータがあり（パラメータが存在しないフラグメントもある）、パラメータはフラグメントごとに異なります。
Name	各パラメータの値をリストします。
	フラグメントのパラメータを作成します。 名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。また、like (Idoc スクリプトで文字列の比較演算子として使用される) などのコーディング目的で一般的に使用される用語も使用しないでください。
	フラグメントのパラメータを削除します。
	リストのパラメータを上に移動します。移動すると、このダイアログと「 <a href="#">Fragment Parameters</a> 」ダイアログ（A-106 ページの「 <a href="#">「Fragment Parameters</a> 」ダイアログ」を参照）でのパラメータの位置が変わります。
	リストのパラメータを下に移動します。移動すると、このダイアログと「 <a href="#">Fragment Parameters</a> 」ダイアログ（A-106 ページの「 <a href="#">「Fragment Parameters</a> 」ダイアログ」を参照）でのパラメータの位置が変わります。
OK	設定を保存して、「 <a href="#">Fragment Parameters</a> 」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「 <a href="#">Fragment Parameters</a> 」ダイアログを閉じます。 フラグメントはページ・テンプレートに追加されません。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

「Fragment Parameters」ダイアログでは、使用できるパラメータの変更、パラメータの追加、およびデフォルトの値の変更が可能です。

## A.64 「Fragment Preview」ダイアログ

ページ・テンプレートに追加する前に、フラグメントをプレビューできます。このダイアログを開くには、ツールボックスでフラグメントを右クリックしてから「Preview」を選択するか、フラグメント・エディタで「Preview」ボタンを使用します。フラグメントをプレビューするには、最初の一連のパラメータの値の選択が求められます (A-106 ページの「[「Fragment Parameters」ダイアログ](#)」を参照)。

図 A-79 「Fragment Preview」ダイアログ

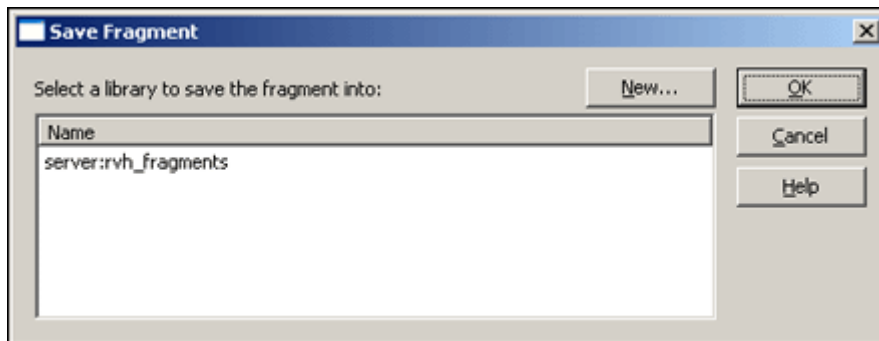


要素	説明
Select section to use for preview	<p>サイト階層を表示します。選択したセクションを使用して、「Fragment Preview」領域にフラグメントを表示します。</p> <p>サイト・ナビゲーションから除外されるセクション、プライマリ・ページのないセクション、または外部 URL がプライマリ・ページとして含まれるセクションは選択できません。</p>
「Fragment Preview」	<p>(前述の) サイト階層でハイライト表示されるセクションを使用してフラグメントをプレビューします。</p> <p>静的リスト・フラグメントはプレビューできません。静的リスト・フラグメントを適切に表示するには、コントリビュータ・データ・ファイルにコンテンツが含まれている必要があるためです。</p>
Change Parameter Values	「Fragment Parameters」ダイアログ (A-106 ページの「 <a href="#">「Fragment Parameters」ダイアログ</a> 」を参照) を開き、このダイアログでプレビューに使用されるパラメータの値を変更できます。
Finished	「Fragment Preview」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.65 「Save Fragment」 ダイアログ

フラグメントは、フラグメント・ライブラリに格納されます。フラグメントは、他のフラグメントと同じライブラリに保存したり、各自のライブラリに保存したりすることもできます。このダイアログでは、フラグメントのライブラリも作成できます。

図 A-80 「Save Fragment」 ダイアログ



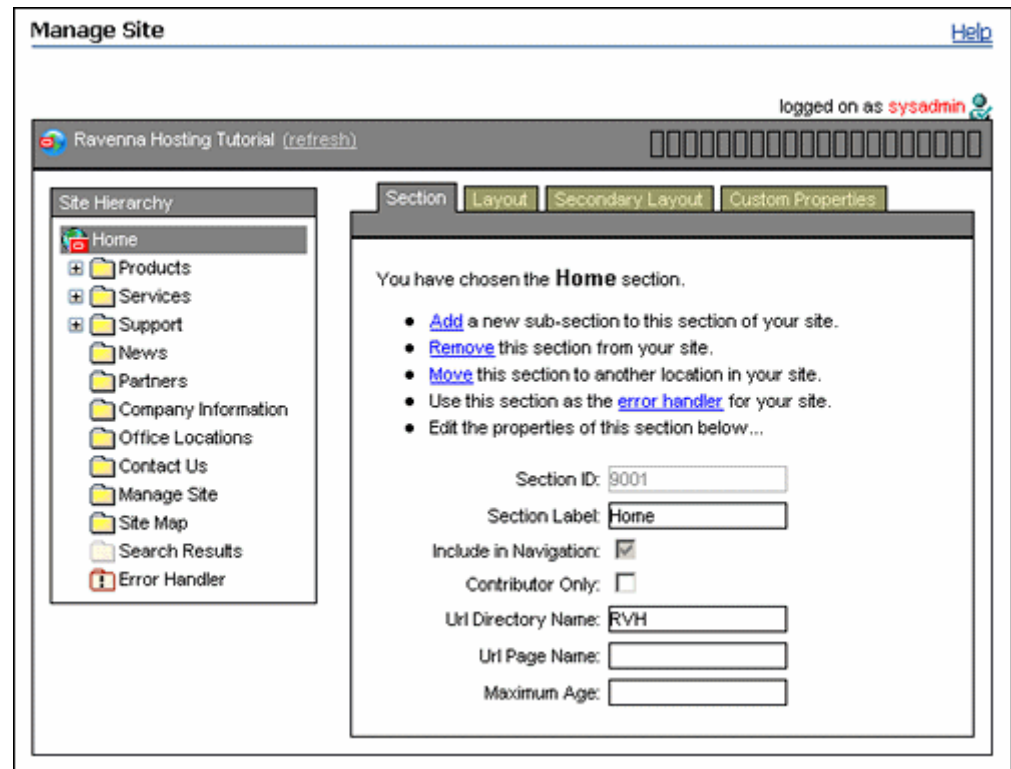
要素	説明
New	フラグメントのライブラリを作成します。 ライブラリはコンテンツ・サーバーで作成され、次にサーバーを開いたときに「Save Fragment」ダイアログに表示されます。
Name	コンテンツ・サーバーの既存のフラグメント・ライブラリを表示します。 いずれかのライブラリを選択して、そのライブラリにフラグメントを格納します。
OK	「Save Fragment」ダイアログを閉じて、フラグメント・ライブラリのメタデータを更新できるコンテンツ・サーバーの「Assign Info Form」にユーザーを誘導します。
Cancel	フラグメントを保存せずに「Save Fragment」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

「Save Fragment」ダイアログは、フラグメントを初めて保存するときのみ表示されます。以降の保存時には、毎回コンテンツ・サーバーのフラグメント・ライブラリの「Assign Info Form」に直接移動します。

## A.66 「Manage Site」 ページ

マネージャを使用して、サイト階層のすべての面を変更できます。セクションの追加と削除、セクションへの別のページ・テンプレートの割当て、セクションに関連付けられたプロパティの変更などを行うことができます。

図 A-81 「Manage Site」 ページ



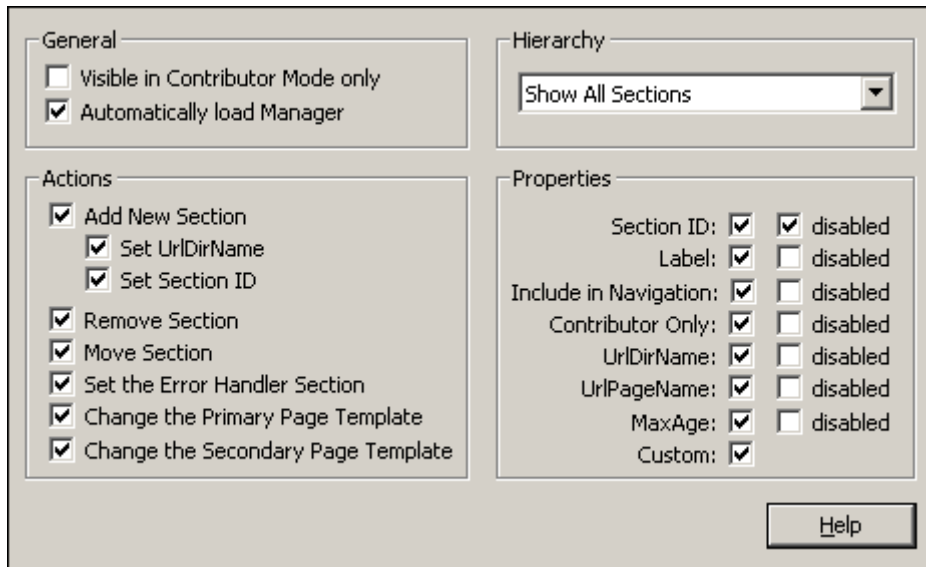
要素	説明
(Manage Site)   (Refresh)	「Manage Site」は、マネージャが折りたたまれた状態で開く場合に表示されます。リンクをクリックしてマネージャを展開します。 「Refresh」は、マネージャが展開された状態の場合に表示されます。リンクをクリックし、マネージャをリフレッシュして変更内容を確認します。
Site Hierarchy	サイト階層を表示して、サイト階層の変更に使用します。 ここで実行されるタスクには、マウスと場合によっては右マウス・クリックが必要です。
Section	セクションの追加と削除、セクションのプロパティの変更といった、サイト階層の一般的な変更を行います。
Layout	プライマリ・ページのプレビュー、別のプライマリ・ページ（または外部 URL）の割当て、プライマリ・ページのコンテンツ情報ページの表示を行います。
Secondary Layout	セカンダリ・ページのプレビュー、別のセカンダリ・ページの割当て、セカンダリ・ページのコンテンツ情報ページの表示を行います。

要素	説明
Custom Properties	セクションのカスタム・プロパティを表示および変更します。 カスタム・プロパティはデザイナーによって作成され、通常はコンテンツ・サーバーの1つのサイトあるいは関連サイトに適用されます。

## A.67 「Manager Configuration Settings」 ダイアログ

「Manager Configuration Settings」 ダイアログでは、コントリビュータのインタフェース内から表示されるマネージャ・アプリケーションをカスタマイズします。

図 A-82 「Manager Configuration Settings」 ダイアログ



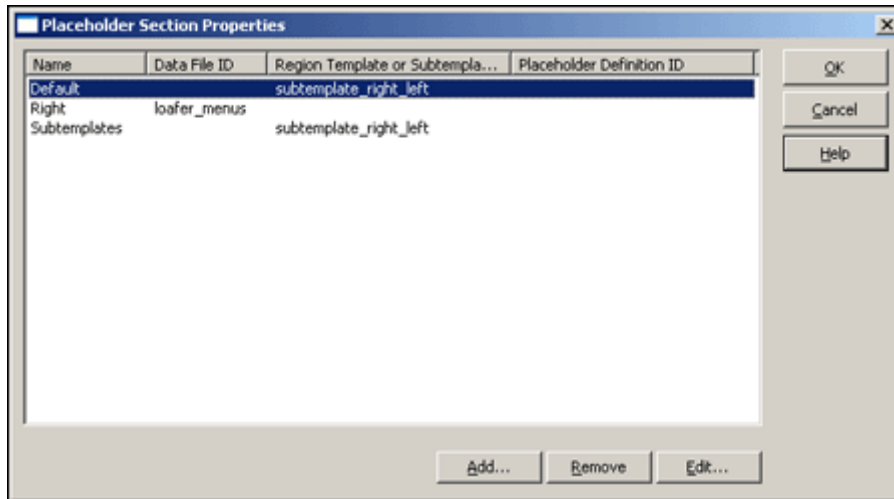
要素	説明
Visible in Contributor Mode only	ページがコントリビュータ・モードで表示されているときのみマネージャ・インタフェースを使用可能にする場合に選択します。
Automatically load Manager	ページのロード時に、マネージャを自動的に完全にロードする場合に選択します。
Hierarchy	マネージャ・アプリケーションのロード時に、完全な階層を表示するか、マネージャ・コンポーネントが表示されるセクションのみを表示するか、または階層を表示しないようにするかを選択します。
Add New Section	セクションの追加を許可する場合に選択します。
Set UrlDirName	セクションの作成時に「UrlDirName」の値の追加を許可する場合に選択します。
Set Section ID	セクションの作成時に「Section ID」の値の追加を許可する場合に選択します。
Remove Section	セクションの削除を許可する場合に選択します。
Move Section	セクションの移動を許可する場合に選択します。
Set the Error Handler Section	セクションをエラー・ハンドラとしてマークすることを許可する場合に選択します。
Change the Primary Page Template	マネージャで、セクションのプライマリ・ページに使用するページ・テンプレートの変更を許可する場合に選択します。

要素	説明
Change the Secondary Page Template	マネージャで、セクションのセカンダリ・ページに使用するページ・テンプレートの変更を許可する場合に選択します。
Section ID	セクションの「Section ID」フィールドを表示する場合に選択します。 <b>disabled:</b> 値を読み取り専用にします。
Label	セクションの「Label」フィールドを表示する場合に選択します。 <b>disabled:</b> 値を読み取り専用にします。
Include in Navigation	セクションの「Include in Navigation」フィールドを表示する場合に選択します。 <b>disabled:</b> 値を読み取り専用にします。
Contributor Only	セクションの「Contributor Only」フィールドを表示する場合に選択します。 <b>disabled:</b> 値を読み取り専用にします。
UrlDirName	セクションの「UrlDirName」フィールドを表示する場合に選択します。 <b>disabled:</b> 値を読み取り専用にします。
UrlPageName	セクションの「UrlPageName」フィールドを表示する場合に選択します。 <b>disabled:</b> 値を読み取り専用にします。
MaxAge	セクションの「MaxAge」フィールドを表示する場合に選択します。 <b>disabled:</b> 値を読み取り専用にします。
Custom	マネージャのインタフェースに「Custom Properties」タグを表示する場合に選択します。
OK	「Save Fragment」ダイアログを閉じて、フラグメント・ライブラリのメタデータを更新できるコンテンツ・サーバーの「Assign Info Form」にユーザーを誘導します。
Cancel	フラグメントを保存せずに「Save Fragment」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.68 「Placeholder Section Properties」 ダイアログ

「Placeholder Section Properties」 ダイアログには、ダイアログの表示元のセクションで使用されているプレースホルダ・マッピングがリストされます。

図 A-83 「Placeholder Section Properties」 ダイアログ



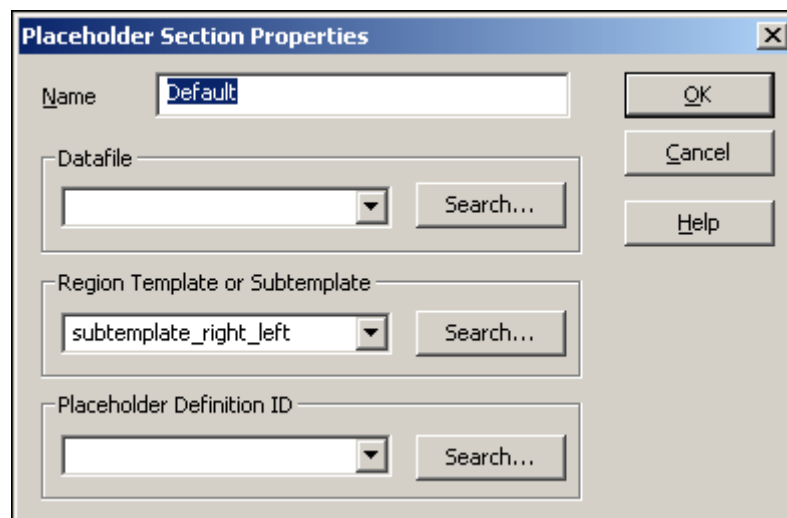
要素	説明
Name	プレースホルダの名前。
Data File ID	ページ上の名前付きプレースホルダ・セクション・プロパティにマップされているコンテンツ（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）の ID を指定します。
Region Template or Subtemplate	プレースホルダに割り当てられたリージョン・テンプレートまたはサブテンプレートを指定します。
Placeholder Definition ID	プレースホルダに割り当てられたプレースホルダ定義の ID を指定します。
Add	「Placeholder Section Properties」 ダイアログ（A-113 ページの「Placeholder Section Properties」 ダイアログ）を開き、リストにマッピングを追加します。
Remove	選択したプレースホルダ定義マッピングをリストから削除します。
Edit	「Placeholder Definition Mappings」 ダイアログ（A-114 ページの「プレースホルダの定義ダイアログ」を参照）を開きます。このダイアログでは、選択したマッピングの値を編集できます。
OK	設定を保存して、「Placeholder Section Properties」 ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Placeholder Section Properties」 ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。



## A.69 「Placeholder Section Properties」 ダイアログ

このダイアログでは、プレースホルダ・セクション・プロパティを定義します。

図 A-84 「Placeholder Section Properties」 ダイアログ

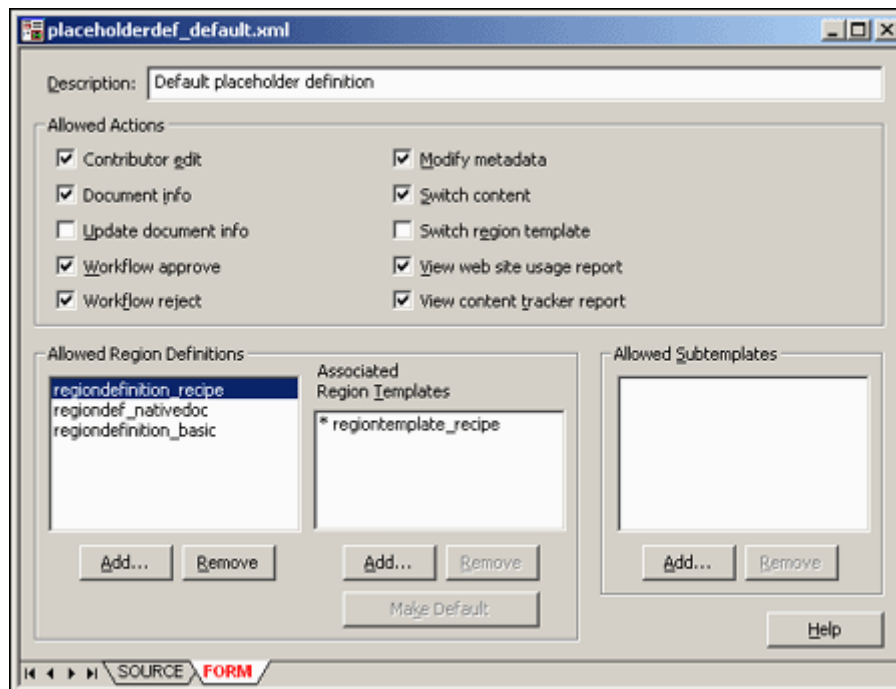


要素	説明
Name	プレースホルダの名前。
Datafile	このプレースホルダのコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント。
Region Template or Subtemplate	このプレースホルダのリージョン・テンプレートまたはサブテンプレート。
Placeholder Definition ID	このプレースホルダのプレースホルダ定義。
Search	インスタンスごとに、フィールドに対応する検索結果を表示するコンテンツ・サーバーの検索結果ページを開きます。
OK	設定を保存して、「Placeholder Definition Mappings」の編集ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Placeholder Definition Mappings」の編集ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.70 プレースホルダの定義ダイアログ

プレースホルダの定義では、プレースホルダ内のサイト・アセットの使用法と連携動作を制御します。また、ワークフロー、サイト・レポート、およびコントリビュータがプレースホルダ内のデータを編集できるかどうかを制御します。

図 A-85 プレースホルダの定義ダイアログ



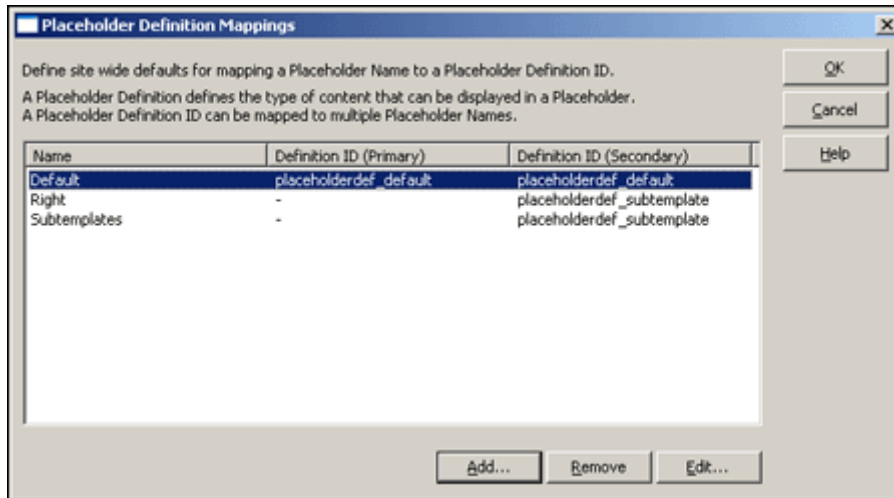
要素	説明
Description	プレースホルダ定義の名前。
Contributor edit	リージョン内のコントリビュータ・データ・ファイルの編集をコントリビュータに許可する場合に選択します。
Document info	ドキュメント情報ページでドキュメント情報メニューを使用可能にする場合に選択します。
Update document info	ドキュメント情報の編集をコントリビュータに許可する場合に選択します。編集をコントリビュータに許可する場合、「Document info」を選択する必要はありません。
Workflow approve	コントリビュータ・メニューにワークフローの承認を含める場合に選択します。この要素が有効になるのは、アイテムがワークフローに存在し、コントリビュータがワークフローでそのアイテムを承認できる場合のみです。
Workflow reject	コントリビュータ・メニューにワークフローの却下を含める場合に選択します。この要素が有効になるのは、アイテムがワークフローに存在し、コントリビュータがワークフローでそのアイテムを却下できる場合のみです。
Modify metadata	メタデータの編集をコントリビュータに許可する場合に選択します。
Switch Content	コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの切替えをコントリビュータに許可する場合に選択します。
Switch region template	リージョン・テンプレートの切替えをコントリビュータに許可する場合に選択します。

要素	説明
View Web site usage report	Web サイト使用状況レポートの表示をコントリビュータに許可する場合に選択します。
View content tracker report	コンテンツ追跡レポートの表示をコントリビュータに許可する場合に選択します。
Allowed region definitions	プレースホルダ定義に関連付けられたリージョン定義のリスト。ここにリストされるリージョン定義は、プレースホルダ定義がマップされているプレースホルダ内で使用可能なサブテンプレートのみです。
Associated region templates	「Allowed region definitions」リストで選択したリージョン定義に関連付けられたすべてのリージョン・テンプレートのリスト。ここにリストされるリージョン・テンプレートは、プレースホルダ定義がマップされているプレースホルダ内で使用可能なリージョン・テンプレートのみです。アスタリスクでマークされたリージョン・テンプレートは、選択したリージョン定義のデフォルトのリージョン・テンプレートです。
Allowed subtemplates	「Allowed region definitions」リストで選択したリージョン定義に関連付けられたすべてのリージョン・テンプレートのリスト。ここにリストされるサブテンプレートは、プレースホルダ定義がマップされているプレースホルダ内で使用可能なサブテンプレートのみです。
Add	プレースホルダ定義に対するリージョン定義、リージョン・テンプレートまたはサブテンプレートを削除する場合にクリックします。
Remove	リージョン・テンプレートを、選択したリージョン定義のデフォルトのテンプレートとしてマークする場合にクリックします。
Make Default	設定をキャンセルして、プレースホルダの定義ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.71 「Placeholder Definition Mappings」 ダイアログ

このダイアログでは、プライマリ・ページおよびセカンダリ・ページで 사용되는プレースホルダとその定義を編成および定義します。プレースホルダは、プライマリ・ページとセカンダリ・ページの両方として使用されるページ・テンプレートに表示できるため、使用場所に応じて様々なルールを定義するように使用できます。

図 A-86 「Placeholder Definition Mappings」 ダイアログ

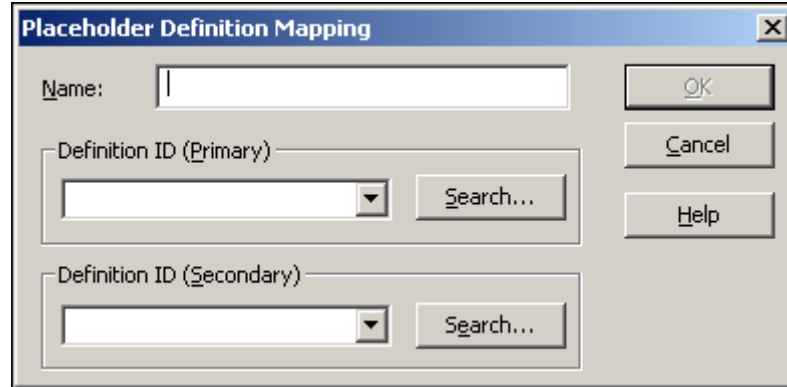


要素	説明
Name	プレースホルダの名前。
Definition ID (Primary)	ページ・テンプレートがプライマリ・ページとして使用される場合に、プレースホルダに対して使用されるプレースホルダ定義の ID を指定します。
Definition ID (Secondary)	ページ・テンプレートがセカンダリ・ページとして使用される場合に、プレースホルダに対して使用されるプレースホルダ定義の ID を指定します。
Add	「Placeholder Definition Mapping」ダイアログ (A-117 ページの「Placeholder Definition Mappings」ダイアログ) を開き、リストにマッピングを追加します。
Remove	選択したプレースホルダをリストから削除します。
Edit	「Placeholder Definition Mappings」ダイアログ (A-117 ページの「Placeholder Definition Mappings」ダイアログ) を開きます。このダイアログでは、選択したマッピングの値を編集できます。
OK	設定を保存して、「Placeholder Definition Mappings」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Placeholder Definition Mappings」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.72 「Placeholder Definition Mappings」 ダイアログ

このダイアログでは、プレースホルダがプライマリ・ページまたはセカンダリ・ページに存在するときに使用されるプレースホルダ定義を定義します。

図 A-87 「Placeholder Definition Mappings」 ダイアログ

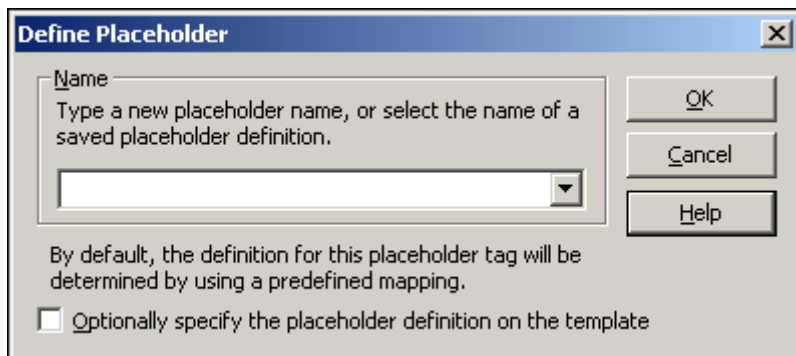


要素	説明
Name	プレースホルダの名前を入力します。
Definition ID (Primary)	ページ・テンプレートがプライマリ・ページとして使用される場合に、プレースホルダに対して使用されるプレースホルダ定義の ID を指定します。
Definition ID (Secondary)	ページ・テンプレートがセカンダリ・ページとして使用される場合に、プレースホルダに対して使用されるプレースホルダ定義の ID を指定します。
Search	コンテンツ・サーバーでのプレースホルダ定義の検索結果を表示します。
OK	設定を保存して、「Placeholder Definition Mappings」 ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Placeholder Definition Mappings」 ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.73 「Define Placeholder」 ダイアログ

「Define Placeholder」 ダイアログでは、プレースホルダの名前を選択します。

図 A-88 「Define Placeholder」 ダイアログ



要素	説明
Name	プレースホルダの名前を選択します。
Optionally specify the placeholder definition on the template	マッピングを使用してプレースホルダ定義をサイト・アセットとして参照するのではなく、テンプレート内のプレースホルダ定義をマークします。
OK	設定を保存して、「Define Placeholder」 ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Define Placeholder」 ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.74 Switch Content ウィザード

Switch Content ウィザードでは、プレースホルダに割り当てられたコンテンツを変更します (またはコンテンツが割り当てられていない場合には割り当てます)。現在割り当てられているコンテンツは、コントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントまたはサブテンプレートで置き換えることができます。

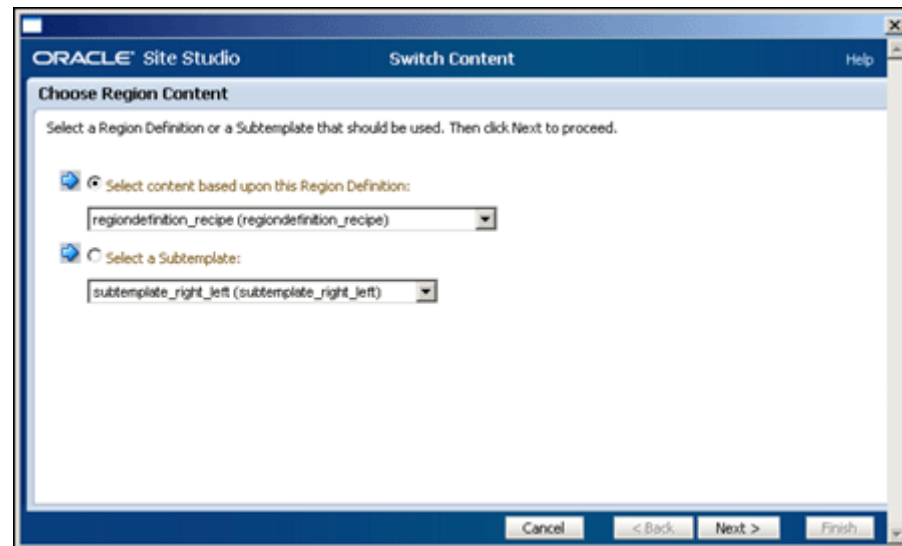
Switch Content ウィザードには、次の画面があります。

- A-119 ページの「Switch Content ウィザード: 「Choose Region Content」画面」
- A-120 ページの「Switch Content ウィザード: 「Choose content file」画面」
- A-121 ページの「Switch Content ウィザード: 「Check-in content」画面」
- A-121 ページの「Switch Content ウィザード: 「Switch Content Confirmation」画面」

### A.74.1 Switch Content ウィザード: 「Choose Region Content」画面

Switch Content ウィザードの最初の画面では、リージョン定義との関連付けに基づいてファイルを選択するか、サブテンプレートを選択するよう求められます。

図 A-89 Switch Content ウィザード - 「Choose Region Content」



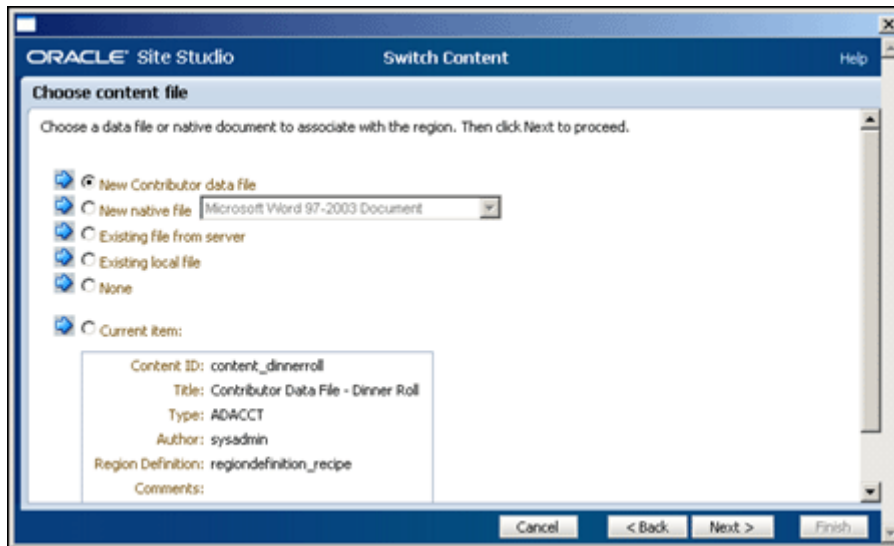
要素	説明
Select content based upon this Region Definition	コンテンツが関連付けられている使用可能なリージョン定義を選択します。新しいファイルを作成する場合やローカル・ファイルを使用する場合、チェックインされたコンテンツはこのリージョン定義に関連付けられます。
Select a Subtemplate	コンテンツが関連付けられているサブテンプレートを選択します。
Cancel	設定をキャンセルして、Switch Content ウィザードを閉じます。
Back	この画面では無効です。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Finish	この画面では無効です。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

サブテンプレートを選択した場合、ウィザードは終了します。コンテンツを選択した場合は、ウィザードを続行します。

## A.74.2 Switch Content ウィザード：「Choose content file」画面

リージョン定義を選択したら、切替え先のコンテンツをコンテンツ・サーバーに配置したり、新しいコンテンツを作成したり、既存のローカル・ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインして使用したりすることが可能です。

図 A-90 Switch Content ウィザード - 「Choose content file」



要素	説明
New Contributor data file	新しいコントリビュータ・データ・ファイルを作成してチェックインする場合に選択します。
New native file	メニューで選択したタイプの新しいネイティブ・ドキュメントを作成してチェックインする場合に選択します。
Existing file from server	検索結果ウィンドウを開く場合に選択します。
Existing local file	ローカル・コンピュータ上にあるファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインおよびアップロードする場合に選択します。
None	現在のコンテンツを削除する場合に選択します。
Current item	現在のアイテムを保持する場合に選択します。現在のアイテムの情報も表示されます。
Cancel	設定をキャンセルして、Switch Content ウィザードを閉じます。
Back	前の画面に移動します。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Finish	この画面では無効です。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

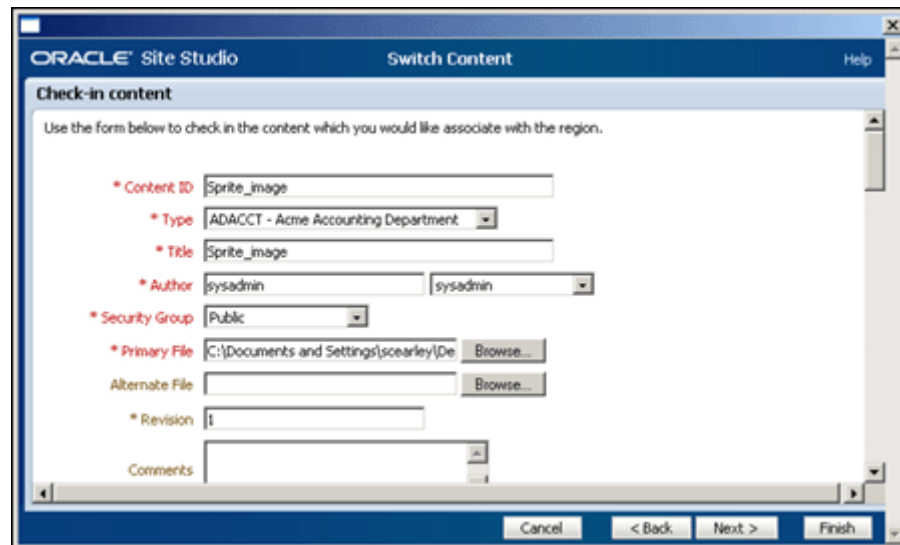
ファイルを関連付けない、または現在のアイテムを保持するように選択した場合、ウィザードは終了します。



### A.74.3 Switch Content ウィザード：「Check-in content」画面

Switch Content ウィザードのこの画面では、コンテンツをチェックインするためのフォームに記入する必要があります。この画面は、コンテンツをサーバーにチェックインするときに使用する共通の画面です。

図 A-91 Switch Content ウィザード - 「Check-in content」



ORACLE Site Studio Switch Content Help

Check-in content

Use the form below to check in the content which you would like associate with the region.

\* Content ID

\* Type

\* Title

\* Author

\* Security Group

\* Primary File  Browse...

Alternate File  Browse...

\* Revision

Comments

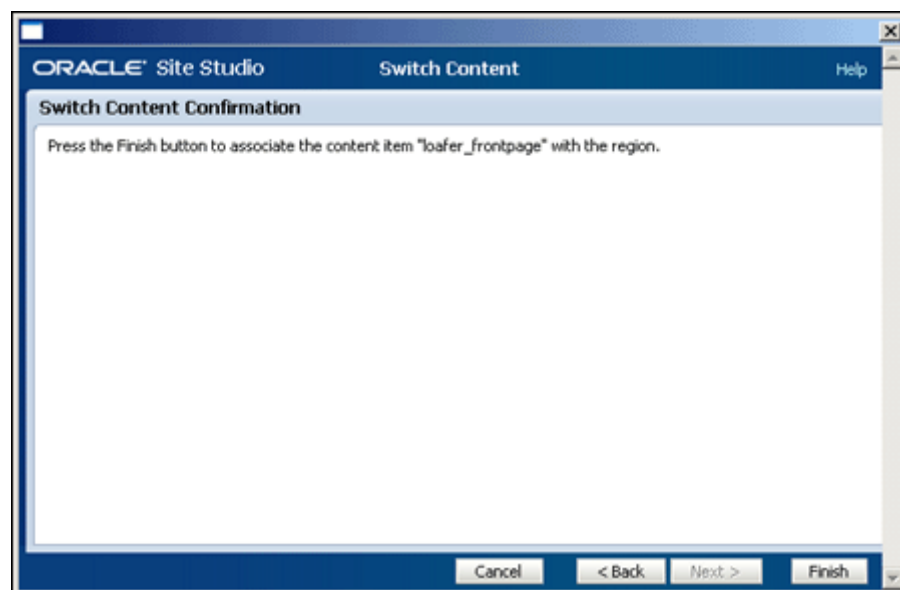
Cancel < Back Next > Finish

コンテンツをコンテンツ・サーバーにチェックインしたら、クリックして次の画面に移動し、ウィザードを終了します。

### A.74.4 Switch Content ウィザード：「Switch Content Confirmation」画面

コンテンツを選択した場合や、コンテンツを表示しないように選択した場合、確認用の画面が表示されます。

図 A-92 Switch Content ウィザード - 「Switch Content Confirmation」



ORACLE Site Studio Switch Content Help

Switch Content Confirmation

Press the Finish button to associate the content item "loafer\_frontpage" with the region.

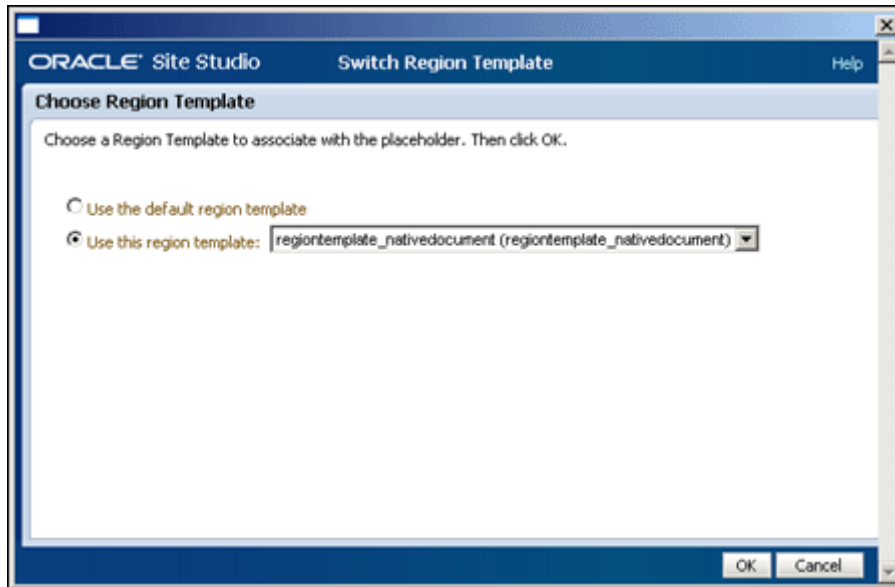
Cancel < Back Next > Finish

サブテンプレートを選択した場合、画面に「Switch Subtemplate Confirmation」が表示され、適切なコンテンツ情報の名前がリストされます。

## A.75 「Switch Region Template」 ダイアログ

プレースホルダ定義でリージョン・テンプレートの切替えが許可されている場合、コントリビューション・グラフィック上のコンテキスト・ダイアログに「Switch Region Template」が表示されます。

図 A-93 「Switch Region Template」 ダイアログ



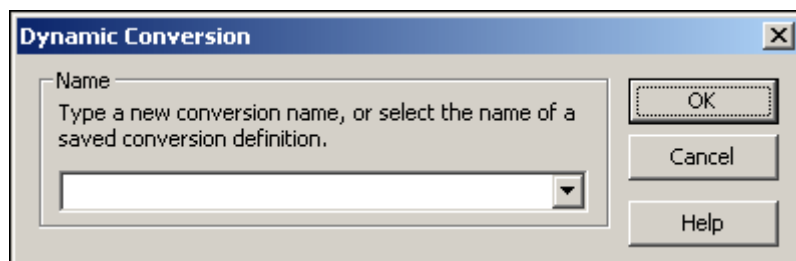
要素	説明
Use the default region template	プレースホルダ定義でデフォルトとしてマークされたリージョン・テンプレートを使用する場合に選択します。
Use this region template	すべてのリージョン・テンプレートのメニューを開く場合に選択します。
OK	選択したリージョン・テンプレートに切り替える場合に選択します。
Cancel	変更をキャンセルして、ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

このダイアログがデザイナーで開かれた場合、プレースホルダ定義にリストされているリージョン・テンプレートだけでなく、Web サイトに関連付けられたすべてのリージョン・テンプレートがメニューで使用可能になります。このダイアログがコントリビュータで開かれた場合、プレースホルダ定義にリストされているリージョン・テンプレートのみがメニューで使用可能になります。

## A.76 「Dynamic Conversion」 ダイアログ

「Dynamic Conversion」 ダイアログでは、リージョン・テンプレートに動的変換を挿入します。

図 A-94 「Dynamic Conversion」 ダイアログ

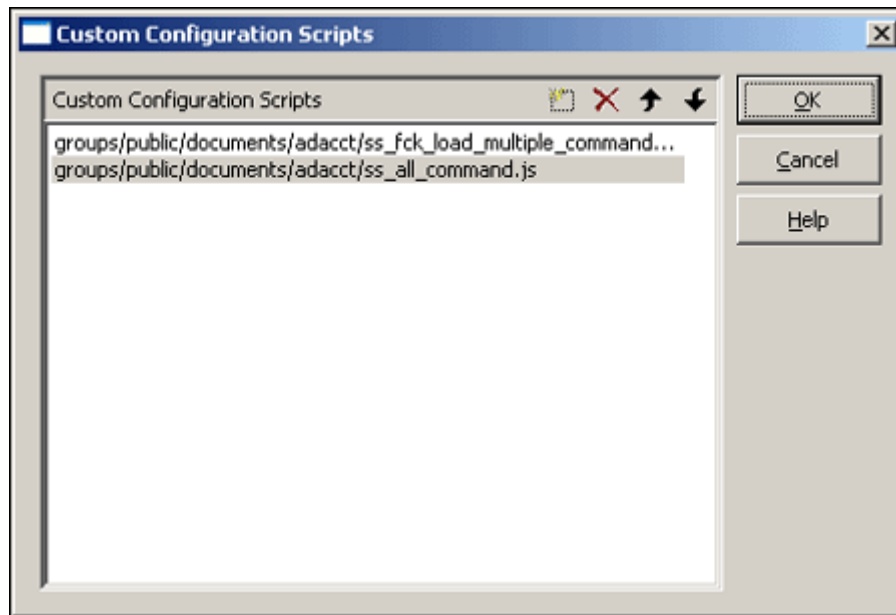






要素	説明
Name	ネイティブ・ドキュメントの変換に使用する特定の動的変換を選択します。
OK	設定を保存して、「Dynamic Conversion」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Dynamic Conversion」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.77 「Custom Configuration Scripts」 ダイアログ

「Custom Configuration Scripts」 ダイアログでは、要素定義に関連付けられたカスタマイズ・スクリプトを変更します。

図 A-95 「Custom Configuration Scripts」 ダイアログ

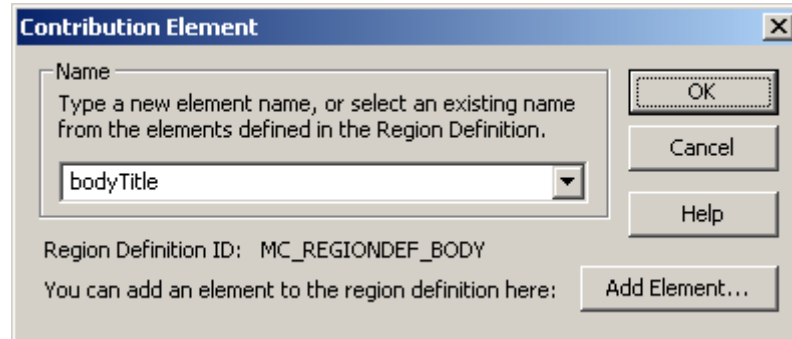


要素	説明
Custom Configuration Scripts	スクリプトの名前 (パスを含む)。
	スクリプトを作成します。完全パスを入力するか、検索ボタンを押し、指示に従ってコンテンツ・サーバーでの検索を実行します。
	構成スクリプトを削除します。
	リストのスクリプトを上に移動します。スクリプトは上から順番にロードされます。
	リストのスクリプトを下に移動します。スクリプトは上から順番にロードされます。
OK	設定を保存して、「Custom Configuration Scripts」 ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Custom Configuration Scripts」 ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。

## A.78 「Contribution Element」 ダイアログ

「Contribution Element」 ダイアログでは、リージョン・テンプレートに要素を追加します。リージョン・テンプレートにリージョン定義が関連付けられていない場合でも要素を追加できますが、リージョン定義が作成されるまで要素は機能しません。

図 A-96 「Contribution Element」 ダイアログ



要素	説明
Name	デザイナーのビューに表示される要素の名前。メニューで使用可能な要素は、リージョン定義内の要素です。
Region Definition ID	リージョン・テンプレートに関連付けられたリージョン定義の名前。
OK	設定を保存して、「Define Placeholder」ダイアログを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Define Placeholder」ダイアログを閉じます。
Help	このダイアログに関するオンライン・ヘルプを開きます。
Add Element	「Element」ダイアログ (A-82 ページの「 <a href="#">Element</a> ダイアログ」を参照) を開き、リージョン・テンプレートに関連付けられたリージョン定義に要素定義を追加します。



---

---

## サイトのレプリケート

Site Studio で作成した Web サイトは、コンテンツ・サーバーの 1 つのインスタンスに存在します。ある時点で、コンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをコピーできます。このプロセスをレプリケーションと言います。レプリケーションは、多くの場合、2 つ（またはそれ以上）のコンテンツ・サーバーでサイトを複製する際に管理者によって使用されます。たとえば、開発用サーバーと本番用サーバーでサイトを複製する場合があります。このコピー・プロセスは、すべてのサーバーでサイトが現在の状態で維持されるように自動化できます。

この項の内容は次のとおりです。

- B-2 ページの「レプリケーションについて」
- B-5 ページの「レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成」
- B-6 ページの「ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定」
- B-8 ページの「インポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブの作成」
- B-11 ページの「サイト・レプリケーションの開始」
- B-12 ページの「環境プロパティの指定」
- B-12 ページの「サイトの各セクションのレプリケーション」
- B-13 ページの「Site Studio レプリケータの使用」

## B.1 レプリケーションについて

レプリケーションの理解を深めるには、関連用語とプロセスを把握する必要があります。Site Studio ではコンテンツ・サーバーのアーカイバ / レプリケータ・ツールを使用してサイトをレプリケートするため、詳細はコンテンツ・サーバーのドキュメントで確認できます。

サイトをレプリケートするには、複数の手順を実行して、サイトのコピー先のサーバー（ターゲット・サーバー）でそのサイトが適切に機能するかどうかを確認する必要があります。また、ターゲット・サーバーの環境を準備して、2つのサーバーが相互対話するように構成し、両方のサーバーでアーカイブを設定して、レプリケーションを実行する必要があります。

ほとんどのレプリケーション機能は、コンテンツ・サーバーの「Manage Site Replication」ページにあります。Site Studio レプリケータを使用して、レプリケーションをさらにカスタマイズすることも可能です。4つのパートで構成されるこのウィザードでは、サイトの各セクションをレプリケートし、ターゲット・サーバーでセクションをマージして、環境プロパティを上書きすることができます。

サイトをレプリケートする場合、サイト階層やサイト・アセットなどをコピーします。Site Studio のレプリケーション機能では、コンテンツ・サーバーの既存のレプリケーション・フレームワーク（アーカイバ / レプリケータ）を使用します。そのため、以前にこのツールを使用したことがある場合は、Site Studio での手順にほとんど慣れているはずです。

次の項で、レプリケーションについてさらに詳しく説明します。

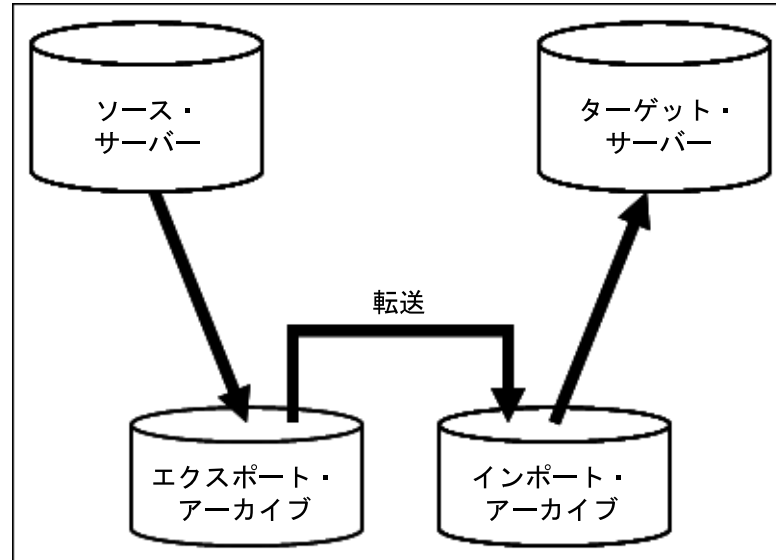
- B-3 ページの「レプリケーション・プロセス」
- B-4 ページの「レプリケーションの対象」
- B-4 ページの「含まれるリビジョン」
- B-4 ページの「エクスポートのその他の設定」



## B.1.1 レプリケーション・プロセス

Site Studio のレプリケーション・プロセスには、ソース・サーバー、ターゲット・サーバー、エクスポート・アーカイブ、インポート・アーカイブおよび転送があります。

図 B-1 レプリケーションに関連するステージング



- **エクスポート**: ネイティブ・ファイル、Web で参照可能なファイル、コンテンツ・タイプおよびユーザー属性が、ソース・コンテンツ・サーバーからエクスポート・アーカイブにコピーされます。
- **インポート**: ファイルとコンテンツ・サーバーの情報が、インポート・アーカイブからターゲット・コンテンツ・サーバーにコピーされます。
- **転送**: コンテンツが、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーに転送されます。この機能を使用すると、ファイアウォールを越えて、または同じファイル・システムにアクセスできない2つのサーバー間でコンテンツをコピーできます。また、同じファイル・システムにアクセスできる2つのコンテンツ・サーバー間でアーカイブを転送することもできます。
- **レプリケート**: エクスポート、インポートおよび転送の各手順を自動化します。レプリケーションを使用すると、あるコンテンツ・サーバーからのエクスポート、別のコンピュータへのアーカイブの転送、別のコンテンツ・サーバーへのインポートを自動で行うことができます。

レプリケーション・プロセスは次の手順で構成されます。

1. B-5 ページの「[レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成](#)」
2. B-6 ページの「[ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定](#)」
3. B-8 ページの「[インポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブの作成](#)」
4. B-11 ページの「[サイト・レプリケーションの開始](#)」
5. B-12 ページの「[環境プロパティの指定](#)」

## B.1.2 レプリケーションの対象

Site Studio のレプリケーション機能を使用して、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをレプリケートする場合、次のアイテムがレプリケートされます。

- **プロジェクト・ファイル** (プロジェクト・ファイルの dDocName)
- **Web サイトの ID** (「xWebsites」フィールドにはサイトのサイト ID が含まれる。)
- **Web サイトのセクション** (「xWebsiteSection」フィールドにはサイトのサイト ID が含まれる。)
- **フラグメント・ライブラリ** (「xWebsiteObjectType」フィールドには値「fragment」が含まれる。)

サイトのコンテンツをレプリケートするには、「xWebsites」、「xWebsiteSection」および「xWebsiteObjectType」のメタデータの値がサイトで正しく使用されることが重要です。

## B.1.3 含まれるリビジョン

最新のエクスポート日より遅いリリース日のリビジョンがエクスポートされます。このため、すでにエクスポートされたコンテンツがアーカイブでエクスポートされることはありません。これにより、コンテンツは確実に 1 回のみ移行され、アーカイブのサイズが無制限に大きくなることはありません。さらに、エクスポートの間合せに一致するコンテンツの選択されたリビジョンがすべてアーカイブにエクスポートされます。これはリリース日のフィルタと連動し、必要な Web サイトのコンテンツが確実にレプリケートされます。

## B.1.4 エクスポートのその他の設定

Site Studio のレプリケーション機能にはその他の便利な設定がいくつかあり、サイトの正常なレプリケートが保証されます。

- コンテンツの構成情報は、2 つのコンテンツ・サーバー間でメタデータ・モデルを同期化する管理者のためにあります。(Site Studio ではこの情報は使用されません。)
- ソース・アーカイブは、転送の所有者 (ソース・アーカイブからターゲット・アーカイブへの転送を開始するコンテンツ・サーバー) とみなされます。
- ターゲット・サーバーのインポート・アーカイブは、ターゲット・アーカイブとみなされます。ターゲット・アーカイブは、ソース・サーバーからエクスポートおよび転送されたコンテンツを受信してから、ターゲット・サーバーにそのコンテンツをインポートします。

## B.2 レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成

Site Studio のレプリケーション機能は、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをコピーします。ただし、ソース・サーバーからターゲット・サーバーへのコンテンツ・サーバー環境のコピーは行いません。

サイトをレプリケートする前に、ターゲット・サーバー上のコンテンツ・サーバー環境がソース・サーバーと同様に設定されているかどうか（少なくともサイトで使用される部分）を確認する必要があります。この手順を省略すると、レプリケーション・プロセス中に Web サイトで問題が発生します。

コンテンツ・サーバー環境を複製する手順は、組織や Web サイトごとに異なります。そのため、ここでは一般的なガイドラインを示します。

ターゲット・サーバー環境を手動で構成するには、次の作業を行います。

1. ソース・サーバーで使用されるメタデータ・モデルを再作成します。このモデルには、すべてのカスタム・メタデータ・フィールドと新規ファイルの形式があります。サイトが適切に機能するには、このメタデータが必要です。たとえば、ファイルのチェックインは一般的にメタデータ設定に依存し、サイトの特定の機能はカスタム・メタデータ・フィールドに依存します。
2. サイトで使用するすべてのコンポーネントをソース・サーバーに再インストールします。再インストールの対象コンポーネントは、Dynamic Converter（ネイティブ・ドキュメントの場合）と Check Out and Open（コントリビューション・アイコンを使用してネイティブ・ドキュメントをチェックアウトする場合）です。システム要件の詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio インストレーション・ガイド』を参照してください。
3. 管理対象外のリソースを再作成します。再作成の対象リソースは、サイトで使用されるカスタム ActiveX コントロールまたは JSP オブジェクトなどです。
4. サーバーに導入したその他の構成設定を再作成します。再作成の対象は、サーバーの動作を変更したすべての設定です。

バージョン 7.5 以降の Content Server（10gR3 など）を実行している場合は、Content Server の構成移行ユーティリティを使用して、コンテンツ・サーバー環境をレプリケートできます。次の手順では、外部プロバイダを設定します（B-6 ページの「[ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定](#)」を参照）。

## B.3 ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定

Content Server でのプロバイダは、2 つ以上のコンテンツ・サーバー間の接続を確立する API (Application Programming Interface) になります。Web サイトをレプリケートするには、ソース・サーバーとターゲット・サーバー間の接続を確立する外部プロバイダをソース・サーバーで作成する必要があります。

ターゲット・サーバーを構成すると (B-5 ページの「レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成」を参照)、ソース・サーバーで外部プロバイダを設定する準備ができます。

ソース・サーバーで外部プロバイダを設定するには、次の作業を行います。

1. ソース・コンテンツ・サーバーに管理者としてログインします。メイン・メニューで、「Administration」→「Providers」を選択します。

図 B-2 Content Server のユーザー・インタフェースのプロバイダ・ページ

Providers				
Provider	Type	Connection State	Last Activity Date	Actions
SystemDatabase System Database	database	5 out of 5 connections are good	1/8/04 8:49 AM	<a href="#">Info</a> <a href="#">Test</a>
SystemServerSocket System Server Socket	incoming	good	1/8/04 8:49 AM	<a href="#">Info</a> <a href="#">Test</a>

Create a New Provider		
Provider Type	Description	Action
outgoing	Configuring an outgoing provider.	<a href="#">Add</a>
database	Configuring a database provider.	<a href="#">Add</a>
incoming	Configuring an incoming provider.	<a href="#">Add</a>
preview	Configuring a preview provider.	<a href="#">Add</a>
ldapuser	Configuring an LDAP user provider.	<a href="#">Add</a>

- 「Create a New Provider」 の下のプロバイダ・タイプ「outgoing」 のそばにある「Add」 をクリックします。  
「Add Outgoing Provider」 ページが開きます。

図 B-3 「Add Outgoing Provider」 ページ

Add Outgoing Provider	
Provider Name	<input type="text" value="Archiver_Provider"/>
Provider Description	<input type="text" value="Provider to web sites"/>
Provider Class	<input type="text" value="intradoc.provider.SocketOutgoingProvider"/>
Connection Class	<input type="text" value="intradoc.provider.SocketOutgoingConnection"/>
Configuration Class	<input type="text"/>
Server Host Name	<input type="text" value="TargetServer"/>
HTTP Server Address	<input type="text"/>
Server Port	<input type="text" value="4444"/>
Instance Name	<input type="text" value="idc_production_server"/>
Relative Web Root	<input type="text" value="/stellent/"/>
Server Options:	<input type="checkbox"/> <b>Proxied</b> Web access and security of a remote server is controlled by this server. Only enable this option if you are the master server in a master and proxied server relationship. Do <b>not</b> enable this option if you only wish to transfer archives.
	<input type="checkbox"/> <b>Notify Target</b> Use this option if you are the proxied server in a master and proxied server relationship. The <code>/userz</code> subject gives the master server's web server access to the security configuration of this server and guarantees that its copy is kept up to date. It should be checked if you wish static content on the proxied server to be directly available through the master server's web server. The <code>/Released Documents</code> subject should be checked if you wish to perform an enterprise search from the master server which includes this proxied server.
	<input type="checkbox"/> <b>Users</b> <input type="checkbox"/> <b>Released Documents</b>

- 「Provider Name」には、プロバイダを特定する名前を入力します（前述の図を参照）。名前はこのページの「Providers」リストに表示され（名前の追加後）、ソース・サーバーの[CS-Dir]/data/providers/のサブディレクトリになります。
- 「Provider Description」には、プロバイダに適切な説明を入力します（前述の図を参照）。
- 「Provider Class」には、**intradoc.provider.SocketOutgoingProvider**（外部プロバイダのJavaクラスの名前）を入力します。
- 「Connection Class」には、**intradoc.provider.SocketOutgoingConnection**（プロバイダ接続を実装するJavaクラスの名前）を入力します。
- 「Configuration Class」は空白のまま構いません（その他の構成設定のJavaクラスを特定します。データベース・プロバイダの場合に役立ちます）。
- 「Server Host Name」には、ターゲット・サーバーの名前（通常はシステムの名前またはIPアドレス）を入力します。  
このホストに対するソケット接続が確立されます。
- 「HTTP Server Address」（ターゲット・サーバーのHTTPアドレス。このタイプの接続には必要ありません）は空白のまま構いません。

10. 「Server Port」には、ターゲット・サーバーとの通信に使用するポート（通常は4444）を入力します。

ポートを決定するには、コンテンツ・サーバーの開始時にサーバー出力を表示します。

11. 「Instance Name」には、ターゲット・コンテンツ・サーバーの名前（IDC\_Name）を入力します。

12. 「Relative Web Root」には、ターゲット・コンテンツ・サーバーの相対 Web ルート（`/stellent/` など）を入力します。

残りのオプションは、このタイプの接続に不要な場合は省略できます。

13. 「Add」を押して、プロバイダ情報を保存し、「Providers」ページに戻ります。（「Providers」リストに、追加した外部プロバイダが含まれます。）

14. コンテンツ・サーバーを再起動します。

プロバイダをテストして、プロバイダが適切に設定されたことを確認するには、「Providers」ページに戻り、外部プロバイダのそばにある「Test」をクリックします。

外部プロバイダを設定する他に、ソース・サーバーがターゲット・サーバーと通信できるように、ターゲット・システムでサーバー IP アドレスのフィルタを構成する必要があります（詳細は、Content Server のヘルプを参照してください）。

ファイアウォールが配置されている場合は、手順 10 で定義したポートでのソース・サーバーからターゲット・サーバーへの接続を許可する必要があります。

次の手順では、インポート・アーカイブを作成します（B-9 ページの「[ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定](#)」を参照）。

## B.4 インポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブの作成

あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをレプリケートする場合、Site Studio のレプリケーション機能では、サイトのコンテンツをエクスポート・アーカイブにエクスポートします。エクスポート・アーカイブのコンテンツは、ターゲット・サーバーに存在するインポート・アーカイブにコピーされます。その後、インポート・アーカイブがそのターゲット・サーバーに抽出されるため、新しいサーバーでサイトを参照して再度使用できます。

エクスポート・アーカイブはソース・サーバーで作成し、インポート・アーカイブはターゲット・サーバーで作成します。最初にインポート・アーカイブをターゲット・サーバーで作成する必要があります。これにより、エクスポート・アーカイブの設定時にインポート・アーカイブの場所を示すようにエクスポート・アーカイブを指定できます。

- B-9 ページの「[ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定](#)」
- B-10 ページの「[ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定](#)」

## B.4.1 ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定

インポート・アーカイブは、ターゲット・コンテンツ・サーバーに存在します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブのコンテンツ（ソース・サーバーに存在）はインポート・アーカイブにコピーされます。その後、インポート・アーカイブはコンテンツをターゲット・コンテンツ・サーバーにコピーして、レプリケーション・プロセスが完了します。

プロバイダ接続を設定すると（B-6 ページの「ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定」を参照）、インポート・アーカイブを作成する準備ができます。ターゲット・サーバーの「Manage Site Replication」ページでインポート・アーカイブを作成（または編集）します。

インポート・アーカイブを設定するには、次の作業を行います。

1. ターゲット・コンテンツ・サーバーに管理者としてログインします。メイン・メニューで、「Administration」→「Site Studio Administration」→「Manage Site Replication」を選択します。

「Manager Site Replication」ページが開きます。

2. 「Add Import Archive」をクリックします。

「Add Import Archive」ページが開きます。

または、既存のインポート・アーカイブを更新する場合は、アーカイブのリストでそのアーカイブをハイライト表示して、「Change Settings」をクリックします。

1. 「Archive Name」のそばにアーカイブの名前を入力します（この名前は、「Manage Site Replication」ページで使用可能なアーカイブのリストに表示されます）。

アーカイブ名には、空白や特殊文字を使用しないでください。

2. 「Archive Description」のそばにアーカイブの説明を入力します。

3. コントリビュータがターゲット・サイトの各リージョンに割り当てるコンテンツを保持するには、「Retain switched region content on target server during import」を選択します。

これらは、データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントをコントリビュータが切り替えた領域です。

4. コントリビュータがターゲット・サイトの各リージョンで編集するコンテンツを保持するには、「Retain region content on target server during import」を選択します。

これにより、データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントがソース・サーバーからターゲット・サーバーにコピーされたり、場合によってはコントリビュータが編集するファイルが上書きされたりすることがなくなります。

5. 「Add Archive」をクリックします。

または、既存のインポート・アーカイブを更新する場合は、「Update」をクリックします。

通常、開発用サーバー（ソース）からコントリビューション・サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合、そのシナリオではコントリビュータが行った変更が失われないようにするため、リージョン・コンテンツと切り替えたリージョン・コンテンツの保持を選択します。

コントリビューション・サーバー（ソース）から消費サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合、そのシナリオでは消費サーバーで変更した内容をすべて上書きするため、これらのオプションを無効にします（選択を解除します）。

次の手順では、エクスポート・アーカイブを作成します（B-10 ページの「ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定」を参照）。

## B.4.2 ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定

エクスポート・アーカイブは、ソース・コンテンツ・サーバーに存在します。エクスポート・アーカイブは Web サイトから情報を収集します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブはターゲット・サーバーに存在するインポート・アーカイブにコピーされます。(インポート・アーカイブを最初に作成する必要があります。これにより、エクスポート・アーカイブの作成時にそのインポート・アーカイブを指し示すことができます。)

インポート・アーカイブを作成すると (B-9 ページの「[ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定](#)」を参照)、エクスポート・アーカイブを作成する準備ができます。ソース・サーバーの「[Manage Site Replication](#)」ページでエクスポート・アーカイブを作成 (または編集) します。

エクスポート・アーカイブを設定するには、次の作業を行います。

1. ソース・コンテンツ・サーバーに管理者としてログインします。メイン・メニューで、「[Administration](#)」→「[Site Studio Administration](#)」→「[Manage Site Replication](#)」を選択します。

「[Manage Site Replication](#)」ページが開きます。

2. 「[Add Export Archive](#)」をクリックします。

「[Add Export Archive](#)」ページが開きます。

または、既存のエクスポート・アーカイブを更新する場合は、アーカイブのリストでそのアーカイブをハイライト表示して、「[Change Settings](#)」をクリックします。

3. 「[Archive Name](#)」のそばにアーカイブの名前を入力します (この名前は、「[Manage Site Replication](#)」ページで使用可能なアーカイブのリストに表示されます)。

アーカイブ名には、空白や特殊文字を使用しないでください。

4. 「[Archive Description](#)」のそばにアーカイブの説明を入力します。

5. レプリケートする Web サイトを「[Web Site](#)」メニューで選択します。

6. サイト階層全体をレプリケートするには、「[Include project file in export archive](#)」を選択します。

サイト階層全体ではなく各セクションをレプリケートするには、このオプションの選択を解除して、次の手順に進み、B-12 ページの「[サイトの各セクションのレプリケーション](#)」の手順を実行します。

7. 「[Transfer to Collection](#)」では、このアーカイブのコピー先のターゲット・コンテンツ・サーバーでコレクションを選択します。

ターゲット・サーバーでコレクションを参照するには、「[Open Collection](#)」をクリックします。

8. 「[Transfer to Archive](#)」では、このエクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバーでアーカイブを選択します (B-9 ページの「[ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定](#)」を参照)。

9. ソース・サーバーのコンテンツが変更されるとレプリケーション・プロセスが自動的に行われるようにするには、「[Automatically export new and changed content](#)」を選択します。(このオプションを選択しない場合は、レプリケーションを手動でトリガーする必要があります。)

10. 「[Add Archive](#)」をクリックします。

または、既存のエクスポート・アーカイブを更新する場合は、「[Update](#)」をクリックします。

エクスポート・アーカイブの Web サイトを選択する場合 (手順 7)、Site Studio ではサイトに関連するコンテンツをすべてアーカイブしてレプリケートします (B-4 ページの「[レプリケーションの対象](#)」を参照)。アーカイブされたコンテンツをカスタマイズするか、またはアーカイブにアイテムを追加するには、アーカイバ・アプレットを使用してアーカイブの間合せを直接微調整できます。



次の手順では、レプリケーションを開始します (B-11 ページの「[サイト・レプリケーションの開始](#)」を参照)。

Site Studio レプリケータを使用してサイトの各セクションをレプリケートする場合、次の手順で Site Studio レプリケータを開きます (B-13 ページの「[Site Studio レプリケータの使用](#)」を参照)。

## B.5 サイト・レプリケーションの開始

エクスポート・アーカイブを設定すると (B-10 ページの「[ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定](#)」を参照)、「[Manage Site Replication](#)」ページを使用してソース・サーバーでレプリケーション・プロセスを開始する準備ができます。

Web サイトをレプリケートするには、次の手順を実行します。

1. ソース・コンテンツ・サーバーに管理者としてログインします。メイン・メニューで、「[Administration](#)」→「[Site Studio Administration](#)」→「[Manage Site Replication](#)」を選択します。  
「[Manage Site Replication](#)」ページが開きます。
2. 目的のエクスポート・アーカイブを選択します。
3. 「[Export](#)」をクリックします。

新規コンテンツおよび変更されたコンテンツを自動的にエクスポートするように選択した場合 (B-10 ページの「[ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定](#)」の手順 10)、アーカイブをエクスポートするとレプリケーション・プロセスが自動的に行われます。

---

**注意：** Web サイトを初めてエクスポートするときは、手動で行う必要があります。サイトが自動エクスポートに設定されている場合、**Automatically export new and changed content** チェック・ボックスの選択を解除し、**Export** をクリックして、最初のエクスポートを手動で行います。この最初の手動エクスポートが完了すると、レプリケーションを自動で行えるようになります。

---

サイトのサイズと複雑さに応じて、レプリケーションの完了後にターゲット・コンテンツ・サーバーでサイトを再索引付けするには十分な時間が必要になる場合があります。

## B.6 環境プロパティの指定

ある場所から別の場所にサイトをレプリケートする場合、1つのサーバーの特定の設定を保存して、次のサーバーにその設定をレプリケートしないようにできます。このような設定を環境プロパティと言います。

たとえば、あるサーバー（コントリビューション・サイト）で一意のキャッシュ値を指定し、次のサーバー（カスタマ・サイト）では指定しない場合、最大有効期間プロパティが環境プロパティになるように指定します。その結果、このキャッシュ値は次のサーバーにレプリケートされません。

環境プロパティはデザイナーで指定し、その値はレプリケータで上書きできます。

環境プロパティを指定するには、次の作業を行います。

1. デザイナーでサイトを開いた状態で、「File」→「Site」→「Advanced」→「Define Environment Properties」をクリックします。  
「Define Environment Properties」ダイアログが開きます（A-22 ページの「[Define Environment Properties](#) ダイアログ」を参照）。
2. 環境プロパティになるプロパティ（レプリケートされないプロパティ）のそばにあるボックスを選択します。
3. 正常に処理されて次の場所にレプリケートされるプロパティ（アプリケーション・プロパティと呼ばれる）のそばにあるボックスの選択を解除します。
4. 「OK」をクリックします。

レプリケーション中に環境プロパティを上書きすることもできます（B-20 ページの「[環境プロパティの上書き](#)」を参照）。

## B.7 サイトの各セクションのレプリケーション

1回のアクションで Web サイト全体をレプリケートするのではなく、サイトの各セクションをレプリケートできます。これは、公開する準備ができていないセクションがあり、準備ができるまでそのセクションのレプリケートを保留しておく場合などに便利です。

または、消費環境ではなく本番環境のみを対象とするセクションがある場合などです。この場合、サイト階層をレプリケートする際にそのセクションを省略できます。

サイトの各セクションをレプリケートするには、Site Studio レプリケータを使用します。詳細は、B-13 ページの「[Site Studio レプリケータの使用](#)」を参照してください。

先に進む前に、エクスポート・アーカイブでプロジェクト・ファイルの選択を解除したことを確認する必要があります（B-10 ページの「[ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定](#)」の手順7）。解除していないと、Site Studio レプリケータのレプリケーション設定が、サイト階層全体のレプリケーションで上書きされます。

## B.8 Site Studio レプリケータの使用

Site Studio レプリケータは、Site Studio で使用し、あるコンテンツ・サーバー（ソース・サーバー）から別のコンテンツ・サーバー（ターゲット・サーバー）にサイト階層の一部をレプリケートするツールです。Site Studio レプリケータを使用しない場合は、サイト階層全体をレプリケートする必要があります。Site Studio レプリケータを使用すると、サイト上の環境プロパティを上書きすることもできます。

Site Studio レプリケータでは、サイト階層のみをレプリケートします。つまり、サイト上のコンテンツ（ページ・テンプレート、データ・ファイル、フラグメントなど）はレプリケートされません。このコンテンツは、「Manage Site Replication」ページを使用する場合にレプリケートされます。

### Site Studio レプリケータの開始

Site Studio レプリケータは、Site Studio をインストールする際にデザイナーとともにシステムにローカルでインストールされます。このプログラムを起動するには、「スタート」メニューから「プログラム」を選択して、「Oracle Universal Content Management」→「Site Studio 10gR4」→「Site Studio Replicator」を選択します。

プログラムを開くと、ウィザードを経由してサイト階層をレプリケートする準備ができます。レプリケーション・プロセスは次の手順で構成されます。

- B-13 ページの「手順 1: ソース・サーバーと Web サイトの選択」
- B-15 ページの「手順 2: ターゲット・サーバーの選択」
- B-17 ページの「手順 3: レプリケートするアイテムの選択」
- B-19 ページの「手順 4: Site Studio レプリケータの終了」

### B.8.1 手順 1: ソース・サーバーと Web サイトの選択

Site Studio レプリケータの最初の画面で、ソース・サーバーの選択が求められます。このサーバーは、サイト階層のレプリケート元のサーバーです。ソース・サーバーを選択するには、実際のサーバー、またはソース・サーバーで作成されたプロジェクト・ファイルを選択します。サーバーを選択する場合は、Web サイトを選択します。

#### サーバーのソースとしての選択

サーバーをソースとして選択するには、次の手順を実行します。

1. 「Source Content Server」ドロップダウン・リストからサーバーを選択します。

図 B-4 サーバーの選択



サーバーの追加、既存のサーバーの編集または既存のサーバーの削除を行うには、ドロップダウン・リストのそばにある「Additional Information」アイコン（図 B-5）をクリックします（B-19 ページの「サーバー接続の変更」を参照）。

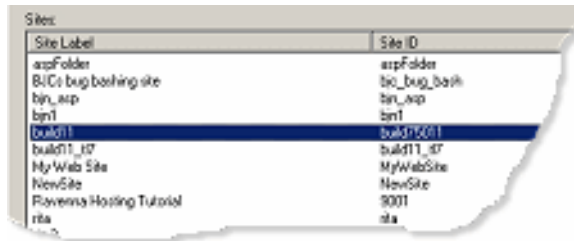
図 B-5 「Additional Information」アイコン



2. 「Next」をクリックします（プロンプトが表示された場合は、コンテンツ・サーバーにログインします）。

3. ソース・サーバーで Web サイトを選択します。

図 B-6 Web サイトの選択



Site Label	Site ID
aspFolder	aspFolder
B:\C:\bug bashing site	bug_bash
bin_asp	bin_asp
bin1	bin1
<b>build1</b>	<b>build1_01</b>
build1_07	build1_07
MyWeb Site	MyWebSite
NewSite	NewSite
Playerns Hosting Tutorial	9001
rita	rita

4. 「Next」をクリックして、次の手順に進みます (B-15 ページの「手順 2: ターゲット・サーバーの選択」を参照)。

#### プロジェクト・ファイルのソースとしての選択

プロジェクト・ファイルをソースとして使用できますが、最初にソース・サーバーからプロジェクト・ファイルをダウンロードする必要があります (6-10 ページの「プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページの表示」を参照)。ネットワークでソース・サーバーにアクセスできないために階層を手動で転送する必要がある場合、ソース・サーバーではなくプロジェクト・ファイルを使用すると便利です。

プロジェクト・ファイルをソースとして選択するには、次の手順を実行します。

1. 「Source Content Server」ドロップダウン・リストから「<Load From File>」を選択します。
2. 「Next」をクリックします。
3. 「Open」ダイアログで、ソース・サーバーからダウンロードしたプロジェクト・ファイルを選択して、「OK」をクリックします。
4. 「Next」をクリックして、次の手順に進みます (B-15 ページの「手順 2: ターゲット・サーバーの選択」を参照)。

ウィザードの後半では、レプリケートする Web サイトの各セクションを選択できます。

## B.8.2 手順 2: ターゲット・サーバーの選択

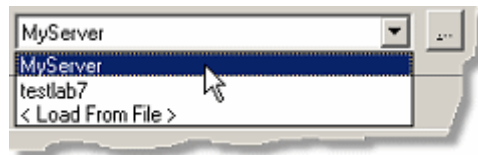
Site Studio レプリケータの次の画面で、ターゲット・サーバーの選択が求められます。これは、サイト階層のレプリケート先のサーバーです。サーバーを選択するには、実際のサーバー、またはターゲット・サーバー上のプロジェクト・ファイルを選択します。

### サーバーのターゲットとしての選択

サーバーをターゲットとして選択するには、次の手順を実行します。

1. 「Target Content Server」 ドロップダウン・リストからサーバーを選択します。（「Target Content Server」 フィールドを空白にしておくことはできません。）

図 B-7 サーバーの選択



サーバーの追加、既存のサーバーの編集または既存のサーバーの削除を行うには、サーバー・リストのそばにある「Additional Information」アイコン (図 B-8) をクリックします (B-19 ページの「サーバー接続の変更」を参照)。

図 B-8 「Additional Information」アイコン



2. 「Advanced」 をクリックして、次のオプションを選択します。
  - 「Replicate hierarchy information directly to the target content server」 を選択して、ターゲット・コンテンツ・サーバーに直接レプリケートします。

このオプションは、(プロジェクト・ファイルではなく) サーバーをターゲットとして選択した場合のみ使用可能です。
  - 「Generate a hierarchy information file for manual replication」 を選択して、階層情報ファイルを生成します。

階層情報ファイルの「Output File Name」を指定するか、または「Browse」をクリックしてファイルを検索します。

このオプションを選択すると、コンテンツ・サーバーに後でチェックインできるプロジェクト・ファイルが作成されます。
3. 「OK」 をクリックして、Site Studio レプリケータに戻ります。
4. 「Next」 をクリックします (プロンプトが表示された場合は、コンテンツ・サーバーにログインします)。
5. Web サイト (プロジェクト・ファイル) を作成するプロンプトが表示された場合は、「Yes」 をクリックします。
6. 次の手順に進みます (B-17 ページの「手順 3: レプリケートするアイテムの選択」を参照)。

### プロジェクト・ファイルのターゲットとしての選択

プロジェクト・ファイルをターゲットとして使用できますが、最初にターゲット・サーバーからプロジェクト・ファイルをダウンロードする必要があります (6-10 ページの「[プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページの表示](#)」を参照)。ネットワークでターゲット・サーバーにアクセスできないために階層を手動で転送する必要がある場合、ターゲット・サーバーではなくプロジェクト・ファイルを使用すると便利です。

プロジェクト・ファイルをターゲットとして選択するには、次の手順を実行します。

1. 「Target Content Server」ドロップダウン・リストから「<Load From File>」を選択します。
2. 「Next」をクリックします。
3. 出力ファイル名が必要であることを示すプロンプトが表示されたら、「OK」をクリックします。
4. 「Output File Name」フィールドで、階層情報ファイルの名前を指定します。  
または、「Browse」をクリックして、既存のファイルを検索します。
5. 「OK」をクリックして、Site Studio レプリケータに戻ります。
6. 「Next」をクリックします。
7. 「Open」ダイアログで、使用する階層情報ファイルを選択して、「Open」をクリックします。
8. 次の手順に進みます (B-17 ページの「[手順 3: レプリケートするアイテムの選択](#)」を参照)。

### B.8.3 手順 3: レプリケートするアイテムの選択

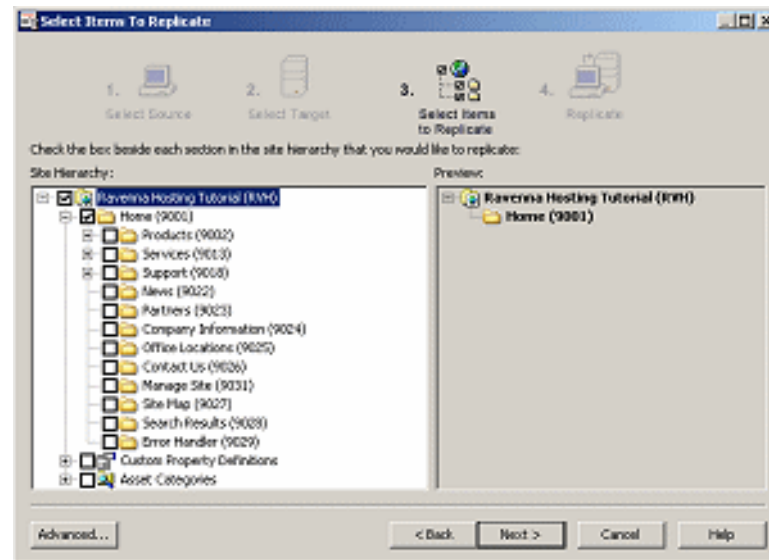
ソース・サーバーとターゲット・サーバー（またはプロジェクト・ファイル）を選択すると次の画面が表示され、この画面でレプリケートする各セクション、カスタム・プロパティ、およびアセット・カテゴリを選択できます。サイト上の環境プロパティを上書きすることもできます。

ソースの階層は、左側の「Site Hierarchy」ペインに表示され、マージされた階層は、右側の「Preview」ペインに表示されます。

レプリケートするアイテムを選択するには、次の作業を行います。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、レプリケートする目的のセクション、カスタム・プロパティおよびアセット・カテゴリのそばにあるボックスを選択します。

図 B-9 レプリケート対象の選択



初めてサイトをレプリケートする際は、ソースで何も選択していない場合でも「Preview」ペインにサイト階層全体（ルートを含む）が表示されます。サイト階層をレプリケートするには、ソースでサイト階層とルート・セクションを選択する必要があります。

2. 「Advanced」をクリックして、階層をレプリケートするためのオプションを選択します。
  - サイトの各セクションをレプリケートするには、「Replicate the selected folders」を選択します。
  - サイト全体をレプリケートするには、「Replicate the entire source hierarchy」を選択します。

---

**注意：**サイトを初めてレプリケートする場合は、階層全体をレプリケートするのが一般的です。次にレプリケートする際は、選択したフォルダを選択します。

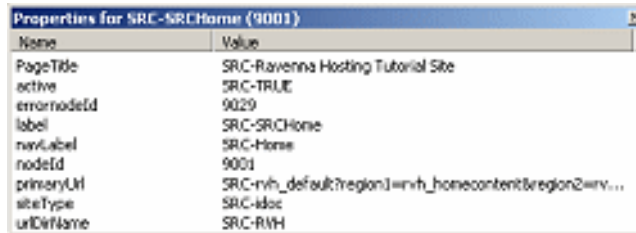
---

- デザイナーの「Environment Properties」ダイアログで行った環境設定を上書きするには、「Override Environment Properties」をクリックします（B-20 ページの「環境プロパティの上書き」を参照）。
- コントリビュータがターゲット・サーバーで切り替えたコンテンツを保存して、そのコンテンツが上書きされないようにするには、「Preserve the target's switched region associations」を選択します。

「OK」をクリックして、Site Studio レプリケータに戻ります。

3. (ソース・サーバーまたはターゲット・サーバー上の) 特定のセクションの現在のプロパティを表示するには、そのセクションを右クリックして「**Properties**」を選択します。  
「Properties」ダイアログが開きます。

図 B-10 「Properties」ダイアログ



Name	Value
PageTitle	SRC-Ravenna Hosting Tutorial Site
active	SRC-TRUE
nodeName	9029
label	SRC-SRCHome
navLabel	SRC-Home
nodeId	9001
primaryUrl	SRC-rvh_default?region1=rvh_homecontent&region2=rv...
siteType	SRC-ldoc
uriDefName	SRC-RVH

このウィンドウが開いている場合、サイト階層の様々なセクションをクリックして、引き続きそのセクションのプロパティを表示できます。

4. ターゲット・サーバーからセクションを削除するには、そのセクションを右クリックして「**Delete**」を選択します。  
ターゲット・サーバーからのセクションの削除は、セクションが不要になった場合や、セクションをサイトの別の部分に移動した場合に便利です。
5. 「**Next**」をクリックして、次の手順に進みます (B-19 ページの「[手順 4: Site Studio レプリケータの終了](#)」を参照)。

このダイアログのサイズを変更すれば、サイト階層を詳細に表示できます。

最上位レベルの Web サイト、または最上位レベルのセクションを選択すると、その下のすべてのセクションがレプリケートされます。

ソース・サーバーでサブセクションを選択する場合、そのサブセクションの親はすでにターゲット・サーバーに存在しています。存在しない場合は、ターゲット階層に親が存在しないために選択した階層がマージされないことを示すメッセージが表示されます。これを解決するには、レプリケートするサブセクションの親セクションをソース階層で選択する必要があります。

ターゲット階層（「Preview」ペイン）に太字で表示されるセクションは、レプリケーション・プロセスで作成されるセクションを示します。



## B.8.4 手順 4: Site Studio レプリケーターの終了

ソース・サーバーとターゲット・サーバー（またはプロジェクト・ファイル）を選択して、レプリケートするアイテムを選択すると次の画面が表示されます。この画面で選択内容を確認し、サイト階層をレプリケートできます。

この画面では、ソース・サーバーとターゲット・サーバーの場所および URL、レプリケーションのタイプ、レプリケートするサイト階層が表示されます。

サイト階層をレプリケートするには、次の作業を行います。

1. 「**Preview**」をクリックして、ターゲット・サーバーで行われるサイト階層の変更を確認します。確認が終わったら、「**Close**」をクリックします。
2. 「**Finish**」をクリックします。
3. ターゲット・サーバーにレプリケートするかどうかを尋ねるメッセージに対して「**Yes**」をクリックします。
4. ターゲット・サーバーでサイトを作成する場合は、「**Assign Info Form**」に移動し、ここでプロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータを指定します。  
指定したら、「**Assign Info**」をクリックします。
5. 確認メッセージに対して「**OK**」をクリックします。

初めてサイトをレプリケートする場合は、「**Manage Site Replication**」ページに戻り、レプリケーションが終了します（B-11 ページの「[サイト・レプリケーションの開始](#)」を参照）。

## B.8.5 サーバー接続の変更

ソースまたはターゲットの場所としてサーバーを選択すると、既存のサーバーのプロパティの変更、サーバーの追加およびサーバーの削除を行うことができます。

### リストへの新しいサーバーの追加

リストにサーバーを追加するには、次の手順を実行します。

1. Site Studio レプリケーターでソース・サーバーまたはターゲット・サーバーを指定する場合、「**Additional Information**」アイコン（[図 B-11](#)）をクリックします。

#### 図 B-11 「Additional Information」アイコン



2. 「**Add Server**」をクリックします。
3. 「**Server Configuration**」ダイアログで、「**Server Name**」フィールドにサーバーの名前を入力します（次にサーバーを選択したときに表示される名前です）。
4. 「**CGI URL**」フィールドにサーバーの URL を入力します。  
通常は、フィールドに表示される既存の URL を使用できます。server は使用するサーバーの名前に置き換えられます。
5. 「**OK**」をクリックします。

### リストからのサーバーの削除

サーバー・リストからサーバーを削除するには、次の作業を行います。

1. Site Studio レプリケータでソース・サーバーまたはターゲット・サーバーを指定する場合、削除するサーバーを選択して、「Additional Information」アイコン (図 B-12) をクリックします。

図 B-12 「Additional Information」アイコン



2. 「Remove Server」をクリックします。
3. リストからのサーバーの削除を尋ねる確認メッセージに対して「Yes」をクリックします。

### サーバーのプロパティの表示または編集

サーバーのプロパティを表示または編集するには、次の作業を行います。

1. Site Studio レプリケータでソース・サーバーまたはターゲット・サーバーを指定する場合、表示または編集するサーバーを選択して、「Additional Information」アイコン (図 B-13) をクリックします。

図 B-13 「Additional Information」アイコン



2. 「Properties」をクリックします。
3. 「Server Configuration」ダイアログで、サーバーのプロパティを表示または編集できます。
4. 「OK」をクリックします。

## B.8.6 環境プロパティの上書き

デザイナーでサイトの環境プロパティを指定した後 (B-12 ページの「環境プロパティの指定」を参照)、サイトをレプリケートする際にその設定を後から上書きできます。

Site Studio レプリケータにある「Override Environment Properties」ダイアログでプロパティを上書きします (B-17 ページの「手順 3: レプリケートするアイテムの選択」を参照)。

環境プロパティを上書きするには、次の作業を行います。

1. Site Studio レプリケータの「Select Items to Replicate」画面で「Advanced」をクリックします。
2. 「Advanced」ダイアログで、「Override Environment Properties」をクリックします。
3. 環境プロパティとして扱うプロパティのそばにあるボックスを選択します。  
または、アプリケーション・プロパティとして扱うプロパティのそばにあるボックスの選択を解除します。
4. 「OK」をクリックして、Site Studio レプリケータに戻り、レプリケーションを終了します。

---

---

## サンプル・フラグメント

Site Studio には、すぐに使用できるサンプル・フラグメントが多数用意されています。フラグメントの作成に使用されたコードを把握する必要はありません。サンプル・フラグメントをそのまま使用したり、そのソース・コードを編集したり、既存のフラグメントをベースにフラグメントを作成したりできます。フラグメントの構造や実用的用途を学ぶには、サンプル・フラグメントから始めるのが最善の方法です。

ページ・テンプレートにフラグメントを追加する場合、多くのサンプル・フラグメントに含まれているパラメータを使用して各フラグメントをカスタマイズできます。

サンプル・フラグメントは、ツールボックスで4つのカテゴリに分類されます。次に、各フラグメントと、そのフラグメントの使用可能なパラメータについて説明します。

- C-2 ページの「ナビゲーション・フラグメント」
- C-22 ページの「動的リスト・フラグメント」
- C-25 ページの「静的リスト・フラグメント」
- C-26 ページの「その他のフラグメント」

## C.1 ナビゲーション・フラグメント

ナビゲーション関連のフラグメントは次のとおりです。

- C-3 ページの「[ブレットクラム・プレーン](#)」
- C-3 ページの「[エキスプローラ・メニュー・バー](#)」
- C-3 ページの「[ログイン・サンプル](#)」
- C-3 ページの「[ナビゲーション・ホーム・ロゴ](#)」
- C-4 ページの「[水平方向のナビゲーション・マルチ](#)」
- C-4 ページの「[垂直方向のナビゲーション・マルチ](#)」
- C-5 ページの「[水平方向のナビゲーション・プレーン](#)」
- C-5 ページの「[垂直方向のナビゲーション・プレーン](#)」
- C-6 ページの「[トップ・ナビゲーション・タブ](#)」
- C-6 ページの「[水平方向のナビゲーション・ラップ](#)」
- C-6 ページの「[検索ボックス・プレーン](#)」
- C-7 ページの「[検索結果ページ](#)」
- C-8 ページの「[検索結果プレーン](#)」
- C-8 ページの「[サイト・マップ・プレーン](#)」
- C-9 ページの「[サイト・マップ・ツリー](#)」
- C-9 ページの「[垂直方向のメニュー・バー](#)」
- C-9 ページの「[ASP ブレットクラム・プレーン](#)」
- C-9 ページの「[ASP ブレットクラム・プレーン \(サーバー\)](#)」
- C-10 ページの「[ASP エクスプローラ・メニュー・バー](#)」
- C-10 ページの「[水平方向の ASP ナビゲーション・マルチ](#)」
- C-11 ページの「[垂直方向の ASP ナビゲーション・マルチ](#)」
- C-11 ページの「[ASP 検索ボックス・プレーン](#)」
- C-12 ページの「[ASP 検索ボックス・プレーン \(サーバー\)](#)」
- C-12 ページの「[ASP 検索結果プレーン](#)」
- C-13 ページの「[ASP サイト・マップ・プレーン](#)」
- C-13 ページの「[CSP サンプル・ナビゲーション \(クライアント\)](#)」
- C-14 ページの「[CSP サンプル・ナビゲーション \(サーバー\)](#)」
- C-14 ページの「[JSP ナビゲーション・ホーム・ロゴ](#)」
- C-15 ページの「[水平方向の JSP ナビゲーション・プレーン](#)」
- C-15 ページの「[垂直方向の JSP ナビゲーション・プレーン](#)」
- C-15 ページの「[JSP 検索ボックス・プレーン](#)」
- C-16 ページの「[JSP 検索結果ページ](#)」
- C-17 ページの「[JSP サイト・マップ・プレーン](#)」
- C-17 ページの「[IDOC ブレットクラム・プレーン](#)」
- C-17 ページの「[IDOC ナビゲーション・ホーム・ロゴ](#)」
- C-18 ページの「[IDOC 検索ボックス・プレーン](#)」
- C-18 ページの「[RSET ブレットクラム・プレーン](#)」

- C-18 ページの「[水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ](#)」
- C-19 ページの「[水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン](#)」
- C-19 ページの「[RSET サイト・マップ・プレーン](#)」
- C-20 ページの「[追加の IDOC フラグメント](#)」

### C.1.1 ブレッドクラム・プレーン

階層パスを表すナビゲーション・リンク（ブレッドクラムとも呼ばれる）を追加します。ブレッドクラムは、多くの場合、Web ページの上部または下部に配置され、ユーザーが Web サイトでの自分の正しい位置を把握するのに役立ちます。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** リンクの区切りに使用されるテキスト。デフォルトは > です。

### C.1.2 エクスプローラ・メニュー・バー

階層メニュー・バー（Windows ベース・アプリケーションのメニュー・バーと類似）をエミュレートするナビゲーション・メニューを追加します。（このフラグメントでは DHTML が使用されます。）

#### パラメータ

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。

### C.1.3 ログイン・サンプル

ユーザーのログイン資格証明に基づいてパブリック・サイトからセキュアなサイトにユーザーを誘導する方法を示す Web サイトのログイン・ボタンとログイン・スクリプトを追加します。

#### パラメータ

**ssButtonText:** ログイン・ボタンのテキスト。デフォルトは Login です。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス。

**ssTargetSiteId:** ターゲット（セキュアな）・サイトのサイト ID。

### C.1.4 ナビゲーション・ホーム・ロゴ

Web サイトのホームページへのハイパーリンクとして機能するイメージを追加します。

#### パラメータ

**ssLogo:** コンテンツ・サーバーで使用するグラフィックの URL を指定します。この設定が空白の場合、フラグメント・アセット・ディレクトリの `logo.gif` というプレースホルダのイメージが使用されます。

**ssWidth:** イメージの幅（ピクセル単位）。空白の場合、幅の属性は使用されません。

**ssHeight:** イメージの高さ（ピクセル単位）。空白の場合、高さの属性は使用されません。

## C.1.5 水平方向のナビゲーション・マルチ

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントは、カスタマイズした範囲のレベルを表示できます。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

**ssShowHome:** 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは **true** です。(ホームページは、実際に Web サイトのルート (本来は最上位レベルの上) に配置されますが、兄弟と捉えられません。)

**ssStartLevel:** メニューの表示を開始する表示レベル。

**ssNumLevels:** 表示する (セクション) レベルの数。

### 特記事項

水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントでは、このメニューがさらに簡単なバージョンで提供されます。

## C.1.6 垂直方向のナビゲーション・マルチ

ページ・テンプレートのどの場所にも移動できるサイド・ナビゲーション・バーを追加しますが、左側に配置して左から右にインデントするのが一般的です。このフラグメントは、カスタマイズされた範囲のレベルを表示できます (第 2 レベルのみを表示する垂直方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントとは異なります)。これは現在のフォーカス・レベルで表示されます。このフラグメントで指定したサブレベル・セクションがサイトに存在しない場合は何も表示されません。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssShowHome:** 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは **false** です。

**ssStartLevel:** メニューの表示を開始する表示レベル。

**ssNumLevels:** 表示する (セクション) レベルの数。

### 特記事項

垂直方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントでは、このメニューがさらに簡単なバージョンで提供されます。

## C.1.7 水平方向のナビゲーション・プレーン

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントでは、サイト・ナビゲーションの最上位レベルのみ（サイトのルートにあるセクション）が表示されます。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。（ホームページは、実際に Web サイトのルート（最上位レベルの上）にあります。ここでは兄弟と捉えられる場合もあります。）

### 特記事項

水平方向のナビゲーション・マルチ・フラグメントでは、このメニューがさらに複雑なバージョンで提供されます。

## C.1.8 垂直方向のナビゲーション・プレーン

ページ・テンプレートのどの場所にも移動できるサイド・ナビゲーション・バーを追加しますが、左側に配置して左から右にインデントするのが一般的です。このフラグメントでは、サイト・ナビゲーションの第 2 レベルのみが表示されます。したがって、サイトに第 2 レベルのセクションがない場合は何も表示されません。サイト階層は展開した状態で表示されます。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

### 特記事項

垂直方向のナビゲーション・マルチ・フラグメントでは、このメニューがさらに複雑なバージョンで提供されます。

## C.1.9 トップ・ナビゲーション・タブ

最大 2 つのレベルのナビゲーションを表示する表スタイルのナビゲーション・バーを追加します。このタブでは各イメージがレンダリングされたテキストで使用されます（このフラグメントでは DHTML は使用されません）。様々なイメージを使用して別のテーマを好みで選択できます。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。

**ssShowNext:** 第 2 レベルのナビゲーションを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは false です。有効な場合、水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントと同様に、第 2 レベルのナビゲーションがタブの下にテキスト・リンクとして表示されます。

**ssTheme:** テーマの名前を指定します。具体的には、このフラグメントのアセットのテーマ・ディレクトリを参照します。

## C.1.10 水平方向のナビゲーション・ラップ

2 行に分割可能な最上位レベル・ナビゲーション（上の行の方が重要度が高い）を追加します。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは false です。

**ssLineWrap:** 最上位レベルの見出しの後の表示を分割するかどうかを指定します。これは整数値でデフォルトは 4 に設定されています。ホーム・リンク（使用される場合）はこの条件に組み込まれません。

## C.1.11 検索ボックス・プレーン

検索キーワードを送信する HTML フォームを使用して、ページ・テンプレートに検索ボックスを追加します。検索ボックスは、検索を実行して結果を表示する別のページにリンクする必要があります。

### パラメータ

**ssResultsPage:** 検索結果を表示するページ・テンプレートを指定します（「検索結果プレーン」フラグメントを参照）。

**ssButtonText:** 検索ボタンのテキスト。デフォルトは Search。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

### 特記事項

このフラグメントは、検索結果プレーン・フラグメントまたは検索を実行して結果を表示する同様のカスタム製のページと一緒に使用します。



## C.1.12 検索結果ページ

ページ・テンプレートに検索結果の領域を追加します。このフラグメントは、検索ボックス・プレーン・フラグメントとともに使用するように設計されています。検索ボックスで指定した URL パラメータ `ssUserText` を取ります。その値と、このフラグメントにパラメータとして指定した制限句を組み合わせます。検索を実行し、必要に応じて一連の結果を（検索結果プレーン・フラグメントで使用される `more...` ボタンのかわりに）ページ・リストで表示します。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssQueryText:** 問合せ制限句として使用されます。検索ボックスから受信した `ssUserText` の値と組み合わせられます。問合せのどちらのコンポーネントも指定する場合、最終的な問合せは `(ssQueryText) AND (ssUserText)` になります。

**ssLimitScope** も組み合わせる場合、問合せは次のようになります。

```
"(ssQueryText) AND (ssUserText) AND (ssLimitScope)"
```

どのコンポーネントも空白または `false` の場合、そのコンポーネントはアセンブリから除外されます。

**ssLimitScope:** 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

**ssSortField:** 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dInDate` です。

**ssSortOrder:** 検索をソートする順序。デフォルトは `desc` です。

**ssResultCount:** 1 ページあたりに表示する結果の数。デフォルトは 25 です。

**ssDisplayField:** 結果のリンクのラベルを形成するメタデータ・フィールドの名前。

**ssTargetNodeID:** セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます。

### 特記事項

このフラグメントは、サイト・ナビゲーションに含まれていないサイト階層のセクションに追加してください。検索結果のプレースホルダ・ページが作成されます。

### C.1.13 検索結果プレーン

ページ・テンプレートに検索結果の領域を追加します。このフラグメントは、検索ボックス・プレーン・フラグメントとともに使用するように設計されています。検索ボックスで指定した URL パラメータ `ssUserText` を取ります。その値と、このフラグメントにパラメータとして指定した制限句を組み合せます。検索を実行し、必要に応じて一連の結果を `more...` ボタンで表示します。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssQueryText:** 問合せ制限句として使用されます。検索ボックスから受信した `ssUserText` の値と組み合されます。問合せのどちらのコンポーネントも指定する場合、最終的な問合せは (`ssQueryText`) AND (`ssUserText`) になります。

`ssLimitScope` も組み合せる場合、問合せは次のようになります。

```
"(ssQueryText) AND (ssUserText) AND (ssLimitScope)"
```

どのコンポーネントも空白または `false` の場合、そのコンポーネントはアセンブリから除外されます。

**ssLimitScope:** 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

**ssSortField:** 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dlnDate` です。

**ssSortOrder:** 検索をソートする順序。デフォルトは `desc` です。

**ssResultCount:** 1 ページ当りに表示する結果の数。デフォルトは `25` です。

**ssDisplayField:** 結果のリンクのラベルを形成するメタデータ・フィールドの名前。

**ssTargetNodeID:** セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます。

#### 特記事項

このフラグメントは、サイト・ナビゲーションに含まれていないサイト階層のセクションに追加してください。検索結果のプレースホルダ・ページが作成されます。

### C.1.14 サイト・マップ・プレーン

Web サイトのすべてのセクションを表示するサイト・マップを追加して、そのマップを階層形式で表示します。階層は展開した状態で表示されます。このタイプのナビゲーションは、ビジターが急いで情報を検索する場合のナビゲーションとして特に役立ちます。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

**ssShowNext:** フォーカス・ポイントまたはサイト階層の現在の場所をハイライト表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

### C.1.15 サイト・マップ・ツリー

サイト階層全体の展開可能なツリー・ビューを追加します。ツリー・ビューは自動展開して、サイト階層の現在の場所を示します。その場所から他のセクションを参照できます。(このフラグメントでは DHTML が使用されます。)

#### パラメータ

**ssTheme:** テーマの名前を指定します。具体的には、フラグメントのアセットのテーマ・ディレクトリを参照します。デフォルトは `explorer1` です。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。

#### 特記事項

階層のアイコンでは、このフラグメントのアセットに格納されているイメージが使用されます。様々なイメージを使用して別のテーマを好みで選択できます。

### C.1.16 垂直方向のメニュー・バー

サイト階層全体を表示する階層メニュー・バーをエミュレートするナビゲーション・メニューを追加します。(このフラグメントでは DHTML が使用されます。)

#### パラメータ

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。

### C.1.17 ASP ブレッドクラム・プレーン

階層パスを表すナビゲーション・リンク (ブレッドクラムとも呼ばれる) を追加します。ブレッドクラムは、多くの場合、Web ページの上部または下部に配置され、ユーザーが Web サイトでの自分の正しい位置を把握するのに役立ちます。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** リンクの区切りに使用されるテキスト。デフォルトは `>` です。

#### 特記事項

このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

### C.1.18 ASP ブレッドクラム・プレーン (サーバー)

階層パスを表すナビゲーション・リンクを追加します。このフラグメントは、ASP ブレッドクラム・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、サーバー側スクリプトを使用する点です。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** リンクの区切りに使用されるテキスト。デフォルトは `>` です。

### 特記事項

このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

## C.1.19 ASP エクスプローラ・メニュー・バー

階層メニュー・バー (Windows ベース・アプリケーションのメニュー・バーと類似) をエミュレートするナビゲーション・メニューを追加します。(このフラグメントでは DHTML が使用されます。)

### パラメータ

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは **true** です。

### 特記事項

このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

## C.1.20 水平方向の ASP ナビゲーション・マルチ

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントは、カスタマイズした範囲のレベルを表示できます。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

**ssShowHome:** 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは **true** です。(ホームページは、実際に Web サイトのルート (本来は最上位レベルの上) に配置されますが、兄弟と捉えられません。)

**ssStartLevel:** メニューの表示を開始する表示レベル。

**ssNumLevels:** 表示する (セクション) レベルの数。

### 特記事項

- 水平方向の ASP ナビゲーション・プレーン・フラグメントでは、このメニューがさらに簡単なバージョンで提供されます。
- このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

## C.1.21 垂直方向の ASP ナビゲーション・マルチ

ページ・テンプレートのどの場所にも移動できるサイド・ナビゲーション・バーを追加しますが、左側に配置して左から右にインデントするのが一般的です。このフラグメントは、カスタマイズされた範囲のレベルを表示できます（第2レベルのみを表示する垂直方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントとは異なります）。これは現在のフォーカス・レベルで表示されます。このフラグメントで指定したサブレベル・セクションがサイトに存在しない場合は何も表示されません。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssShowHome:** 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

**ssStartLevel:** メニューの表示を開始する表示レベル。

**ssNumLevels:** 表示する（セクション）レベルの数。

### 特記事項

このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

## C.1.22 ASP 検索ボックス・プレーン

検索キーワードを送信する HTML フォームを使用して、ページ・テンプレートに検索ボックスを追加します。検索ボックスは、検索を実行して結果を表示する別のページにリンクする必要があります。

### パラメータ

**ssResultsPage:** 検索結果を表示するページ・テンプレートを指定します（「ASP 検索結果プレーン」フラグメントを参照）。

**ssButtonText:** 検索ボタンのテキスト。デフォルトは `Search`。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

### 特記事項

- このフラグメントは、ASP 検索結果プレーン・フラグメントまたは検索を実行して結果を表示する同様のカスタム製のページと一緒に使用します。
- このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

### C.1.23 ASP 検索ボックス・プレーン（サーバー）

ページ・テンプレートに検索ボックスを追加します。検索ボックスは、検索を実行して結果を表示する別のページとリンクする必要があります。このフラグメントは、ASP 検索ボックス・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、サーバー側スクリプトを使用する点です。

#### パラメータ

**ssResultsPage:** 検索結果を表示するページ・テンプレートを指定します（「検索結果プレーン」フラグメントを参照）。

**ssButtonText:** 検索ボタンのテキスト。デフォルトは Search。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

#### 特記事項

- このフラグメントは、ASP 検索結果プレーン・フラグメントまたは検索を実行して結果を表示する同様のカスタム製のページと一緒に使用します。
- このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

### C.1.24 ASP 検索結果プレーン

ページ・テンプレートに検索結果の領域を追加します。このフラグメントは、ASP 検索ボックス・プレーン・フラグメントとともに使用するよう設計されています。検索ボックスで指定した URL パラメータ **ssUserText** を取ります。その値と、このフラグメントにパラメータとして指定した制限句を組み合わせます。検索を実行し、必要に応じて一連の結果を **more...** ボタンで表示します。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssQueryText:** 問合せ制限句として使用されます。検索ボックスから受信した **ssUserText** の値と組み合わせます。問合せのどちらのコンポーネントも指定する場合、最終的な問合せは (**ssQueryText**) AND (**ssUserText**) になります。

**ssLimitScope** も組み合わせる場合、問合せは次のようになります。

```
"(ssQueryText) AND (ssUserText) AND (ssLimitScope)"
```

どのコンポーネントも空白または **false** の場合、そのコンポーネントはアセンブリから除外されます。

**ssLimitScope:** 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

**ssSortField:** 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは **dInDate** です。

**ssSortOrder:** 検索をソートする順序。デフォルトは **desc** です。

**ssResultCount:** 1 ページあたりに表示する結果の数。デフォルトは **25** です。

**ssDisplayField:** 結果のリンクのラベルを形成するメタデータ・フィールドの名前。

**ssTargetNodeID:** セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます。

**特記事項**

- このフラグメントは、サイト・ナビゲーションに含まれていないサイト階層のセクションに追加してください。検索結果のプレースホルダ・ページが作成されます。
- このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

**C.1.25 ASP サイト・マップ・プレーン**

Web サイトのすべてのセクションを表示するサイト・マップを追加して、そのマップを階層形式で表示します。階層は展開した状態で表示されます。このタイプのナビゲーションは、ビジターが急いで情報を検索する場合のナビゲーションとして特に役立ちます。

**パラメータ**

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

**ssShowNext:** フォーカス・ポイントまたはサイト階層の現在の場所をハイライト表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

**特記事項**

このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

**C.1.26 CSP サンプル・ナビゲーション (クライアント)**

クライアント側スクリプトを使用して、カスタム・セクション・プロパティへのアクセス方法を示すサンプル・ナビゲーションです。このサンプルでは、階層の最上位レベルのリンクのみが表示され、子セクションへのリンクは表示されません。各リンクをカスタマイズできます。

サイト・ナビゲーション表示を調整できるように、カスタマイズ可能なナビゲーション・オプションが追加されます。たとえば、各セクションの様々な色の表示、表示するテキストの置換え、テキストからイメージへの置換えなどを行うことができます。

**特記事項**

次の 4 つのカスタム・セクション・プロパティがあることを前提とします。

**Name:** `cspNavInclude`

**Type:** `boolean`

**Description:** デフォルトの動作「ナビゲーションにセクションを含める」を上書きする方法の例を示します。値は `true` または `false` になり、このセクションがナビゲーションに表示されるかどうかを決定します。

**Name:** `cspNavLabel`

**Type:** `Text`

**Description:** ナビゲーション・プレゼンテーションでセクション名を表示するデフォルトの動作を上書きするオプションのラベル。

**Name:** `cspNavImage`

**Type:** `managedurl`

**Description:** テキスト・ラベルのかわりに、ナビゲーションで使用されるイメージ・ファイルのオプションの URL。

**Name:** cspNavColor

**Type:** Color

**Description:** 各セクションについて、ナビゲーション・フラグメントの左側の表セルのリード色を指定するオプションのオーバーライド。

---

---

**注意:** CSP (カスタム・セクション・プロパティ) フラグメントを使用する場合、プロパティを定義してから、フラグメントを含むすべてのセクションの各カスタム・セクション・プロパティの値を設定する必要があります。

---

---

### C.1.27 CSP サンプル・ナビゲーション (サーバー)

サーバー側スクリプトを使用して、カスタム・セクション・プロパティへのアクセス方法を決定するサンプル・ナビゲーションです。このサンプルでは、階層の最上位レベルのリンクのみが表示され、子セクションへのリンクは表示されません。各リンクをカスタマイズできます。

サイト・ナビゲーション表示を調整できるように、カスタマイズ可能なナビゲーション・オプションが追加されます。たとえば、各セクションの様々な色の表示、表示するテキストの置換え、テキストからイメージへの置換えなどを行うことができます。

#### 特記事項

CSP サンプル・ナビゲーション (クライアント) と同じです。詳細は、C-13 ページの「[CSP サンプル・ナビゲーション \(クライアント\)](#)」を参照してください。

---

---

**注意:** CSP (カスタム・セクション・プロパティ) フラグメントを使用する場合、プロパティを定義してから、フラグメントを含むすべてのセクションの各カスタム・セクション・プロパティの値を設定する必要があります。

---

---

### C.1.28 JSP ナビゲーション・ホーム・ロゴ

Web サイトのホームページへのハイパーリンクとして機能するイメージを追加します。

#### パラメータ

**ssLogo:** コンテンツ・サーバーで使用するグラフィックの URL を指定します。この設定が空白の場合、フラグメント・アセット・ディレクトリの `logo.gif` というプレースホルダのイメージが使用されます。

**ssWidth:** イメージの幅 (ピクセル単位)。空白の場合、幅の属性は使用されません。

**ssHeight:** イメージの高さ (ピクセル単位)。空白の場合、高さの属性は使用されません。

#### 特記事項

このフラグメントは JSP ページ・テンプレート用に設計されています。



## C.1.29 水平方向の JSP ナビゲーション・プレーン

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントでは、サイト・ナビゲーションの最上位レベルのみ（サイトのルートにあるセクション）が表示されます。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。（ホームページは、実際に Web サイトのルート（最上位レベルの上）にあります。ここでは兄弟と捉えられる場合もあります。）

### 特記事項

このフラグメントは JSP ページ・テンプレート用に設計されています。

## C.1.30 垂直方向の JSP ナビゲーション・プレーン

ページ・テンプレートのどの場所にも移動できるサイド・ナビゲーション・バーを追加しますが、左側に配置して左から右にインデントするのが一般的です。このフラグメントでは、サイト・ナビゲーションの第 2 レベルのみが表示されます。したがって、サイトに第 2 レベルのセクションがない場合は何も表示されません。サイト階層は展開した状態で表示されます。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

### 特記事項

このフラグメントは JSP ページ・テンプレート用に設計されています。

## C.1.31 JSP 検索ボックス・プレーン

ページ・テンプレートに検索ボックスを追加します。検索ボックスは、検索を実行して結果を表示する別のページにリンクする必要があります。

### パラメータ

**ssResultsPage:** 検索結果を表示するページ・テンプレートを指定します（「検索結果プレーン」フラグメントを参照）。

**ssButtonText:** 検索ボタンのテキスト。デフォルトは Search。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

### 特記事項

このフラグメントは、JSP 検索結果プレーン・フラグメントまたは検索を実行して結果を表示する同様のカスタム製のページと一緒に使用します。

このフラグメントは JSP ページ・テンプレート用に設計されています。

## C.1.32 JSP 検索結果ページ

ページ・テンプレートに検索結果の領域を追加します。このフラグメントは、検索ボックス・プレーン・フラグメントとともに使用するよう設計されています。検索ボックスで指定した URL パラメータ `ssUserText` を取ります。その値と、このフラグメントにパラメータとして指定した制限句を組み合わせます。検索を実行し、必要に応じて一連の結果を（検索結果プレーン・フラグメントで使われる `more...` ボタンのかわりに）ページ・リストで表示します。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssQueryText:** 問合せ制限句として使われます。検索ボックスから受信した `ssUserText` の値と組み合わせられます。問合せのどちらのコンポーネントも指定する場合、最終的な問合せは次のようになります。

```
"(ssQueryText) AND (ssUserText)"
```

`ssLimitScope` も組み合わせる場合、問合せは次のようになります。

```
"(ssQueryText) AND (ssUserText) AND (ssLimitScope)"
```

どのコンポーネントも空白または `false` の場合、そのコンポーネントはアセンブリから除外されます。

**ssLimitScope:** 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

**ssSortField:** 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dInDate` です。

**ssSortOrder:** 検索をソートする順序。デフォルトは `desc` です。

**ssResultCount:** 1 ページあたりに表示する結果の数。デフォルトは `25` です。

**ssDisplayField:** 結果のリンクのラベルを形成するメタデータ・フィールドの名前。

**ssTargetNodeID:** セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます。

### 特記事項

- このフラグメントは、サイト・ナビゲーションに含まれていないサイト階層のセクションに追加してください。検索結果のプレースホルダ・ページが作成されます。
- このフラグメントは JSP ページ・テンプレート用に設計されています。

### C.1.33 JSP サイト・マップ・プレーン

Web サイトのすべてのセクションを表示するサイト・マップを追加して、そのマップを階層形式で表示します。階層は展開した状態で表示されます。このタイプのナビゲーションは、ビジターが急いで情報を検索する場合のナビゲーションとして特に役立ちます。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

**ssShowNext:** フォーカス・ポイントまたはサイト階層の現在の場所をハイライト表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

#### 特記事項

このフラグメントは JSP ページ・テンプレート用に設計されています。

### C.1.34 IDOC ブレッドクラム・プレーン

階層パスを表すナビゲーション・リンク（ブレッドクラムとも呼ばれる）を追加します。ブレッドクラムは、多くの場合、Web ページの上部または下部に配置され、ユーザーが Web サイトでの自分の正しい位置を把握するのに役立ちます。このフラグメントは、ブレッドクラム・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで `Idoc` スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** リンクの区切りに使用されるテキスト。デフォルトは `>` です。

### C.1.35 IDOC ナビゲーション・ホーム・ロゴ

Web サイトのホームページへのハイパーリンクとして機能するイメージを追加します。このフラグメントは、ナビゲーション・ホーム・ロゴ・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで `Idoc` スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

#### パラメータ

**ssLogo:** コンテンツ・サーバーで使用するグラフィックの URL を指定します。この設定が空白の場合、フラグメント・アセット・ディレクトリの `logo.gif` というプレースホルダのイメージが使用されます。

**ssWidth:** イメージの幅（ピクセル単位）。空白の場合、幅の属性は使用されません。

**ssHeight:** イメージの高さ（ピクセル単位）。空白の場合、高さの属性は使用されません。

### C.1.36 IDOC 検索ボックス・プレーン

検索キーワードを送信する HTML フォームを使用して、ページ・テンプレートに検索ボックスを追加します。検索ボックスは、検索を実行して結果を表示する別のページにリンクする必要があります。このフラグメントは、検索ボックス・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで `Idoc` スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

#### パラメータ

**ssResultsPage:** 検索結果を表示するページ・テンプレートを指定します（「検索結果プレーン」フラグメントを参照）。

**ssButtonText:** 検索ボタンのテキスト。デフォルトは Search。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

#### 特記事項

このフラグメントは、IDOC 検索結果プレーン・フラグメントまたは検索を実行して結果を表示する同様のカスタム製のページと一緒に使用します。

### C.1.37 RSET ブレッドクラム・プレーン

階層パスを表すナビゲーション・リンクを追加します。このフラグメントは、ブレッドクラム・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、`Idoc` スクリプトを使用することと、結果セットの値を使用する点です。IDOC ブレッドクラム・プレーンと比較してください。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** リンクの区切りに使用されるテキスト。デフォルトは > です。

### C.1.38 水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントは、水平方向のナビゲーション・マルチ・フラグメントと非常に似ています。違いは、`Idoc` スクリプトを使用することと、結果セットの値を使用する点です。水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチと比較してください。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

**ssShowHome:** 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。（ホームページは、実際に Web サイトのルート（本来は最上位レベルの上）に配置されますが、兄弟と捉えられません。）

**ssStartLevel:** メニューの表示を開始する表示レベル。

**ssNumLevels:** 表示する（セクション）レベルの数。

**特記事項**

水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン・フラグメントでは、このメニューがさらに簡単なバージョンで提供されます。

### C.1.39 水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントは、水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、Idoc スクリプトを使用することと、結果セットの値を使用する点です。水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーンと比較してください。

**パラメータ**

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。(ホームページは、実際に Web サイトのルート (最上位レベルの上) にありますが、ここでは兄弟と捉えられる場合もあります。)

**特記事項**

水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ・フラグメントでは、このメニューがさらに複雑なバージョンで提供されます。

### C.1.40 RSET サイト・マップ・プレーン

Web サイトのすべてのセクションを表示するサイト・マップを追加して、そのマップを階層形式で表示します。階層は展開した状態で表示されます。このフラグメントは、サイトマップ・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、Idoc スクリプトを使用することと、結果セットの値を使用する点です。IDOC サイト・マップ・プレーンと比較してください。

**パラメータ**

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

## C.1.41 追加の IDOC フラグメント

10gR4 より前の Site Studio リリースの一部の IDOC フラグメントには、便利な機能がいくつかあります。ただし、それらのフラグメントは大規模アプリケーションに応じて拡大できないため、使用しないことをお勧めします。

次の IDOC フラグメントは Site Studio とともにインストールされます。ただし、チェックインされません。

- C-20 ページの「[水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチ](#)」
- C-20 ページの「[水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーン](#)」
- C-21 ページの「[IDOC トップ・ナビゲーション・タブ](#)」
- C-21 ページの「[IDOC サイト・マップ・プレーン](#)」

### C.1.41.1 水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチ

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントは、カスタマイズした範囲のレベルを表示できます。このフラグメントは、水平方向のナビゲーション・マルチ・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで Idoc スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

**ssShowHome:** 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは **true** です。(ホームページは、実際に Web サイトのルート (本来は最上位レベルの上) に配置されますが、兄弟と捉えられません。)

**ssStartLevel:** メニューの表示を開始する表示レベル。

**ssNumLevels:** 表示する (セクション) レベルの数。

#### 特記事項

水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーン・フラグメントでは、このメニューがさらに簡単なバージョンで提供されます。

### C.1.41.2 水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーン

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントでは、サイト・ナビゲーションの最上位レベルのみ (サイトのルートにあるセクション) が表示されます。このフラグメントは、水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで Idoc スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssSeparator:** バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは **true** です。(ホームページは、実際に Web サイトのルート (最上位レベルの上) にありますが、ここでは兄弟と捉えられる場合もあります。)

#### 特記事項

水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチ・フラグメントでは、このメニューがさらに複雑なバージョンで提供されます。

### C.1.41.3 IDOC トップ・ナビゲーション・タブ

最大 2 つのレベルのナビゲーションを表示する表スタイルのナビゲーション・バーを追加します。このタブでは各イメージがレンダリングされたテキストで使用されます (このフラグメントでは DHTML は使用されません)。様々なイメージを使用して別のテーマを好みで選択できます。このフラグメントは、トップ・ナビゲーション・タグ・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで **Idoc** スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssFocusColor:** リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssShowHome:** ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは **true** です。

**ssShowNext:** 第 2 レベルのナビゲーションを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは **false** です。有効な場合、水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントと同様に、第 2 レベルのナビゲーションがタブの下にテキスト・リンクとして表示されます。

**ssTheme:** テーマの名前を指定します。具体的には、このフラグメントのアセットのテーマ・ディレクトリを参照します。

### C.1.41.4 IDOC サイト・マップ・プレーン

Web サイトのすべてのセクションを表示するサイト・マップを追加して、そのマップを階層形式で表示します。階層は展開した状態で表示されます。このフラグメントは、サイト・マップ・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで **Idoc** スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

#### パラメータ

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

## C.2 動的リスト・フラグメント

動的リスト・フラグメントは次のとおりです。

- C-22 ページの「動的リスト一般」
- C-22 ページの「動的リスト・ページ」
- C-22 ページの「動的リスト・プレーン」
- C-23 ページの「ASP 動的リスト・ページ」
- C-24 ページの「ASP 動的リスト・シンプル」
- C-24 ページの「CSP サンプル動的リスト」
- C-24 ページの「JSP 動的リスト・プレーン」

### C.2.1 動的リスト一般

ページ・テンプレートのコントリビューション・リージョンに動的リストを追加します。動的リストはコンテンツ・サーバーで検索を実行し、特定の基準に一致するコンテンツをすべて表示します。コントリビュータは、検索基準に一致する新しいコンテンツ・アイテムをメタデータと一緒にチェックインして、リストにアイテムを追加できます。

#### パラメータ

このフラグメントのパラメータの多くは、動的リスト・プレーン・フラグメント（C-22 ページの「動的リスト・プレーン」を参照）のパラメータと同じです。

### C.2.2 動的リスト・ページ

動的リスト・プレーンと似ていますが、次のような検索ページ・リストが提供されます。

[[prev](#)] [1](#) | [2](#) | [3](#) | [4](#) | [5](#) [[next](#)]

前述の例では、検索の 2 ページ目が表示されています。

#### パラメータ

次のパラメータ以外は動的リスト・プレーンと同じです。

**ssWantMore:** 必要に応じて、検索ページ・リストを含めるかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。（一括結果を制限する場合は、値を `false` に設定します。）

**ssMoreText:** 使用されません。

**ssTargetNodeID:** セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます。

### C.2.3 動的リスト・プレーン

ページ・テンプレートのコントリビューション・リージョンに動的リストを追加します。動的リストはコンテンツ・サーバーで検索を実行し、特定の基準に一致するコンテンツをすべて表示します。コントリビュータは、検索基準に一致する新しいコンテンツ・アイテムをメタデータと一緒にチェックインして、リストにアイテムを追加できます。

この動的リスト・サンプルでは、検索結果のページを複数のセクションに分割して、各セクションを個々の `<div>` タグで表し、各セクションに表示するプレーン・テキスト（または複雑な HTML）を指定するパラメータを使用できます。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。



**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssQueryText:** コンテンツ・サーバーで実行される問合せを指定します。

**ssLimitScope:** 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

**ssSortField:** 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dInDate` です。

**ssSortOrder:** 検索をソートする順序。デフォルトは `desc` です。

**ssResultCount:** 1 ページあたりに表示する結果の数。デフォルトは 25 です。

**ssCaptionText:** 結果表示の見出しに表示するキャプションのテキスト。デフォルトは `List Results` です。

**ssReportText:** キャプションの下に表示するレポート・テキスト。結果をまとめます。デフォルトは次のとおりです。 `TotalRows` は、検索を実行する場合の `Idoc` 変数基準、`ssFirstHit` 変数と `ssLastHit` 変数は、表示が簡単になるようにフラグメント・コードで計算されます。

Total: <\${TotalRows\$}>

Items: <\${ssFirstHit\$} - <\${ssLastHit\$}>

**ssDisplayStart:** コア・リストの開始地点に表示するテキスト。デフォルトは "" です。

**ssRowStart:** 各行の開始地点に表示するテキスト。デフォルトは "" です。

**ssRowLink:** 各行のリンクのラベルとして表示するテキスト。デフォルトは <\${dDocTitle\$}> です。

**ssRowEnd:** 各行の最終地点に表示するテキスト。デフォルトは "" です。

**ssDisplayEnd:** コア・リストの最終地点に表示するテキスト。デフォルトは "" です。

**ssWantMore:** 必要に応じて、`more...` ボタンを含めるかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。(検索を一括の結果に制限する場合は、値を `false` に設定します。)

**ssMoreText:** 必要に応じて、`more...` リンクのラベルとして表示するテキスト。デフォルトは `more...` です。

**ssNoResults:** 検索で結果が生成されない場合に表示するテキスト。デフォルトは `No items match your search criteria` です。

**ssTargetNodeID:** セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます。

## C.2.4 ASP 動的リスト・ページ

動的リスト・プレーンと似ていますが、次のような検索ページ・リストが提供されます。

[\[prev\]](#) [1](#) | [2](#) | [3](#) | [4](#) | [5](#) [\[next\]](#)

前述の例では、検索の 2 ページ目が表示されています。

### パラメータ

次のパラメータ以外は、動的リスト・プレーン・フラグメント (C-22 ページの「動的リスト・プレーン」を参照) と同じです。

**ssWantMore:** 必要に応じて、検索ページ・リストを含めるかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。(一括結果を制限する場合は、値を `false` に設定します。)

## C.2.5 ASP 動的リスト・シンプル

動的リスト・シンプルと似ていますが、ASP に使用されます。

### パラメータ

**ssTargetNodeID:** セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます。

## C.2.6 CSP サンプル動的リスト

カスタム・セクション・プロパティとともに使用される動的リスト・フラグメントのサンプルです。ページを使用するすべてのセクションで 1 つの問合せを使用するのではなく、各セクションで異なる問合せを使用できる動的リストを追加します。

### パラメータ

**ssQueryText:** コンテンツ・サーバーで実行される問合せを指定します。

**ssSortField:** 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dlnDate` です。

**ssSortOrder:** 検索をソートする順序。デフォルトは `desc` です。

**ssResultCount:** 1 ページ当りに表示する結果の数。デフォルトは 25 です。

**ssLimitScope:** 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

### 特記事項

このサンプルでは、次のカスタム・セクション・プロパティがあることを前提とします。

**Name:** `cspQueryText`

**Type:** `managedquery`

**Description:** 各セクションで一意的な問合せテキストを定義できるように、定期的な問合せテキスト・パラメータ（ある場合）に追加するオプションの問合せテキスト文字列。

---

**注意:** CSP（カスタム・セクション・プロパティ）フラグメントを使用する場合、プロパティを定義してから、フラグメントを含むすべてのセクションの各カスタム・セクション・プロパティの値を設定する必要があります。

---

## C.2.7 JSP 動的リスト・プレーン

ページ・テンプレートのコントリビューション・リージョンに動的リストを追加します。動的リストはコンテンツ・サーバーで検索を実行し、特定の基準に一致するコンテンツをすべて表示します。コントリビュータは、検索基準に一致する新しいコンテンツ・アイテムをメタデータと一緒にチェックインして、リストにアイテムを追加できます。

この動的リスト・サンプルでは、検索結果のページを複数のセクションに分割して、各セクションを個々の `<div>` タグで表し、各セクションに表示するプレーン・テキスト（または複雑な HTML）を指定するパラメータを使用できます。

### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**ssQueryText:** コンテンツ・サーバーで実行される問合せを指定します。

**ssLimitScope:** 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

**ssSortField:** 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dlnDate` です。

**ssSortOrder:** 検索をソートする順序。デフォルトは desc です。

**ssResultCount:** 1 ページあたりに表示する結果の数。デフォルトは 25 です。

**ssDisplayField:** 結果のリンクのラベルを形成するメタデータ・フィールドの名前。

**ssTargetNodeID:** セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます。

#### 特記事項

このフラグメントは JSP ページ・テンプレート用に設計されています。

## C.3 静的リスト・フラグメント

静的リスト・フラグメントは次のとおりです。

- C-25 ページの「[静的リスト・サンプル](#)」
- C-25 ページの「[静的リスト一般](#)」
- C-26 ページの「[ASP 静的リスト・サンプル](#)」

### C.3.1 静的リスト・サンプル

ページ・テンプレートのコントリビューション・リージョンに 4 つの列で構成される静的リストを追加します。静的リストは固定数の列で構成され、各列にはコントリビュータで編集可能なテキストまたはグラフィックが含まれます。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

### C.3.2 静的リスト一般

ページ・テンプレートのコントリビューション・リージョンに静的リストを追加します。静的リストは固定数の列で構成され、各列にはコントリビュータで編集可能なテキストまたはグラフィックが含まれます。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

**Column1\_Name (1-6):** 列の名前を指定します。簡潔な名前にして、空白や特殊文字を使用しないでください。

**Column1\_Label (1-6):** 列のラベルを指定します。簡潔な名前にして、空白や特殊文字を使用しないでください。

**ssCaptionText:** ページのキャプションを表示します。

**ssDisplayStart:** 表示ループの開始を指定します。

**ssDisplayRow:** 1 行を表示します。

**ssDisplayEnd:** 表示ループの終了を指定します。

**ssBottomText:** ページのボタンを指定します。

### C.3.3 ASP 静的リスト・サンプル

ページ・テンプレートのコントリビューション・リージョンに 4 つの列で構成される静的リストを追加します。静的リストは固定数の列で構成され、各列にはコントリビューターで編集可能なテキストまたはグラフィックが含まれます。

#### パラメータ

**ssTextColor:** テキストの色を変更します。

**ssHoverColor:** マウスオーバーのテキストの色を変更します。

**ssClassName:** CSS クラス名を指定します。

## C.4 その他のフラグメント

次のフラグメントには、様々な機能やサンプルがあります。

- C-26 ページの「[コピーライト・サンプル](#)」
- C-26 ページの「[動的変換](#)」
- C-27 ページの「[動的変換 IFrame](#)」
- C-27 ページの「[エラー・ハンドラ・メッセージ](#)」
- C-27 ページの「[Flash サンプル](#)」
- C-27 ページの「[ロゴ・サンプル](#)」
- C-28 ページの「[ランダム変換](#)」
- C-28 ページの「[ASP エラー・ハンドラ・メッセージ](#)」
- C-28 ページの「[CSP サンプル・ページ・タイトル](#)」
- C-28 ページの「[PageHitCount](#)」
- C-29 ページの「[Site Studio マネージャ](#)」

### C.4.1 コピーライト・サンプル

ロゴ・サンプル・フラグメントと同様に、コピーライトをページ・テンプレートに挿入します。

#### パラメータ

パラメータはありません。

### C.4.2 動的変換

Dynamic Converter を使用して、動的に変換されたネイティブ・ドキュメントをページ・テンプレートに追加します。ネイティブ・ドキュメントを選択する場合、変換に使用する GUI テンプレートまたはレイアウト・テンプレートを指定できます。どちらも指定しない場合は、空の変換テンプレートとレイアウト・テンプレートで特殊変換が使用されます。

#### パラメータ

**ssDocName:** 変換するドキュメントの dDocName。

**ssTemplate:** Dynamic Converter の GUI テンプレートの dDocName。

**ssLayout:** Dynamic Converter のレイアウト・テンプレートの dDocName。

#### 特記事項

サイトにネイティブ・ドキュメントを追加するには、リージョンにドキュメントを割り当て、そのドキュメントへのリンクを作成して、そのドキュメントの追加と編集をコントリビューターに許可する方法もあります。

### C.4.3 動的変換 IFrame

動的変換フラグメント (C-26 ページの「動的変換」を参照) と似ていますが、ドキュメント全体をスクロールできる IFrame を追加します。

#### パラメータ

**ssDocument:** 変換するドキュメントの dDocName。

**ssTemplate:** Dynamic Converter の GUI テンプレートの dDocName。

**ssLayout:** Dynamic Converter のレイアウト・テンプレートの dDocName。

**ssHeight:** IFrame の高さ (ピクセルまたはパーセント単位)。

**ssWidth:** IFrame の幅 (ピクセルまたはパーセント単位)。

**ssBorder:** 枠線を付ける場合は 1、付けない場合は 0 を選択します。

**ssScrolling:** (必要に応じて) スクロール・バーを yes、no または auto に設定できます。

#### 特記事項

サイトにネイティブ・ドキュメントを追加するには、リージョンにドキュメントを割り当て、そのドキュメントへのリンクを作成して、そのドキュメントの追加と編集をコントリビュータに許可する方法もあります。

### C.4.4 エラー・ハンドラ・メッセージ

コンテンツ・サーバーのエラー・メッセージ (Idoc メッセージ変数) を Web サイトのセクションに表示する機能を追加します。

#### パラメータ

パラメータはありません。

#### 特記事項

このフラグメントは、Web サイト・セクションを選択してコンテンツ・サーバーのエラーを表示する場合に使用できます (8-36 ページの「エラー・ハンドラ・セクションの指定」を参照)。

### C.4.5 Flash サンプル

ページ・テンプレートに Flash プレゼンテーションを追加します。

#### パラメータ

**ssAnimation:** コンテンツ・サーバーに Flash プレゼンテーションを配置します。

**ssWidth:** Flash アニメーションの幅を指定します。

**ssheight:** Flash アニメーションの高さを指定します。

### C.4.6 ロゴ・サンプル

ロゴを参照オブジェクトとしてページ・テンプレートに追加し、コンテンツをページ・テンプレートとは別に管理できる方法を示します。

#### パラメータ

パラメータはありません。

## C.4.7 ランダム変換

ランダムに変換されたネイティブ・ドキュメントをページ・テンプレートに追加します。特に Web バナーに便利です。変換には **Dynamic Converter** が必要です。ネイティブ・ドキュメントを選択する場合、変換に使用する GUI テンプレートまたはレイアウト・テンプレートを指定できます。どちらも指定しない場合は、空の変換テンプレートとレイアウト・テンプレートで特殊変換が行われます。

### パラメータ

**ssQueryText:** 完全な問合せ句を指定します。

**ssLimitScope:** 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

**ssTemplate:** Dynamic Converter の GUI テンプレートの dDocName。

**ssLayout:** Dynamic Converter のレイアウト・テンプレートの dDocName。

## C.4.8 ASP エラー・ハンドラ・メッセージ

コンテンツ・サーバーのエラー・メッセージ（メッセージ変数）を Web サイトのセクションに表示する機能を追加します。

### パラメータ

パラメータはありません。

### 特記事項

このフラグメントは、Web サイト・セクションを選択して Web サイトのエラーを表示する場合に使用できます（8-36 ページの「[エラー・ハンドラ・セクションの指定](#)」を参照）。

## C.4.9 CSP サンプル・ページ・タイトル

ページ・テンプレートを使用する各セクションについて、各セクションが Web ページに表示する <title> タグを変更する機能を追加します。

### 特記事項

このサンプルでは、次のカスタム・セクション・プロパティがあることを前提とします。

**Name:** cspPageTitle

**Type:** Text

**Description:** レイアウトの <title> タグの値ではなく、このセクションを表示する際のページ・タイトルとして使用します。

---

---

**注意：** CSP（カスタム・セクション・プロパティ）フラグメントを使用する場合、プロパティを定義してから、フラグメントを含むすべてのセクションの各カスタム・セクション・プロパティの値を設定する必要があります。

---

---

## C.4.10 PageHitCount

Content Tracker と Site Studio との統合を示すフラグメントです。

### パラメータ

**contributorOnly:** ヒット数を常に表示するか、またはコントリビューション・モードでのみ表示するかを指定するブール型フラグ。デフォルトは **false** です（ヒット数は常に表示されます）。

---

---

**注意：** この機能は、SQL Server を使用する HCSP/Idoc Web サイトの場合に最大限の効果を発揮します。

---

---

## C.4.11 Site Studio マネージャ

ユーザーは、Site Studio マネージャと呼ばれる Web ベース・アプリケーションを使用してサイト階層を管理できます。詳細は、[第 12 章「マネージャの設定」](#)と『Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド』を参照してください。

### パラメータ

**theme:** ルック・アンド・フィールをテーマにした CSS。デフォルトは blue です。

**settings:** Site Studio マネージャの構成設定ファイル。





---

---

# 用語集

ここでは、Site Studio のアプリケーション・スイートで使用頻度の高い用語をまとめています。用語はアルファベット順に並べられています。

## Active Server Page (ASP)

1 つ以上のスクリプト（小さな埋込み実行可能コード）が含まれる HTML ページ。Web ブラウザに送信される前に Microsoft Web サーバーで処理される。ファイルの拡張子は .asp。Site Studio では、Idoc スクリプト、JSP (JavaServer Pages) または ASP による Web サイトの作成が可能。

ASP を使用して作成されたサイトの機能は、Site Studio 10gR3 で使用可能な機能に制限されることに注意する。

「レガシー・サイト」も参照。

## ASP

「Active Server Page (ASP)」を参照。

## Cascading Style Sheet (CSS)

ページ・コンテンツの表示方法を制御するファイル。具体的には、ヘッダーやリンクなど各種の HTML 要素をページに表示する方法を制御する。ある場所のコンテンツの書式設定とレイアウトを制御できるように、プレゼンテーションから構造を分割する方法。スタイル・シートを HTML ドキュメントに挿入するには、外部のスタイル・シートへのリンクを作成するか、ドキュメントの <HEAD> タグにドキュメントワイド・スタイルを埋め込むか、または必要な箇所にインラインでスタイルを埋め込む。

**Content Server フォーム (Content Server form)** Site Studio Web サイトに情報を発行するサイト訪問者が使用できる特別に書式設定された Web フォーム。

## CSS

「Cascading Style Sheet (CSS)」を参照。

## 「DESIGN」ビュー (design view)

テンプレート（ページ・テンプレート、サブテンプレートおよびリージョン・テンプレート）であるサイト・アセットを表示するための 3 つのビューのうちの 1 つ。「DESIGN」ビューでは、テンプレートの設計にあわせてその外観を確認できる。このビューでは、書式設定ツールバー、「Properties」ペイン、ドラッグ・アンド・ドロップ、右クリック・マウス・オプションおよび使い慣れたワード・プロセッサのコマンドを使用して、コンテンツを編集できる。Site Studio では、フラグメント、ブレースホルダおよび動的 WYSIWYG 環境で正しく表示されない類似アイテムに対してマーカーを使用する。

「PREVIEW」、「SOURCE」ビュー、「FORM」ビューも参照。

## eXtensible Markup Language (XML)

広く使用されているプログラミング言語（W3Cの標準）で、コンピュータ・アプリケーション間のデータの交換を容易にする。HTML（Web ページに使用される言語）と類似する言語で、どちらもマークアップ・タグを使用する。ただし、HTMLとは反対に、XMLタグはタグに含まれているデータの表現については指定せずに、その構造についてのみ指定する。コンピュータ・プログラムでは、関連付けられた DTD をガイドとして使用し、XML ドキュメントからデータを自動的に抽出する。

## 「FORM」ビュー (form view)

デザイナーで使用可能なサイト・アセットのビューのうちの1つ。このビューは、様々な定義（ブレースホルダ定義、リージョン定義、要素定義）や構成設定（マネージャ構成設定など）に対するグラフィカル・インターフェイスである。定義および設定に使用可能な他のビューは、「SOURCE」ビューである。

「SOURCE」ビューも参照。

## HCSP

「Hyper Content Server Page (HCSP)」を参照。

## HTML

「Hypertext Markup Language (HTML)」を参照。

## HTML 表 (HTML table)

表形式でコンテンツを表示する方法。Web サイトでは、コンテンツの配置および Web ページの設計に使用できる。Site Studio では、HTML 表を使用してページ・テンプレートを設計できる（表の各セルにフラグメントやコントリビューション・リージョンを配置するなど）。

## Hyper Content Server Page (HCSP)

HTML および Idoc スクリプト・コード（独自仕様のスクリプト言語）が含まれる動的 Web ページ。HCSP ページではコンテンツ・サーバーからのサービスのリクエストが可能。ファイルの拡張子は .hcsp。Site Studio では、Idoc スクリプトを使用してページ・テンプレートとフラグメントを構築できる。

## Hypertext Markup Language (HTML)

World Wide Web (WWW) でドキュメントに使用される整形言語。HTML ファイルは書式設定のコードを含むプレーン・テキスト・ファイルで、テキストの表示方法、グラフィックおよびオブジェクトの配置方法、その他の Web ページへのリンクの表示方法を Web ブラウザ（または Web 対応デバイス）に伝える。

## Idoc スクリプト (Idoc Script)

Content Server の動的 Web ページの作成に使用する独自仕様のスクリプト言語。Idoc スクリプトでは、変数を参照して、条件付きで HTML ページにコンテンツを挿入し、問合せから返された結果をループ処理できる。Site Studio では、Idoc スクリプトを使用してテンプレートとフラグメントを構築できる。Idoc スクリプトのアセットのファイル拡張子は .hcsp。

## JavaScript

クロスプラットフォームのスクリプト言語で、Web ページの既存の HTML コードに追加して、基本的なオンラインの機能および双方向性を作成できる。

## JavaServer Pages (JSP)

サーブレットをサーバー側で使用するためのスクリプト言語。または Web サーバーで実行する小さなプログラム。Microsoft 社の Active Server Pages (ASP) と類似するもので、どちらもクライアントの Web ブラウザに結果を表示する前に Web サーバーからプログラムをリクエストする。JSP ページのファイル拡張子は .jsp。Site Studio では、Idoc スクリプト、JSP または ASP を使用して Web サイトを作成できる。

JSP を使用して作成されたサイトの機能は、Site Studio 10gR3 で使用可能な機能に制限されることに注意する。

「レガシー・サイト」、「Active Server Pages (ASP)」も参照。

## JSP

「JavaServer Pages (JSP)」を参照。

## Link Wizard

Site Studio (デザイナーおよびコントリビュータ) の機能で、他のセクションへのリンク、他のファイルへのリンクおよびコンテンツ・サーバーの他のサイトへのリンクをすばやく簡単に作成できる。複数の手順からなるウィザードを使用して、リンク作成に必要な手順を進み、リンクのターゲット・セクションやファイルを選択して、リンクの形式を選択できる。

## PREVIEW

テンプレート (ページ・テンプレート、サブテンプレートおよびリージョン・テンプレート) を表示するためのデザイナーの 3 つのビューのうちの一つ。「PREVIEW」タブでは、Web ブラウザに表示されるように、ページ・テンプレート、サブテンプレートまたはリージョン・テンプレートの実際のビューが表示される。動的 (サーバー側) コンテンツ、フラグメントおよびコントリビューション・リージョンのプレビューに有用である。これらのコンテンツを完全に表示するためには、コンテンツを生成する必要があるためである。

「[SOURCE] ビュー」、「[DESIGN] ビュー」も参照。

## 「Properties」ペイン (properties pane)

セクション、ページ・テンプレート、デフォルトのプレースホルダ定義、要素、フラグメント、HTML タグなどのプロパティをまとめたデザイナーのペイン。「Properties」ペインでは、テンプレートの HTML タグを表示および編集できる。テンプレートで直接行う変更は、多くの場合、「Properties」ペインでも行える。特に「DESIGN」ビューで直接実行できないアクション (背景色、ページのマージン、表の幅の指定など) の場合に有用である。

## 「Site Assets」ペイン (Site Assets pane)

Web サイトで使用するファイルをまとめたデザイナーのペイン。ファイルは、その用途に基づいてグループ化される (ページ・テンプレート、イメージ、コントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントなど)。「Site Assets」ペインを使用すると、アセットのプレビュー、編集および場所の特定が可能。また、「Site Assets」ペインに新規のファイルおよび既存のファイルを追加できるため、これらのファイルがサイトの構成要素となる。

## 「Site Hierarchy」ペイン (Site Hierarchy pane)

デザイナーおよびマネージャのペインで、Web サイトのサイト階層の作成と管理が可能。このペインのデフォルトの場所は、作業領域の左上隅。

## Site Studio

強力で柔軟性の高い Web 開発アプリケーション・スイート。企業規模の Web サイトを設計、構築および管理するための包括的なアプローチを提供する。従来の単なる Web サイト開発ソリューションとは異なり、Web サイト作成機能やコンテンツ管理機能がすべて 1 つに統合されている。すべてのサイト・アセット (テンプレート、グラフィック、CSS ファイルなど) やすべてのサイト・コンテンツを含め、Web サイトに関連するものはすべてコンテンツ・サーバーに格納され、そこで管理される。

## Site Studio Administration

Content Server の Web インタフェース内のセクションで、サイトへの Web アドレスの割当て、サイトのバックアップなど、Site Studio の管理タスクの多くを実行できる。

### 「SOURCE」ビュー (source view)

テンプレート (ページ・テンプレート、サブテンプレートおよびリージョン・テンプレート) を表示するためのデザイナの 3 つのビューのうちの 1 つ。「SOURCE」ビューでは、テンプレートを編成するコードが表示される。「SOURCE」ビューで作業している間は、テンプレートを完全に制御できる。「DESIGN」ビューでの表示を好まない場合は、「SOURCE」ビューに常時切り替えて変更できる。実際に、「DESIGN」ビューでテンプレートを最初に作成してから、「SOURCE」ビューに切り替えてテンプレートの外観や動作を調整できる。

「[PREVIEW]」、「[DESIGN] ビュー」、「[FORM] ビュー」も参照。

### Switch Content ウィザード (Switch Content wizard)

コントリビューション・リージョンのコンテンツをすばやく簡単に変更できる Site Studio (デザイナおよびコントリビュータ) の機能。複数の手順からなるウィザードを使用して、コントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントまたはサブテンプレート (サイト・デザイナがサブテンプレートの変更を可能にした場合) の変更に必要な手順を進むことができる。

### Uniform Resource Locator (URL)

インターネット・サーバー (Web サーバー、FTP サーバー、メール・サーバーなど) 上のファイルへのルートを定義するアドレス。

#### URL

「Uniform Resource Locator (URL)」を参照

### Web サイト (Web site)

リンクで結合され、サーバーに格納される HTML またはスクリプトベースの Web ページの集合。Site Studio の Web サイトは、そのサイト階層、ナビゲーション・スキームおよびページ・テンプレートで定義される。Web サイトの格納、管理および処理は Content Server で行われる (サーバーでは組込みのコンテンツ管理機能が利用可能)。

### Web サイト・オブジェクト・レポート (Web site objects report)

サイトで使用されているコンテンツ・サーバー上の明示的に参照されたファイルをすべて表示するレポート。このレポートでは、ファイルがカテゴリ別に表示される (ページ・テンプレート、コントリビュータ・データ・ファイル、フラグメント・ライブラリなど)。

「サイト・レポート」も参照。

### Web サイト使用状況レポート (Web site usage report)

単一のファイルの詳細なサマリー情報 (特にそのファイルの使用場所) を表示するレポート。このレポートでは、ファイルが使用されている Web サイトや、ファイルが使用されているセクションなどに基づいて情報が分類される。

「サイト・レポート」も参照。

### Web ページ (web page)

HTML、場合によってはスクリプトを含むファイル。Web ブラウザでの表示を目的とする。Site Studio では、ページ・テンプレートがコントリビューション・リージョン、コントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメント、イメージおよび他のサイト・アセットと結合して、Web ブラウザに表示される Web ページを形成する。

## WYSIWYG 要素 (WYSIWYG element)

コンテンツの完全な書式設定および編集が可能な要素のタイプ。WYSIWYG 要素では、一般的に、可能な書式設定オプションと編集オプションがすべて表示される (フォントの変更、テキストの中央揃え、新規ファイルおよび既存のファイルへのリンクの作成など)。サイト・デザイナーは、各オプションを有効または無効にして、コントリビュータの使用経験にあわせてカスタマイズできる。

「プレーン・テキスト要素」、「イメージ要素」、「静的リスト要素」、「動的リスト要素」、「カスタム要素」も参照。

## XML

「eXtensible Markup Language (XML)」を参照。

## アドレス (address)

「サイト・アドレス」を参照。

## イメージ要素 (image element)

1 つ以上のイメージのみを使用できる要素のタイプ。イメージ要素ではイメージ追加に固有のオプション (イメージに関するコンテンツ・サーバーの参照、既存のイメージの置換え、イメージへの CSS クラスの適用など) が表示される。この要素は、Web ページでイメージのみ (テキストなし) が表示される領域を指定する場合に有用である。

「WYSIWYG 要素」、「プレーン・テキスト要素」、「静的リスト要素」、「カスタム要素」も参照。

## 置換え可能なリージョン (replaceable region)

他のファイル (具体的には、新規のコントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント) の表示を可能にするセカンダリ・ページのリージョン。コントリビュータがサイトに新しいコンテンツを追加すると、コンテンツはセカンダリ・ページの置換え可能なリージョンに表示される。結果として、デザイナーが新しいセクションや新しいページ・テンプレートを毎回作成せずに、コントリビュータはサイトに新しい Web ページを追加できる。

「プレースホルダ」、「コントリビューション・リージョン」も参照。

## カスタム構成スクリプト (custom configuration script)

コントリビュータ・エディタのデフォルト構成を上書きして、カスタマイズされた編集環境をコントリビュータに提供する JavaScript ファイル。各構成スクリプトを使用して、コマンド、ツールバー・ボタンおよびコンテキスト・メニュー・アイテムを追加または置換できる。エディタのどの部分も、特定の要件を満たすためにカスタマイズできる。

## カスタム要素 (custom element)

カスタム要素フォームを使用する要素のタイプ。カスタム要素は、コントリビュータ・アプリケーションのカスタム・インタフェース (Web ベースのフォーム) の作成に使用される点で他の要素 (WYSIWYG、プレーン・テキスト、動的リスト、静的リストおよびイメージ) とはまったく異なる。コントリビュータはこのインタフェースを使用して各種コンテンツを追加し、他の要素で実行できないアクションを実行する。

「WYSIWYG 要素」、「プレーン・テキスト要素」、「イメージ要素」、「静的リスト要素」、「カスタム要素フォーム」も参照。

## カスタム要素フォーム (custom element form)

要素で使用するカスタム・フォーム (特定のファイル・タイプの選択フォームなど) を定義する HTML ファイル。このフォームは、コントリビュータが Web サイトに各種コンテンツを追加し、制御する際に使用するカスタム・インタフェースの作成に使用する。

## 管理者 (administrator)

コンテンツ・サーバーで Site Studio の管理タスクを実行する個人ユーザー。このタスクには、サイトへの Web アドレスの割当て、サイトのバックアップ、サイトのレプリケートなどがある。

「デザイナー」、「コントリビュータ」、「マネージャ」も参照。

## 検証スクリプト (validation script)

要素データの検証ルールを定義する JavaScript ファイルで、データが要件（特定の最大長を超えていないこと、または不正な文字を含んでいないことなど）を満たしているかどうかを判別する。

## 公開 (publication)

完成した Web サイトを特定の場所にデプロイして、訪問者に表示されるようにするプロセス。Web サイトを Site Studio にデプロイするには、Site Studio Publisher Utility (SSPU) を使用する。この作業では、Web サイトに関連付けられたすべてのファイルを収集し、Web サイトの静的コピーを作成し、完成したサイトを実行場所にコピーする。

## コンテンツ ID (content ID)

コンテンツ・サーバーにおける各コンテンツ・アイテムの一意の識別子。コンテンツ ID は、コンテンツ・アイテムがコンテンツ・サーバーにチェックインされたときに割り当てられる。サーバー構成に応じて、自動的に割り当てられる場合や、アイテムをチェックインするユーザーが ID を割り当てる場合がある。コンテンツ ID は、dDocName と呼ばれるメタデータ・フィールドに格納される。

## コンテンツ・サーバー (content server)

Site Studio Web サイトに関連付けられたすべてのファイルの中央リポジトリ。このサーバーには、ライブラリ・サービス（チェックイン、チェックアウトなど）、バージョンニング、ワークフロー、コンテンツ変換などの高度なコンテンツ管理機能が搭載されている。

## コンテンツ追跡レポート (Content Tracker report)

コンテンツが参照された回数を示す詳細レポート。レポートは Site Studio と Content Tracker (Content Server のアドオン) を一体化することで利用可能となる。

「サイト・レポート」も参照。

## コントリビューション・グラフィック (contribution graphic)

コントリビューション・モードでページを参照する際に、Web ページ上の各コントリビューション・リージョンのそばに表示されるグラフィック。編集アイコンをクリックするとコントリビュータ（ネイティブ・ドキュメントの場合はサード・パーティ製アプリケーション）が開き、コントリビュータは、リージョンに割り当てられたリージョン・コンテンツを編集できる。メニュー・アイコンをクリックすると、リージョンに割り当てられているファイルを切り替えるオプションや、ドキュメントの承認または却下を行うワークフローのオプションが表示される。

## コントリビューション・モード (contribution mode)

Web ブラウザに Web ページを表示する方法。ページ上でコントリビューション・リージョン（およびマネージャのインスタンス）を表示して編集できる。

ページをコントリビューション・モードで参照すると、編集可能な各リージョンのそばにコントリビューション・グラフィックが表示される。このグラフィックをクリックして、リージョンのコンテンツ（データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）の編集、コンテンツの承認または却下（ワークフローを使用する場合）、メタデータの更新などを行う。コントリビューション・モードにするには、キーストロークの組合せ（デフォルトは [Ctrl]+[Shift]+[F5]）を使用する。

### コントリビューション・リージョン (contribution region)

コントリビュータが Web ページのコンテンツを追加および編集できる領域。サイト・デザイナーによって定義される。Web ページをコントリビューション・モードで参照する場合、コントリビュータはコントリビュータ・アプリケーション (コントリビュータ・データ・ファイルの場合) またはコンテンツに関連付けられているアプリケーション (ネイティブ・ドキュメントの場合) のいずれかを使用してリージョン内のコンテンツを編集できる。

「プレースホルダ」、「置換え可能なリージョン」も参照。

### コントリビュータ (Contributor)

Site Studio の 3 つのアプリケーションのうちの 1 つ。コントリビューション・リージョンに関連付けられたコントリビュータ・データ・ファイルの編集に使用する。コントリビュータ・アプリケーションの外観と動作は、デザイナーでのコントリビューション・リージョンおよびコントリビューション要素の設定方法によって決定する。通常は、多数の異なるコントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションを使用する。

「デザイナー」、「マネージャ」も参照。

### コントリビュータ (contributor)

コントリビュータ・アプリケーションまたはサード・パーティ製アプリケーションを使用して、Site Studio Web サイトのコンテンツを編集する個人ユーザー。Web サイトのコンテンツに習熟しているユーザーであれば、誰もがコントリビュータになり得る (マネージャ、販売チームまたはマーケティング・チームのメンバー、人事部のメンバーなど)。Site Studio を使用する場合、複数のコントリビュータが少数のマネージャおよび 1 名のデザイナーとともに作業を行うことが多い。

「デザイナー」、「管理者」、「マネージャ」も参照。

### コントリビュータ専用セクション (contributor-only section)

サイト階層のセクション。コントリビューション・モードで参照する場合、このセクションのみがサイトに表示される。このセクションは、サイトへのコントリビューションの手順などの情報をデザイナーからマネージャ、マネージャからコントリビュータといった形で伝達する場合に有用である。

### コントリビュータ・データ・ファイル (contributor data file)

Site Studio で作成された XML ファイル。コントリビュータ・アプリケーションを使用して開き、編集するように設計されている。ファイルにはサイト・コンテンツが保存され、コントリビューション・リージョンに割り当てることができる。この場合、このデータ・ファイルが Web サイトに表示される。ただし、ファイル自体は、ページ・テンプレート、リージョン・テンプレート、サブテンプレートおよび他の管理対象サイト・アセットとは別に管理対象コンテンツ・アイテムとしてコンテンツ・サーバーに保存される。そのため、(コントリビュータが作成した) コンテンツを (サイト・デザイナーが作成した) プレゼンテーションと区別できる。

「ネイティブ・ドキュメント」も参照。

### サイト・アセット (site asset)

Site Studio Web サイトに関連付けられたファイル。なんらかの方法で Web ページを構築する際に使用される (ページ・テンプレートのフラグメントやリージョン定義も含まれる)。使用頻度の高いサイト・アセットは、グラフィック、Cascading Style Sheet およびカスタム・スクリプト。デザイナーの「Site Assets」ペインを使用して、ファイルを追加および編集する。

### サイト・アドレス (site address)

Web サイトに関連付けられた名前、訪問者はこの名前により Web ブラウザでサイトを特定できる。

ドメイン名アドレスとフォルダ名アドレスという 2 種類のアドレスを使用できる。たとえば、ドメイン名アドレスは <http://www.mycompany.com> ([www.mycompany.com](http://www.mycompany.com) はドメイン名)、フォルダ名アドレスは <http://UserPC/mysite> (UserPC はサイトをホストしているコンピュータの名前、mysite はサイトの ID) のようになる。

### サイト階層 (site hierarchy)

サイトの構造を編成する各セクションおよびページ・テンプレートの集合。フラット階層の場合、すべてのセクションは階層の最上部に配置される。深さがある場合、セクションは他のセクション内に配置される。フォルダ階層のフォルダと類似し、関連するコンテンツの格納にはサイト階層の各セクションが必要になる。サイト階層はサイトのコンテンツをカテゴリ分けして管理する場所として捉えられるが、さらに Site Studio では Web サイトの編成に不可欠なページ・テンプレートの管理と Web サイト上のナビゲーション・リンクの生成を行うためにサイト階層が使用される。

「セクション」も参照。

### サイト接続 (site connection)

デザイナーがコンテンツ・サーバーに格納されている Web サイトへの接続およびそのサイトの更新に使用するもの。サイト接続は、一般的なショートカットと同様に機能し、デスクトップに追加してリモート・ファイルへのクイック・アクセスを可能にする。コンテンツ・サーバーの Web サイトに実際の影響を与えずに、サイト接続を追加、変更および削除できる。同じコンテンツ・サーバーの別の Web サイトへの接続や、別のコンテンツ・サーバーへの接続など、必要な数のサイト接続の追加が可能。

### サイト・レポート (site report)

Web サイトで使用されているファイルの総数を表示し、それらのファイルの使用場所を確認するためのリスト。表示可能なサイト・レポートには、Web サイト・オブジェクト・レポート、Web サイト使用状況レポートおよびコンテンツ追跡レポートの3種類がある。

「コンテンツ追跡レポート」、「Web サイト使用状況レポート」、「Web サイト・オブジェクト・レポート」も参照。

### 作業領域 (workspace)

デザイナーの (中間) 領域で、サイト・アセットやフラグメントを操作する。

### サブテンプレート (subtemplate)

部分的な HTML ファイル (ヘッド・セクションとボディ・セクションは含まれない) で、ページ・テンプレートのプレースホルダに挿入することにより、プレースホルダを、独自のプレースホルダおよびコントリビューション・リージョンを含むより小さな再利用可能領域に分割できる。サブテンプレートは、非常に単純な HTML コードになる場合があるが、独自のスクリプトなどを含む非常に複雑なものになる場合もある。

### スクリプト (script)

ユーザーへの情報表示やユーザーとの対話をより効果的にするために Web ページに追加されるコード。

### スニペット (snippet)

フラグメントに格納するテキストまたはコード。ページ・テンプレート内の挿入ポイントによって定義される。フラグメントを作成する場合、1つ以上のスニペットをフラグメントに追加する必要がある。各スニペットでは、フラグメントへの挿入方法 (ドロップポイント、ヘッド、本文の上部、本文の下部) を指定する必要がある。フラグメントを使用して、テンプレートの一箇所にテキストまたはコードを挿入する場合、作成できるスニペットは1つのみである。ただし、フラグメントの一部をページ・テンプレートの複数箇所に挿入する必要がある場合は、それぞれにスニペットを作成する必要がある。ヘッドに配置するようにスニペットが定義されている場合、サブテンプレートとリージョン・テンプレートにはヘッダーがないため、そのスニペットはこれらのテンプレートに使用しないようにする必要がある。スニペットはフラグメント・エディタで追加、編集、削除する。

「フラグメント」も参照。



## 静的コンテンツ (static content)

テンプレートに直接配置されたすべてのコンテンツ。コントリビュータは編集できない。

「動的コンテンツ」も参照。

## 静的リスト (static list)

固定数の行と列で、各行と列にはコントリビューション要素 (WYSIWYG、プレーン・テキストまたはイメージ) が含まれる。静的リストを使用すると、表のようなレイアウトで複数の要素をまとめることができる。そのため、コントリビュータは、情報を示す行と列を追加、編集、削除および再配置できる。各要素内では、スタンドアロンの要素と同じ編集を行うことが可能。静的リストは、要素またはフラグメントとして実装可能。デザイナーのツールボックスには「Static List Fragments」というカテゴリがあり、この中に静的リストのサンプルが含まれている。

「動的リスト」も参照。

## 静的リスト要素 (static list element)

10gR4 より前の Site Studio リリースでは、静的リストはフラグメントを使用して作成されていた。10gR4 リリースからは、フラグメントを使用するか、静的リスト要素定義を作成することにより、静的リストを作成できるようになっている。静的リストの機能は類似しているが、静的リストを要素として実装した場合に、すべてのサイト・アセットの再利用性が最大限に向上する。

「リスト・フラグメント」、「プレーン・テキスト要素」、「イメージ要素」、「静的リスト要素」、「動的リスト要素」、「カスタム要素」も参照。

## セカンダリ・ページ (secondary page)

一般的に動的コンテンツの表示に使用されるセクションのページ。セカンダリ・ページには静的なコンテンツを含めることができるが、セカンダリ・ページの便利な機能として、動的に配置される置換え可能なコンテンツを含めることができる。そのため、サイト・セクション内に複数のバージョンのページを作成するにはセカンダリ・ページを使用する。セカンダリ・ページはサイト・セクションに対して異なるコンテンツ・ビューを提供する。セカンダリ・ページを使用すると、物理的に数千ものページを作成しなくても大規模サイトを処理できる。

「プライマリ・ページ」、「ページ・テンプレート」も参照。

## セクション (section)

サイト階層内のカテゴリまたは特定の領域。通常は、Web サイトの共通部分 (「Products」、「Services」および「About Us」など) を表すセクションをサイト階層に作成する。サイト階層のセクションは、Web サイトのナビゲーション・メニューに表示される。ユーザーはセクションを使用してサイトを編成し、訪問者はセクションを使用してサイトをナビゲートする。デザイナーおよびマネージャでは、「Site Hierarchy」ペインでセクションを作成し、各セクションにプライマリ・ページおよびセカンダリ・ページ (オプション) を追加する。

## ターゲット・セクション (target section)

コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントが表示されるサイトのセクションで、リンクをクリックすると該当ファイルに移動する。サイトでこれらのファイルのターゲット・セクションを指定するか、Site Studio でコンテンツの表示場所を決定するリンク評価を実行できる。ターゲット・セクションを使用する場合、ファイルを移動したり、コンテンツ・サーバーのメタデータ属性を変更したりすることなく、自分の Web サイトでファイルを表示できる。そのため、ターゲット・セクションを使用する 1 つ以上の Web サイトでのコンテンツの共有および再利用が可能。

## ツールボックス (toolbox)

コンテンツ・サーバーのすべてのフラグメントを表示するデザイナーのウィンドウ。4つのカテゴリ「Navigation Fragments」、「Dynamic List Fragments」、「Static List Fragments」および「Other Fragments」に分類される。テンプレートにフラグメントを追加するにはツールボックスを使用し、フラグメントを直接編集するにはフラグメント・エディタを使用する。場合によっては、デザイナーをリフレッシュして、コンテンツ・サーバーで使用可能な最新のフラグメントを確認する必要がある（組織に複数のデザイナーが存在する場合）。

「フラグメント」、「フラグメント・エディタ」も参照。

## デザイナー (Designer)

Site Studio の3つのアプリケーションのうちの1つ。デザイナーがサイトとサイト・アセットの作成、フラグメントの追加およびコントリビューション・リージョンの作成などを行うことができる開発環境が提供される。デザイナー・アプリケーションをマネージャおよびコントリビューターと一緒に使用して、サイトの構築と管理を行う。

「マネージャ」、「コントリビューター」も参照。

## デザイナー (designer)

デザイナー・アプリケーションを使用して Web サイトを構築する個人ユーザー。Web マスター、Web 開発者、または Web チームのメンバーが該当する。デザイナーは、Web サイトの外観、つまり、ページの構造、ページのレイアウト方法、イメージおよびコーポレート・アイデンティティを担当する。実際のサイト・コンテンツは、一般的にコントリビューターによって作成および管理される。

「コントリビューター」、「マネージャ」、「管理者」も参照。

## テンプレート (template)

HTML コードの再利用可能な部分（スクリプト・コードなどを含む）。Site Studio 10gR4 では、ページ・テンプレート、サブテンプレートおよびリージョン・テンプレートの3つのテンプレート・タイプを使用する。

「ページ・テンプレート」、「リージョン・テンプレート」、「サブテンプレート」も参照。

## 動的コンテンツ (dynamic content)

ページ・テンプレートの使用場所に基づいてプレースホルダにより定義された領域に表示されるコンテンツ。場合によっては、フラグメントにより、動的に生成されるコンテンツを表示することも可能。デザイナーで動的コンテンツを含むテンプレートを表示すると、フラグメントまたはプレースホルダの名前を含む小さなボックスが表示される。

「静的コンテンツ」も参照。

## 動的リスト (dynamic list)

コンテンツ・サーバーで実行される問合せに基づくファイルのリスト（コントリビューター・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）。たとえば、ドキュメント・タイプ「プレス・リリース」のファイルについてコンテンツ・サーバーに問合せを実行し、その項目をページに表示する動的リストを使用できる。リストはリンクのリストのように単純なものや、タイトル、引用長および各ファイルのリンクを示すリストのように複雑なものもある。動的リストは、要素としても、フラグメントとしても実装可能。デザイナーのツールボックスには「Dynamic List Fragments」というカテゴリがあり、この中に動的リストのサンプルが含まれている。

10gR4 より前の Site Studio リリースでは、動的リストはフラグメントを使用して作成されていた。10gR4 リリースからは、フラグメントを使用するか、動的リスト要素定義を作成することにより、動的リストを作成できるようになっている。動的リストの機能は類似しているが、動的リストを要素として実装した場合に、サイト・アセットの再利用性が最大限に向上する。

「リスト・フラグメント」、「静的リスト」も参照。

## ナビゲーション (navigation)

訪問者が Web サイトを閲覧する方法。Web サイト上のナビゲーションは、通常、各メイン・カテゴリまたはサイトのセクションを指し示すリンクの集合になる。Site Studio では、ツールボックスからナビゲーション・フラグメントを追加でき、サイト階層の各セクションを指し示すナビゲーション・メニューがすぐに作成される。

## ネイティブ・ドキュメント (native document)

Microsoft Word などの一般的なサード・パーティ製アプリケーションを使用して作成されるコンテンツ・ファイル。ネイティブ・ドキュメントは、Dynamic Converter を使用して HTML 形式に変換され、関連付けられたアプリケーションを使用して編集される。

「コントリビュータ・データ・ファイル」も参照。

## バックアップ (backup)

アーカイブまたは保護のために、Web サイトとそれに関連付けられたすべてのファイルの追加コピーを作成するプロセス。Site Studio のバックアップ機能には、Content Server の Web インタフェース（「Site Studio Administration」ページ）からアクセスする。

「管理者」、「リストア」も参照。

## パラメータ (parameter)

フラグメントまたは他の管理対象コンテンツの外観と動作を制御する属性。新しいフラグメントの作成時にパラメータのセットを指定し、ページ・テンプレート、サブテンプレートまたはリージョン・テンプレートにフラグメントを追加するときに定義済みのパラメータの値を入力できる。

## プライマリ・ページ (primary page)

サイト・セクションのランディング・ページ。訪問者がそのセクションに最初にアクセスしたときに表示されるページ。サイト・セクションの索引ファイルに相当する。

「セカンダリ・ページ」も参照。

## フラグメント (fragment)

コード、そのコードで参照されるファイルおよびテンプレートに対するそのコードの追加方法を制御するパラメータのコンテナ。フラグメントを使用すると、サイトの機能を作成および編集できる。機能はサイトとは別に維持される。Site Studio にはサンプル・フラグメントが数多く用意されており、これらはデザイナーのツールボックスで提供される。フラグメントを開いて編集するにはフラグメント・エディタを使用する。フラグメントは eXtensible Markup Language (XML) で記述され、コンテンツ・サーバーのフラグメント・ライブラリに格納される。

「スニペット」、「ツールボックス」も参照。

## フラグメント・アセット (fragment asset)

フラグメントで参照されるファイル。コンテンツ・サーバーのフラグメント・ライブラリにフラグメントとともに格納される。使用頻度の高いフラグメント・アセットは、グラフィック、Cascading Style Sheet および JavaScript ファイル。フラグメントにアセットを追加すると、フラグメントの各スニペットからアセットを簡単に参照できる。

## フラグメント・エディタ (Fragment Editor)

デザイナー・アプリケーションの構成要素。フラグメントを開いて編集する際に使用する。フラグメント・エディタを使用すると、フラグメントのプロパティ、スニペット、アセット、パラメータなどを追加および編集できる。デザイナーのツールボックスから新しいフラグメントを作成する場合や、既存のファイルを編集する場合は必ずフラグメント・エディタを開く。

## フラグメントのプロパティ (fragment properties)

フラグメントを識別する特性。名前、タイプ、スクリプト言語の選択など。フラグメントを作成または編集する場合は、最初にそのプロパティを指定する。

## フラグメント・ライブラリ (fragment library)

Site Studio Web サイトで使用される 1 つ以上のフラグメントとそのアセットの集合。コンテンツ・サーバーの管理対象コンテンツ・アイテムとして格納される。フラグメントのすべてのコンテンツを記述する XML (eXtensible Markup Language) ファイルと、そのコンテンツを保存する ZIP ファイルで構成される。Site Studio に付属のサンプル・フラグメント・ライブラリは、コンポーネントをインストールするとコンテンツ・サーバーに自動的にチェックインする。

## プレースホルダ (placeholder)

Web ページ上のコントリビューション・リージョン (編集可能領域) の場所を指定するページ・テンプレート上の挿入ポイント (タグ)。単純な概念的スペースで、ページ・テンプレートまたはサブテンプレートが Web サイトのコンテキストで表示されたときに他のコンテンツがここに表示される。

「置換え可能なリージョン」、「コントリビューション・リージョン」も参照。

## プレースホルダ定義 (placeholder definition)

関連付けられたプレースホルダに使用可能なリージョン定義、リージョン・テンプレートおよびサブテンプレートを定義するファイル。プレースホルダに対して許可されるコントリビューター・アクションも指定する。

## プレーン・テキスト要素 (plain-text element)

テキストのみを使用できる要素のタイプで、フォントの変更や他の書式設定の変更はできない。一般的に、最小限の編集オプション (切取り、コピー、貼付け、スペル・チェッカーなど) のみがコントリビュータに表示される。コントリビュータが Web ページのテキスト (タイトルや見出しなど) を手動で書式設定できないようにする場合に有用である。

「WYSIWYG 要素」、「イメージ要素」、「静的リスト要素」、「カスタム要素」も参照。

## プロジェクト・ファイル (project file)

コンテンツ・サーバー上の Site Studio Web サイトに関するすべての情報が格納される XML ファイル。プロジェクト・ファイルは、新しいサイトがデザイナーで作成されると Site Studio で作成される。ファイルは管理対象コンテンツ・アイテムとしてコンテンツ・サーバーに格納される。

## ページ・テンプレート (page template)

完全に書式設定された HTML ファイルで、Web ページのレイアウトや大まかなルック・アンド・フィールを定義する。この定義項目には、コントリビューション・リージョン (ページ上の編集可能領域) の配置、ナビゲーション要素 (フラグメントのフォーム) およびサイト全体のイメージ (バナーなど) がある。ページ・テンプレートは最上位レベルのサイト設計オブジェクトである。

Site Studio では、サイト階層のセクションに関連付けられる Web ページを示す。HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプトおよび他の要素 (グローバル・イメージなど) が含まれる場合がある。ページ・テンプレートはサイト全体で再利用できる。通常の Web ページと異なるのは、ほとんどの場合、バックグラウンド情報が追加されるため、プレースホルダを通じて配置される大部分のコンテンツが省略される点である。

## 変換定義 (conversion definition)

Web サイトのネイティブ・ドキュメントの変換ルールを指定するファイル。各変換定義は、ネイティブ・ドキュメントを HTML に変換してページに表示する方法を定義するルール、テンプレートまたはその組合せである。

## 変換テンプレート (conversion template)

Site Studio で使用される Dynamic Converter の構成要素で、ネイティブ・ドキュメントを Web ブラウザに表示するために HTML に変換する方法を定義する。コンテンツ・サーバーのネイティブ・ドキュメントは、そのメタデータおよびファイル・タイプに基づいて変換される。

## 変換ルール (conversion rule)

特定の変換テンプレートを使用してコンテンツ・サーバーのネイティブ・ドキュメントを変換する場合にドキュメントが満たす必要のある基準を指定する文。

## 編集領域 (editing area)

コントリビュータ・エディタの作業領域の一部で、Web ページのコントリビューション・リージョンに関連付けられたコントリビュータ・データ・ファイルを変更するためにコントリビュータが使用する。各編集領域には、独自のツールバーと、データ入力用の独自のフィールドがある。イメージ要素やカスタム要素のように、編集領域にテキストの入力場所が表示されない場合がある。多くの場合、実際のデータ編集領域は画面上に表示される編集領域よりも多い。この理由は、Web ページに表示されないデータがコントリビュータ・データ・ファイルに含まれているため、またはコントリビュータが開かれた場合にのみ表示するように意図された領域をデザイナーが含めているためである。

「要素ツールバー」、「コントリビュータ専用セクション」も参照。

## ホームページ (home page)

Web サイトへのエントリ・ポイントとして機能するページ。通常は、サイトの主なセクションへのリンクが含まれる。デザイナーおよびマネージャでは、ホームページはプライマリ・ページと類似する。唯一の違いは、サイト階層のセクションのルートにではなく、サイト階層のルートにページを追加する点である。ツールボックスのナビゲーション・フラグメントには、多くの場合、ホームページへのリンクが含まれている。

## マネージャ (Manager)

Site Studio の 3 つのアプリケーションのうちの 1 つ。マネージャは、Web ベースのサイト管理コンソールで、サイトの構造を管理する 1 人以上のサイト・マネージャが使用できる。サイト・デザイナーは、デザイナーでマネージャ・アプリケーションをサイトに追加できる。ロック・アンド・フィールドと動作は、マネージャのインスタンスごとに変更できる。

「デザイナー」、「コントリビュータ」も参照。

## マネージャ (manager)

マネージャ・アプリケーションを使用してサイト・ナビゲーションおよび階層を再編成する個人ユーザー。サイト・マネージャは、サイト・デザイナーが使用可能にした Web ベースのツールを使用することにより、Site Studio デザイナーを使用しなくてもサイトに対するセクションの追加または削除を実行できる。一般的に、マネージャは 1 名のデザイナーおよび複数のコントリビュータとともに作業を行う。

## マネージャ構成設定 (Manager configuration settings)

Site Studio マネージャで使用可能な機能を定義するファイル。マネージャ・アプリケーションにアクセスするマネージャのアクセス・レベルを制御する際に使用する。この設定では、マネージャが階層を制御して再配列できるかどうか、およびページ・テンプレートをセクションに再割当てできるかどうか決定できる。

## メタデータ (metadata)

データに関するデータ。つまり、アイテムの特性やプロパティを表す情報（タイトル、作成者、コンテンツ ID など）。サイトを構築すると、このメタデータを使用して様々な方法でコンテンツを処理できる（特定のドキュメント・タイプまたはセキュリティに一致するコンテンツ・アイテムに問合せを実行する動的リストの作成など）。

## 要素 (element)

Site Studio Web サイトで再利用可能な情報の最小チャンク。サイトでコントリビュータ・データ・ファイルを使用する場合、各コントリビューション・リージョンに 1 つ以上の要素を作成する必要がある。定義する各要素には、WYSIWYG、テキスト専用、イメージ専用、静的リスト、動的リストまたはカスタムの特定のタイプが関連付けられる。これらのタイプは、要素コンテンツの構成内容を示し、要素定義を通じて、コントリビュータが使用可能な編集オプションを示す。要素を 1 つのみ追加した場合はコントリビュータに 1 つのフィールドが表示され、

複数の要素を追加した場合は複数のフィールドが表示される。要素は、ネイティブ・ドキュメントでは使用されず、コントリビュータ・データ・ファイルのみで使用される。

「WYSIWYG 要素」、「プレーン・テキスト要素」、「イメージ要素」、「静的リスト要素」、「動的リスト要素」、「カスタム要素」も参照。

#### 要素ツールバー (element toolbar)

コントリビュータ・エディタの各編集領域には、領域のタイプに固有のツールバーがある。一部のツールバーには、WYSIWYG アイテム、テキスト専用またはイメージ専用がある。静的リストと動的リストにも、独自のツールバーがある。

「編集領域」も参照。

#### 要素定義 (element definition)

要素タイプの編集環境を定義するファイル。特に、コントリビュータは要素の編集時に実行可能な操作を指定する。また、検証スクリプトを指定する際にも使用する。

#### 要素の検証 (element validation)

コントリビュータで追加するコンテンツに対してデザイナーが特定のルールを実行する方法。コンテンツが特定の 방법으로書式設定されているかどうかを問わず、コンテンツの追加量などを調整できる。要素の検証は要素定義で設定される。Site Studio に付属するデフォルトの検証スクリプトを使用するか、独自のスクリプトを作成できる。

#### リージョン・コンテンツ (region content)

Web ページの編集可能領域 (コントリビューション・リージョン) に表示するように割り当てられたデータ。コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントが該当する。通常は、コントリビュータがリージョン・コンテンツを担当する (デザイナーがページ・テンプレートやフラグメントを担当するのと同様)。コントリビューション・リージョンにリージョン・コンテンツを割り当てると、コントリビュータはコントリビュータ・アプリケーション (コントリビュータ・データ・ファイルを使用する場合) またはサード・パーティ製アプリケーション (ネイティブ・ドキュメントを使用する場合) を使用して、コンテンツを編集できる。

#### リージョン定義 (region definition)

特定のタイプの要素を構成するコンテンツのタイプを定義するファイル。また、コントリビューション・リージョンに対してコントリビュータが使用できるコンテンツの作成および切替えオプションを指定し、このリージョンに関連付けられたコンテンツ・ファイルのデフォルトのメタデータを設定する。

#### リージョン・テンプレート (region template)

Web ページ内のコントリビューション・リージョンに含まれるデータのレイアウトとルック・アンド・フィールを定義する部分的な HTML ファイル (ヘッド・セクションとボディ・セクションは含まれない)。

#### リストア (restore)

コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページからアクセス可能な Site Studio の機能。バックアップおよびリストア機能を使用すると、サイト全体のバックアップをすばやく簡単に実行し、バックアップ内容を圧縮 ZIP ファイルに保存して別の場所に移動し、このファイルからサイトをリストアできる。

## リスト・フラグメント (list fragment)

静的リストまたは動的リストを表示するフラグメントのタイプ。静的リスト・フラグメントでは、固定数の行と列が表示され、各行と列には要素 (WYSIWYG、プレーン・テキストまたはイメージ) が含まれる。コントリビュータは、情報を示す行と列を追加、編集および削除して、リストを変更することができる。動的リスト・フラグメントでは、コンテンツ・サーバーで実行される問合せに基づくファイルのリスト (コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント) が表示される。コントリビュータは、このリストに表示されるファイルを追加および削除できる。

「静的リスト」、「動的リスト」も参照。

## リンク (link)

Web ページ上のアイテムで、ユーザーを別の Web ページ、または同じ Web ページ内の別の位置に誘導する。リンクを使用して、訪問者は Web サイトをナビゲートできる。デザイナーでは、テンプレートにナビゲーション・フラグメントを追加するとリンクが自動的に作成される。通常は、サイトの別の部分や別のサイトを相互参照させるために自分でリンクを追加できる。また、コントリビュータ・アプリケーションを使用して Web サイトにリンクを作成することをコントリビュータに許可することも可能。

## レイアウト・ページ (layout page)

10gR4 より前の Site Studio リリースでの用語。現在の用語は、ページ・テンプレート。

「レガシー・サイト」、「ページ・テンプレート」も参照。

## レガシー・サイト (legacy site)

10gR4 より前のアーキテクチャの機能を使用して作成されたサイト。レガシー・サイトは、引き続き Site Studio 10gR4 で使用できるが、Site Studio 10gR4 に導入された新しいアーキテクチャや機能は利用できない。

## レビューア (reviewer)

サイトのコンテンツを承認する個人ユーザー。レビューアはコントリビューション・アイコンのワークフロー・オプションを使用して、コンテンツを承認および却下できる。レビューアの役割はコンテンツの確認のみの場合と、コントリビュータも兼任して両方の役割を果す場合がある。

## レプリケーション (replication)

Site Studio の Web サイトを、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにコピーするプロセス。開発環境から本番環境にサイトを配置して、サイトのコンテンツをバックアップする場合などに実行する。Site Studio のサイトをレプリケートするには、Site Studio のレプリケーターまたは Content Server のアーカイバ / レプリケーターを使用する。

## ワークフロー (workflow)

Site Studio で使用可能な Content Server の機能で、Web サイトのコンテンツが公開用にリリースされる前にそのコンテンツを確認する。1つのワークフローで1つの Web ページの構成要素、またはサイトのすべてのコンテンツに対応可能。通常は、複数のワークフローを使用して、Web サイトの様々な構成要素を確認する。指名されたレビューアには、ワークフロー・プロセスでコンテンツを承認または却下する権限がある。





# 索引

## 数字

1 行当たりの文字数, 設定, A-13

## A

- ActiveX コントロール, B-5
- 「Add Export Archive」ページ, B-10
  - Add Archive, B-10
  - Archive Description, B-10
  - Archive Name, B-10
  - Automatically export new and changed content, B-10
  - Include project file in export archive, B-10
  - Manage Site Replication, B-10
  - Open Collection, B-10
  - Transfer to Archive, B-10
  - Transfer to Collection, B-10
- 「Add Outgoing Provider」ページ, B-7
  - Configuration Class, B-7
  - Connection Class, B-7
  - HTTP Server Address, B-7
  - Instance Name, B-8
  - Provider Class, B-7
  - Provider Description, B-7
  - Provider Name, B-7
  - Relative Web Root, B-8
  - Server Host Name, B-7
  - Server Port, B-8
- 「Advanced Element Validation」ダイアログ, A-89
- 「Advanced」ダイアログ, B-20
- Approve Document (ワークフロー・オプション), 14-2
- ASCII 文字, 9-19
- ASP
  - 定義, 用語集 -1, 用語集 -5
  - ファイル拡張子, 8-31, 8-32, 8-34
- ASP エクスプローラ・メニュー・バー・フラグメント, C-10
  - ssShowHome, C-10
- ASP エラー・ハンドラ・メッセージ・フラグメント, C-28
- ASP 検索結果プレーン・フラグメント, C-12
  - ssClassName, C-12
  - ssDisplayField, C-12
  - ssHoverColor, C-12
  - ssLimitScope, C-12
  - ssQueryText, C-12
  - ssResultCount, C-12
  - ssSortField, C-12
  - ssSortOrder, C-12
  - ssTargetNodeID, C-12
  - ssTextColor, C-12
- ASP 検索ボックス・プレーン (サーバー)・フラグメント, C-12
  - ssButtonText, C-12
  - ssClassName, C-12
  - ssFocusColor, C-12
  - ssResultsPage, C-12
- ASP 検索ボックス・プレーン・フラグメント, C-11
  - ssButtonText, C-11
  - ssClassName, C-11
  - ssFocusColor, C-11
  - ssResultsPage, C-11
- ASP サイト, 1-4
- ASP サイト・マップ・プレーン・フラグメント, C-13
  - ssClassName, C-13
  - ssFocusColor, C-13
  - ssHoverColor, C-13
  - ssShowFocus, C-13
  - ssShowHome, C-13
  - ssTextColor, C-13
- ASP 静的リスト・サンプル・フラグメント, C-26
  - ssClassName, C-26
  - ssHoverColor, C-26
  - ssTextColor, C-26
- ASP 動的リスト・シンプル・フラグメント, C-24
  - ssTargetNodeID, C-24
- ASP 動的リスト・ページ・フラグメント, C-23
  - ssWantMore, C-23
- ASP ブレッドクラム・プレーン (サーバー)・フラグメント, C-9
  - ssClassName, C-9
  - ssHoverColor, C-9
  - ssSeparator, C-9
  - ssTextColor, C-9
- ASP ブレッドクラム・プレーン・フラグメント, C-9
  - ssClassName, C-9
  - ssHoverColor, C-9
  - ssSeparator, C-9
  - ssTextColor, C-9
- 「Assign Region Content」ダイアログ, 10-3, A-91
- Automatically export new and changed content, B-10

## B

---

「Backup and Restore」 ページ, 4-40  
Button Appearance, 5-4

## C

---

Cascading Style Sheet, 1-5, 2-3, 2-25, 7-3, 7-43  
Cascading Style Sheet (CSS), 9-19  
Check Out and Open, 1-3, 3-6, 7-35, 8-6, 10-2, B-5  
「Choose Default Link Format」 ダイアログ, A-21  
「Choose Document Types」 ダイアログ, A-47  
「Choose Region Content」 ダイアログ, A-93  
Content Server  
  Dynamic Converter コンポーネント, 10-4  
  「Manage Web Sites」 ページ, 12-2  
  「Site Studio Administration」 ページ, 4-40  
  「Web Sites」 メニュー, 4-25  
  格納されるフラグメント, 9-10  
  セキュリティ・モデル, 3-6  
  フォルダ機能, 1-3  
  フラグメントの削除, 9-12  
  フラグメントのダウンロード, 6-3  
  フラグメント・ライブラリのアップロード, 9-28  
  フラグメント・ライブラリのダウンロード, 9-28  
  プロファイル, A-34  
「Contribution Element」 ダイアログ, A-125  
「Contribution Region」 ダイアログ, A-44  
「Create Hyperlink」 ダイアログ, 8-16  
「Create New Site」 ダイアログ, A-19  
CSP サンプル動的リスト・フラグメント, C-24  
  ssLimitScope, C-24  
  ssQueryText, C-24  
  ssResultCount, C-24  
  ssSortField, C-24  
  ssSortOrder, C-24  
CSP サンプル・ナビゲーション (クライアント)・フラグメント, C-13  
CSP サンプル・ナビゲーション (サーバー)・フラグメント, C-14  
CSP サンプル・ページ・タイトル・フラグメント, C-28  
CSS, 1-5, 2-3, 2-25, 7-3, 7-43  
  サブテンプレートへの追加, 7-43  
  スタイルの参照の挿入, 8-4  
  フラグメント, 8-5  
  ページ・テンプレートへの追加, 7-43  
CSS 参照  
  ディレクトリ構造, 8-4  
Current item  
  リンク, 4-28  
「Custom Configuration Scripts」 ダイアログ, A-124  
「Custom Element Settings」 ダイアログ, A-69  
「Custom Section Properties」 ダイアログ, A-24  
「Customize」 ダイアログ, 5-3, 5-6, 5-11, A-4  
  「Commands」 タブ, A-4  
  「Keyboard」 タブ, A-8  
  「Log File」 タブ, A-16  
  「Menu」 タブ, A-10  
  「Miscellaneous」 タブ, A-15  
  「Options」 タブ, A-11  
  「Source View」 タブ, A-12  
  「Toolbars」 タブ, A-5  
  「Tools」 タブ, A-7

「Warning Dialogs」 タブ, A-14  
「Customize」 ダイアログのタブ  
  Commands, 5-3  
  Keyboard, 5-3  
  Menu, 5-3  
  Miscellaneous, 5-4  
  Options, 5-4  
  「SOURCE」 ビュー, 5-4  
  Tools, 5-3  
  Warning Dialogs, 5-4  
  Toolbars, 5-3  
  ログ・ファイル, 5-4

## D

---

Default Placeholder Definition, 2-18  
「Define Custom Section Property」 ダイアログ, A-25  
「Define Environment Properties」 ダイアログ, A-22  
「Define Placeholder」 ダイアログ, 8-3, 8-24, A-118  
Design View Code, 9-16  
「DESIGN」 ビュー, 4-10, 9-5, 9-7  
  HTML タグの表示 / 非表示, 4-11  
  サブテンプレート, 7-27  
  定義, 用語集-1  
  テキストの操作, 8-4  
  ページ・テンプレート, 7-20, 9-16  
「DESIGN」 ビューでのテキストの操作, 8-4  
DOCTYPE 制御, 5-10  
DTD 制御, 5-10  
「Dynamic Conversion」 ダイアログ, 8-6, 10-3, A-123  
Dynamic Converter, 1-3, 3-6, 7-63, 8-6, 10-2  
  コンポーネント  
   コンテンツ・サーバーへのインストール, 10-4  
  テンプレート, 10-2, 10-4  
  テンプレートの選択ルール, 10-4  
  フラグメントとの併用, 10-5  
  変換テンプレート, 10-3  
  ワークフローでの使用, 14-4  
「Dynamic List Settings」 ダイアログ, A-80

## E

---

Edit Fragment Instance, 9-7  
「Edit Query Text」 ダイアログ, A-48, A-102  
ElementAPI, 11-3, 11-7  
  依存スクリプト, 11-7  
「Element」 ダイアログ, 8-27, A-82  
「Enable Metadata Modification」 ダイアログ, A-33  
Ephox, 11-12  
Ephox エディタ, 7-47, 11-11  
Exclude From Lists (メタデータ), 2-4

## F

---

FCKeditor, 7-47, 11-11  
Filter default libraries, 5-11, 9-4  
Filter fragments in other languages, 5-11, 9-4  
Filter libraries from other sites, 5-11, 9-4  
Flash サンプル・フラグメント, C-27  
  ssAnimation, C-27  
  ssheight, C-27  
  sswidth, C-27  
「FORM」 ビュー, 4-12, 12-5

「Fragment Assets」 ダイアログ, A-98  
「Fragment Elements」 ダイアログ, A-99  
「Fragment Parameters」 ダイアログ, 9-2, 9-5, 9-6,  
9-7, 9-20, 9-22, 12-3, A-100, A-106  
「Fragment Preview」 ダイアログ, 9-5

## G

「General Component Information」 ページ, 4-40  
「Generate Unique Region Content」 ダイアログ, A-94

## H

### HCSP

定義, 用語集 -2  
ファイル拡張子, 8-31, 8-32, 8-34

HCSP サイト, 1-4

### HTML

フラグメント内, 9-25

HTML タグ, 表示 / 非表示, 4-11

HTML ツールバー, 4-20

### HTML 表

Web ページの設計, 8-5  
定義, 用語集 -2  
データの表示, 8-5  
テキストとグラフィックの適切な配置, 8-5  
別のエディタによるレイアウト, 8-6  
用途, 8-5

## I

IDOC 検索ボックス・プレーン・フラグメント, C-18

ssButtonText, C-18  
ssResultsPage, C-18

Idoc スクリプト

フラグメント内, 9-25  
フラグメントの言語, 9-14

IDOC ナビゲーション・ホーム・ロゴ・フラグメント,  
C-17

ssHeight, C-17  
ssLogo, C-17  
ssWidth, C-17

IDOC フラグメント, C-20

IDOC ブレッドクラム・プレーン・フラグメント, C-17

ssClassName, C-17  
ssHoverColor, C-17  
ssSeparator, C-17  
ssTextColor, C-17

ID ベースの URL, 4-29, 8-7, 8-9, 8-12, 8-13, 8-15

「Image Only Element Validation」 ダイアログ, A-88

Include project file in export archive, B-10

## J

JavaScript, 7-40

### JSP

アセットとして, 9-18  
ファイル拡張子, 8-31, 8-32, 8-34  
フラグメント, 9-19  
フラグメント内, 9-25  
フラグメントの言語, 9-14

JSP オブジェクト, B-5

JSP 検索結果ページ・フラグメント, C-16

ssClassName, C-16  
ssDisplayField, C-16  
ssHoverColor, C-16  
ssLimitScope, C-16  
ssQueryText, C-16  
ssResultCount, C-16  
ssSortField, C-16  
ssSortOrder, C-16  
ssTargetNodeID, C-16  
ssTextColor, C-16

JSP 検索ボックス・プレーン・フラグメント, C-15

ssButtonText, C-15  
ssClassName, C-15  
ssFocusColor, C-15  
ssResultsPage, C-15

JSP サイト, 1-4

JSP サイト・マップ・プレーン・フラグメント, C-17

ssClassName, C-17  
ssFocusColor, C-17  
ssHoverColor, C-17  
ssShowFocus, C-17  
ssShowHome, C-17  
ssTextColor, C-17

JSP 動的リスト・プレーン・フラグメント, C-24

ssClassName, C-24  
ssDisplayField, C-25  
ssHoverColor, C-24  
ssLimitScope, C-24  
ssQueryText, C-24  
ssResultCount, C-25  
ssSortField, C-24  
ssSortOrder, C-25  
ssTargetNodeID, C-25  
ssTextColor, C-24

JSP ナビゲーション・ホーム・ロゴ・フラグメント,  
C-14

ssHeight, C-14  
ssLogo, C-14  
ssWidth, C-14

## K

「Keyboard」 タブ

ショートカットの割当て  
キーボード・ショートカットの割当て, 5-8

## L

「Link Settings」 ダイアログ, A-83

「Link Target Options」 ダイアログ, 8-7

Link Wizard, 3-6, 4-25, 8-6, 8-8, A-36

Check-in content, A-41  
Choose a section, A-37  
Choose content file, A-39  
Choose target section, A-40  
Choose type of link, A-36  
Choose URL format, A-38  
Confirm link, A-42  
Link Target Options, A-43

Log details of all communication with the Content  
Server, 5-12

- 「Log File」 タブ
  - Log details of all communication with the Content Server, 5-12
  - Reset log file each time Designer starts, 5-12
  - ログ・ファイル設定の変更, 5-12

## M

---

- 「Manage Fragment Libraries」 ページ, 4-40
- 「Manage Site Replication」 ページ, 4-40, B-2, B-10, B-11
- 「Manage Site」 ページのダイアログ, A-109
- 「Manage Web Site Addresses」 ページ, 4-40
- Manage Web Sites, 4-40
- 「Manage Web Sites」 ページ, 4-40
- 「Manager Configuration Settings」 ダイアログ, 12-5, A-110
- 「Manager Site Replication」 ページ, B-9
  - Add Import Archive, B-9
  - Archive Description, B-9
  - Archive Name, B-9
  - インポート時に切り替えられたリージョン・コンテンツをターゲット・サーバーで保持, B-9
  - インポート時にリージョン・コンテンツをターゲット・サーバーで保持, B-9
- Menu Animations
  - Fade, 5-9
  - None, 5-9
  - Slide, 5-9
  - Unfold, 5-9
- Microsoft Word, 2-24
- Microsoft Word のスタイル, 2-24
- 「Miscellaneous」 タブ
  - Filter default libraries, 5-11
  - Filter fragments in other languages, 5-11
  - Filter libraries from other sites, 5-11

## N

---

- 「Native Document Conversion Settings」 ダイアログ, 10-4, A-49, A-50
- Navigation Fragments, 9-4, 9-15, C-2
- 「New Fragment」 ダイアログ, 9-11
- 「New Item Settings」 ダイアログ, A-90
- 「New Option」 ダイアログ, A-103
- 「New Section」 ダイアログ, A-23

## O

---

- 「Override Environment Properties」 ダイアログ, B-20

## P

---

- PageHitCount フラグメント, C-28
  - contributorOnly, C-28
- 「Placeholder Definition Mappings」 ダイアログ, 8-3, 8-21, 8-22, A-116, A-117
- 「Placeholder Section Properties」 ダイアログ, 8-23, A-112, A-113
- placeholderDefinitionDocName, 2-18
- 「Plain Text Element Validation」 ダイアログ, A-86
- Preserve the target's switched region associations, B-17
- 「Press New Shortcut Key」 テキスト・ボックス, 5-8

- PREVIEW, 4-11
- Preview
  - 定義, 用語集-3
- 「PREVIEW」 タブ, 7-18
- 「Properties」 ペイン, 4-3, 4-4
  - 定義, 用語集-3
- 「Providers」 ページ, B-6

## R

---

- 「Region Content Options」 ダイアログ, A-46
- Region Definition (メタデータ), 2-5
- Reject Document (ワークフロー・オプション), 14-2
- Reset log file each time Designer starts, 5-12
- RSET サイト・マップ・プレーン・フラグメント, C-19
  - ssClassName, C-19
- RSET ブレドドクラム・プレーン・フラグメント, C-18
  - ssClassName, C-18
  - ssHoverColor, C-18
  - ssSeparator, C-18
  - ssTextColor, C-18

## S

---

- 「Save Fragment」 ダイアログ, 9-26, A-108
- 「Select CSS Classes」 ダイアログ, A-84
- 「Select Home Page Template」 ダイアログ, A-26
- 「Select HTML Tags」 ダイアログ, A-87
- 「Select (Primary) Page Template」 ダイアログ, 8-33
- 「Select Primary Template」 ダイアログ, A-28
- 「Select (Secondary) Page Template」 ダイアログ, 8-34
- 「Select Secondary Page Template」 ダイアログ, A-30
- 「Select Section」 ダイアログ, A-35
- 「Select Site」 ダイアログ, A-34
- 「Set Default Project Document Information」 ページ, 4-40
- 「Site Addresses」 ダイアログ, 6-6, A-20
- 「Site Asset Categories」 ダイアログ, A-32
- 「Site Assets」 ペイン, 4-3, 4-14, 7-1
  - ツールバー, 4-14
- 「Site Connection Details」 ダイアログ, 6-4, A-18
- Site Connection Manager, 4-24
- 「Site Connection Manager」 ダイアログ, 6-4, 6-5, A-17
- 「Site Hierarchy」 ペイン
  - 定義, 用語集-3
  - 展開と縮小, 8-41
- Site Studio
  - アプリケーション, 1-2
  - コントリビューション・モデル, 2-7
  - サイト・オブジェクト階層, 2-8
  - プレゼンテーション・モデル, 2-6
  - メタデータ・フィールド, 2-4
  - ワークフロー, 14-1
- Site Studio Admin, 4-41
- 「Site Studio Administration」 ページ, 4-40
- Site Studio コントリビュータ, 4-36
- Site Studio マネージャ, 4-35, 4-40, 12-2
- Site Studio マネージャ・フラグメント, C-29
  - theme, C-29
  - 設定, C-29
- Site Studio レプリケーション, B-4

## Site Studio レプリケータ, B-2

Preserve the target's switched region associations,  
B-17

Web サイト階層の選択, B-17

階層のレプリケート, B-19

環境プロパティの上書き, B-17

コンテンツ・サーバー接続, B-19

サーバーのプロパティの表示または編集, B-20

説明, B-13

ソースの場所の選択, B-13

ターゲットの場所の選択, B-15

プロジェクト・ファイルのソースとしての選択, B-14

プロジェクト・ファイルのターゲットとしての選択,  
B-16

リストからのサーバーの削除, B-20

レプリケートするアイテムの選択, B-17

「SOURCE」ビュー, 4-9, 7-31, 7-43, 8-3, 8-5, 8-21,  
9-5, 9-7, 9-11, 10-3, 12-6

DOCTYPE, 5-10

色分け, 4-9

カスタマイズ, 5-10

カスタマイズ・ダイアログ, A-12

コードの書式設定, 5-10

サブテンプレート, 7-27

定義, 用語集-4

ページ・テンプレート, 7-20

マネージャ構成, 7-61

「SOURCE」ビューの色分け, 4-9

SS\_Fragments\_ASP フラグメント・ライブラリ, 9-25

SS\_Fragments\_CSP\_Examples フラグメント・ライブラリ,  
9-25

SS\_Fragments\_Dynamic フラグメント・ライブラリ,  
9-25

SS\_Fragments\_Examples フラグメント・ライブラリ,  
9-25

SS\_Fragments\_IDOC フラグメント・ライブラリ, 9-25

SS\_Fragments\_JSP フラグメント・ライブラリ, 9-25

SS\_Fragments\_Plain フラグメント・ライブラリ, 9-25

SSValidateCustomElements, 11-10

「Static List Element Validation」ダイアログ, A-75

Style Sheet, 1-5, 2-3, 2-25, 7-3

Switch Content ウィザード, 4-29, 7-29, A-119

Check-in content, A-121

Choose content file, A-120

Choose Region Content, A-119

Switch Content Confirmation, A-121

コンテンツの選択, 4-31

コントリビュータ・データ・ファイルの作成, 7-29

サブテンプレート, 4-30

リージョン定義の選択, 4-30

## T

「Tools」タブ

ショートカットの追加

「Tools」メニューへのショートカットの追加, 5-6

## U

UCM, 1-3

Universal Content Management, 1-3

「Upload Fragment Library」ダイアログ, 9-28

## URL

ID ベース, 4-29, 8-7, 8-9, 8-12, 8-13, 8-15

クライアント側スクリプト形式, 4-29

サーバー側スクリプト形式, 4-29

絶対パス, 4-29

相対パス, 4-29

トークン形式, 4-29

パスベース, 4-29, 8-7, 8-9, 8-12, 8-13, 8-15

ページ・テンプレートへの追加, 8-33

リンク, 4-28, 8-9, 8-10, 8-11, 8-13, 8-15

URL Directory Name, 6-9

URL 形式, A-38

ID ベースの URL, 4-29, 8-7, 8-9, 8-12, 8-13, 8-15

パスベースの URL, 4-29, 8-7, 8-9, 8-12, 8-13,  
8-15

## V

VBScript

カスタム検証スクリプト, 7-40

検証スクリプト, 7-54

## W

W3C

<TABLE> タグの説明, 8-6

Web Site Object Type (メタデータ), 2-4

Web Site Section (メタデータ), 2-5

Web Sites (メタデータ), 2-4

「Web site」プロパティ

Default Placeholder Definition, 2-18, 8-21, 8-22

Web サイト

ASP ファイル拡張子, 8-31, 8-32, 8-34

HCSP ファイル拡張子, 8-31, 8-32, 8-34

JSP ファイル拡張子, 8-31, 8-32, 8-34

アドレス, 4-40

開始と停止, 6-11

管理, 2-2, 4-40

起動時の再接続, 5-11

計画, 3-1

現在関連付けられていないコンテンツの追加, 3-15

更新, 3-5

コピー, B-1

コンテンツ・サーバーからのフラグメントのダウン  
ロード, 6-3

コンテンツ・ファイル, 2-3

コントリビュータ・データ・ファイルの共有, 3-15

コントリビュータによるアクセス, 3-6

サイト・アセットの再利用, 2-11, 2-24

サイト接続の削除, 6-5

サイト・レプリケーションの開始, B-11

サイト・レポート, 13-2

削除, 6-5

作成, 6-2

制御ファイルと構成ファイル, 2-3

セクションの削除, 8-30

セクションの追加, 8-29

セクションのハイパーリンク, 8-35

セクションの表示, 8-35

セクションの編集, 8-38

セクション名の変更, 8-29

接続, 5-11, 6-2

接続の編集, 6-4

相互リンク, 8-33  
定義, 用語集 -4, 用語集 -6  
停止, 6-11  
ネイティブ・ドキュメントの共有, 3-15  
ネイティブ・ドキュメントの発行, 3-6  
バックアップ, 4-40, B-1  
プレゼンテーションとコンテンツの分離, 2-2  
プレゼンテーション・ファイル, 2-2  
リストア, 4-40  
リンクを使用したナビゲート, 8-6  
レプリケート, 4-40, B-1  
ルール, 2-5  
Web サイト ID, 6-8  
Web サイト・オブジェクト・レポート, 13-2, 13-5  
Web サイト使用状況レポート, 13-6  
Web サイト・セクション, 8-7  
Web サイトの計画, 3-1  
Web サイトの停止, 6-11  
一時ページ, 6-11  
Web サイトのバックアップ, 4-40  
Web サイトのリストア, 4-40  
Web サイトのレプリケート, 4-40  
Web サイトのルール, 2-5  
Web ページ  
2つのバージョンの比較, 8-43, 8-45  
HTML 表, 8-5  
定義, 用語集 -4  
ページ・テンプレートへのリンク, 8-33  
リンクのターゲット, 8-16  
Web ページ・レイアウト, 2-25  
「WYSIWYG Element Validation」ダイアログ, A-85  
WYSIWYG 要素の「Element」ダイアログ, A-52, A-55

## X

XHTML 準拠のマークアップ, 生成, A-13  
XML, 2-24, 2-25, 2-26  
フラグメント内, 9-25  
xRegionDefinition, 8-27  
xWebsiteObjectType (レプリケーション), B-4  
xWebsites (レプリケーション), B-4  
xWebsiteSection (レプリケーション), B-4

## あ

アセット  
Cascading Style Sheet (CSS), 1-5, 2-3, 2-25, 7-3  
JSP, 9-18  
イメージ, 1-5, 2-3, 7-3  
階層, 2-8  
カスタム構成スクリプト, 1-5, 2-3, 7-3  
カスタム要素フォーム, 1-5, 2-4, 7-3  
記憶域, 2-4  
検証スクリプト, 1-5, 2-4, 7-3  
コントリビュータ・データ・ファイル, 1-5, 2-3,  
2-10, 2-23, 2-24, 7-2  
再利用, 2-11, 2-24  
削除, 9-19  
サブテンプレート, 1-5, 2-2, 2-9, 2-20, 7-2  
スクリプト, 1-5, 2-3, 7-3  
その他のメディア, 1-5, 2-3  
追加, 9-18  
定義, 用語集 -11

ネイティブ・ドキュメント, 1-5, 2-3, 2-23, 2-24,  
7-2  
フラグメント, 2-8, 2-25, 9-18  
フラグメント・ライブラリ, 1-5, 2-4, 7-3  
プレースホルダ, 2-9, 2-16  
プレースホルダ定義, 1-4, 2-3, 2-9, 2-17, 2-18, 7-2  
ページ・テンプレート, 1-4, 2-2, 2-8, 2-21, 7-2  
変換定義, 1-5, 2-4, 7-3  
編集, 9-19  
マネージャ構成設定, 1-5, 2-4, 7-3  
要素, 2-9, 2-10, 2-13  
要素定義, 1-4, 2-3, 2-9, 2-10, 2-13, 7-2  
リージョン定義, 1-4, 2-3, 2-9, 2-10, 2-14, 7-2  
リージョン・テンプレート, 1-5, 2-2, 2-9, 2-10,  
2-14, 7-2  
アセット (フラグメント), 4-32  
アセット・レイアウト, 7-20  
アプリケーション, ショートカットの追加, 5-6

## い

イメージ, 1-5, 2-3, 7-3  
アセットとして, 7-37  
ワークフロー, 14-4  
イメージ要素の「Element」ダイアログ, A-63, A-65  
インタフェース  
カスタマイズ, 5-1  
インタフェース項目  
表示と非表示, 5-2  
インポート・アーカイブ (レプリケーション), B-9  
インポート・アーカイブ, 作成, B-8  
インポート時に切り替えられたリージョン・コンテンツ  
をターゲット・サーバーで保持, B-9  
インポート時にリージョン・コンテンツをターゲット・  
サーバーで保持, B-9  
インライン・インクルード・スニペット, 9-16  
インライン動的変換, 14-4

## う

ウィザード  
Link, 8-6  
Switch Content, 4-29, 7-29  
Link, 4-25  
リンク, 3-6

## え

エクスプローラ・メニュー・バー・フラグメント, C-3  
ssShowHome, C-3  
エクスポート・アーカイブ (レプリケーション), B-10  
エクスポートアーカイブ, 作成, B-8  
エラー・ハンドラ, 8-36, 8-38  
カスタム, 8-36  
サイト・プロパティ, 8-38  
エラー・ハンドラ・メッセージ・フラグメント, C-27

## か

下位互換性, 1-2, 1-4, 6-2  
外部の検証スクリプト, A-75  
外部プロバイダ (レプリケーション)  
設定, B-6

- 拡張要素
  - カスタム, 11-2
- カスタマイズ
  - 「SOURCE」ビュー, A-12
  - オプション, A-11
  - キーボード, A-8
  - 警告, A-14
  - コマンド, A-4
  - ツール, A-7
  - ツールバー, A-5
  - メニュー, A-4, A-10
  - ログ・ファイル, A-16
- カスタマイズ・スクリプト, 8-28
- カスタム・エラー・ハンドラ, 8-36
- カスタム検証スクリプト
  - VBScript, 7-40
- カスタム構成スクリプト, 1-5, 2-3, 7-3, 7-47
  - Ephox エディタ, 7-47
  - FCKeditor, 7-47
  - エディタ, 7-47
- カスタム・スクリプト
  - 構成スクリプト, 11-11
- カスタム・セクション・プロパティ, 8-39
- カスタム要素, 11-2, 11-5, 11-7, 11-8
  - アップグレード, 11-10
  - サンプル, 11-10
  - 実装, 11-3
  - ソース・サンプル, 11-8
  - リージョン定義内, 7-50
  - リージョン・テンプレート内, 7-50
  - レガシー, 11-10
- カスタム要素定義, 7-6
- カスタム要素の「Element」ダイアログ, A-67, A-68
- カスタム要素のアップグレード, 11-10
- カスタム要素フォーム, 1-5, 2-4, 7-3, 7-50, 11-2
- 環境プロパティ
  - 上書き, B-20
  - 指定, B-12
- 環境プロパティ, 上書き, B-17
- 関数
  - IsDirty(), 11-5
- 管理
  - Backup and Restore, 4-40
  - General Component Information, 4-40
  - Manage Fragment Libraries, 4-40
  - Manage Site Replication, 4-40
  - Manage Web Site, 4-40
  - Manage Web Site Addresses, 4-40
  - Set Default Project Documentation Information, 4-40
  - Web サイト・オブジェクト・レポートの表示, 13-5
  - コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページ, 4-40
- 管理者, 2-5
- 管理対象の Web サイト, 2-2

## き

- キーボード・ショートカット, カスタマイズ, A-8
- 基準ワークフロー, 14-2
- 既存のファイル
  - リンク, 4-27, 8-8, 8-13, 8-14
- 既存のページ・テンプレート
  - コピー, 8-31, 8-33, 8-34

- 再利用, 8-31, 8-33, 8-34
- 起動オプション, 変更, 5-11
- 起動時の Web サイトへの再接続, 5-11
- 起動時の Web サイトへの接続, 5-11
- 基本ワークフロー, 14-2
- 行折返し, 有効化, A-13
- 行の長さ, 設定, A-13
- 切り替えられたリージョンの関連付け, B-17

## く

- クライアント側スクリプト URL 形式, 4-29
- グローバル・ブレースホルダ・マッピング, 2-18

## け

- 警告, カスタマイズ, A-14
- 警告メッセージ
  - 「Check All」オプション, 5-11
  - 「Clear All」オプション, 5-11
  - 表示と非表示, 5-11
- 警告メッセージの非表示, 5-11
- 警告メッセージの表示, 5-11
- 検索結果プレーン・フラグメント, C-8
  - ssClassName, C-8
  - ssDisplayField, C-8
  - ssHoverColor, C-8
  - ssLimitScope, C-8
  - ssQueryText, C-8
  - ssResultCount, C-8
  - ssSortField, C-8
  - ssSortOrder, C-8
  - ssTargetNodeID, C-8
  - ssTextColor, C-8
- 検索結果ページ・フラグメント, C-7
  - ssClassName, C-7
  - ssDisplayField, C-7
  - ssHoverColor, C-7
  - ssLimitScope, C-7
  - ssQueryText, C-7
  - ssResultCount, C-7
  - ssSortField, C-7
  - ssSortOrder, C-7
  - ssTargetNodeID, C-7
  - ssTextColor, C-7
- 検索ボックス, 8-36
- 検索ボックス・プレーン・フラグメント, C-6
  - ssButtonText, C-6
  - ssClassName, C-6
  - ssFocusColor, C-6
  - ssResultsPage, C-6
- 検証
  - 要素, A-75
- 検証スクリプト, 1-5, 2-4, 7-3, 11-12
  - JavaScript, 7-54
  - VBScript, 7-54
  - 要素, 11-12
  - 要素定義, 7-54
  - 要素定義での使用, 8-28

## コ

構成移行ユーティリティ, B-5  
構成スクリプト, 1-5, 2-3, 7-3  
構成ファイル, 2-3  
コードの書式設定  
  「SOURCE」ビュー, 5-10  
コピーライト・サンプル・フラグメント, C-26  
コンテンツ  
  プレゼンテーションとコンテンツの分離, 2-2  
コンテンツ・サーバーの「Web Sites」メニュー, 4-25  
コンテンツ情報  
  ブレースホルダ定義, 7-15  
  ページ・テンプレート, 8-19  
コンテンツ情報ページ, 2-4  
コンテンツ追跡レポート, 13-4, 13-7, 13-8  
  コンテンツ追跡レポートの表示, 13-7  
  ブレースホルダ定義のオプション, 13-7  
コンテンツの切替え  
  サブテンプレート, 4-30  
  リージョン定義, 4-30  
コンテンツの割当て, 4-29, 7-29  
コンテンツ・ファイル, 2-3, 2-23  
  再利用, 2-11, 2-24  
コントリビューション  
  アクセス・レベル, 3-6  
コントリビューション・アイコン, 定義, 用語集 -6  
コントリビューション・グラフィック, 3-6, 4-33,  
  4-36, 8-42  
  コンテンツの切替えアイコン, 4-37  
  コンテンツ未割当てアイコン, 4-36  
  メニュー・アイコン, 3-6  
  ワークフロー・アイコン, 4-37  
コントリビューション・グラフィックのアイコン, 4-36  
コントリビューション・ツールバー, 4-22  
コントリビューション・モード, 2-7, 用語集 -6  
コントリビューション・モデル, 2-7  
コントリビューション・リージョン, 7-12, 8-20  
  HTML表, 8-5  
  境界, 8-20  
  セキュリティ・モデル, 3-6  
  定義, 用語集 -7  
  ネイティブ・ドキュメントの追加, 10-2  
  要素, 9-23  
コントリビューション・リージョンのツールチップ,  
  4-34  
コントリビュータ, 2-5, 2-23, 3-5, 3-6, 3-8, 4-36,  
  7-2, 7-10, 7-29, 7-31, 7-47, 8-6, 8-20, 8-27,  
  8-45  
  FORM, 11-7  
  アプリケーション, 1-2  
  エディタ, 4-38  
  カスタム構成スクリプト, 7-47  
  カスタム要素, 11-7  
  起動, 4-36  
  起動用のキーの組合せ, 4-36  
  コンテンツ・プロバイダ, 3-5  
  コントリビューション・グラフィック, 4-33  
  コントリビューションのレベル, 3-6  
  コントリビュータによるファイルの作成の許可, 4-35  
  サイトの計画, 3-5  
  説明, 1-2  
  ツールバー, 3-8

  ツールバーの編集, 7-4  
  定義, 用語集 -7  
  編集内容の検証, 7-54  
  役割, 3-5  
  ワークフロー, 4-39, 14-2, 14-3  
  ワークフローの承認 / 却下アクセス, 8-21  
コントリビュータ・エディタ, 4-38  
  「Elements」タブ, 4-39  
  「Metadata」タブ, 4-39  
  コントリビューション・ツールバー, 4-39  
  データ・ファイル, 4-39  
  ページ・ヘッダー, 4-39  
  編集領域, 4-39  
  要素ツールバー, 4-39  
コントリビュータ・エディタの「Elements」タブ, 4-39  
コントリビュータ・エディタの「Metadata」タブ, 4-39  
コントリビュータ・エディタのコントリビューション・  
  ツールバー, 4-39  
コントリビュータ・エディタのページ・ヘッダー, 4-39  
コントリビュータ・エディタの要素ツールバー, 4-39  
コントリビュータ・データ・ファイル, 1-5, 2-3, 2-10,  
  2-23, 2-24, 3-2, 4-31, 4-33, 7-2, 7-29, 8-2, 10-2  
  Switch Content ウィザードで作成, 7-29  
  Web サイト全体での共有, 3-15  
  サイトの計画, 3-6  
  セカンダリ・ページ, 3-12  
  定義, 用語集 -7  
  ネイティブ・ドキュメントと対比した制御, 10-3  
  ブレースホルダとの関連付け, 7-29  
  編集, 7-31, 7-32  
  要素定義, 7-29  
  リンク, 4-27, 8-11  
  ワークフロー, 14-3  
コントリビュータの起動, 4-36  
コントリビュータのツールバー  
  カスタム構成スクリプト, 7-47  
  コンテキスト・メニュー, 7-47  
  変更, 7-6  
  編集, 7-47  
コントリビュータの編集領域, 4-39  
コントリビュータ・フォーム, 11-7  
コントリビュータ・モード  
  リージョン編集の順序, 7-10  
コンポーネント  
  Site Studio, 1-3  
コンポーネント情報, 4-40

## さ

サード・パーティ・アプリケーション, 2-24  
サーバー側スクリプト URL 形式, 4-29  
サイト・アセット, 3-3, 7-2  
  Cascading Style Sheet (CSS), 1-5, 2-3, 2-25, 7-3  
  イメージ, 1-5, 2-3, 7-3  
  階層, 2-8  
  カスタム構成スクリプト, 1-5, 2-3, 7-3  
  カスタム要素フォーム, 1-5, 2-4, 7-3  
  管理, 3-3  
  記憶域, 2-4  
  グループ分け, 4-14  
  検証スクリプト, 1-5, 2-4, 7-3  
  コントリビュータ・データ・ファイル, 1-5, 2-3,  
  2-10, 2-23, 2-24, 7-2



- 再利用, 2-11, 2-24
- 作成順序, 3-7
- サブテンプレート, 1-5, 2-2, 2-9, 2-20, 7-2
- スクリプト, 1-5, 2-3, 7-3
- その他のメディア, 1-5, 2-3
- ダイアログとタブ, 4-6, 4-7, 4-8
- 並替え, 4-14
- ネイティブ・ドキュメント, 1-5, 2-3, 2-23, 2-24, 7-2
- フラグメント, 2-8, 2-25
- フラグメント・ライブラリ, 1-5, 2-4, 7-3
- プレースホルダ, 2-9, 2-16
- プレースホルダ定義, 1-4, 2-3, 2-9, 2-17, 2-18, 7-2
- ペイン, 4-14
- ページ・テンプレート, 1-4, 2-2, 2-8, 2-21, 7-2
- 変換定義, 1-5, 2-4, 7-3
- マネージャ構成設定, 1-5, 2-4, 7-3
- 命名, 3-3
- 要素, 2-9, 2-10, 2-13
- 要素定義, 1-4, 2-3, 2-9, 2-10, 2-13, 7-2
- リージョン定義, 1-4, 2-3, 2-9, 2-10, 2-14, 7-2
- リージョン・テンプレート, 1-5, 2-2, 2-9, 2-10, 2-14, 7-2
- サイト・アセットの記憶域, 2-4
- サイト・アセットのコンテンツ情報フィールド, 2-4
- サイト・アセットの再利用, 2-11, 2-24
- サイト・アセットの再利用性, 3-2
- サイト・アセットのメタデータ, 2-4
- サイト・アドレス, 4-40
  - パスの変更, 6-8
  - パス名の変更, 6-8
- サイト・オブジェクト階層, 2-8
- サイト階層, 4-3, 8-1, 9-4
  - カスタム・セクション・プロパティ, 8-39
  - 計画, 3-13
  - コントリビューション・モデル, 3-5
  - サイト・ナビゲーション, 8-28, 8-30
  - サイト・ナビゲーションの決定, 8-28
  - サイトの計画, 3-6, 3-7, 3-12
  - セカンダリ・ページ, 8-28, 8-32
  - セクション, 3-14
  - セクション ID, 8-29
  - セクションの移動, 8-30
  - セクションの削除, 8-30
  - セクションの追加, 8-29
  - セクションの並替え, 8-30
  - セクションの編集, 8-38
  - セクション・プロパティの表示, 8-38
  - セクション名, 3-14
  - セクション名の変更, 8-29
  - 説明, 8-28
  - 定義, 用語集 -8
  - ネーミング規則, 3-4
  - ノード ID, 8-29
  - 深さ, 3-13
  - プライマリ・ページ, 8-28, 8-32
  - プロジェクト・ファイルの変更, 6-10
  - ページ・テンプレートの管理, 8-28
  - ページ・テンプレートの作成, 7-18
  - ページ・テンプレートの追加, 8-31, 8-33, 8-34
  - ホームページ, 8-31
  - マネージャ, 3-15
  - マネージャでの変更, 12-3
  - マネージャのアクセス, 7-61
  - マネージャのアクセスの制御, 7-59
  - 用途, 3-13
- サイト・コンテンツ・ファイル, 2-3
- サイト・セクションの階層, 4-3
- サイト接続, 6-2
  - Web サイトの変更, 6-4
  - 管理, 4-24
  - コンテンツ・サーバーの変更, 6-4
  - 削除, 6-5
  - 作成, 6-2
  - 定義, 用語集 -8
  - 名前の変更, 6-4
  - 編集, 6-4
- サイト・ツールバー, 4-18
- サイト・ナビゲーション
  - 計画, 3-5
  - サイト階層, 8-30
  - サイト階層による決定, 8-28
  - セクションの表示, 8-35
  - セクションの役割, 3-14
- サイトの計画, 3-2
  - アセットの作成, 3-7
  - 構造, 3-3
  - 構築, 3-2
  - コミュニケーション, 3-7
  - コンテンツ, 3-2, 3-3
  - コントリビュータ・データ・ファイル, 3-2, 3-6
  - コントリビュータの役割, 3-5, 3-6, 3-7
  - サイト階層, 3-6, 3-7, 3-12, 3-13
  - サイト・ナビゲーション, 3-5
  - サイトの更新, 3-4
  - サブテンプレート, 3-2, 3-7, 3-9, 3-11
  - 重要性, 3-2
  - セカンダリ・ページ, 3-12, 3-15
  - セクション, 3-14
  - デザイナの役割, 3-7
  - データの配列, 3-2
  - ネイティブ・ドキュメント, 3-6
  - ネーミング規則, 3-12
  - 複数のコントリビュータ, 3-7
  - プライマリ・ページ, 3-12, 3-15
  - フラグメント, 3-11
  - プレースホルダ, 3-10
  - プレースホルダ定義, 3-7, 3-10
  - ページ・テンプレート, 3-2, 3-4, 3-7, 3-9, 3-11, 3-14
  - 編成, 3-2
  - マネージャ, 3-5, 3-15
  - マネージャの役割, 3-7
  - メタデータ, 3-6, 3-11
  - ユーザー・アクセス, 3-6
  - 要素定義, 3-5, 3-7, 3-8
  - リージョン定義, 3-7, 3-8
  - リージョン・テンプレート, 3-2, 3-7, 3-9, 3-15
  - 例
    - 基本設計, 3-10
    - サブテンプレート, 3-2, 3-3
    - プレースホルダ, 3-2, 3-3
    - ページ・テンプレート, 3-3
    - レイアウト, 3-2
    - ワークフロー, 3-7, 3-11, 3-15
- サイトの構成ファイル, 2-3

- サイトの制御ファイル, 2-3
- サイトのセクション
  - リンク, 8-7
- サイトのナビゲート, 3-14
- サイト・プレゼンテーション・ファイル, 2-2
- サイト・プロパティ
  - CgiUrl, 8-38
  - Site ID, 8-38
  - Site Label, 8-38
  - Site Type, 8-38
  - Stopped Site Page, 8-38
  - エラー・ハンドラ, 8-38
  - Security, 8-37, 8-38
  - セクション・プロパティとの関連, 8-38
- サイト・プロパティ, セキュリティ, 8-37
- サイトへのマネージャの追加, 12-3
- サイト・マップ・ツリー・フラグメント, C-9
  - ssShowHome, C-9
  - ssTheme, C-9
- サイト・マップ・プレーン・フラグメント, C-8
  - ssClassName, C-8
  - ssFocusColor, C-8
  - ssHoverColor, C-8
  - ssShowFocus, C-8
  - ssShowHome, C-8
  - ssTextColor, C-8
- サイト・レポート
  - Web サイト・オブジェクト・レポート, 13-5
  - Web サイト使用状況レポート, 13-6
  - オブジェクト, 13-5
  - 管理者の使用, 13-5
  - コンテンツ追跡, 13-7
  - コンテンツ追跡レポート, 13-4
  - 使用状況, 13-3
  - 使用状況レポートの表示, 13-6
  - 説明, 13-2
  - タイプ, 13-2
  - デザイナーでの表示, 13-5
  - メタデータの重要性, 13-5
- 再利用可能なページ・テンプレート, 1-3, 3-14
- 作業領域, 4-3, 4-6
  - 「DESIGN」ビュー, 4-10
  - 「FORM」ビュー, 4-12
  - PREVIEW, 4-11
  - 「SOURCE」ビュー, 4-9
  - ダイアログ, 4-6, 4-8
  - タブ, 4-7, 4-8
  - ビュー, 4-8
  - 右クリック・メニュー, 4-13
- 作業領域, 定義, 用語集 -8, 用語集 -9
- 作業領域のコンテキスト依存メニュー, 4-13
- 作業領域のダイアログ, 4-6, 4-8
- 作業領域のタブ, 4-7, 4-8
- 作業領域のビュー, 4-8
- 作業領域のフォーム, 4-12
- 作業領域の右クリック・メニュー, 4-13
- 作業領域のメニュー, 4-13
- サブテンプレート, 2-9, 4-30, 7-12, 7-15, 7-25, 8-2
  - CSS の追加, 7-43
  - 「DESIGN」ビュー, 7-27
  - 「SOURCE」ビュー, 7-27
  - サイトの計画, 3-7, 3-9, 3-11
  - テンプレート
    - サブテンプレート, 1-5, 2-2, 2-20, 7-2
    - プレースホルダ定義内, 7-13, 7-15
    - プレースホルダ定義への追加, 7-15
    - プレースホルダ内, 7-25
    - プレースホルダを含む, 7-25
    - ページ・テンプレート, 3-9, 3-11
    - ページ・テンプレートとの関係, 7-25
    - リンクの追加, 8-6
  - 参照インクルード・スニペット, 9-16
  - サンプル・カスタム要素, 11-10
  - サンプル・フラグメント, C-1
    - 静的リスト, C-25
    - その他, C-26
    - テンプレートへの追加, 9-5
    - 動的リスト, C-22
    - ナビゲーション, C-2
  - サンプル・フラグメントのパラメータ
    - Column1\_Label, C-25
    - Column1\_Name, C-25
    - contributorOnly, C-28
    - ssAnimation, C-27
    - ssBorder, C-27
    - ssBottomText, C-25
    - ssButtonText, C-3, C-6, C-11, C-12, C-15, C-18
    - ssCaptionText, C-23, C-25
    - ssClassName, C-3, C-4, C-5, C-6, C-7, C-8, C-9, C-10, C-11, C-12, C-13, C-15, C-16, C-17, C-18, C-19, C-23, C-24, C-25, C-26
    - ssDisplayEnd, C-23, C-25
    - ssDisplayField, C-7, C-8, C-12, C-16, C-25
    - ssDisplayRow, C-25
    - ssDisplayStart, C-23, C-25
    - ssDocName, C-26
    - ssDocument, C-27
    - ssFocusColor, C-3, C-4, C-5, C-6, C-8, C-10, C-11, C-12, C-13, C-15, C-17, C-18, C-19
    - ssHeight, C-3, C-14, C-17, C-27
    - ssheight, C-27
    - ssHoverColor, C-3, C-4, C-5, C-6, C-7, C-8, C-9, C-10, C-11, C-12, C-13, C-15, C-16, C-17, C-18, C-19, C-22, C-24, C-25, C-26
    - ssLayout, C-26, C-27, C-28
    - ssLimitScope, C-7, C-8, C-12, C-16, C-23, C-24, C-28
    - ssLineWrap, C-6
    - ssLogo, C-3, C-14, C-17
    - ssMoreText, C-22, C-23
    - ssNoResults, C-23
    - ssNumLevels, C-4, C-10, C-11, C-18
    - ssQueryText, C-7, C-8, C-12, C-16, C-23, C-24, C-28
    - ssReportText, C-23
    - ssResultCount, C-7, C-8, C-12, C-16, C-23, C-24, C-25
    - ssResultsPage, C-6, C-11, C-12, C-15, C-18
    - ssRowEnd, C-23
    - ssRowLink, C-23
    - ssRowStart, C-23
    - ssScrolling, C-27
    - ssSeparator, C-3, C-4, C-5, C-9, C-10, C-15, C-17, C-18, C-19
    - ssShowFocus, C-8, C-13, C-17

ssShowHome, C-3, C-4, C-5, C-6, C-8, C-9,  
C-10, C-11, C-13, C-15, C-17, C-18, C-19  
ssShowNext, C-6  
ssSortField, C-7, C-8, C-12, C-16, C-23, C-24  
ssSortOrder, C-7, C-8, C-12, C-16, C-23, C-24,  
C-25  
ssStartLevel, C-4, C-10, C-11, C-18  
ssTargetNodeID, C-7, C-8, C-12, C-16, C-22,  
C-23, C-24, C-25  
ssTargetSiteId, C-3  
ssTemplate, C-26, C-27, C-28  
ssTextColor, C-3, C-4, C-5, C-6, C-7, C-8, C-9,  
C-10, C-11, C-12, C-13, C-15, C-16, C-17,  
C-18, C-19, C-22, C-24, C-25, C-26  
ssTheme, C-6, C-9  
ssWantMore, C-22, C-23  
ssWidth, C-3, C-14, C-17, C-27  
sswidth, C-27  
theme, C-29  
設定, C-29

## し

システム要件, 1-7  
事前定義済フラグメント, 2-25  
ショートカット  
    Web サイト, 6-2  
    外部アプリケーション, 5-6  
ショートカット, カスタマイズ, A-8  
書式設定ツールバー, 4-19  
新規ツールバーの作成, 5-5  
新規ドメインの追加, 6-7  
新規フラグメントの作成, 9-11  
新規メニュー  
    作成, 5-4  
新規メニューの作成, 5-4

## す

垂直方向の ASP ナビゲーション・マルチ・フラグメン  
ト, C-11  
    ssClassName, C-11  
    ssFocusColor, C-11  
    ssHoverColor, C-11  
    ssNumLevels, C-11  
    ssShowHome, C-11  
    ssStartLevel, C-11  
    ssTextColor, C-11  
垂直方向の JSP ナビゲーション・プレーン・フラグメン  
ト, C-15  
    ssClassName, C-15  
    ssFocusColor, C-15  
    ssHoverColor, C-15  
    ssTextColor, C-15  
垂直方向のナビゲーション・プレーン・フラグメント,  
C-5  
    ssClassName, C-5  
    ssFocusColor, C-5  
    ssHoverColor, C-5  
    ssTextColor, C-5  
垂直方向のナビゲーション・マルチ・フラグメント,  
C-4  
    ssClassName, C-4

    ssFocusColor, C-4  
    ssHoverColor, C-4  
    ssNumLevels, C-4  
    ssShowHome, C-4  
    ssStartLevel, C-4  
    ssTextColor, C-4  
垂直方向のメニュー・バー・フラグメント, C-9  
    ssShowHome, C-9  
水平方向の ASP ナビゲーション・マルチ・フラグメン  
ト, C-10  
    ssClassName, C-10  
    ssFocusColor, C-10  
    ssHoverColor, C-10  
    ssNumLevels, C-10  
    ssSeparator, C-10  
    ssShowHome, C-10  
    ssStartLevel, C-10  
    ssTextColor, C-10  
水平方向の JSP ナビゲーション・プレーン・フラグメン  
ト, C-15  
    ssClassName, C-15  
    ssFocusColor, C-15  
    ssHoverColor, C-15  
    ssSeparator, C-15  
    ssShowHome, C-15  
    ssTextColor, C-15  
水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン・フラグメン  
ト, C-19  
    ssClassName, C-19  
    ssFocusColor, C-19  
    ssHoverColor, C-19  
    ssSeparator, C-19  
    ssShowHome, C-19  
    ssTextColor, C-19  
水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ・フラグメン  
ト, C-18  
    ssClassName, C-18  
    ssFocusColor, C-18  
    ssHoverColor, C-18  
    ssNumLevels, C-18  
    ssSeparator, C-18  
    ssShowHome, C-18  
    ssStartLevel, C-18  
    ssTextColor, C-18  
水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメント,  
C-5  
    ssClassName, C-5  
    ssFocusColor, C-5  
    ssHoverColor, C-5  
    ssSeparator, C-5  
    ssShowHome, C-5  
    ssTextColor, C-5  
水平方向のナビゲーション・マルチ・フラグメント,  
C-4  
    ssClassName, C-4  
    ssFocusColor, C-4  
    ssHoverColor, C-4  
    ssNumLevels, C-4  
    ssSeparator, C-4  
    ssShowHome, C-4  
    ssStartLevel, C-4  
    ssTextColor, C-4

水平方向のナビゲーション・ラップ・フラグメント、  
C-6  
  ssClassName, C-6  
  ssFocusColor, C-6  
  ssHoverColor, C-6  
  ssLineWrap, C-6  
  ssShowHome, C-6  
  ssTextColor, C-6  
スクリプト, 1-5, 2-3, 7-3, 7-40, 8-28  
  JavaScript, 7-54  
  VBScript, 7-40  
  カスタマイズ, 8-28  
  カスタム構成, 7-47  
  カスタム構成スクリプト, 1-5, 2-3, 7-3, 11-11  
  検証, 1-5, 2-4, 7-3, 7-54, 8-28, 11-12  
  要素定義での使用, 8-28  
  要素の検証, 11-12, A-75  
スタイル  
  CSSの参照, 8-4  
  CSSへの格納, 8-4  
  テキストへの適用, 8-4  
スニペット  
  定義, 用語集-8  
  フラグメント, 9-2  
  フラグメントへの追加, 9-16  
  編集, 9-16  
スニペット (フラグメント), 4-32  
スニペット・プロパティ・ダイアログ, A-104

## せ

制御ファイル, 2-3  
静的コンテンツ  
  操作, 8-2  
静的リスト, A-74  
  定義, 用語集-9  
  要素管理, A-74  
  要素定義, A-74  
  要素の検証, A-75  
静的リスト一般フラグメント, C-25  
  Column1\_Label, C-25  
  Column1\_Name, C-25  
  ssBottomText, C-25  
  ssCaptionText, C-25  
  ssClassName, C-25  
  ssDisplayEnd, C-25  
  ssDisplayRow, C-25  
  ssDisplayStart, C-25  
  ssHoverColor, C-25  
  ssTextColor, C-25  
静的リスト・サンプル・フラグメント, C-25  
  ssClassName, C-25  
  ssHoverColor, C-25  
  ssTextColor, C-25  
静的リスト・フラグメント, 9-4, 9-15, C-25  
静的リスト要素の「Element」ダイアログ, A-70, A-72  
セカンダリ・ページ, 2-26, 4-4, 8-1, 8-22  
  キャッシュ, 8-39  
  コントリビュータ・データ・ファイル, 3-12  
  サイト階層, 8-28, 8-32  
  サイトの計画, 3-12, 3-15  
  説明, 3-15  
  定義, 用語集-8, 用語集-9

動的リスト, 2-27  
セキュリティ  
  サイト, 8-37  
  サイト・プロパティ, 8-37  
  セクション, 8-37  
  セクション・プロパティ, 8-37  
セキュリティ・モデル, 3-6  
セクション  
  ID, 8-29  
  Webサイトへの追加, 8-29  
  カスタム・プロパティの定義, 8-40  
  サイト階層, 3-14  
  サイト階層での移動, 8-30  
  サイト・ナビゲーションへの追加, 8-35  
  サイト・ナビゲーションへの表示, 8-35  
  削除, 8-30  
  セカンダリ・ページ, 2-26, 4-4  
  定義, 用語集-9  
  名前, 3-14, 8-28  
  名前のハイパーリンク, 8-29  
  名前の変更, 8-29  
  ネーミング規則, 3-14  
  ハイパーリンクとしての名前, 8-29  
  プライマリ・ページ, 2-26, 4-4  
  ブレースホルダ・マッピング, 2-18  
  ページ・テンプレート, 8-28  
  ページ・テンプレートの追加, 7-18  
  リンク, 4-26  
  リンク・ターゲット, 4-28, 8-8, 8-11, 8-13, 8-15  
セクションID, 8-29  
セクションの移動, 8-30  
セクション・プロパティ, 8-39  
  Max Age (caching), 8-39  
  Max Age Secondary, 8-39  
  Primary Page Placeholder Definition Mappings,  
    8-21, 8-23  
  Secondary Page Placeholder Definition Mapping,  
    8-21, 8-23  
  サイト・プロパティとの関連, 8-38  
  Security, 8-37  
  セクション・プロパティの表示, 8-38  
  編集, 8-38  
セクション・プロパティ, セキュリティ, 8-37  
セクションまたはサイトのセキュリティの変更, 8-37  
セクション・ラベル, A-23  
接続  
  Site Connection Manager, 4-24  
接続マネージャ, 8-1  
絶対パス, 4-29  
設定  
  マネージャ, 12-4, 12-5, 12-6  
  マネージャのカスタム, 12-3  
  マネージャのデフォルト, 12-3

## そ

相対パス, 4-29  
その他のメディア, 1-5, 2-3

## た

ターゲット・セクション, 4-28, 8-8, 8-11, 8-13, 8-15  
ダイアログ

Advanced, B-20  
Advanced Element Validation, A-89  
Assign Region Content, 10-3, A-91  
Choose Default Link Format, A-21  
Choose Document Types, A-47  
Choose Region Content, A-93  
Contribution Element, A-125  
Contribution Region, A-44  
Create Hyperlink, 8-16  
Create New Site, A-19  
「Custom Element Settings」, A-69  
Customize, 5-3, 5-4, 5-6, 5-11, A-4  
「Customize」ダイアログ - 「Commands」タブ, A-4  
「Customize」ダイアログ - 「Keyboard」タブ, A-8  
「Customize」ダイアログ - 「Log File」タブ, A-16  
「Customize」ダイアログ - 「Menu」タブ, A-10  
「Customize」ダイアログ - 「Miscellaneous」タブ, A-15  
「Customize」ダイアログ - 「Options」タブ, A-11  
「Customize」ダイアログ - 「Source View」タブ, A-12  
「Customize」ダイアログ - 「Toolbars」タブ, A-5  
「Customize」ダイアログ - 「Tools」タブ, A-7  
「Customize」ダイアログ - 「Warning Dialogs」タブ, A-14  
Define Custom Section Property, A-25  
Define Environment Properties, A-22  
Define Placeholder, 8-3, 8-24, A-118  
Dynamic Conversion, 8-6, 10-3, A-123  
Dynamic List Settings, A-80  
Edit Query Text, A-48, A-102  
Enable Metadata Modification, A-33  
Fragment Assets, A-98  
Fragment Elements, A-99  
Fragment Parameters, 9-2, 9-5, 9-6, 9-7, 9-20, 12-3, A-106  
「Fragment Parameters」, 9-22, A-100  
「Fragment Preview」, 9-5  
Generate Unique Region Content, A-94  
Image Only Element Validation, A-88  
Link Settings, A-83  
Link Target Options, 8-7  
Link Wizard, A-36  
Link Wizard - 「Check-in content」, A-41  
Link Wizard - 「Choose a section」, A-37  
Link Wizard - 「Choose content file」, A-39  
Link Wizard - 「Choose target section」, A-40  
Link Wizard - 「Choose type of link」, A-36  
Link Wizard - 「Choose URL format」, A-38  
Link Wizard - 「Confirm link」, A-42  
Link Wizard - 「Link Target Options」, A-43  
「Manage Site」ページ, A-109  
「Native Document Conversion Settings」, 7-65, 10-4, A-49, A-50  
New Fragment, 9-11  
New Item Settings, A-90  
New Option, A-103  
New Section, A-23  
Override Environment Properties, B-20

Placeholder Definition Mappings, 8-3, 8-21, 8-22, A-116, A-117  
Placeholder Section Properties, 8-23, A-112, A-113  
Plain Text Element Validation, A-86  
Region Content Options, A-46  
Region Definition, A-81  
Save Fragment, 9-26, A-108  
Select CSS Classes, A-84  
Select Home Page Template, A-26  
Select HTML Tags, A-87  
Select (Primary) Page Template, 8-33  
Select Primary Page Template, A-28  
Select (Secondary) Page Template, 8-34  
Select Secondary Page Template, A-30  
Select Section, A-35  
Select Site, A-34  
Site Addresses, A-20  
Site Asset Categories, A-32  
「Site Connection Details」ダイアログ, 6-4, A-18  
Snippet Properties, A-104  
Static List Element Validation, A-75  
Switch Content ウィザード, A-119  
Switch Content ウィザード - 「Check-in content」, A-121  
Switch Content ウィザード - 「Choose content file」, A-120  
Switch Content ウィザード - 「Choose Region Content」, A-119  
Switch Content ウィザード - 「Switch Content Confirmation」, A-121  
Switch Region Template, A-122  
デザインとコントリビュータでの違い, A-122  
Upload Fragment Library, 9-28  
WYSIWYG Element Validation, A-85  
WYSIWYG 要素, A-52, A-55  
イメージ要素, A-63, A-65  
カスタム構成スクリプト, A-124  
カスタム・セクション・プロパティ, A-24  
カスタム要素, A-67, A-68  
サイト・アドレス, 6-6  
Site Connection Manager, 6-4, 6-5, A-17  
静的リスト要素, A-70, A-72  
タブへの切替え, 4-8  
動的リスト要素, A-76, A-78  
フラグメント・エディタ, 9-2, 9-11, A-95  
フラグメント・プロパティ, 9-8, A-97  
プレースホルダの定義, A-114  
プレーン・テキスト要素, A-59, A-61  
変換の定義, A-48  
マネージャ構成設定, 12-5, A-110  
要素, 8-27, A-82  
要素の選択, A-74  
タグ, 不明の扱い, A-13  
タグ属性, 新しい行への配置, A-13  
タブ  
ダイアログへの切替え, 4-8  
タブ1つ当たりの文字数, 設定, A-13  
タブ・サイズ, 設定, A-13  
単純インクルード・スニペット, 9-16

## つ

### ツールチップ

- コントリビュータ, 7-10
- リージョン定義に追加, 7-10

### ツールバー, 4-3, 4-17

- Button Appearance, 5-5
- HTML, 4-20
- 「Reset All」オプション, 5-6
- 「Reset」オプション, 5-6
- 「Site Assets」ペイン, 4-14
- カスタマイズ, 5-5
- カスタマイズ・ダイアログ, A-5
- コントリビューション (コントリビュータ), 4-39
- コントリビュータ・エディタの要素ツールバー, 4-39
- コントリビュータのインタフェース, 7-6
- サイト, 4-18
- 作成, 5-4
- 書式設定, 4-19
- 新規作成, 5-5
- 表, 4-21
- 表示と非表示, 5-2, 5-5
- 標準, 4-17
- プレースホルダ, 4-22
- 要素定義による編集, 7-4
- リセット, 5-6

### ツールバーのカスタマイズ, 5-5

### ツールバーの非表示, 5-5

### ツールバーの表示, 5-5

### ツールバーのリセット, 5-6

### ツールボックス, 4-3, 4-16

- Filter default libraries, 9-4
- Filter fragments in other languages, 9-4
- Filter libraries from other sites, 9-4
- サンプル・フラグメント, 9-3
- 静的リスト・フラグメント, 9-4
- 定義, 用語集 -10
- 動的リスト・フラグメント, 9-4
- ナビゲーション・フラグメント, 9-4
- フラグメント・アイコンの変更, 9-15
- フラグメント・カテゴリ, 2-25, 4-16
- フラグメントの追加, 9-5

### ツールボックスからのフラグメントの削除, 9-12

## て

### 定義

- プレースホルダ, 1-4, 2-3, 2-17, 2-18, 7-2
- 変換, 1-5, 2-4, 7-3
- 要素, 1-4, 2-3, 2-13, 7-2
- リージョン, 1-4, 2-3, 2-14, 7-2

### データ・ファイル, 1-5, 2-3, 2-23, 2-24, 7-2

### テキスト

- 書式設定, 8-4
- スタイルの適用, 8-4

### デザイン, 2-5

- HTML ツールバー, 4-20
- Link Wizard, 4-25
- 「Properties」ペイン, 4-3, 4-4
- 「Site Assets」ペイン, 4-3, 4-14
- Site Connection Manager, 4-24
- Switch Content ウィザード, 4-29

### Web サイトの計画, 3-1

- アプリケーション, 1-2
- インタフェースのカスタマイズ, 5-1
- ウィンドウとペインのカスタマイズ, 5-2
- 開始, 4-2
- コントリビューション・ツールバー, 4-22
- 最小要件, 1-7
- サイト階層, 4-3
- サイト階層の計画, 3-13
- サイト接続, 6-2
- サイト・ツールバー, 4-18
- 作業領域, 4-3, 4-6
- 書式設定ツールバー, 4-19
- ツールバー, 4-3, 4-17
- ツールボックス, 4-3, 4-16
- 定義, 用語集 -10
- 標準ツールバー, 4-17
- 表ツールバー, 4-21
- フラグメント・エディタ, 4-32
- プレースホルダ・ツールバー, 4-22
- メイン・ウィンドウ, 4-2
- 役割, 3-5
- ログ・ファイル, 4-23
- デザイナー, 説明, 1-2
- デザイナー・ツールバーのボタン, 4-17
- デザイナーの起動, 4-2
- デザイナーのメイン・ウィンドウ, 4-2
- デザイン・ビュー・コード, 9-5
- デフォルトの Web サイト・セクション, 4-28, 8-8, 8-11, 8-13, 8-15
- デフォルトの検証スクリプト, 11-12
- デフォルトのプロジェクト情報, 4-40
- デフォルトのリンク形式, 選択, 8-17
- テンプレート
  - ページ, 1-4, 2-2, 2-21, 7-2
  - リージョン, 1-5, 2-2, 2-14, 7-2
- テンプレートへのフラグメントの追加, 9-5

## と

### 動的コンテンツ

#### 操作, 8-2

### 動的変換, 14-4

- インライン, 14-4
- 設定の指定, 7-65
- ネイティブ・ドキュメント, 8-6
- ランダム, 14-4
- リージョン・テンプレートへの追加, 8-6

### 動的変換 IFrame フラグメント, C-27

- ssBorder, C-27
- ssDocument, C-27
- ssHeight, C-27
- ssLayout, C-27
- ssScrolling, C-27
- ssTemplate, C-27
- ssWidth, C-27

### 動的変換フラグメント, 10-5, C-26

- ssDocName, C-26
- ssLayout, C-26
- ssTemplate, C-26

### 動的リスト

- セカンダリ・ページ, 2-27
- 定義, 用語集 -10

ワークフロー, 14-4  
動的リスト一般フラグメント, C-22  
動的リスト・フラグメント, 9-4, 9-15, C-22  
動的リスト・プレーン・フラグメント, C-22  
  ssCaptionText, C-23  
  ssClassName, C-23  
  ssDisplayEnd, C-23  
  ssDisplayStart, C-23  
  ssHoverColor, C-22  
  ssLimitScope, C-23  
  ssMoreText, C-23  
  ssNoResults, C-23  
  ssQueryText, C-23  
  ssReportText, C-23  
  ssResultCount, C-23  
  ssRowEnd, C-23  
  ssRowLink, C-23  
  ssRowStart, C-23  
  ssSortField, C-23  
  ssSortOrder, C-23  
  ssTargetNodeID, C-23  
  ssTextColor, C-22  
  ssWantMore, C-23  
動的リスト・ページ・フラグメント, C-22  
  ssMoreText, C-22  
  ssTargetNodeID, C-22  
  ssWantMore, C-22  
動的リスト要素の「Element」ダイアログ, A-76, A-78  
トークン URL 形式, 4-29  
トップ・ナビゲーション・タブ・フラグメント, C-6  
  ssClassName, C-6  
  ssFocusColor, C-6  
  ssHoverColor, C-6  
  ssShowHome, C-6  
  ssShowNext, C-6  
  ssTextColor, C-6  
  ssTheme, C-6  
ドメインベース・アドレス, 6-8  
ドメイン名アドレス, 6-5, 6-8, 用語集-7  
ドメイン名のマッピング, 6-6  
  「Manage Web Site Addresses」ページの使用, 6-7  
  デザイン, 6-6  
ドロップポイント・スニペット, 9-16

## な

---

ナビゲーション  
  定義, 用語集-11  
  リンクの使用, 8-6  
ナビゲーション・フラグメント, 9-4  
  ハイパーリンク, 8-28  
ナビゲーション・ホーム・ロゴ・フラグメント, C-3  
  ssHeight, C-3  
  ssLogo, C-3  
  ssWidth, C-3

## ね

---

ネイティブ・ドキュメント, 1-5, 2-3, 2-23, 2-24, 3-6, 4-31, 4-33, 7-2, 7-33  
  Dynamic Converter のテンプレート選択ルール, 10-4  
  Web サイト全体での共有, 3-15  
  コントリビューション・リージョンへの追加, 10-2

コントリビューション・リージョンへの割当て, 10-2  
コントリビュータ・データ・ファイルと対比した制御, 10-3  
サイトの計画, 3-6  
サイトへの発行, 3-6  
使用するための要件, 10-2  
追加の構成要件, 10-2  
定義, 用語集-11  
動的な変換, 10-5  
動変換, 8-6  
フラグメントとの併用, 10-5  
変換定義, 7-63, 8-6, 10-3  
変換テンプレート, 10-3  
変換テンプレートの指定, 10-3  
変換テンプレートの使用, 10-3  
編集, 7-33, 10-2  
メタデータ, 10-2  
リンク, 4-27, 8-11  
ワークフロー, 14-4  
ワークフロー内, 14-4  
ネイティブ・ドキュメントの動変換, 10-2, 10-5  
ネイティブ・ドキュメントのフラグメント  
  Dynamic Conversion IFrame, 10-5  
  Random Conversion, 10-5  
  動変換, 10-5  
ネーミング規則, 7-8  
  サイト・アセット, 3-3  
  サイト階層, 3-4  
  サイトの計画, 3-12  
  セクション, 3-14  
  場所, 3-4  
  プレースホルダ定義, 7-15  
  ページ・テンプレート, 3-4, 3-12  
  要素定義, 3-8, 8-27  
  リージョン定義, 3-8  
  リージョン・テンプレート, 3-9

## の

---

ノード ID, 8-29

## は

---

バージョン情報, 4-40  
ハイパーリンク  
  セクション, 8-35  
  ナビゲーション・フラグメント, 8-28  
ハイパーリンク, 「リンク」も参照  
パスベース・アドレス, 6-8  
パスベースの URL, 4-29, 8-7, 8-9, 8-12, 8-13, 8-15  
パス名  
  サイト・アドレスの変更, 6-8  
パラメータ  
  新規追加, 9-21  
  定義, 用語集-11  
  フラグメントでのカスタマイズ, 9-6  
  編集, 9-20  
パラメータ (フラグメント), 4-33

## ひ

### ビュー

- 「DESIGN」ビュー, 4-10
- FORM, 4-12
- PREVIEW, 4-11
- 「SOURCE」ビュー, 4-9

### 表

- ツールバー, 4-21

### 表示オプションの設定

- Show full menus after a short delay, 5-10
- Show ScreenTips on toolbars, 5-10
- Show shortcut keys in ScreenTips, 5-10
- 最近使用したコマンドを最初に表示, 5-10

### 表示されるセクションの順序, 変更, 8-30

### 標準ツールバー, 4-17

### 表ツールバー, 4-21

## ふ

### ファイル

- Cascading Style Sheet, 1-5, 2-3, 2-25, 7-3
- イメージ, 1-5, 2-3, 7-3
- カスタム構成スクリプト, 1-5, 2-3, 7-3
- カスタム要素フォーム, 1-5, 2-4, 7-3
- 検証スクリプト, 1-5, 2-4, 7-3
- コンテンツ, 2-3, 2-23
- コントリビュータ・データ・ファイル, 1-5, 2-3, 2-23, 2-24, 7-2
- サブテンプレート, 1-5, 2-2, 2-20, 7-2
- スクリプト, 1-5, 2-3, 7-3
- 制御と構成, 2-3
- ネイティブ・ドキュメント, 1-5, 2-3, 2-23, 2-24, 7-2
- フラグメント・ライブラリ, 1-5, 2-4, 7-3
- プレースホルダ定義, 1-4, 2-3, 7-2
- プレゼンテーション, 2-2
- プロジェクト, 2-26
- ページ・テンプレート, 1-4, 2-2, 2-21, 7-2
- 変換定義, 1-5, 2-4, 7-3
- マネージャ構成設定, 1-5, 2-4, 7-3
- メディア, 1-5, 2-3
- 要素定義, 1-4, 2-3, 7-2
- リージョン定義, 1-4, 2-3, 7-2
- リージョン・テンプレート, 1-5, 2-2, 7-2
- リンク, 4-27, 8-8, 8-11, 8-13, 8-14

### ファイル・システム, ページ・テンプレートの追加, 8-31, 8-33, 8-34

### ファイル・システムからのページ・テンプレートのインポート, 8-31, 8-33, 8-34

### フォルダ

- Content Server の機能, 1-3
- フォルダベース・アドレス, 6-8
- フォルダ名アドレス, 6-5, 6-8, 用語集 -7
- 不明なタグ, 扱い, A-13
- プライマリ・ファイル, 8-15
- プライマリ・ページ, 2-26, 4-4, 8-1, 8-22, 8-32
  - キャッシュ, 8-39
  - サイト階層, 8-28, 8-32
  - サイトの計画, 3-12, 3-15
  - 説明, 3-15
  - 定義, 用語集 -11
  - 名前の変更, 6-8

### フラグメント, 2-8, 2-25, 4-3, 7-57, 8-3

- ASP エクスプローラ・メニュー・バー, C-10
- ASP エラー・ハンドラ・メッセージ, C-28
- ASP 検索結果ブレーン, C-12
- ASP 検索ボックス・ブレーン, C-11
- ASP 検索ボックス・ブレーン (サーバー), C-12
- ASP サイト・マップ・ブレーン, C-13
- ASP 静的リスト・サンプル, C-26
- ASP 動的リスト・シンプル, C-24
- ASP 動的リスト・ページ, C-23
- ASP ブレドドグラム・ブレーン, C-9
- ASP ブレドドグラム・ブレーン (サーバー), C-9
- CSP サンプル動的リスト, C-24
- CSP サンプル・ナビゲーション (クライアント), C-13
- CSP サンプル・ナビゲーション (サーバー), C-14
- CSP サンプル・ページ・タイトル, C-28
- CSS, 9-12
- CSS の挿入, 8-4, 8-5
- Dynamic Converter, 14-4
- Dynamic Converter との併用, 10-5
- 「dynamiclist」タイプ, 9-15
- Edit Fragment Instance, 9-7
- Filter default libraries, 9-4
- Filter fragments in other languages, 9-4
- Filter libraries from other sites, 9-4
- Flash サンプル, C-27
- HTML, 9-12
- IDOC 検索ボックス・ブレーン, C-18
- Idoc スクリプト, 9-12
- IDOC ナビゲーション・ホーム・ロゴ, C-17
- IDOC フラグメント, C-20
- IDOC ブレドドグラム・ブレーン, C-17
- JavaScript, 9-12
- JSP 検索結果ページ, C-16
- JSP 検索ボックス・ブレーン, C-15
- JSP サイト・マップ・ブレーン, C-17
- JSP 動的リスト・ブレーン, C-24
- JSP ナビゲーション・ホーム・ロゴ, C-14
- JSP の使用, 9-19
- 「navigation」タイプ, 9-15
- PageHitCount, C-28
- RSET サイト・マップ・ブレーン, C-19
- RSET ブレドドグラム・ブレーン, C-18
- Site Studio マネージャ, 12-2, C-29
- 「staticlist」タイプ, 9-15
- XML, 9-12
- アセット, 4-32, 9-18
- アセットの削除, 9-19
- アセットの追加, 9-18
- アセットの編集, 9-19
- インライン・インクルード・スニペット, 9-16
- エクスプローラ・メニュー・バー, C-3
- エラー・ハンドラ・メッセージ, C-27
- カスタマイズ, 9-6, 9-20
- カテゴリ, 2-25, 4-16, 9-3
- 管理, 4-40
- 言語のフィルタ, 5-11, 9-4
- 検索結果ブレーン, C-8
- 検索結果ページ, C-7
- 検索ボックス, C-6
- 異なるパラメータの選択, 9-6
- コピーと編集, 4-32



コピーの編集, 9-8  
 コピーライト・サンプル, C-26  
 コピーライト・サンプル・フラグメント, C-26  
 コンテンツ・サーバー, 9-10  
 コンテンツ・サーバーからの削除, 9-12  
 コンテンツ・サーバーからのダウンロード, 6-3  
 サイトの計画, 3-11  
 サイト・マップ・ツリー, C-9  
 サイト・マップ・プレーン, C-8  
 削除, 9-11  
 作成, 9-11  
 サブテンプレートでの使用, 8-3, 9-2  
 参照インクルード・スニペット, 9-16  
 サンプル, 7-57, 9-3, C-1  
 サンプル・フラグメント, C-1  
 処理, 9-2  
 新規パラメータの追加, 9-21  
 垂直方向の ASP ナビゲーション・マルチ, C-11  
 垂直方向の JSP ナビゲーション・プレーン, C-15  
 垂直方向のナビゲーション・プレーン, C-5  
 垂直方向のナビゲーション・マルチ, C-4  
 垂直方向のメニュー・バー, C-9  
 水平方向の ASP ナビゲーション・マルチ, C-10  
 水平方向の JSP ナビゲーション・プレーン, C-15  
 水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン, C-19  
 水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ, C-18  
 水平方向のナビゲーション・プレーン, C-5  
 水平方向のナビゲーション・マルチ, C-4  
 水平方向のナビゲーション・ラップ, C-6  
 スクリプト言語, 9-14  
 スニペット, 4-32, 9-2, 9-16  
 スニペットの作成に使用される言語, 9-17  
 スニペットの追加と編集, 9-16  
 すべての言語の表示, 5-11, 9-4  
 静的リスト, 9-4, C-25  
 静的リスト一般, C-25  
 静的リスト・サンプル, C-25  
 静的リスト・フラグメント, 9-4  
 説明, 9-2  
 その他, C-26  
 タイプ, 9-15  
 単純インクルード・スニペット, 9-16  
 追加と編集, 9-2  
 ツールボックス, 4-16  
 ツールボックスからの削除, 9-12  
 ツールボックスのアイコンの変更, 9-15  
 定義, 用語集 -11  
 デザイン・ビュー・コード, 9-5  
 テンプレートへの追加, 8-3, 9-5  
 動的変換, 10-5, C-26  
 動的変換 IFrame, C-27  
 動的リスト, 9-4, C-22  
 動的リスト一般, C-22  
 動的リスト・フラグメント, 9-4  
 動的リスト・プレーン, C-22  
 動的リスト・ページ, C-22  
 トップ・ナビゲーション・タブ, C-6  
 ドロップポイント・スニペット, 9-16  
 ナビゲーション, 8-6, 9-4, C-2  
 ナビゲーション・フラグメント, 9-4  
 ナビゲーション・ホーム・ロゴ, C-3  
 ナビゲーション・リンク, 8-28  
 ネイティブ・ドキュメント, 10-5  
 パラメータ, 4-33, 9-20  
 パラメータの編集, 9-6, 9-20  
 含まれるコード, 9-25  
 フラグメント・エディタ・ダイアログ, 9-8, 9-11, 9-13  
 フラグメントのフィルタ, 9-4  
 フラグメントのプロパティの指定, 9-14  
 フラグメント・ライブラリ, 7-57  
 フラグメント・ライブラリのアップロード, 9-28  
 フラグメント・ライブラリのダウンロード, 9-28  
 フラグメント・ライブラリへの保存, 9-26  
 ブレッドクラム・プレーン, C-3  
 プレビュー, 9-5  
 プロパティ, 4-32, 9-14  
 ページ・テンプレート上, 7-17  
 ページ・テンプレートでの使用, 8-3, 9-2  
 ページ・テンプレートへのコンテンツの追加, 8-42  
 ページ・テンプレートへの追加, 9-5  
 ヘッド・スニペット, 9-16  
 編集, 4-32, 7-57, 9-8  
 ボディ・スニペット (最後), 9-16  
 ボディ・スニペット (最初), 9-16  
 マネージャ, 12-3, 12-4  
 要素, 4-32  
 要素の削除, 9-24  
 要素の追加, 9-23  
 要素の編集, 9-24  
 ライブラリ, 7-57, 9-25  
 ライブラリのアップロードとダウンロード, 9-28  
 ライブラリ名, 9-15  
 ランダム変換, 10-5, C-28  
 リージョン・テンプレートでの使用, 8-3, 9-2  
 リスト・フラグメント, 9-5  
 ログイン・サンプル, C-3  
 ロゴ・サンプル, C-27  
 フラグメント・アセット, 9-18  
 フラグメント・エディタ, 4-32  
 定義, 用語集 -11  
 フラグメント・エディタ・ダイアログ, 9-2, 9-8, 9-11, 9-13, 12-3, 12-6, A-95  
 フラグメント・スニペット  
   作成に使用される言語, 9-17  
 フラグメント内の JavaScript, 9-25  
 フラグメントに関連付けられたアイコンの変更, 9-15  
 フラグメントのアイコン, 変更, 9-15  
 フラグメントのコピーと編集, 4-32  
 フラグメントのコピーの編集, 9-8  
 フラグメントの削除, 9-11  
 フラグメントの追加, 9-2  
 フラグメントのプレビュー, 9-5  
 フラグメントのプロパティ, 定義, 用語集 -11  
 フラグメントのプロパティの指定, 9-14  
 フラグメントの編集, 4-32, 9-2, 9-8  
 フラグメントの要素の削除, 9-24  
 フラグメントの要素の編集, 9-24  
 フラグメントのライブラリ, 1-5, 2-4, 7-3  
 フラグメント・パラメータ  
   追加、編集および削除, 9-20  
 フラグメント・プロパティ・ダイアログ, 9-8, A-97  
 フラグメントへの要素の追加, 9-23  
 フラグメント・ライブラリ, 1-5, 2-4, 2-25, 4-40, 7-3, 7-57  
 SS\_Fragments\_CSP\_Examples, 9-25

- SS\_Fragments\_Dynamic, 9-25
- SS\_Fragments\_Examples, 9-25
- SS\_Fragments\_IDOC, 9-25
- SS\_Fragments\_JSP, 9-25
- SS\_Fragments\_Plain, 9-25
- アップロードとダウンロード, 9-28
- 説明, 9-25
- 定義, 用語集-12
- フラグメントの保存, 9-26
- フラグメント・ライブラリ SS\_Fragments\_ASP, 9-25
- フラグメント・ライブラリのアップロード, 9-28
- フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード, 9-28
- フラグメント・ライブラリのダウンロード, 9-28
- フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存, 9-26
- フラグメント・ライブラリ読取り専用, 9-27
- プレースホルダ, 2-9, 2-16, 7-12, 8-3
  - コントリビュータ・データ・ファイル, 7-29
  - サイトの計画, 3-10
  - サブテンプレート内, 7-12, 7-25
  - サブテンプレートを含む, 7-25
  - 定義, 8-22
  - プレースホルダ定義と併用, 7-25
  - ページ・テンプレート上, 7-20
  - マッピング, 2-18
- プレースホルダ・タグ
  - プレースホルダ定義の直接指定, 8-24
- プレースホルダ・ツールバー, 4-22
- プレースホルダ定義, 1-4, 2-3, 2-9, 2-17, 2-18, 3-10, 7-2, 7-12, 8-20, 8-21
  - コンテンツ追跡レポートのオプション, 13-7
  - サイトの計画, 3-7
  - サイトへの追加, 7-16
  - サブテンプレートを含む, 7-13, 7-15
  - 説明, 7-15
  - デフォルト, 2-18
  - ネーミング規則, 7-15
  - プレースホルダ・タグへの指定, 8-24
  - ページ・テンプレート上, 7-17
  - 編集, 7-13, 7-15
  - 包括的な方法, 2-18
  - マッピング, 8-3
  - リージョン定義を含む, 7-12, 7-13, 7-15
  - リージョン・テンプレートを含む, 7-13, 7-15, 7-21
  - ワークフロー, 14-3
- プレースホルダ定義へのプレースホルダのマッピング, 2-18
- プレースホルダ定義マッピング, 8-3
  - グローバル, 8-21, 8-22
  - セクション・プロパティ, 8-21, 8-23
  - タグ内, 8-21
- プレースホルダのタグ, 2-16
- プレースホルダの定義ダイアログ, A-114
- プレーン・テキスト要素の「Element」ダイアログ, A-59, A-61
- プレゼンテーション, コンテンツからの分離, 2-2
- プレゼンテーションとコンテンツの分離, 2-2
- プレゼンテーション・ファイル, 2-2
- プレゼンテーション・モデル, 2-6
- ブレイクタグ・プレーン・フラグメント, C-3
  - ssClassName, C-3
  - ssHoverColor, C-3

- ssSeparator, C-3
- ssTextColor, C-3
- プロジェクト・ステータス, 6-10
- プロジェクト・ファイル, 2-26, 4-40, 6-9
  - コンテンツ情報ページ, 6-10
  - サイト階層, 6-10
  - 削除, 6-5
  - ステータス, 6-10
  - 説明, 6-9
  - 変更, 6-10
  - 編集, 6-9
  - メタデータ値の指定, 6-9
- ブロックレベルのタグ, インデント, A-13
- プロトコル指定子, 6-6
- プロパティ
  - カスタム・セクション, 8-39
  - フラグメント, 9-14
- プロパティ (フラグメント), 4-32
- プロパティ・カテゴリ, 4-4



---

- ペイン
  - 移動とドッキング, 5-3
  - サイズ変更, 5-2
  - 表示と非表示, 5-2
- ペインの移動, 5-3
- ペインのサイズ変更, 5-2
- ペインのドッキング, 5-3
- ペインの非表示, 5-2
- ペインの表示, 5-2
- ペインの枠線
  - ドラッグ, 5-2
- ペインの枠線のドラッグ, 5-2
- ページ
  - セカンダリ, 2-26
  - プライマリ, 2-26
- ページ・テンプレート, 1-4, 2-2, 2-8, 2-21, 7-2, 7-12, 7-17, 8-2
  - ASP ファイル拡張子, 8-31, 8-32, 8-34
  - CSS の追加, 7-43
  - 「DESIGN」ビュー, 7-20
  - HCSP, 7-18
  - HCSP ファイル拡張子, 8-31, 8-32, 8-34
  - HTML 表の使用, 8-5
  - JSP ファイル拡張子, 8-31, 8-32, 8-34
  - 「SOURCE」ビュー, 7-20
  - Web サイトでの表示, 8-28
  - アセット・レイアウト, 7-20
  - 既存のテンプレートに基づいて作成, 8-31, 8-33, 8-34
  - 継承, 8-31, 8-33, 8-34
  - コンテキスト・データの表示, 7-18
  - コンテンツ情報ページ, 8-19
  - サイト階層への追加, 8-31, 8-33, 8-34
  - サイトの計画, 3-7, 3-9, 3-11, 3-14
  - 再利用, 1-3
  - サブテンプレート, 3-9
  - サブテンプレートとの関係, 7-25
  - セカンダリ・ページ, 3-12, 4-4
  - セクションへの追加, 7-18
  - 説明, 3-15
  - ターゲットとしてのプライマリ・ページ, 8-28

- 追加コンテンツ用のセカンダリ・ページ, 8-28
- テキストの書式設定, 8-4
- テキストの追加, 8-4
- ネーミング規則, 3-12, 8-32
- ファイル・システムに格納されたファイル, 8-31, 8-33, 8-34
- 複数作成する場合と再利用する場合の比較, 3-14
- 複数作成する場合のメリット, 3-14
- プライマリ・ページ, 3-12, 4-4
- フラグメント, 9-2
- フラグメントの削除, 9-11
- フラグメントの追加, 8-42, 9-5
- フラグメントを含む, 7-17
- プレースホルダ定義を含む, 7-17
- プレースホルダを含む, 7-20
- 別の Web サイトの URL の追加, 8-33
- 別のエディタによる HTML 表レイアウト, 8-6
- 編集, 7-20
- ホームページとしての割当て, 8-31
- マネージャのアクセスの制御, 7-59
- メタデータ値, 8-32
- リンクの追加, 8-6
- リンクの編集, 8-16
- ページ・テンプレートの継承, 8-31, 8-33, 8-34
- ページ・テンプレートの再利用, 1-3, 8-31, 8-33, 8-34
- ページ・レイアウト, 2-25
- ヘッド・スニペット, 9-16
- 変換設定
  - 変換テンプレートの使用, 10-4
  - 変換ルールの使用, 10-4
- 変換定義, 1-5, 2-4, 7-3, 7-63, 10-3
- 「SOURCE」ビューでの追加, 10-3
- ネイティブ・ドキュメント, 7-63, 8-6, 10-3
- リージョン・テンプレートへの追加, 10-3
- 変換テンプレート
  - ネイティブ・ドキュメント, 10-3
  - ネイティブ・ドキュメントとの併用, 10-3
- 変換の定義ダイアログ, A-48
- 変更の比較
  - コントリビュータ, 8-45
  - デザイナー, 8-45
- 編集
  - プレースホルダ定義, 7-13
  - リンクの削除, 8-16

## ほ

- 包括的な方法のプレースホルダ定義, 2-18
- ホームページ, 8-31
  - セカンダリ・ページ, 8-32
  - 定義, 用語集 -13
  - プロパティ, 8-32
- ポップアップ・メニュー
  - コマンドの削除, 5-9
  - コマンドの追加, 5-8
- ポップアップ・メニューからのコマンドの削除, 5-9
- ポップアップ・メニューへのコマンドの追加, 5-8
- ボディ・スニペット (最後), 9-16
- ボディ・スニペット (最初), 9-16

## ま

- マネージャ, 2-5, 3-5, 3-15, 4-35, 4-40, 7-2, 7-59, 12-2
  - Web サイトでの配置, 12-2
  - 外観のカスタマイズ, 12-2
  - カスタム設定, 12-3
  - 機能のカスタマイズ, 12-2
  - 構成, 7-59
  - 構成設定ファイル, 12-4, 12-5, 12-6
  - コンテンツ・サーバーからのアクセス, 12-2
  - サイトの計画, 3-5
  - サイトへの追加, 12-3
  - セクションへの追加, 12-2
  - 定義, 用語集 -13
  - テーマ, 12-3
  - デザイナーのコンポーネント, 7-59
  - デフォルト設定, 12-3
  - 表示, 12-2
  - フラグメント, 12-3, 12-4
  - フラグメント・エディタ, 12-3
  - フラグメントとしての追加, 12-2
- マネージャ, 説明, 1-2
- マネージャ構成設定, 1-5, 2-4, 7-3, 7-59, 12-2, 12-4, 12-5, 12-6
  - 「SOURCE」ビュー, 7-61
  - デフォルト設定, 7-59
  - 編集, 7-59
- マネージャ構成設定のカスタマイズ, 12-4, 12-5
- マネージャ構成設定ファイル
  - カスタマイズ, 12-4, 12-5
  - パラメータ, 12-6
- マネージャのアクセス
  - サイト階層, 7-61
- マネージャの色のスキーム, 12-3
- マネージャのカスタム設定, 12-3
- マネージャの構成設定, 1-5, 2-4, 7-3
- マネージャの設定, 1-5, 2-4, 7-3, 12-1
- マネージャのテーマ, 12-3
- マネージャのデフォルト設定, 12-3
- マネージャの表示, 12-2

## め

- メタデータ
  - xRegionDefinition, 8-27
  - xWebsiteObjectType, 11-10
  - サイトの計画, 3-6, 3-11
  - サイト・レポートでの重要性, 13-5
  - ネイティブ・ドキュメント, 10-2
  - プロジェクト・ファイルに割り当てる値の指定, 6-9
  - リージョン定義, 7-10
  - リージョン・テンプレート, 8-27
  - レポート
    - レポート
    - 適切なメタデータの使用, 13-3
- メタデータ・フィールド
  - Exclude From Lists, 2-4
  - Region Definition, 2-5
  - Web Site Object Type, 2-4
  - Web Site Section, 2-5
  - Web Sites, 2-4
- メディア・ファイル, 1-5, 2-3

## メニュー

Customize, 5-9

アニメーション, 5-9

外観, 5-9

カスタマイズ, 5-4

作成, 5-4

メニュー, カスタマイズ, A-4, A-10

## ゆ

### ユーザー

管理者, 2-5

コントリビュータ, 2-5

デザイナー, 2-5

マネージャ, 2-5

### ユーザー・インタフェース

Advanced Element Validation, A-89

Assign Region Content, A-91

Choose Default Link Format, A-21

Choose Document Types, A-47

Choose Region Content, A-93

Contribution Element, A-125

Contribution Region, A-44

Create New Site, A-19

「Custom Element Settings」, A-69

Customize, A-4

Define Custom Section Property, A-25

Define Environment Properties, A-22

Define Placeholder, A-118

Dynamic Conversion, A-123

Dynamic List Settings, A-80

Edit Query Text, A-48, A-102

Enable Metadata Modification, A-33

Fragment Assets, A-98

Fragment Elements, A-99

Fragment Parameters, A-106

「Fragment Parameters」, A-100

Generate Unique Region Content, A-94

HTML ツールバー, 4-20

Image Only Element Validation, A-88

Link Settings, A-83

Link Wizard, 4-25, A-36

Link Wizard - 「Check-in content」, A-41

Link Wizard - 「Choose a section」, A-37

Link Wizard - 「Choose content file」, A-39

Link Wizard - 「Choose target section」, A-40

Link Wizard - 「Choose type of link」, A-36

Link Wizard - 「Choose URL format」, A-38

Link Wizard - 「Confirm link」, A-42

Link Wizard - 「Link Target Options」, A-43

「Manage Site」 ページ, A-109

「Native Document Conversion Settings」, A-49, A-50

New Item Settings, A-90

New Option, A-103

New Section, A-23

Placeholder Definition Mappings, A-116, A-117

Placeholder Section Properties, A-112, A-113

Plain Text Element Validation, A-86

「Properties」 ペイン, 4-3, 4-4

Region Content Options, A-46

Region Definition, A-81

Save Fragment, A-108

Select CSS Classes, A-84

Select Home Page Template, A-26

Select HTML Tags, A-87

Select Primary Page Template, A-28

Select Secondary Page Template, A-30

Select Section, A-35

Select Site, A-34

Site Addresses, A-20

Site Asset Categories, A-32

「Site Assets」 ペイン, 4-3, 4-14

「Site Connection Details」 ダイアログ, A-18

Site Connection Manager, 4-24, A-17

「Site Studio Administration」 ページ, 4-40

Snippet Properties, A-104

Static List Element Validation, A-75

Switch Content ウィザード, 4-29, A-119

Switch Content ウィザード - 「Check-in content」, A-121

Switch Content ウィザード - 「Choose content file」, A-120

Switch Content ウィザード - 「Choose Region Content」, A-119

Switch Content ウィザード - 「Switch Content Confirmation」, A-121

WYSIWYG Element Validation, A-85

WYSIWYG 要素, A-52, A-55

イメージ要素, A-63, A-65

カスタム構成スクリプト, A-124

カスタム・セクション・プロパティ, A-24

カスタム要素, A-67, A-68

コントリビューション・ツールバー, 4-22

サイト階層, 4-3

サイト・ツールバー, 4-18

作業領域, 4-3, 4-6

書式設定ツールバー, 4-19

静的リスト要素, A-70, A-72

ツールバー, 4-3, 4-17

ツールボックス, 4-3, 4-16

デザイナーのメイン・ウィンドウ, 4-2

動的リスト要素, A-76, A-78

標準ツールバー, 4-17

表ツールバー, 4-21

フラグメント・エディタ, A-95

フラグメント・プロパティ, A-97

ブレースホルダ・ツールバー, 4-22

ブレースホルダの定義, A-114

プレーン・テキスト要素, A-59, A-61

変換の定義, A-48

マネージャ構成設定, A-110

要素, A-82

要素の選択, A-74

ログ・ファイル, 4-23

## よ

要素, 2-9, 2-10, 2-13

カスタム, 11-2

説明, 9-23

定義, 用語集 -13

編集, 9-24

リージョン定義内の情報, 7-10

リージョン定義内の名前, 7-10

リージョン定義内のラベル, 7-10

リージョン・テンプレート内, 7-10, 8-21  
リストへの追加, 9-23  
要素 (フラグメント), 4-32  
要素定義, 1-4, 2-3, 2-9, 2-10, 2-13, 7-2, 7-3, 7-4,  
7-6, 7-12, 8-21  
Actions, 7-6  
Info, 7-6  
WYSIWYG, 7-4  
イメージ, 7-4  
カスタム, 7-4, 7-6, 7-50  
検証スクリプト, 7-54, 8-28  
コンテンツ情報, 7-6  
コントリビュータ・データ・ファイルとの関係, 7-29  
コントリビュータ内の順序, 7-10  
サイトの計画, 3-5, 3-7, 3-8  
静的リスト, 7-4, A-74  
動的リスト, 7-4  
ネーミング規則, 3-8, 8-27  
プレーン・テキスト, 7-4  
リージョン定義でのリスト順序, 7-10  
リージョン定義内, 7-8, 7-10, 8-20, 8-21  
リージョン定義への埋込み, 8-27  
リージョン定義への関連付け, 8-27  
リージョン定義への追加, 7-10  
リージョン・テンプレート内, 7-8, 8-21  
要素の検証, A-75  
静的リスト, A-75  
要素の検証スクリプト, 11-12  
WYSIWYG, 11-12  
イメージ, 11-12  
静的リスト, 11-12  
プレーン・テキスト, 11-12  
要素の選択ダイアログ, A-74  
要素のフォーム, 1-5, 2-4, 7-3  
要素フォーム, 1-5, 2-4, 7-3

## ら

ランダム動的変換, 14-4  
ランダム変換フラグメント, 10-5, C-28  
ssLayout, C-28  
ssLimitScope, C-28  
ssQueryText, C-28  
ssTemplate, C-28

## り

リージョン・コンテンツ  
Web サイトに関連付けられていないコンテンツの追加, 3-15  
追加するカスタム要素フォームの使用, 11-2  
定義, 用語集-14  
リージョン定義, 1-4, 2-3, 2-5, 2-9, 2-10, 2-14, 4-30,  
7-2, 7-8, 7-11, 7-12, 7-15, 8-21, 8-27  
サイトの計画, 3-7, 3-8  
ネーミング規則, 3-8  
プレースホルダ定義内, 7-12, 7-13, 7-15  
プレースホルダ定義への追加, 7-15  
メタデータの編集, 7-10  
要素定義, 8-3, 8-20  
要素定義の埋込み, 8-27  
要素定義の関連付け, 8-27  
要素定義の追加, 3-8, 7-10

要素定義を含む, 7-8, 7-10  
要素の順序, 7-10  
要素の情報, 7-10  
要素のツールチップ, 7-10  
要素のラベル, 7-10  
要素名, 7-10  
リージョン・テンプレートとの関連付け, 7-10,  
7-21, 8-26  
リージョン定義ダイアログ, A-81  
リージョン・テンプレート, 1-5, 2-2, 2-9, 2-10, 2-14,  
7-2, 7-12, 7-15, 7-21, 8-2  
サイトの計画, 3-7, 3-9, 3-15  
動的変換の追加, 8-6  
ネーミング規則, 3-9  
プレースホルダ定義内, 7-13, 7-15, 7-21  
プレースホルダ内, 7-21  
変換定義の追加, 10-3  
メタデータ, 8-27  
要素定義の使用, 8-21  
要素定義を含む, 7-8  
要素の挿入, 8-21  
要素の配置, 7-21  
リージョン定義, 7-8, 8-3, 8-27  
リージョン定義との関連付け, 7-8, 7-10  
リージョン定義への関連付け, 8-26  
リンクの追加, 8-6  
リージョンの選択, A-92  
リスト  
動的, 2-27  
リスト・フラグメント, 9-5  
リバース・プロキシ・キャッシュ  
セカンダリ・ページ, 8-39  
プライマリ・ページ, 8-39  
リンク  
Current item, 4-28  
URL, 4-28, 8-10  
ウィザード, 4-25  
オプション, 8-7, 8-9, 8-10, 8-12, 8-14, 8-15  
既存のローカル・ファイル, 4-28, 8-14  
形式, 8-18  
コントリビュータ・データ・ファイル, 4-27, 8-11  
サーバー上の既存のファイル, 4-27, 8-8, 8-13  
サイト・セクション, 8-7  
削除, 8-16  
新規ファイル, 8-11  
セクション, 4-26  
ターゲット・セクション, 4-28, 8-8, 8-11, 8-13,  
8-15  
タイプの比較, 8-18  
追加, 8-6  
ネイティブ・ドキュメント, 4-27, 8-11  
ファイル, 4-27  
編集, 8-16  
ローカル・ファイル, 8-14  
リンク形式  
デフォルトの選択, 8-17  
リンク・ターゲット, 8-7, 8-9, 8-10, 8-12, 8-14, 8-15  
リンクのトークン, 4-29

## れ

---

- レイアウト
  - CSS の使用, 8-4
  - サイトの計画, 3-2
  - 表の使用, 8-4
- レイアウト・ページ
  - 定義, 用語集 -15
- レガシー・サイト
  - ツールバー, 4-22
- レプリケーション, B-2
- レプリケーション・プロセス
  - インポート, B-3
  - エクスポート, B-3
  - 転送, B-3
  - レプリケート, B-3
- レプリケート
  - インポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブの作成, B-8
  - エクスポート・アーカイブの設定, B-10
  - 開始, B-11
  - 外部プロバイダの作成, B-6
  - サイトの各セクション, B-12
  - 説明, B-2
  - ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定, B-9
  - ターゲット・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定, B-10
  - ターゲット・サーバーの構成, B-5
- レプリケートされるアイテム
  - Web サイトの ID, B-4
  - Web サイトのセクション, B-4
  - xWebsiteObjectType, B-4
  - xWebsites, B-4
  - xWebsiteSection, B-4
  - フラグメント・ライブラリ, B-4
  - プロジェクト・ファイル, B-4
- レポート
  - Web サイト・オブジェクト, 13-2
  - コンテンツ追跡, 13-7, 13-8
  - レポート・ジェネレータ, 13-8

## ろ

---

- ローカル・ファイル
  - リンク, 4-28, 8-14
- ロール
  - 管理者, 2-5
  - コントリビュータ, 2-5
  - デザイナー, 2-5
  - マネージャ, 2-5
- ログイン・サンプル・フラグメント, C-3
  - ssButtonText, C-3
  - ssClassName, C-3
  - ssFocusColor, C-3
  - ssTargetSiteId, C-3
- ログ・ファイル, 4-23
  - カスタマイズ, A-16
- ログ・ファイル設定の変更, 5-12
- ロゴ・サンプル・フラグメント, C-27

## わ

---

- ワークフロー, 14-1
  - Approve Document, 14-2
  - Dynamic Converter の組込み, 14-4
  - Reject Document, 14-2
  - イメージ, 14-4
  - イメージの操作, 14-4
  - インライン動的変換, 14-4
  - 却下チェック・ボックス, 14-3
  - コンテンツ・サーバー, 14-3
  - コンテンツ・サーバーの検索結果への影響, 14-4
  - コントリビューション・グラフィックのアイコン, 4-37
  - コントリビュータ, 4-39, 14-2, 14-3
  - コントリビュータ・データ・ファイル, 14-3
  - コントリビュータの承認 / 却下, 8-21
  - サイトの計画, 3-7, 3-11, 3-15
  - 承認チェック・ボックス, 14-3
  - 設定, 14-3
  - タイプ, 14-2
  - 定義, 用語集 -15
  - ネイティブ・ドキュメント, 14-4
  - ランダム動的変換, 14-4
  - リリースされたリビジョン, 14-4
  - 例, 14-3
- ワークフローの設定, 14-3